

一般国道9号出雲バイパス建設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書7

中野清水遺跡(3) 白枝本郷遺跡

(本編)

2006年3月

国土交通省中国地方整備局
島根県教育委員会

一般国道9号出雲バイパス建設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書7

中野清水遺跡(3) 白枝本郷遺跡

(本編)

2006年3月

国土交通省中国地方整備局
島根県教育委員会



出雲平野と白枝本郷遺跡



中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝遺物出土状況



中野清水遺跡 4区14層土器出土状況



中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝土器出土状況



中野清水遺跡 4区14層土器出土状況



中野清水遺跡 1区調査区東壁土層



中野清水遺跡出土土器



中野清水遺跡出土近畿・西部瀬戸内・北部九州系土器



白枝本郷遺跡 3 層上面掘立柱建物跡群



白枝本郷遺跡 3 層上面 1 号墓



白枝本郷遺跡 3層上面 1号溝出土祭祀遺物

序

国土交通省中国地方整備局松江国道事務所では、出雲市内の一般国道9号の慢性的な交通渋滞を緩和して、円滑な交通を確保し地域社会の発展に資するため、出雲バイパスの建設を進めています。

道路整備に際しましては、埋蔵文化財の保護にも十分留意しつつ関係機関と協議しながら進めています。回避することのできない埋蔵文化財については必要な調査を実施し、記録保存を行っています。当出雲バイパス建設事業につきましても、道路予定地内にある埋蔵文化財について島根県教育委員会と協議し、平成8年度から発掘調査を行っています。

本報告書は平成15年度及び16年度に実施した遺跡調査の結果をとりまとめたものです。本書が、郷土の歴史に関する貴重な資料として、学術並びに教育のため広く活用されることを期待いたします。

最後になりましたが、今回の発掘調査及び本書の編集に当たり御尽力いただいた島根県教育委員会並びに関係各位に対し、深甚なる謝意を表すものであります。

平成18年3月

国土交通省中国地方整備局

松江国道事務所

所長 島村喜一

序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局から委託を受けて、平成8年度から一般国道9号出雲バイパス建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を行っております。本書はこのうち平成15年度及び16年度に実施した中野清水遺跡・白枝本郷遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

中野清水遺跡は弥生時代から奈良・平安時代にかけて形成された遺跡で、特に弥生時代の終わり頃から古墳時代初めの土器が大量に出土しました。その中には地元の土器に混じって北九州・西瀬戸内・近畿・韓国からもたらされた土器が含まれており、これらの地域と交流があったことが分かりました。また、同時に水銀朱や漆、鍛冶作業に関わる遺物も出土し、集落の中で手工業生産が行われていたことも明らかになっています。

一方、白枝本郷遺跡は、これまでは古代集落の存在が知られていなかった出雲平野の西部に位置しており、今回の調査によって早い時期から集落が展開していたことが判明しました。検出された古墳時代後期の灌漑用水路は出雲平野の開発過程を具体的に示すものと言えます。また、室町時代の集落や古墓は不明な点が多い中世出雲平野における人々の暮らしを知る上で手がかりとなるものです。

本書にまとめたこれらの成果が、出雲市並びに島根県の豊かな地域史像を構築する上で一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行に当たりご協力いただきました国土交通省中国地方整備局松江国道事務所をはじめ、地元の方々並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成18年3月

島根県教育委員会

教育長 広 沢 卓 嗣

例 言

1. 本書は、島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局松江国道事務所の委託を受けて、平成15年度及び16年度に実施した一般国道9号（出雲バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2. 本書で報告する遺跡は次のとおりである。

島根県出雲市中野町766番地ほか 中野清水遺跡（1～4区・7区）

島根県出雲市白枝町812-2番地ほか 白枝本郷遺跡

3. 調査組織は次のとおりである。

【平成15年度】

事務局 穴道正年（埋蔵文化財調査センター所長）、卜部吉博（同副所長）、永島静司（同総務課長）、川原和人（同調査第2課長）、日高陽生（同総務係主任）

調査員 角田徳幸（同調査第2課係長）、久保田一郎（同文化財保護主事）、河田健二（同教諭兼文化財保護主事）、渡邊富美子（同教諭兼主事）、田中玲子（同調査補助員）、糸川寿幸（同調査補助員）

調査指導 田中義昭（島根県文化財保護審議会委員）、蓮岡法暲（島根県文化財保護審議会委員）、井上貴央（鳥取大学医学部教授）、穴沢義功（たたら研究会委員）

【平成16年度】

事務局 山根正巳（埋蔵文化財調査センター所長）、卜部吉博（同副所長）、永島静司（同総務G課長）、宮澤明久（同調査第2G課長）、日高陽生（同総務G主幹）

調査員 角田徳幸（同調査第2G主幹）、佐々利毅（同講師兼主事）、田中玲子（同調査補助員）

調査指導 田中義昭（島根県文化財保護審議会委員）、蓮岡法暲（島根県文化財保護審議会委員）、井上寛司（大阪工業大学教授）、穴沢義功（たたら研究会委員）、大澤正己（九州テクノリサーチ顧問）、中村唯史（三瓶自然館指導員）

【平成17年度】

事務局 卜部吉博（埋蔵文化財調査センター所長）、永島静司（同総務G課長）、宮澤明久（同調査第2G課長）、塩野由美子（同総務G主幹）、坂根 繁（同）

調査員 角田徳幸（同調査第2G主幹）、山田和人（同教諭兼主事）

調査指導 常松幹雄（福岡市埋蔵文化財センター主任主事）、梅木謙一（松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財調査センター主任学芸員）、村上伸之（有田町教育委員会学芸員）、牛嶋 茂（奈良文化財研究所専門職員）

4. 発掘作業（発掘作業員雇用・重機借り上げ・発掘用具調達等）については、島根県教育委員会から社団法人中国建設弘済会へ委託して実施した。

【平成15年度】高橋憲生（社団法人中国建設弘済会技術員）、栃木 忍（同技術員）、馬庭明美

【平成16年度】高橋憲生（社団法人中国建設弘済会技術員）、馬庭明美

5. 本調査に伴って行った自然科学的な分析は、次の機関に委託または依頼して実施し、その成果は第5章にまとめて掲載した。

中野清水遺跡出土玉石材と管玉未製品の原産地分析（遺物材料研究所）、中野清水遺跡出土分銅の非破壊調査（奈良文化財研究所）、中野清水遺跡及び白枝本郷遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定（古環境研究所）、中野清水遺跡及び白枝本郷遺跡出土木製品の樹種同定分析（元興寺文化財研究所）、中野清水遺跡及び白枝本郷遺跡出土木製品・柱根の樹種同定分析（京都大学生存圏研究所）、中野清水遺跡のプラントオパール分析（文化財調査コンサルタント）、白枝本郷遺跡の地質調査に伴う自然科学分析（文化財調査コンサルタント）、白枝本郷遺跡の花粉分析及びプラントオパール分析（文化財調査コンサルタント）、白枝本郷遺跡出土木材の樹種・種実・土壌の同定分析（文化財調査コンサルタント）、白枝本郷遺跡出土獣骨・獣歯の同定分析（奈良文化財研究所）、白枝本郷遺跡出土人骨と獣骨の同定分析（鳥取大学医学部）、白枝本郷遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査（九州テクノリサーチ）

6. 現地調査及び資料整理にあたっては次の方々・機関から有益な御助言・御協力を賜った。
川上 稔・藤永照隆・米田美江子・園山 薫（出雲市教育委員会）、岩永省三（九州大学）、岡部裕俊・平尾和久・江野道和（前原市教育委員会）、大塚紀宜・久住猛雄・長家 伸・比佐陽一郎・米倉秀紀・力武卓治（福岡市教育委員会）、橋口達也（九州歴史資料館）、乗岡 実（岡山市デジタルミュージアム）、山本一朗（下松市教育委員会）、若島一則（広島市文化財団）、石井隆博（東広島市教育委員会）、伊藤 実（広島県教育事業団埋蔵文化財調査室）、林 永珍（全南大学校）、奈良文化財研究所、奈良大学文学部保存科学研究室、福岡県立糸島高等学校
7. 本書のうち、挿図中の北は平面直角座標系XY座標（日本測地系）、第Ⅲ座標系のX軸方向を指している。
8. 本書のうち、第1図は国土交通省国土地理院発行の1/25,000、第2図・第5図・第141図・第212図は出雲市都市計画平面図を使用して作成したものである。
9. 本書に掲載した写真のうち、中野清水遺跡の土器は西大寺フォトに委託して撮影したもので、その他は角田徳幸が撮影した。
10. 本書に掲載した遺物実測図の作成及び浄書は、各調査員その他、伊藤 智・竹下浩充・阿部賢治・松山智弘と遺物整理員が行ったものである。
11. 本書の執筆・編集は角田徳幸が行った。
12. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 歴史的環境	4
第3章 中野清水遺跡の調査	
第1節 遺跡の概要	6
第2節 1区の調査	13
第3節 2区の調査	17
第4節 3区の調査	24
第5節 4区の調査	35
第6節 7区の調査	72
第7節 総括	138
中野清水遺跡出土土器観察表	155
中野清水遺跡出土木製品観察表	182
中野清水遺跡出土金属製品観察表	183
中野清水遺跡出土石製品観察表	184
第4章 白枝本郷遺跡の調査	
第1節 遺跡の概要	185
第2節 室町時代から江戸時代の遺構面	193
第3節 古墳時代の遺構面	232
第4節 トレンチ他出土遺物	255
第5節 総括	256
朝山八幡宮元宮碑周辺採集遺物観察表	263
白枝本郷遺跡出土土器観察表	263
朝山八幡宮元宮碑周辺採集木製品観察表	268
白枝本郷遺跡出土木製品観察表	269
白枝本郷遺跡出土金属製品観察表	270
白枝本郷遺跡出土石製品観察表	270
白枝本郷遺跡出土鍛冶関係遺物詳細観察表	271

第5章 自然科学的分析

- 第1節 中野清水遺跡出土玉石材と管玉未製品の産地分析 …………… 藁科哲男 ……277
- 第2節 中野清水遺跡出土分銅の非破壊調査 …………… 降幡順子・肥塚隆保 ……291
- 第3節 中野清水遺跡出土土器付着の赤色顔料について …………… 柴崎晶子 ……295
- 第4節 中野清水遺跡及び白枝本郷遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定 …… 古環境研究所 ……301
- 第5節 中野清水遺跡及び白枝本郷遺跡出土木製品の樹種同定分析 …………… 木沢直子 ……303
- 第6節 中野清水遺跡及び白枝本郷遺跡出土木製品・柱根の樹種同定分析 …… 伊東隆夫 ……312
- 第7節 中野清水遺跡1区のプラントオパール分析 …………… 渡辺正巳 ……315
- 第8節 白枝本郷遺跡の地質調査に伴う自然科学分析 …………… 渡辺正巳・山田和芳 ……318
- 第9節 白枝本郷遺跡の花粉分析及びプラントオパール分析 …………… 渡辺正巳 ……330
- 第10節 白枝本郷遺跡出土柱材及び自然木の樹種同定 …………… 渡辺正巳・古野 毅 ……336
- 第11節 白枝本郷遺跡出土種実及び土壌の検討 …………… 渡辺正巳 ……341
- 第12節 白枝本郷遺跡出土の動物遺存体 …………… 松井 章 ……346
- 第13節 白枝本郷遺跡出土人骨と獣骨の同定分析 …………… 井上貴央 ……348
- 第14節 白枝本郷遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査 …………… 大澤正己・鈴木瑞穂 ……350

插图目次

第 1 図	中野清水遺跡・白枝本郷遺跡と周辺の遺跡 ……	3
第 2 図	中野清水遺跡と周辺の遺跡 ……	7
第 3 図	中野清水遺跡 6 区・7 区下層土層実測図 ……	8
第 4 図	中野清水遺跡調査区配置図 ……	9
第 5 図	中野清水遺跡調査グリッド配置図 ……	10
第 6 図	中野清水遺跡各時期の遺構面実測図 ……	11~12
第 7 図	中野清水遺跡 1 区遺構及び土層実測図 ……	13
第 8 図	中野清水遺跡 1 区12層上面 1 号溝・1 号土坑実測図 ……	14
第 9 図	中野清水遺跡 1 区遺物出土状況実測図 ……	15
第 10 図	中野清水遺跡 1 区 9 層出土遺物実測図 ……	15
第 11 図	中野清水遺跡 1 区12層~14層出土遺物実測図 ……	16
第 12 図	中野清水遺跡調査区西側水田遺構実測図 ……	18
第 13 図	中野清水遺跡 2 区水田遺構及びトレンチ土層実測図 ……	18
第 14 図	中野清水遺跡 2 区遺物出土状況実測図 ……	19
第 15 図	中野清水遺跡 2 区 9 層・12層出土遺物実測図 ……	20
第 16 図	中野清水遺跡 2 区14層出土遺物実測図 1 ……	21
第 17 図	中野清水遺跡 2 区14層出土遺物実測図 2 ……	22
第 18 図	中野清水遺跡 2 区トレンチ他出土遺物実測図 ……	23
第 19 図	中野清水遺跡 3 区遺構及び土層実測図 ……	25
第 20 図	中野清水遺跡 3 区遺構・トレンチ西壁土層実測図 ……	26
第 21 図	中野清水遺跡 3 区遺構出土遺物実測図 ……	27
第 22 図	中野清水遺跡 3 区13層・14層遺物出土状況実測図 ……	28
第 23 図	連続渦文模式図 ……	29
第 24 図	中野清水遺跡 3 区14層出土遺物実測図 1 ……	30
第 25 図	中野清水遺跡 3 区14層出土遺物実測図 2 ……	31
第 26 図	中野清水遺跡 3 区13層・14層出土遺物実測図 ……	32
第 27 図	中野清水遺跡 3 区トレンチ他出土遺物実測図 1 ……	33
第 28 図	中野清水遺跡 3 区トレンチ他出土遺物実測図 2 ……	34
第 29 図	中野清水遺跡 4 区遺構及び西壁土層実測図 ……	36
第 30 図	中野清水遺跡 4 区13層上面遺構実測図 ……	37
第 31 図	中野清水遺跡 4 区13層上面遺構出土遺物実測図 ……	37
第 32 図	中野清水遺跡 4 区16層上面遺構実測図 ……	39
第 33 図	中野清水遺跡 4 区16層上面遺構出土遺物実測図 ……	39
第 34 図	中野清水遺跡 4 区下層土層実測図 ……	39
第 35 図	中野清水遺跡 4 区14層遺物出土状況実測図 1 ……	40
第 36 図	中野清水遺跡 4 区14層遺物出土状況実測図 2 ……	41
第 37 図	中野清水遺跡 4 区14層遺物出土状況実測図 3 ……	42
第 38 図	中野清水遺跡 4 区14層遺物出土状況実測図 4 ……	43
第 39 図	中野清水遺跡 4 区14層遺物出土状況実測図 5 ……	44
第 40 図	中野清水遺跡 4 区14層遺物出土状況実測図 6 ……	45~46
第 41 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図 1 ……	50
第 42 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図 2 ……	51
第 43 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図 3 ……	52
第 44 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図 4 ……	53
第 45 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図 5 ……	54
第 46 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図 6 ……	55
第 47 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図 7 ……	56
第 48 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図 8 ……	57
第 49 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図 9 ……	58
第 50 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図10 ……	59
第 51 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図11 ……	60
第 52 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図12 ……	61
第 53 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図13 ……	62
第 54 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図14 ……	63
第 55 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図15 ……	64
第 56 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図16 ……	65
第 57 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図17 ……	66
第 58 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図18 ……	67
第 59 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図19 ……	68
第 60 図	中野清水遺跡 4 区14層出土遺物実測図20 ……	69
第 61 図	中野清水遺跡 4 区13層・14層出土遺物 1 ……	70
第 62 図	中野清水遺跡 4 区13層・14層出土遺物 2 ……	71
第 63 図	中野清水遺跡 7 区土層実測図 ……	72
第 64 図	中野清水遺跡調査区東部 7 層上面遺構実測図 ……	73
第 65 図	中野清水遺跡 7 区 7 層上面遺構実測図 ……	73

第66図	中野清水遺跡7区12層上面1号・2号土坑 実測図	74	第94図	中野清水遺跡7区14層上面1号竪穴出土遺 物実測図	100
第67図	中野清水遺跡調査区東部12層上面遺構実測図	75	第95図	中野清水遺跡7区14層上面2号竪穴実測図	101
第68図	中野清水遺跡7区12層上面遺構実測図	75	第96図	中野清水遺跡7区14層上面2号竪穴遺物出 土状況実測図	101
第69図	中野清水遺跡7区12層上面1号土坑出土遺 物実測図	76	第97図	中野清水遺跡7区14層上面2号竪穴出土遺 物実測図1	102
第70図	中野清水遺跡7区12層上面3号土坑実測図	77	第98図	中野清水遺跡7区14層上面3号溝実測図	102
第71図	中野清水遺跡7区12層上面3号土坑出土遺 物実測図	77	第99図	中野清水遺跡7区14層上面2号竪穴出土遺 物実測図2	103
第72図	中野清水遺跡7区12層上面4号・5号・6 号土坑実測図	77	第100図	中野清水遺跡7区14層上面4号溝実測図	104
第73図	中野清水遺跡7区12層上面4号土坑横出土 遺物実測図	77	第101図	中野清水遺跡7区14層上面3号溝・4号溝 出土遺物実測図	104
第74図	中野清水遺跡7区12層上面1号・2号溝実 測図	78	第102図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝遺物出土 状況実測図1	106
第75図	中野清水遺跡7区12層上面1号溝及び付近 出土遺物実測図	79	第103図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝遺物出土 状況実測図2	107
第76図	中野清水遺跡7区9層遺物出土状況実測図	80	第104図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝遺物出土 状況実測図3	108
第77図	中野清水遺跡7区9層出土遺物実測図1	82	第105図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝遺物出土 状況横断実測図	109
第78図	中野清水遺跡7区9層出土遺物実測図2	83	第106図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図1	111
第79図	中野清水遺跡7区9層出土遺物実測図3	84	第107図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図2	112
第80図	中野清水遺跡7区9層出土遺物実測図4	85	第108図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図3	113
第81図	中野清水遺跡7区9層出土遺物実測図5	86	第109図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図4	114
第82図	中野清水遺跡7区12層及び13層上面遺物出 土状況実測図1	87	第110図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図5	115
第83図	中野清水遺跡7区12層及び13層上面遺物出 土状況実測図2	88	第111図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図6	116
第84図	中野清水遺跡7区12層及び13層上面遺物出 土状況実測図3	89	第112図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図7	117
第85図	中野清水遺跡7区12層及び13層上面出土遺 物実測図1	90	第113図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図8	118
第86図	中野清水遺跡7区12層及び13層上面出土遺 物実測図2	91	第114図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図9	119
第87図	中野清水遺跡7区12層及び13層上面出土遺 物実測図3	92	第115図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図10	120
第88図	中野清水遺跡7区12層・13層遺物出土状況 実測図	93	第116図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図11	121
第89図	中野清水遺跡7区12層・13層出土遺物実測 図1	94	第117図	中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物 実測図12	122
第90図	中野清水遺跡7区12層・13層出土遺物実測 図2	96			
第91図	中野清水遺跡7区12層・13層出土遺物実測 図3	97			
第92図	中野清水遺跡7区14層上面遺構実測図	98			
第93図	中野清水遺跡7区14層上面1号竪穴実測図	99			

第118図	中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物 実測図13	123	第146図	白枝本郷遺跡の土層実測図	192
第119図	中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物 実測図14	124	第147図	白枝本郷遺跡 3層上面遺構実測図	193
第120図	中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物 実測図15	125	第148図	白枝本郷遺跡 I区 3層上面遺構実測図	194
第121図	中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物 実測図16	126	第149図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号建物跡実測図	195
第122図	中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物 実測図17	127	第150図	白枝本郷遺跡 3層上面 2号建物跡P.10出土 柱根実測図	196
第123図	中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物 実測図18	128	第151図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号～3号建物跡出 土遺物実測図	196
第124図	中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物 実測図19	129	第152図	白枝本郷遺跡 3層上面 2号建物跡実測図	197
第125図	中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物 実測図20	130	第153図	白枝本郷遺跡 3層上面 3号建物跡実測図	198
第126図	中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物 実測図21	131	第154図	白枝本郷遺跡 3層上面 4号建物跡実測図	199
第127図	中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物 実測図22	132	第155図	白枝本郷遺跡 3層上面 5号建物跡実測図	200
第128図	中野清水遺跡 7区14層上面 6号溝実測図	133	第156図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号墓実測図	201
第129図	中野清水遺跡 7区14層遺物出土状況実測図	134	第157図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号墓木棺棺材実測 図	202
第130図	中野清水遺跡 7区14層出土遺物実測図	136	第158図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号墓出土遺物実測 図	203
第131図	中野清水遺跡 7区14層他出土遺物実測図	137	第159図	白枝本郷遺跡 3層上面 2号墓実測図	203
第132図	中野清水遺跡 4区14層出土弥生後期末～古 墳前期土器	140	第160図	白枝本郷遺跡 3層上面 2号墓出土遺物実測 図	203
第133図	中野清水遺跡 7区 5号溝出土弥生後期末～ 古墳前期土器	142	第161図	白枝本郷遺跡 3層上面 3号墓及び出土遺物 実測図	204
第134図	中野清水遺跡出土の北部九州・西部瀬戸内 ・韓国系遺物	144	第162図	白枝本郷遺跡 1号・2号溝実測図	205
第135図	出雲平野出土の北部九州・西部瀬戸内・韓 国系遺物	145	第163図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号溝実測図	205
第136図	中野清水遺跡出土石製品生産及び漆関係遺 物	146	第164図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号溝南端部遺物出 土状況実測図	206
第137図	古墳時代前期の鍛冶関連遺物	147	第165図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号溝出土遺物実測 図 1	207
第138図	中野清水遺跡出土鉄器と鍛冶関連遺物	148	第166図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号溝出土遺物実測 図 2	208
第139図	中野清水遺跡出土文字関係及び金属器生産 関係遺物	151	第167図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号溝出土遺物実測 図 3	209
第140図	中野清水遺跡の性格に関わる遺物の出土状 況	152	第168図	白枝本郷遺跡 3層上面 2号溝及び出土遺物 実測図	210
第141図	白枝本郷遺跡と周辺の遺跡	186	第169図	白枝本郷遺跡 3層上面 4号溝出土遺物実測 図	210
第142図	白枝本郷遺跡下層土層実測図	187	第170図	白枝本郷遺跡 3層上面 3号・4号溝実測図	211
第143図	朝山八幡宮元宮碑周辺出土柱根他実測図	188	第171図	白枝本郷遺跡 3層上面 5号～10号溝実測図	212
第144図	朝山八幡宮元宮碑周辺採集遺物実測図	189	第172図	白枝本郷遺跡 3層上面14号・16号溝出土遺 物実測図	212
第145図	白枝本郷遺跡の調査区とグリッド配置図	191	第173図	白枝本郷遺跡 3層上面11号～16号溝実測図	213
			第174図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号～4号井戸出土 遺物実測図	214
			第175図	白枝本郷遺跡 3層上面 1号～4号井戸実測 図	215

第176図	白枝本郷遺跡3層上面1号・2号井戸出土 遺物実測図	216
第177図	白枝本郷遺跡3層上面5号～10号井戸実測 図	218
第178図	白枝本郷遺跡3層上面6号～8号、10号井 戸出土遺物実測図	219
第179図	白枝本郷遺跡3層上面6号・7号・9号・ 10号井戸出土遺物実測図	220
第180図	白枝本郷遺跡3層上面1号・3号・6号・ 7号・10号土坑出土遺物実測図	221
第181図	白枝本郷遺跡3層上面1号～10号土坑実測 図	222
第182図	白枝本郷遺跡3層上面11号～16号土坑及び 出土遺物実測図	224
第183図	白枝本郷遺跡3層上面ピット群実測図	226
第184図	白枝本郷遺跡3層上面ピット群出土遺物実 測図	226
第185図	白枝本郷遺跡1層・2層遺物出土状況実測 図	228
第186図	白枝本郷遺跡1層・2層出土遺物実測図1	229
第187図	白枝本郷遺跡1層・2層出土遺物実測図2	230
第188図	白枝本郷遺跡2層出土古銭拓影	231
第189図	白枝本郷遺跡5層上面遺構実測図	232
第190図	白枝本郷遺跡5層上面17号・18号溝実測図	233
第191図	白枝本郷遺跡5層上面19号・20号溝実測図	235
第192図	白枝本郷遺跡5層上面19号・20号溝遺物出 土状況実測図	236
第193図	白枝本郷遺跡5層上面19号溝出土遺物実測 図	237
第194図	白枝本郷遺跡5層上面20号溝遺物出土状況 実測図	239
第195図	白枝本郷遺跡5層上面20号溝出土遺物実測 図1	240

第196図	白枝本郷遺跡5層上面20号溝出土遺物実測 図2	241
第197図	白枝本郷遺跡5層上面20号溝出土遺物実測 図3	242
第198図	白枝本郷遺跡G-2北トレンチ他出土遺物 実測図	243
第199図	白枝本郷遺跡5層上面土器溜遺物出土状況 実測図	244
第200図	白枝本郷遺跡5層上面土器溜出土遺物実測 図	245
第201図	白枝本郷遺跡5層上面21号溝及び出土遺物 実測図	246
第202図	白枝本郷遺跡5層上面22号溝実測図	248
第203図	白枝本郷遺跡5層上面23号溝及び出土遺物 実測図	248
第204図	白枝本郷遺跡5層上面24号溝及び遺物出土 状況実測図	248
第205図	白枝本郷遺跡5層上面24号溝出土遺物実測 図	249
第206図	白枝本郷遺跡5層上面17号～19号土坑実測 図	250
第207図	白枝本郷遺跡3層・4層・7層・8層遺物 出土状況実測図	251
第208図	白枝本郷遺跡3層・4層・7層・8層出土 遺物実測図1	253
第209図	白枝本郷遺跡3層・4層・7層・8層出土 遺物実測図2	254
第210図	白枝本郷遺跡トレンチ他出土遺物実測図	255
第211図	出雲平野における遺跡の分布	256
第212図	出雲平野西部の遺跡分布	257
第213図	白枝本郷遺跡I区の遺構変遷図	261

表 目 次

第1表	一般国道9号出雲バイパス建設予定地内発掘 調査一覧	1
第2表	中野清水遺跡各調査区の時期	138
第3表	出雲平野出土の北部九州・西部瀬戸内・韓国 系遺物	143

第4表	中野清水遺跡出土文字資料一覧表	150
第5表	出雲平野西部における遺跡の時期	257
第6表	白枝本郷遺跡出土陶磁器構成表	260

第1章 調査に至る経緯と経過

一般国道9号出雲バイパスは、出雲市内の交通渋滞緩和を目的に計画されたものである。路線は東は簸川郡斐川町富村から西は出雲市高松町までの8.2kmで、平成20年度の全線開通を目標に現在事業が進められている。

島根県教育委員会では、この事業に伴い建設省松江国道工事事務所（当時）と協議を行い、平成8～10年度に出雲市姫原町地内姫原西遺跡、小山町地内蔵小路西遺跡、渡橋町地内渡橋沖遺跡の発掘調査を実施した。平成11年度には事業地の東側地域でトレンチ調査を行い、出雲市中野町地内中野美保遺跡・中野清水遺跡、大津町地内大津町北遺跡を確認した。

その後、出雲バイパス事業地内の埋蔵文化財調査は一時中断したが、平成13～16年度にかけて国土交通省松江国道工事事務所の委託を受けて、中野美保遺跡・中野清水遺跡・大津町北遺跡の調査を順次実施した。併せて平成14・15年度には事業地の西側についてはトレンチ調査を行い、出雲市白枝町地内白枝本郷遺跡、松寄下町地内余小路遺跡、天神町地内小畑遺跡を確認するとともに、平成15年度から白枝本郷遺跡と余小路遺跡の発掘調査を実施した。

本書で報告する中野清水遺跡と白枝本郷遺跡は、平成15・16年度に発掘調査を行ったものである。このうち、中野清水遺跡は事業地の中心を市道が通っていることもあり、調査区を道路によって小さく分断する形で発掘せざるを得ず、平成14年度に調査した主として事業地北側に当たる地点をⅠ～Ⅷ区、15・16年度に調査した地点を1～10区に分け、15年度には2～10区の調査、16年度には用地取得の関係で残った1区の調査を実施している。平成14年度調査分と15年度調査分のうち5・6・8・9・10区については、それぞれ平成15年度、16年度に報告書が刊行されており、本書では残る1・2・3・4・7区を報告するとともに過去の調査を含めた総括を行うこととする。また、白枝本郷遺跡は平成15年度にⅠ区北西側の調査を行い、16年度にⅠ区の残り部分とⅡ・Ⅲ区の発掘を実施しており、その成果を合わせて報告する。

第1表 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内発掘調査一覧

遺跡名	調査年度	報告書
姫原西遺跡	平成8・9年	一般国道9号出雲バイパス建設予定地埋蔵文化財発掘調査報告書1
蔵小路西遺跡	平成8・9年	一般国道9号出雲バイパス建設予定地埋蔵文化財発掘調査報告書2
渡橋沖遺跡	平成9・10年	一般国道9号出雲バイパス建設予定地埋蔵文化財発掘調査報告書3
中野美保遺跡	平成13・14年	一般国道9号出雲バイパス建設予定地埋蔵文化財発掘調査報告書4
中野清水遺跡	平成14年	一般国道9号出雲バイパス建設予定地埋蔵文化財発掘調査報告書5
	平成15年	一般国道9号出雲バイパス建設予定地埋蔵文化財発掘調査報告書6
	平成15・16年	一般国道9号出雲バイパス建設予定地埋蔵文化財発掘調査報告書7(本書)
大津町北遺跡	平成14年	一般国道9号出雲バイパス建設予定地埋蔵文化財発掘調査報告書5
白枝本郷遺跡	平成15・16年	一般国道9号出雲バイパス建設予定地埋蔵文化財発掘調査報告書7(本書)
余小路遺跡	平成16・17年	
小畑遺跡	平成18年(予定)	

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

中国山地に源を發する斐伊川と神戸川は蛇行を繰り返しながら北流し、下流に出雲平野を形成する。中野清水遺跡と白枝本郷遺跡は、その出雲平野に位置しており、中野清水遺跡は島根県出雲市中野町766番地ほか、白枝本郷遺跡は出雲市白枝町812-2番地ほかにも所在する。両遺跡はともに出雲市に属するが、これは1953（昭和28）年に出雲市が成立して以降のことで、1889（明治22）年の町村制施行時には中野町は神門郡川跡村、白枝町は神門郡高松村とされたところである。

両遺跡が所在する出雲平野は、現在では東西に広がる雄大な姿を見せているが、縄文時代早期の約8000年前⁽¹⁾には日本海と繋がる古宍道湾の湾口に当たる地点であった。こうした状況が変わるのが約7300年前のことで、宍道湖底の地質調査によって古宍道湾の塩分濃度が急速に下がることが確かめられている。これは古宍道湾の湾口が斐伊川・神戸川の沖積作用や砂州によって閉塞されたことによるものとされ、この時期急速に堆積が進行したことは7000～8000年前が温暖期に当たり多雨であったことが原因と見られている⁽²⁾。中野清水遺跡の地質調査では、付近が7000年前頃には斐伊川の後背湿地的な環境となっていたことが分かっており⁽³⁾、出雲平野の形成は予想以上に早かったようである。

出雲平野の形成に大きな影響を与えたもう一つの要因には、三瓶火山の活動があげられる。三瓶火山は神戸川の上流に位置しており、山麓に堆積した火山灰や火砕流が火山泥流となり神戸川を通して出雲平野に大量にもたらされた。縄文時代には3回の噴火活動があり、今から5500年前頃に当たる第VI活動期の三瓶角井火山灰、4000年前頃と見られる第VII活動期の三瓶太平山火砕流・火山灰は出雲平野でも確認されている。特に第VII活動期に伴う堆積物は、平野南部の山裾にある三田谷I遺跡や築山遺跡の縄文時代後期前葉の集落跡を覆っており、周囲に埋没林を形成したことも明らかになっている⁽⁴⁾。また、出雲平野の中央部にある矢野遺跡付近の地形は主としてデイサイト礫を含み⁽⁵⁾、やはり第VII活動期に伴う堆積物によって構成されたものであるが、その上で縄文時代後期中葉の土器が出土している。火山泥流の後、そう間を置くことなく集落が営まれたと見られることは周辺が比較的安定した環境に変化していたことを窺わせる。同様にデイサイト礫を含む堆積物は、古志本郷遺跡など神戸川流域を中心に広く分布しており⁽⁶⁾、出雲平野西部の主要な部分は縄文時代後期には既に形成されていたものと考えられよう。

一方で、733（天平5）年に編纂された『出雲国風土記』に記載がある神門水海は、出雲平野の古環境を特徴づけるものと言える。これは神門郡家の西2.2kmに位置し、周囲約19kmの規模があったとされており、当時は西へ流れていた斐伊川も流れ込んでいたという⁽⁷⁾。神門郡家は古志本郷遺跡に比定されていることから、記載通りに測ると現在の出雲市知井宮町～神門町付近、知井宮多門院貝塚の北西当たりからが水域ということになる。浜山砂丘の南東に当たる白枝本郷遺跡では、標高-8m付近まで地質調査を行ったが、潟湖の存在を示すような材料は得られておらず、遺跡付近は水域の外であったことが明らかになった。浜山砂丘の東で確認された井原遺跡や白枝荒神遺跡など周辺の遺跡分布状況を見ても、この付近に水域を想定することは困難であり、神門水海は浜山砂丘以南であった可能性が高いものと考えられる。



第1図 中野清水遺跡・白枝本郷遺跡と周辺の遺跡

- | | | | | |
|-----------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 1 大津町北遺跡 | 2 中野美保遺跡 | 3 姫原西遺跡 | 4 蔵小路西遺跡 | 5 渡橋沖遺跡 |
| 6 小畑遺跡 | 7 余小路遺跡 | 8 大寺古墳 | 9 青木遺跡 | 10 山持遺跡 |
| 11 里方別所遺跡 | 12 里方八石原遺跡 | 13 高浜Ⅰ遺跡 | 14 高浜Ⅱ遺跡 | 15 高岡遺跡 |
| 16 荻杼遺跡 | 17 中野西遺跡 | 18 太歳遺跡 | 19 斐伊川鉄橋遺跡 | 20 大塚遺跡 |
| 21 矢野遺跡 | 22 小山遺跡第1地点 | 23 小山遺跡第2地点 | 24 小山遺跡第3地点 | 25 井原遺跡 |
| 26 白枝荒神遺跡 | 27 壺丁田遺跡 | 28 海上遺跡 | 29 天神遺跡 | 30 高西遺跡 |
| 31 藤ヶ森遺跡 | 32 塚山古墳 | 33 大念寺古墳 | 34 角田遺跡 | 35 西谷墳墓群 |
| 36 長廻遺跡 | 37 長者原廃寺 | 38 菅沢遺跡 | 39 上塩冶築山古墳 | 40 神門寺境内廃寺 |
| 41 築山遺跡 | 42 地藏山古墳 | 43 半分古墳 | 44 上塩冶横穴墓群 | 45 三田谷Ⅰ遺跡 |
| 46 光明寺古墳群 | 47 刈山古墳群 | 48 放れ山古墳 | 49 妙蓮寺山古墳 | 50 古志本郷遺跡 |
| 51 下古志遺跡 | 52 田畑遺跡 | 53 宝塚古墳 | 54 知井宮多聞院遺跡 | 55 神門横穴墓群 |
| 56 保知石遺跡 | 57 浅柄Ⅱ遺跡 | 58 北光寺古墳 | 59 山地古墳 | 60 上長浜貝塚 |
| 61 菱根遺跡 | 62 真名井銅戈出土地 | 63 出雲大社境内遺跡 | 64 五反配遺跡 | 65 原山遺跡 |
| 66 鹿蔵山遺跡 | 67 南原遺跡 | 68 中分貝塚 | | |

第2節 歴史的環境

出雲平野周辺で確認されている遺跡のうちで最も遡るものは、出雲砂丘上に立地する上長浜貝塚と北山山麓にある菱根遺跡で、縄文時代早期末である。これに続く前期・中期のものは三田谷Ⅲ遺跡などが僅かに知られている程度であるが、前述したように後期前葉の三田谷Ⅰ遺跡や築山遺跡が三瓶火山第Ⅶ活動期の火山泥流の下にあったことからすれば、平野の周辺部など堆積の比較的薄いところでは今後さらに後期前葉以前の遺跡が明らかになる可能性も考えられよう。三瓶火山の活動が落ち着く後期中葉から晩期にかけては平野の中央部でも矢野遺跡や、蔵小路西遺跡や善行寺遺跡などが見られる他、周辺部でも三田谷Ⅰ遺跡・出雲大社境内遺跡・保知石遺跡などが知られる。

弥生時代になると、日本海に近い原山遺跡にまず弥生人の足跡を見出すことができる。出土した土器は北九州からの直接的な影響の下に作られたもので、山陰でも最古式として「出雲原山式」と命名されており、前期の配石墓も明らかになっている⁽⁸⁾。平野部では矢野遺跡がやはり前期に遡る他、蔵小路西遺跡・三田谷Ⅰ遺跡が挙げられ、後半には中野美保遺跡など周辺に一定の広がりをもつ。出雲平野において集落が飛躍的に増加するのは、中期後半になってからである。前期から続く矢野遺跡に加え、天神遺跡・古志本郷遺跡・白枝荒神遺跡・山持川川岸遺跡・知井宮多門院遺跡など各地で大規模な遺跡が営まれ、これらの遺跡の多くが古墳時代前期初め頃まで継続する。中野清水遺跡が形成されるのもこの時期で、中期後葉以降の遺物量が増えはじめ、後期末から古墳時代前期初頭に頂点を迎えている。

一方、遺跡数の増加に合わせて平野部の集落では首長墓が現れ、中野美保遺跡や青木遺跡で四隅突出型墳丘墓や方形貼石墓が明らかになっている。中野美保遺跡では中期中葉の方形貼石墓である2号墓と、後期後葉の四隅突出型墳丘墓である1号墓が重複して営まれており、前者は一辺4.5～5.5m、後者は突出部を含めると一辺14～15m程の規模をもつ⁽⁹⁾。こうした集落毎の小首長をまとめ出雲平野の諸集団を統括したのが、斐伊川西岸の丘陵上に営まれた西谷墳墓群を奥津城とする地域首長である。一辺30～40m級の大型四隅突出型墳丘墓4基が継起的に築造され、棺槨二重構造をもつ大規模な埋葬施設など、その規模・構造はまさに群を抜いたものと言える⁽¹⁰⁾。また、吉備の特殊器台や北陸系土器、西部瀬戸内系土器が出土しており、地域首長がこれらの地域と関係を取り結んでいたことが端的に窺われる。

しかし、古墳時代に入ると西谷丘陵に大型古墳が営まれず、前期後半になって周辺部に前方後円墳である大寺古墳や山地古墳・浅柄Ⅱ古墳が造られる程度で、中期も大型古墳は北光寺古墳が知られるのみである。この状況が変わるのは、後期後半のことで神戸川東岸地域を中心に大念寺古墳・上塩冶築山古墳・地藏山古墳と、大型の地域首長墳が次々と築造される。このうち、大念寺古墳は後期古墳としては数少ない全長100m級の前方後円墳で、出雲東部の山代二子塚古墳と並び出雲を東西に二分するような勢力を保持したと見られている⁽¹¹⁾。白枝本郷遺跡に灌漑用水路と水田が造られるのは上塩冶築山古墳の頃で、大型古墳築造の背景には出雲平野の開発が進んだことも考えられよう。こうした大型古墳の築造は7世紀代になると終わり、相前後するように平野南側の丘陵に上塩冶横穴墓群・神門横穴墓群など大規模な横穴墓群が営まれるが、前者が所在する丘陵には三田谷4・5号墳、光明寺2号墳のような終末期古墳も造られる。

奈良時代には、出雲平野の西部には神門郡が置かれ、古志本郷遺跡が郡家に比定される⁽¹²⁾。官衙関連の遺跡には小山遺跡・天神遺跡・三田谷Ⅰ遺跡があり、掘立柱建物跡などの他に墨書土器や木

簡が出土しており、それぞれ郷家・郷倉などの性格が考えられている。『出雲国風土記』に載る郡家との距離から見ると、中野清水遺跡は塩冶郷、白枝本郷遺跡は八野郷に当たるが、中野清水遺跡では墨書土器や木簡・分銅・金属生産関連遺物が出土していることから、郡内に置かれたこうした施設との関わりが想定される。また、寺院は神門寺境内廃寺、長者原廃寺跡が知られているが、後者は『風土記』の「朝山郷新造院」に当たるもので、墓には石製骨蔵器を納めた光明寺3号墓、小坂古墳などがある。

平安時代以降のもので、まず注目されるのは蔵小路西遺跡である⁽¹³⁾。一町四方の大溝に囲まれた方形居館が明らかになっており、12世紀後半から15世紀代かけて営まれたものと見られる。この地域は中世においては国衙在庁官人の系譜を引く朝山氏が基盤とした神門郡朝山郷に含まれていることから、蔵小路西遺跡はその居館と考えられる。朝山氏が応永年間(1394~1428)に拠点を京都へ移した後は下朝山は幕府直轄領となり塩冶氏が管理を行ったようで、この段階には蔵小路西遺跡に隣接する位置に三木氏が居館を営み、塩冶氏の下で朝山郷を支配している。青磁の優品を副葬した荻杼古墓⁽¹⁴⁾は、こうした勢力の存在を背景にしたものと考えられよう。

居館以外の屋敷跡としては渡橋沖遺跡と矢野遺跡が明らかになっている。掘立柱建物跡を区画溝で囲んだもので、前者は13~14世紀、後者は14~15世紀前半のものとする。白枝本郷遺跡では12~17世紀代の遺物が出土しており、時期的にはこれらと併行するものと見られるが、遺構の中心は15~17世紀代のものであり、やや遅れる。また、古墓は姫原西遺跡・蔵小路西遺跡・角田遺跡などがあり、白枝本郷遺跡でも確認されている。

註

- (1) 本節では炭素年代を基に算出された暦年代を使用する。
- (2) 高安克己「宍道湖の成立」『宍道町史』通史編上巻 2001
- (3) 渡辺正巳「中野清水遺跡3~7区発掘調査に係る花粉・プラントオパール分析」『中野清水遺跡(2)』島根県教育委員会 2005
- (4) 角田徳幸「三瓶火山の噴出物と縄文時代遺跡」『島根考古学会誌』第20・21集 2004
- (5) 大西郁夫・徳岡隆夫・高安克己ほか「出雲平野西部の形成過程」『古代出雲文化の展開に関する総合的研究』島根大学山陰地域研究総合センター 1989
- (6) 中村唯史「立地地盤の形成について」『古志本郷遺跡』II 島根県教育委員会 2001
- (7) 加藤義成『出雲国風土記参究』今井書店 1957
- (8) 村上 勇・川原和人「出雲・原山遺跡の再検討」『島根県立博物館調査報告』第2冊 1979
- (9) 島根県教育委員会『中野美保遺跡』2004
- (10) 島根大学法文学部考古学研究室『山陰地方における弥生墳丘墓の研究』1992
- (11) 渡辺貞幸「山代・大庭古墳群と五・六世紀の出雲」『山陰考古学の諸問題』山本清先生喜寿記念論集刊行会 1986
- (12) 島根県教育委員会『古志本郷遺跡V』2003
- (13) 島根県教育委員会『蔵小路西遺跡』1999
- (14) 近藤 正「出雲市荻杼発見の骨蔵器について」『考古学雑誌』第54巻3号 1969

第3章 中野清水遺跡の調査

第1節 遺跡の概要

(1) 遺跡の立地

中野清水遺跡は、斐伊川左岸の沖積平野に所在する。斐伊川は中国山地の山塊を出たところから大きな扇状地を形成しており、出雲市中野町や荻杼町付近には南東から北西方向に伸びるように自然堤防が見られる。斐伊川の堆積物は礫が少なく砂が多いため、扇状地の勾配が小さく扇状地と自然堤防・三角州の境界が明瞭ではないが、遺跡が所在する付近はちょうど扇状地と自然堤防に挟まれた三角州にあたるものと考えられる⁽¹⁾。

中野清水遺跡は、地理的な位置から見てその立地する地点の形成に斐伊川が大きな影響を及ぼしたであろうことは想像に難くない。このことは、遺跡周辺の古環境を検討する上で重要な課題であることから、地層の抜き取り調査を5ヶ所で行った。調査は長さ6m・幅0.4mの土層採取専用矢板を打ち込み、大型クレーンを使って引き抜く方法で行い、6区と7区で東からNo.1～5の順に土層を採取した。(第3図) これらから得られた付近の基本的な層序は標高4m～2m前後のところに細砂・シルト(I)、2～1m前後のところに砂礫(II)、1～-1m前後のところに細砂・中砂を間層にもつ腐植質土(III)となる。また、No.1では併せて地層から採取された木片の炭素年代測定を行っており、標高0m付近の細砂・中砂の下面で5,660±40y.B.P、上面で5,310±40y.B.P、標高1m付近の砂礫下面で2,510±50y.B.Pという結果が得られている。

このうち、Iは細かい単位で細砂とシルトまたは腐植質土が互層状に堆積しラミナが見られることから、流水があり一部は湿地状になっていたと思われる。IIは砂礫が厚く堆積するのが特徴で、No.2では河岸の堆積物が削られてブロック状に落ち込んだと見られるものもあり、まさに河道であったことが想定される。No.1の炭素年代から弥生時代前期頃の河道跡と考えられるが、Iの段階には腐植質土を含み後背湿地化が進みつつあったとも見られ、遺物包含層から弥生土器が出土する中期前葉には集落が形成できるほど安定した環境になっていたことが推察される。

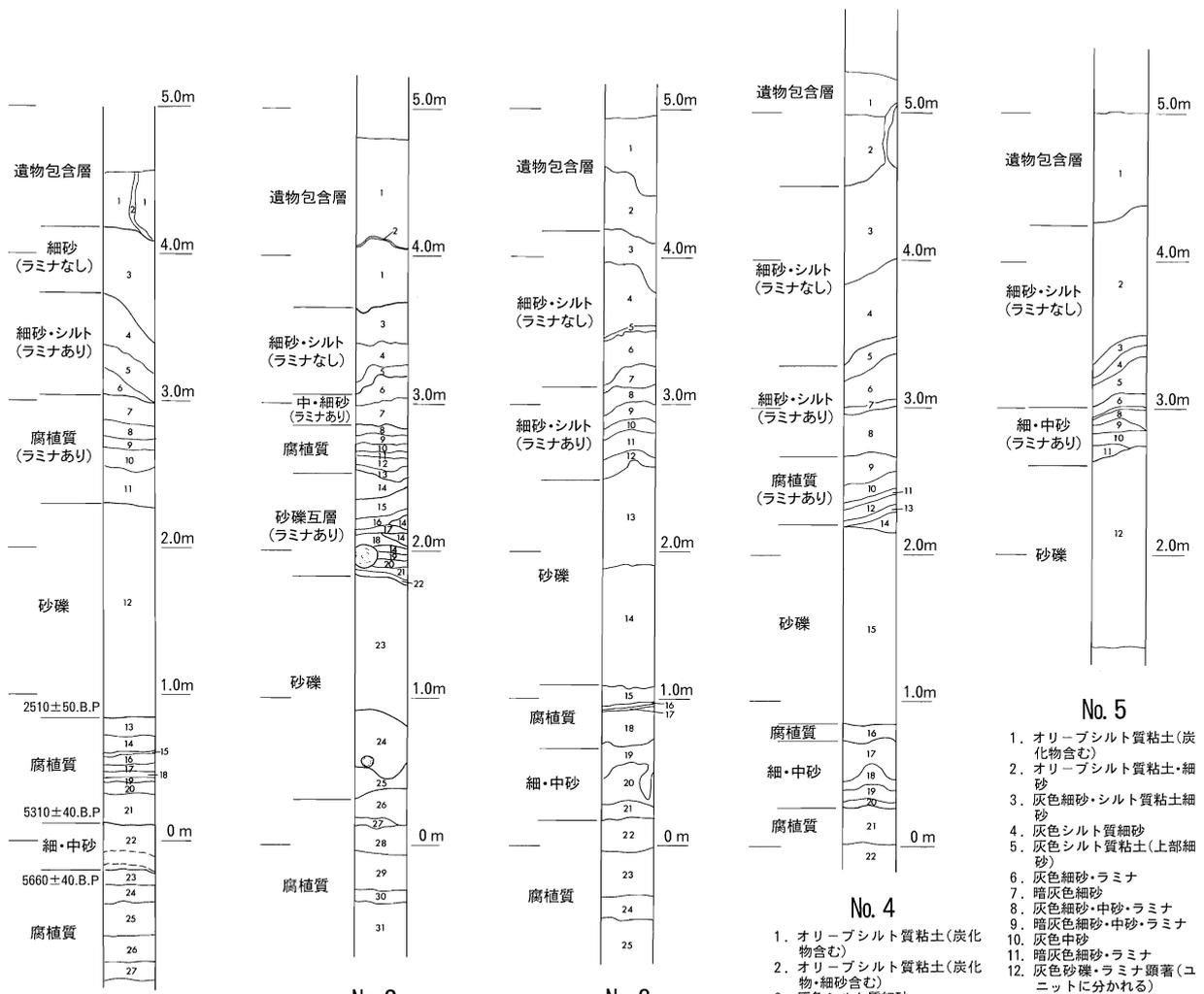
IIIは細砂・中砂を間層にもつとはいえ腐植質土が厚く堆積しており、斐伊川の後背湿地であったことが窺える。IIIの上層はIIの河道によって削り込まれているため、こうした環境がどの程度続いていたのかは不明であるが、縄文時代前期には斐伊川の沖積作用により付近が陸化していた可能性が高いとされる⁽²⁾。

弥生時代中期以降の状況は、発掘調査によって明らかになっている。詳細は後述するが、弥生時代後期末から古墳時代前期初めには多量の土器が出土し、大規模な集落の存在が想定される他、古墳時代中期・後期、奈良時代、平安時代の遺構・遺物が確認されており、集落が安定して営まれたものとみられる。付近が水田化されるのは室町時代頃からのようで、各調査区で水田遺構が明らかになっている。

中野清水遺跡周辺では、河道であった弥生時代前期を除いては、斐伊川の影響を大きく受けた痕跡は見られない。しかし、室町時代の水田は洪水で堆積した砂によって60～70cm程度までの厚さで広く覆われていることが明らかになっており、その時期は水田遺構で採取した木片の炭素年代から江戸時代に入ってからのものであると考えられる。



第2図 中野清水遺跡と周辺の遺跡



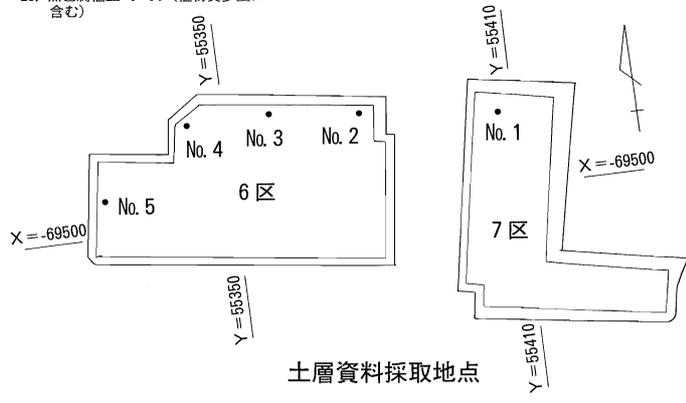
- No. 1**
1. オリーブシルト質粘土
 2. 灰色細砂・中砂
 3. 灰色シルト質細砂(上部シルト・炭含む)
 4. 灰色細砂・シルト・ラミナ
 5. 灰色細砂・腐植質シルト
 6. 灰色細砂・シルト・ラミナ
 7. 暗灰色中砂・腐植質シルト互層
 8. 暗灰色腐植質粘土・細砂・ラミナ
 9. 暗灰色腐植質シルト(上部細砂)
 10. 黒色腐植質粘土(上部細砂)
 11. 暗灰色腐植質粘土・細砂(下部互層)
 12. 灰色砂礫・ラミナ顕著(流木含む)
 13. 黒色腐植土
 14. 黒色腐植質粘土(植物片含む)・ラミナ
 15. 黒色腐植質粘土(植物片含む)・ラミナ顕著
 16. 黒色腐植質粘土
 17. オリーブ灰シルト細砂互層
 18. 黒色腐植土
 19. 黒色腐植質粘土(下部に細砂)
 20. 黒色腐植土
 21. 黒色腐植質粘土
 22. オリーブ灰腐植質シルト混り細砂・中砂
 23. 暗灰色シルト質細砂(腐植に富む)
 24. 暗灰色細砂質粘土(上部腐植に富む)
 25. 黒色腐植質粘土
 26. 黒色腐植土
 27. 黒色腐植質粘土

- No. 2**
1. オリーブシルト質粘土(炭化物含む)
 2. 黒色炭化物
 3. 灰色シルト質細砂
 4. 灰色細砂
 5. 灰色シルト質粘土
 6. 灰色中砂・シルト質粘土・ラミナ
 7. 暗灰色細砂・シルト・ラミナ
 8. 暗灰色シルト質粘土・細砂・ラミナ
 9. 暗灰色細砂・腐植質シルト・ラミナ
 10. 暗灰色中砂・シルト・ラミナ
 11. 暗灰色シルト質粘土・ラミナ
 12. 暗灰色腐植質粘土・細砂・ラミナ
 13. 暗灰色細砂・ラミナ
 14. 灰色粗砂・ラミナ
 15. 暗灰色細砂・腐植質シルト・ラミナ
 16. 暗灰色腐植質粘土・ラミナ
 17. 暗灰色腐植質シルト・ラミナ
 18. 暗灰色腐植質シルト・ラミナ(上部細砂)
 19. 暗灰色細砂・腐植質シルト・ラミナ
 20. 暗灰色細砂・ラミナ
 21. 灰色中砂(腐植質シルト僅かに含む)ラミナ
 22. 灰色細砂・ラミナ
 23. 灰色砂礫・ラミナ顕著(ユニットに分かれる)
 24. 暗灰色腐植質シルト・細砂ブロック(流木含む)(川岸の堆積物がブロック状に落ち込んだもの)
 25. 灰色砂礫
 26. 暗灰色腐植質粘土・細かいラミナ
 27. 暗灰色シルト
 28. 黒色腐植質シルト
 29. 黒色腐植質粘土
 30. 黒色腐植土・細かいラミナ
 31. 黒色腐植土・ラミナ(植物質多量に含む)

- No. 3**
1. オリーブシルト質粘土
 2. オリーブシルト質粘土・細砂
 3. 灰色シルト質細砂
 4. 暗灰色シルト質粘土
 5. 灰色細砂
 6. 暗灰色シルト質粘土(細砂含む)
 7. 灰色細砂・シルト質粘土・ラミナ
 8. 暗灰色シルト質粘土(上部細砂)・ラミナ
 9. 暗灰色シルト質粘土(細砂含む)・ラミナ
 10. 暗灰色シルト質粘土・細砂・ラミナ
 11. 灰色細砂・シルト質粘土・ラミナ
 12. 暗灰色腐植質粘土・細砂・ラミナ
 13. 灰色細砂・中砂・細かいラミナ顕著
 14. 灰色砂礫・ラミナ顕著(ユニットに分かれる)
 15. 黒色腐植質粘土(植物片含む)
 16. 灰色シルト質粘土
 17. 黒色腐植土
 18. 暗黒色腐植質粘土
 19. 暗灰色細砂(腐植質粘土僅かに含む)
 20. 暗灰色細砂
 21. 灰色細砂・中砂
 22. 黒色腐植質シルト
 23. 黒色腐植質粘土
 24. 黒色腐植土・細かいラミナ
 25. 黒色腐植土・ラミナ(植物質多量に含む)

- No. 4**
1. オリーブシルト質粘土(炭化物含む)
 2. オリーブシルト質粘土(炭化物・細砂含む)
 3. 灰色シルト質細砂
 4. 灰色細砂・シルト質粘土
 5. 灰色細砂・ラミナ
 6. 灰色シルト質粘土・細砂・ラミナ
 7. 暗灰色シルト質粘土・細砂・ラミナ
 8. 灰色細砂・シルト質粘土・ラミナ
 9. 暗灰色シルト質粘土・ラミナ
 10. 暗灰色腐植質粘土・上部細砂・ラミナ
 11. 暗灰色腐植質シルト・上部細砂・ラミナ
 12. 暗灰色腐植質粘土・ラミナ
 13. 暗灰色腐植質シルト・細砂・ラミナ
 14. 暗灰色細砂・腐植質シルト・ラミナ
 15. 灰色砂礫・ラミナ顕著(ユニットに分かれる)
 16. 黒色腐植質粘土
 17. 灰色シルト質細砂
 18. 暗灰色シルト質粘土
 19. 灰色細・中砂
 20. 灰色シルト質粘土・細砂
 21. 黒色腐植質シルト(植物片含む)
 22. 黒色腐植質粘土

- No. 5**
1. オリーブシルト質粘土(炭化物含む)
 2. オリーブシルト質粘土・細砂
 3. 灰色細砂・シルト質粘土細砂
 4. 灰色シルト質細砂
 5. 灰色シルト質粘土(上部細砂)
 6. 灰色細砂・ラミナ
 7. 暗灰色細砂
 8. 灰色細砂・中砂・ラミナ
 9. 暗灰色細砂・中砂・ラミナ
 10. 灰色中砂
 11. 暗灰色細砂・ラミナ
 12. 灰色砂礫・ラミナ顕著(ユニットに分かれる)



第3図 中野清水遺跡6区・7区下層土層実測図

(2) これまでの調査

2002（平成14）年度の調査 遺跡の中央を通る市道の北側を中心として、Ⅰ～Ⅷ区の調査が行われた⁽³⁾。遺構は室町～江戸時代の水田面が検出された以外にはⅠ区で古代から中世とされる土坑、Ⅱ区で古代の溝とピット、Ⅳ区でピットが僅かに検出された程度である。一方、遺物は多量に出土しており、弥生時代のものはⅤ区で中期前葉の甕、Ⅷ区では中期中葉から後葉の甕・壺とともに鋳造鉄斧が確認された。弥生時代後期は少ないようであるが、後期末から古墳時代前期初めの土器は各調査区から多量に出土しており、北部九州や西瀬戸内系の土器が一部に含まれる点が注意される。古墳時代の遺物は中期は少ないが、Ⅱ区では後期から奈良時代にかけての須恵器・土師器・土製支脚・竈・手捏土器・焼塩壺・鉄製鋤鋤先・鉄斧・紡錘車などがまとまって出土している。奈良時代の遺物には墨書土器が含まれており、「三」「依」「塩冶」「伎」などと読めるものがある。また量的には少ないがⅡ区には平安時代のももあり、風字硯が含まれる。

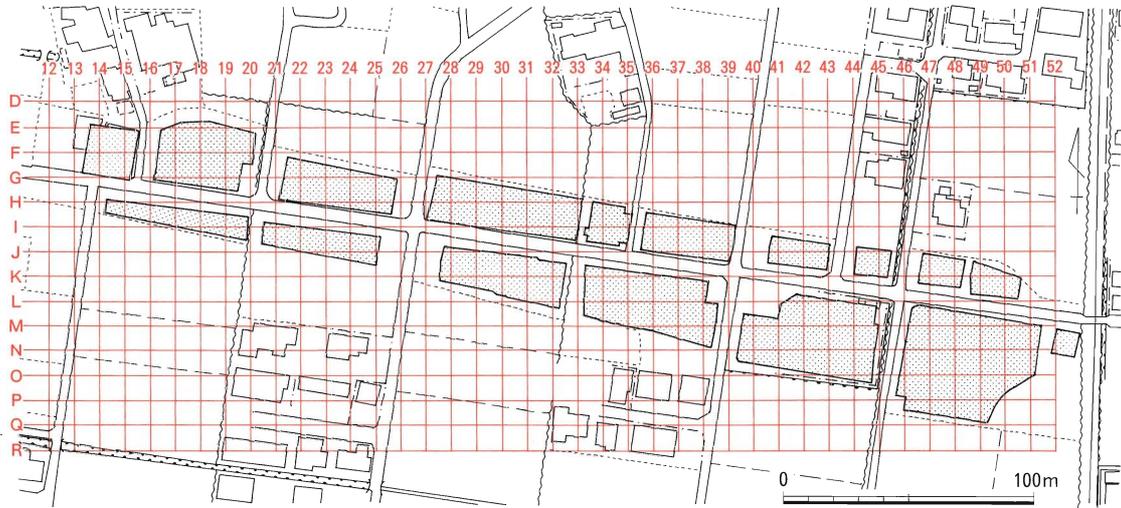
また、大津町北遺跡は中野清水遺跡とは別の遺跡として調査されているが、Ⅵ区に隣合う位置にあり本来同じ遺跡とすべきものである。溝と土坑が明らかになっており、弥生時代後期、古墳時代前期・後期、奈良時代の遺物が出土した。

2003・2004（平成15・16）年度の調査 遺跡の中央を通る市道の南側を中心として1～10区の調査を行った。この調査では室町～江戸時代の水田面、奈良・平安時代の遺構面、古墳時代の遺構面を層位的に検出しており、5・6・8～10区については既に報告書が刊行されている⁽⁴⁾。6区では奈良時代の遺構面に掘立柱建物跡や溝・土坑があり、「六」と墨書された須恵器の他、5区では荷札木簡も出土している。遺構の配置に規則性は見られないので官衙とは言い難いが、2002年に出土している墨書土器と合わせ、遺跡の性格を検討する上で看過できない。

下層の古墳時代遺構面は斐伊川の伏流水が噴出したため十分な調査ができなかったが、土坑・ピットの他、古墳時代前期の土師器が多量に出土した。これに伴って羽口や鍛冶滓も確認されており、鍛冶作業が古墳時代前期から行われていた可能性がある。また、古墳時代中期の遺構・遺物もあり、中野清水遺跡に継続して集落が営まれていたことも明らかとなった。



第4図 中野清水遺跡調査区配置図



第5図 中野清水遺跡調査グリッド配置図

(3) 調査の方法

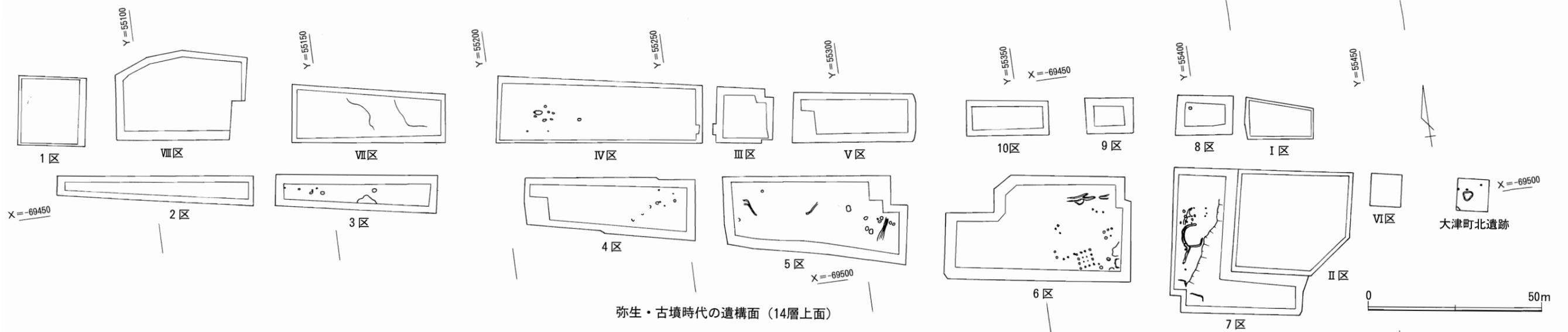
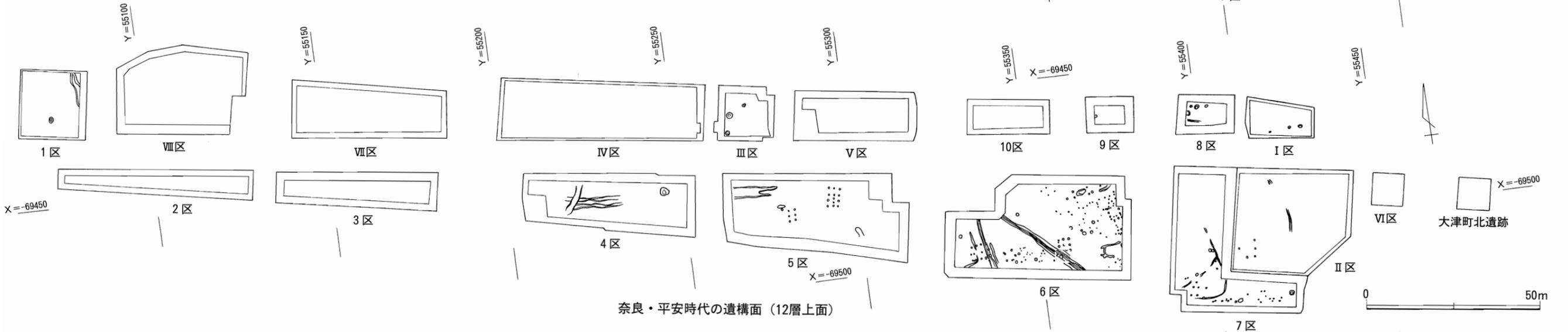
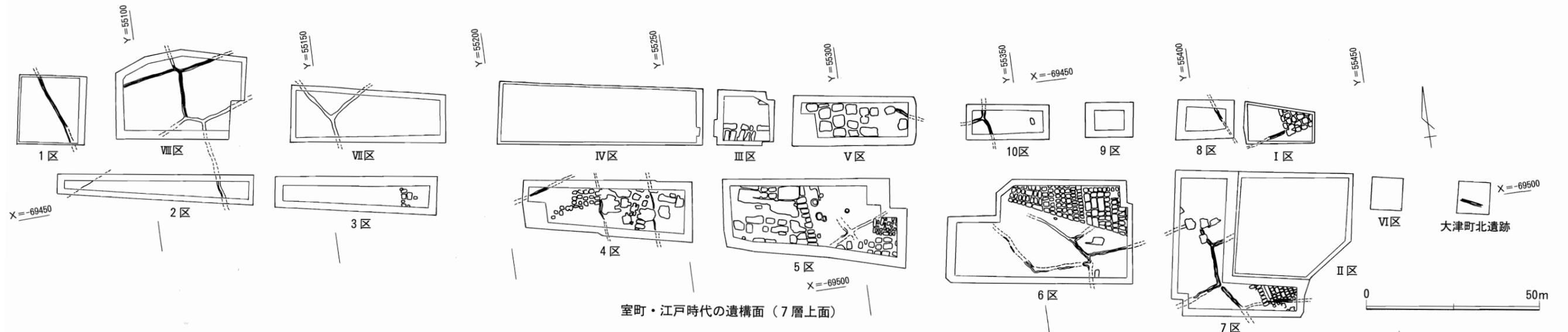
調査にあたっては、市道によって区画された調査区名（例えば1区・2区…）の他に、遺構・遺物の検出地点を記録するため遺跡全体に10m方眼を設定した。調査用方眼はX=-69370・Y=54940を原点とし、南へA・B・C……、東へは1・2・3……と10m間隔で表し、方眼の北西側の交点（調査杭）でその調査区を呼ぶこととした（例えばA-1・B-1…）。また、調査地点は湧水が激しかったため、調査区の四壁に50cm程度の幅で排水溝を設け、調査面をできるだけ乾いた状態に保つとともに土層の観察にも利用したが、それぞれを北壁トレンチ（Tr）などのように呼称した。遺構実測図中の調査杭名や出土遺物観察表の出土地点名は、これらを表記したものである。

遺跡は大きく分けると3つの遺構面からなっており、上層から室町・江戸時代の遺構面（7層上面）、奈良・平安時代の遺構面（12層上面）、弥生・古墳時代の遺構面（14・16層上面）がある。水田面である7層上面の上には洪水砂が溜まっていたため、この層から上については重機により除去した。これより下層は手掘りによって掘り下げ、各遺構面の上面で精査をして遺構検出に努めた。ただし、地下水位が高い関係で9層より下は非常に軟弱な地盤で精査を行うのに困難が伴い、14層では湧水が多くなって時には突発的に水が噴出したところもあった。1区では法面保護と周囲からの地下水の影響を断つため調査区の周囲に矢板を打つことができたが、やはり下からの湧水は押さえることができなかった。

また、市街地のため排土置場が十分確保できず、調査が終了した調査区を埋めながら次の調査区を発掘せざるを得なかったため遺跡の全景写真は撮影できなかった。

註

- (1) 島根県『土地分類基本調査-恵曇・今市-』1972
- (2) 渡辺正巳「中野清水遺跡3～7区発掘調査に係る花粉・プラントオパール分析」『中野清水遺跡(2) 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6』島根県教育委員会 2005
- (3) 島根県教育委員会『大津町北遺跡・中野清水遺跡 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5』島根県教育委員会 2004
- (4) 島根県教育委員会『中野清水遺跡(2) 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6』2005



第6図 中野清水遺跡各時期の遺構面実測図

第2節 1区の調査

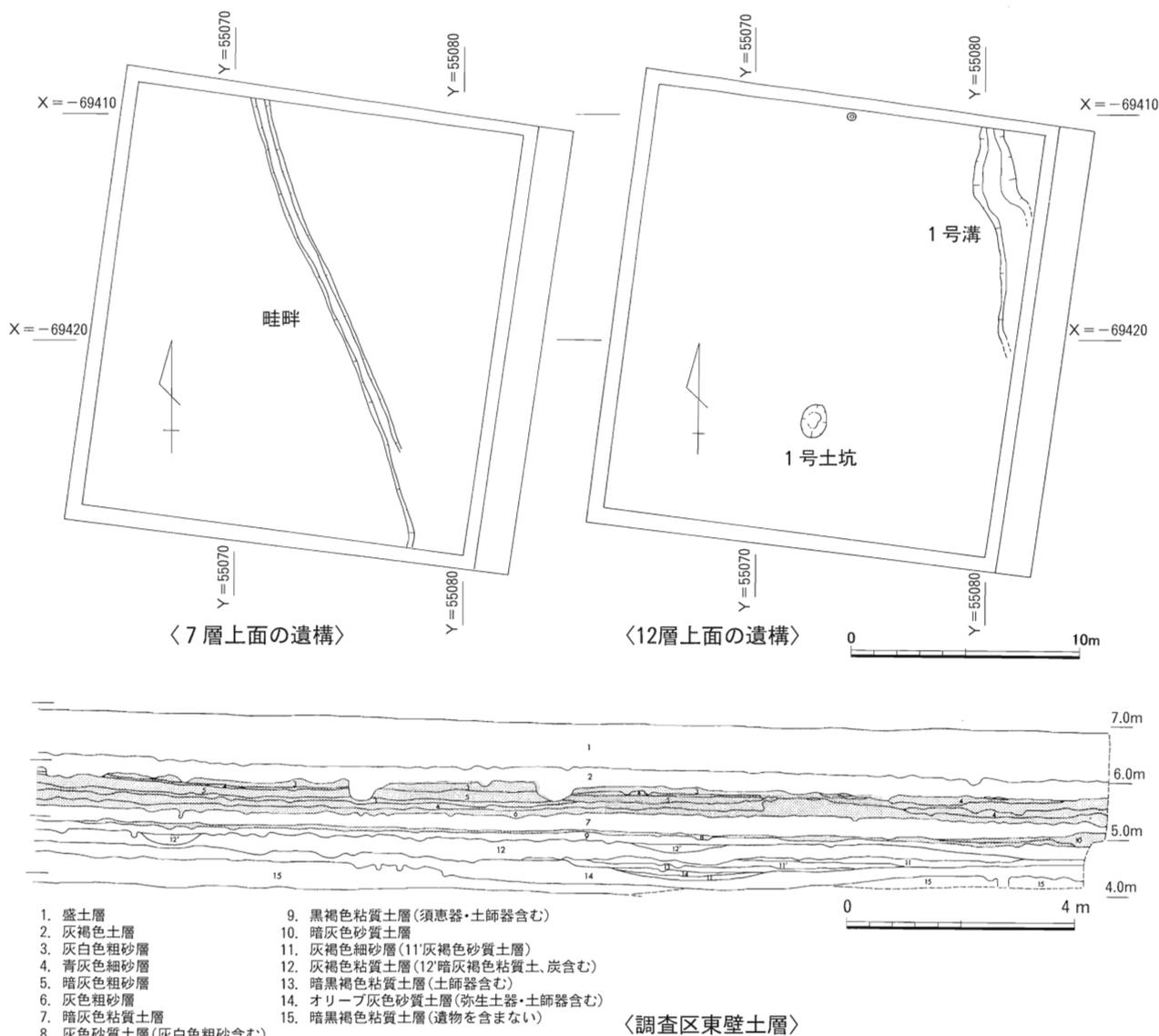
(1) 調査区の層序

調査区東壁の層序(第7図下)は、上層より盛土(1層)－灰褐色土(2層)－灰色系砂層(3～6層)－暗灰色粘質土(7層)－灰色系砂質土(8・10層)－黒褐色粘質土(9層)－灰褐色粘質土(12層)－オリーブ灰色砂質土(14層)－暗黒褐色粘質土(15層)よりなる。このうち、遺構面は7層上面・9層上面・12層上面・14層上面の4面で、9層・12層・13層・14層が遺物包含層となっている。

(2) 7層上面・9層上面

7層上面(第7図) 7層上面は水田面で、畦畔1条が検出された。畦畔はやや西に振るが南北方向に伸びており、幅60～70cm・高さ10～15cm程である。水田面の高さは畦畔の東側に比べて西側の方が5～10cm程度低い。水田面は洪水砂と見られる灰色系砂(3～6層)に40～60cmの厚さで覆われていたため、耕作の際に残された人や牛馬の足跡に砂が入りこみ、これらを明瞭に検出することができた(写真図版2-1、3)。

9層上面 9層上面は水田面であるが、畦畔は確認されていない。9層の上位には灰色系砂質土



第7図 中野清水遺跡1区遺構及び土層実測図

(8・10層)が薄く堆積しており、9層の上面ではこの砂の入った足跡が検出されていることから水田であったことが考えられる(写真図版2-2)。

なお、調査区東壁ではプラントオパール分析を行っており、イネのプラントオパールの検出量からも7層上面と9層上面が水田であることが確認されている。

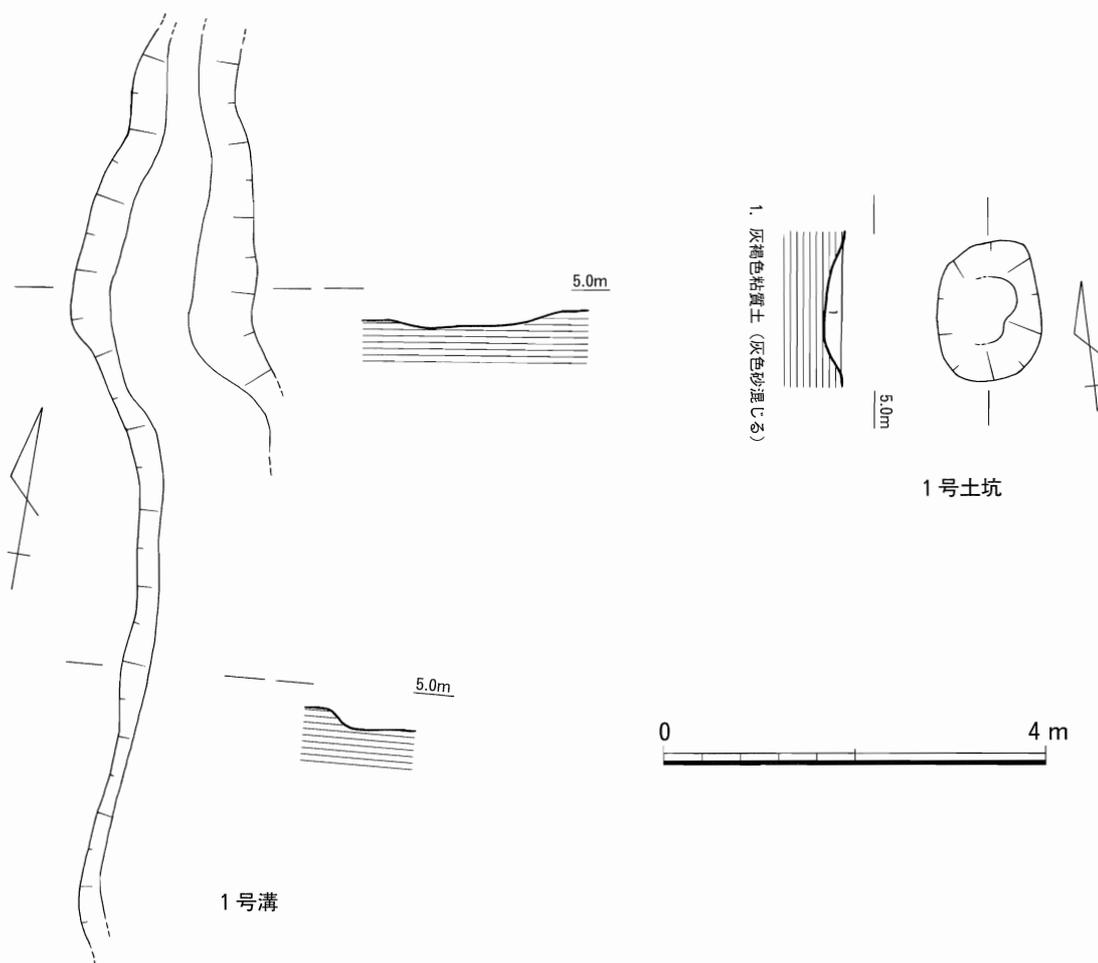
(3) 9層・12層上面

12層上面では溝1条と土坑1基が検出されており、9層が遺物包含層となっている。

1号溝(第8図) 調査区の北東側に位置するもので、検出した長さは9.7m・幅1.0~1.7m・深さ10~20cmほどのものである。出土遺物には土師器坏(第10図6)と須恵器甕片(7)がある。6は底部外面に回転糸切り痕を残すもので、7は内面に墨痕があることから甕片を転用硯としたものである。時期は6から見て平安時代頃と考えられる。

1号土坑(第8図) 調査区の南側中央に位置し、長さ1.45m・幅1.1m・深さ20cmほどのものである。埋土は灰褐色粘質土(灰色砂含む)で、出土遺物はなかった。

9層出土遺物 いずれも小片であるが、弥生土器甕(第10図1)、土師器高坏(2)、須恵器高坏(3)・坏(4・5)、焼塩壺(8)、不明鉄器(9・10)、折敷(11)が出土している。このうち、2は坏部内外面に赤色顔料が塗布されており、11は結合孔に樺皮が残っている。時期は1が弥生時代後期前葉、2が古墳時代中期、3が古墳時代後期、4・5は奈良時代~平安時代初め頃のものである。

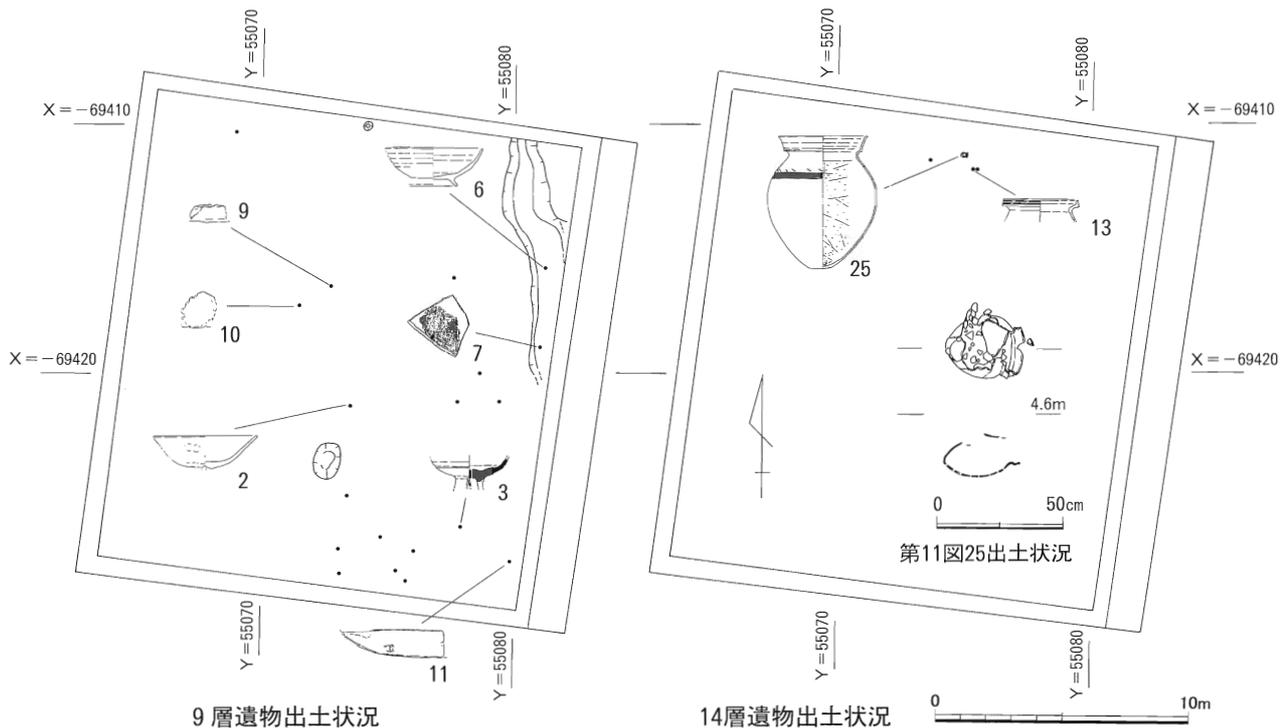


第8図 中野清水遺跡1区12層上面1号溝・1号土坑実測図

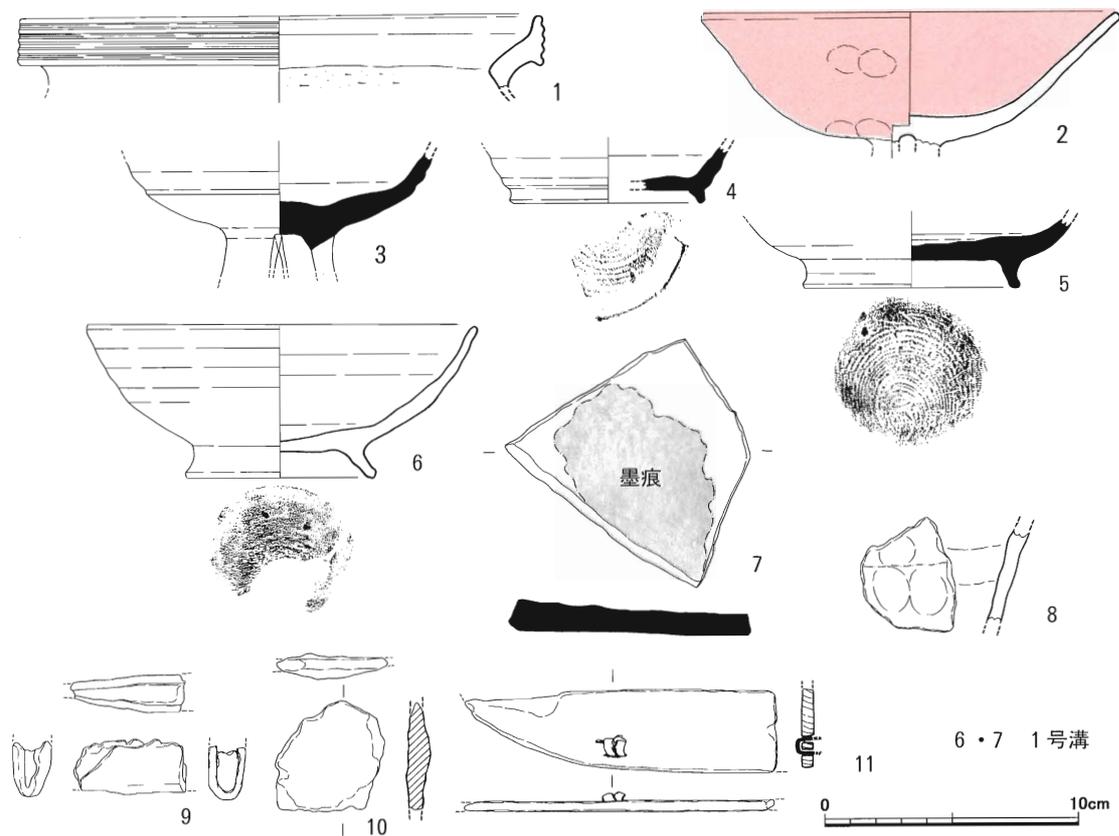
(4) 12~14層出土遺物

14層上面では土師器甕1個体が口縁を東に向け横倒しになった状態で検出されており（第9図右）、遺構面と考えられるが、調査中に地下水が噴出したため遺構は確認できなかった。

12~14層より出土した遺物には弥生土器甕（第11図12~14・25）、土師器甕（16・26・27）・把手



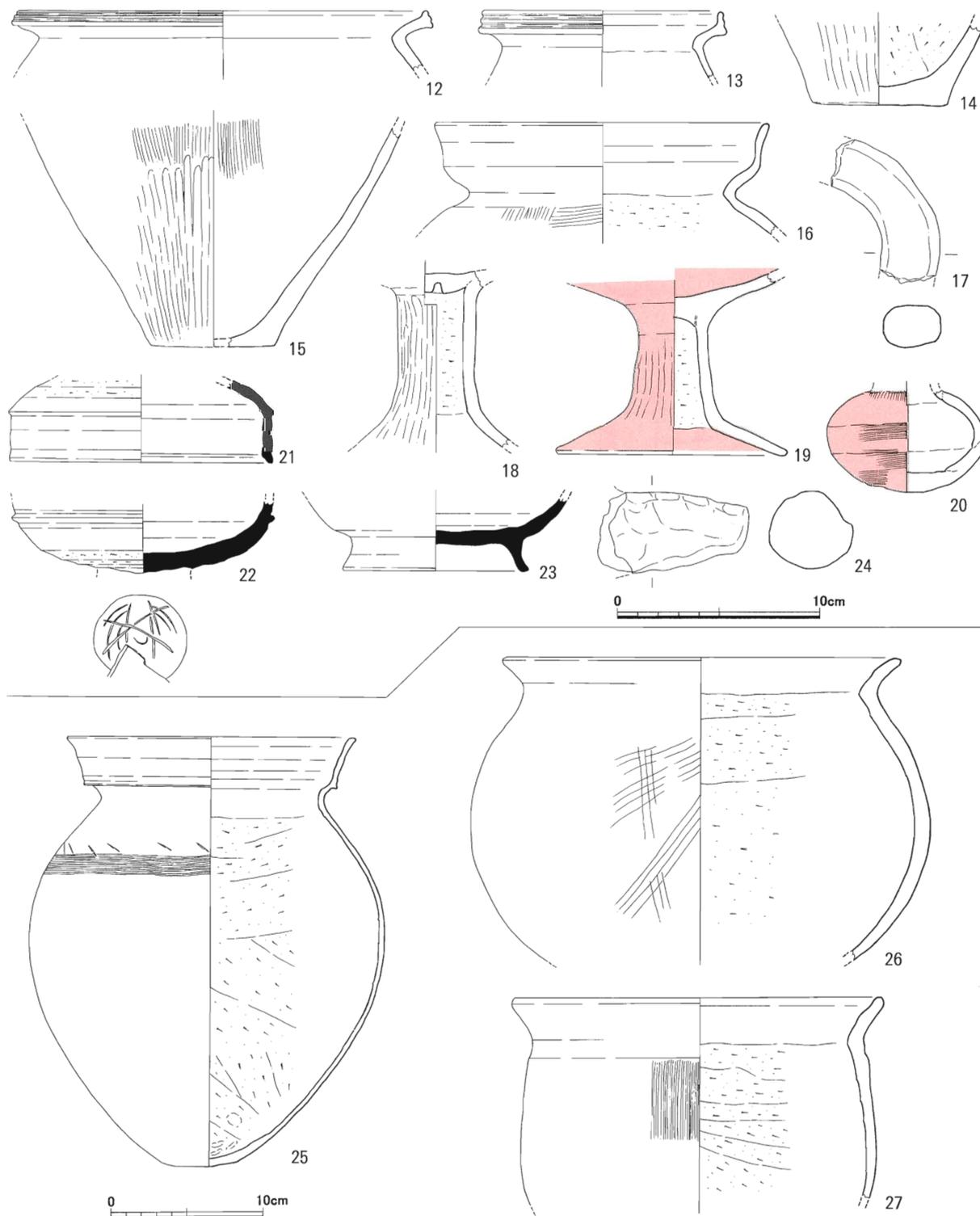
第9図 中野清水遺跡1区遺物出土状況実測図



第10図 中野清水遺跡1区9層出土遺物実測図（1：3）

(17)・高坏 (18・19)・小形丸底壺 (20)・甑把手 (24)、須恵器坏蓋 (21)・高坏 (22)・坏身 (23)がある。このうち、25は複合口縁の甕で底部には痕跡的に平底を残す段階のもので、16は複合口縁ではあるが稜線が鈍くなったものである。また、22の底部には脚部を接合するため、ヘラで刻みが付けられていることが分かる。

時期は12・13が弥生時代後期前葉、17・18・25が弥生時代後期末から古墳時代前期、16・19・20～22が古墳時代中期、23が奈良時代、24・26・27は古墳時代後期から奈良時代のものである。



第11図 中野清水遺跡 1区12層～14層出土遺物実測図 (1:3, 1:4)

第3節 2区の調査

(1) 調査区の層序

調査区の層序は、基本的には1区と変わりはない。調査中に市道側法面が崩壊する恐れが生じたため下層については十分な調査ができなかったが、明茶褐色粘質土（7層）上面が水田面、暗オリーブ灰色砂質土（12層）上面が遺構面となる。遺物包含層は9層・12層・14層で、9層と12層は古墳時代後期、奈良・平安時代の遺物を主体とし、14層は主に弥生時代中期と古墳時代前期の遺物が含まれている。

(2) 7層上面

水田跡（第13図左） 7層上面は水田面で、調査区の東側で畦畔1条が検出された。畦畔はやや西に振るが南北方向に伸びており、幅100～140cm・高さ5～10cm程で、水田面の高さは畦畔の東側が西側より10cm程度高くなる。調査区西側では畔状にはなっていないが北西側が1段低く下がっており、畦畔に相当する部分であることが考えられる。水田面は1区と同様に洪水砂と見られる灰色系砂に覆われており、あまり状態は良くなかったが、耕作の際に残された人や牛馬の足跡が検出できた。2区で検出された畦畔は、2003年に調査されたⅧ区南側の畦畔と位置や方向がほぼ整合しており、調査区西側の段もⅧ区の畦畔と方向が揃っていることから、これらは同じ水田面であることが考えられる（第12図）。

なお、1区では7層の下位にある9層でも水田が確認されたが、2区では1区で7層の下にある8層に当たる薄い砂質土がなく、9層上面は水田として検出することはできなかった。

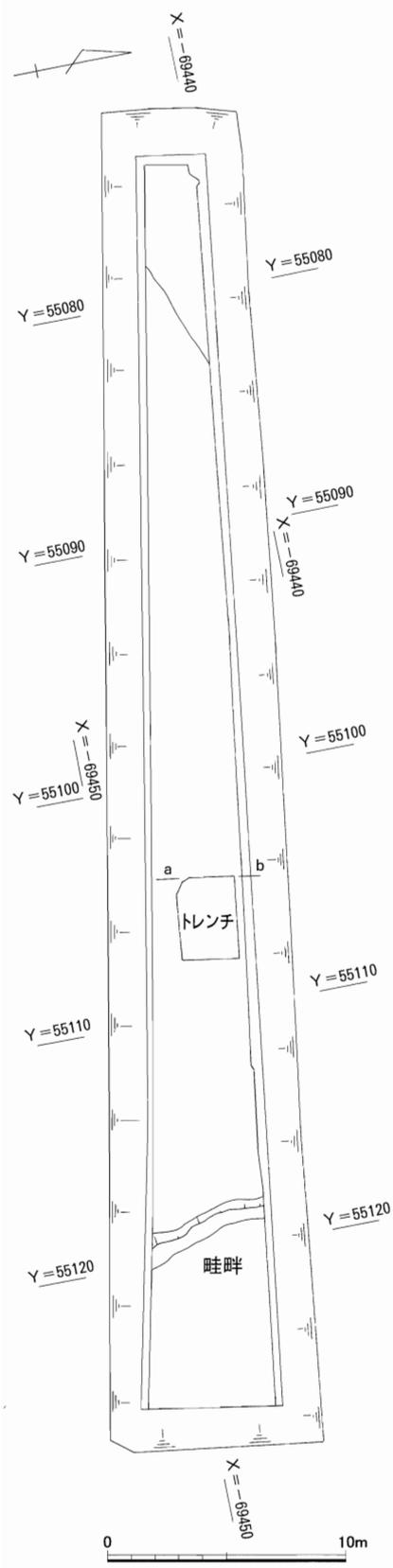
(3) 9層・12層

調査区中央に設定したトレンチの西壁土層では、12層上面から掘り込まれた土坑状の落ち込みが認められたことから、12層上面は遺構面と考えられ、9層はその遺物包含層である。しかし、12層上面は湧水のため検出面が軟弱で、精査を行ったがトレンチ西壁で確認した土坑以外の遺構を検出することはできなかった。土坑は12層の上面から14層に達しており、上端で幅70cm・深さ50cm、埋土中からは土師器が出土した。14層で出土した遺物の中には古墳時代後期以降の土師器甕や奈良時代の土師器杯が含まれるが、12層上層で検出できなかった遺構に伴う遺物である可能性が高い。

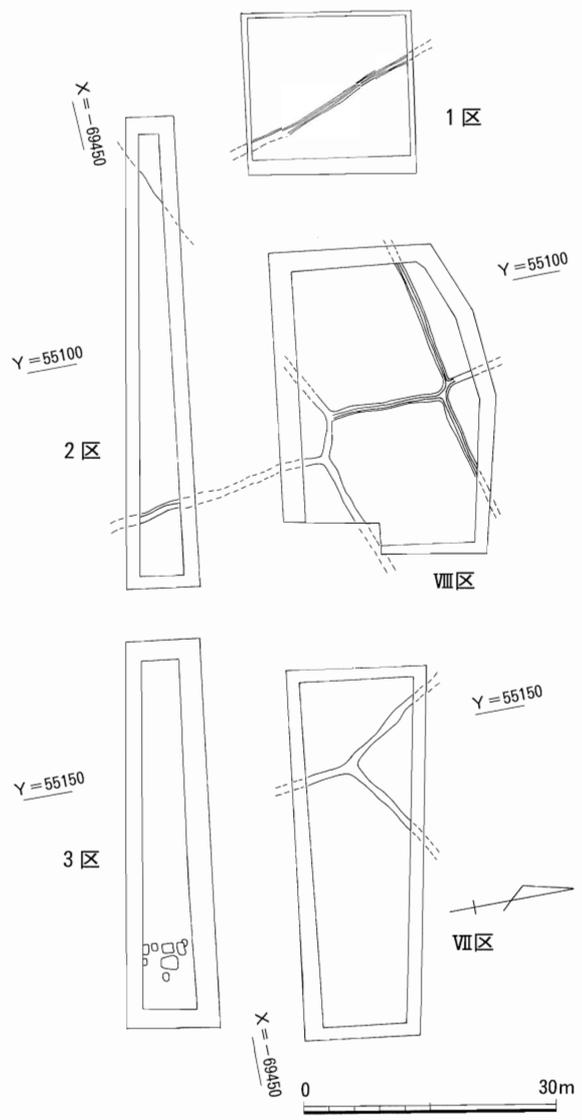
9層・12層出土遺物 弥生土器甕（第15図4）、須恵器杯蓋（1）・皿（2）、焼塩壺（3）土師器甕（5～7）の他、用途不明の木製品（8）がある。弥生土器甕（4）は外面頸部に粘土帯を貼り付け刻みを入れたもので、内外面はハケメである。須恵器杯蓋（1）は頂部と口縁の境に明瞭な稜をもち、口縁がほぼ直立する。頂部には回転ヘラケズリが施される。須恵器皿（2）は口縁が大きく開き器高が低く浅いもので、外面底部には回転糸切り痕が残る。焼塩壺（3）は出土した小片13点のうちの1点で、外面には指押え痕、内面はナデが見られる。土師器甕（5～7）は「く」字形に外反する口縁とあまり肩部の張らない胴部をもつもので、外面にハケメ、内面はヘラケズリである。

木製品（8）は側縁部が浅く弧を描くように加工されており、内側の中央より上側に方形の孔をもち、この部分から欠損する。上端隅部には円孔があり、一面には小さな刺突痕が多数見られる他、一部に焼け焦げがある。樹種はスギである。

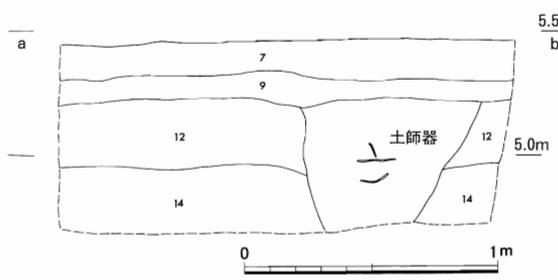
これらの遺物の時期は、4が弥生時代中期後葉、1が古墳時代中期後半、2は平安時代、5～7は古墳時代後期～奈良時代頃のものと考えられる。



第13図 中野清水遺跡 2区水田遺構及びトレンチ土層実測図

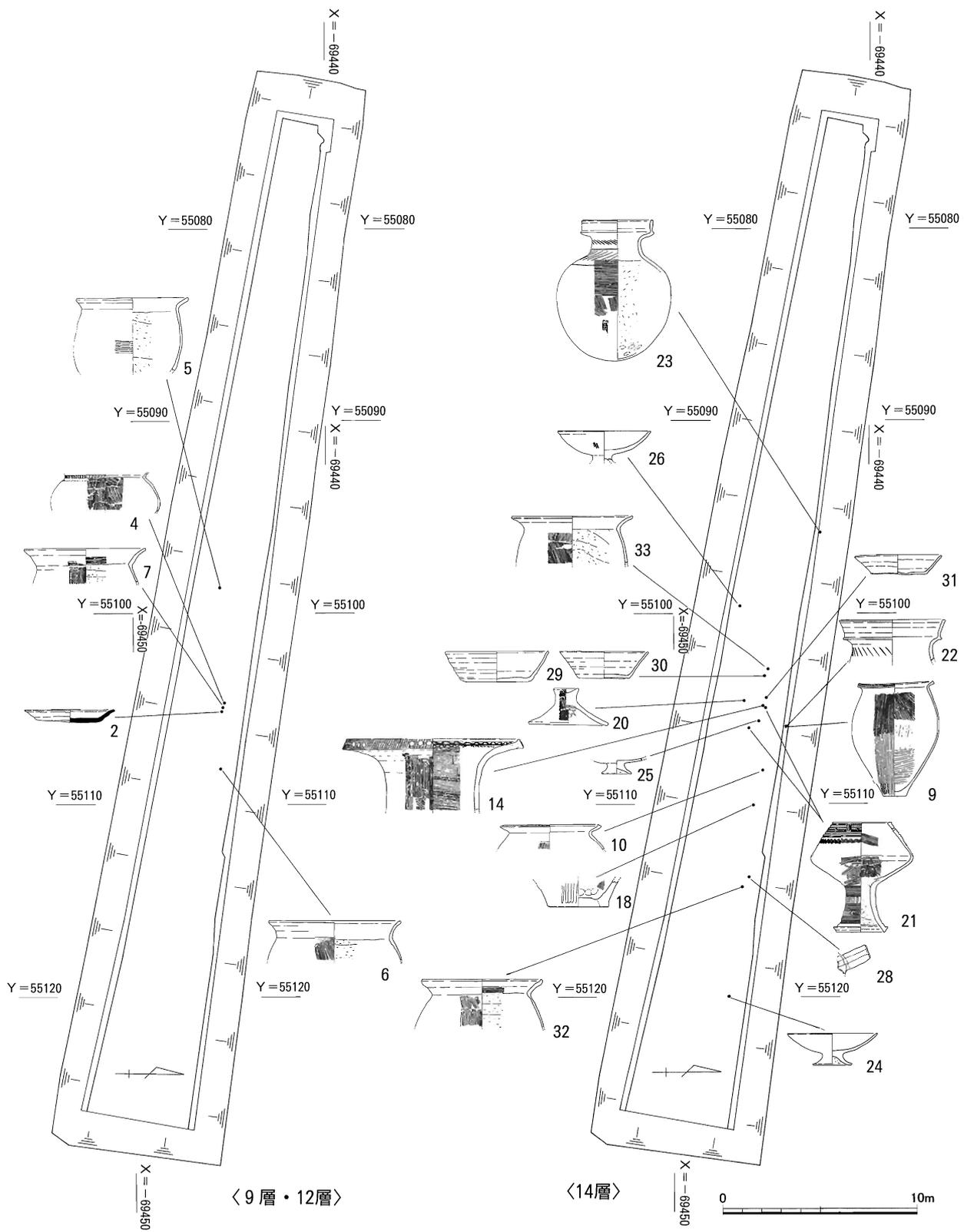


第12図 中野清水遺跡調査区西側水田遺構実測図

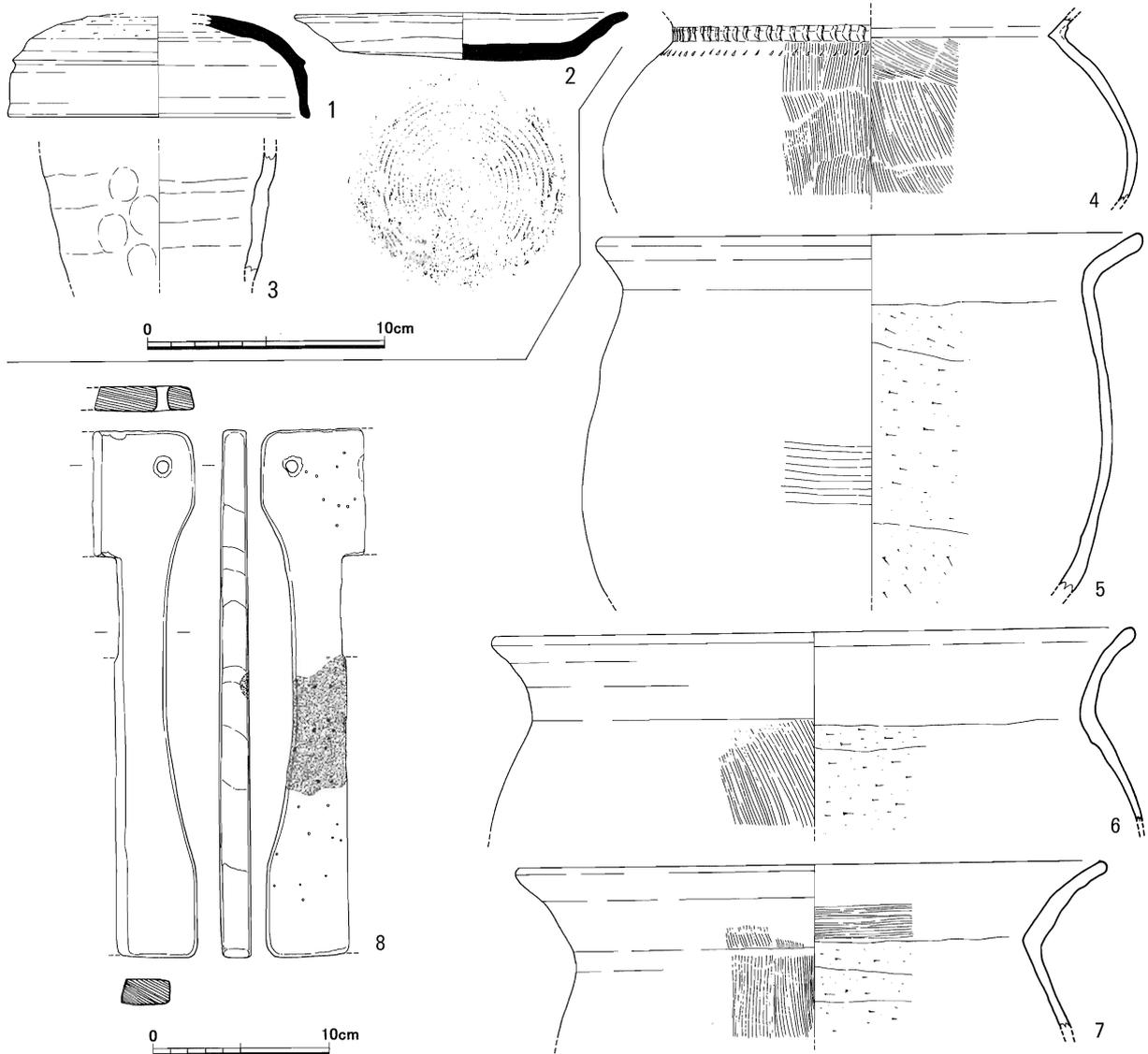


2区トレンチ西壁土層

- 7. 明茶褐色粘質土層(上面が水田面)
- 9. 黒褐色粘質土層(奈良・平安時代遺物包含層)
- 12. 暗オリーブ灰色砂質土層(上面が奈良・平安時代遺構面)
- 14. オリーブ灰色砂質土層(弥生土器包含層)



第14図 中野清水遺跡 2区遺物出土状況実測図



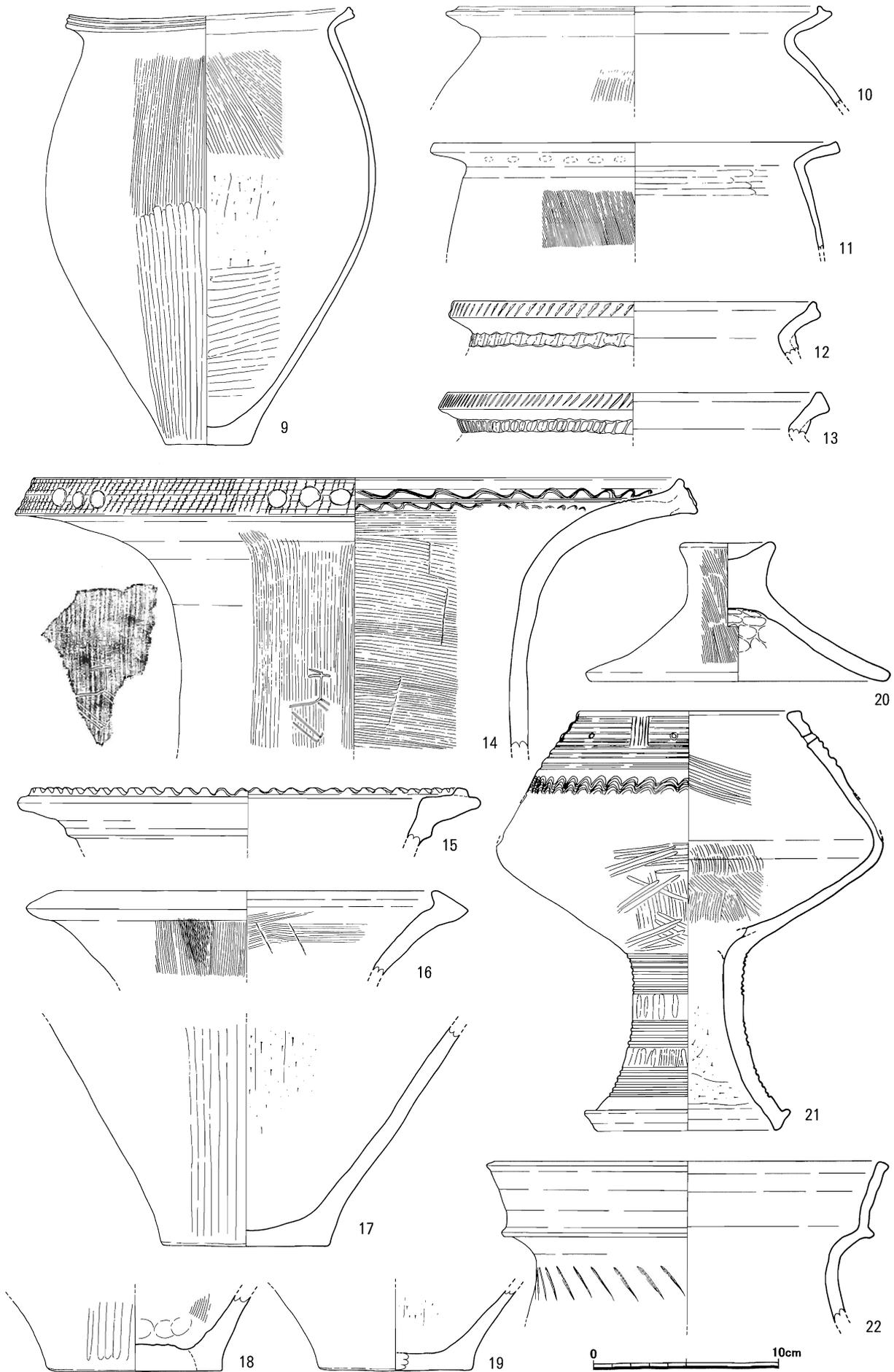
第15図 中野清水遺跡 2区 9層・12層出土遺物実測図（1：3，1：4）

(4) 14層出土遺物

14層では遺構を確認することはできなかったが、調査区中央部のH-16・17・18区付近を中心に遺物が出土した。14層の遺物としては弥生土器甕（第16図9～13）・壺（14～16）・壺甕底部（17～19）・蓋（20）・脚付無頸壺（21）、土師器壺（22・23）・低脚坏（24～27）・注口土器（28）がある。また、12層上面から掘り込まれた遺構に伴う可能性が高いが、土師器坏（29～31）・甕（32～33）も14層として取り上げられている。

弥生土器 甕は口縁に凹線があるものとなないものがある。9は口縁がやや肥厚し、端部に2条の凹線をもつもので、外面にはハケメののちミガキ、内面は底部がミガキ、胴部上半はミガキと僅かにケズリが見られる。10～13は口縁端部が肥厚するが凹線はないものであるが、12・13には端部にキザミがあり、頸部には指頭圧痕文帯がついている。

壺も口縁に凹線があるものとなないものがある。このうち14は、口縁が大きく外反し、端部には3条の凹線と貝殻腹縁による斜行刺突文が2段に施され、さらに3個1単位の円形浮文が付けられている。内面は口縁側から貝殻腹縁による波状文・横線文・波状文の順に施文されており、調整は内外面とも粗いハケメである。復原口径は35.0cmと大形であり、頸部外面には右向きにシカが線刻さ



第16図 中野清水遺跡 2区14層出土遺物実測図1 (1:3)

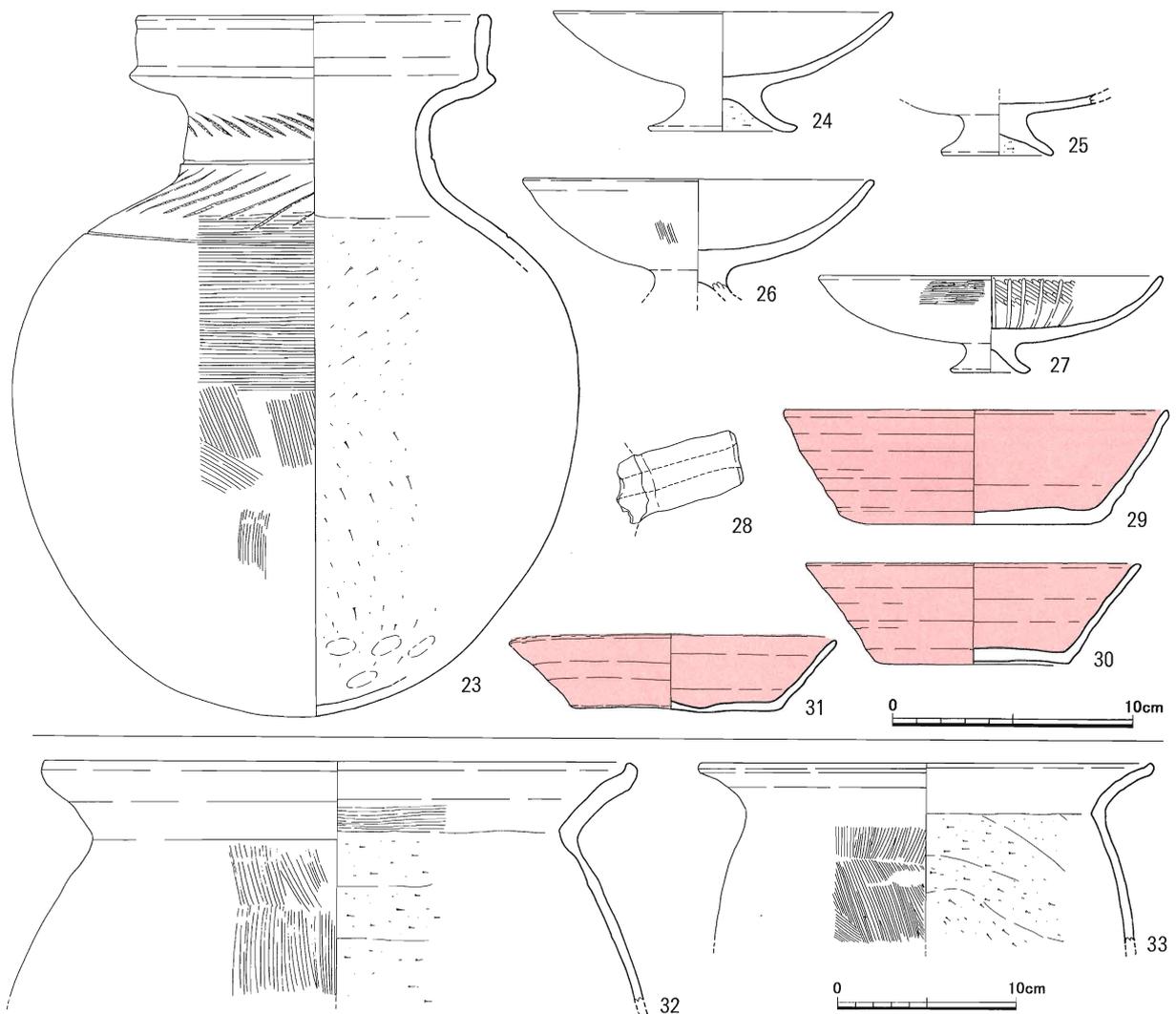
れている。15・16は凹線がないもので、15は口縁上面が平坦になり、キザミのある粘土帯が貼り付けられる。16は口縁が肥厚し内傾するもので、内外面にハケメ調整が見られる。

脚付無頸壺(21)は無頸壺と脚部の一部が遺存する。壺部は口縁外面に6条の凹線文と縦方向に6条1単位の短沈線が刻まれ、その下に波状文が施されており、凹線部分には2孔1対が穿孔されている。脚部には上から8条・5条・6条が1単位となった沈線が入り、調整は外面がハケメのちミガキ、内面は壺部がハケメ、脚部はケズリである。

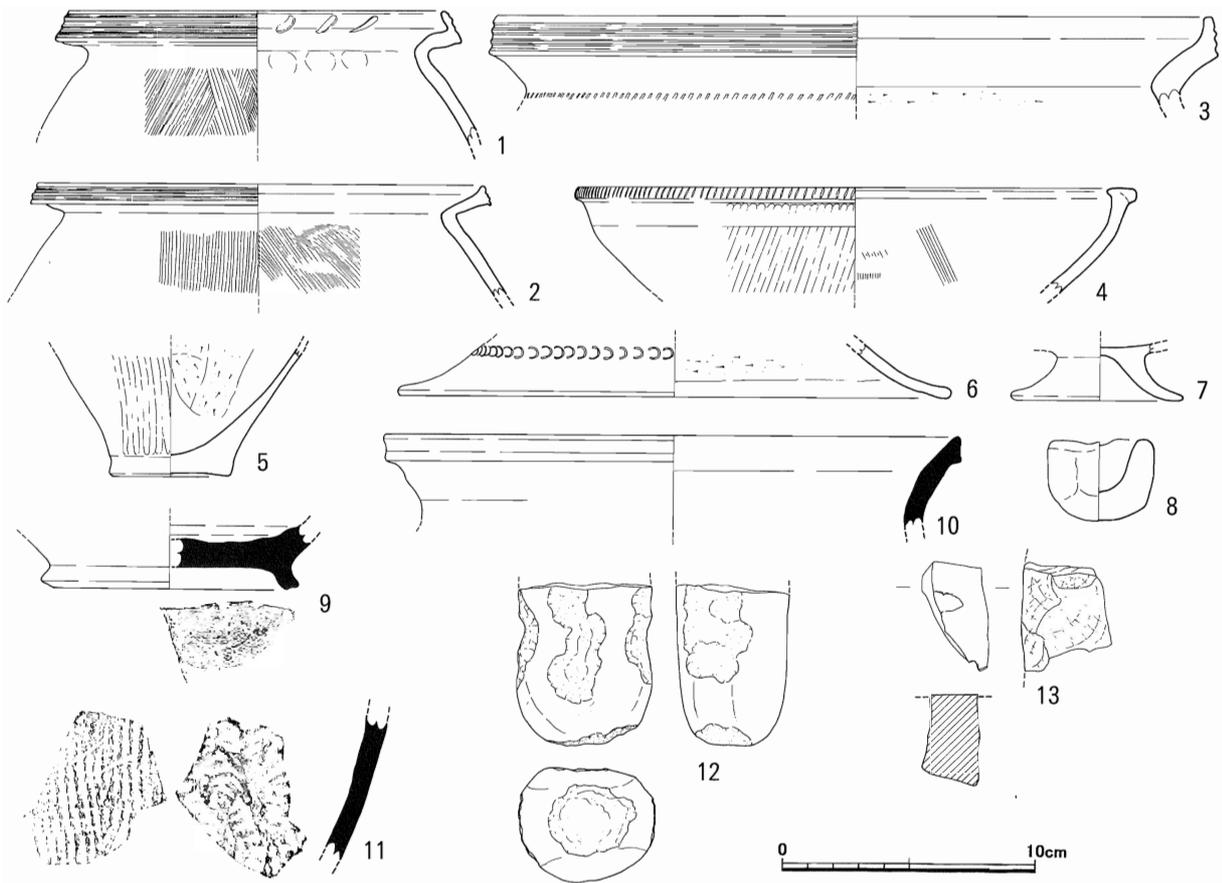
土師器 壺(22・23)はともに複合口縁をもつものである。22はやや外反する口縁をもち、頸部には斜行刺突文がある。23は直立する口縁をもち、頸部には羽状文が施されたもので、体部は丸みを帯び底部は丸底となる。調整は外面肩部に横方向のハケメ、下半には縦方向のハケメがあり、内面はケズリ、底部には指頭圧痕がある。

坏(29~31)はいずれも外傾する口縁をもち、内外面に赤色顔料が塗布されたものである。外面底部には指頭圧痕が残っている。

これらの遺物の時期は、10・11・15・16が弥生時代中期中葉、9・12~14・21が中期後葉、22~28が古墳時代前期、29~31は奈良時代、32・33は古墳時代後期~奈良時代頃のものと考えられる。



第17図 中野清水遺跡 2区14層出土遺物実測図2 (1:3, 1:4)



第18図 中野清水遺跡 2区トレンチ他出土遺物実測図 (1:3)

(5) トレンチ他出土遺物

調査区中央や各壁沿いのトレンチ他で出土し、出土層位を明確にできなかったものには、弥生土器甕 (第18図1~3・5)・高坏 (4)、土師器鼓形器台 (6)・低脚坏 (7)・手捏土器 (8)、須恵器壺 (9)・甕 (10・11)、磨石・敲石 (12)・緑色凝灰岩片 (13) がある。

弥生土器 甕はいずれも口縁に凹線文をもつものである。1・2は口縁の立ち上がりに差があるが、ともに内傾しており、外面はハケメ、内面はナデまたはハケメ調整である。3は口縁が直立気味に立ち上がり外面頸部に刺突文が入るもので、内面はケズリである。5は底部で外面にミガキ、内面にケズリが見られる。高坏 (4) は口縁上面が平坦となり端部にキザミが施されたもので、外面はミガキ、内面はハケメである。

土師器・須恵器 土師器鼓形器台 (6) は内面にケズリがあり脚台部と見られるが、外面には半葦竹管文が入る。7は低脚坏の脚部、8は手捏土器で内面に指を入れて成形している。須恵器壺 (9) は底部の破片で、底部外面は回転糸切りの後、粗く回転ナデされている。10・11は甕で、10は口縁部、11は体部の破片である。11は外面に平行タタキ、内面には放射状の当て具痕が残る。

石製品 磨石・敲石 (12) は凝灰岩で、各面に磨面と敲打痕が残る。緑色凝灰岩片 (13) は上面に研磨面が認められるが、他は破面である。砥石か玉作関係の石材となる可能性がある。

これらの遺物の時期は、4が弥生時代中期中葉・1~3・5が中期後葉から後期前葉、6・7が古墳時代前期、9・11は奈良時代頃のものと考えられる。

第4節 3区の調査

(1) 調査区の層序

調査区西壁の層序(第19図)は、上層より盛土(1層)－茶褐色土(2層)－灰褐色土(3層)－暗灰褐色土(4層)－明灰色粗砂(6層)－暗褐色砂質土(7層)－黒褐色土(9層)－暗黒褐色土(13層)－オリーブ灰色砂質土(14層)よりなる。また、調査区の西側に設けたトレンチ西壁(第20図)によれば14層の下にオリーブ灰色粘質土(14'層)－黒色粘質土(15層)がある。このうち、遺構面は7層上面・14層上面・15層上面の3面で、13層・14層が遺物包含層となっている。

(2) 7層上面

水田跡 7層上面は水田面で、洪水砂と見られる明灰色粗砂(6層)に厚いところで25cm程度覆われており、耕作の際に残された人や牛馬の足跡も見られた(写真図版8-1)。但し、2003年度Ⅶ区で確認された畦畔の続きについては、検出することができなかった。また、7層上面では井戸跡が確認されており、これと水田面より後に掘り込まれた土採り穴も見られた。

井戸跡(第20図上左) 調査区北東部に位置するもので、水田に伴う可能性がある。平面形は不整な円形で、径70～80cmで、広く掘り込まれた部分は深さ90cmである。中央には節を抜いた竹が立てられ、下にもこれとつなぎ合わせるように竹が残ることから2本以上が差し込まれていることが分かる。また、土坑の上面には細い木杭が竹に沿って打ち込まれていた。埋土は竹を中心に灰褐色粗砂(3層)が嵌入し、その回りに裏込めと見られる黒褐色系粘質土(1・2層)がある。

同様な竹を差し込んだ井戸は、中野美保遺跡Ⅲ区でも確認されており、竹の放射性炭素年代はAD1680～1770または1800～1940年と測定されている⁽¹⁾。

なお、調査区西壁ではプラントオパール分析を行っており、7層では少なかったが、9層でプラントオパールが多く検出されている⁽²⁾。7層で少なかったのは上面の砂層が一部で失われているため水田面が乱されているとも考えられ、9層で検出量が多いのは7層からの影響か1区で確認されたように9層上面が水田となっていたことを示すものと思われる。

(3) 14層上面・15層上面

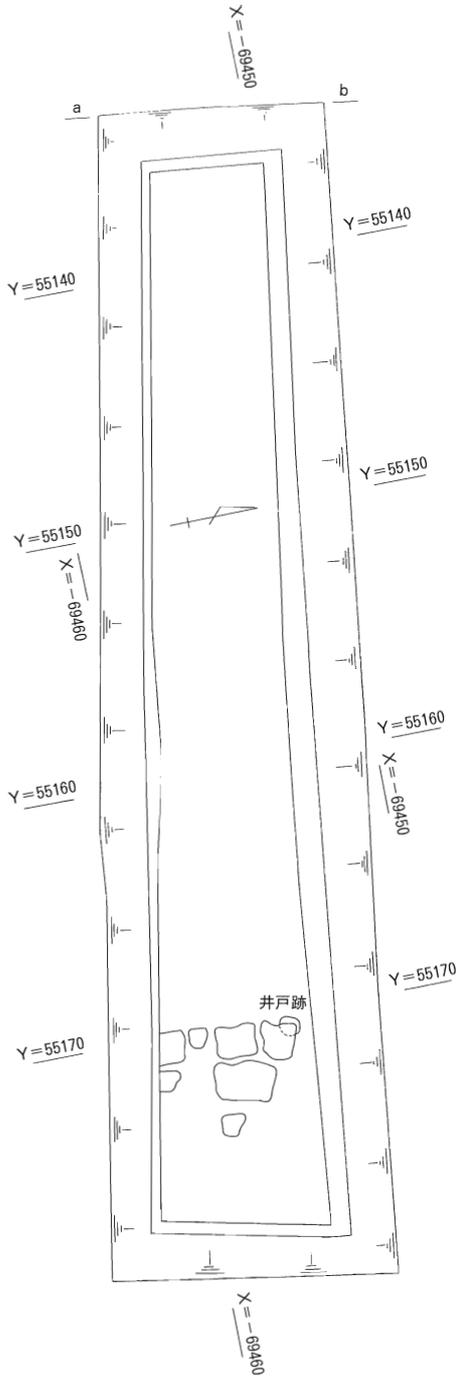
14層上面では調査区の中央部で1号土坑と落ち込み確認されている。また、14層を掘り下げたところ、調査区西側の15層上面で2・3号土坑と焼土面、ピットが検出された。14層は弥生土器を中心とした遺物包含層となっている。

1号土坑(第20図上中) 平面形は円形で、径1.1～1.3m・深さ63cmである。断面形は底面が丸くなっており、埋土は炭化物を含んだ灰色系または黒褐色系の粘質土・砂質土が落ち込んだような状態で堆積していた。出土遺物はなかった。

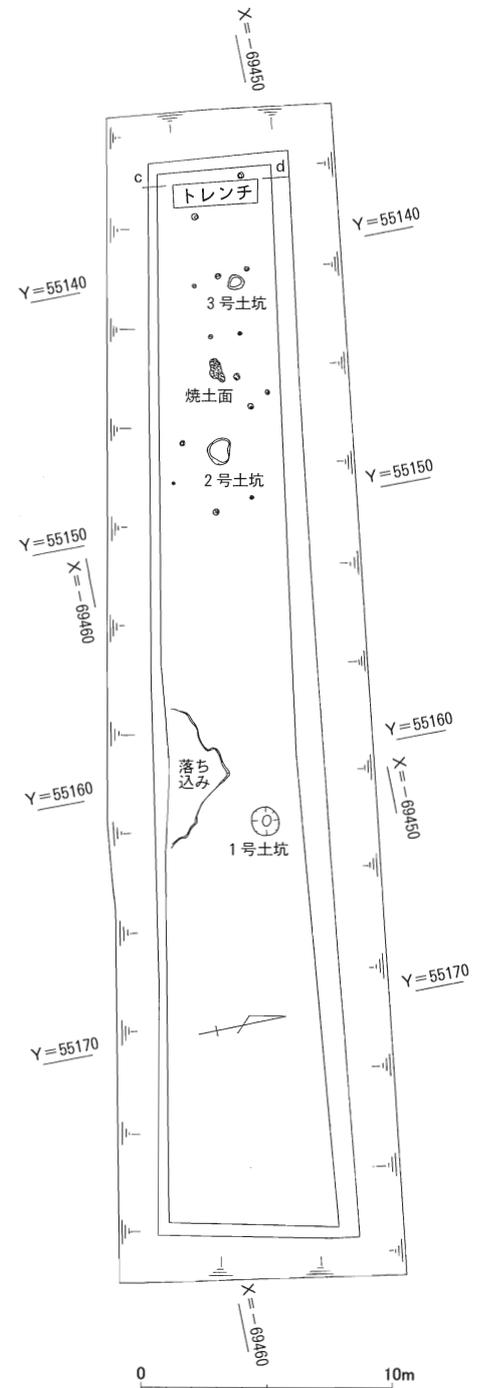
落ち込み(第20図下左) 1号土坑の南西側で確認された浅いもので、不整形な方形状を呈する。検出された範囲では1辺1.8m程で、深さは5cmである。埋土は黒褐色系の粘質土があり、弥生土器甕(第21図2)が出土している。

2号土坑(第20図上右) 平面形は不整な楕円形で長さ1.1m・幅0.9m・深さ18cmである。断面形は浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色系の粘質土である。出土遺物は弥生土器甕(1)が出土しており、中期中葉頃のものと思われる。

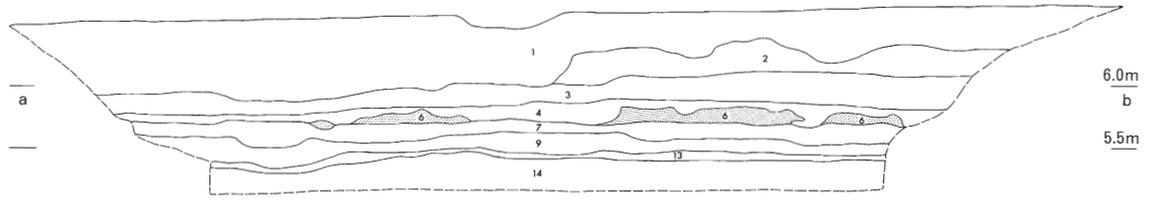
3号土坑(第20図中右) 2号土坑の西6mのところの位置し、平面形は不整な円形で径63cm・深さ13cmである。断面形は浅い皿状で、内部には弥生土器甕(第21図3)、砥石(4)があり、東



< 7層上面の遺構 >



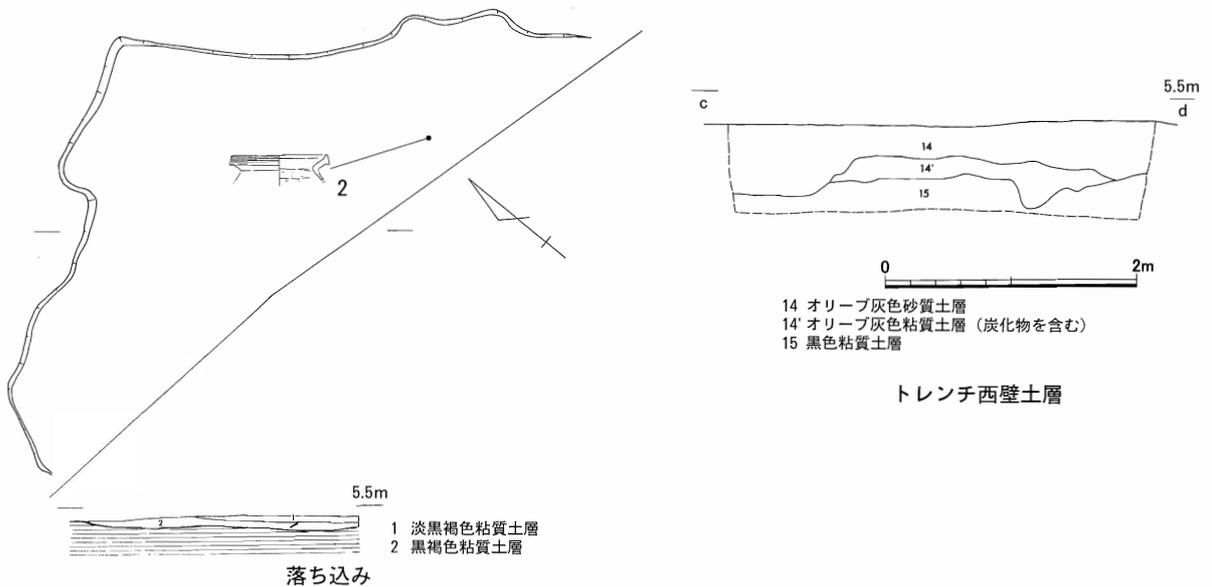
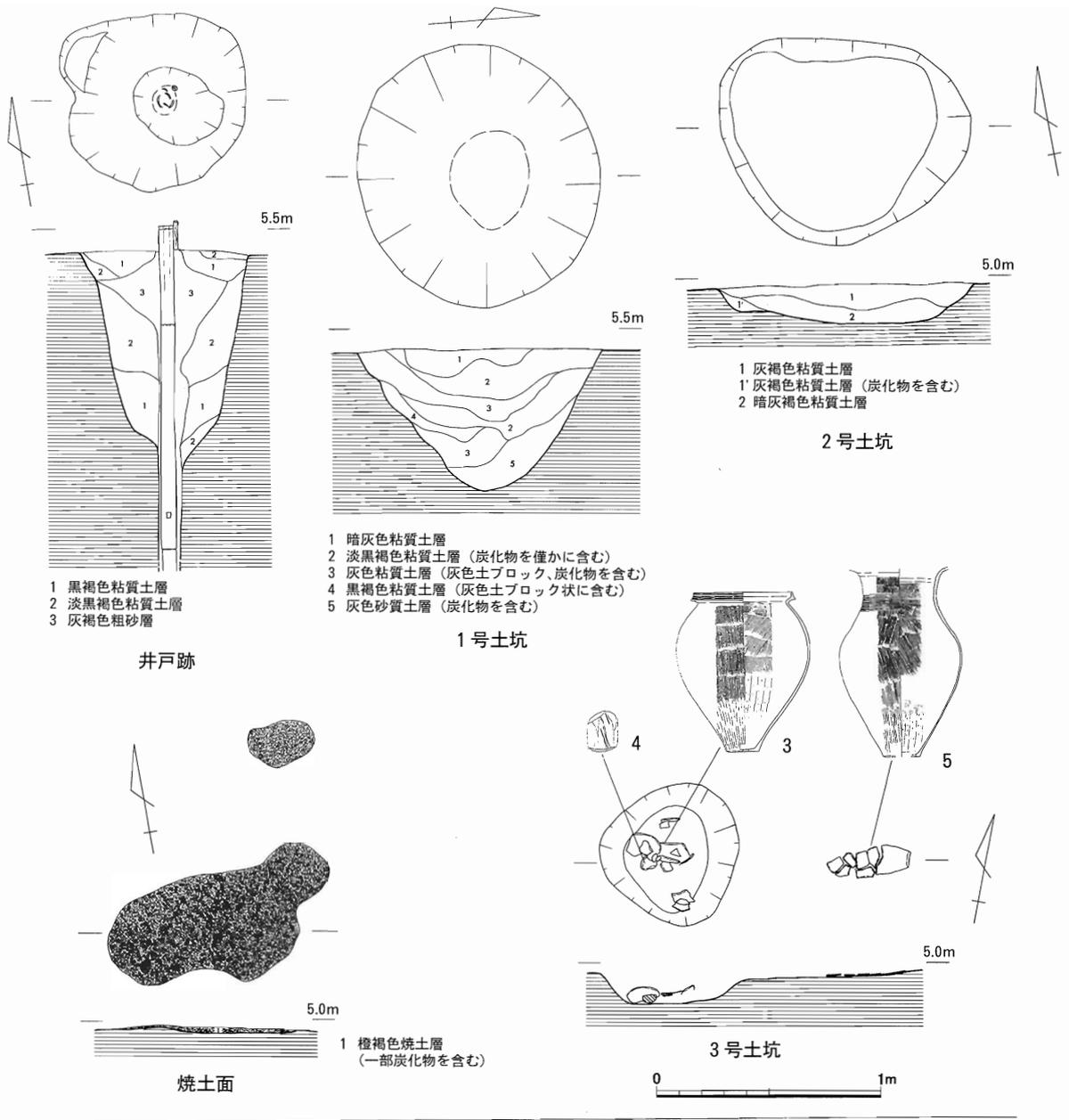
< 14層上面・15層上面の遺構 >



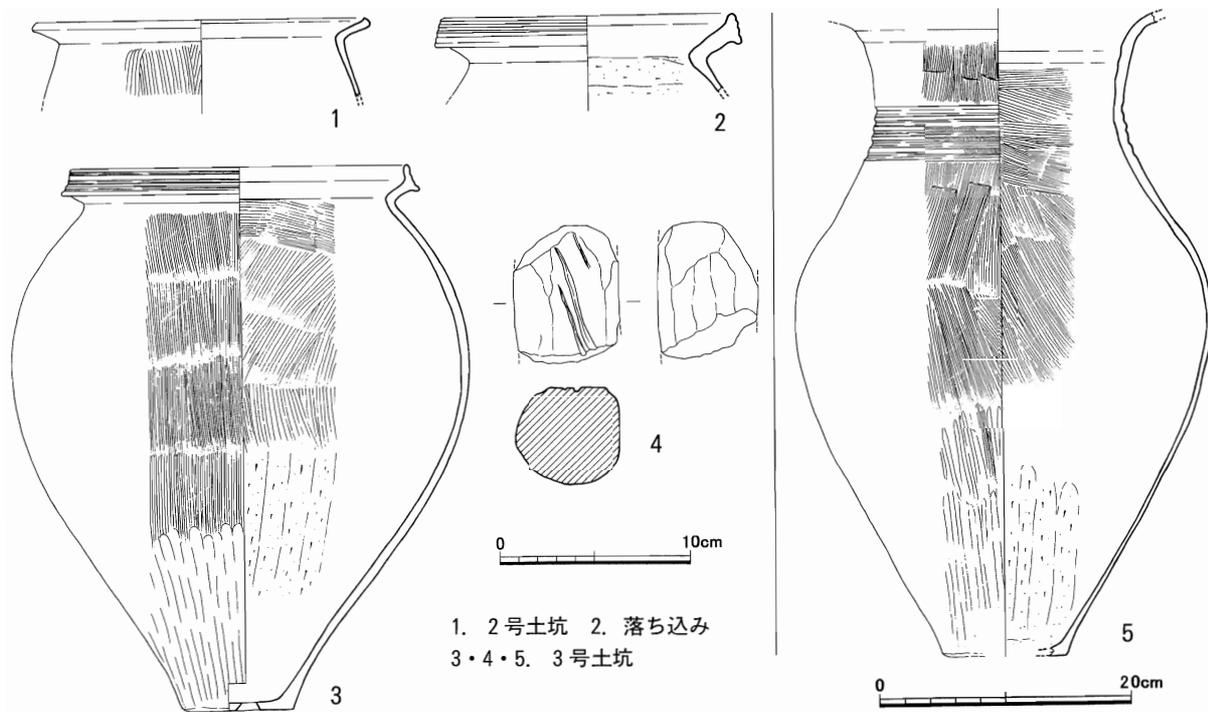
- | | |
|----------------|-------------------------------|
| 1. 盛土層 | 7. 暗褐色砂質土層(上面が水田面) |
| 2. 茶褐色土層(鉄分沈着) | 9. 黒褐色土層 |
| 3. 灰褐色土層 | 13. 暗黒褐色土層 |
| 4. 暗灰褐色土層 | 14. オリーブ灰色砂質土層(弥生土器・古式土師器包含層) |
| 6. 明灰色粗砂層(洪水砂) | |

< 調査区西壁土層 >

第19図 中野清水遺跡 3区遺構及び土層実測図



第20図 中野清水遺跡3区遺構・トレンチ西壁土層実測図



第21図 中野清水遺跡3区遺構出土遺物実測図（1：4，1：6）

へ40cmのところでは弥生土器壺（5）が出土している。

3は口縁が内傾し3条の凹線が入るもので、外面はハケメののち下半にミガキ、内面は上半にハケメ、下半にケズリがある。底部は焼成後に穿孔されている。4は流紋岩で上面と両側面が使用されており、上面には3条の溝が刻まれる。5は大形の壺で、頸部には凹線が5条入る。外面はハケメ下半にミガキ、内面は上半にハケメ、内面にケズリが見られる。

これらの遺物の時期は、3と5から弥生時代中期後葉と考えられ、砥石（4）がこれらに伴うことは、鉄器の使用を窺わせる。

焼土面（第20図中左） 2号土坑の西2.3m・3号土坑の東南3.0mところに位置する。平面形は不整形で長さ1.05m・幅0.5mである。0.3m北にも小さい焼土面があり、長さ0.3m・幅0.2mである。焼土の厚さは3cmほどで、炭化物を含んでいる。周囲にはピットが点在することから、住居跡の床面に当たる可能性もあるが、明らかにできなかった。

(4) 13層・14層出土遺物

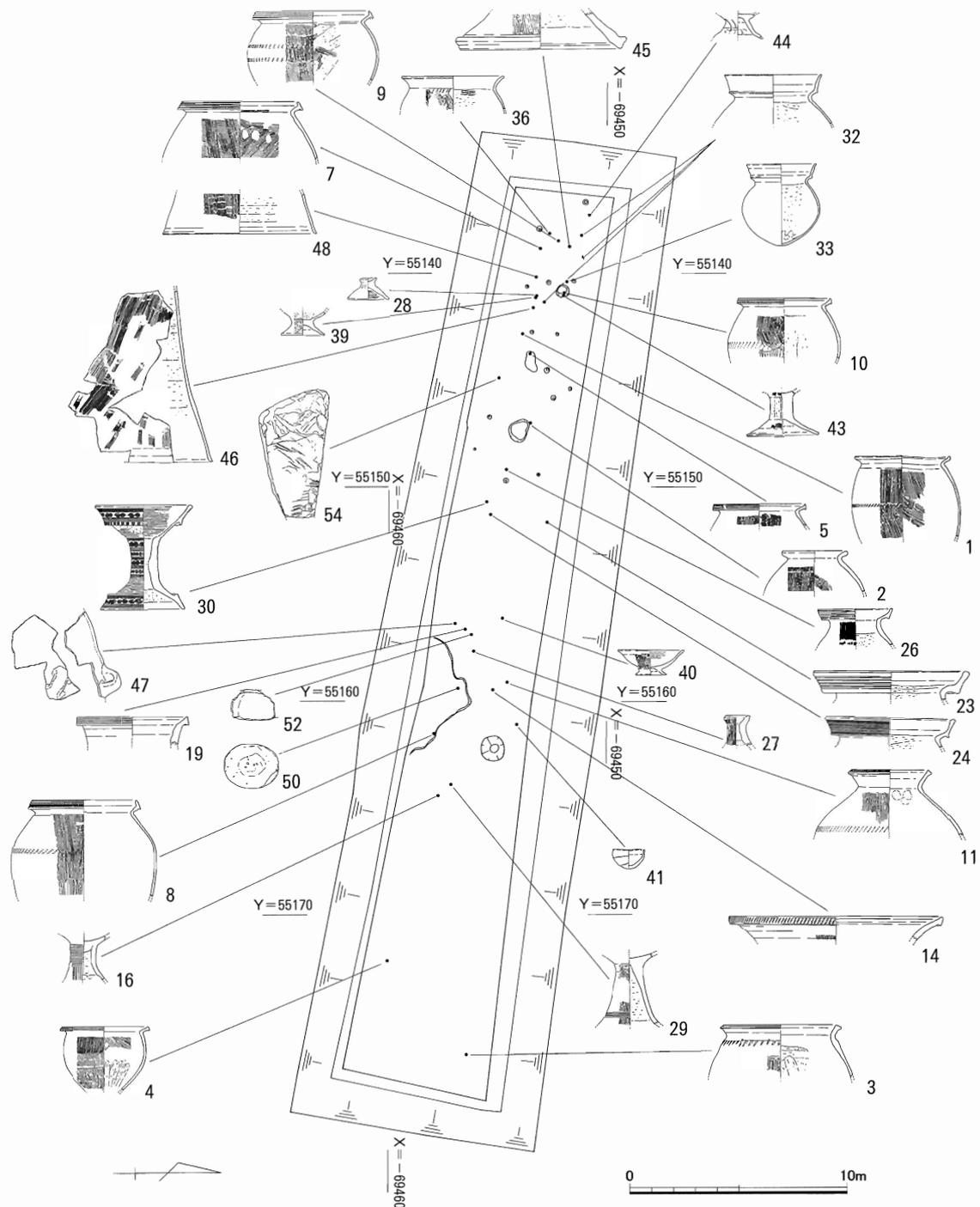
13層・14層の遺物には弥生土器（第24図・第25図18～31）、弥生～土師器（第25図32～36・39・40・41・第26図46～48）、土師器（第25図37・38・42～45）、石製品（49～54）、木製品（55～60）、鉄滓・鉄製品（61・62）がある。

弥生土器 1～10は甕で、1・2は口縁が肥厚するが凹線はないものである。1は外面胴部に斜行刺突文があり、下半はハケメのちミガキ、内面はハケメである。2は内外面ともハケメ調整である。3～10は口縁が肥厚または上下に拡張され内傾しており、凹線文が入る。3は頸部、8・9・10は胴部に斜行刺突文が入り、内面調整は3・9・10がケズリ、5・7がハケメ、6がナデで、4はハケメののち下半にケズリが見られる。

11～14・18・19は壺である。このうち13・14は口縁が大きく口縁が大きく外反し、凹線文がない

もので、13には斜格子文、14には斜行刺突文が施される。12は大きく外反する口縁をもつが、2条の凹線文が入るもので、斜行刺突文を2段に加える他、3個1対の円形浮文も施されている。11・18・19は口縁の外反が小さく、端部に凹線文のみもつものである。11は外面胴部に斜行刺突文とハケメ、内面は指押えとナデである。18は頸部に凹線文、肩部に羽状文が入り、調整は頸部内外面がハケメ、内面胴部はケズリである。19は無文で、横ナデ調整である。

15・16・17は凹線文をもつ高坏である。15は坏部で口縁が内傾しており、端部には細かい刻みがある。凹線文は口縁の他、脚部にも入り、調整は内外面ともミガキである。16・17は脚部で、17は外面に円形の刺突がある。ともに外面はミガキ、内面はケズリである。



第22図 中野清水遺跡 3区13層・14層遺物出土状況実測図

20は小形の分銅形土製品で、文様側が凸面となり、周縁に沿って2個1単位の刺突文がある。

21～25は複合口縁の甕で口縁部が直立または外傾する。21は無文、22～25は口縁に擬凹線が入り、22の肩部に斜行刺突文がある。内面は22・25の頸部にミガキ、胴部はすべてケズリである。

26は複合口縁の壺で、擬凹線をもち、胴部外面はハケメ、内面はケズリである。

27は蓋で中央に径1.2cmの孔があり、外面はハケメ、内面はケズリである。28は蓋としたが、上下が反転して低脚坏となる可能性もあり、内面にはハケメが見られる。

29は高坏で外面に沈線があり、赤色顔料が塗布される。外面がハケメ、内面はケズリである。

30は鼓形器台で、器受部と脚台部が複合口縁状になり、筒部が長いものである。外面には擬凹線・連続渦文・二重円文が見られ、赤色顔料が塗布される。連続渦文は2個1単位が原体に刻まれており、やや間隔をあけ連続して押捺される。第23図はこれを模式的に示したもので、基本的には右向きの渦文の単位文端部が連結する連続渦文S第Ⅱ種⁽³⁾であるが、右側の単位文は端部が連結せず珠文となり、文様に乱れがある。また、器受部と脚台部では連続渦文の上下が反転する。調整は外面がミガキ、器受部はケズリのちミガキ、脚台部内面はケズリである。

弥生～土師器 32～34は端部が外反する複合口縁をもつ甕である。33は底部に痕跡的な平底を残しており、内面底部には指頭圧痕が見られる。36は「く」の字に外反する単純口縁をもち、外面はタタキのちハケメで、内面はケズリのち一部ハケメである。39・40は低脚坏で40の外面調整はハケメのちミガキである。41は手捏土器であるが、薄手で粘土を巻き上げて作る。46・47はいわゆる甗で、体部の傾きから直立せず斜めに立ち上がると見られる。46は斜めにハケメ入る他、47は半環状の把手が斜めに取り付けられる。48は甗通有の裾部である。35は甗の把手である。

土師器 37・38は複合口縁が形骸化した段階のものである。43・44は高坏で44は坏部と脚部外面に赤色顔料が塗布される。45は厚手の脚部で、外面はヘラミガキ、内面はケズリである。

石製品 49は打製土掘り具で周縁部を打ち欠くが、自然面を残す。50・51は敲石で、50は周縁部、51は端部に敲打痕がある。52～54は砥石である。52は上面と一側面、53は各面が使用される。54は大形で各面が使用され、一部に利器痕が残る。

木製品 55～58は曲物で、55～57はヒノキ、58はスギである。55は一面に利器痕があり、58は2次加工される。59はスギの板材で、一面に利器痕がある。60はヒノキで、用途不明であるが、貫通する孔と半貫通の窪みが見られる。

鉄滓・鉄製品 61は小形の椀形鍛冶滓片で鍛錬鍛冶滓である⁽⁴⁾。62は鉄鍋の口縁部である。

時期は1・2・13・14が弥生時代中期中葉、3～12・18が中期後葉、19・21・22が後期前葉、23～26・30が後期中葉、32～36・39・40・41・46～48が後期末から古墳時代前期初、37・38・43・44は古墳時代中期のものと考えられる。

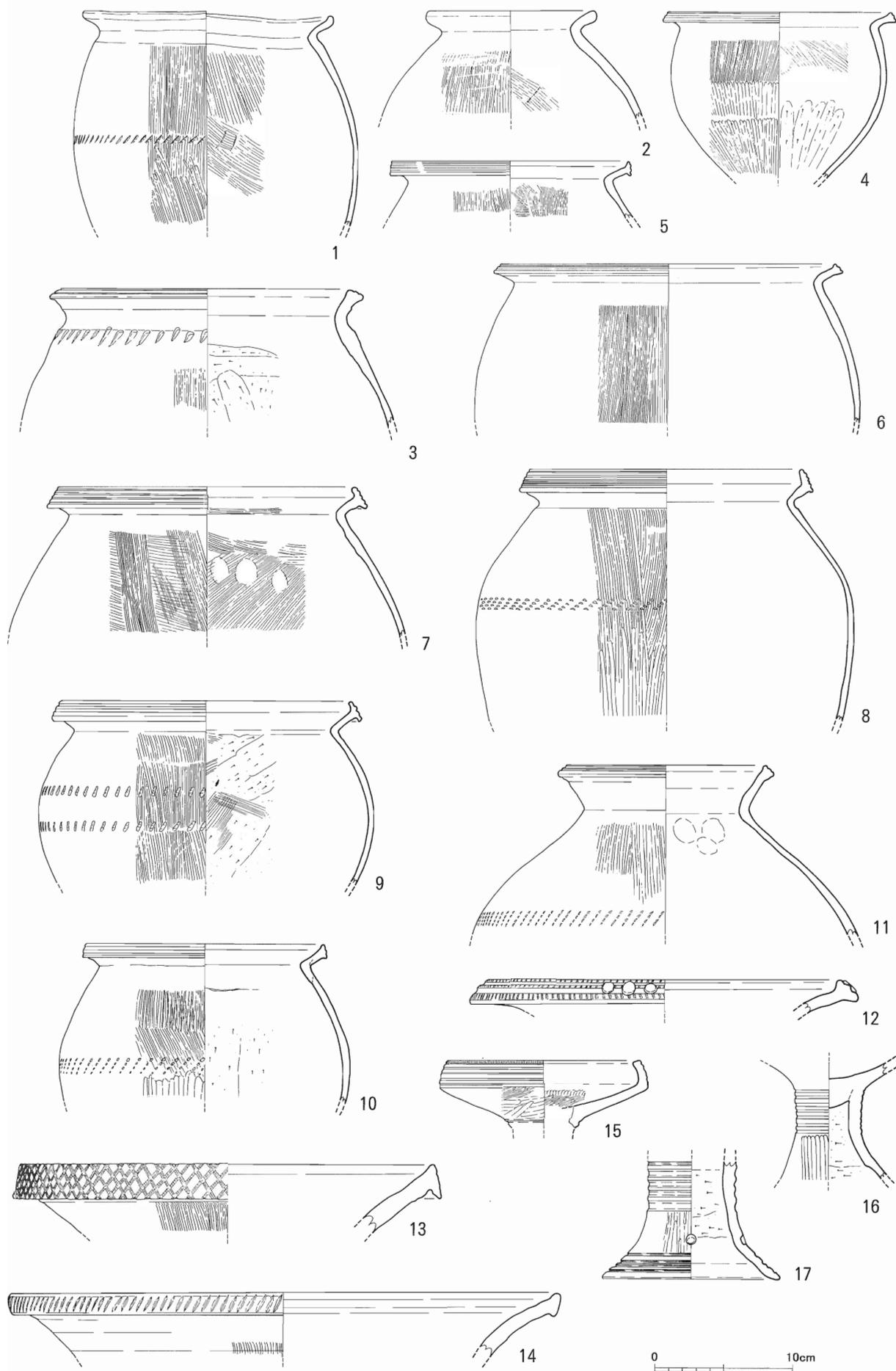
(5) トレンチ他出土遺物

各壁沿いのトレンチ他で出土し、出土層位を明確にできなかったものである。

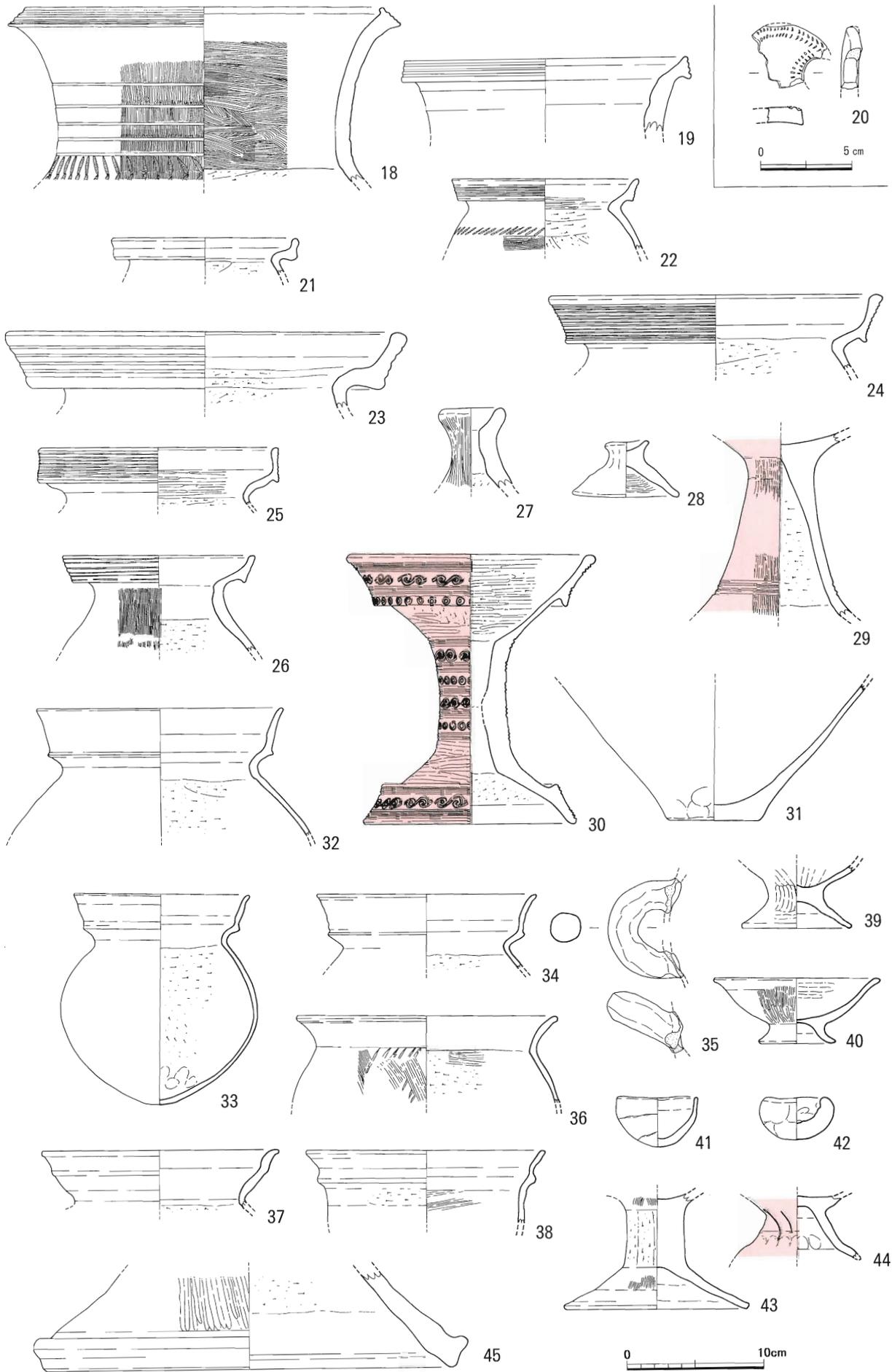
弥生土器 第27図1・2・4～7・14～16は甕である。1・2は口縁が肥厚するもので、1の外



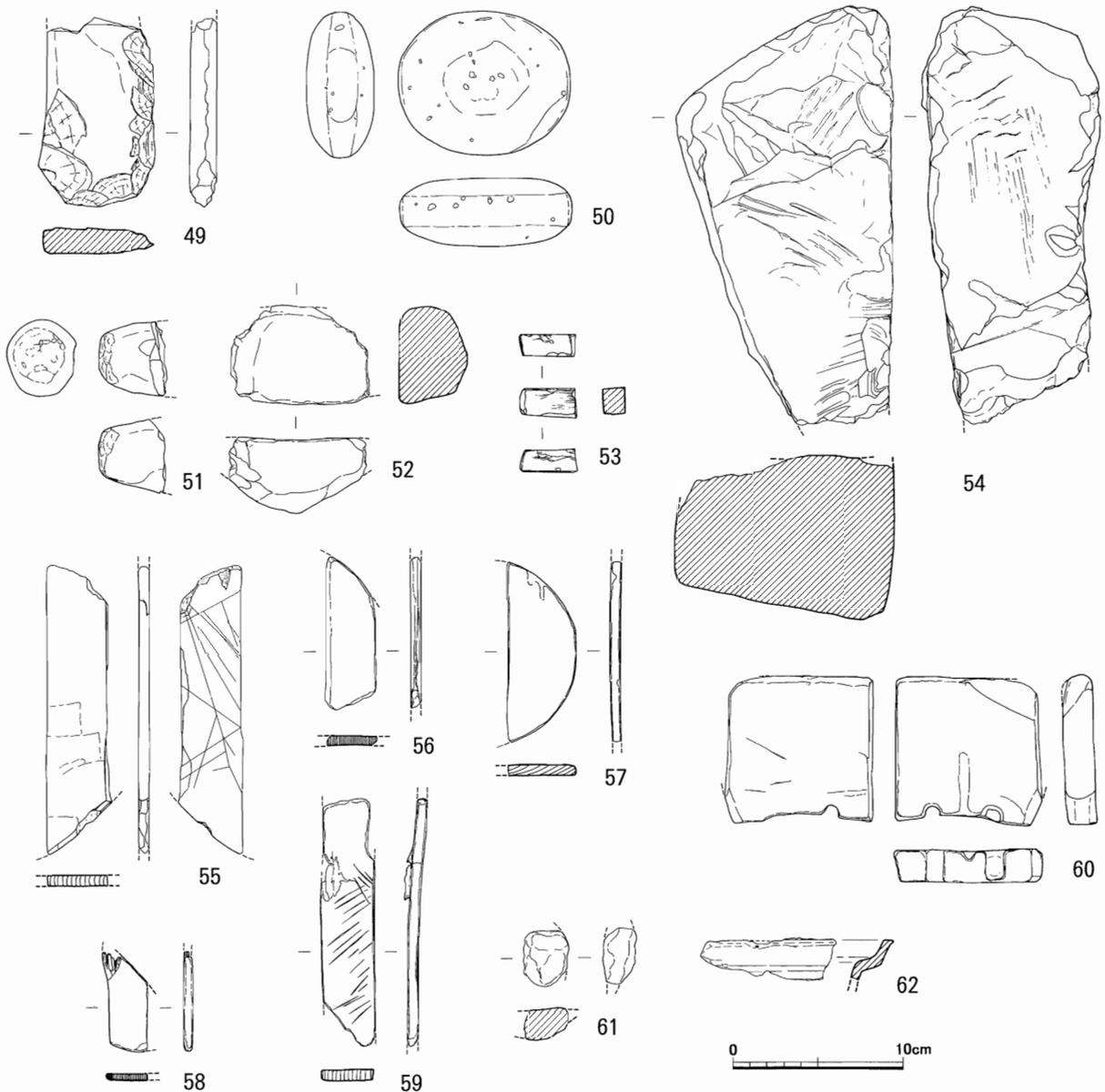
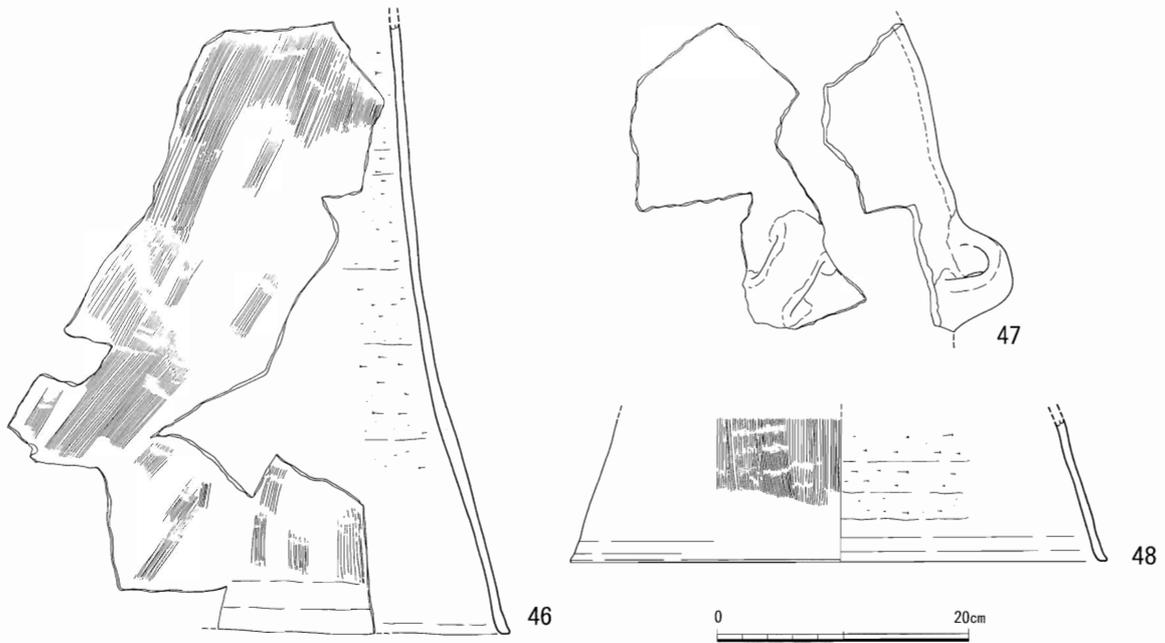
第23図 連続渦文模式図



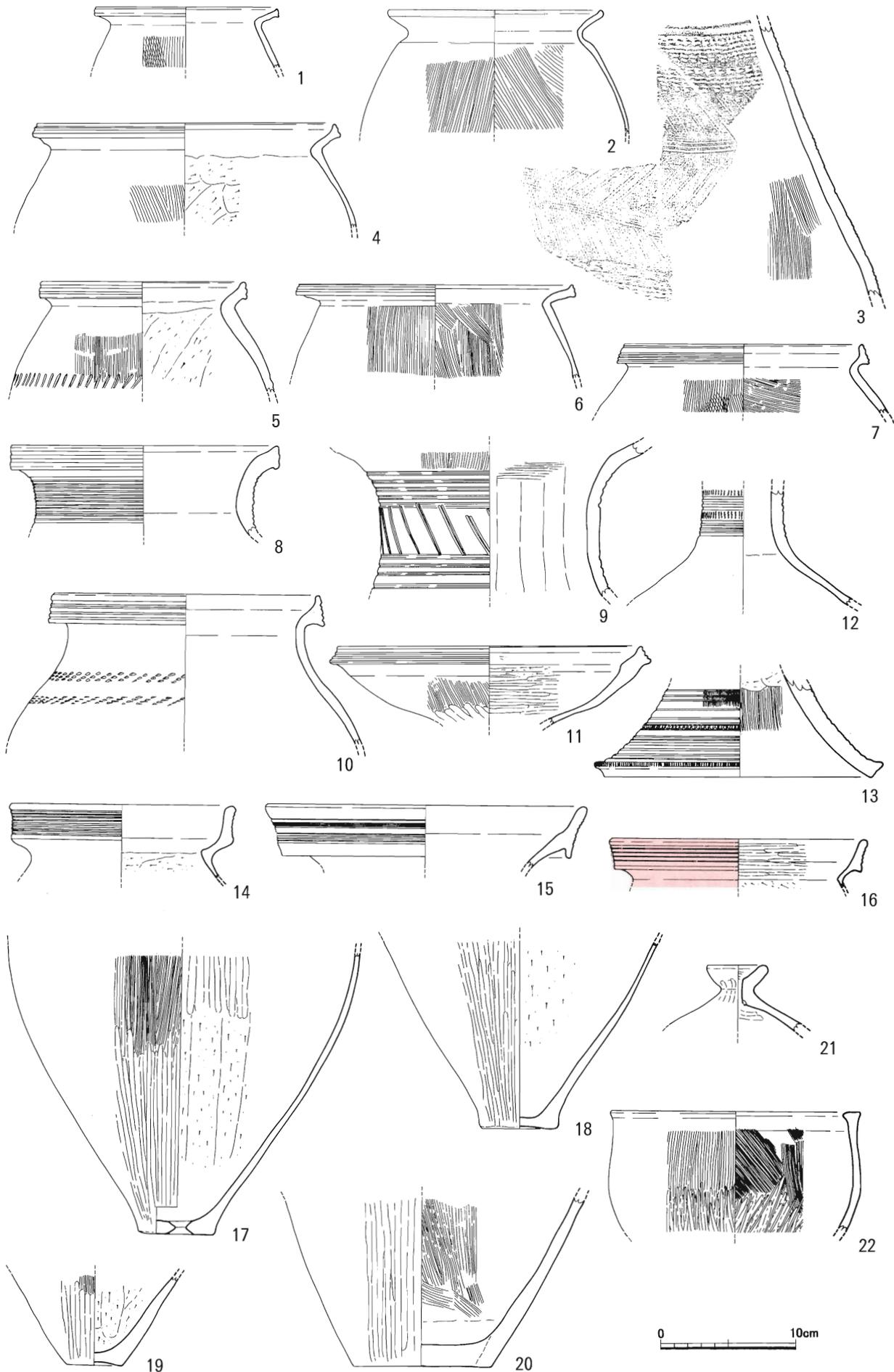
第24図 中野清水遺跡 3区14層出土遺物実測図1 (1:4)



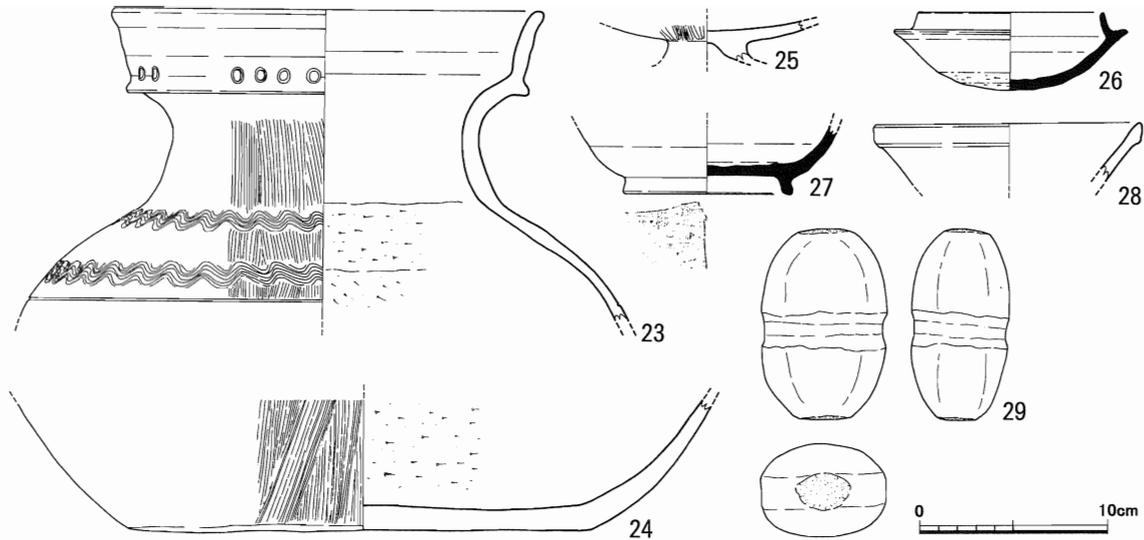
第25图 中野清水遺跡 3区14層出土遺物実測図 2 (1:3, 1:4)



第26図 中野清水遺跡 3区13層・14層出土遺物実測図 (1:6, 1:4)



第27図 中野清水遺跡 3区トレンチ他出土遺物実測図1 (1:4)



第28図 中野清水遺跡3区トレンチ他出土遺物実測図2 (1:4)

面はハケメ、2の内外面もハケメである。4～7は口縁に凹線文をもち、4・5の内面調整はケズリ、5・6はハケメである。14～16は複合口縁に擬凹線をもつものである。

3・8～10は壺である。3は肩部で、上から刺突文・綾杉文・刺突文の順に施文され、内面はハケメ調整である。8・10は口縁に凹線が入り、8は頸部に凹線、10は肩部に斜行刺突文がある。9は頸部片で、凹線文の間に2条1単位の斜行文が施される。

17～20は壺または甕の底部である。17は底部が焼成後両側から穿孔されており、外面はハケメのちミガキ、内面はケズリののち上半にミガキがある。18～20は外面がミガキで、内面は18・19がケズリ、20はハケメである。

11～13は高坏である。11は口縁部に凹線、12・13は筒部または脚部に凹線をもつもので、12は貝殻腹縁による刺突文、13はキザミが加わる。11の外面はハケメのちミガキ、内面はケズリのちミガキで、13の内面はハケメとケズリが僅かに見られる。

21は蓋で中央に孔がある。22は鉢で口縁が肥厚し、調整は内外面ともハケメのちミガキである。

その他 23は土師器壺、24は底部、25は低脚坏である。23は複合口縁に4個1単位または2個1単位の竹管文があり、肩部には波状文が2段に付く。26は須恵器坏身、27は高台付き坏身で静止糸切り痕がある。28は白磁碗で口縁端部が玉縁状となる。29は有溝石錘で端部に敲打痕が残る。

時期は、1～3が弥生時代中期中葉・4～7が中期後葉から後期前葉・14～16が後期中葉、23～25が古墳時代前期・26が後期、27が奈良時代、28は平安時代である。

註

- (1) 島根県教育委員会『中野美保遺跡 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4』島根県教育委員会 2004
- (2) 渡辺正巳「中野清水遺跡3～7区発掘調査に係る花粉・プラントオパール分析」『中野清水遺跡(2) 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6』島根県教育委員会 2005
- (3) 町田章・佐原眞「和歌山市有本出土銅鐸」『和歌山県文化財学術調査報告書』第3冊 和歌山県教育委員会 1968
- (4) 大澤正己・鈴木瑞穂「中野清水遺跡出土鍛冶・銅関連遺物の金属学的調査」『中野清水遺跡(2) 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6』島根県教育委員会 2005

第5節 4区の調査

(1) 調査区の層序

調査区西壁の層序(第29図下)は、上層より盛土(1層)・茶褐色土(2層)ー灰褐色土(3層)ー暗灰褐色土(4層)ー灰白色粗砂(5層)・明灰色粗砂(6層)ー暗褐色砂質土(7層)ー暗黒褐色粘質土(13層)よりなる。また、調査区に設けたグリッドの土層(第34図)によれば13層の下にオリーブ灰色砂質土(14層)ー暗オリーブ灰色シルト(16層)がある。このうち、遺構面は7層上面・13層上面・16層上面の3面で、13層・14層が遺物包含層となっている。

(2) 7層上面

水田跡(第29図上左) 7層上面は水田面で、洪水砂と見られる灰白色粗砂(5層)・明灰色粗砂(6層)に厚いところで20cm程度覆われており、畦畔3条と耕作の際に残された人や牛馬の足跡も見られた(写真図版15)。畦畔は14m程の間隔を置いて南北方向に2本、調査区北西部で東西方向に1本確認されている。南北方向の畦畔は、東側に比べ西側の水田面が10cm程度低くなっており、西辺のみ残るため大きさは不明である。東西方向の畦畔は幅50~70cm・高さは5cm程度で、北側の水田面が南側に比べやや低いようである。また、水田面は方形または不整形な大小の土採り穴による攪乱を受けている。

なお、2003年度IV区ではこれに続く畦畔は検出されていない。

(3) 13層上面

13層上面では調査区の中央部で1~3号溝と、東側で1号土坑が確認されている(第29図上右)。

1~3号溝(第30図上) 1・2号溝は東西方向に平行して検出された溝である。不整形であるため幅は0.5~1.5mと一定せず、深さは10cm以下と浅い。東隣の5区でもこれに続くように同様な溝が確認されており、轍状に見えることから攪乱とも考えたが、南北方向に伸びる3号溝との切り合いが認められたことから、溝状遺構とした。遺物は1号溝で須恵器甕片(第31図4)、2号溝で須恵器の高台付き坏身(第31図3)が出土している。

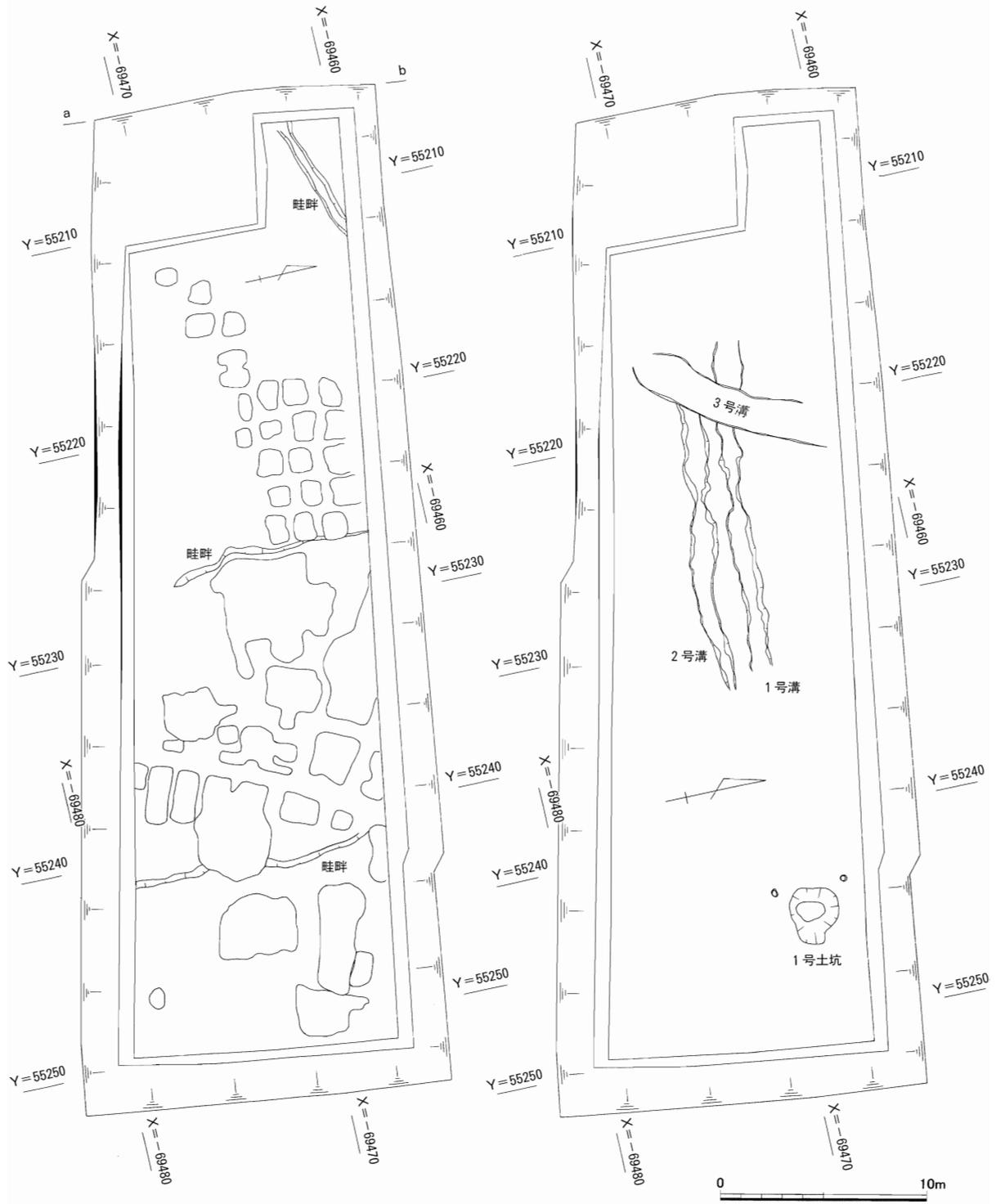
3号溝は幅1.7~2.0mと広いが、やはり深さ10cm程度と浅い。1・2号溝との切り合い関係から、3号溝が後続するものと見られ、南側で須恵器坏蓋(第31図1)が出土している。

1号土坑(第30図下) 調査区北東側で検出された不整形な土坑で、大きさは長さ2.7m・幅2.5m・深さ0.7mである。中央は土採り穴の埋土である黄灰色土(砂を塊状に含む:1層)により攪乱されており、その下に1号土坑の埋土である灰褐色粘質土(2層)・黒褐色粘質土(3層)が残る。底面付近では土師器壺・甕・甑・高坏・低脚坏・土錘(第31図5~11)が出土しているが、後述するように下層の14層は同様な遺物を多量に含む包含層であるため、これらは包含層の遺物が攪乱されたものとも考えられる。

(4) 14層・16層上面

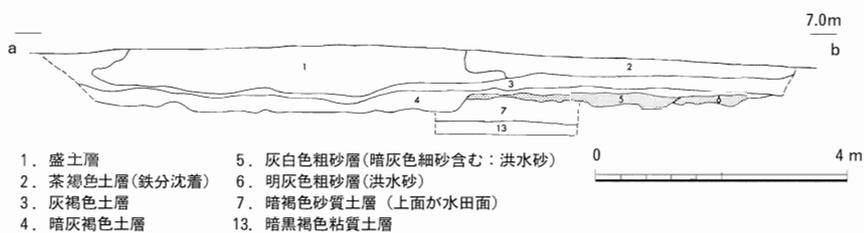
16層上面では調査区東半部を中心に土坑6基とピットが検出されている。土坑の中には2号土坑のように被熱し底面で粉炭が検出されたものや、5・6号土坑のように埋土に炭を多く含んだものもあり、付近で出土した鉄器未製品との関わりも考えられる。

14層はこの遺構面の遺物包含層となるが(第34図)、弥生時代後期末から古墳時代前期の土器が調査区の南から東側にかけて多量に出土した(第35図)。14層の遺物検出面は等高線に表れているように南側が高く北側が低い傾斜をもち、遺物は調査区一面に広った状態で出土している。これら



〈7層上面の遺構〉

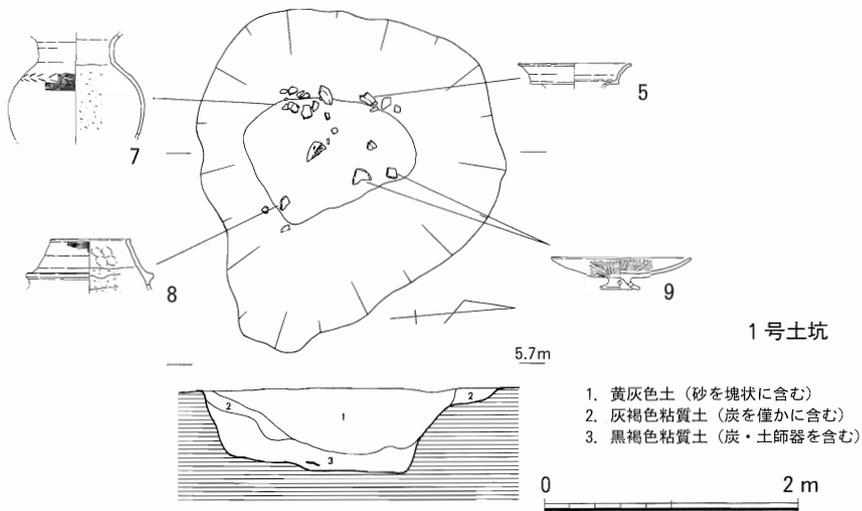
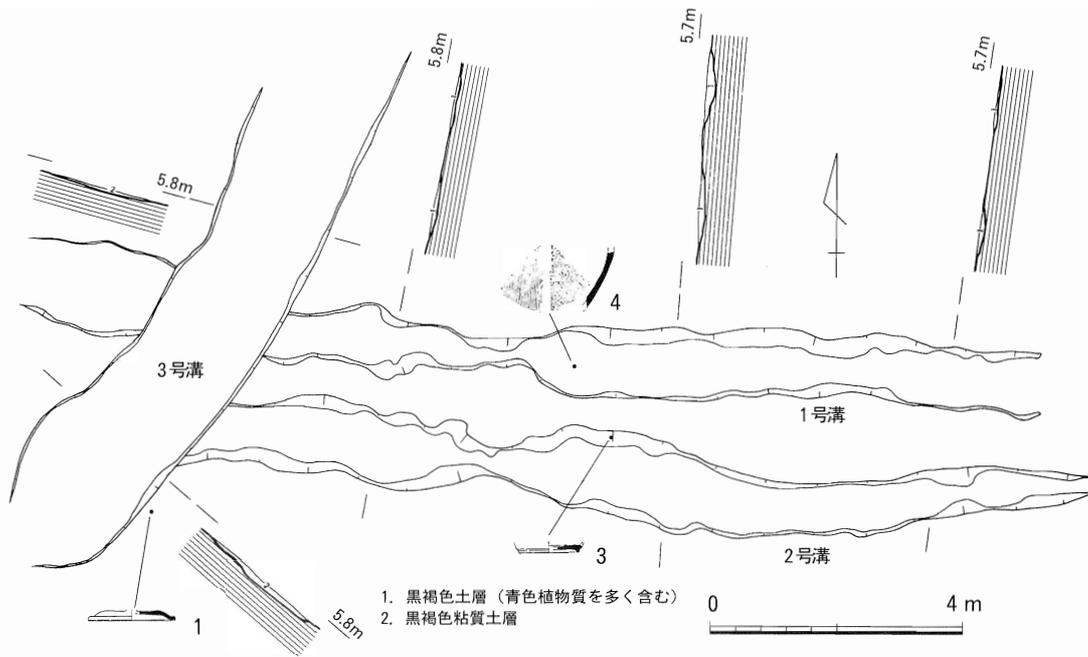
〈13層上面の遺構〉



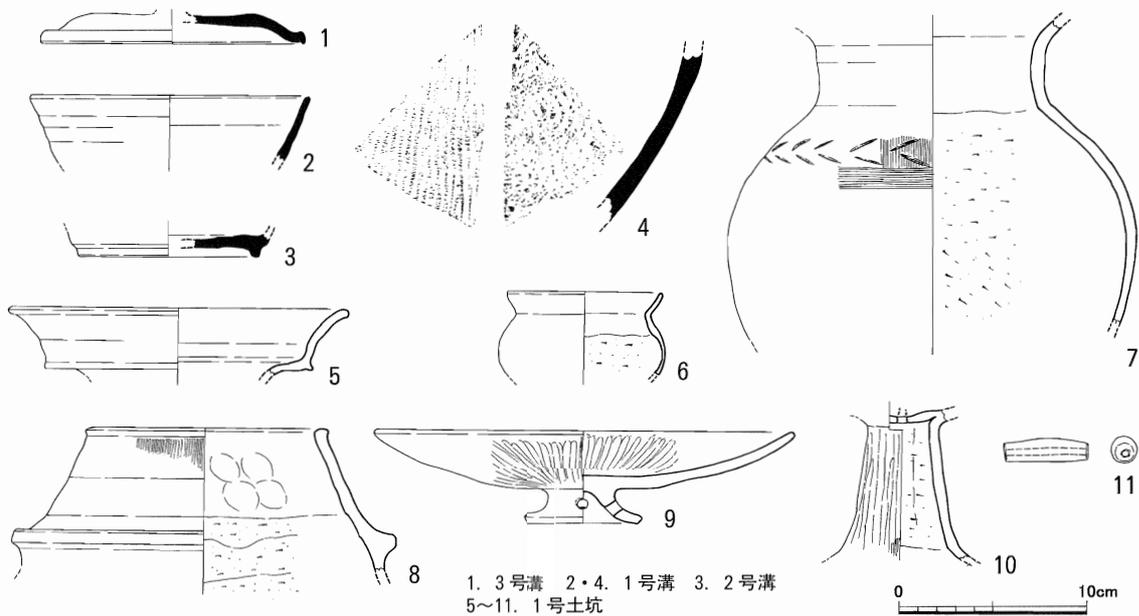
- | | |
|----------------|------------------------|
| 1. 盛土層 | 5. 灰白色粗砂層(暗灰色細砂含む:洪水砂) |
| 2. 茶褐色土層(鉄分沈着) | 6. 明灰色粗砂層(洪水砂) |
| 3. 灰褐色土層 | 7. 暗褐色砂質土層(上面が水田面) |
| 4. 暗灰褐色土層 | 13. 暗黒褐色粘質土層 |

〈調査区西壁土層〉

第29図 中野清水遺跡4区遺構及び西壁土層実測図



第30図 中野清水遺跡 4区13層上面遺構実測図



第31図 中野清水遺跡 4区13層上面遺構出土遺物実測図 (1:4)

の遺物は例えば住居跡内に置かれた遺物のようなまとまりをもたないことから、一定の範囲を決めて土器が集積または廃棄された土器溜まりと考えられる。出土遺物は弥生時代後期末から古墳時代前期の土器を主体とし、多くは破片の状態で検出されているが、小形仿製鏡や手捏土器、土玉など祭祀的な遺物を含んでいるのが特徴である。

2号土坑（第32図上左） 調査区東半部南側で検出された不整形な土坑である。一部を失うが大きさは長さ73cm・幅78cm・深さ7cmで、土坑の上端が弱く被熱する。埋土は灰色粘質土（1層）で、底面では粉炭（2層）が検出されている。

3号土坑（第32図上中） 調査区東半部、2号土坑の東北5mで検出された不整形な土坑である。長さ105cm・幅55cm・深さは3cmほどと浅く、埋土は灰白色・黄褐色粘土（1層）に灰褐色粘質土（2層）が塊状に入る。出土遺物には土師器甕（第33図1・2）がある。

4号土坑（第32図上右） 調査区東半部、2号土坑の東4m、3号土坑の南西2mで検出された円形の土坑である。径60cm・深さ6cmほどのもので、埋土には灰白色粘土（1層）と黒褐色粘質土（2層）があり、土師器の小片を含んでいた。

5号土坑（第32図下左） 調査区の北東部に位置する不整形な土坑である。大きさは長さ70cm・幅45cm・深さは7cmで、炭を多く含む灰色粘質土（1層）が埋土となっていた。出土遺物には土師器甕（第33図3）・鼓形器台（4）・土製品（5）があり、このうち5は両側辺に切断痕を残すものであるが、用途は不明である。

6号土坑（第32図下中） 調査区東半部、3号土坑の北東3m、5号土坑の西5mで検出された不整形な土坑である。長さ60cm・幅55cm・深さ5cmほどのもので、埋土には炭を多く含む灰色粘質土（1層）があり、土師器小片が出土している。

7号土坑（第32図下右） 調査区中央部、2号土坑の北西7mで検出された土坑である。一部を失い不明な部分があるが、長さ65cm・深さ10cmほどのものである。

(5) 13層・14層出土遺物

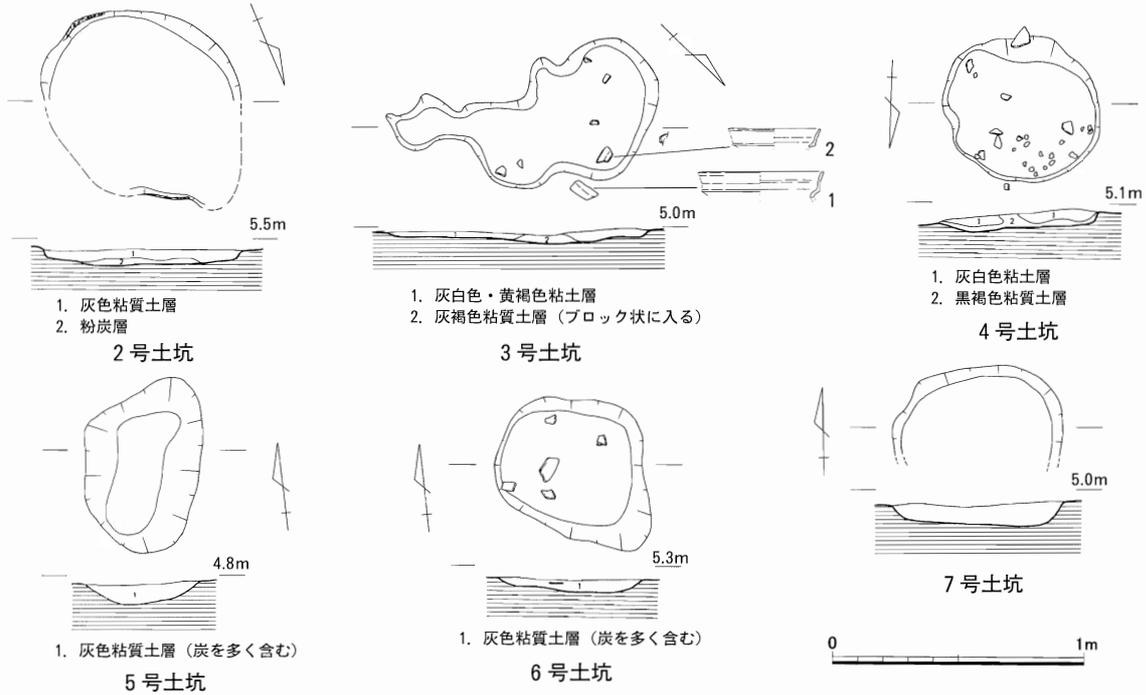
13層・14層には弥生土器（第41図・第42図31～35）、弥生～土師器（第42図36～45・第43図～第60図388・第61図456～461・465）、手捏・土製品（第60図389～410・第61図411～445・466）、須恵器（第61図446～455）、焼塩壺（第61図462～464）、砥石（第62図467～476）、鉄製品（第62図477～482・484～487）、銅鏡（第62図483）、木製品（第62図488～490）がある。

弥生土器 第41図1～13は甕である。口縁の立ち上がりが低く端部に凹線文が入るもの（1～8）と、複合口縁となり擬凹線が入るもの（9～13）がある。1・2・3・8・10は胴部または頸部に斜行刺突文、9は肩部に14条1単位の乱れた波状文がある。内面調整は1・2の上半にハケメが残るが、その他はケズリである。

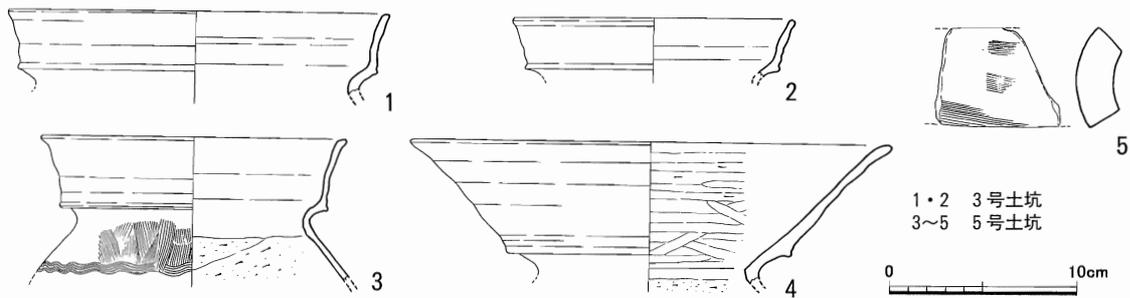
14～24は壺である。14は口縁が大きく開くもので口縁端部と内面上面に凹線文がある。15～21は口縁が短く立ち上がり端部に凹線文をもつもので、15～18・20・21には頸部から肩部に凹線文・綾杉文・波状文・斜行刺突文・竹管文などの文様が施される。22・23は頸部から肩部片で、凹線文・斜行刺突文・斜格子文がある。24は複合口縁となり口縁・頸部に擬凹線、肩部に波状文がある。25・26は壺・甕の底部で、焼成後に穿孔されている。27・28は蓋である。27の頂部は穿孔されており、28は中空で頂部が複合口縁状になる。29～31は高坏である。29・30は坏部で短く立ち上がる口縁に凹線文が入り、内外面に赤色顔料が塗布されており、31は脚部外面に凹線文と刺突文が入る。32～

34は鼓形器台で、33は筒部が長いのに対し32・34は短く、ともに器受部と脚台部外面に擬凹線が施される。35は脚付壺である。

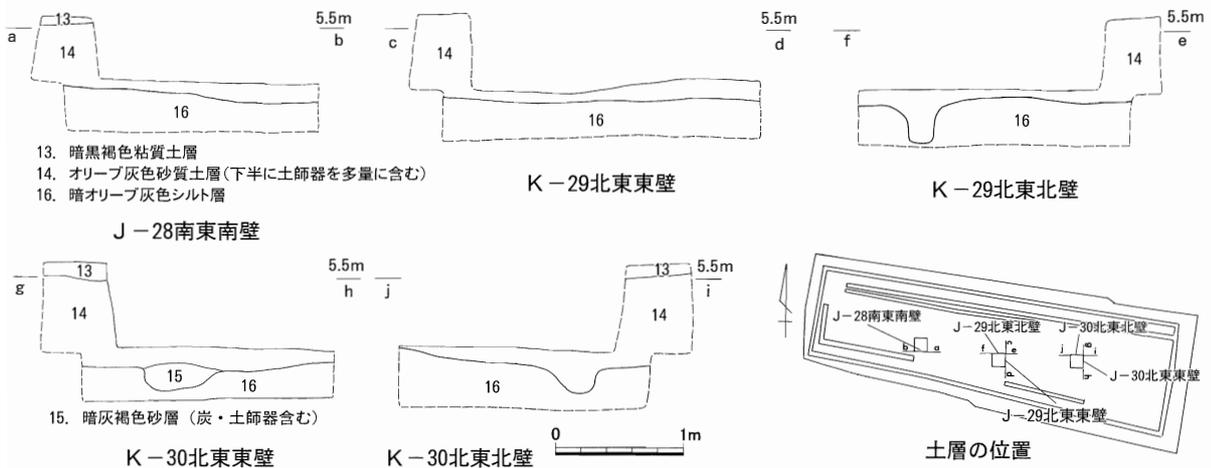
時期は1～8と14～21が弥生時代中期後葉～後期前葉、9～13と24・29・30～34が後期前葉～中葉頃のものと考えられる。



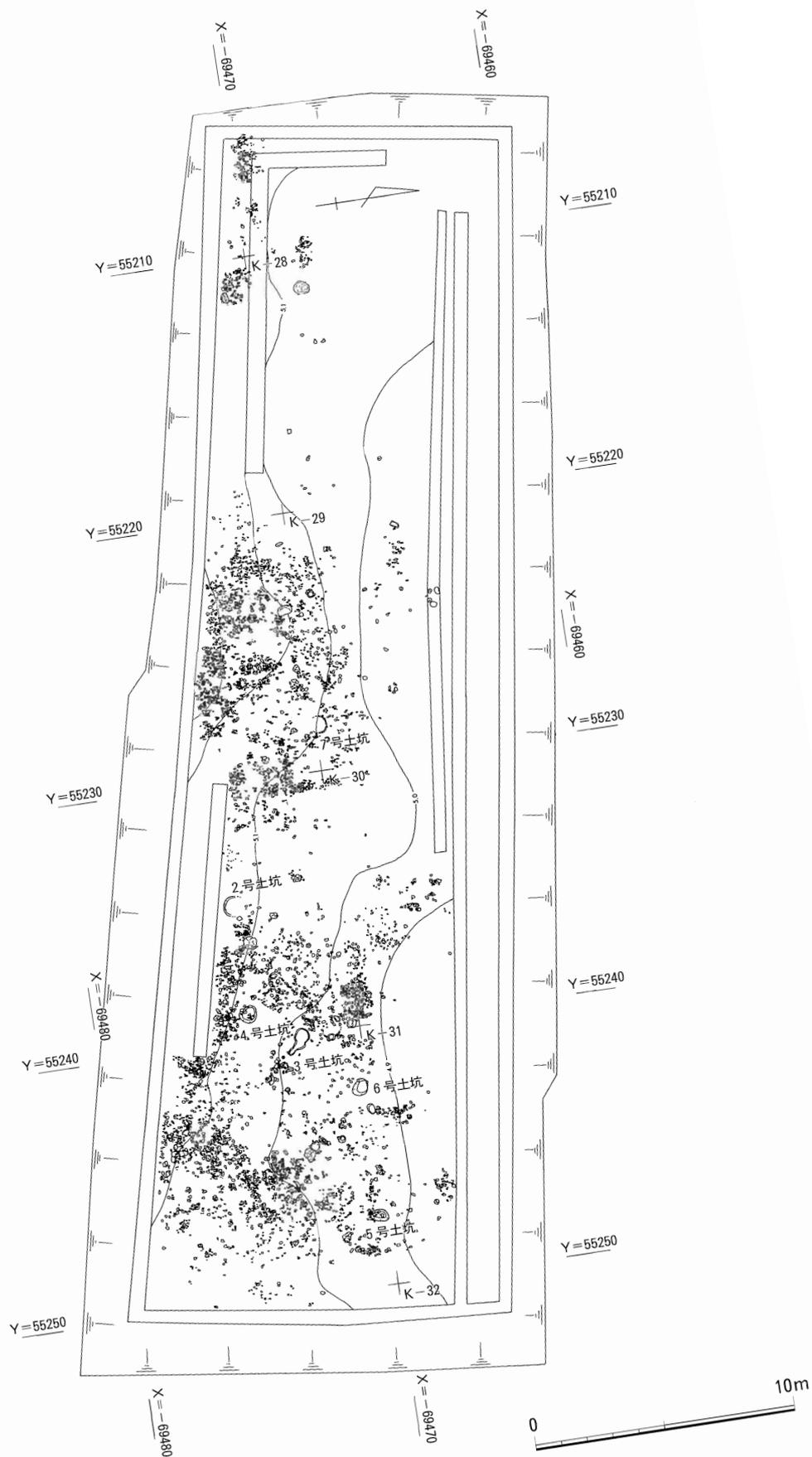
第32図 中野清水遺跡4区16層上面遺構実測図



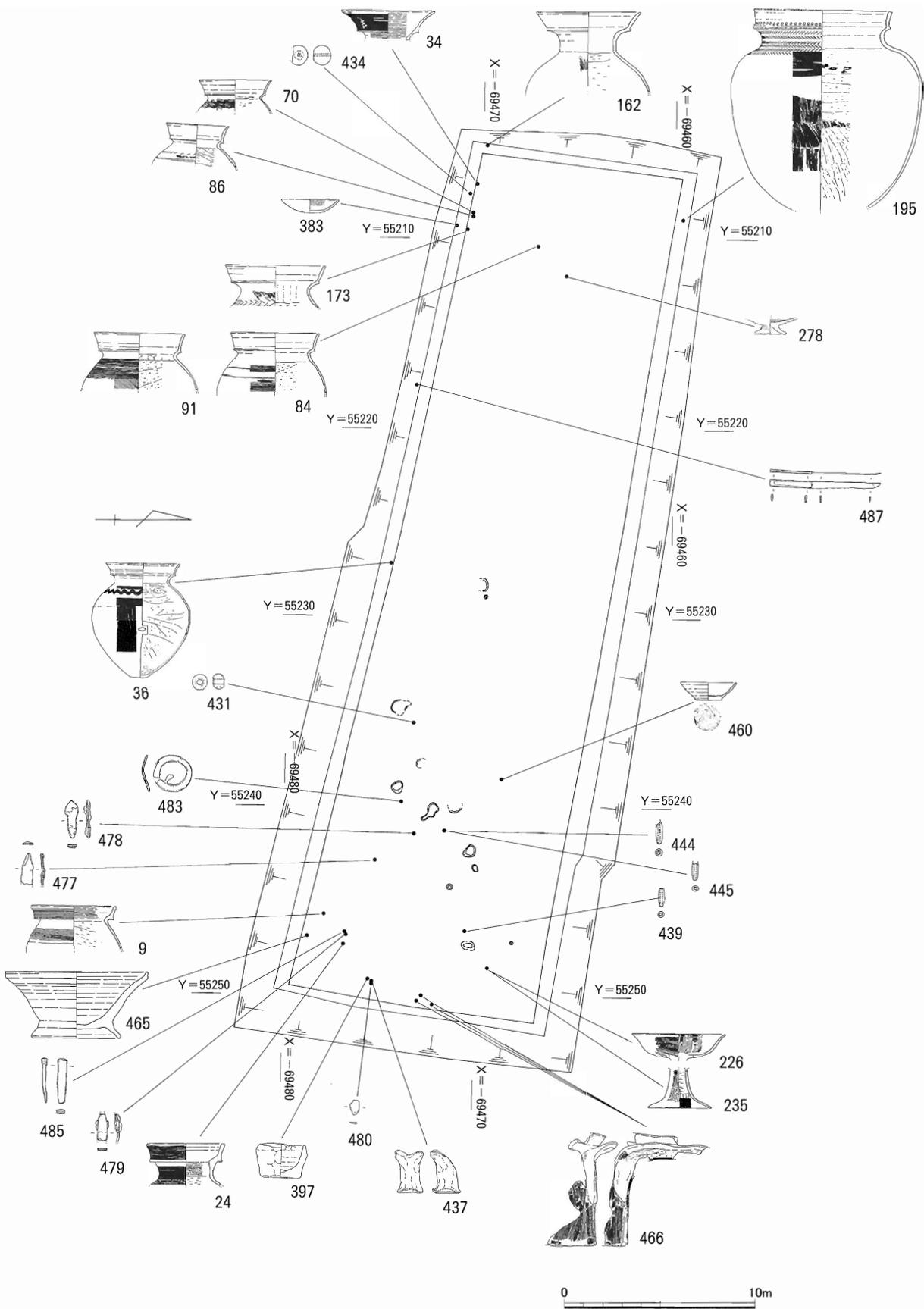
第33図 中野清水遺跡4区16層上面遺構出土遺物実測図（1：4）



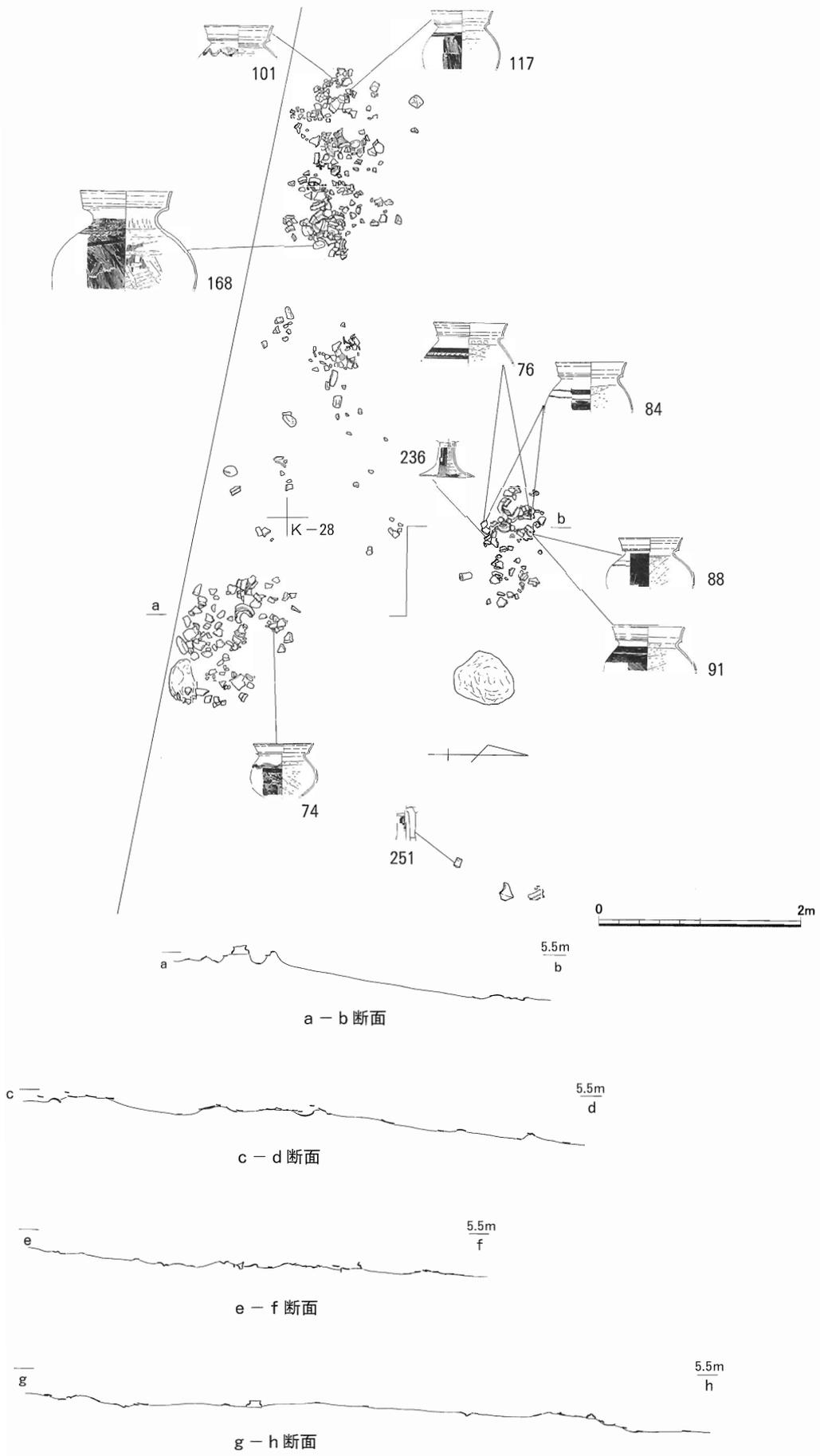
第34図 中野清水遺跡4区下層土層実測図



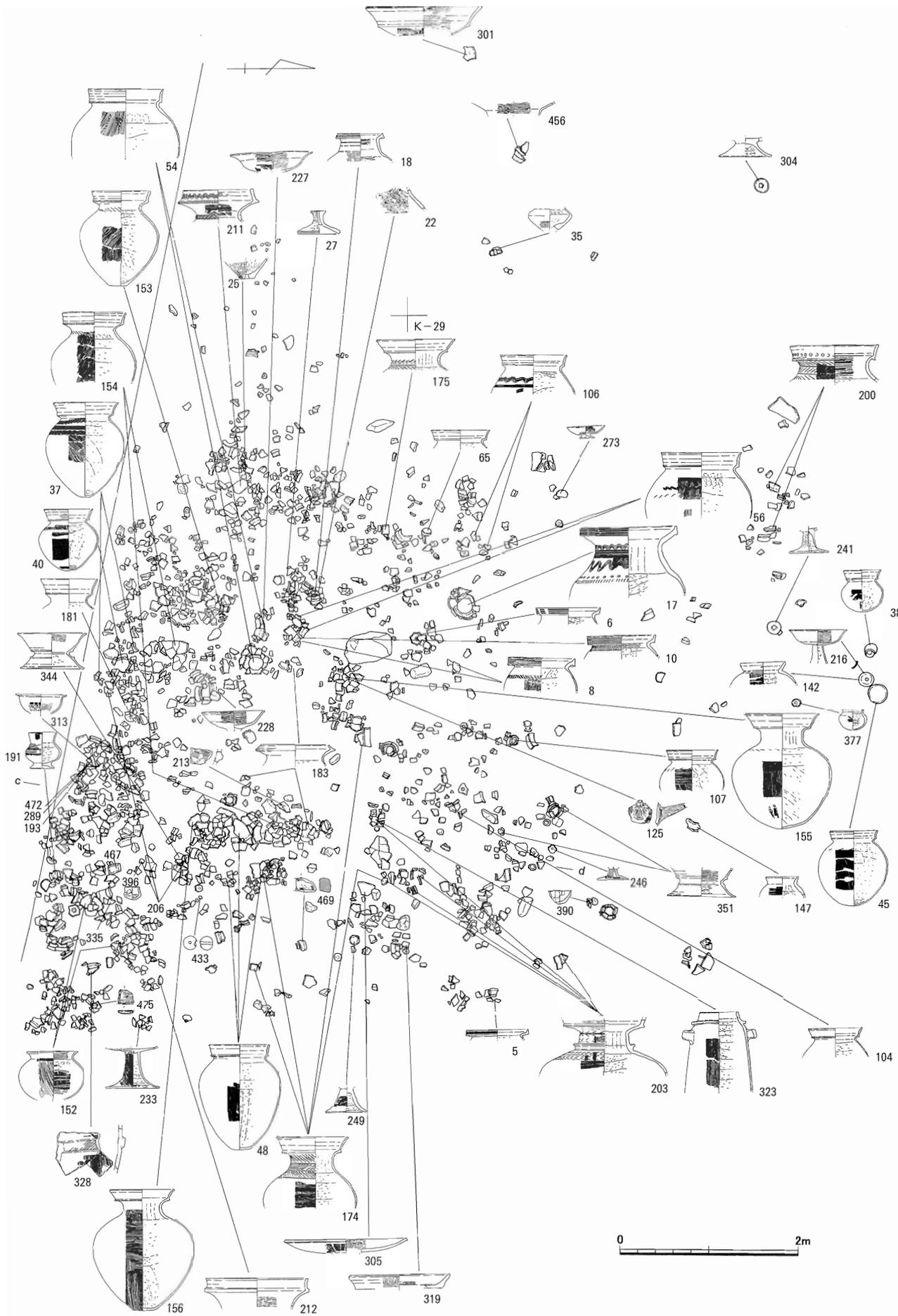
第35图 中野清水遺跡 4区14層遺物出土状況実測图 1



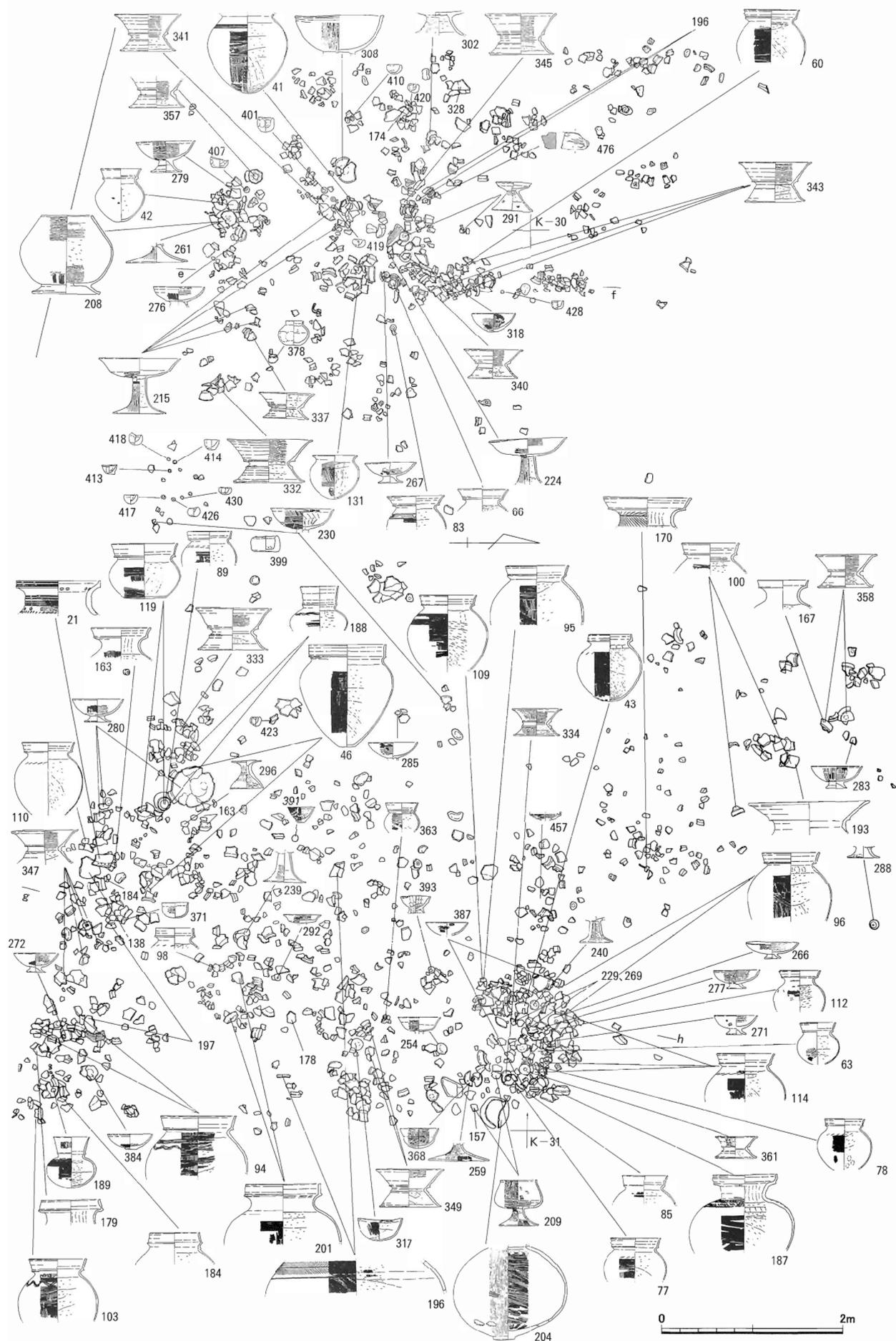
第36図 中野清水遺跡 4区14層遺物出土状況実測図 2



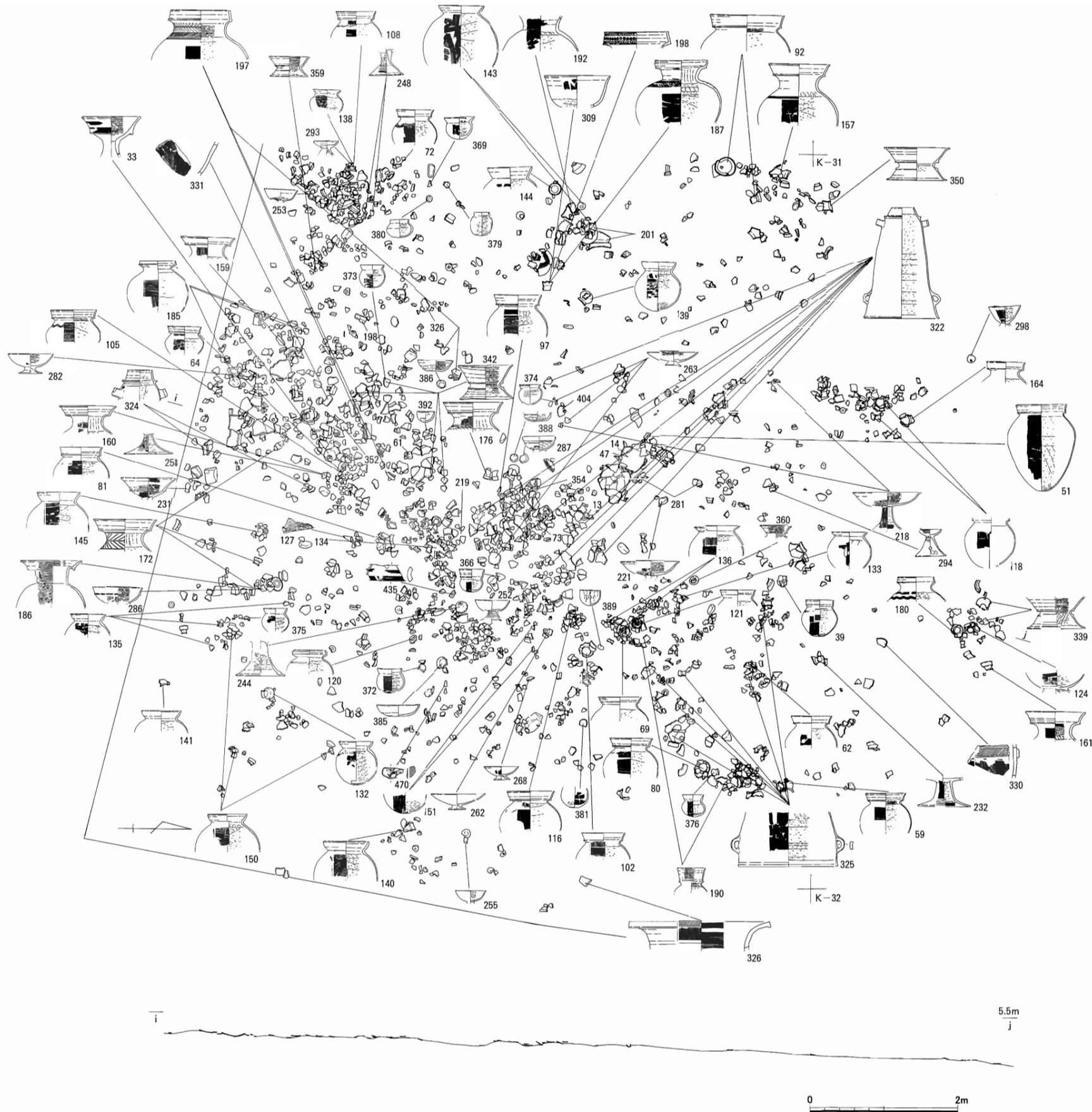
第37図 中野清水遺跡 4区14層遺物出土状況実測図 3



第38図 中野清水遺跡 4区14層遺物出土状況実測図 4



第39图 中野清水遺跡 4区14層遺物出土状況実測図 5



第40図 中野清水遺跡 4区14層遺物出土状況実測図6

弥生～土師器 第42図36～45、第43図～第47図119は複合口縁をもつ甕である。底部が残るものは小さな平底状になるもの（36・37・39・40・42・46・48・51）と完全な平底となるもの（119）、そして丸底となるもの（38・41・43～45）があり、119を除けば底部内面に指頭圧痕を残すものが多い。口縁は端部が外反するもの（36・37・40、第44図、第45図）、直立気味で端部に面をもつもの（第43図、第46図、第47図109～114、116・117）、内傾し面をもつもの（43・98）がある。文様は外面肩部に擬凹線文・斜行刺突文・綾杉文・羽状文などが施されたものがあるが、文様は全周せず1/4～1/2程度と部分的に施文されるものも認められた（44・52・56・77・78・85・89・109・110・112など）。口縁に施文されるものはほとんどないが、49には擬凹線、90には波状文がある。外面調整は縦方向のハケメののち、肩から胴部にかけて横方向のハケメ、内面調整は胴部下半が縦方向のケズリ、上半に横方向のケズリが入るものが多い。

125～130は甕に付けられる注口部と把手である。125・126は胴部に貝殻腹縁による羽状文と沈線が認められ、126は胴部に孔をあけ注口部を挿入して接合したことが分かる。128は断面方形の把手で上面にのみ綾杉文が施されており、やはり胴部に孔をあけ把手を挿入して接合している。129・130はハケメ調整が残り精製品ではないが、胎土や焼成から見て同一個体の可能性がある。

第48図131～150は「く」字形に屈曲した単純な口縁をもつものである。131・133・134・138は比較的薄手でのもので、131は外面にタタキ、134・138は肩部に斜行刺突文が入っており、133は焼成後肩部に外面から穿孔がある。132・135・137～150は器壁がやや厚く内湾した口縁をもつ。底部が分かる132・139は完全な丸底で、139の内面は指頭圧痕が顕著である。132・137・140の肩部には斜行刺突文があるが、施文範囲は部分的である。口縁端部は137と141の内面がやや肥厚する。

151は底部片であるが、丸底で内面に指頭圧痕が顕著に見られる。底面には焼成後に内面から小孔が3つ丁寧にあけられており、外面は被熱して表面が剥離している。

152は短頸壺で、口縁は短く外反し端部が肥厚している。調整は外面がハケメののちミガキ、内面も胴部はハケメののちミガキ、口縁はミガキである。焼成は良好で、暗灰色～灰白色の甘い瓦質焼成である。調整は在地土器と変わらない手法をとるが、器形や焼成の特徴は同時期の在地土器には見られないものであることから、陶質土器などを在地で模倣したものとも考えられる。

第49図～第51図175～178・181は外傾する複合口縁をもつ壺である。底部の残るものは小さい平底を残しており、丸底のものは見られない。口縁端部は外反しやや肥厚するもの（155～160・170～174など）と、直立して面をなすもの（165・168・169など）がある。頸部は無文のものもあるが、綾杉文や斜行刺突文で飾るものも多く、肩部には波状文をもつものもある。また、165・166・171では頸部や口縁部に竹管を用いた文様が見られる。外面調整は頸部から縦方向にハケメを入れた後、肩部に横方向のハケメ、内面は胴部下半は縦方向、上半には横方向のケズリで、頸部内面には縦方向にナデが残るものが多い。

第51図179・180・182～185は内傾する複合口縁をもつ壺である。口縁が外傾するものに比べ個体差が大きく、口縁の内傾度や長さに違いがある。186・187・193・194も同様に複合口縁をもつ壺であるが、やや厚手で個体差がある。186は大きく外反する口縁をもち、外面と口縁内面にミガキがある。187は屈曲しながら直立する口縁で、肩部に太い羽状文が入る。193は外反する口縁の内面に稜をもち、194は口縁外面の稜が突出し大形壺に近い形態をとる。

188～190は長い複合口縁をもつ直口壺である。底部の分かる189は丸底となり、内面に指頭圧痕

が残る。肩部には188には波状文、189が擬凹線文が施される。

191は台付直口壺である。「く」字形に屈曲した口縁部と底部に低い台をもち、肩部には沈線と斜行刺突文が施される。

第52図～第53図201は複合口縁の大形壺である。195は口径56.7cm・器高は84cmを越えるもので、197～201も口径30cm以上である。195・198・200の口縁には竹管文、199には擬凹線と斜行刺突文があり、195～199・201の頸部から肩部には羽状文や綾杉文が施される。

203は頸部に突帯が付く複合口縁細頸壺で、頸部に羽状文と綾杉文、肩部に羽状文が施される。

204は胴部下半が膨らむ壺の胴部で、底部が円盤状を呈する。調整は外面がミガキ、内面はハケメで下半に焼成後外面から穿孔された孔が3つある。205はこれに類する底部である。

206～208は大形の無頸壺である。206は口縁部がややくびれ、208には低脚が付くもので、外面調整はハケメののちミガキ調整を主体とし、内面はケズリののちミガキが見られる。209は小形の無頸壺で、脚部は高坏と同様に中心に刺突痕のある円板が充填されており、円形の透孔がある。外面調整はハケメののちミガキで、内面はハケメが残る。

210は口縁端部に円形浮文を付け、竹管文を施したものである。

211～213は壺で、形態や胎土より他地域からの搬入品と考えられる。211は内傾する口縁に波状文とキザミを入れ、頸部に斜格子文のある突帯が付くもので、西部瀬戸内系である。212は直立する複合口縁で、外面に幅のある稜をもち、213は突帯のある体部小片で突帯には刺突痕があり、外面には僅かに赤色顔料が残る。ともに北九州系のものと見られる。

214は体部の小片であるが、ヘラ描きで三角形の文様がある。

第54図・第55図244～251は高坏である。坏部は口縁が長く屈曲するもの（215～229）と口縁外面に稜をもつもの（230・231）があり、脚部は薄いもの（232～240・245・246）と厚く内面に粘土が詰められたもの（241～244・247～250）がある。外面や口縁内面はミガキ、脚部内面はケズリが入るものが多いが、坏部に稜がつくものや厚手の脚部はミガキが省略されている。

252～261は小形高坏で、椀状の坏部と大きく広がった脚部をもつ。坏部の底面は高坏と同様に刺突痕のある円板が充填されており、脚部には円形透孔をもつものもある。

262～290・297・298は低脚坏である。坏部が皿状に広がるもの（262～265）、器高が高いもの（279・281・282）、坏部外面に稜をもつもの（286・287）、坏部が深いもの（297・298）など多様である。

291～296は小形器台または高坏である。291・292は受部外面に稜をもち、296は中空となる。

299～307は高坏形の土器である。坏部は稜をもち深いもの（299～301）、浅いもの（305・306）があり、脚部は302のように刺突痕のある円盤が充填されたものもある。

308～316は鉢、319は盤である。308は底部に脚が付くもので、315は粗製で底部が焼成前に穿孔されている。311～314は口縁が外反する鉢で、311・312には片口が付くことが分かる。311・312・313は内面に赤色顔料が付着してたことから蛍光X線分析を行ったところ水銀朱であることが判明しており、外面には煤が付着していた。水銀朱の加工・使用に関わる土器と見られる。

320・321は平底、円筒状で口縁が外反するものである。320の内面には漆が付着していることから、漆の採取に使われたものと思われる。

第57図322～325は甑形土器である。上部に横方向、下部に縦方向に環状把手が付く。

326・327と第58図は大形の壺で、形態・胎土から北部九州からの搬入品と見られる。326・327は

大きく外反し端部が肥厚する口縁で、端部にはタタキ、内外面にはハケメがある。頸部下方に強いナデがあることから突帯が付くものと見られる。328～331は胴部で、外面には4cm程の幅広い突帯が付く。突帯の上はタタキが見られ、内外面のハケメは消されることなく残っている。第58図右上はこれらの破片と類品から復原したもので、口径50cm・器高71cmの大形品が想定される。

第59図・第60図353～361は鼓形器台である。口径が20cmを超える大形のもの（335・336・345・350など）から、11～12cm程度の小形のもの（360・361）までである。334・340には脚台部に円形透孔があり、353は器受部に竹管文が見られる。外面調整は348・360・361にミガキがある他は横ナデが多いが、内面は器受部がミガキ、脚台部がケズリである。

362～381は小形丸底壺である。口縁は複合口縁となるもの（362～367）、逆「ハ」字形に大きく開くもの（368・369）、短く直立または外傾するもの（370～380）がある。形態的な斉一性はあまりなく、例えば複合口縁をもつものでは頸部がくびれる364と頸部がほとんどくびれない366のような違いがある。調整は外面はハケメ、内面はケズリのものが多いが、368のみは内外面ともハケメのち丁寧なミガキが施されている。

382～388は坏である。384は底部が厚く、388は体部がくびれるが、他は浅い椀状となる。

土製品 389～第61図411～430は手捏土器である。389～396は薄手で393や394～396のように脚を付けたり、口縁を屈曲させるものがある。397～430は厚く作りが粗雑である。

431～434は土玉、435は端部に成形痕のある土製品、438～445は土錘である。436・437は土製支脚であるが、436は頂部に凹みが見られる。466は竈で、焚き口部が残っており、被熱して赤褐色化している。462～464は焼塩壺である。

須恵器 446～449は蓋坏である。坏蓋は口縁と頂部に界線をもちヘラケズリがあり、坏身には低いかえりが付く。450は高坏で線状の透かし孔をもつ。451は輪状つまみが付く蓋で、頂部に回転糸切り痕が残る。452は口縁が僅かにくびれる無高台の坏身で、453・454は高台のある坏身で底部には回転糸切り痕がある。455は甕であるが、口縁内外面に薄く釉がかかる。

土師器 456・457は内外面に赤色顔料が塗布されるが器種は不明である。458は坏で内面に放射状の暗文があり、内外面に赤色顔料が塗られる。459～461は坏で、459の外面底部は指押さえ、内外面に赤色顔料が塗布される。465は台付鉢で底面に回転糸切り痕がある。

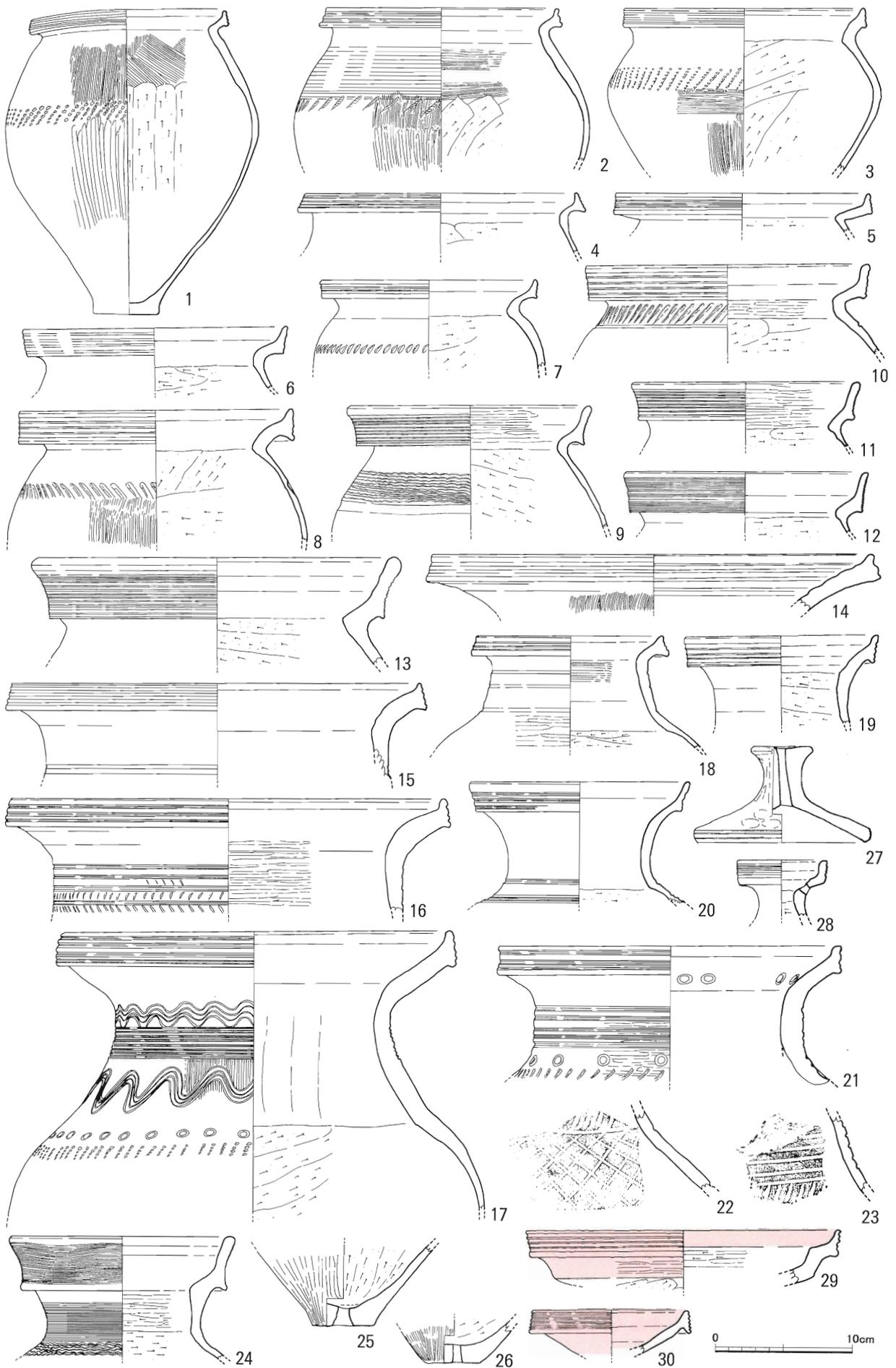
石製品 467～476は砥石である。467は幅10.3cmと大きい、その他は幅6cm以下と小さなものが多い。石材は凝灰岩を主体とするが、流紋岩・砂岩・頁岩が含まれる。

鉄製品 477は先端部に折り返しがあり、478・479は先端部が鋭角に裁ち落とされることから、鉈や鎌の未製品と見られる。480・482は不定形な鉄片、481は鑿状のものである。484は鉄鍋片、485は楔、486は鉄片である。487は刀子で、両関式の身と銅製の柄がよく残っている。

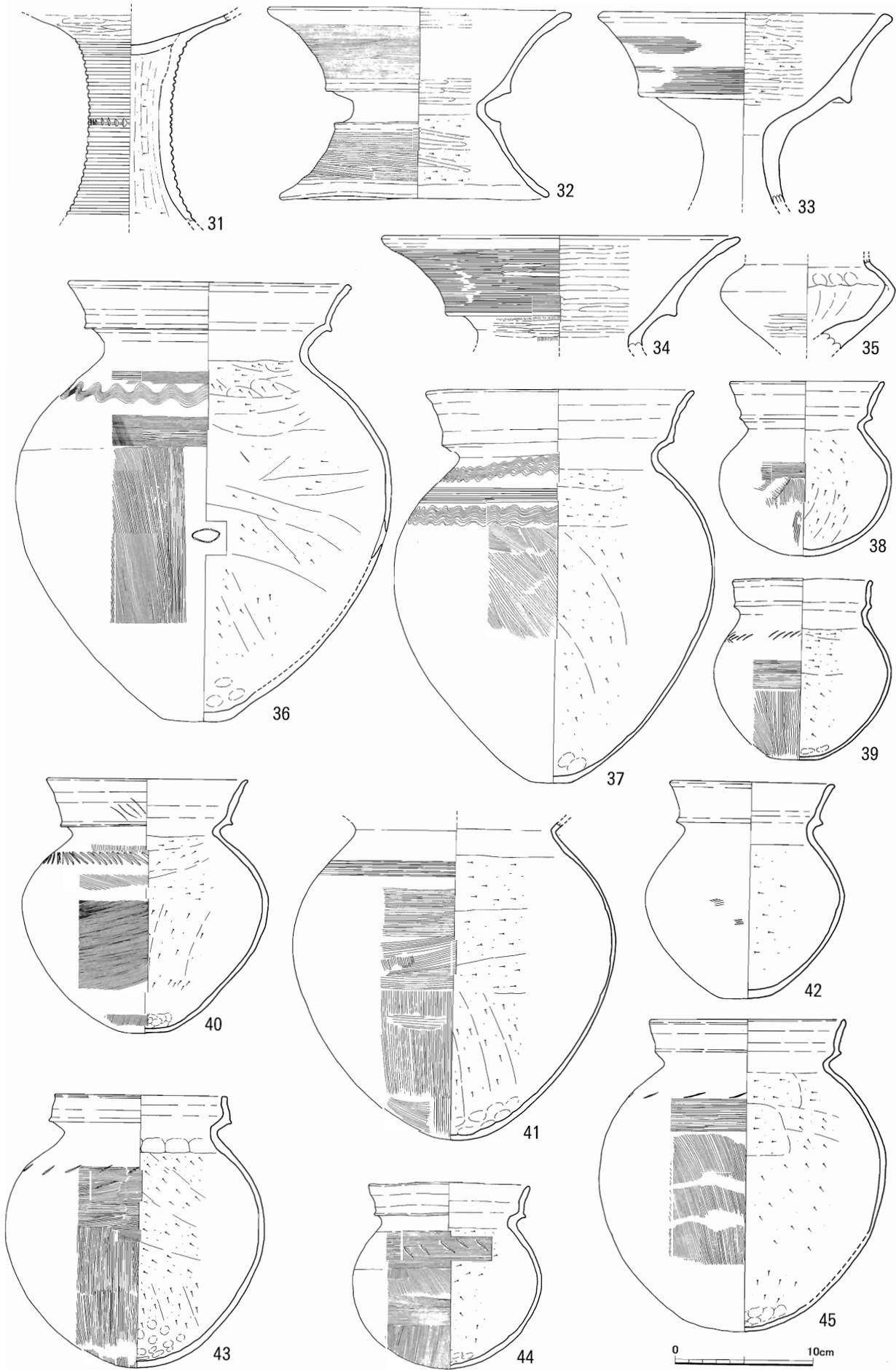
銅鏡 483は小形仿製鏡で、径6.0cm・厚さは外区で2.5mm・内区で1mmである。内区は小片となり文様は不明であるが、僅かに盛り上りのある破片も含まれる。

木製品 488は楔状、489は刳物の一部、490は折敷の一部で結合孔が見られる。

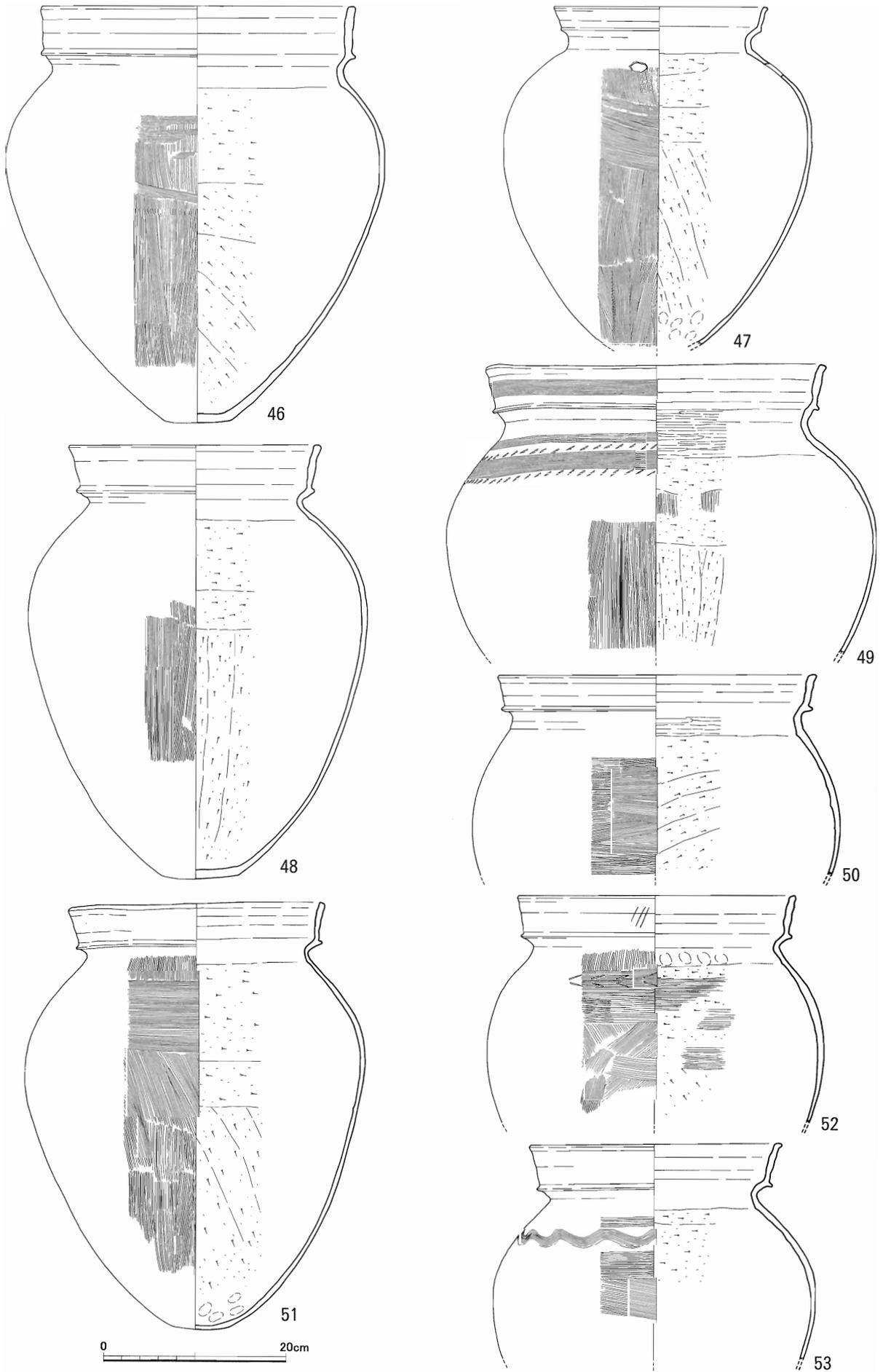
以上の遺物の時期については、第42図～第61図435、第62図477～483が弥生時代後期末～古墳時代前期のものを主体とするもので、第47図121・122、第48図139～150、第54図241～第55図251、第60図372～380、397～430など古墳時代中期のものを一部に含む。第61図446～450は古墳時代後期、451～455、459～460は奈良・平安時代のものである。



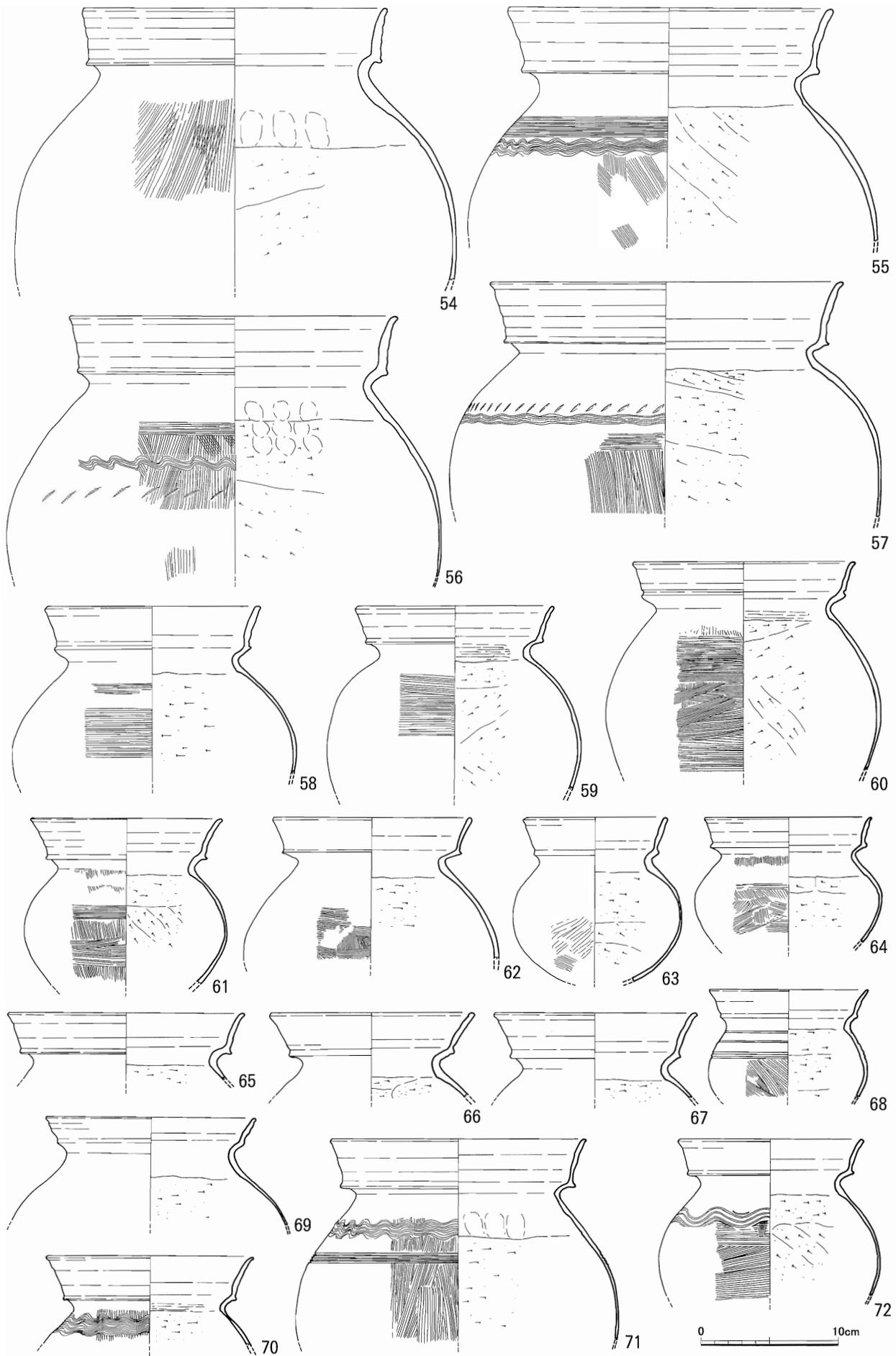
第41図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図1 (1:4)



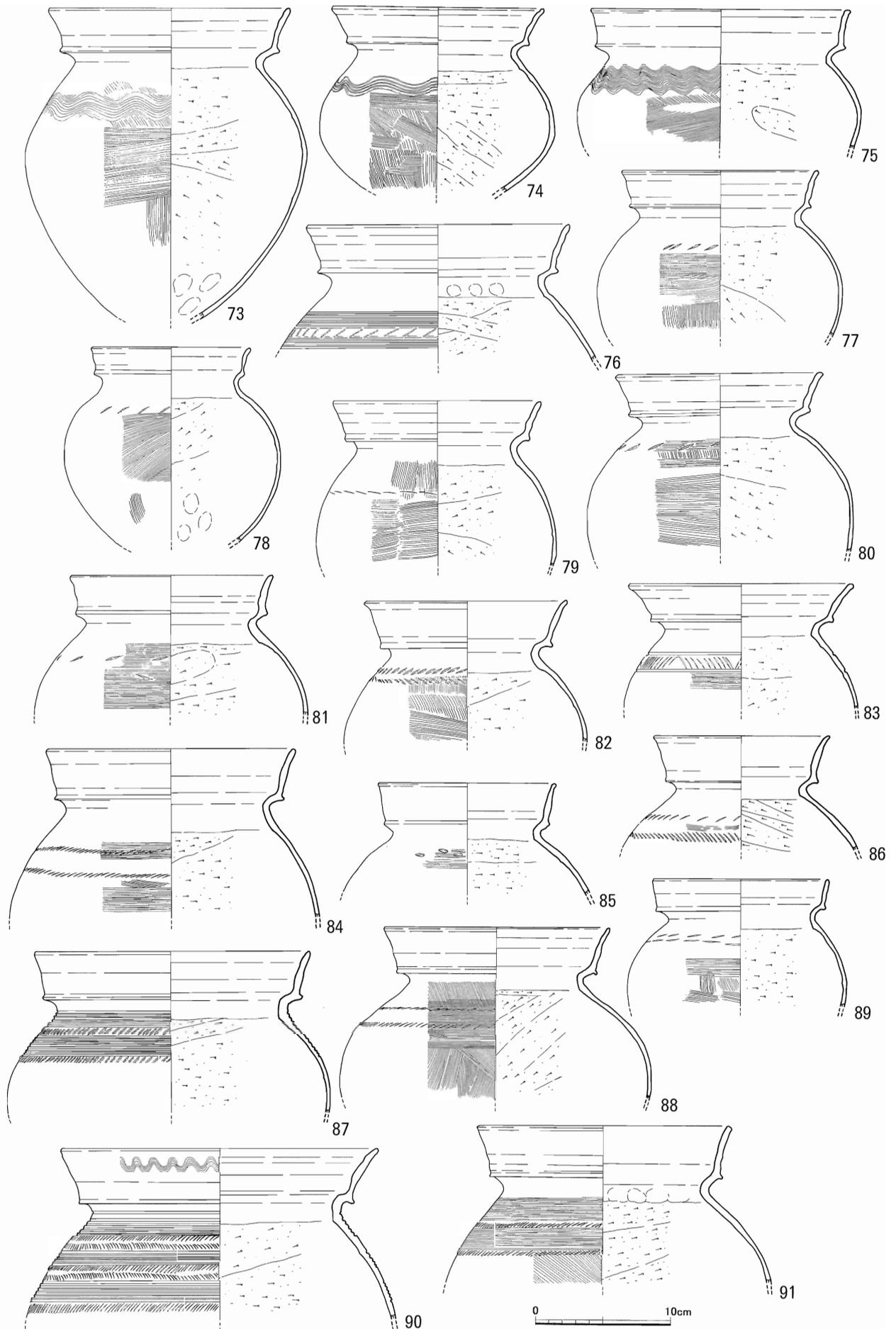
第42図 中野清水遺跡4区14層出土遺物実測図2 (1:4)



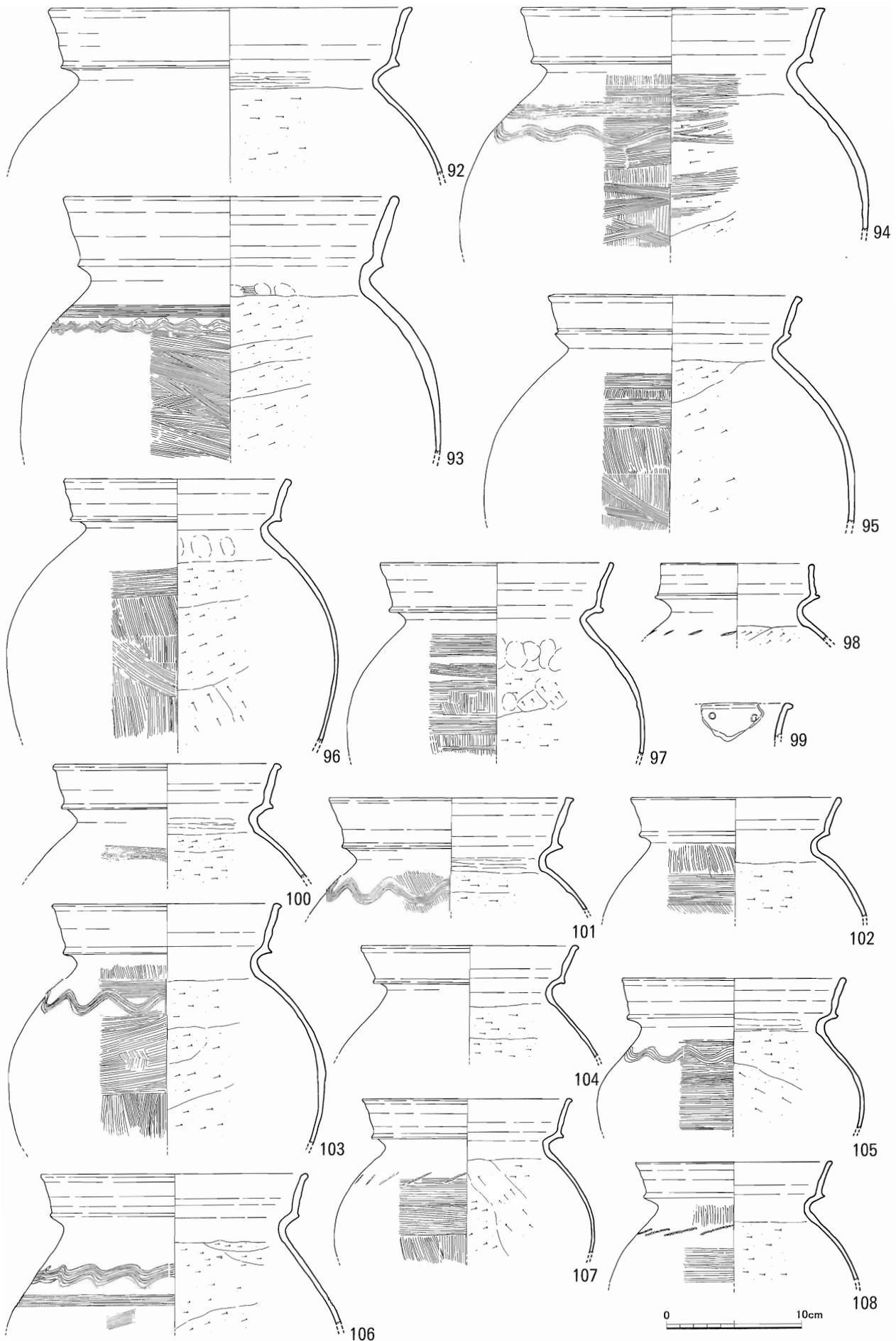
第43图 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図3 (1:6)



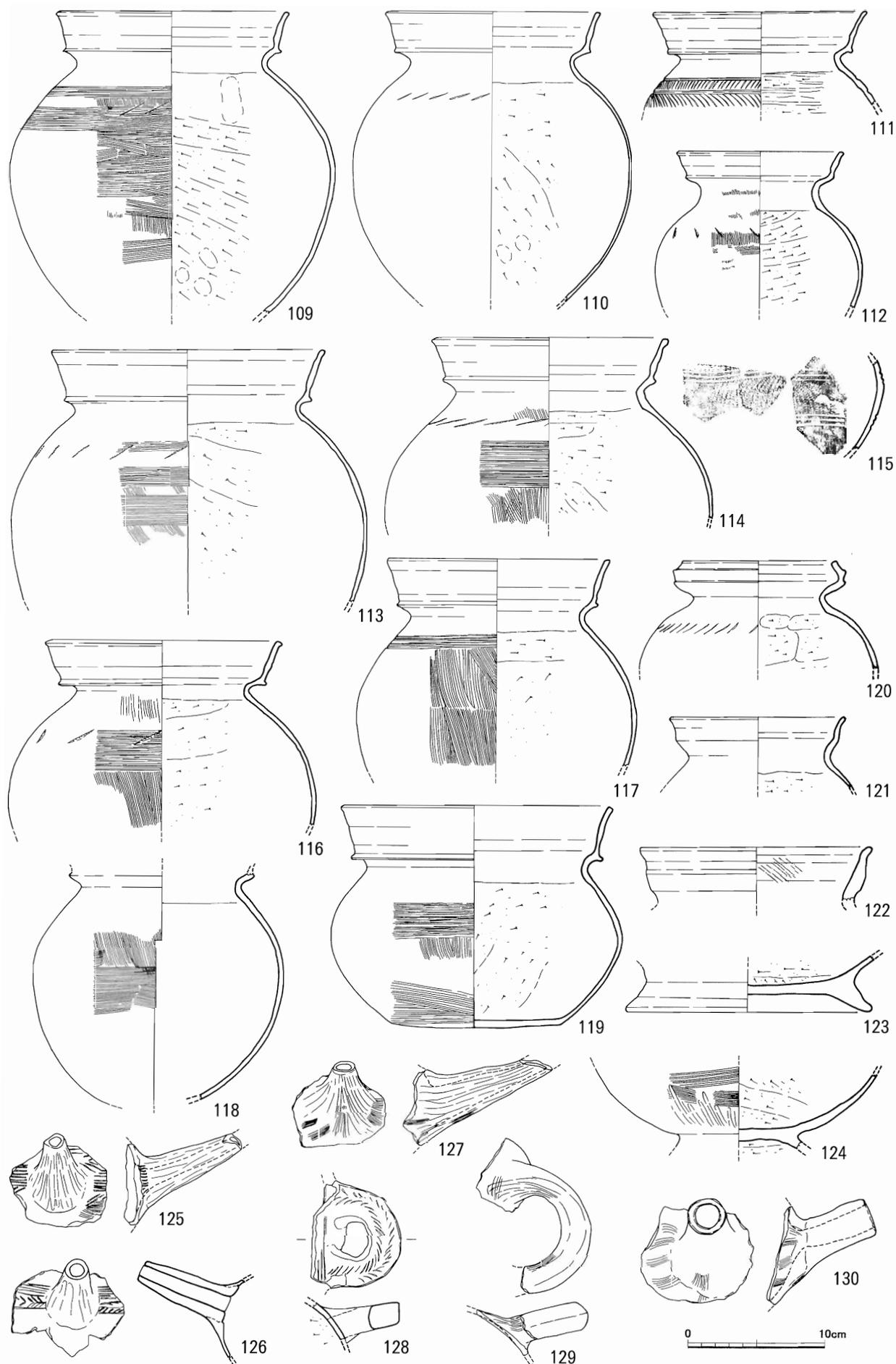
第44図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図4 (1:4)



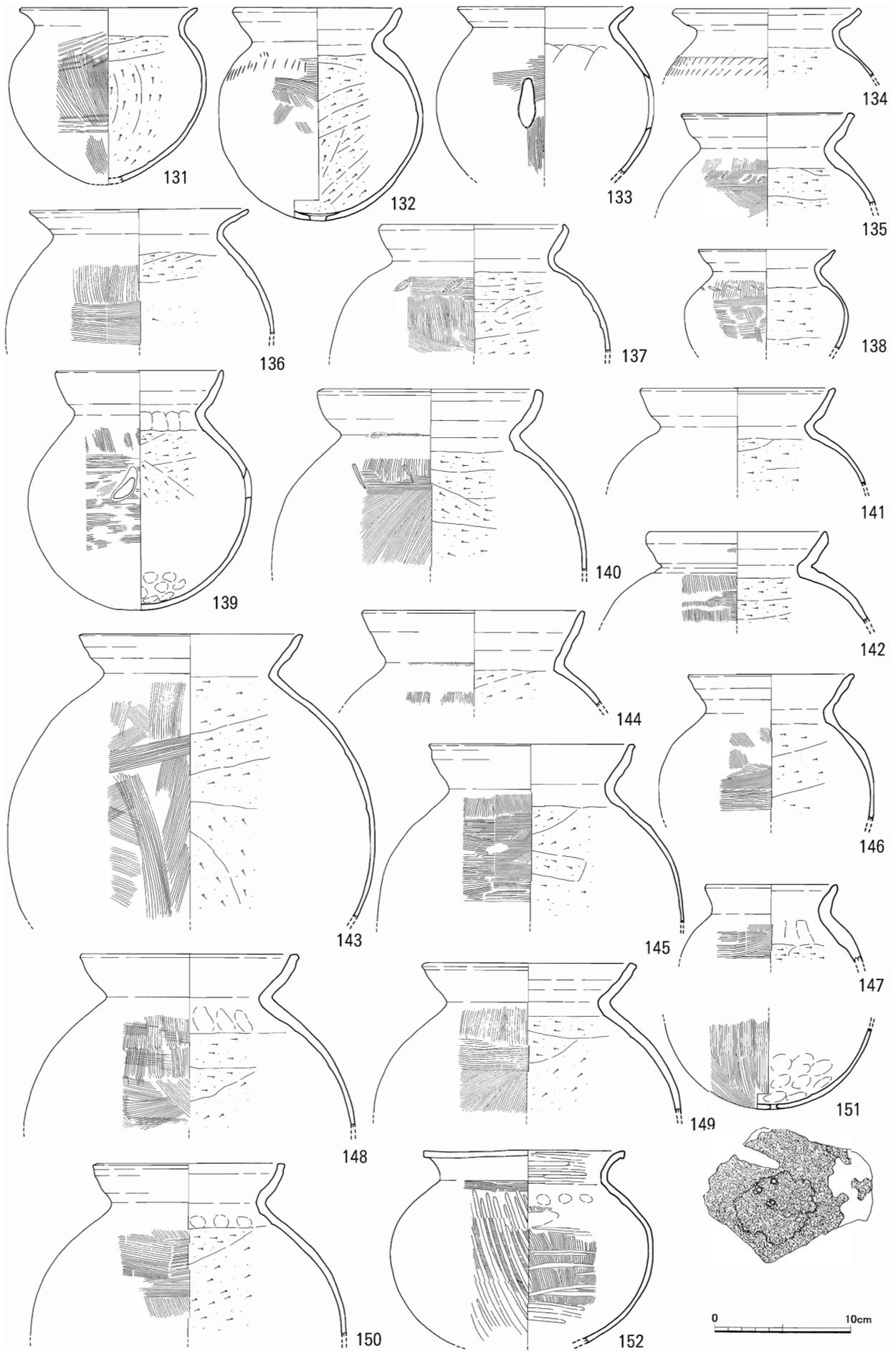
第45图 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測图 5 (1:4)



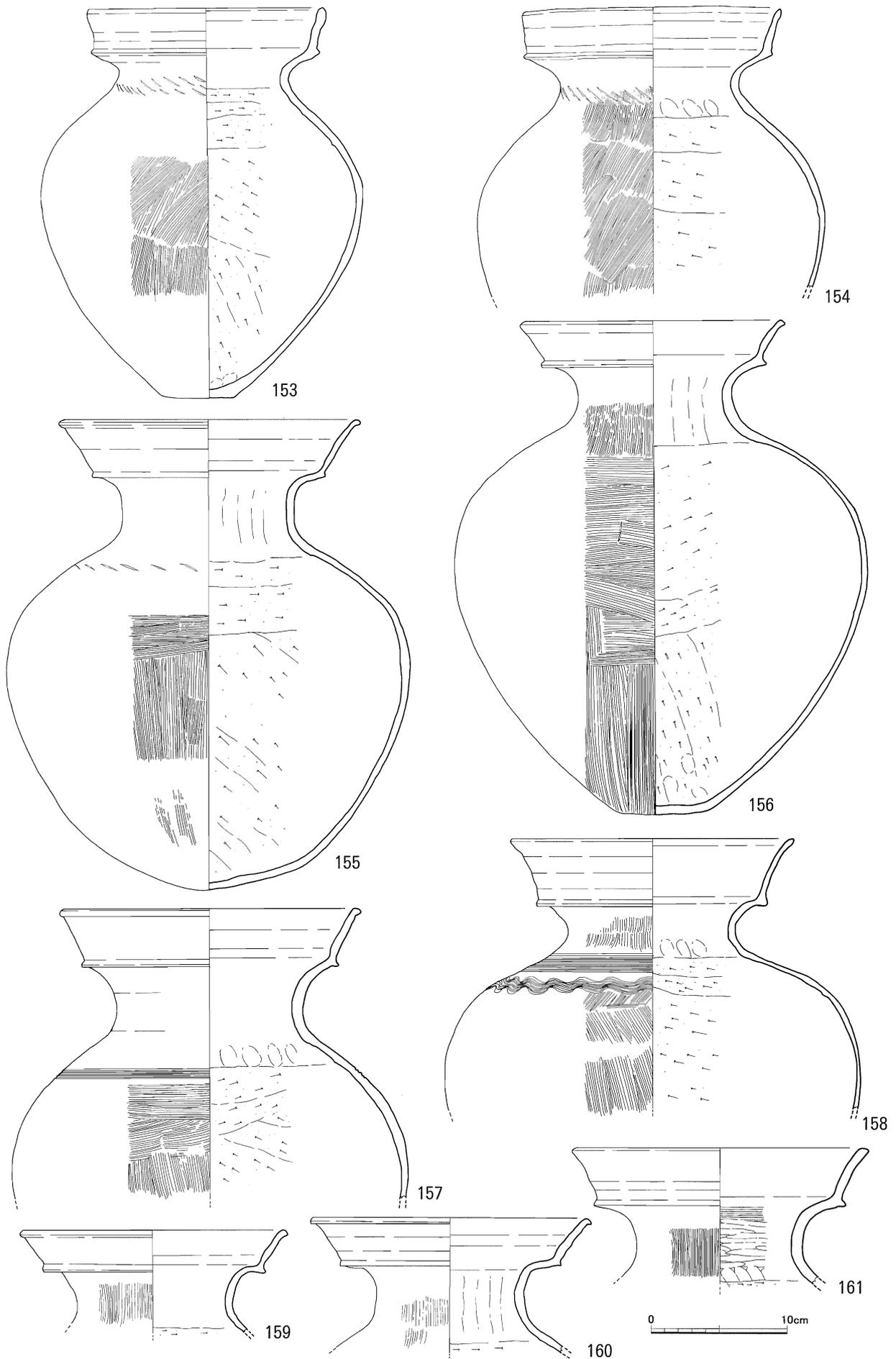
第46図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図6 (1:4)



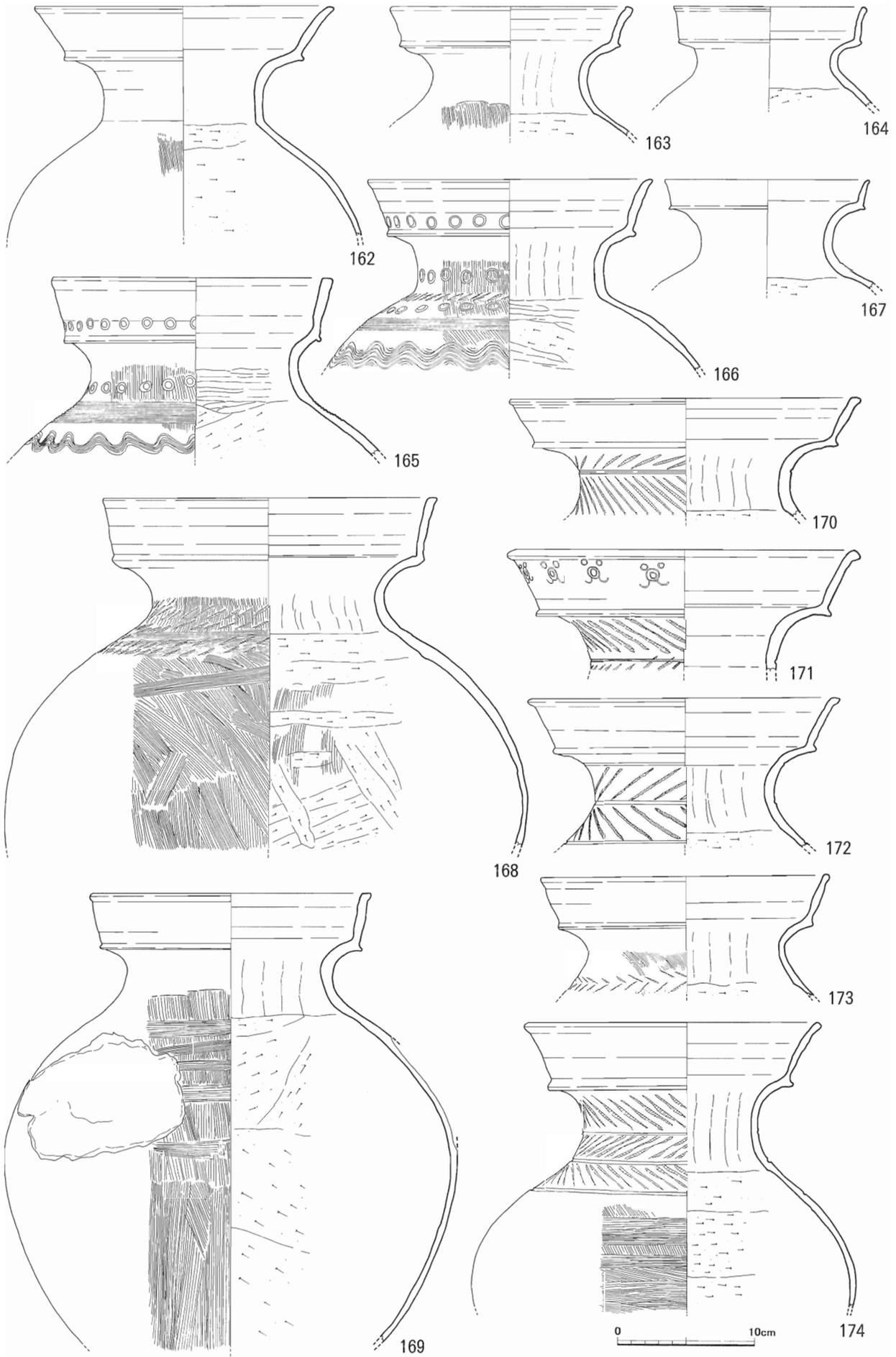
第47図 中野清水遺跡4区14層出土遺物実測図7 (1:4)



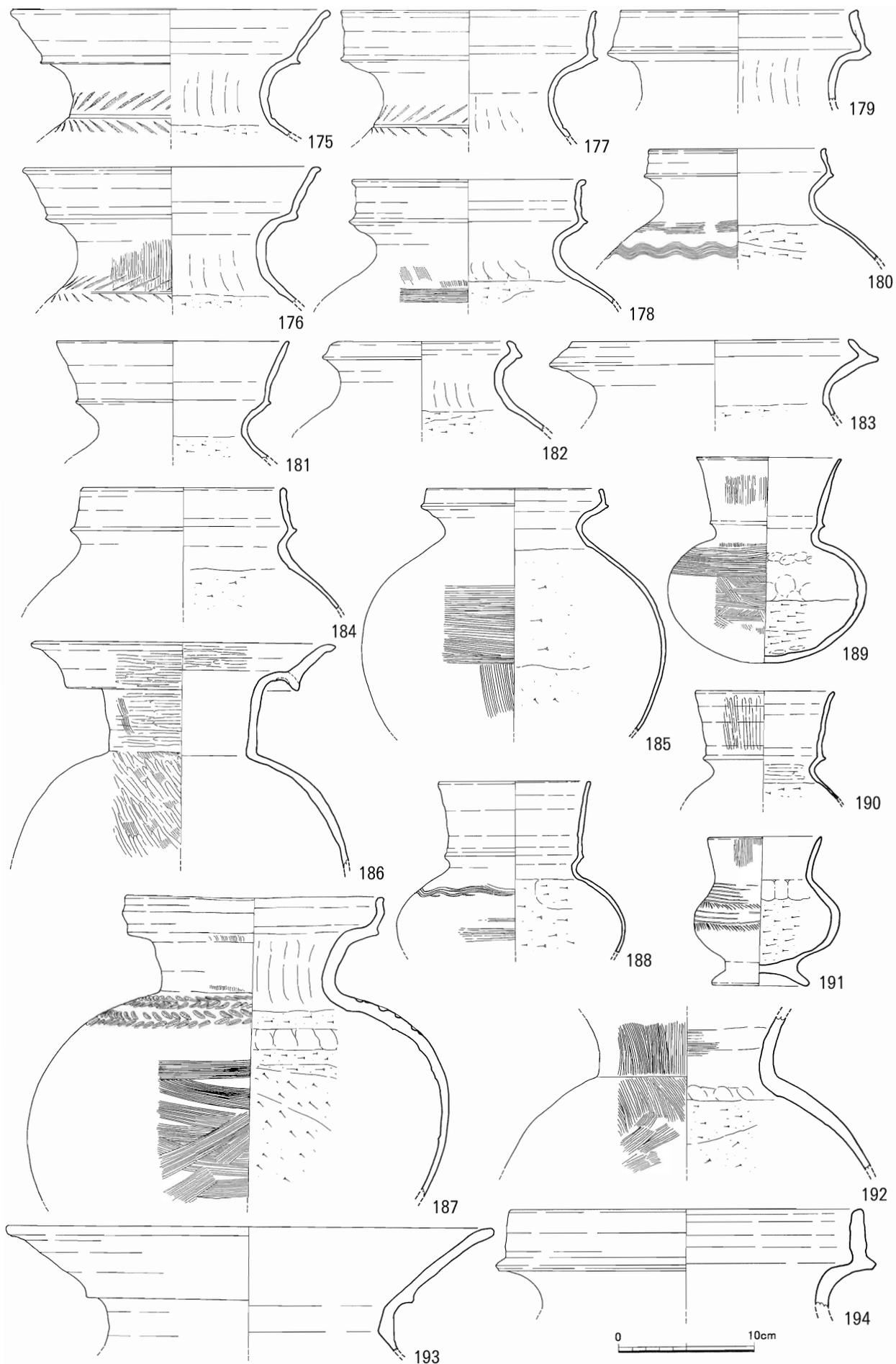
第48図 中野清水遺跡4区14層出土遺物実測図8 (1:4)



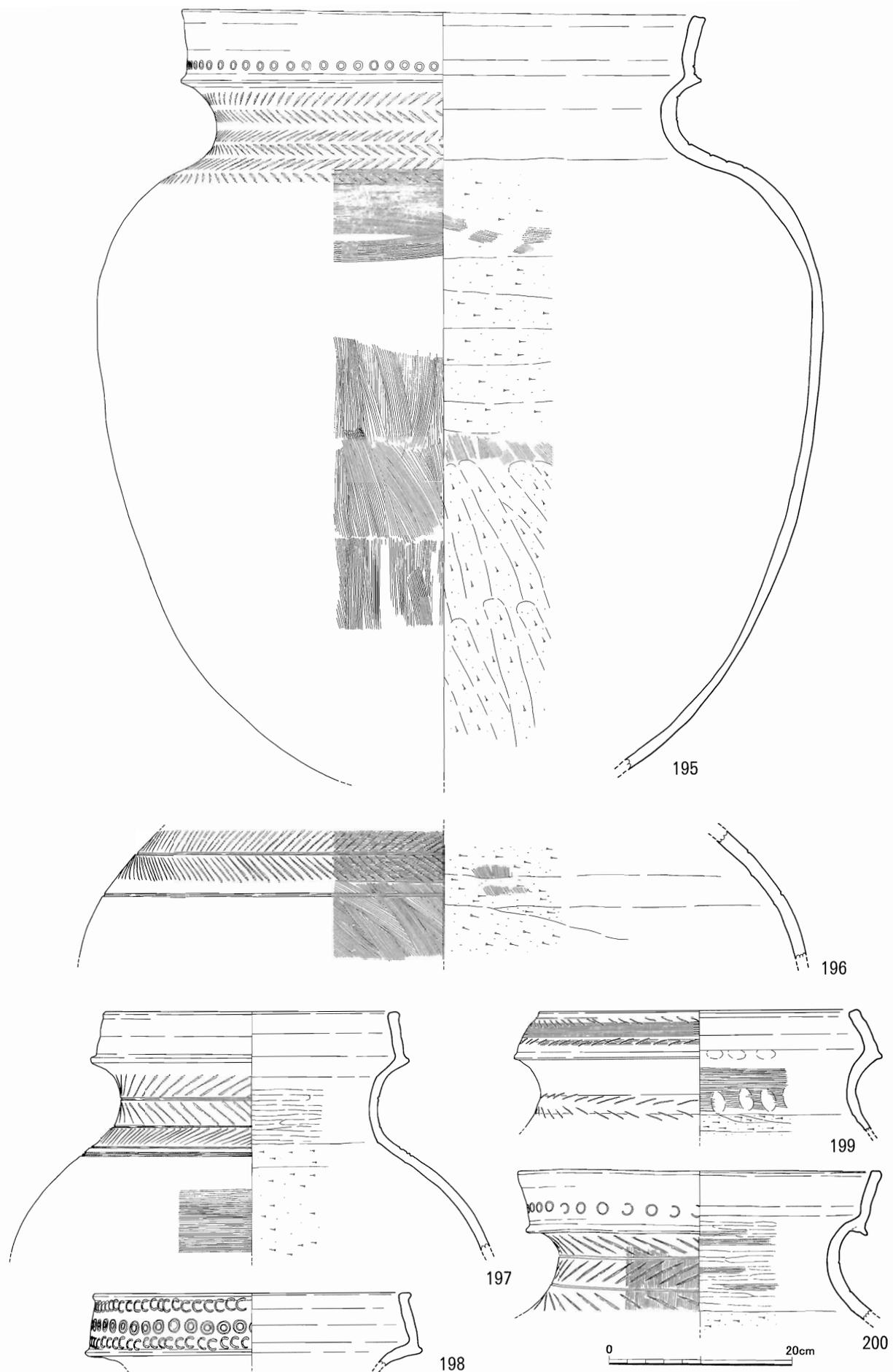
第49図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図9 (1:4)



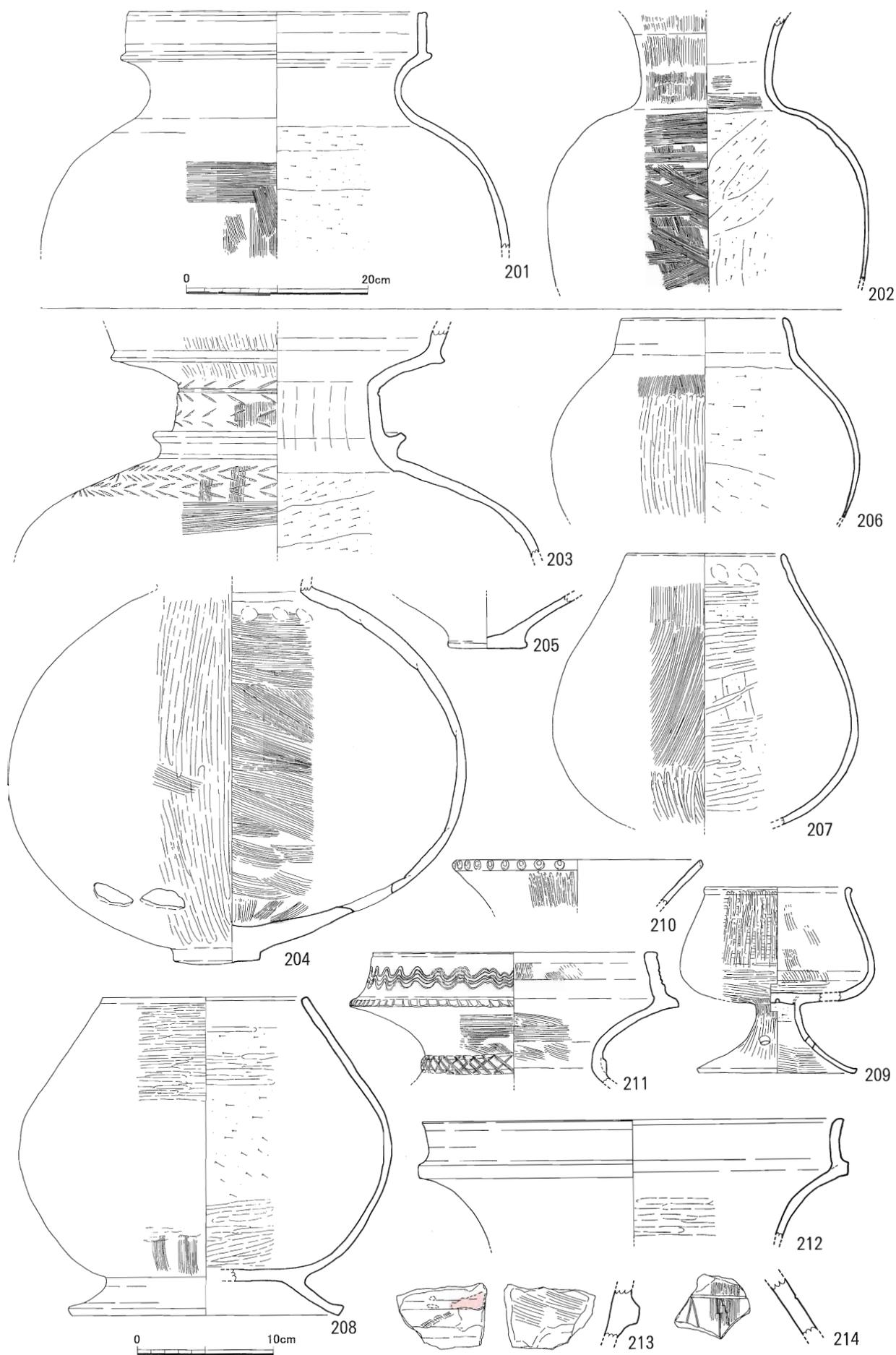
第50図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図10 (1:4)



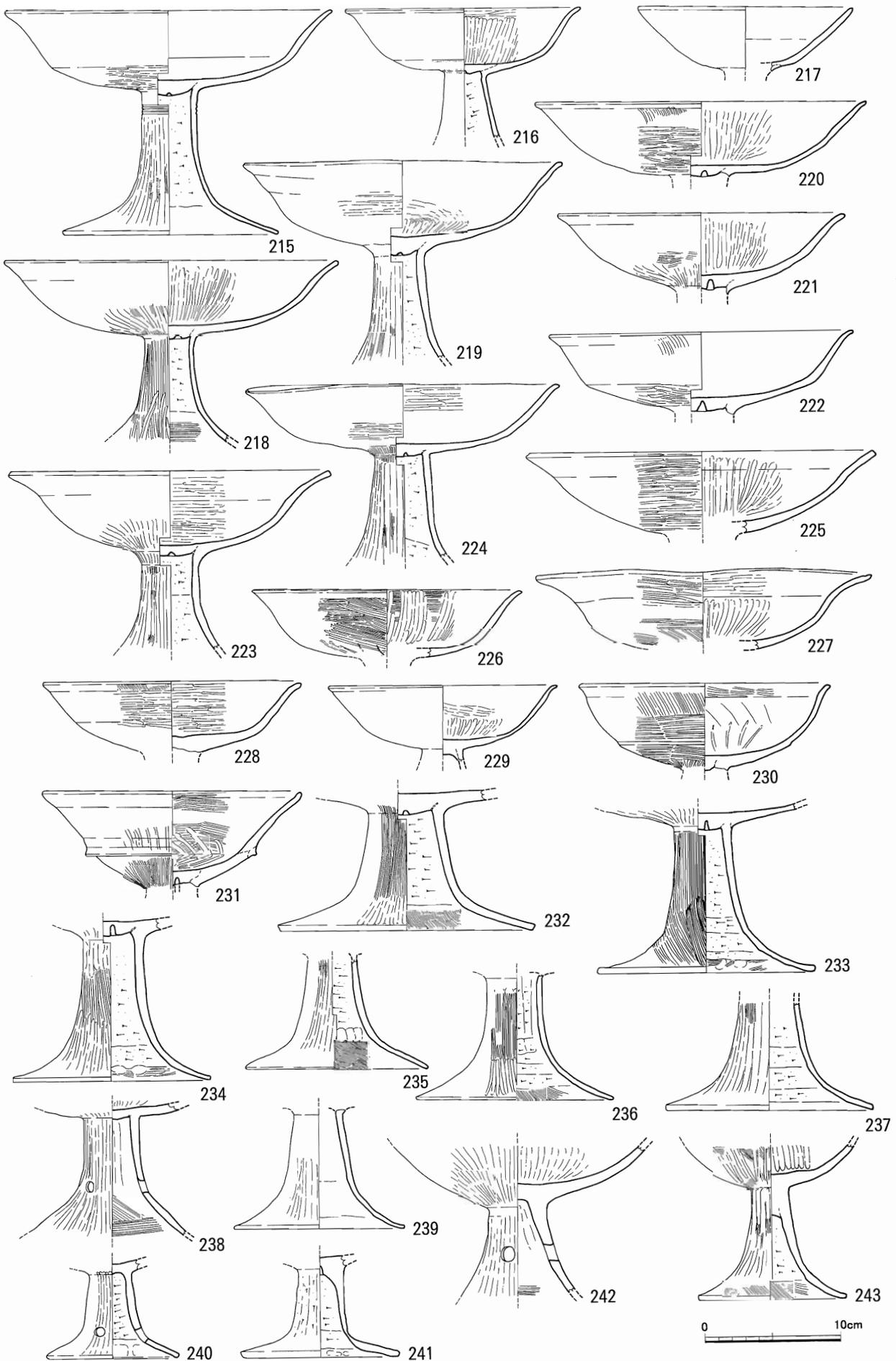
第51図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図11 (1:4)



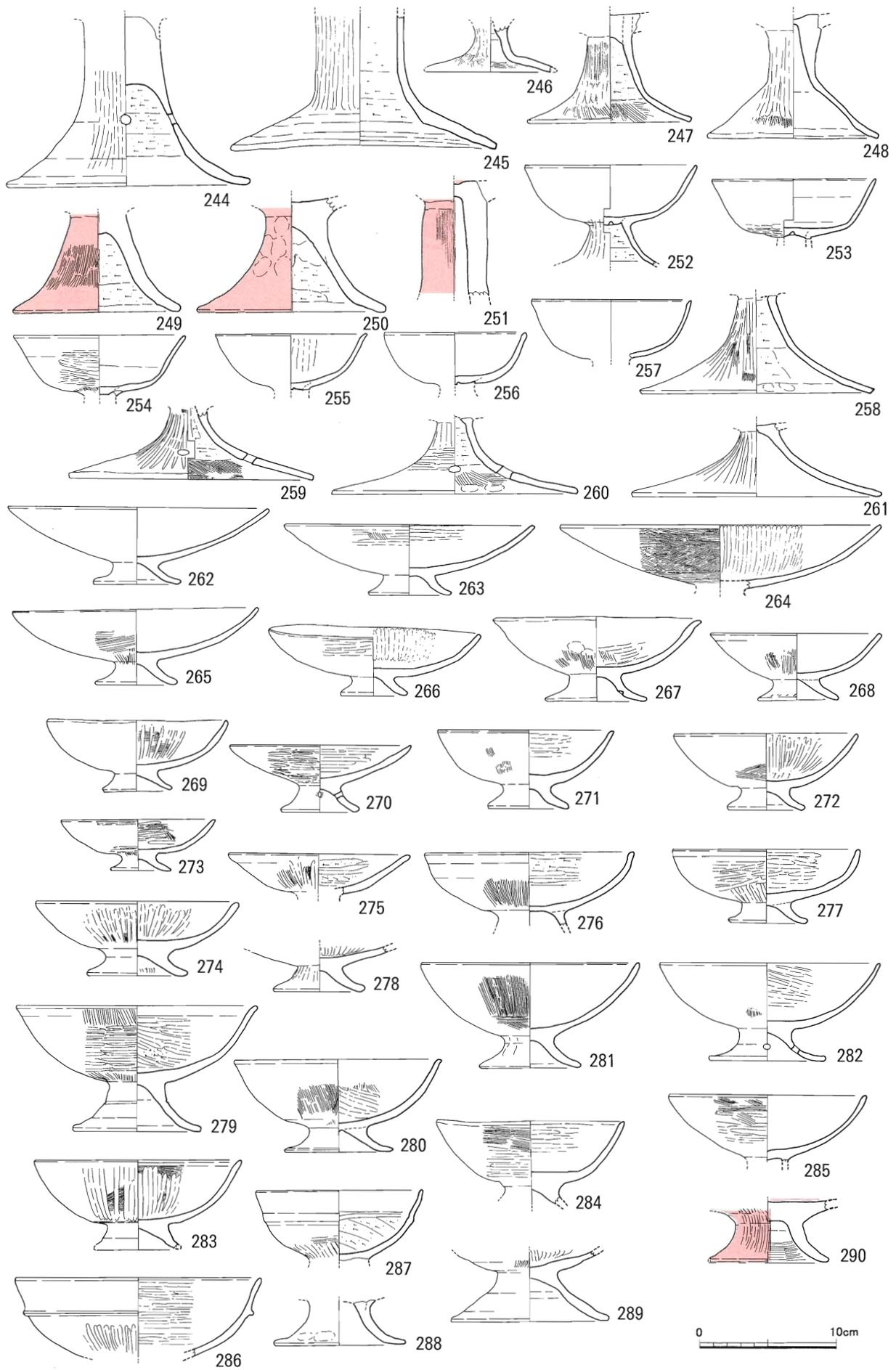
第52図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図12 (1:6)



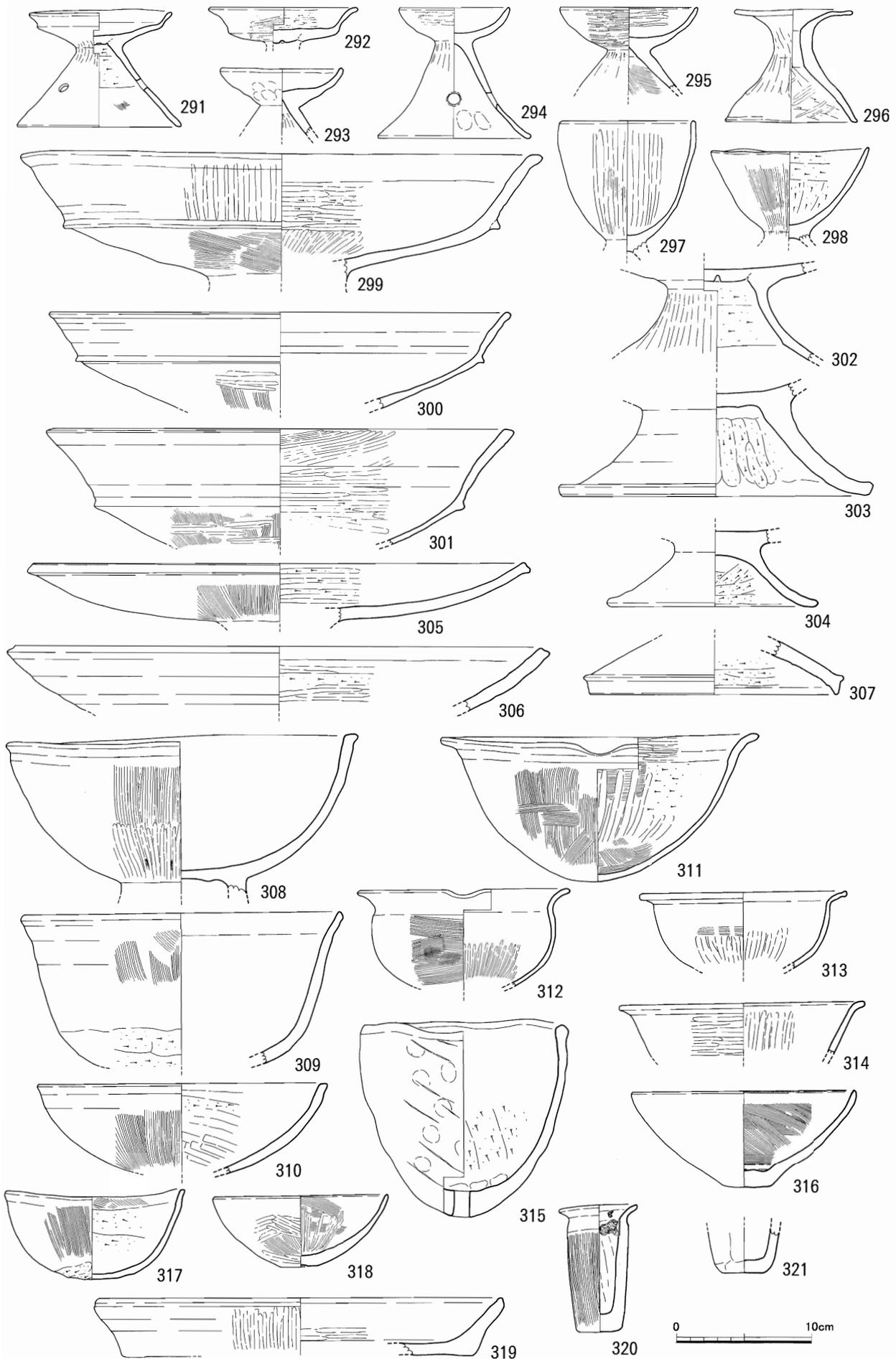
第53图 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図13 (1:6, 1:4)



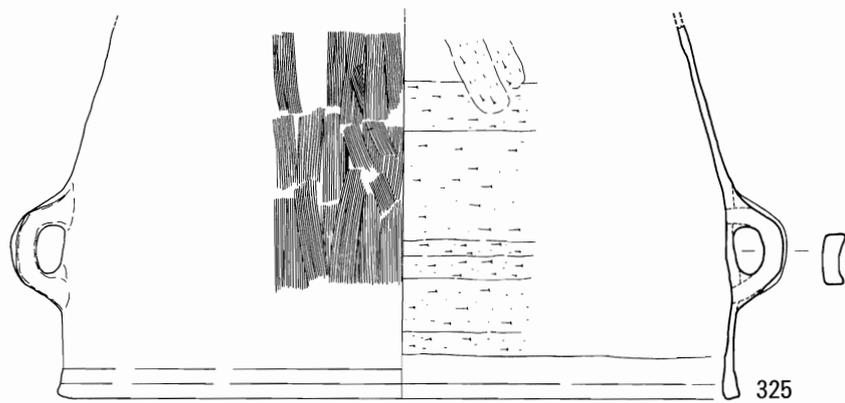
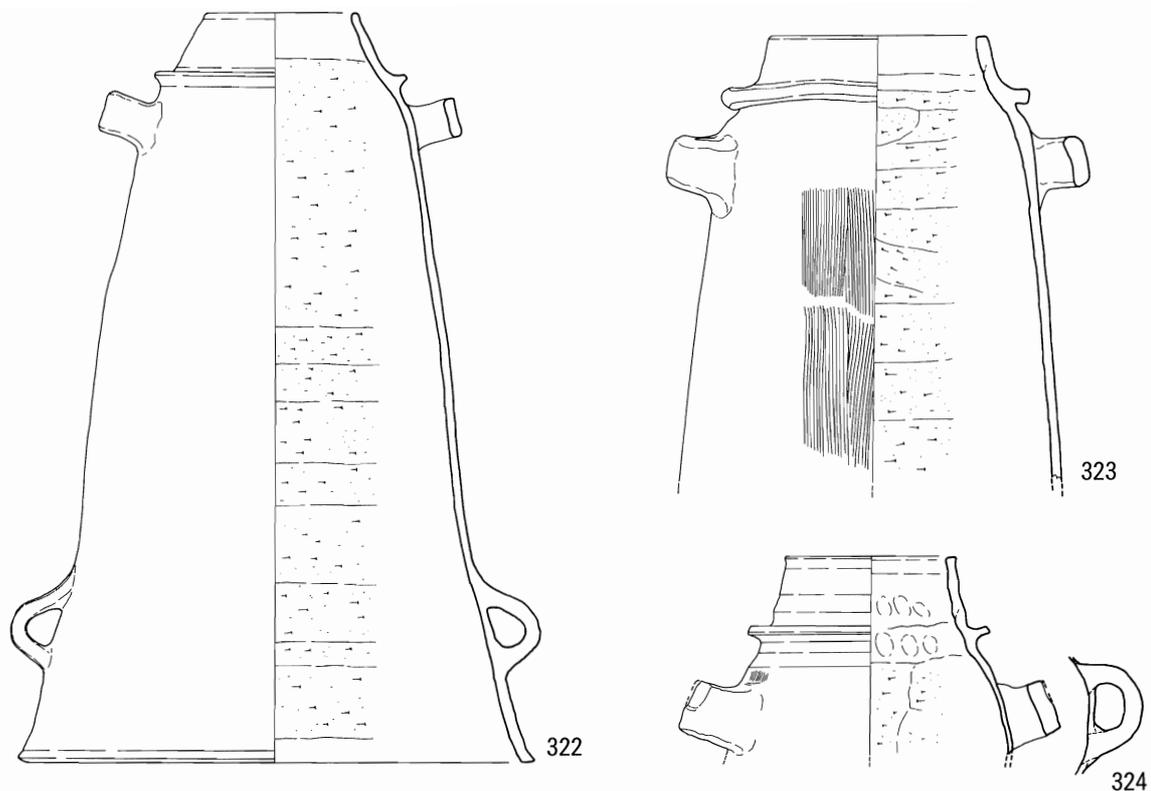
第54図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図14 (1:4)



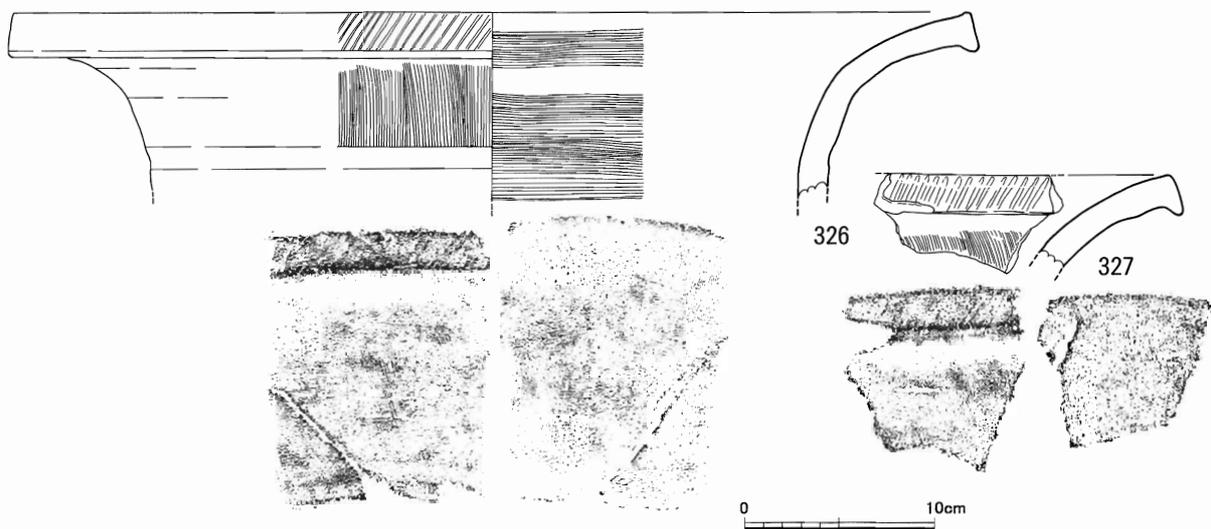
第55图 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図15 (1:4)



第56図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図16 (1:4)

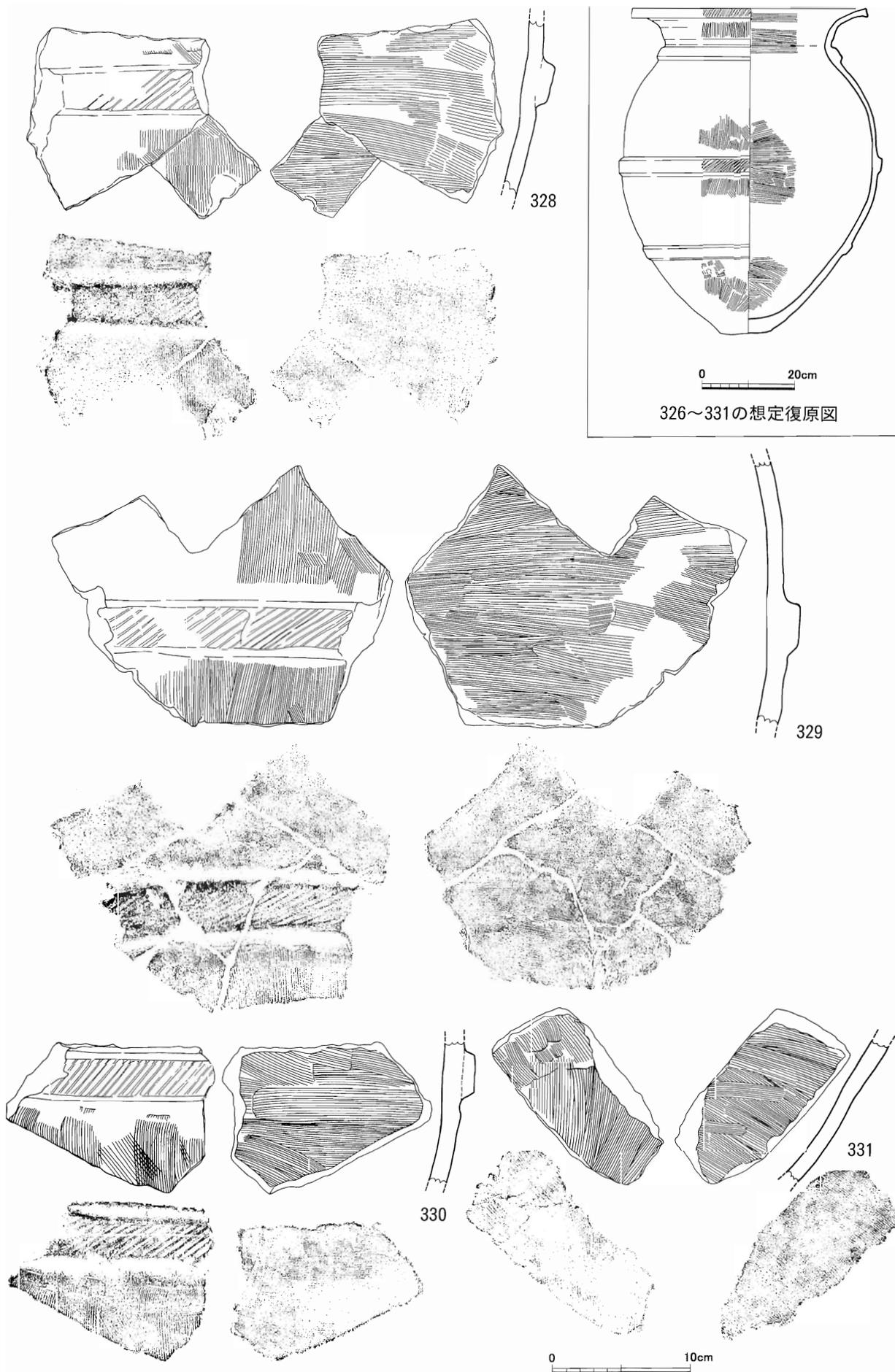


0 20cm

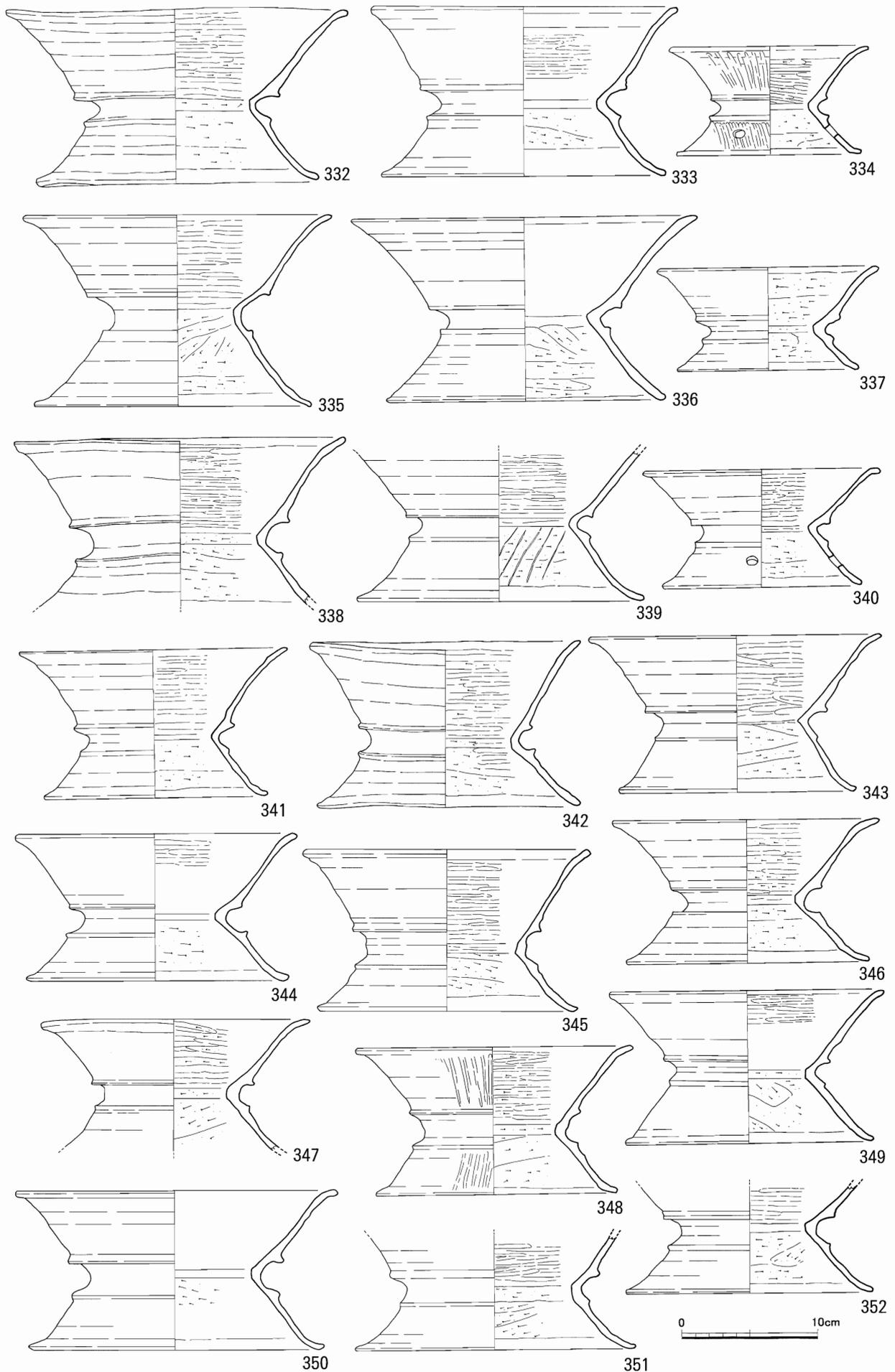


0 10cm

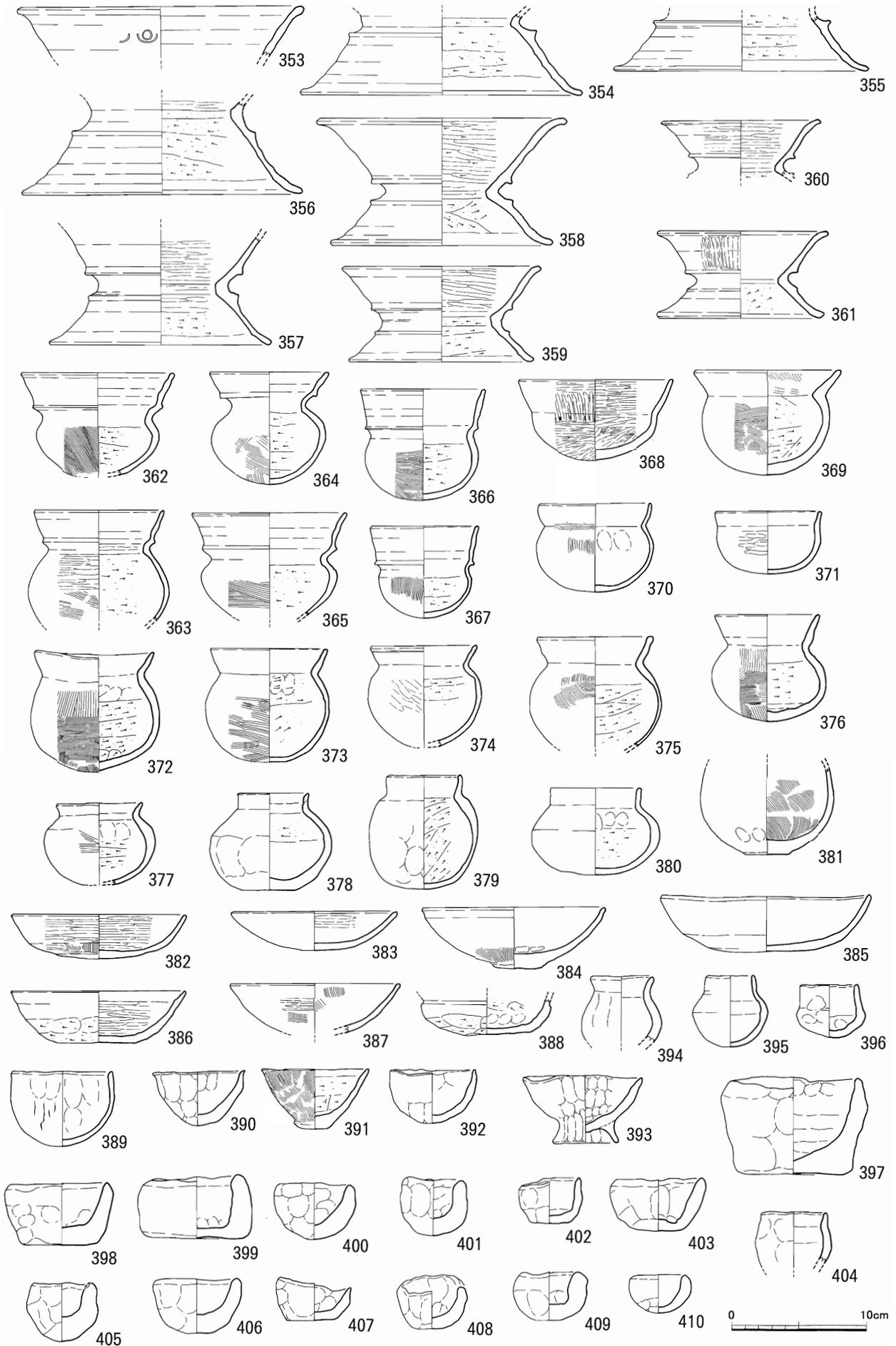
第57図 中野清水遺跡4区14層出土遺物実測図17 (1:6, 1:4)



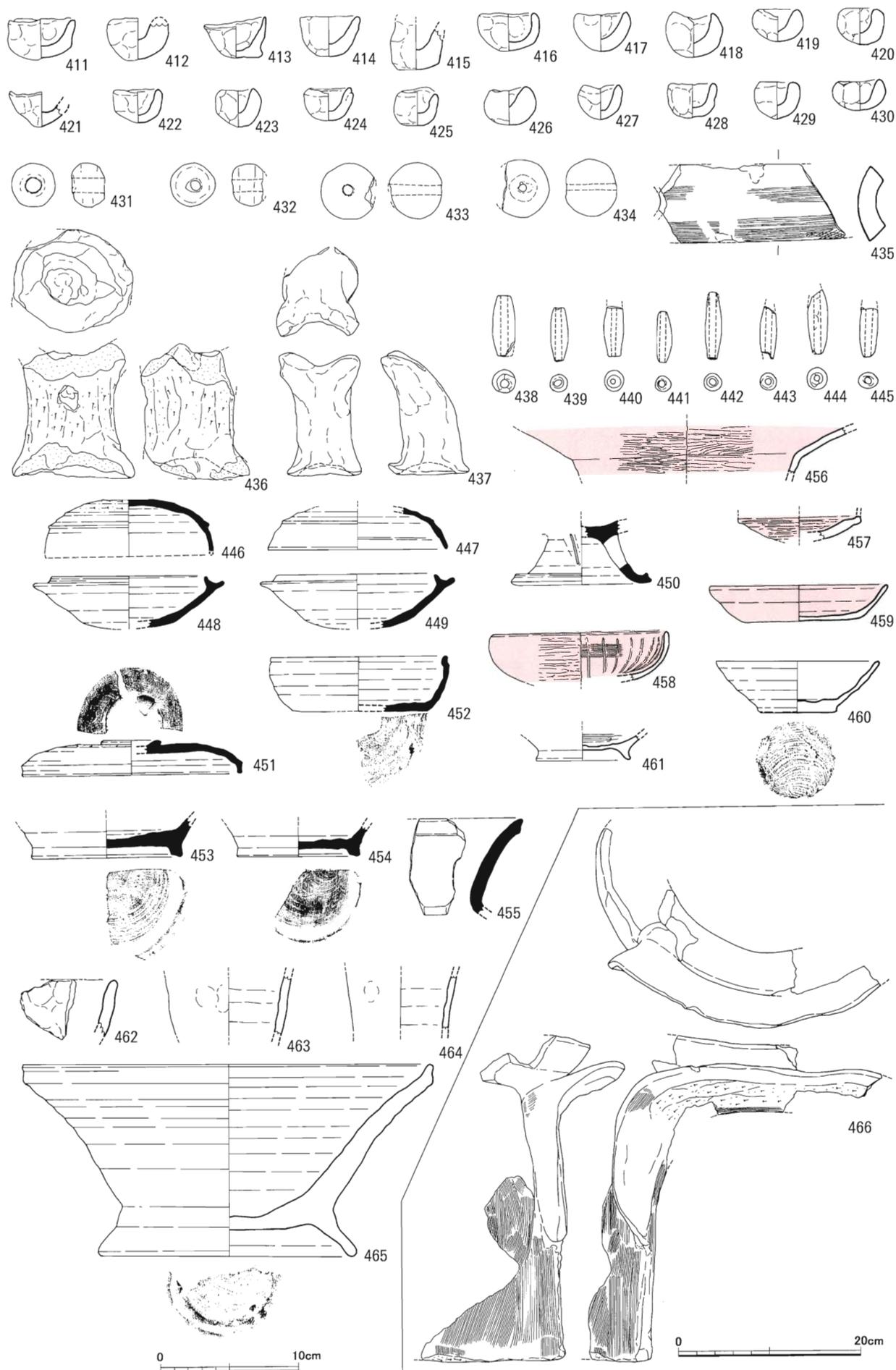
第58図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図18 (1:12, 1:4)



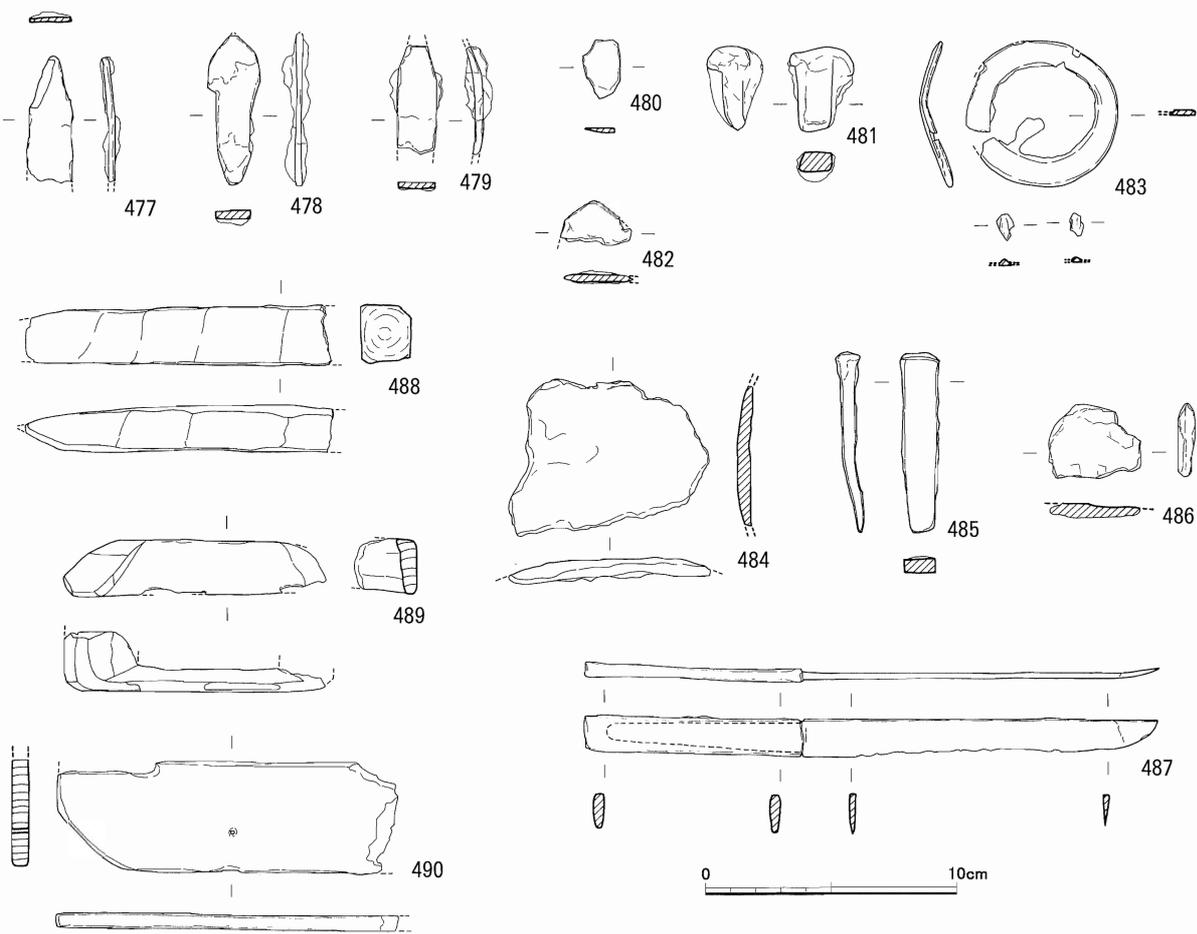
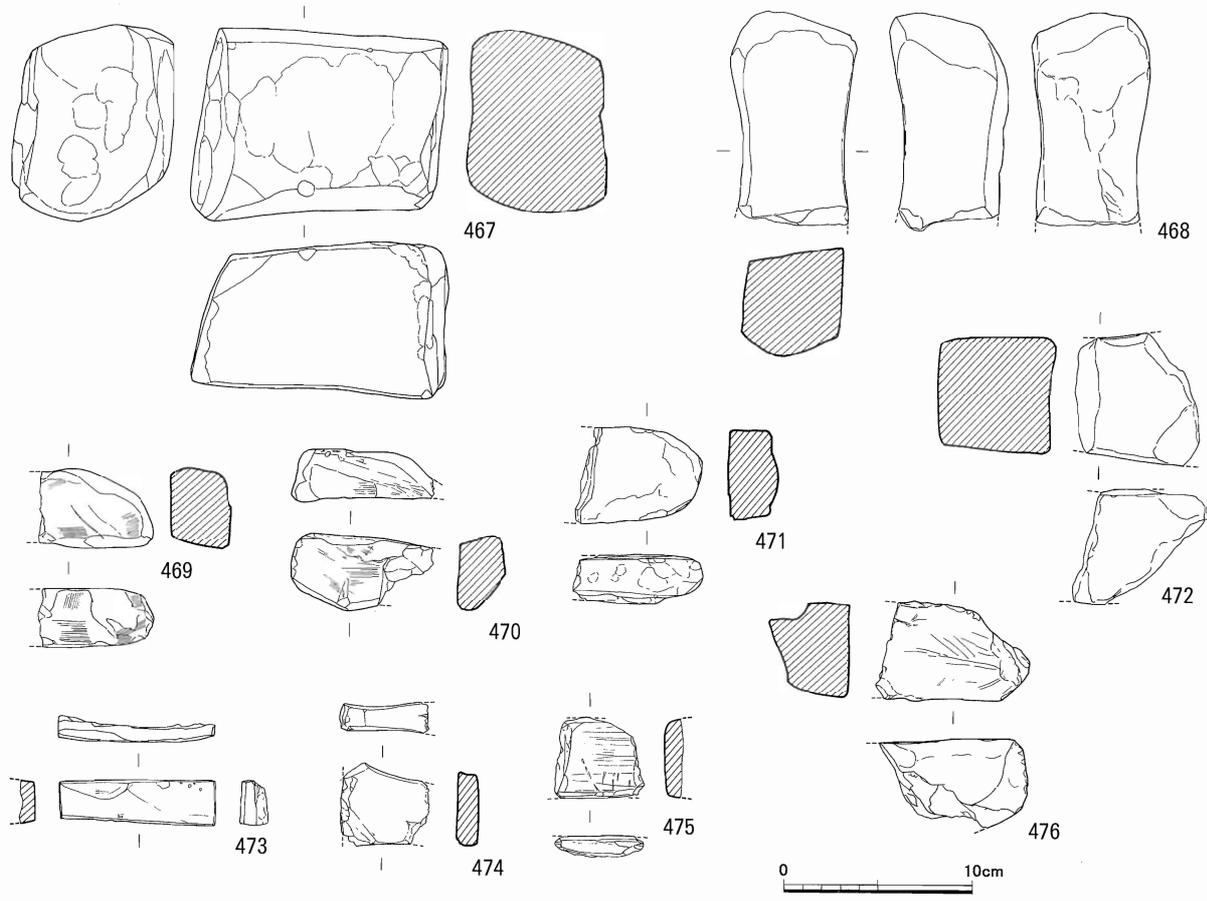
第59図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図19 (1:4)



第60図 中野清水遺跡 4区14層出土遺物実測図20 (1:4)



第61图 中野清水遺跡 4区13層・14層出土遺物 1 (1:4, 1:6)



第62図 中野清水遺跡 4区13層・14層出土遺物 2 (1:4, 1:3)

第6節 7区の調査

(1) 調査区の層序

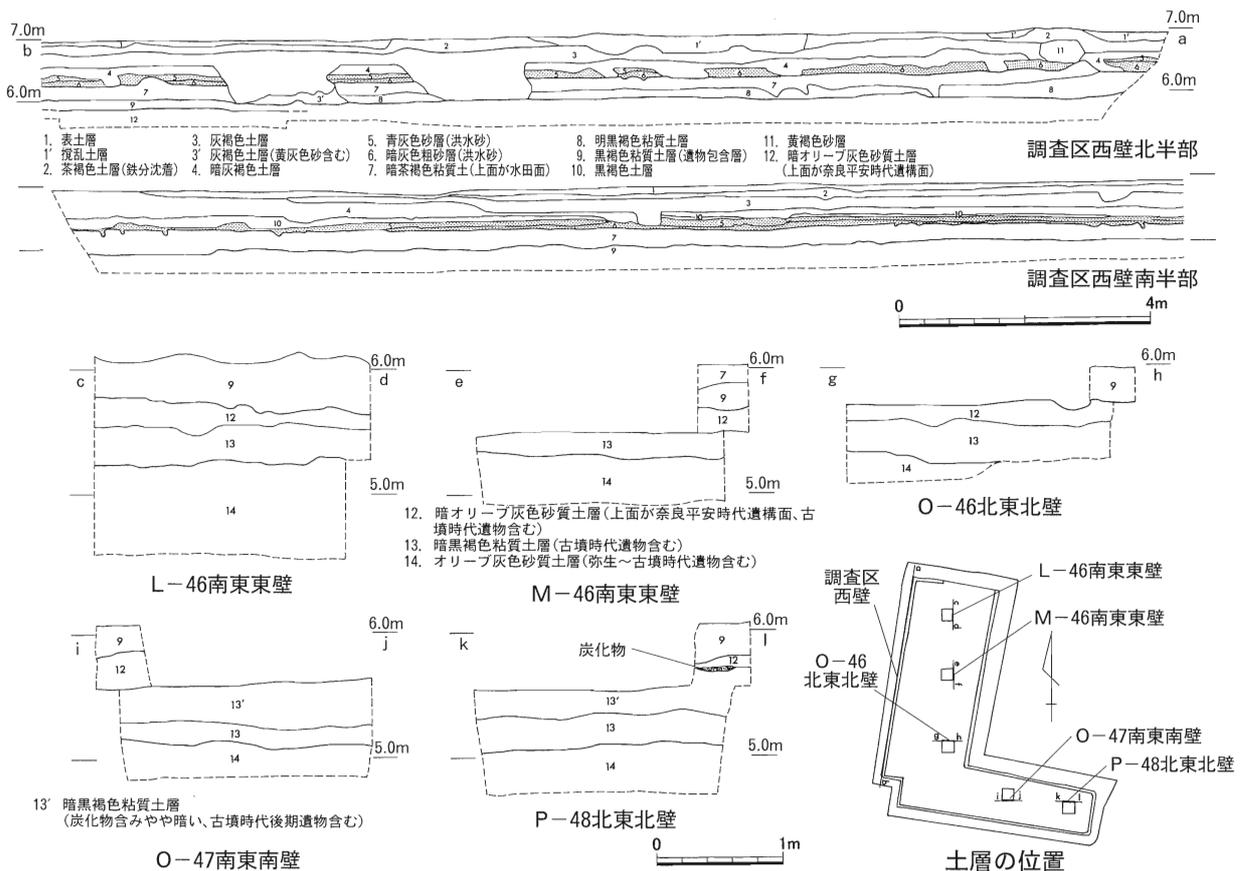
調査区西壁の層序(第63図上)は、上層より表土(1層)―茶褐色土(2層)―灰褐色土(3層)―暗灰褐色土(4層)―青灰色砂(5層)・暗灰色粗砂(6層)―暗茶褐色粘質土(7層)―明黒褐色粘質土(8層)―黒褐色粘質土(9層)―暗オリーブ灰色砂質土(12層)よりなる。また、調査区に設けたグリッドの土層(第63図中・下)によれば12層の下に暗黒褐色粘質土(13層)―オリーブ灰色砂質土(14層)がある。このうち、遺構面は7層上面・12層上面・13層上面・14層上面の4面で、9層・12層・13層・14層が遺物包含層となっている。

(2) 7層上面

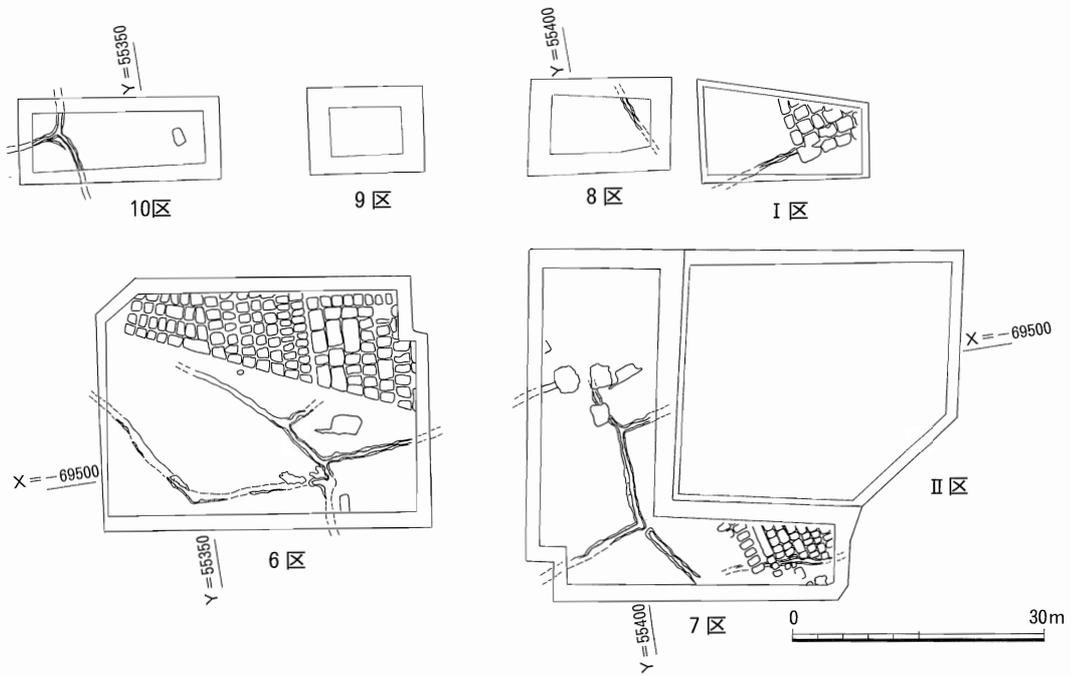
水田跡(第65図) 7層上面は水田面で、洪水砂と見られる青灰色砂(5層)と暗灰色粗砂(6層)に厚いところで20cm程度覆われている。畦畔は南北方向に1条、東西方向はこれを挟んで東に2条、西に2条が確認された。西畦畔1と2の間隔は18.5m、東畦畔1と2の間隔は19m程度と見られ、水田面の高さは5cm程度東側が高い。畦畔は幅70~100cm・高さ5~10cm程残っており、南北畦畔と西畦畔2の交点には水口状の切れ目も認められた。水田面は洪水砂に覆われていた関係で、耕作の際に残された人や牛馬の足跡が多数確認されている(写真図版31)。

周辺調査区の畦畔との関係(第64図)は、西畦畔1が6区へと繋がる程度であるが、全体として見ると南北方向と北西方向に伸びる畦畔によって比較的整然と営まれている。

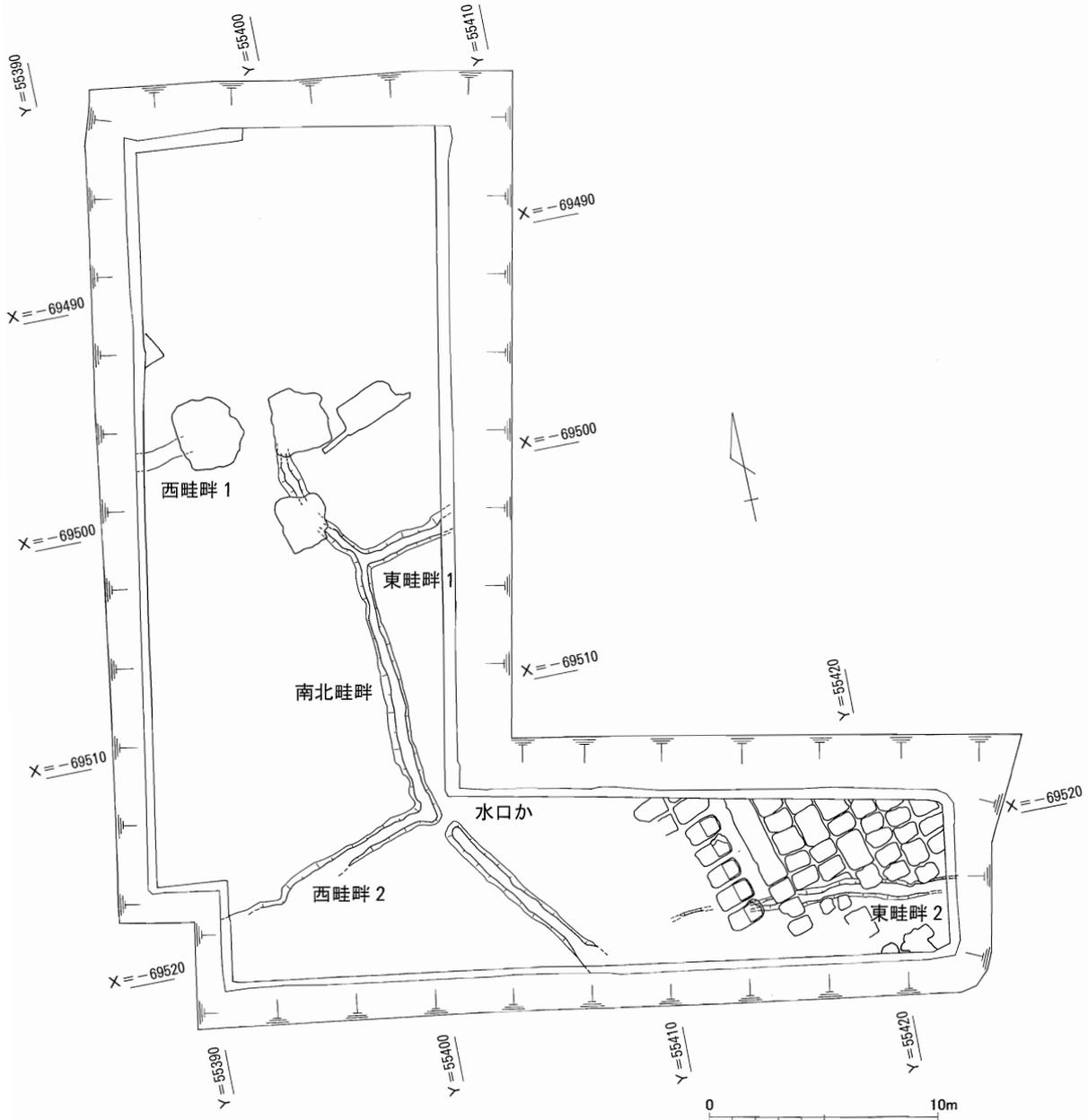
なお、水田面の東側を中心に方形の土採り穴が多数確認された。



第63図 中野清水遺跡7区土層実測図



第64図 中野清水遺跡調査区東部7層上面遺構実測図



第65図 中野清水遺跡7区7層上面遺構実測図

(3) 9層・12層上面

12層上面では調査区の南半部を中心にして、土坑6基と溝2条のほかピット群が検出されており、9層はその遺物包含層となる（第68図）。

周辺の調査区では6区を中心に溝や掘立柱建物跡が明らかになっていることから、集落の一部に当たる可能性が高いが、調査区の制約や湧水のため地盤が軟弱であったことなどもあり、その様相を十分把握できなかった。

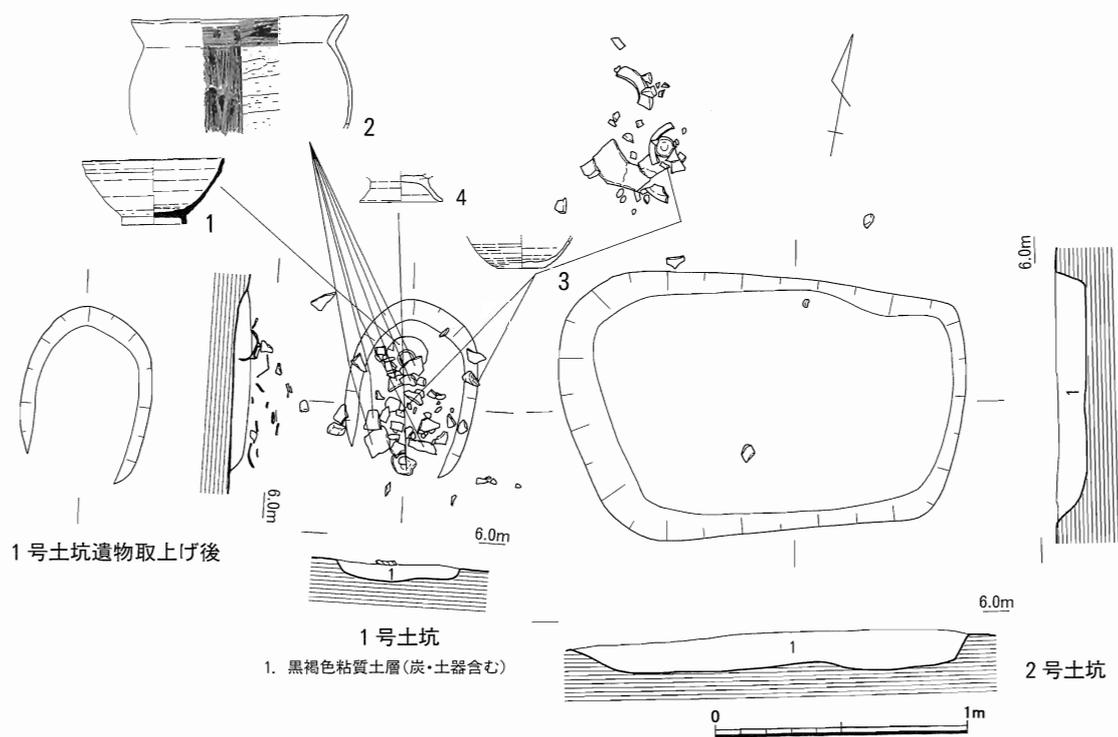
1号土坑（第66図） 調査区の南辺沿い中央で検出されたもので、東側に隣接して2号土坑がある。南辺を失うが平面形は楕円形を呈しており、大きさは長さ70cm・幅50cm・深さ7cm程度のものである。埋土は炭を含んだ黒褐色粘質土（1層）が溜まっており、内部から須恵器坏（第69図1）、土師器甕（2）・坏（3・4）が出土した。須恵器坏は土坑の南側に口縁を下に伏せた状態で置かれており、土師器はその南側に破片として散らばった状態で出土している。

1は器高7.9cmと深く、口縁部が僅かに屈曲した須恵器坏である。底部には直立する高台が付き、その周囲に回転ヘラケズリがある。高台の内面は回転糸切り痕が残り、切り離し後未調整である。

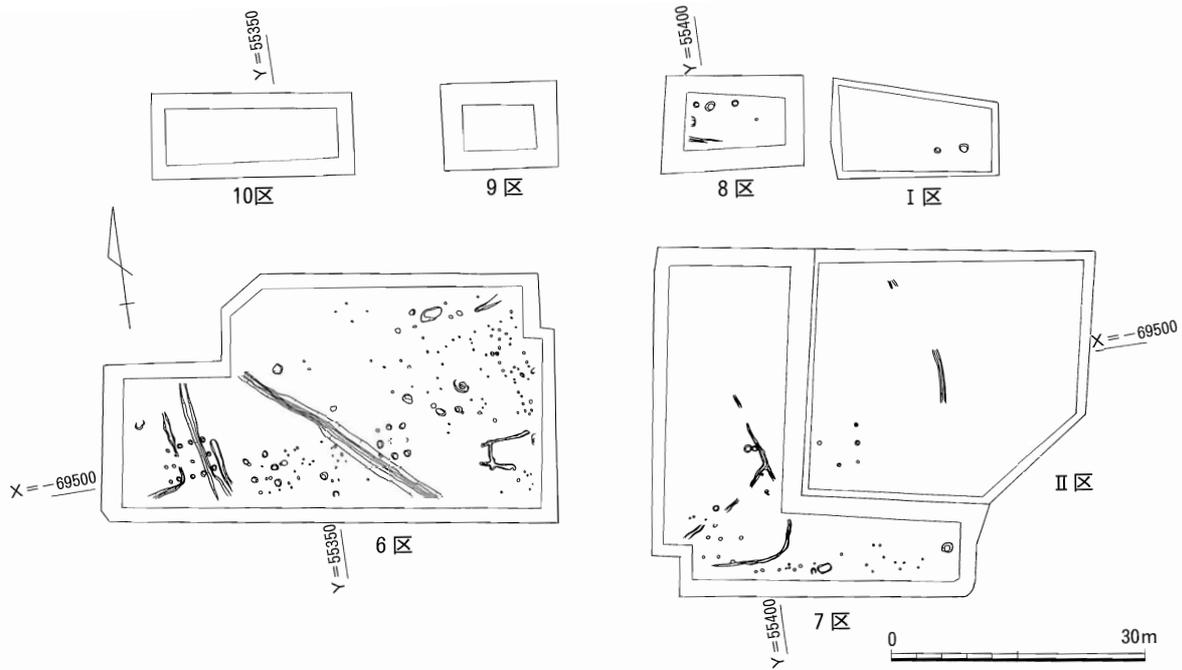
2は口縁が「く」字形に屈曲する土師器甕で、肩部はあまり張らない。調整は口縁内外面に横方向のハケメ、体部外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のケズリである。体部外面には全面に煤が付着している。3は無高台の坏身で、底面に回転糸切り痕が残る。4は底部で「ハ」字形に踏ん張った足高高台をもっている。

遺物の時期は平安時代頃のものと考えられる。

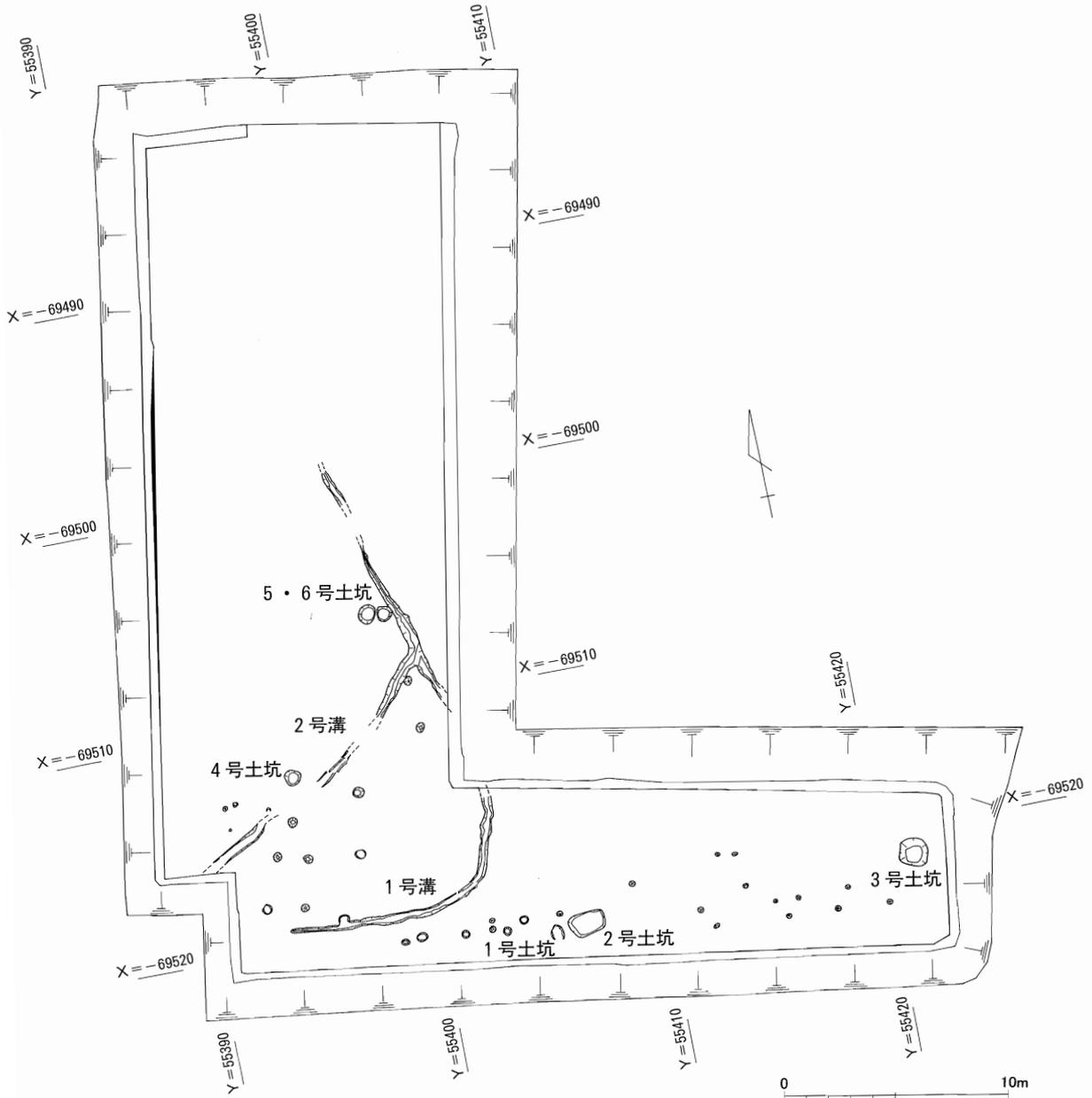
2号土坑（第66図） 1号土坑の東側に隣接するもので、隅丸長方形を呈する。大きさは長さ1.6m・幅1.1m・深さ12cm程度である。埋土は炭を含む黒褐色粘質土（1層）で、出土遺物はなかった。



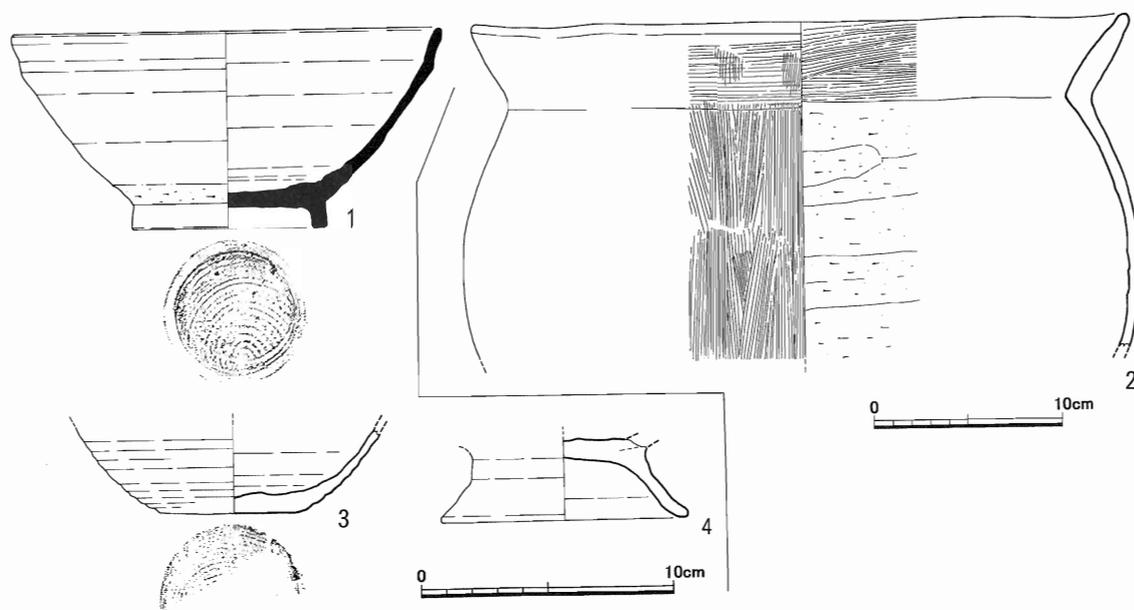
第66図 中野清水遺跡7区12層上面1号・2号土坑実測図



第67图 中野清水遺跡調査区東部12層上面遺構実測図



第68图 中野清水遺跡7区12層上面遺構実測図



第69図 中野清水遺跡 7区12層上面 1号土坑出土遺物実測図 (1:3, 1:4)

3号土坑(第70図) 調査区の東端部で検出されたもので、2号土坑から東へ13.5mのところにある。平面形は隅丸方形を呈し、各壁はあまり傾斜をもたず深く掘り込まれており、長さ125cm・幅125cm・深さ80cmである。埋土は基本的には上層より暗灰色粘質土(1層)・黒褐色粘質土(3層)・淡黒褐色粘質土(5層)の3層であるが、暗灰色粘質土(2層)と暗灰色砂質土(4層)をそれぞれ間層として挟む。土坑の底面に近いところでは、複数の石が落ち込んだ状態で確認され、白磁碗と土師器坏が出土している。

第71図1~3は白磁碗である。1は口縁が小さい玉縁をなすもので、内外面に施釉されている。2・3は底部で、2は削り出し高台をもち、底部外面以外に施釉、3は内面のみが釉が確認できる。

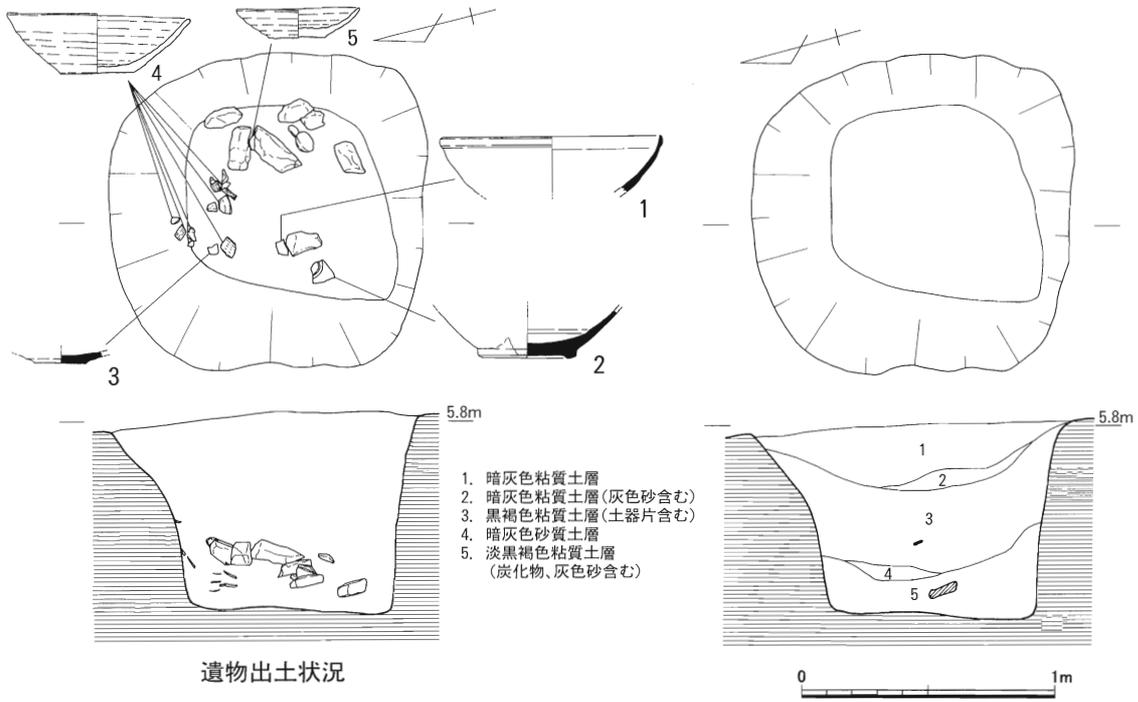
4・5は土師器坏で、外傾する口縁部をもつ無高台のものである。底面はともに回転糸切り痕が残り、5の底面には2次的な刻線がある

時期は平安時代後半のものと考えられる。

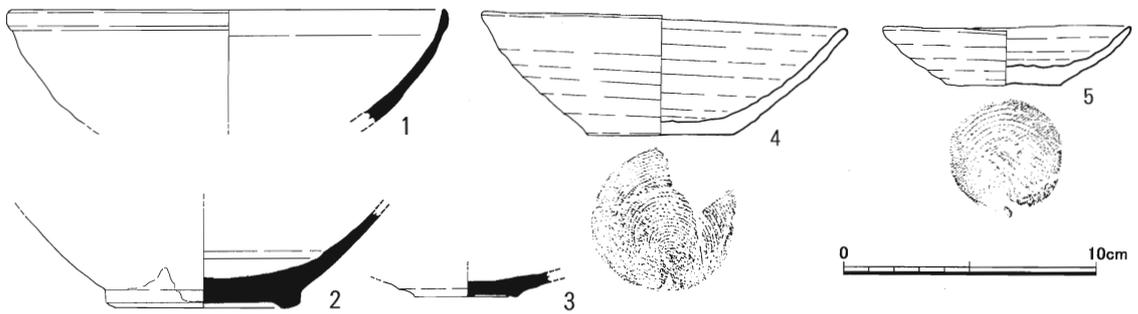
4号土坑(第72図左) 調査区の中央部、2号溝に隣接する位置で検出されたものである。平面形は歪んだ円形、横断面形は浅い皿状を呈し、径70cm・深さ8cmである。土坑の上端は一部が焼けて赤い酸化面となっており、一部は灰白色に還元されている。埋土は上層より炭・焼土塊を含む暗灰色砂質土(1層)、炭を多く含む黒褐色粘質土(2層)よりなっており、上端の状況と合わせ内部で火が焚かれたものと考えられる。4号土坑に伴うものかどうかは不明であるが、周辺では須恵器蓋坏、土師器高坏、手捏土器が出土している。

第73図1は須恵器の坏蓋で、頂部にヘラ起こし痕と「一」のヘラ記号がある。2は高坏の坏部で、内外面に赤色顔料が塗布される。3は手捏土器である。時期は古墳時代後期後半である。なお、4号土坑出土の木炭については、放射性炭素年代測定を行っており、補正¹⁴C年代で1220±60B.P.、暦年代ではAD710~890年頃と推定されている。

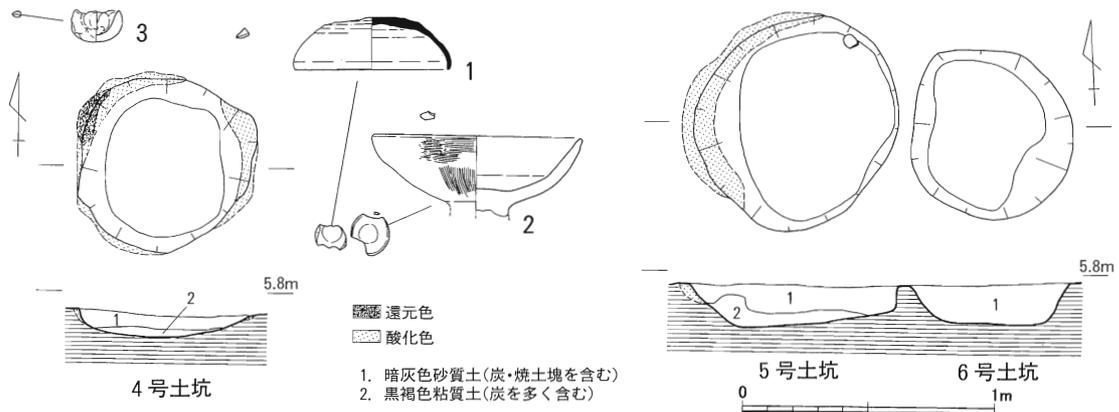
5号土坑(第72図右) 調査区の中央部、6号土坑と並び1号溝に隣接しており、4号土坑の北東7mのところに位置する。平面形はやや歪んだ円形で、横断面形は浅い皿状を呈し、径80~90cm・



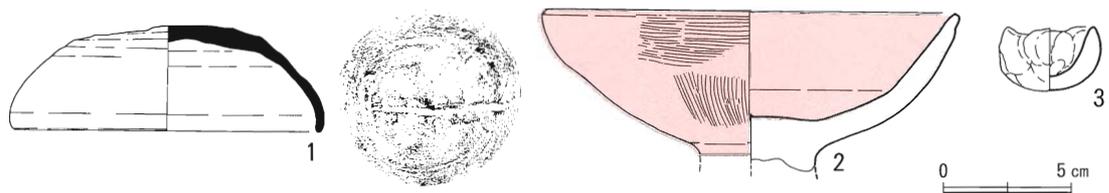
第70図 中野清水遺跡7区12層上面3号土坑実測図



第71図 中野清水遺跡7区12層上面3号土坑出土遺物実測図(1:3)



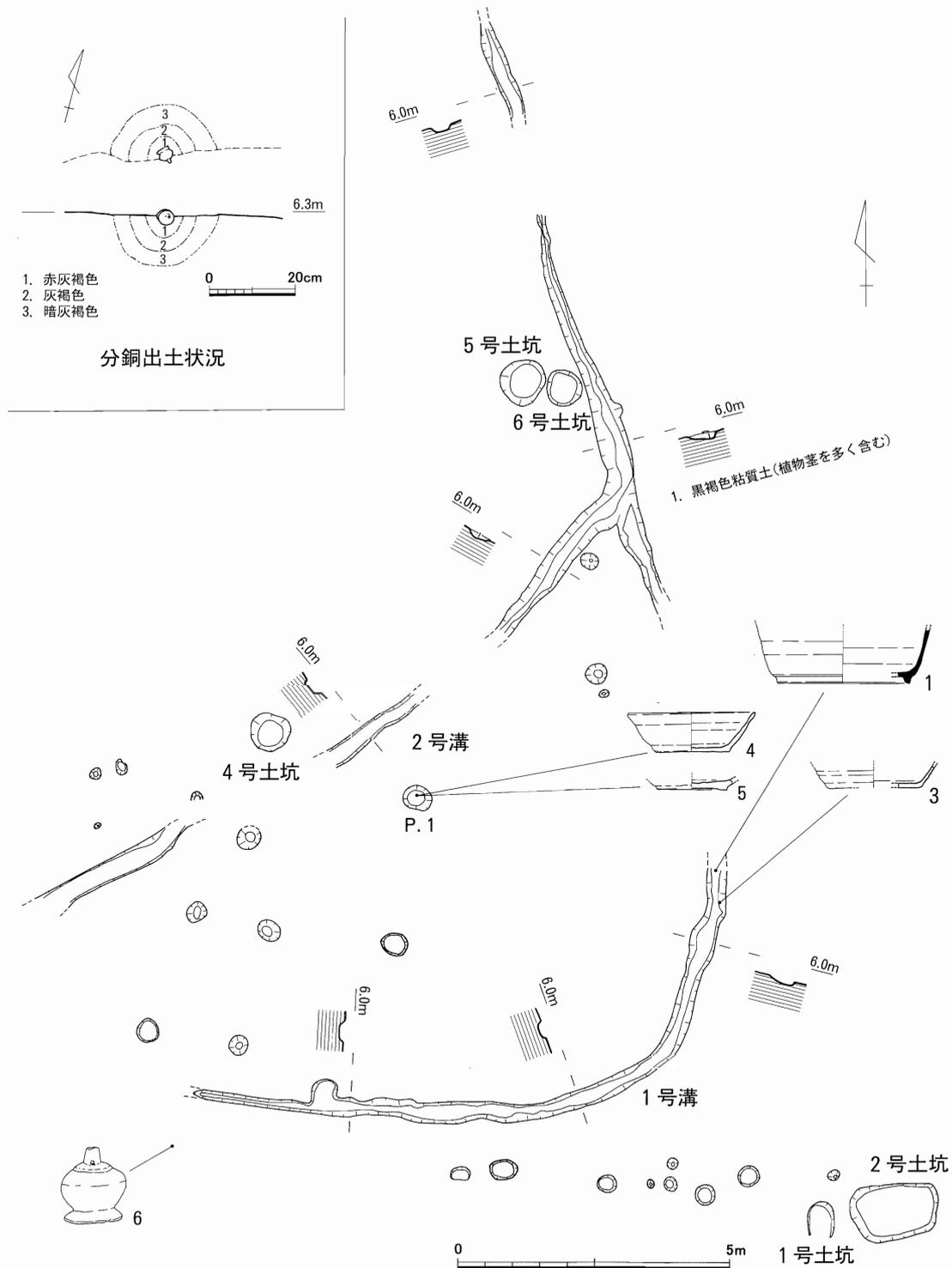
第72図 中野清水遺跡7区12層上面4号・5号・6号土坑実測図



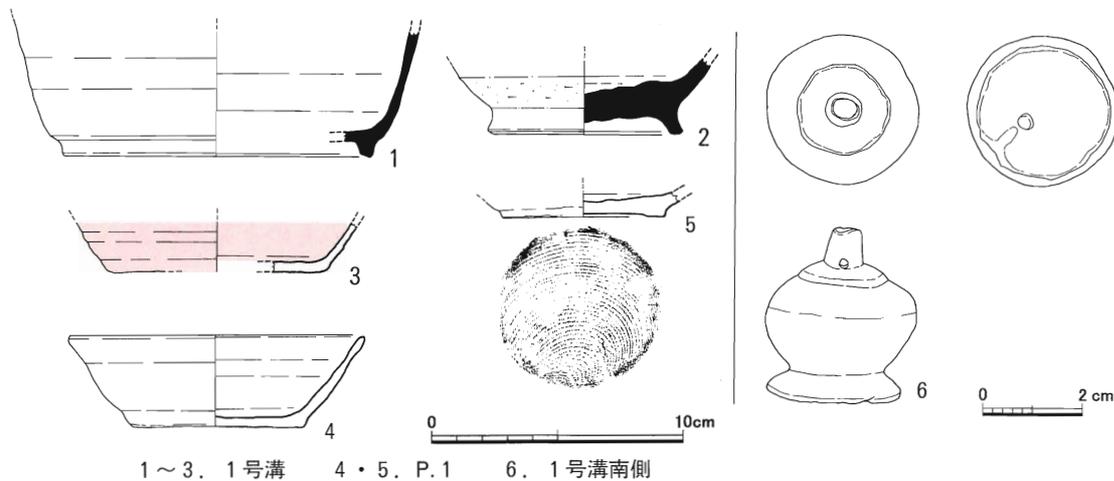
第73図 中野清水遺跡7区12層上面4号土坑横出土遺物実測図(1:3)

深さ18cmである。土坑の上端は西半部が焼けて赤い酸化面となっており、埋土は上層より炭・焼土塊を含む暗灰色砂質土（1層）、炭を多く含む黒褐色粘質土（2層）である。状況から見て、4号土坑と同様に内部で火が焚かれたものと考えられる。出土遺物は検出されていない。

6号土坑（第72図右） 調査区の中央部、5号土坑と並び1号溝に隣接しており、4号土坑の北東8mのところに位置する。平面形はやや歪んだ円形で、径64~68cm・深さ15cmである。埋土は炭・焼土塊を含む暗灰色砂質土（1層）が入るが、壁面に被熱は認められなかった。



第74図 中野清水遺跡7区12層上面1号・2号溝実測図



第75図 中野清水遺跡 7区12層上面1号溝及び付近出土遺物実測図（1：3，2：3）

1号溝（第74図） 調査区の中央部、2号溝と切り合い、5・6号土坑に隣接する位置にある。2号溝との前後関係は、2号溝の埋土を1号溝が切ることから、1号溝が後から営まれたと考えられる。

平面形は、東西方向に伸びる南辺から緩く曲がりながら北西方向へと伸びていることが確認されているが、調査区の制約もあって全形は不明と言わざるを得ない。現状で長さは30m・幅20～55cm・深さ10cm程で、埋土は植物茎を多く含む黒褐色粘質土（1層）である。幅が狭く、全体としては「L」字状を呈しており、周囲にピットが散在することから建物の周囲をめぐる区画溝または雨落ち溝のようなものであることも考えられるが、性格を明確にすることはできなかった。

遺物としては、埋土から須恵器杯・壺と土師器杯、1m南側の地点で分銅が検出された。第75図1は須恵器杯身で、直線的に外傾して立ち上がる口縁部と底部に高台を有する。2は壺の底部と見られ、底部をヘラケズリした後に高台が付けられる。3は土師器杯で内外面に赤色顔料が塗布されている。6は銅製の分銅である。出土した際には鈕を南東側に向け横倒しになった状態で確認されており、銅分が浸みだしたためか周囲は同心円状に変色していた。大きさは胴径2.9cm・底径2.6cm・高さ3.5cm、重さは103.3gで、底部は裾広がりとなり、頂部には高さ1.2cmの鈕に径2mmほどの孔がある。

2号溝（第74図） 調査区の中央部、1号溝と切り合い4号土坑と土師器が出土したP.1に隣接する位置にある。

南西から北東方向に伸びるもので、1号溝と前後関係があることは既に述べたが、1号溝の北半部は本来2号溝として掘られた可能性が高い。その場合、1号溝と同様に全体としては「L」字状を呈していたことが考えられる。現状で長さは13m・幅20～50cm・深さ5～10cm程で、埋土は植物茎を多く含む黒褐色粘質土である。

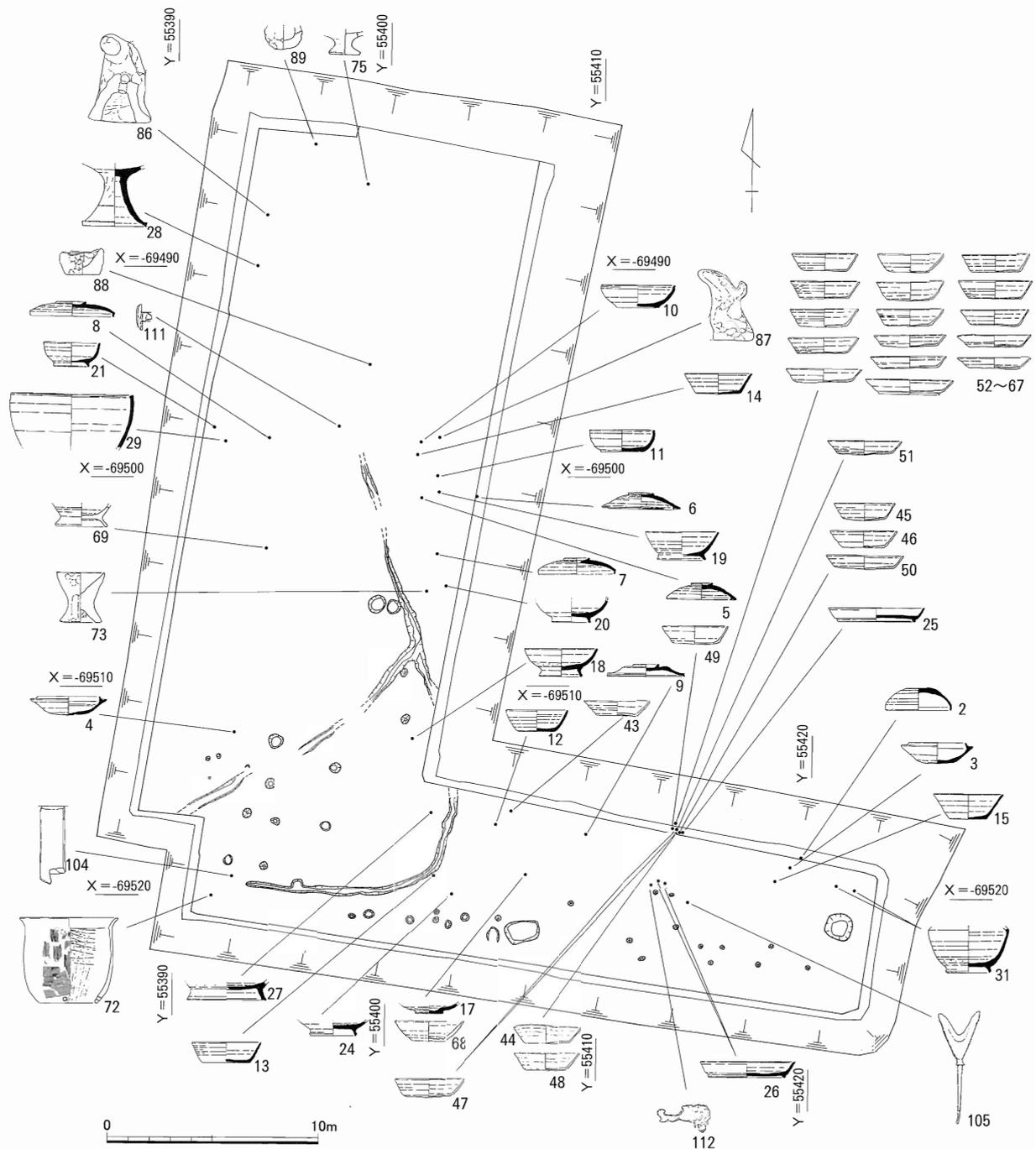
出土遺物は見られなかった。

P.1 2号溝の南側1.2mのところにあるもので、大きさは径40～50cm・深さ20cmである。内部からは土師器杯が出土している。

第75図4は外傾する口縁をもつもので、底部は指押さえである。5は底部の破片で、外面に回転糸切痕を残している。

9層遺物出土状況(第76図) 12層上面遺構面の遺物包含層である9層からは、須恵器(第77図・第78図25~31)、瓦質土器(第78図32)、亀山系(第78図33~42)、土師器(第79図)、焼塩壺(第80図76~85)、土製品(第80図86~98)、石製品(第80図99~102)、木製品(第81図103・104)、鉄製品・鉄滓(第81図105~107・109~111)、銅製品・銅塊(第81図108・112)が出土した。古墳時代後期の遺物が一部含まれるが、その主体となるのは奈良・平安時代のもものと見られる。

このうち、土師器第79図44~67は調査区東側の北トレンチ内でまとまって確認されたことから、何らかの遺構に伴う一括遺物の可能性が高いが、調査区の制約から明らかにできなかった。その他の遺物は、調査区内からまんべんなく出土しており、特に集中する部分などは見られなかった。



第76図 中野清水遺跡7区9層遺物出土状況実測図

須恵器 第77図1～4は蓋坏である。1・2は坏蓋で、ともに頂部にヘラ起し痕を留めるものであるが、1は口縁と頂部の境に2条の沈線を入れる。3・4は坏身で、内傾する低いかえりを有しており、底部にはヘラ起こし痕が残る。

5～9は頂部に輪状つまみが付く坏蓋である。5・6は口縁にかえりをもつが、7・8は屈曲するだけとなり、9は僅かに肥厚するのみである。頂部は回転ヘラケズリで調整されるが、9は輪状つまみの内側に回転糸切痕を残す。8は内面に焼成前に記された「×」印のヘラ記号がある他、6は内面に漆が付着している。

10～17は無高台の坏身である。10・11は口縁が丸みを帯び端部が僅かに屈曲するもの、12～15は口縁が外傾する。17は底部が突出した特徴をもち、切り離しは13はヘラ切りであるが、他は回転糸切りである。16の内面には漆が付着している。

18～24は高台付の坏身である。いずれも丸みを帯びた体部を有し、18・19・21の高台周辺には回転ヘラケズリが見られる。切り離しは20・24が静止糸切り、22が回転糸切りで、その他は回転ナデ調整されている。また、20は焼成前に竹管文が2つ押されている他、24は「大」とヘラ書きされており、22・23には判読できないが墨書がある。

第78図25・26は高台付の皿で、ともに外傾する口縁の端部に面をもち、底部の切り離しはヘラ切りである。27は底部で、高い高台をもち、周囲には回転ヘラケズリが施される。28は高坏で、外面にしぼり目が見られる。29は鉢で、口縁端部が肥厚する。30・31は壺である。30は頸部外面に竹管文が施され、肩部外面は平行タタキの後カキメ、内面には同心円状の当て具痕が残る。31は壺の体部で、高台の周辺には回転ヘラケズリが施され、底面には静止糸切り痕が残る。

瓦質土器 第78図32は瓦質焼成の碗皿底部で、蛇の目高台をもつ。

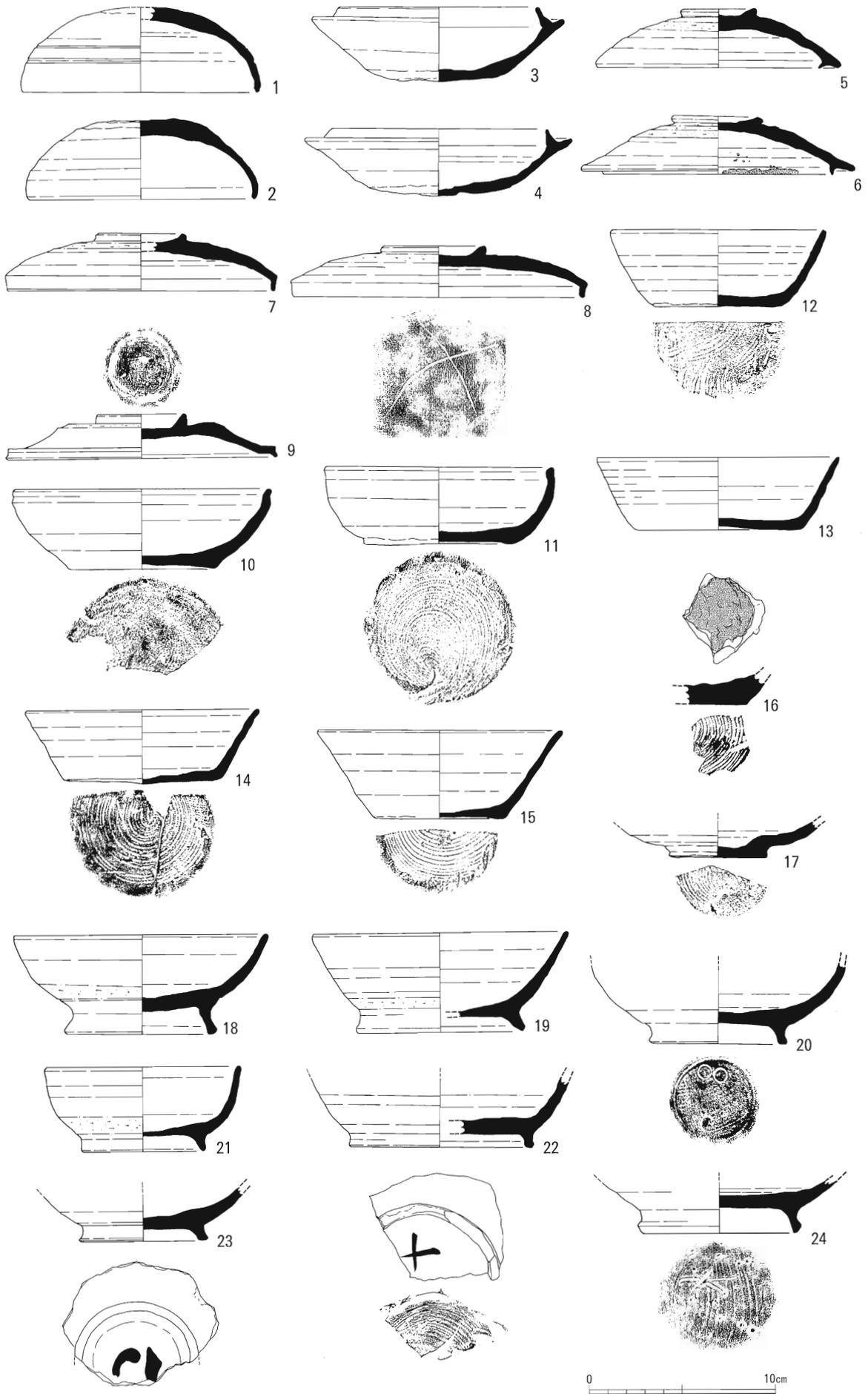
亀山系 第78図33～42は亀山系の壺または甕である。33は口縁、34は頸部の小片であるが、外反する口縁をもつものと見られる。体部外面はいずれも格子タタキ、内面は当て具痕をハケメまたはナデにより消している。タタキの格子目は一辺5～6mmと大きいもの(34・36・38・42)、一辺3～4mmと小さいもの(35・37・39～41)が見られる。

土師器 第79図43～49・52～61は無高台の坏、50・51・62～66は無高台の皿である。前者は口径12～13cm・器高3～3.5cm前後、後者は口径13.5～14cm・器高2.2～2.9cm前後に揃った規格品である。底部には指圧痕が残り、ハケメまたはナデで調整されており、いずれも内外面に赤色顔料が見られる。67は高台付の皿で、底部に低い高台が付く。やはり指圧痕があり、内外面に赤色顔料が塗布される。68は無高台の坏であるが、底面に回転糸切痕が残る。69・70は足高高台付の坏で、高台内面に回転糸切痕が残る。75は柱状高台付皿で、底面に回転糸切痕が残る。

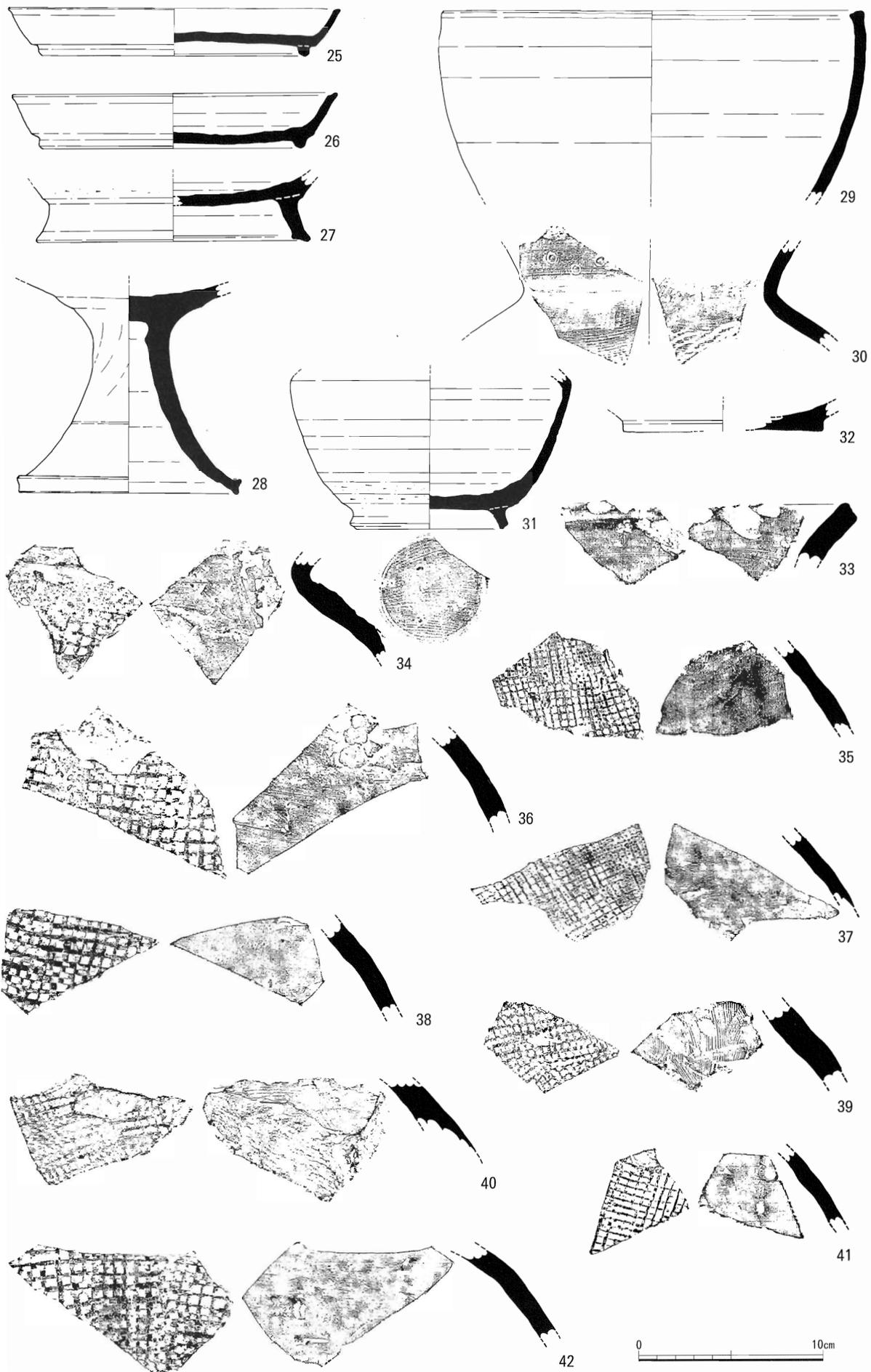
71は甕で、「く」字形に曲る口縁をもつ。口縁外面には指圧痕が多く残り、肩部はハケメ、内面はケズリである。72は甕で、緩く外反する口縁をもち、下端部付近に円孔がある。調整は外面がハケメ、内面はケズリである。73・74は高坏である。73は外面に指圧痕が残る手捏ね成形で、74は厚手であるが外面に赤色顔料が塗布される。

焼塩壺 第80図76～85は焼塩壺である。いずれも小片であるが、砲弾形の器形を採るものと見られ、外面には指圧痕、内面は横ナデで、77・78・80の外面には型作りで生じたと縦皺が残る。

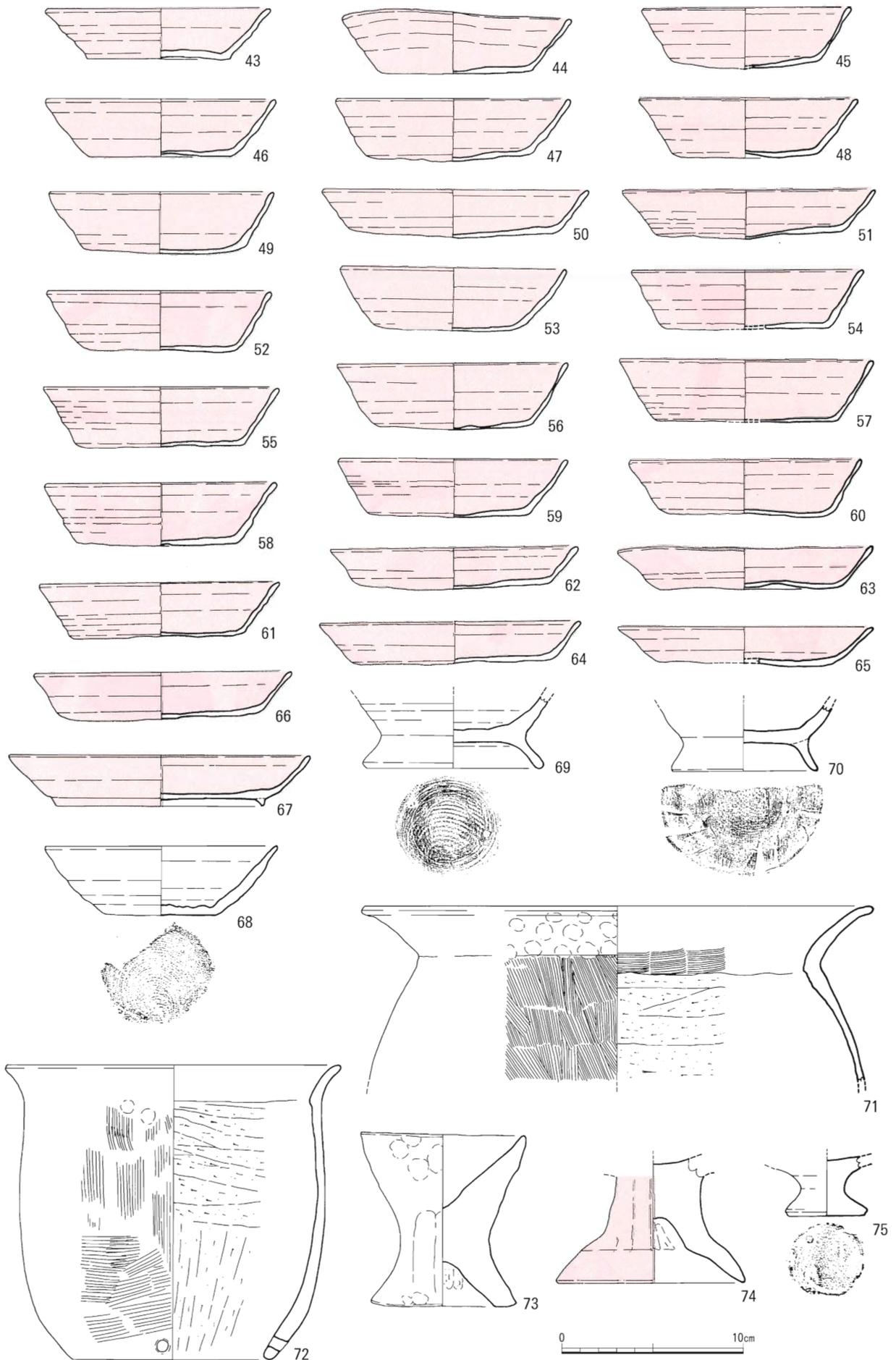
土製品 86・87は土製支脚である。86は内刳より上に向け「T」字形に孔があり、突起部分が被熱して赤褐色化する。87は小形で背面に小突起が付く。88～94は手捏土器、95・96は土馬、97・98



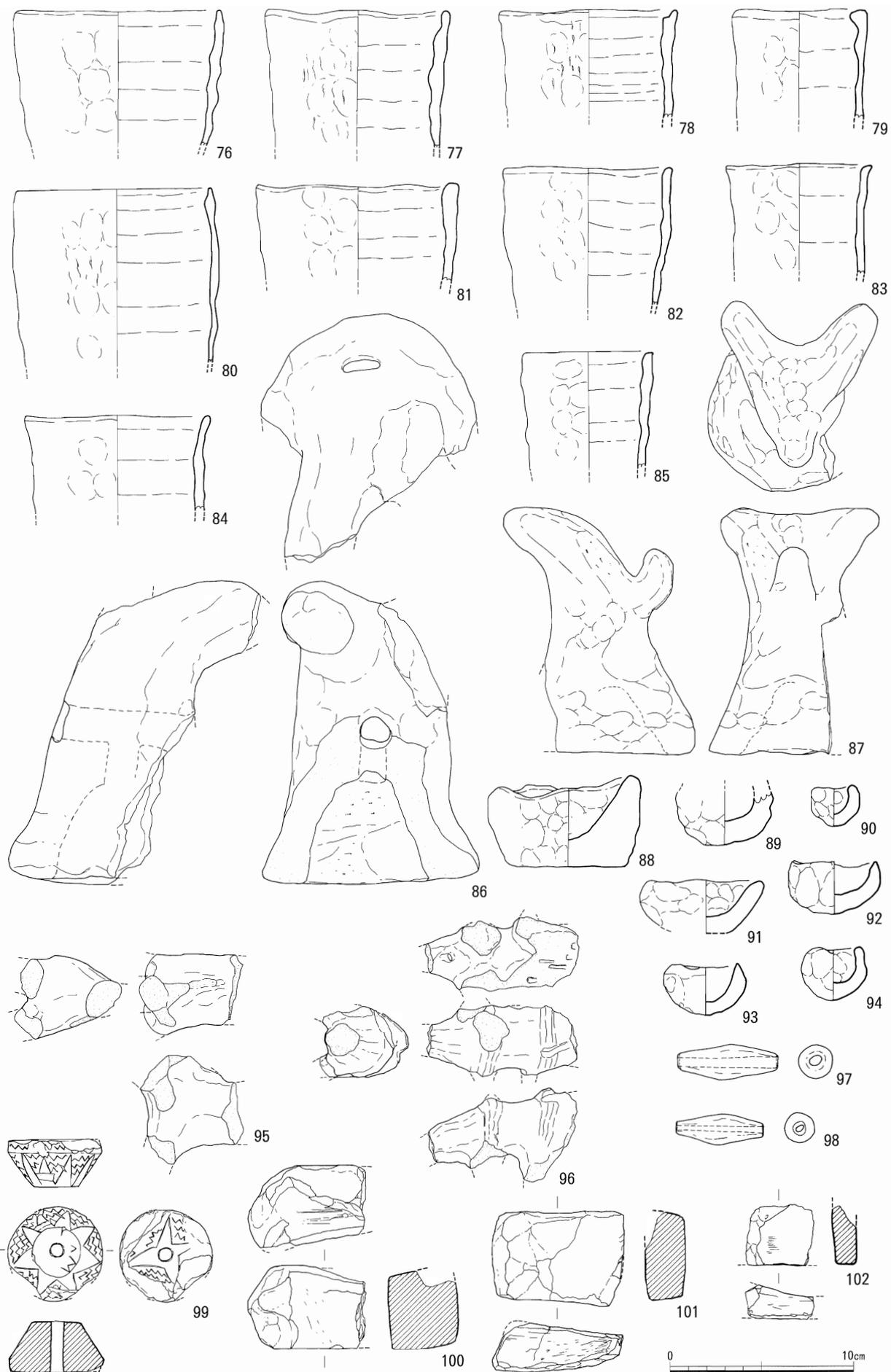
第77図 中野清水遺跡7区9層出土遺物実測図1 (1:3)



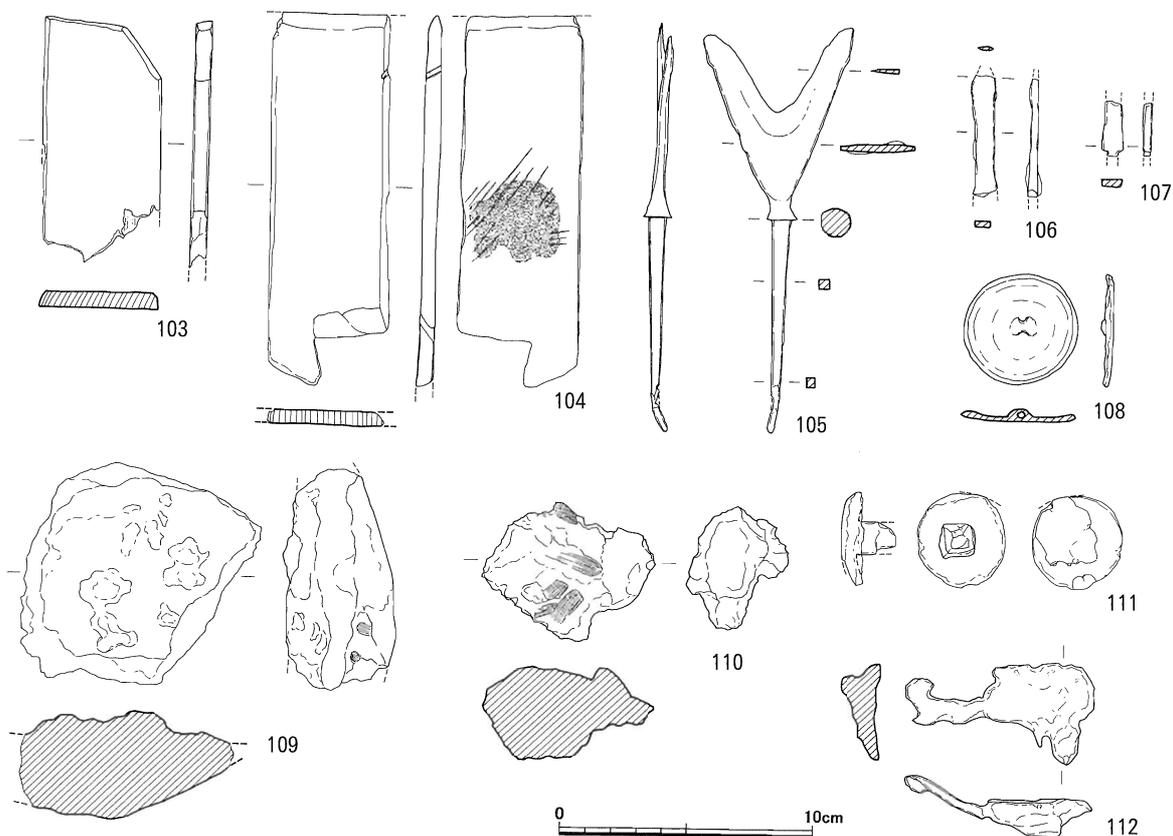
第78図 中野清水遺跡 7区 9層出土遺物実測図 2 (1:3)



第79図 中野清水遺跡 7区 9層出土遺物実測図3 (1:3)



第80图 中野清水遺跡7区9層出土遺物実測図4 (1:4)



第81図 中野清水遺跡7区9層出土遺物実測図5 (1:3)

は土錘である。土馬のうち95は裸馬であるが、96には鞍の表現がある。

石製品 99は紡錘車で、鋸歯文の入った三角文が浅く線刻されている。100～102は砥石で、各面に使用痕があり、100・101は凝灰岩、102は流紋岩である。

木製品 第81図103は折敷の破片で、樹種はスギである。104は板材で、端部が三角形に加工され、付近に孔が1ヶ所あけられる。一部に利器痕や焼損が見られる。

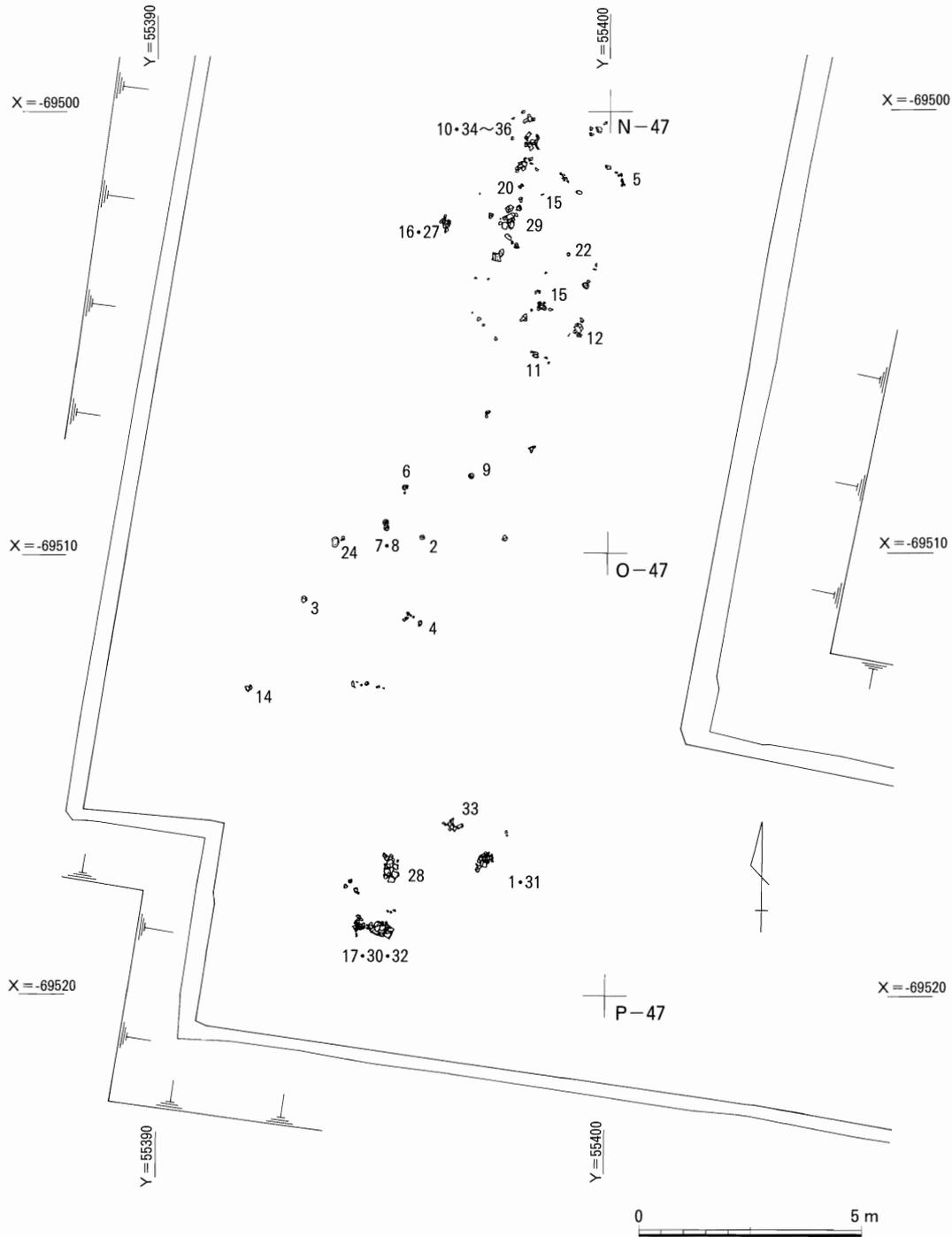
鉄製品・鉄滓 105～107は鉄鏃である。105は鋒部が二股になった仮股鏃で、107は関部分が僅かに残る。111は鋌で、頭部は円形、茎は方形である。109は椀形鍛冶滓で、低チタン砂鉄の製錬系鉄塊を原料に精錬鍛冶を行った際に生じたものである。110は炉壁溶融物で、炉壁や羽口が溶融したガラス質滓である。2cm大の木炭痕が残るため、非鉄金属の溶解に関連する可能もある。

銅製品・銅塊 108は小形の銅鏡である。径4.5cmと小さく、背面には鈕が付くが文様は見られない。分析の結果、錫が添加された可能性は低く、精錬しきれなかった白鍍が残るなど純度の低い銅素材で鑄造されている。112は流動状になった銅塊で、錫が極微量が含まれるが、純銅に近い組成をもつ⁽¹⁾。

以上の遺物の時期は、1～6・18・19が古墳時代後期後半～末、7～16・20～31・43～67が奈良時代～平安時代初め、32～42・68～70・75が平安時代である。椀形滓や銅塊など金属器生産関連遺物の時期は不明な点があるが、出土状況から見て奈良・平安時代のものと考えられる。

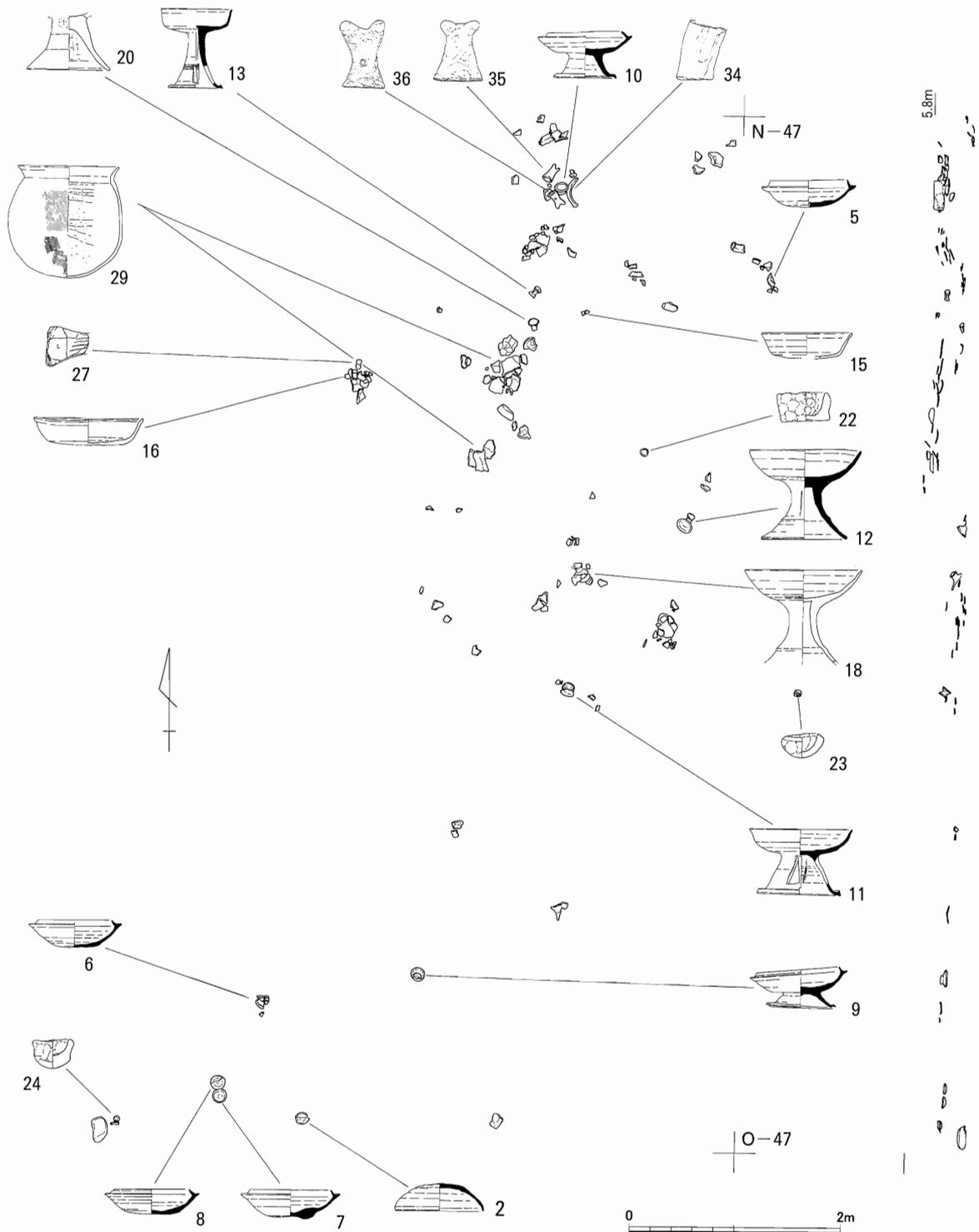
(4) 12層・13層

12層・13層上面遺物出土状況 13層上面は、調査時には地下水が遺構面に浸み出すような状態で遺構面が軟化しており、精査を行ったものの遺構を把握できなかった。しかし、遺物の出土状況(第82～84図)を見ると、土製支脚(35・36)が須恵器高坏(10)と並べて置かれたり、土師器甕(28)や甑(30)が潰れたような状態で出土するなど、13層上面が遺構面と考えられる。この地点は土製支脚や甕・甑・竈を含むあり方から、古墳時代後期の集落跡の一部と見られるが、後述するように下層の14層上面では、13層上面から掘り込まれたと見られる古墳の周溝も確認されている。



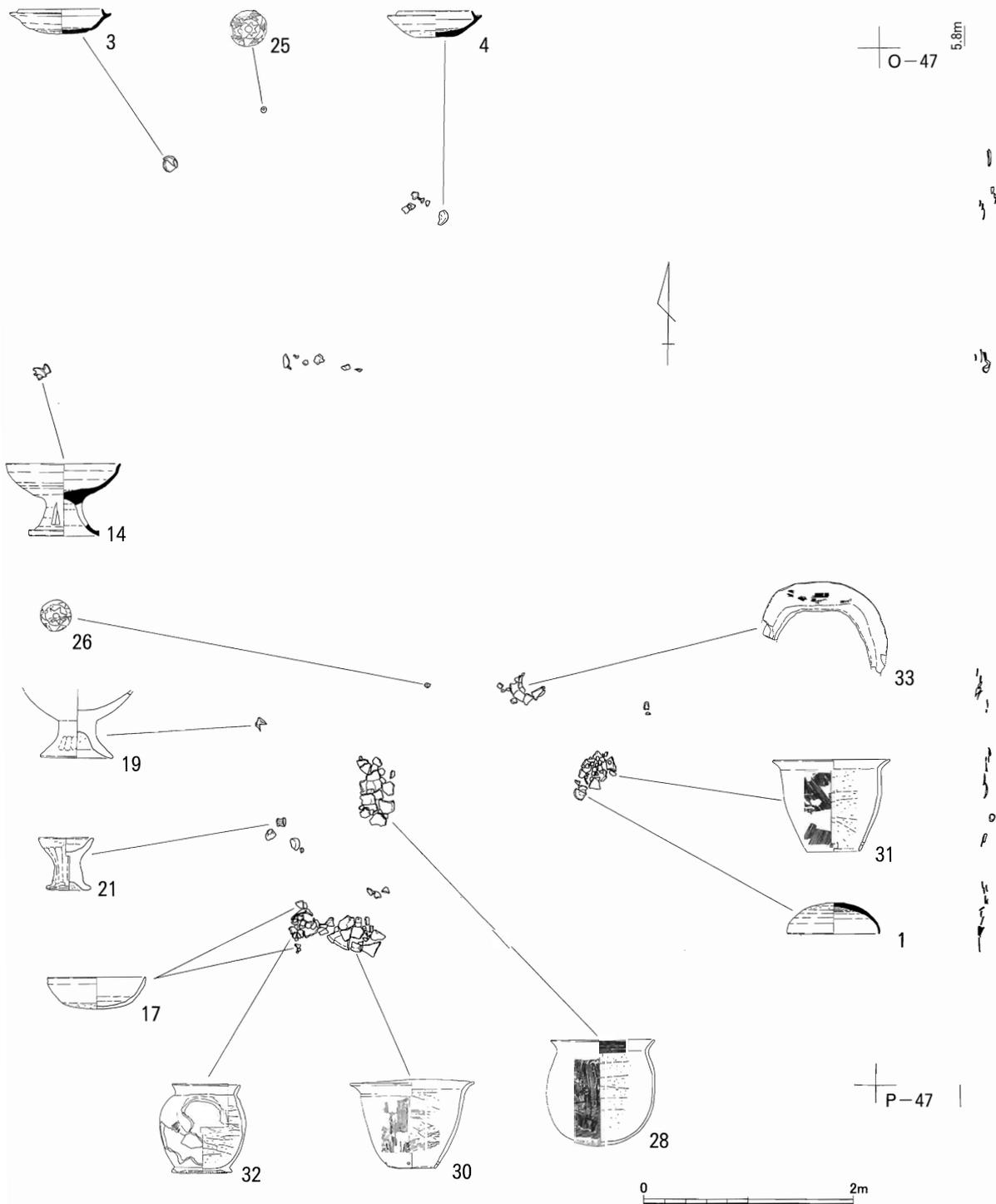
第82図 中野清水遺跡7区12層及び13層上面遺物出土状況実測図1

須恵器 第85図1～8は蓋坏である。1・2は坏蓋で頂部にヘラ起こし痕を残すが、1は浅い回転ヘラケズリが施される。3～8は内傾する低いかえりをもつ坏身で、底部にヘラ起こし痕があるが、3～5は浅いヘラケズリがある。9・10は低脚の有蓋高坏で、坏部口縁に内傾した低いかえりを有する。11～14は無蓋高坏である。11・14は低脚で三角形と線状の透孔を2方向にもつ、12は坏部が丸みを帯び長脚の外面に稜をもつ特徴があり、透孔を模した沈線を1方向にもつ。13は長方形と線状の透孔を2段2方向にもち、坏部下面に刺突文が施される。

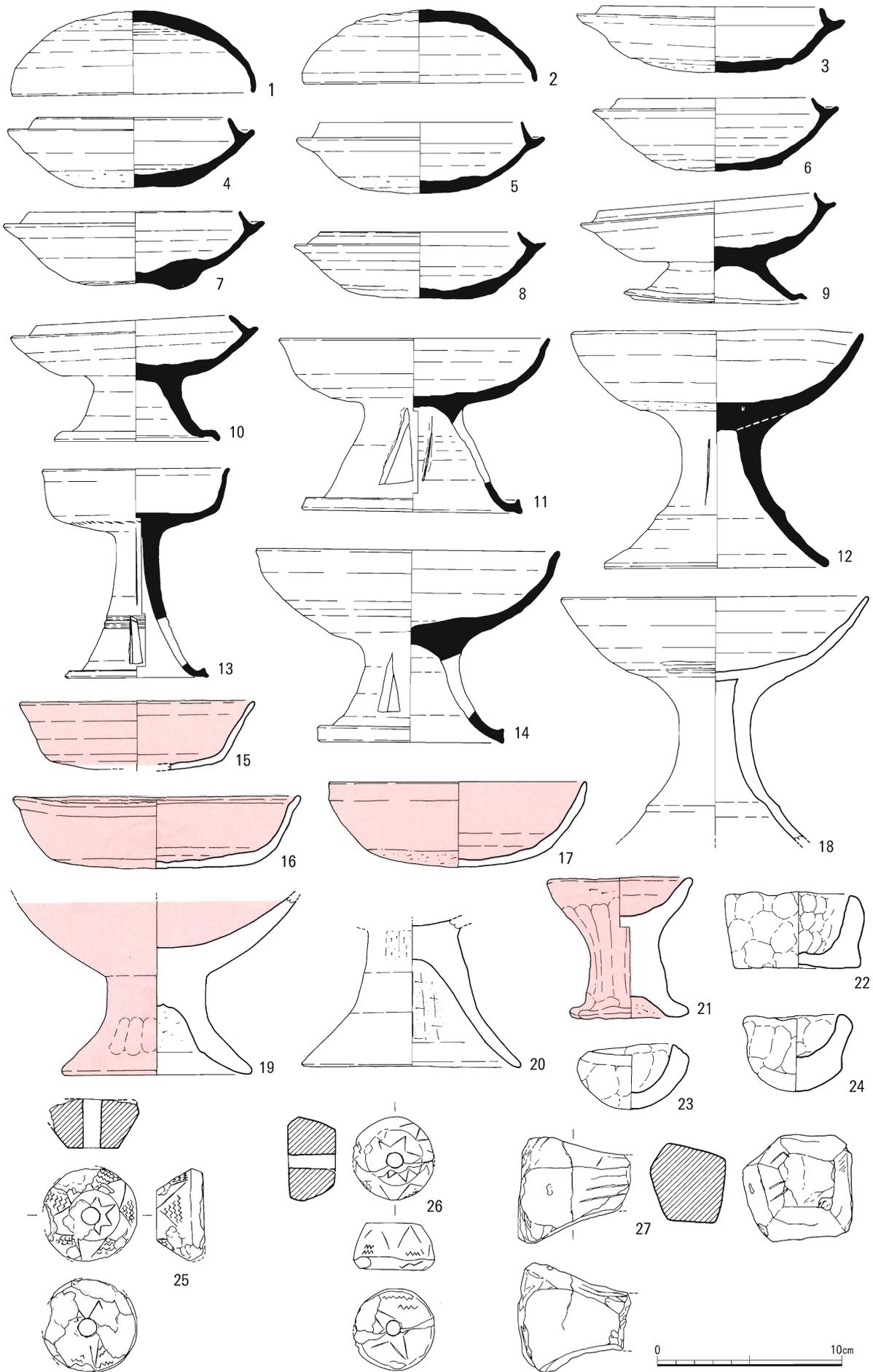


第83図 中野清水遺跡7区12層及び13層上面遺物出土状況実測図2

土師器 15~17は坏である。15・16は外傾する口縁、17は内湾する口縁をもち、16の端部には稜が見られる。底面に押圧痕、16はヘラ切り状の痕跡、17は不整方向のケズリをもち、内外面に赤色顔料が塗布される。18~20は高坏である。18は坏部が丸みを帯び長脚の外面に稜をもつ須恵器(12)と共通する特徴をもつ。19・20は厚手の脚部をもち、前者は坏部内面と外面に赤色顔料が塗布される。28・29は甕で、「く」字形の口縁と丸底をもつ。28の外面はハケメのみであるが、29はハケメの後ナデまたは部分的に粗いミガキが施される。30・31は甕で、ともに外反する口縁をもち、30は



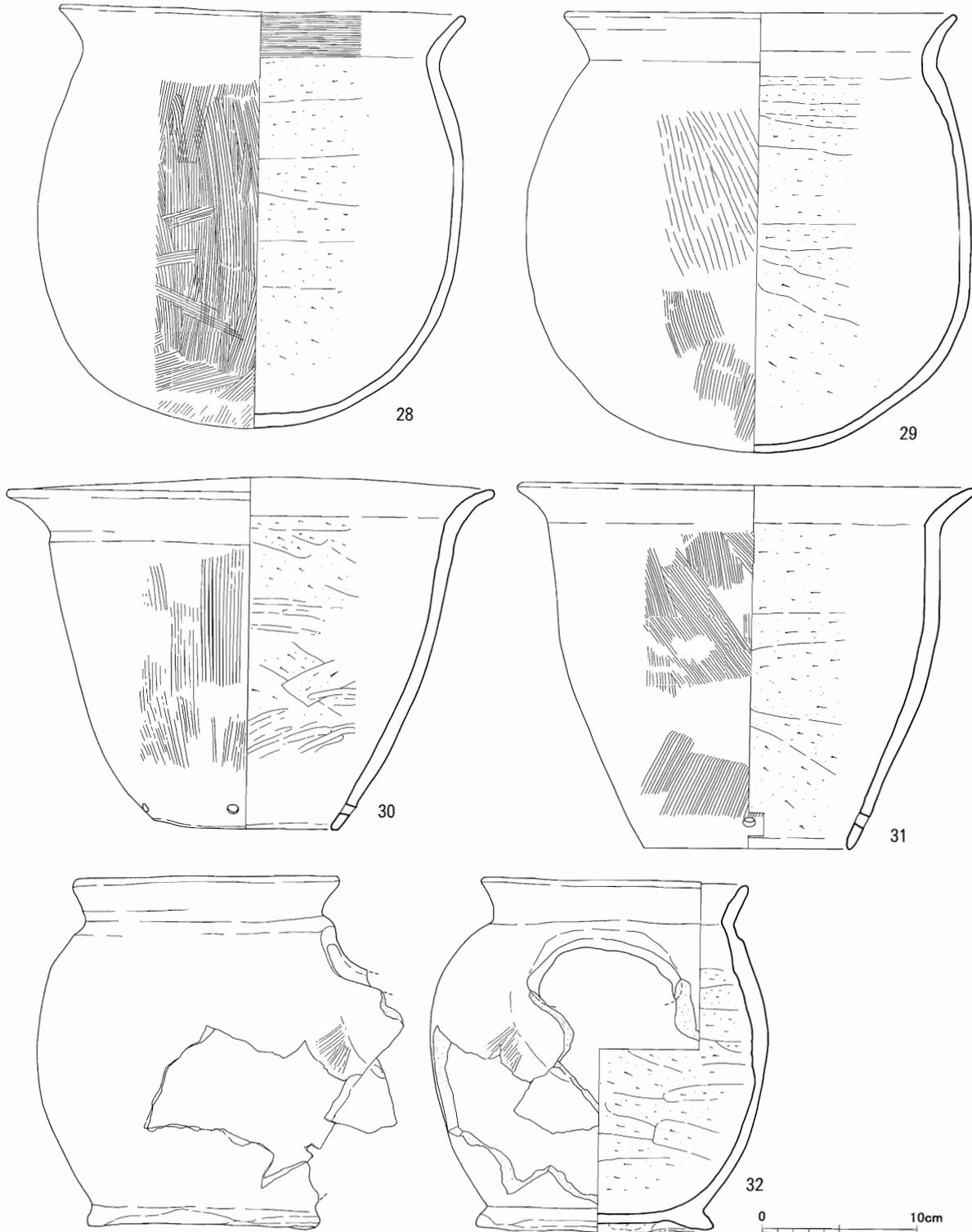
第84図 中野清水遺跡 7区12層及び13層上面遺物出土状況実測図 3



第85図 中野清水遺跡7区12層及び13層上面出土遺物実測図1 (1:3)

下端部に2孔1対の円孔が向かい合う位置に2組あることが確認できる。32は外傾する短い口縁と平底の底部には高台が付き、胴部に開口部がある特異な土師器である。外面はハケメの後ナデ、内面はヘラケズリが入る。

土製品 21～24は手捏ね成形されたものである。21は高環状を呈するもので赤色顔料が塗布されており、22は平底、23・24は丸底の粗製品である。33・34は竈で、前者が焚き口部、後者は裾部である。前者は廂に使用時の煤が付着しており、後者は廂の剥離痕が残る。35・36は土製支脚で、突

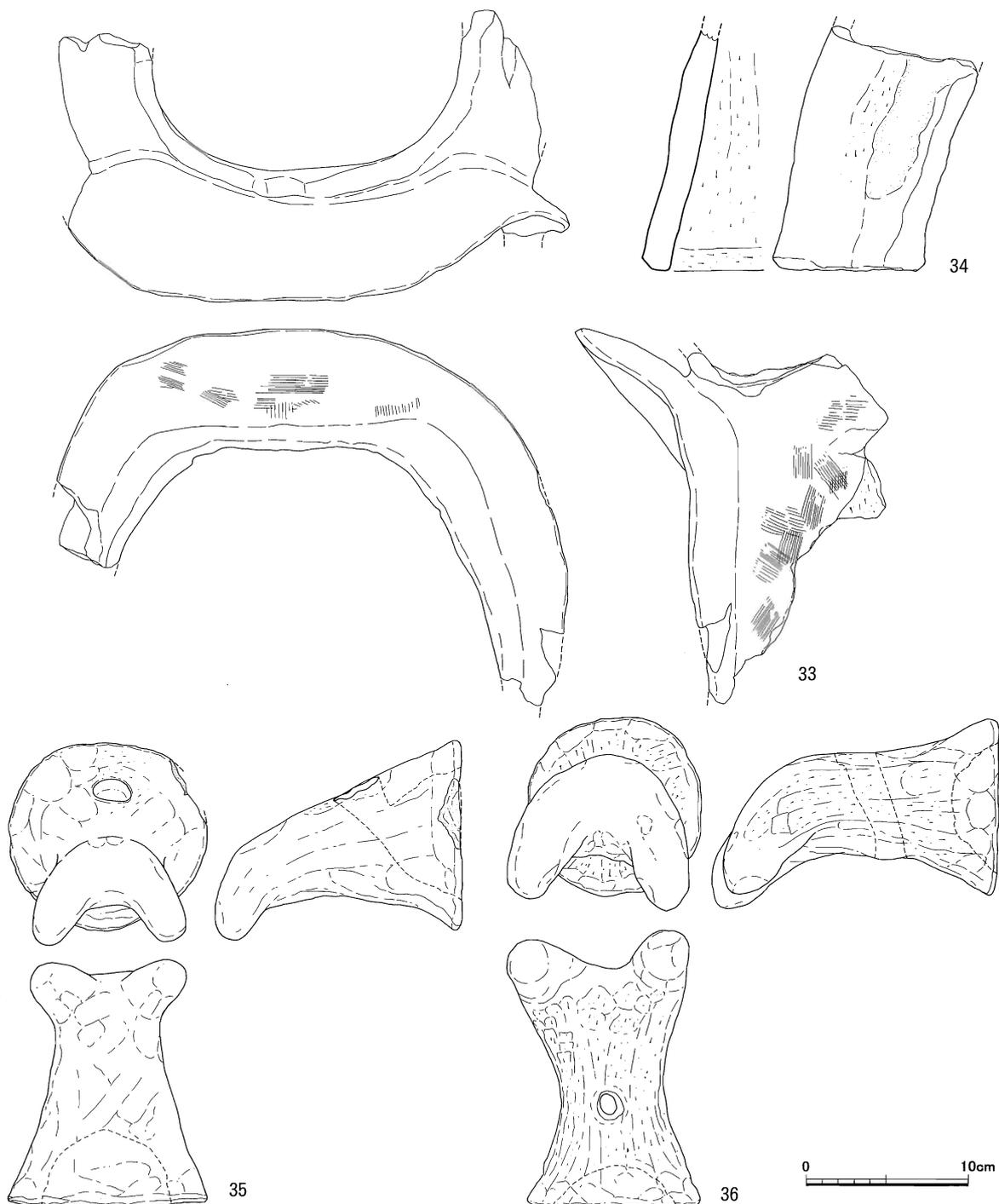


第86図 中野清水遺跡7区12層及び13層上面出土遺物実測図2 (1:4)

起が2つ付いており、35は背後から内刳へ繋がる孔、36は背後から前面に繋がる孔をもつ。

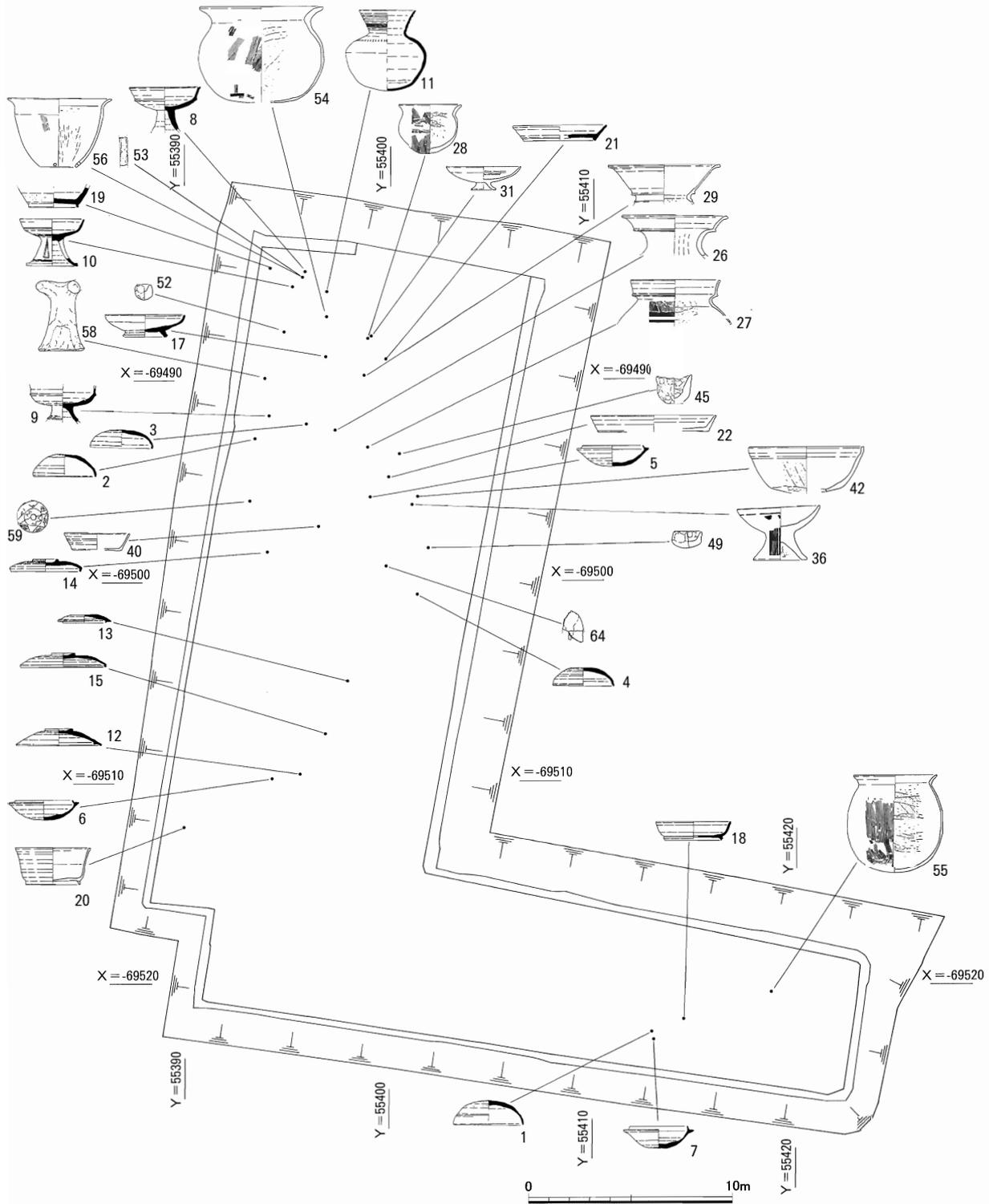
石製品 25・26は紡錘車である。ともに三角文に鋸歯文を入れた文様を細く陰刻されており、重さは25が59g、26は46gである。27は砥石で、端部を含め各面がよく使い込まれており、一部に線状の利器痕が認められる。石材は凝灰岩である。

以上の遺物の時期は、1～14・17が古墳時代後期、15・16は奈良時代頃のものと思われる。土師器甕・竈、土製支脚、砥石については、遺物の共伴関係から30～32、34～36は古墳時代後期、27は奈良時代のものと考えられる。



第87図 中野清水遺跡 7区12層及び13層上面出土遺物実測図3 (1:4)

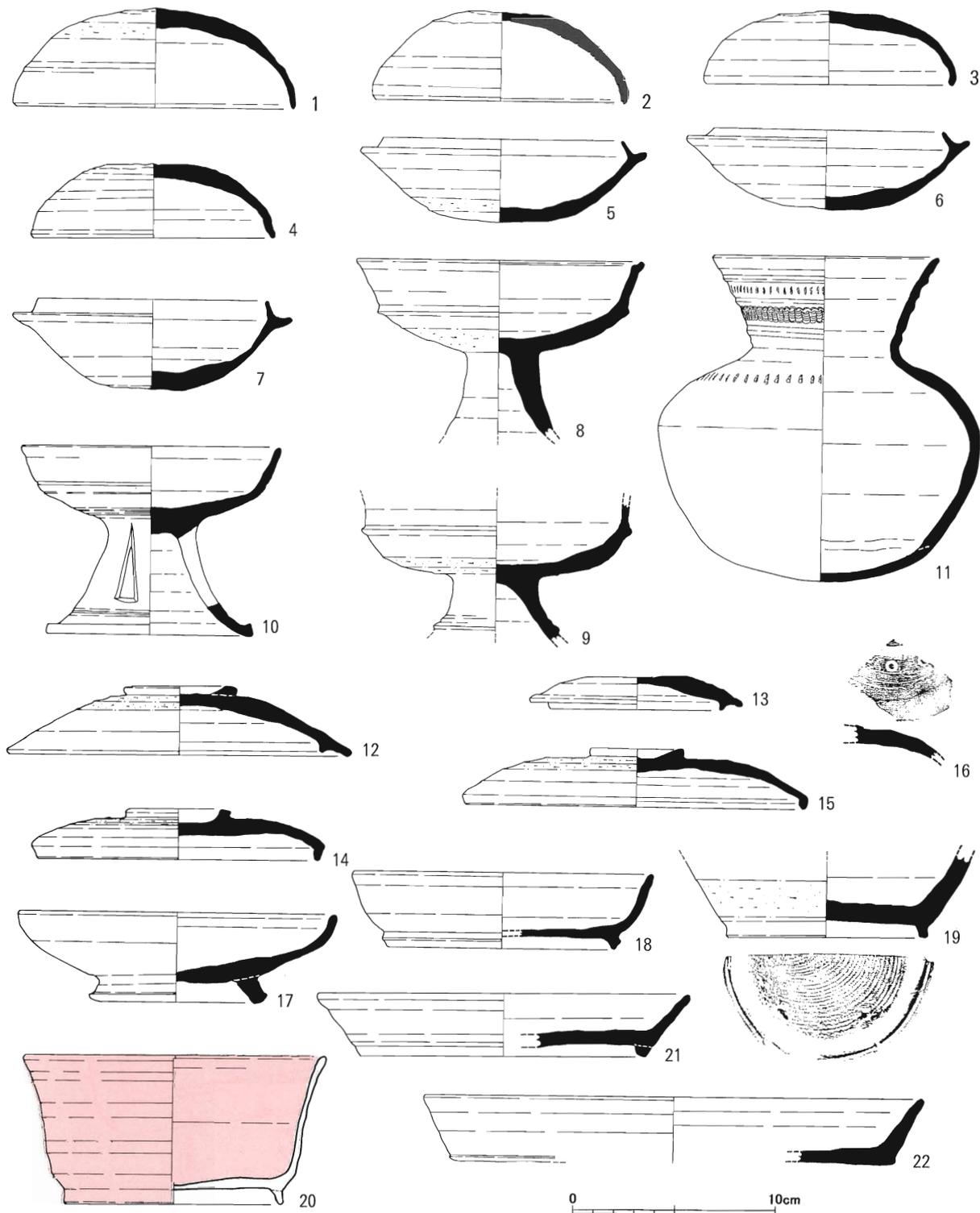
12層・13層遺物出土状況 12層は13層上面の遺物包含層に当たり、13層は14層上面の遺物包含層となる。12層及び13層より出土した遺物の中には、古墳時代前期・後期、奈良時代のものが含まれるが、古墳時代後期の遺物は本来13層上面から掘り込まれていた遺構、奈良時代の遺物は12層上面から掘り込まれていた遺構に伴うものであった可能性が考えられる。しかし、精査を行った際には遺構として認識できなかったため、ここではそれぞれ遺物包含層中に含まれたものとして扱った。



第88図 中野清水遺跡7区12層・13層遺物出土状況実測図

遺物の出土地点は、調査区の東側よりも中央部から北側を中心に分布しているが、遺構の存在を示すような遺物のまとまりは認識できなかった。出土遺物には弥生土器（第90図23・24）、土師器（第89図20、第90図25～42、第91図54～57）、須恵器（第89図1～19・21・22）、焼塩壺（第90図43・44）、土製品（45～53・第91図58）、石製品（59～62）、木製品（63）、鉄製品（64）がある。

弥生土器 第90図23は甕の口縁部である。頸部が「く」字状に屈曲し、口縁は上下に肥厚して凹線文が入るもので、外面肩部に斜行刺突文が施される。内面頸部にはミガキ、それ以下にはケズリ



第89図 中野清水遺跡 7区12層・13層出土遺物実測図1 (1:3)

が入る。24は高坏などの脚部と見られ、外面には稜線と凹線文がある。

土師器 25・26は壺である。25は内傾する短い複合口縁をもち、頸部は外面にハケメ、内面はナデで、それ以下にはケズリが入る。26は外反する複合口縁をもつもので、頸部内面にナデがある。27・28は甕である。27はやや外傾する複合口縁をもち、端部には面をもつ。肩部外面は縦方向のハケメのち、横方向のハケメ、内面はケズリである。28は「く」字状に屈曲する口縁をもち、底部は僅かに平底を残す。外面調整はハケメ、内面はケズリである。

29は鼓形器台で、短い筒部をもち、器受部は横ナデである。30は高坏で、椀状の坏部をもち、脚の接合部には刺突痕のある粘土板が充填される。31低脚坏である。32～34は小形丸底壺である。32は口縁が開き肩が張らないものである。33・34は肩が張り外傾する口縁をもち、34は内外面ともナデで、外面に赤色顔料が見られる。35は小形の坏状のもので、内外面にケズリがある。

36～38は高坏である。36は厚手で坏部が丸みを帯びるのに対し、37は薄手で坏部外面に段をもち、脚の接合部に粘土が充填される。38は長脚で外面に稜をもつものである。39・40は坏で、39は底部にヘラ切り痕を残すが、40は指圧痕があり、赤色顔料が塗布される。第89図20は高台付の坏で、内外面に赤色顔料が見られる。41は椀で、外面はハケメ、内面はケズリののちミガキで、外面に褐色顔料が見られる。42・57は鉢である。42は外面にはケズリ、内面はナデで、内外面に赤色顔料が塗布される。57は外面はハケメ、内面はケズリの後、粗いミガキである。54・55は外反する口縁と丸底をもつ甕で、胴部外面はハケメ、内面はケズリである。

須恵器 第89図1～7は蓋坏である。1～4は坏蓋で、いずれも頂部にヘラ起こし痕があり、1は口縁と頂部の境に稜が付く。5～7は坏身で、内傾する短いかえりを有し、底部にはヘラ起こし痕が残る。8～10は高坏である。8・9は坏部外面に稜をもつ同形態のもので、8は口唇に段、9は脚部外面に稜をもつ。10は三角形透孔を3方向にもち、坏部下面にカキメがある。11は直口壺で、口縁に刺突文と波状文、肩部に刺突文をもち、底部は丸底である。

12～16は坏蓋である。12・13は口縁にかえりをもち、前者は頂部に輪状つまみが付く。14・15は口縁が直立し、頂部に輪状つまみが付く。16は頂部片で、つまみの一部と竹管文が残る。17・18は高台付の坏である。17は内外面に「×」と「/」状のヘラ記号があり、18の底部はヘラ切りである。19は壺の底部で、回転糸切痕が残る。21は高台付の皿で、ヘラ切り痕がある。22は盤である。

焼塩壺 第90図43・44は焼塩壺で、外面は指圧痕、内面は横ナデである。

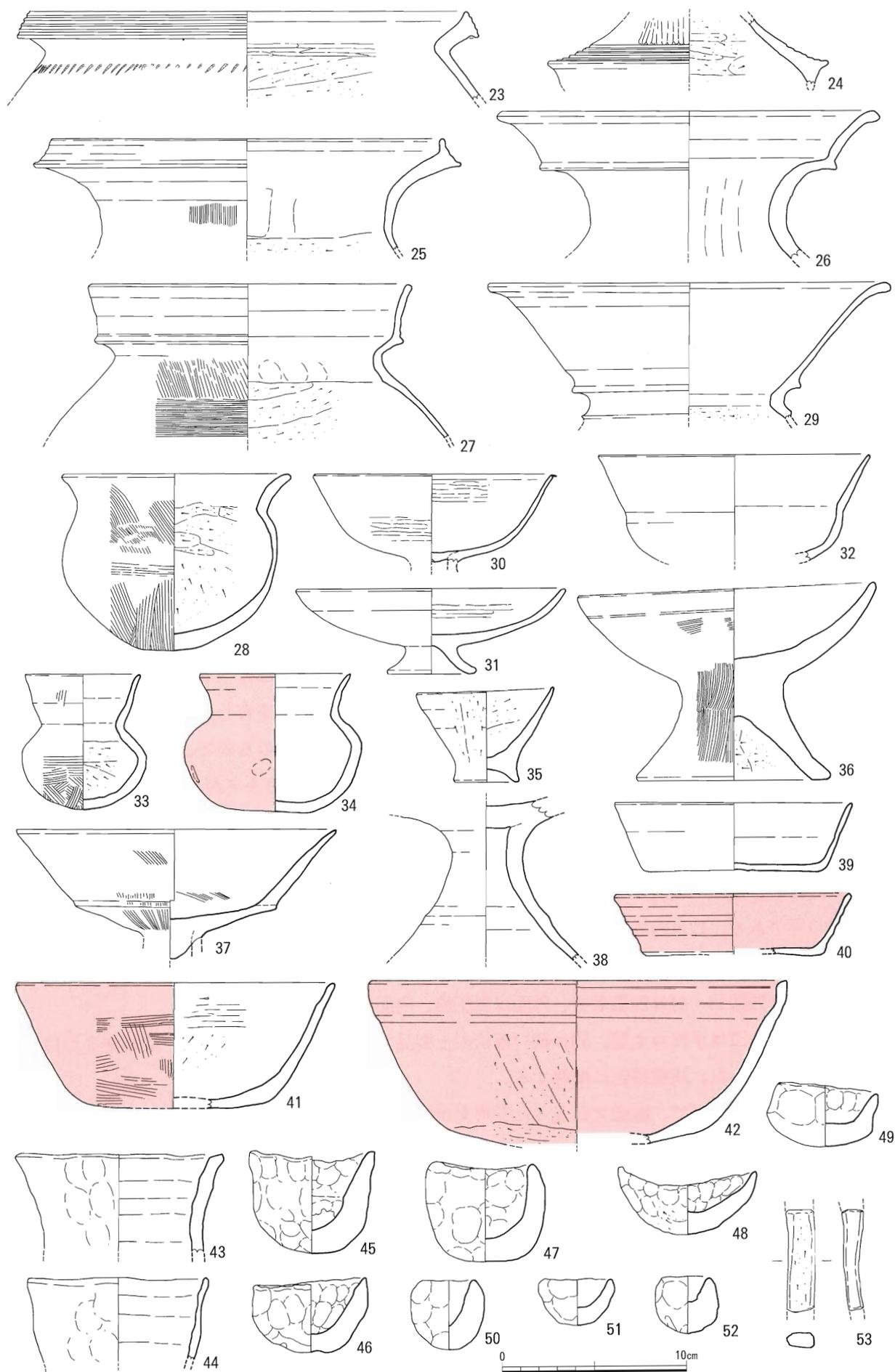
土製品 45～52は手捏ね土器、53は細い板状の土製品である。58は土製支脚で、突起が3つ付いていたものと見られ、淡橙褐色に被熱する。

石製品 59は紡錘車で、鋸歯文が入った三角文が浅く陰刻される。60・61は砥石で、全面がよく使用されており、60には利器痕が残る。62は緑色凝灰岩の板材で、管玉製作に関わるものと見られる。長側面に調整剥離と研磨、両面に研磨があり、端部には両面から擦切溝を設け折り取られた痕跡がある。片面には擦切溝が残り、幅は6mm単位で折り取られたことが分かる。

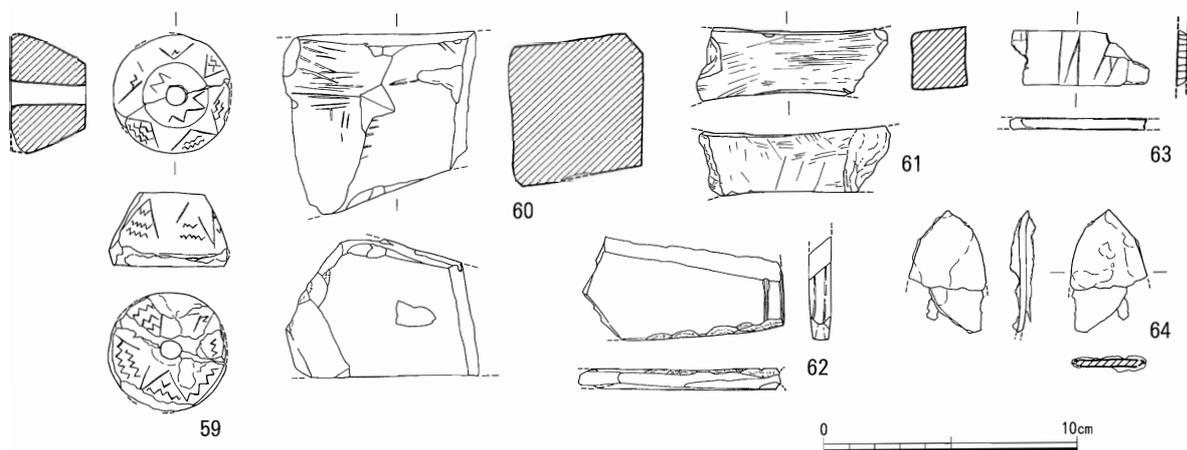
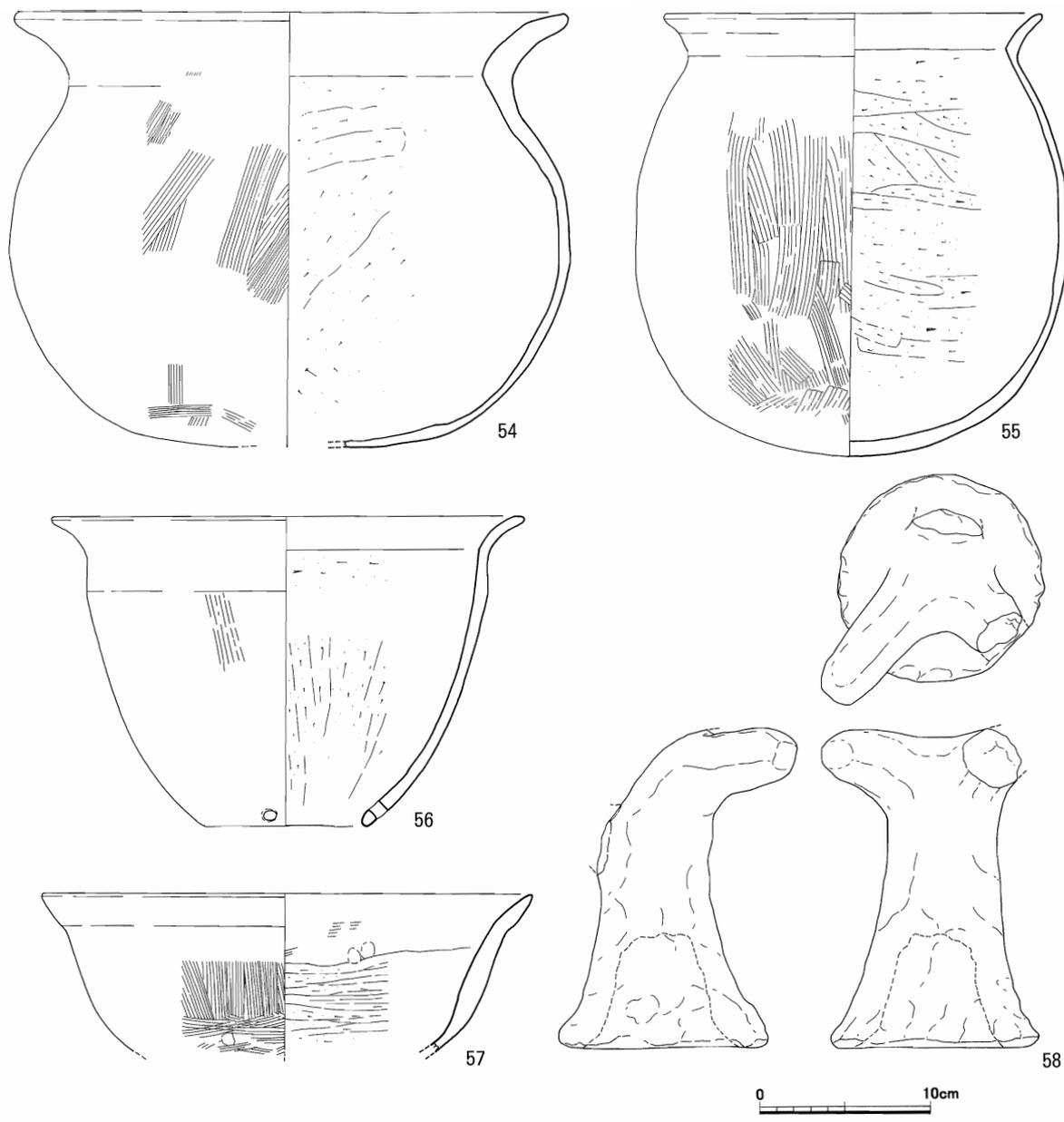
木製品 63は曲物の側板と見られ、縦方向に浅いケビキがあり、樹種はスギである。

鉄製品 64は鉄鏃の鋒部と見られるが、茎などは欠損する。

以上の遺物の時期は、23・24が弥生時代中期後葉～後期前葉、25～32が古墳時代前期、8・9・11・33・34・37が古墳時代中期、1～7・10・12・13・17・36・38が古墳時代後期後半～末、14・15・18～22・39・40が奈良時代のものと考えられる。



第90図 中野清水遺跡 7区12層・13層出土遺物実測図2 (1:3)

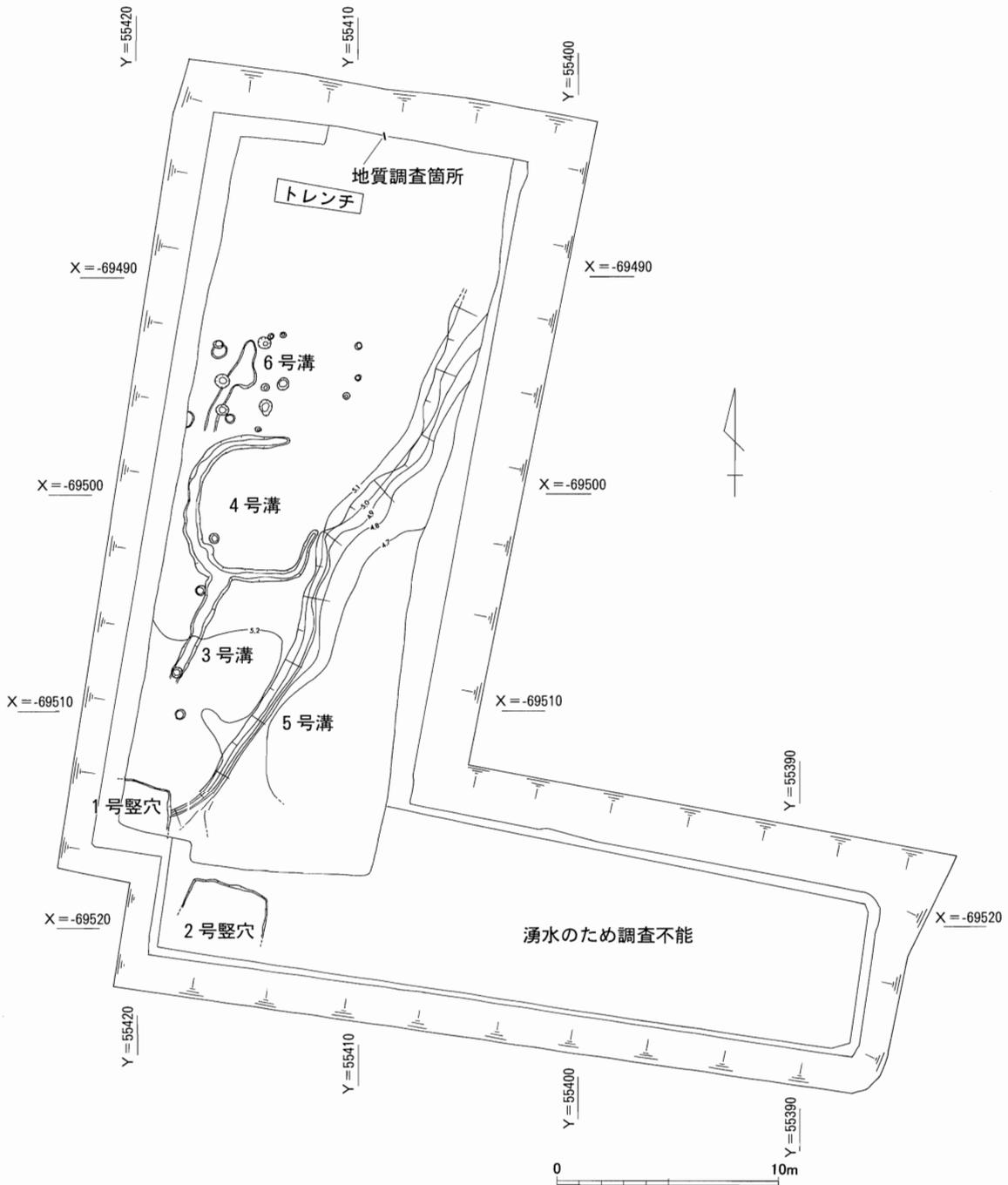


第91図 中野清水遺跡7区12層・13層出土遺物実測図3 (1:4, 1:3)

(5) 14層上面

14層上面では調査区の西側を中心として、竪穴2基と溝4条のほかピットが検出されている。調査区の東側でも同時期の遺物が出土しており、遺構は東側にも広がっていたことが予想されるが、この地点は調査中に湧水が多量に出たことから調査区を保全するため急遽埋め戻しており、状況を把握することができなかった（第92図）。

また、この面は地盤が軟弱であるため、地震の際に液状化現象が起こったことを示す噴砂が数ヶ所で確認された。写真図版49-3は調査区北側に設けたトレンチ西壁に見られた噴砂で、下層から砂が上ったことが分かる。また、トレンチの北側では地質調査を行っているが、採取した土層資料（第3図No.1）の他、6区（同図No.4）でも噴砂が確認でき、14層の下層にある細砂が噴き上がった



第92図 中野清水遺跡7区14層上面遺構実測図

ている。噴砂は古墳時代前期の遺構面に見られることから、地震はそれ以降に起こったものと考えられるが、噴砂の上部が未確認であり、時期は特定し難い。

地盤が軟弱な出雲平野では、山持川川岸遺跡・藤ヶ森南遺跡・蔵小路西遺跡でも噴砂が報告されており、時期の特定はできないが、藤ヶ森南遺跡のものは近世後期の可能性が考えられている⁽²⁾。

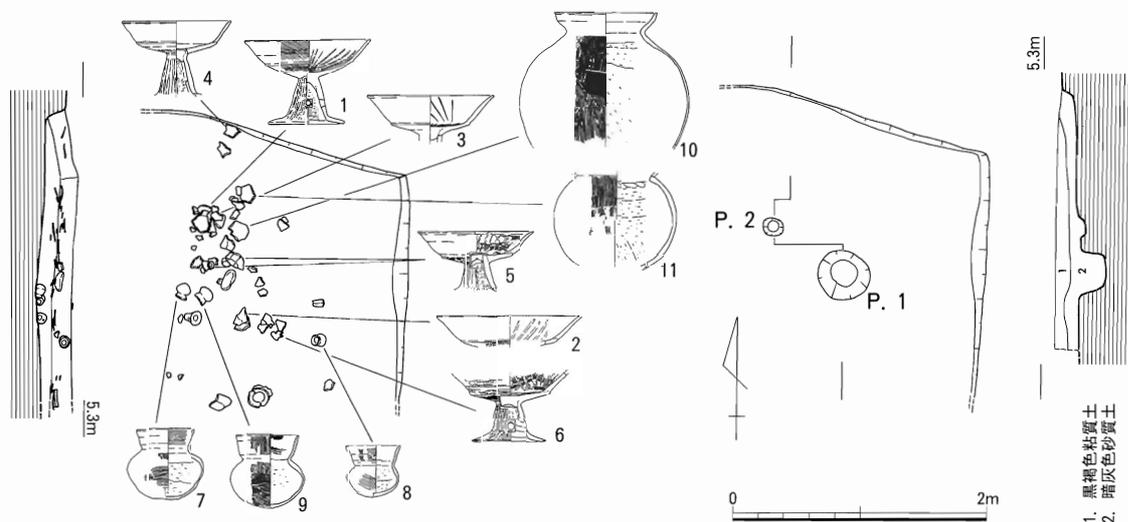
1号竪穴(第93図) 調査区の東南部で検出されたもので、南西側2mのところには2号竪穴がある。5号溝とは重複する関係にあるが、5号溝より先に確認されていることから、5号溝→1号竪穴の順に営まれたと考えられる。

平面形は北東の隅部のみ明らかになっているため定かではないが、北辺・東辺とも直線的でほぼ直交することから方形を呈するものと見られる。規模は現状で一辺2.0m・深さ10~20cmである。埋土は上層から順に黒褐色粘質土(1層)、暗灰色砂質土(2層)の2層よりなる。床面ではピットが2つ検出されており、P.1は径40cm・深さ20cm、P.2は径15cm・深さ10cmである。竪穴の形状から方形の竪穴住居である可能性があり、その場合P.1は支柱穴の1つと見られるが、調査範囲の制約により遺構の全形が把握できないため、ここでは竪穴遺構として扱うこととする。

遺物は竪穴の中央部で土師器が比較的まとまって出土しており、床面に接する位置に小形丸底壺3個体があった他、床面よりやや浮いたところで高坏・甕が破片の状態で検出された。

第94図1~6は高坏である。坏部はいずれも口縁外面に稜があり、全体に丸みを帯びる1以外は屈曲する形態をとる。内面は4以外には放射状の暗文が施される。1・6は裾が広がる脚部の形状が分かるもので、筒部には円形透孔が4方向に設けられている。坏部と脚部の接合は坏部中央に充填された突出部を脚部に差し込んで行われたようで、1・4・5・6では突出部の粘土を脚部内面でナデ潰す。調整は1の坏部外面がハケメ、6はハケメののちミガキとナデが加えられており、5・6にハケメが見られる。脚部は外面がミガキ、内面はケズリである。

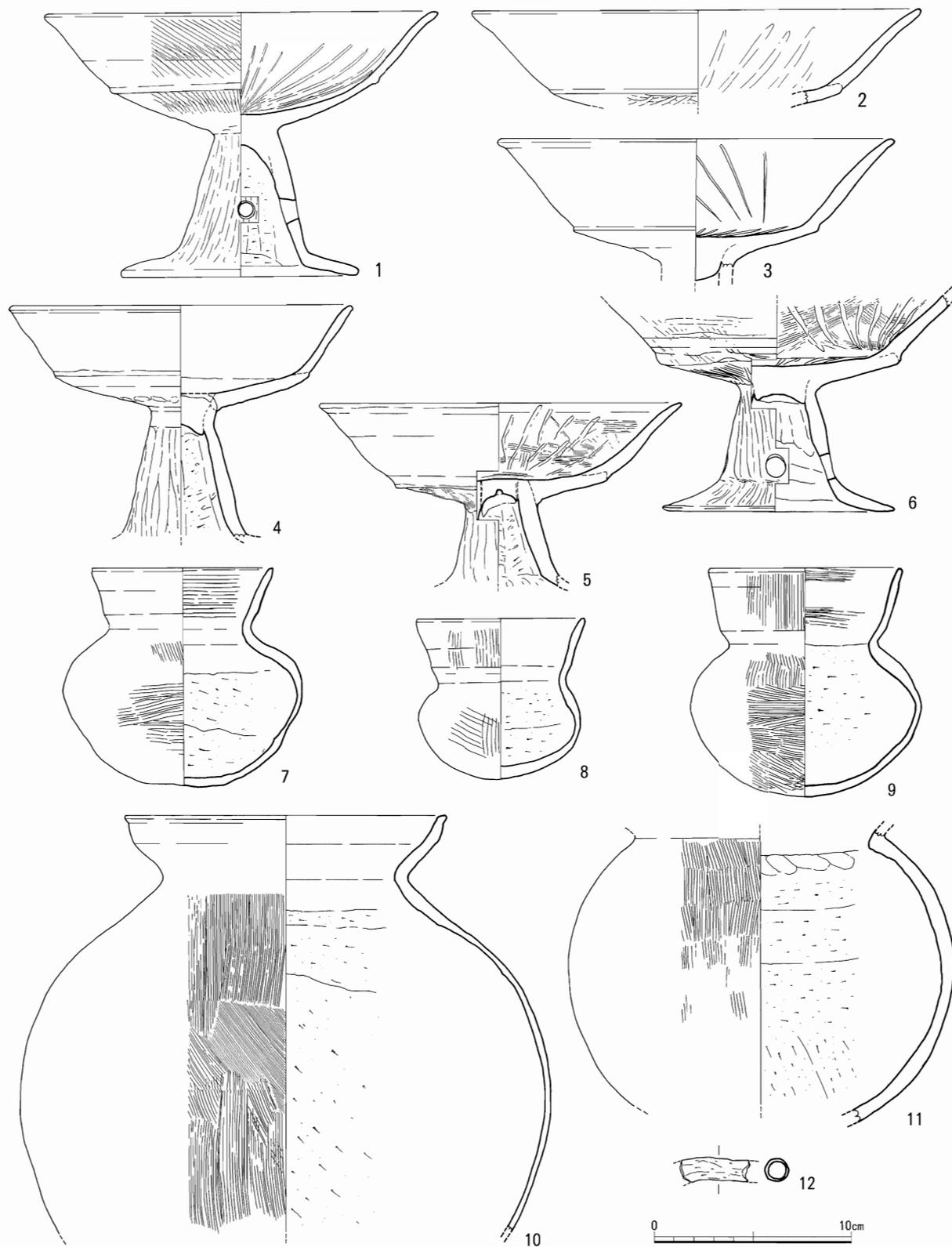
7~9は小形丸底壺である。7と9は器高11.2cm・11.7cmとほぼ同じ大きさであるが、8は器高8.2cmとやや小さい。いずれも外傾する口縁と肩が張り丸底の胴部をもつもので、口縁下半部に稜線をもっている。外面胴部はハケメ、口縁は8・9にハケメがあり、内面は7・9の口縁にハケメ、頸部以下はヘラケズリである。



第93図 中野清水遺跡7区14層上面1号竪穴実測図

10・11は甕である。10は口縁外面が複合口縁の名残りを残すように膨らみ、端部は平坦となる。ともに胴部外面はハケメ、内面はケズリである。12は管状の土製品で、外面にケズリが見られるが、両端は欠損する。

以上の遺物の時期は、古墳時代中期前半と考えられる。



第94図 中野清水遺跡7区14層上面1号竪穴出土遺物実測図(1:3)

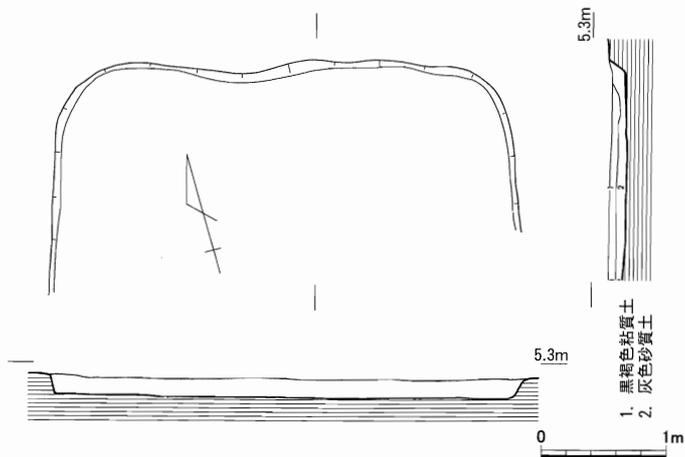
2号竖穴（第95・96図） 調査区の東南部で検出されたもので、北西側2mのところには1号竖穴がある。5号溝の位置から見て重複する関係にあると思われるが、5号溝より先に検出されたことから、5号溝→1号竖穴の順に営まれたと考えられる。

平面形は北半部のみ明らかになっているため不明な点はあるが、隅丸形状を呈しており、北辺の長さは3.5m、東辺・西辺は現状であるが、それぞれ1.3m・1.8m、深さは10～15cmである。埋土は上層から順に黒褐色粘質土（1層）、灰色砂質土（2層）の2層よりなり、床面でピットは検出できなかった。形状から方形の竖穴住居である可能性があるが、1号竖穴と同様、ここでは断定を控え竖穴遺構として扱うこととする。

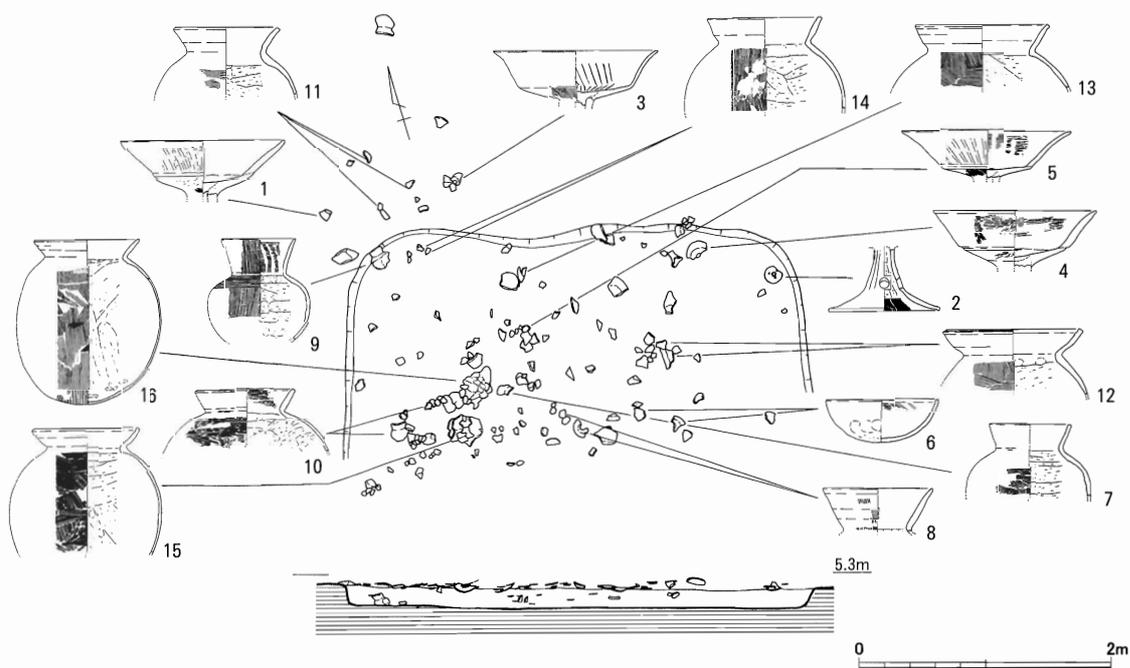
遺物は竖穴の周囲を含め、土師器が散らばったような状況で出土している（第96図）。直口壺（9）のように壁際の床面に置かれ原位置と見られるものもあるが、多くは破片で床面から浮いたところで検出された。

第97図1～5は高坏である。坏部はいずれも外面に稜をもち屈曲するもので、口縁は外反する。

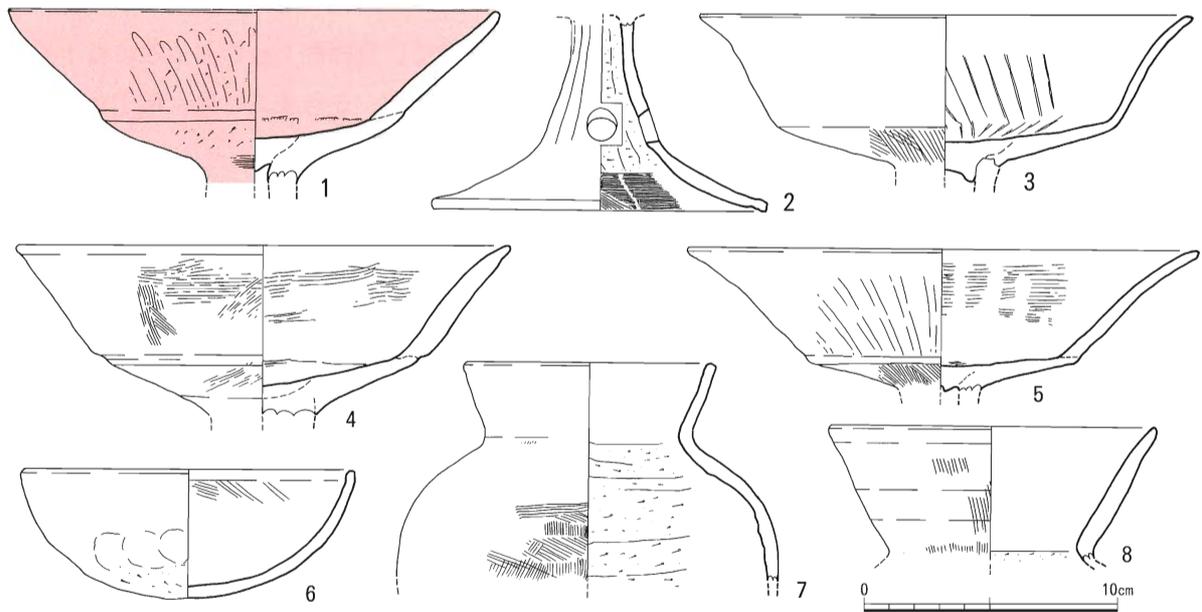
1と3は脚部との接合を坏部の中央に充填した突出部を脚部に挿入する手法で行っており、3は突出部をナデ潰す。1と5は外面に3は内面に放射状の暗文が入っており、1の外面はケズリ、3～5はハケメ、4・5は内面にもハケメが見られる。2は脚部で、3方向に円形透孔があり、外面はミガキ、内面はハケメまたはケズリが施されている。



第95図 中野清水遺跡7区14層上面2号竖穴実測図



第96図 中野清水遺跡7区14層上面2号竖穴遺物出土状況実測図



第97図 中野清水遺跡 7区14層上面 2号竪穴出土遺物実測図 1 (1:3)

6は坏で、全体に丸みを帯び、外面底部はケズリ、内面は口縁付近にハケメが残る。

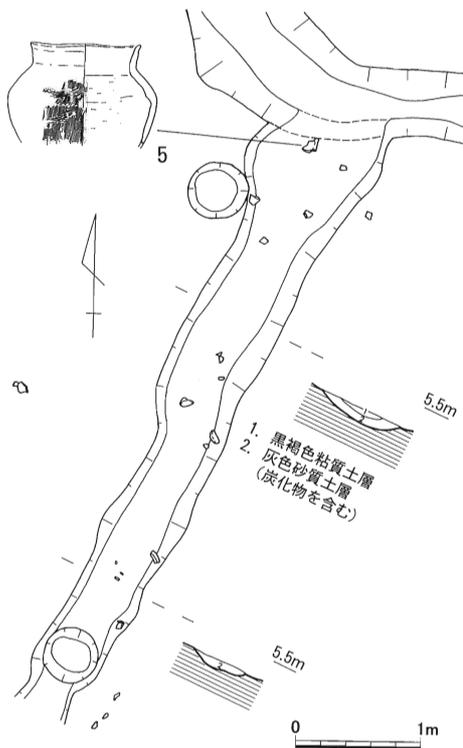
7～9は直口壺である。7は口縁がやや短く外傾するもので、胴部外面にハケメ、内面はケズリである。8はやや外反する口縁で、外面にハケメ、頸部内面にケズリが見られる。9は外反気味の口縁と、よく張った肩部をもつ。外面調整は口縁と胴部に縦方向のハケメの後、肩部に横方向のハケメを入れ、内面は口縁に横方向のハケメの後ナデ、頸部に指圧痕、胴部はケズリ、底部付近にも指圧痕が残る。

10～16は甕である。いずれも口縁が「く」字形に屈曲するものであるが、12・14・15のように口縁外面が膨らみ内湾気味となったものも認められる。16は胴部が遺存しており、肩部が張る楕円形を呈し底部は丸底で、内面には指圧痕が見られる。調整は胴部外面にはハケメ、内面はケズリであるが、10は口縁内面にも横方向のハケメが見られる。

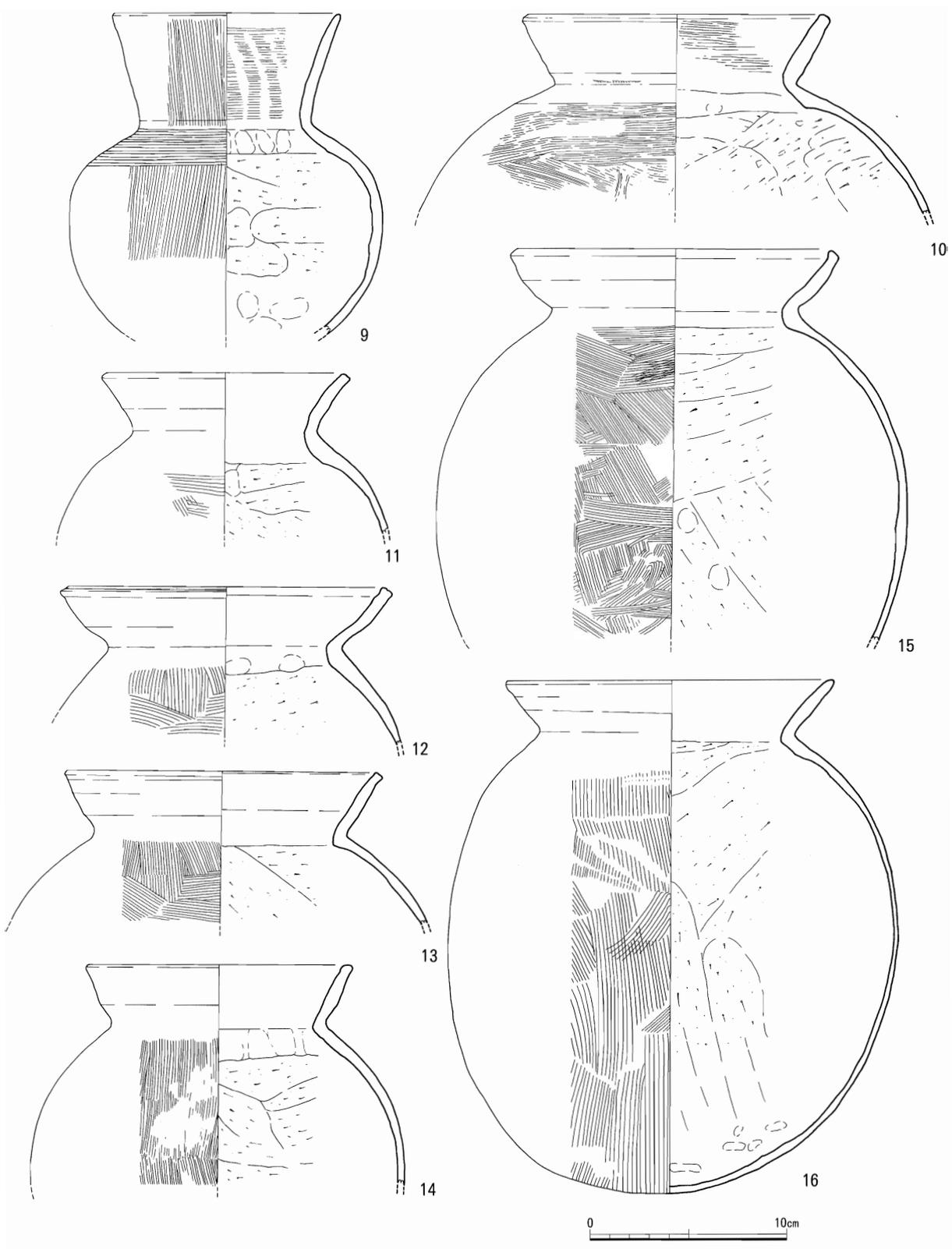
遺物の時期は、古墳時代中期前半と考えられる。

3号溝 (第98図) 調査区の西側のトレンチ沿いで確認されたもので、北端部は4号溝に交わるが、その前後関係などは不明である。

長さは現状で5.4m・幅は0.45～1m・深さは8～10cmである。埋土は1層または2層で、上層から黒褐色粘質土(1層)、炭化物を含む灰色砂質土(2層)が見られる。遺物は土師器の小片が散在する程度であった。第101図5は壺で、口縁がほぼ直立し肩部が張り、胴部外面にハケメ、内面はケズリである。



第98図 中野清水遺跡 7区14層上面 3号溝実測図



第99図 中野清水遺跡 7区14層上面 2号竪穴出土遺物実測図 2 (1:3)

4号溝（第100図） 調査区の西側で確認されたもので、南辺は4号溝と交わる。

平面形は西辺の一部を失うが隅丸方形を呈するものと思われ、規模は溝の内側で南北5.5m・東西5.0m、外側で南北6.6m・東西6.0mである。溝の幅は30~80cm・深さは10~15cmである。埋土は2層で、上層から黒褐色粘質土（1層）、灰色砂質土（2層）が見られる。

遺物は須恵器蓋坏・土師器高坏、小形丸底壺が出土している。

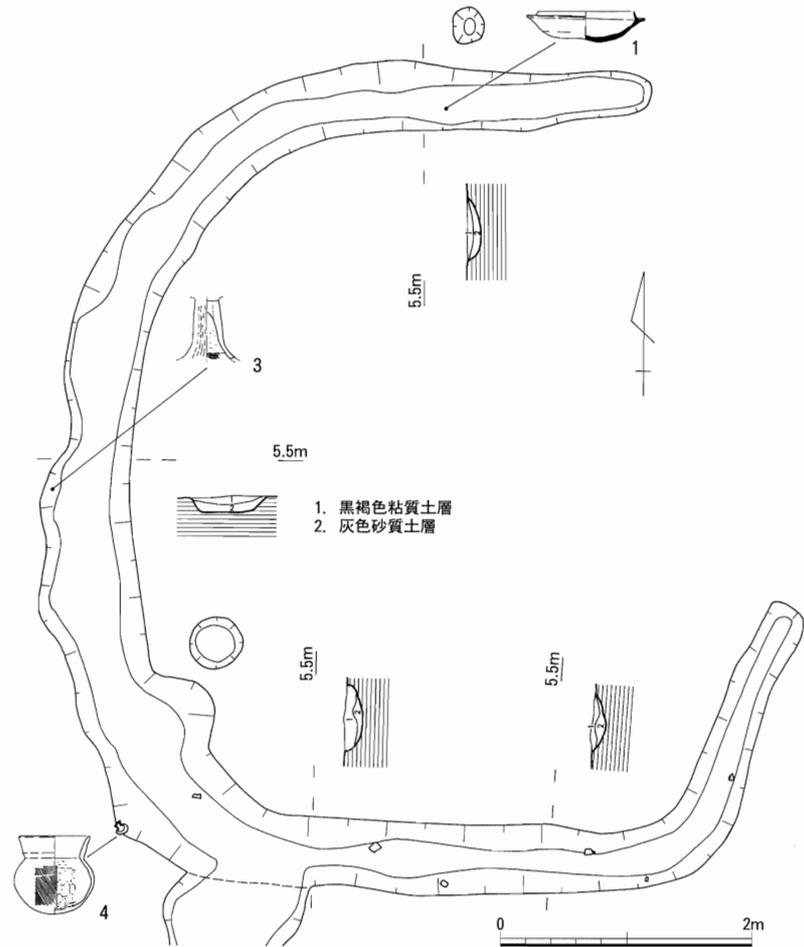
第101図1・2は、須恵器坏身で、口縁に内傾する短いかえりを有している。1は底部にへら起こし痕を残している。

3は土師器高坏の脚部で、坏部との接合部には粘土が充填される。外面はミガキ、内面はケズリまたはハケメである。

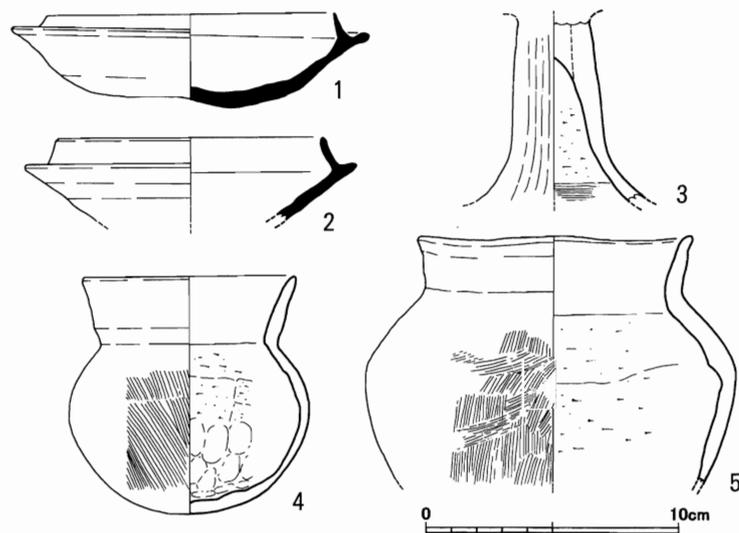
4は小形丸底壺である。外傾する短い口縁と丸みを帯びた体部をもち、胴部外面はハケメ、内面はケズリ、底部付近には指圧痕が見られる。

以上の遺物の時期は、1・2が古墳時代後期後半、3・4は中期のものと思われる。後者が混入品とすれば、4号溝は古墳時代後期後半としてよからう。

4号溝は隅丸方形に巡る点が大なる特徴で、その平面形は古墳の周溝を思わせる。しかし、溝の内部では埋葬施設らしい形跡は確認できなかったことから、古墳であるとは断定できない。



第100図 中野清水遺跡7区14層上面4号溝実測図



第101図 中野清水遺跡7区14層上面3号溝・4号溝出土遺物実測図（1：3）

但し、出雲平野の集落遺跡では、同様な周溝状の遺構が古志本郷遺跡D区SX04⁽³⁾及び同遺跡HⅡ区SX14⁽⁴⁾で知られている。D区SX04は溝の外側で一辺8m、HⅡ区SX14は一辺7.5～8m程の規模をもち、時期はともに古墳時代後期後半と見られる。

中野清水遺跡4号溝は、これらと比較するとやや小形ではあるが、平面形が隅丸方形をとること、古墳時代後期後半に築造されていることなど類似点があり、同種の遺構であると思われる。埋葬施設が明らかになっていないので古墳と断定はできないが、集落遺跡に隣接して小規模な古墳が営まれている可能性も考えられる。

5号溝（第102図） 調査区西側に位置するもので、南西から北東方向に向かって直線的に延びており、両端は調査区外へと続く。発掘された長さは30m程で、検出面からの深さは20～50cmである。本報告では溝状遺構として扱っているが、西側から東側へと落ち込みは確認できたものの、調査区の制約や湧水のため東側で対応する落ち込みは明らかになっておらず、溝ではなく微高地縁辺部に当たる可能性もある。隣接する平成14年度調査区Ⅱ区では、これに対応する遺構が全く確認できていないので、溝とするか微高地縁辺部とするかについては両者の可能性を考えておかざるを得ない。

落ち込みの中では、南西から北東方向に向かって延びる遺構の輪郭に沿って完形品を含む多量の弥生時代後期末～古墳時代前期初めの土器が多量に出土した。土器は西側から東へと傾斜する状態で検出されていることから、西側から投棄されたと考えられる（第105図）。埋土は上層から順に暗灰色粘質土（1層）、灰色砂質土（2層）の2層よりなり、土器が多量に出土したのは下層である。

第106図～第116図142～159は複合口縁をもつ甕である。底部が残るものは痕跡的な平底を残すものの（2・6～9・14～17・25・28～32・36）、完全な平底となるもの（151～153・155・156）、低い脚が付くもの（157～161）、そして丸底となるもの（1・3～5・10～13・18～23・26・33・37・39～42・44・45・54～57・143・144・147）があり、底部に低い脚が付くものを除けば底部内面に指頭圧痕を残すものが多い。口縁は端部が外反するもの（7～20・27・29～92・151・153～155・157～159）、直立または外傾し端部に面をもつもの（1～6・21～26・93～139・150・156）、内傾し面をもつもの（141・145・146）がある。文様は外面肩部に波状文・斜行刺突文・綾杉文・羽状文・平行線文などが施されたものがあるが、文様は全周せず1/4～1/2程度と部分的に施文されるものも認められた（4・24・48・93・110・140・144など）。外面調整は縦方向のハケメののち、肩から胴部にかけて横方向のハケメ、内面調整は胴部下半が縦方向のケズリ、上半に横方向のケズリが入るものが多く、55・155・158・159などミガキが加えられたものもある。また、14・15・18は底部に、10・153は胴部に焼成後の穿孔が見られる。

第117図162～176は「く」字形に屈曲した単純な口縁をもつものである。いずれも薄手のもので、底部が残る162・163は痕跡的な平底を残し、164・165は丸底となる。162・163・172～174は肩部に斜行刺突文・平行線文、175・176には波状文が入るが、172・173・174の斜行刺突文は全周していない。調整は胴部外面がハケメ、内面はケズリで、底部の残るものは内面に指圧痕がある。また、164には焼成後底部が穿孔されている。

177・178は内傾する口縁をもつ壺である。177は口縁に刺突による三角文と稜線に斜行刺突文が施されたものである。色調は淡黄色で在地土器と変わらないことから、西部瀬戸内系の土器を模して作られたものと見られる。178は口縁外面の稜に刻みがあり、口唇は上方に肥厚し内面に稜をも

X = -69500

Y = 55400

X = -69500

5.4m

1. 暗灰色粘質土
2. 灰色砂質土 (土師器多量に含む)

トレンチ

○-47

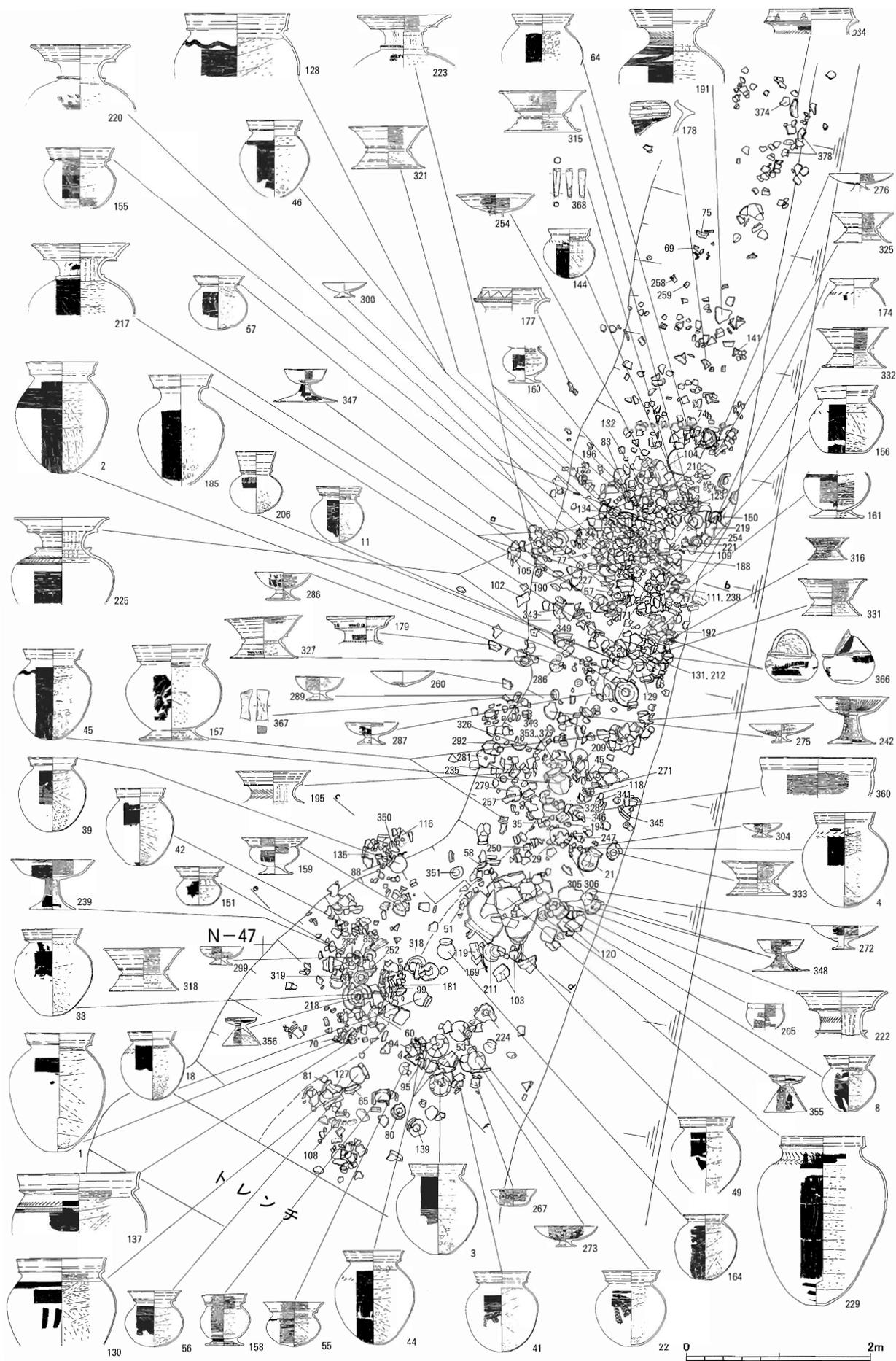
X = -69510

X = -69510

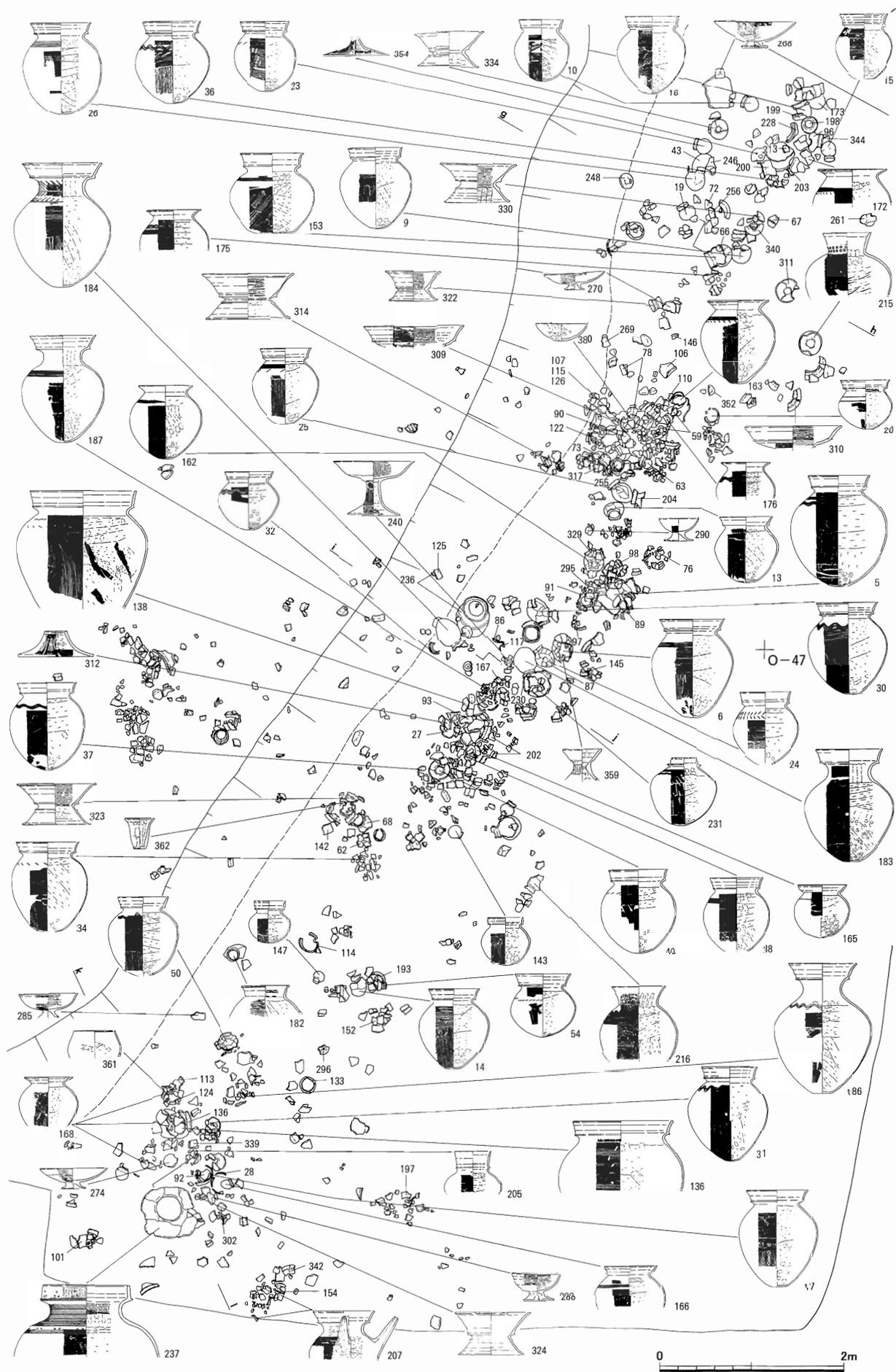
Y = 55400



第102図 中野清水遺跡7区14層上面5号溝遺物出土状況実測図1



第103図 中野清水遺跡 7区14層上面5号溝遺物出土状況実測図2



第104図 中野清水遺跡7区14層上面5号溝遺物出土状況実測図3

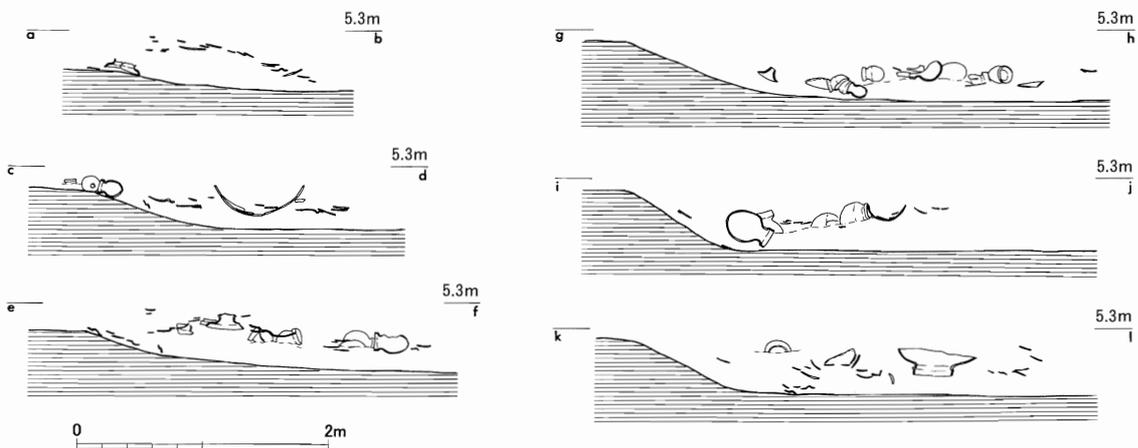
つもので、北九州・西部瀬戸内からの搬入品と見られる。179は加飾壺で、外反する複合口縁を口縁を有する。口縁外面には竹管文の入った円形浮文、内面には波状文があり、肩部外面には刺突文が施される。180・181は底部で厚い平底を呈する。180は内外面にハケメ、181は外面にミガキ調整が見られる。182は外傾する口縁の端部が肥厚するもので、調整は外面がハケメののちミガキ、胴部内面はケズリ、口縁はミガキ一部にハケメである。調整は在地土器と変わらない手法をとるが、器形はあまり見られないもので、陶質土器などを在地で模倣したものの可能性がある。

第118図～第120図203・204は外傾する複合口縁をもつ壺である。底部の残るものは183・184・186・187・189のように小さい平底を残しており、丸底のものは見られない。口縁端部は外反しており、やや肥厚するもの（188・201など）も含まれる。頸部は無文のものもあるが、綾杉文や斜行刺突文で飾るものが多く、肩部には波状文をもつものもある。外面調整は頸部から縦方向にハケメを入れた後、肩部に横方向のハケメ、内面は胴部下半は縦方向、上半には横方向のケズリで、頸部内面には縦方向にナデが残るものが多い。

第120図205・206は長い複合口縁をもつ直口壺である。底部の分かる206は丸底となり、内面に指頭圧痕が残る。胴部外面はハケメ、内面はケズリである。207・208は注口の付く壺で、207は肩部に刺突文と平行線文が入る。外面調整はハケメとミガキ、内面はケズリである。209～213は複合口縁で、口縁部が直立または内傾する壺であるが、口縁の内傾度や長さに違いがある。209・210は口縁端部が肥厚して面をなし、209の肩部には羽状文が見られる。調整は外面がハケメ、内面はケズリである。214はにぶい稜線をもつ複合口縁の壺である。やや厚手で、口唇は内側に肥厚し、外面調整はハケメ、内面頸部はナデ、それ以下はケズリである。215・216は外傾する単純口縁の壺で、215は頸部に竹管文、216は肩部に羽状文が施される。外面調整はハケメ、内面頸部は指押さえ、それ以下にはケズリが入っている。

第121図217～225は口縁が大きく開く複合口縁細頸壺である。218以外は頸部に突帯が付き、224には刻み、223には斜格子文が入る。222は頸部に斜行刺突文、225は肩部に綾杉文が入っており、胴部外面の調整はハケメ、頸部内面はナデ、それ以下はケズリで、223の口縁・頸部内外面にはミガキが施されている。226～228は厚手で、口縁が内傾する壺である。頸部には羽状文または斜行刺突文が施されている。

第122図229・230・233～238は大形の壺である。口縁は複合口縁で直立または内傾しており、底



第105図 中野清水遺跡 7区14層上面5号溝遺物出土状況横断実測図

部が残る229は僅かに平底となる。229・230・234・236・237は頸部または肩部に羽状文または綾杉文・竹管文が入り、234・237の口縁には竹管文が施される。調整は胴部外面がハケメ、内面はケズリで、237は口縁外面と頸部内面にミガキが見られる。231・232は内傾する口縁に突帯が付く壺である。231は丸底で肩部に平行線文と波状文があり、胴部外面はハケメ、内面はケズリで、頸部と底部に指圧痕が認められる。

第123図239～259は高坏である。坏部は口縁が長く僅かに外反しており、脚との接合部には刺突痕のある粘土板を充填する。脚部は裾が大きく開き、円形透孔をもつもの（245・247・248・250・258・259）もある。258・259は坏との接合部が厚く穿孔があり、その他のものとは異なる。調整は外面と口縁内面がミガキ、脚部内面はケズリとハケメである。

260～264は坏である。260・261は底部に小さい高台状のものが付き、261の外面はハケメの後ミガキ、内面はケズリの後粗いミガキである。265～267は小形丸底壺である。265・266は口縁が短く外傾するが、267は口縁が大きく開く。266の外面はハケメ調整、265は内外面にミガキ、267は内外面にハケメの後、ミガキが加えられる。

第124図268～308は低脚坏である。坏部が皿状に広がるもの（268～281・282・283）、坏部が深く碗状になるもの（285～294）、坏部が浅く小さいもの（299～306）がある。調整は一部にハケメ調整のままのものもあるが、内外面ともミガキで丁寧に調整されたものが多い。

309～313は高坏形の土器である。坏部は外面に稜をもち浅く（309・310）、低い脚部（311・312）が付くものと見られる。脚部は上端がともに擬口縁となっており、311には接合用のキザミがある。調整は坏部内外面ともミガキで、脚部は外面がハケメの後ミガキ、内面はケズリとハケメである。

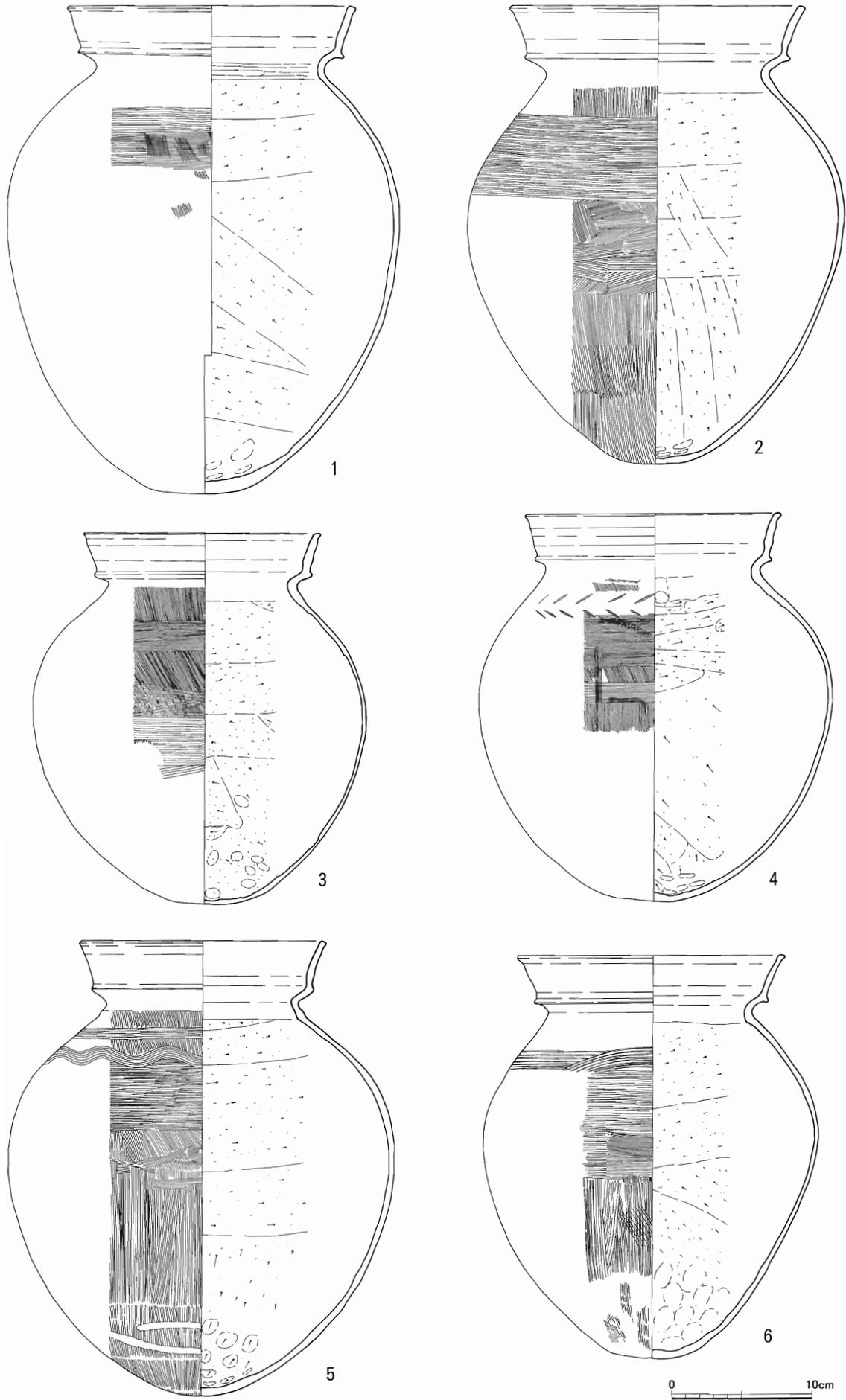
第125図・第126図335～346は鼓形器台である。口径が20cmを超える大形のもの（314・315・317・318など）から、12.6cmと小形のもの（316）までである。315・316・346には脚台部に円形透孔があり、327には脚台部に部分的に羽状文が見られる。外面調整は315・316・346にミガキがある他は横ナデが多いが、内面は器受部がミガキ、脚台部がケズリである。

第126図347～354は高坏で碗状の坏部と大きく広がる脚部をもつ。347・349は坏部と脚部の接合部に刺突痕のある粘土板、348・350は粘土がやや厚く充填される。348・349・354は脚部に円形透孔が設けられる。調整は外面と坏部内面がミガキ、脚部内面はケズリとハケメである。

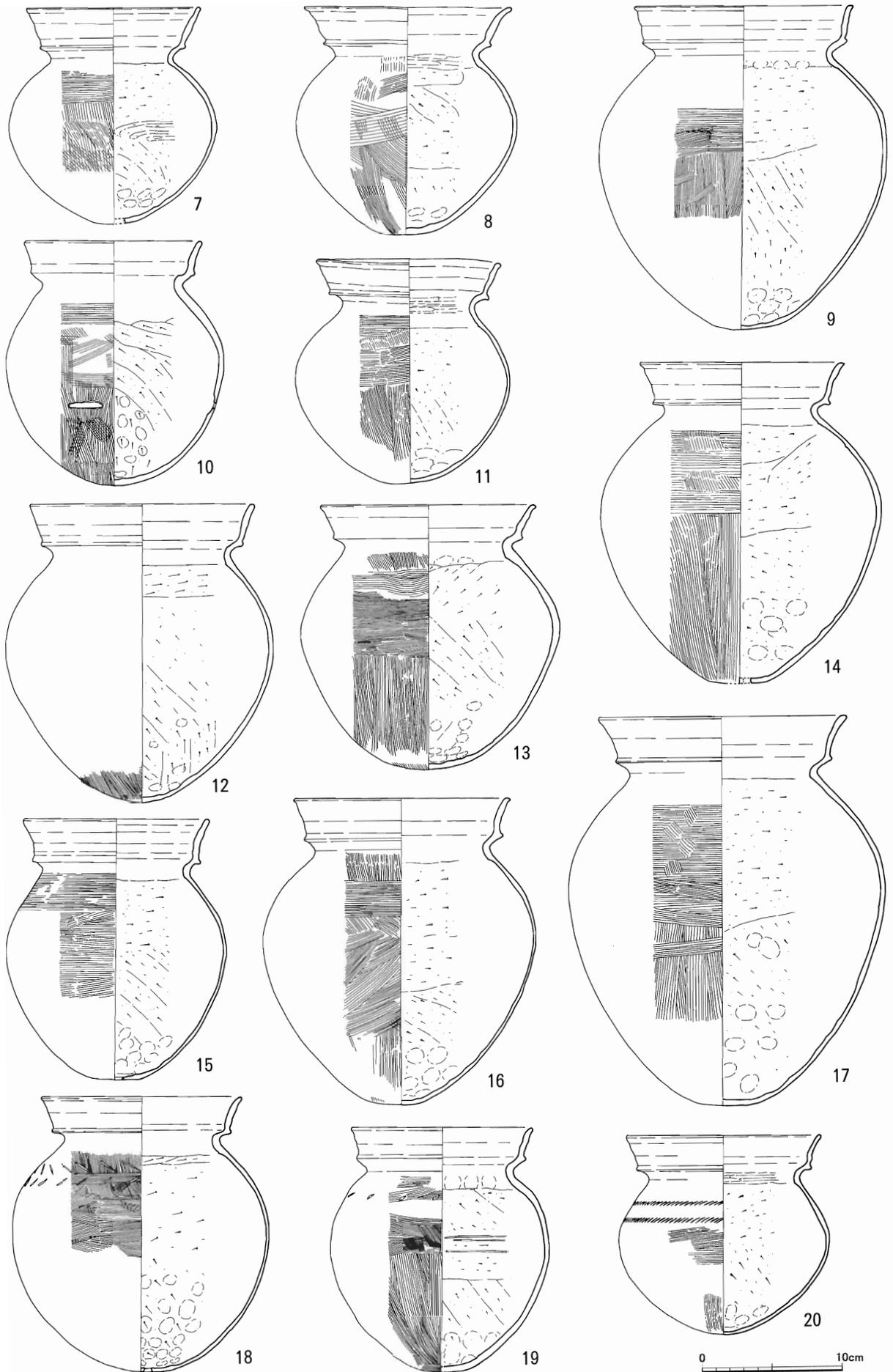
355～359は小形器台である。このうち、355・356は外面に稜のある器受部をもち、截頭円錐状で円形透孔のある脚部が付く。355は外面と坏部内面がミガキ、脚部内面はケズリとハケメ、356は外面はハケメの後ミガキ、坏部内面はミガキである。

360は大形の鉢で緩くくびれた複合口縁をもち、内外面はミガキである。361は無頸壺で口唇に沈線が入り、内外面にケズリが見られる。362は平底、円筒状で口縁が外反するもので、漆壺と見られるが未使用である。底部には粘土の充填痕があり、外面はナデ、内面にはしぼり目がある。363は脚部で外面に三角文状の線刻がある。364は器台様のもので、脚部に円形透孔がある。365は薄手の手捏ね土器である。

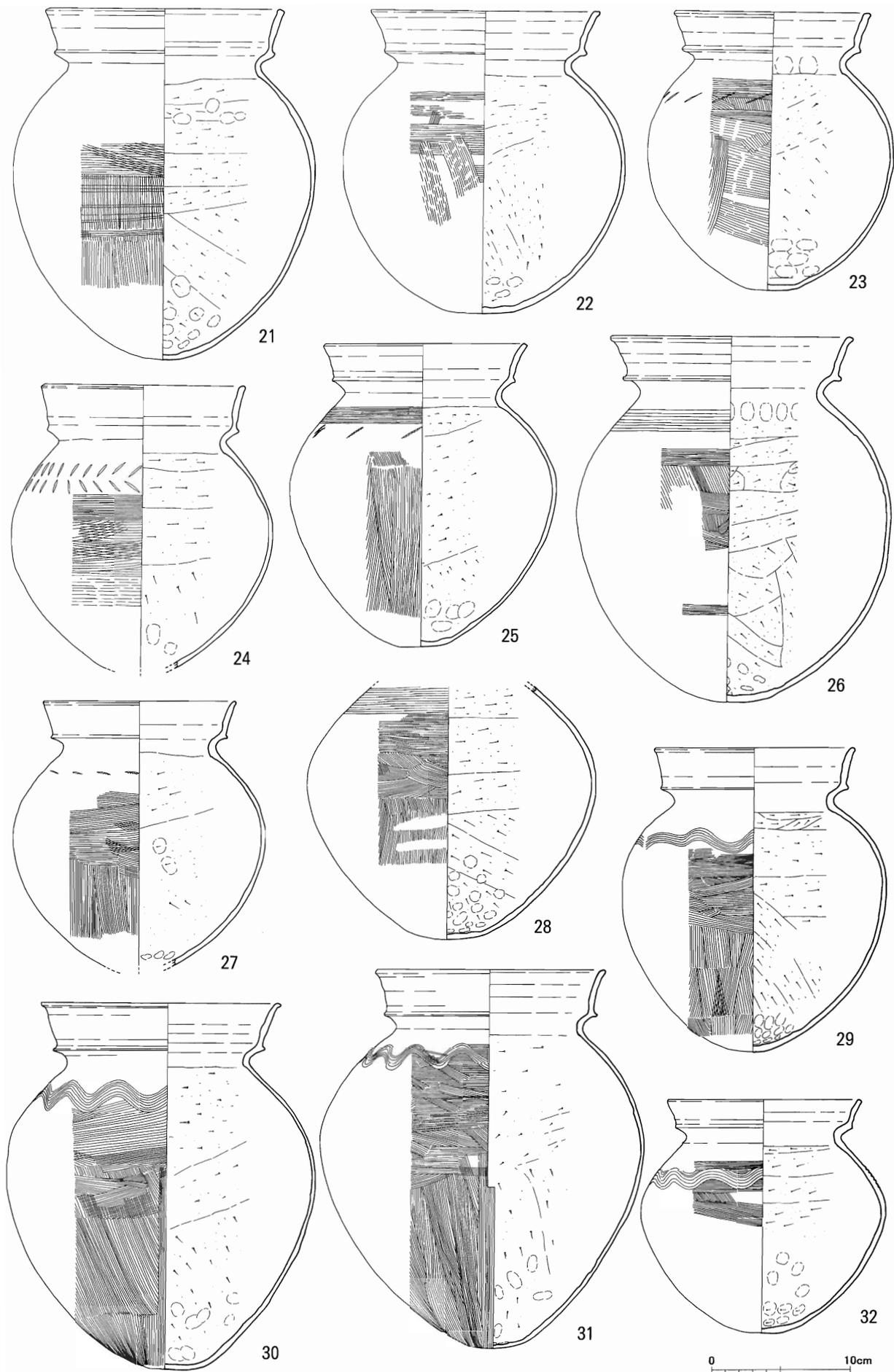
第127図366は手焙である。上半に突帯が巡っており、外面はハケメ、内面はケズリである。367は流紋岩製の砥石で端部を除く各面が使用される。368は鉄鑿の袋部である。鉄板を折り曲げて袋部を作り基部には折り返しがある。刃部は欠損するが、刃部側は方形断面で、基部は円形断面となる。袋部の内部には木質が残っている。



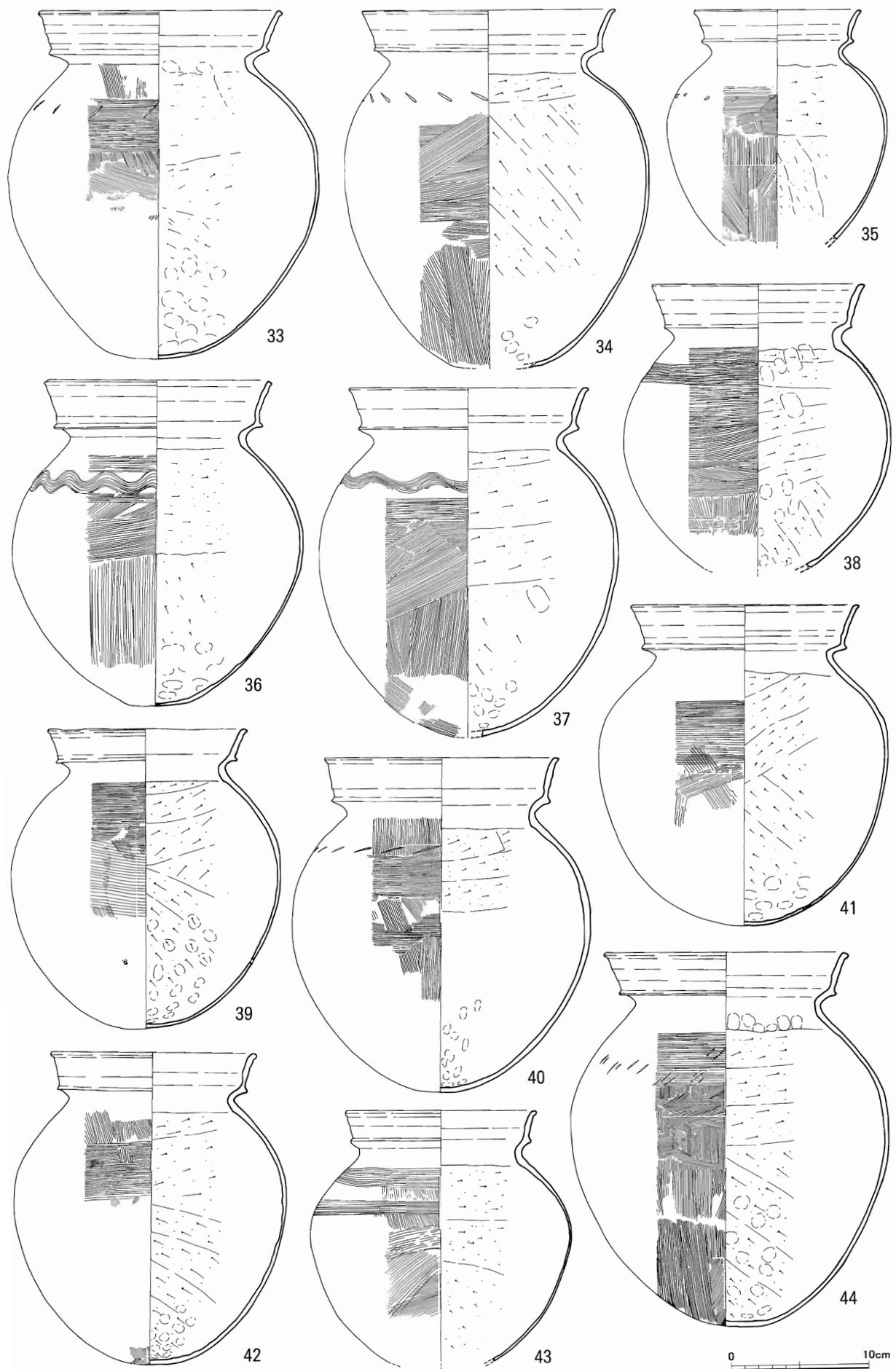
第106图 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測图1 (1:4)



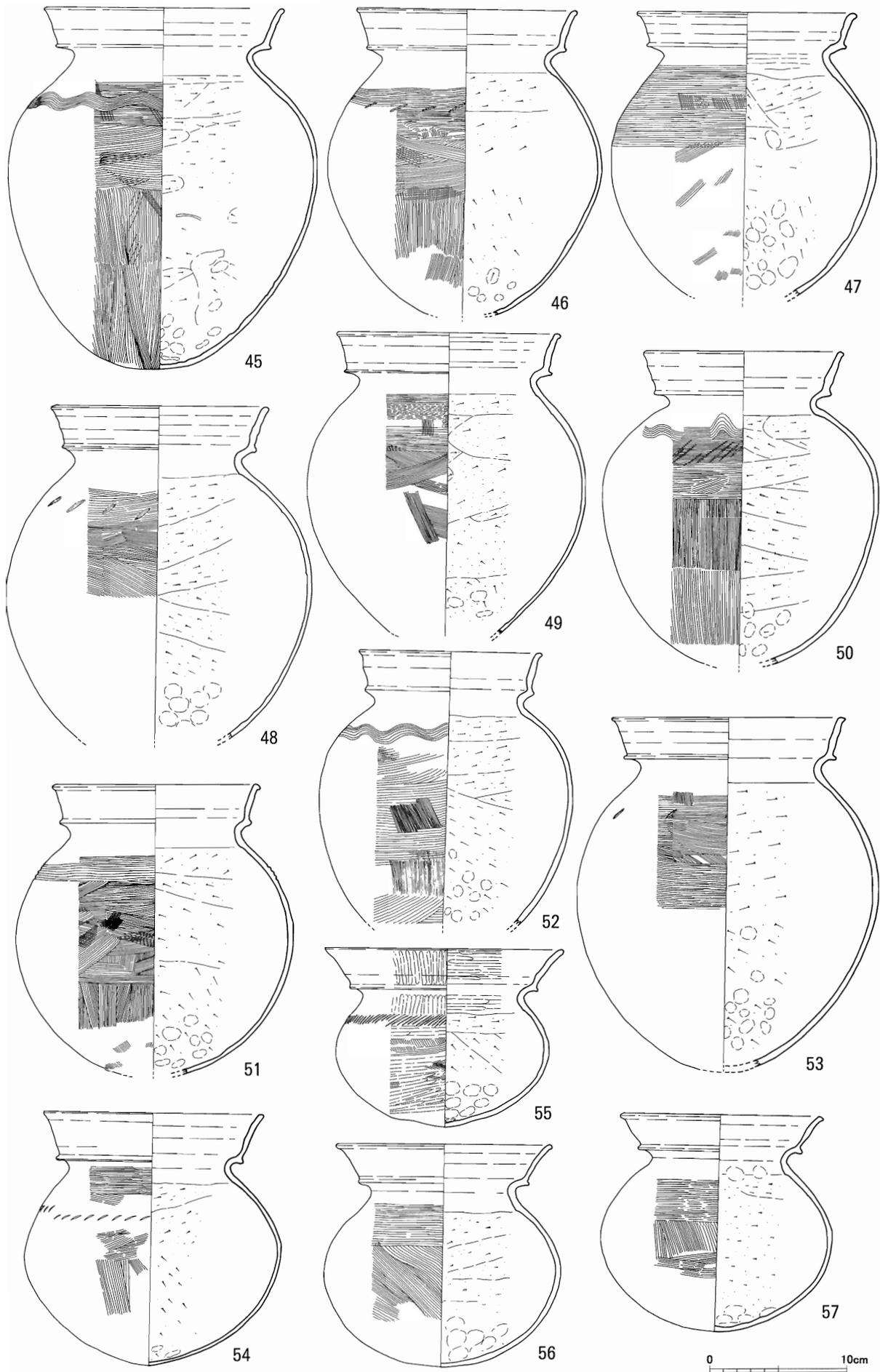
第107図 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測図2 (1:4)



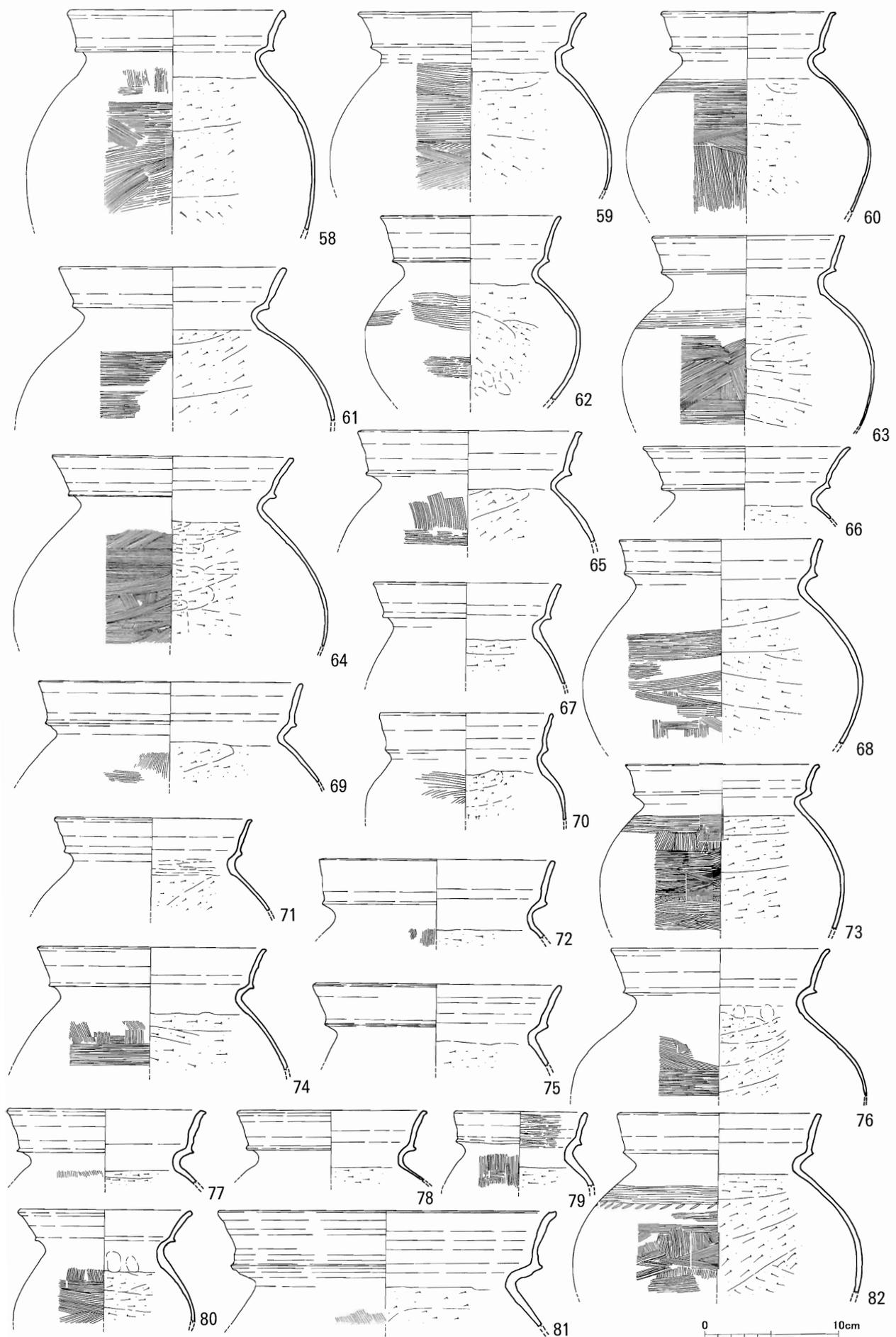
第108图 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測图3 (1:4)



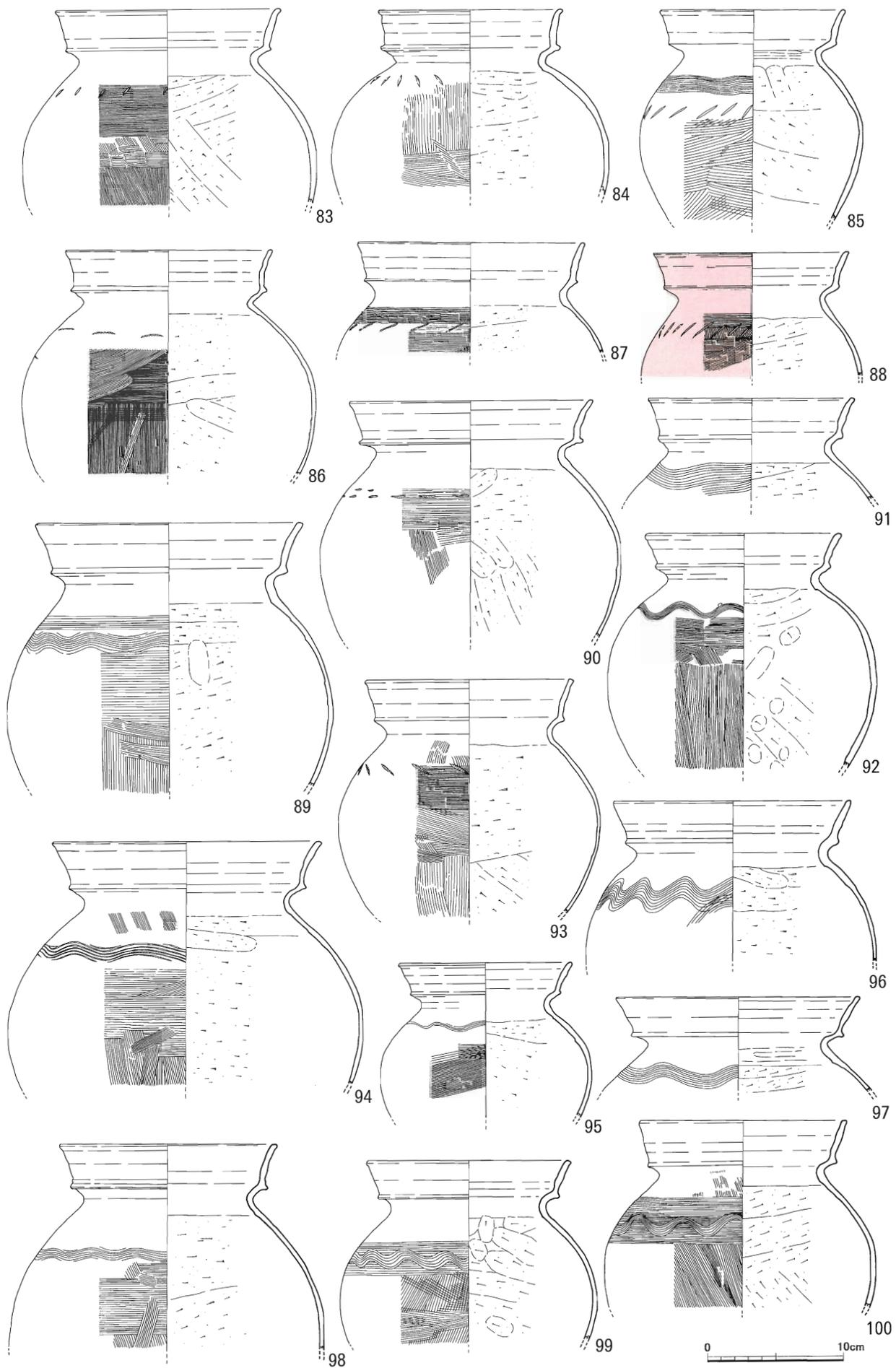
第109図 中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物実測図 4 (1:4)



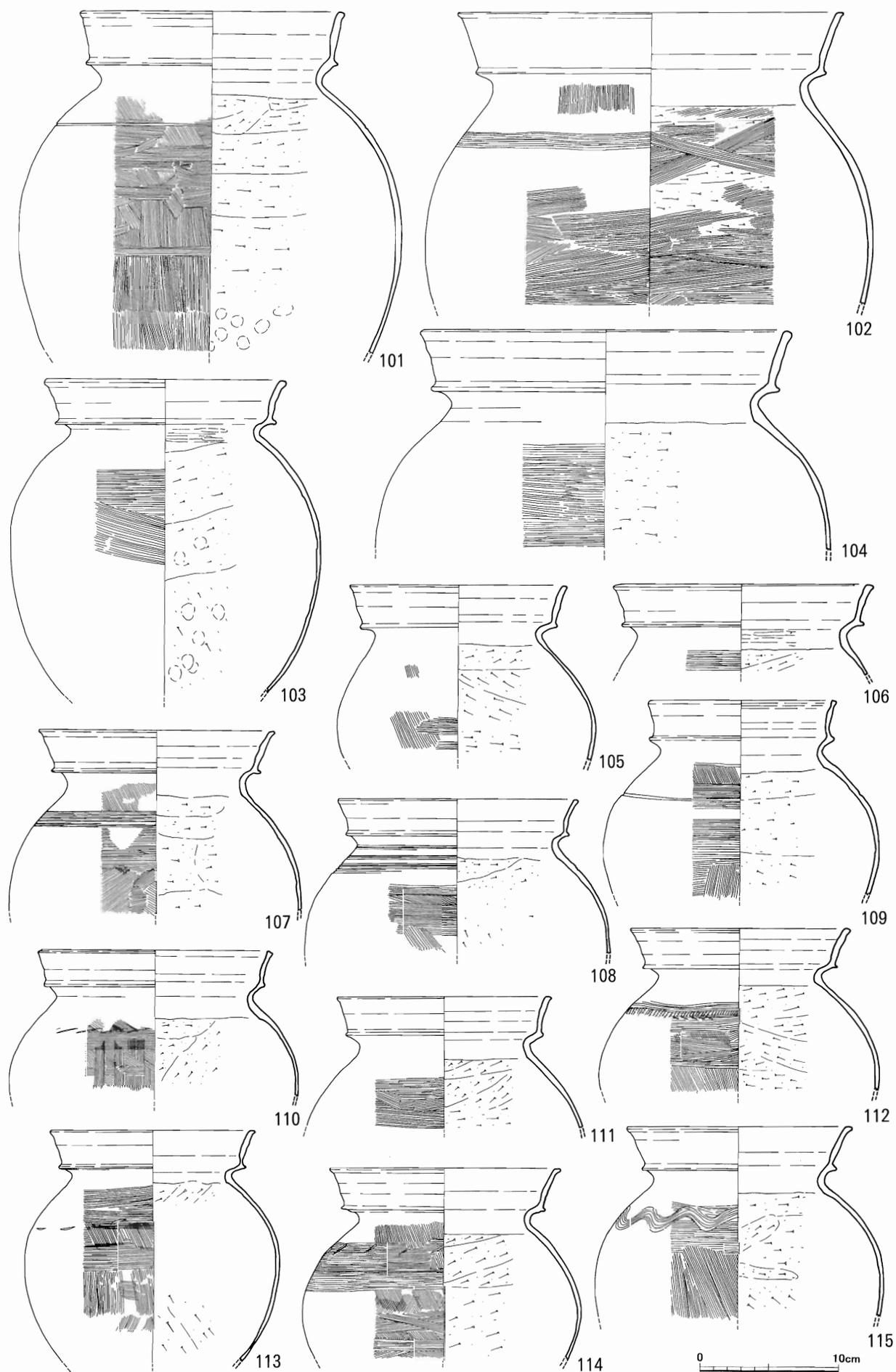
第110图 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測図5 (1:4)



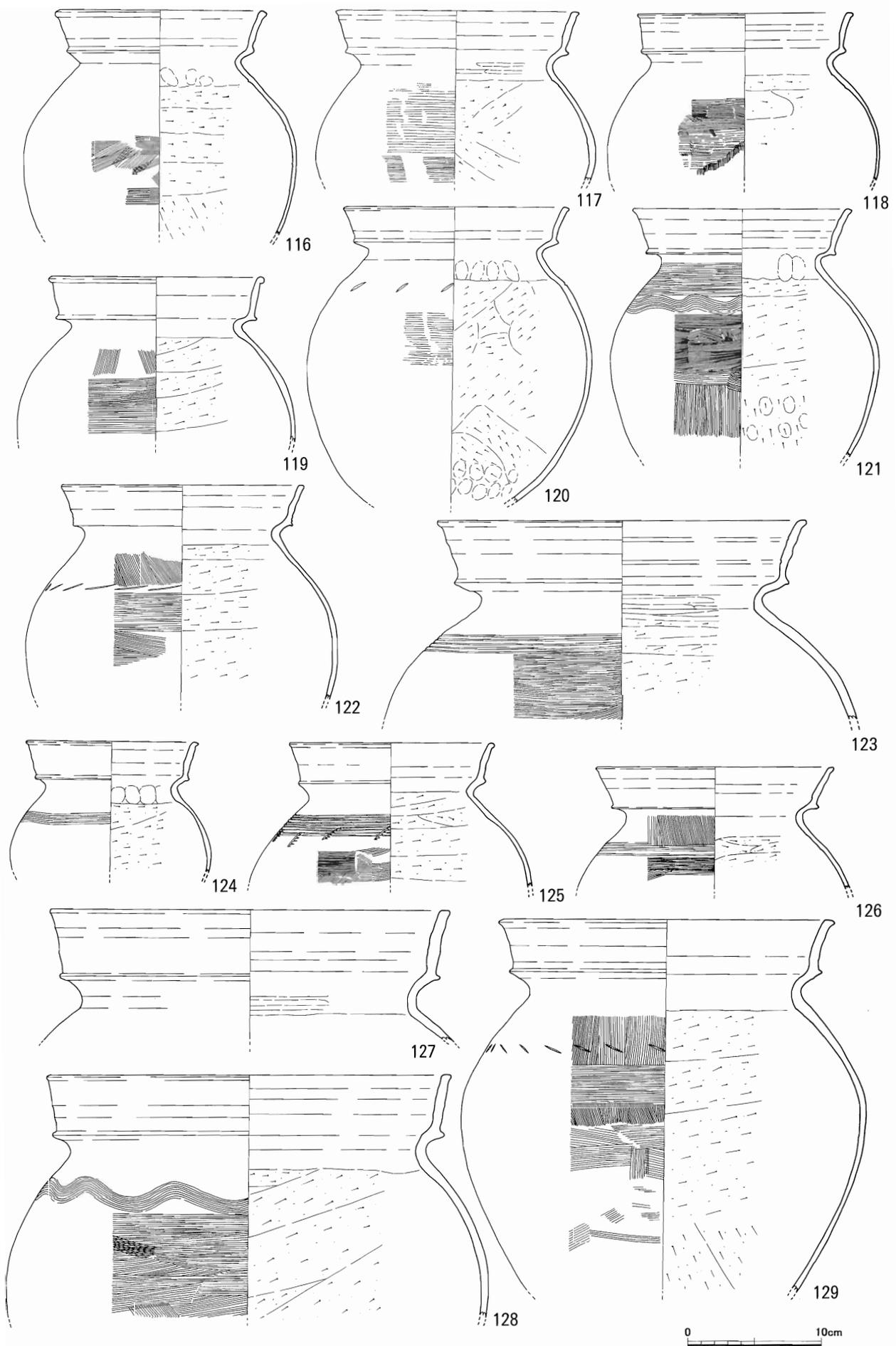
第111图 中野清水遺跡 7区14層上面5号溝出土遺物実測図6 (1:4)



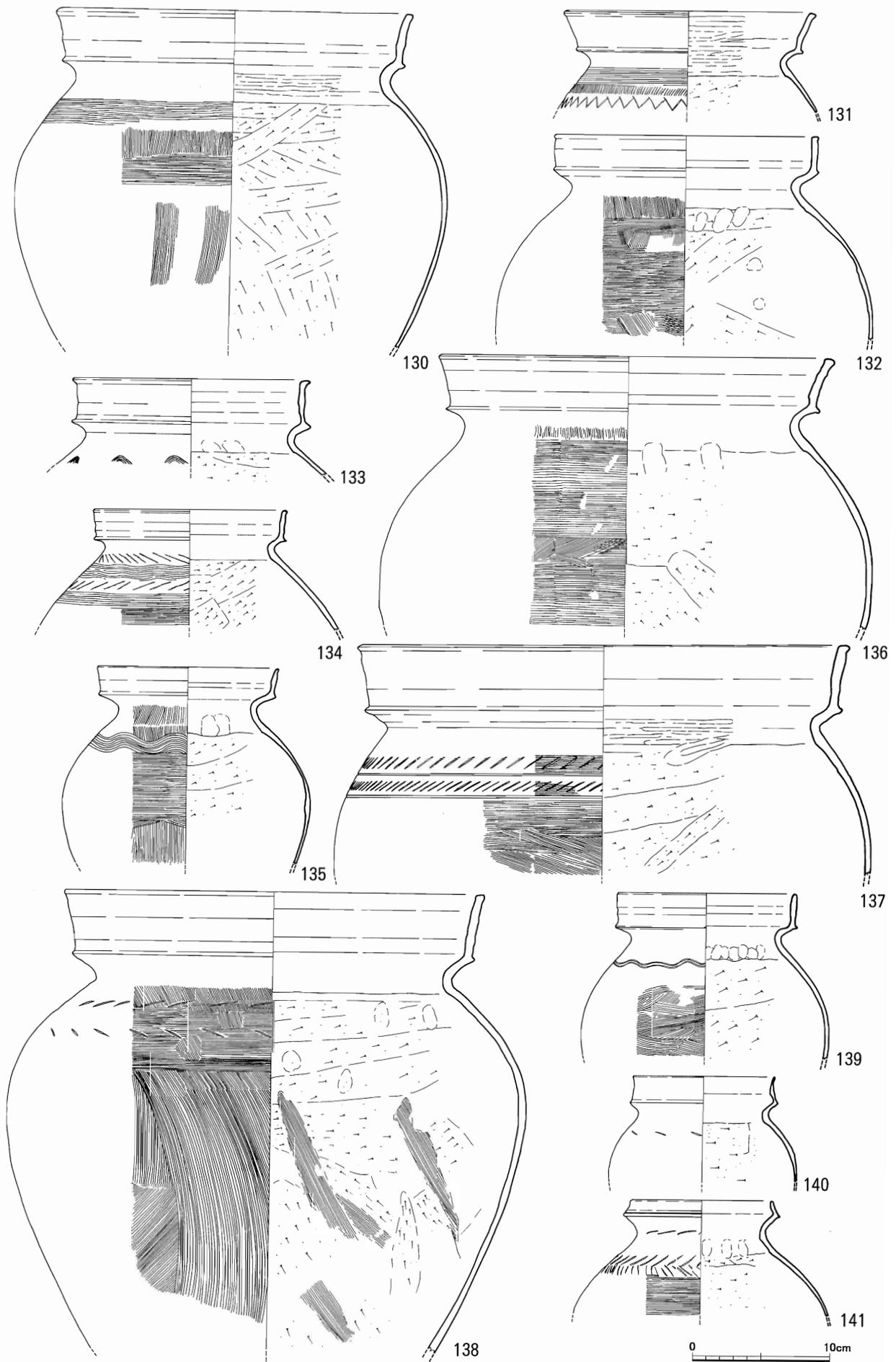
第112図 中野清水遺跡 7区14層上面5号溝出土遺物実測図7 (1:4)



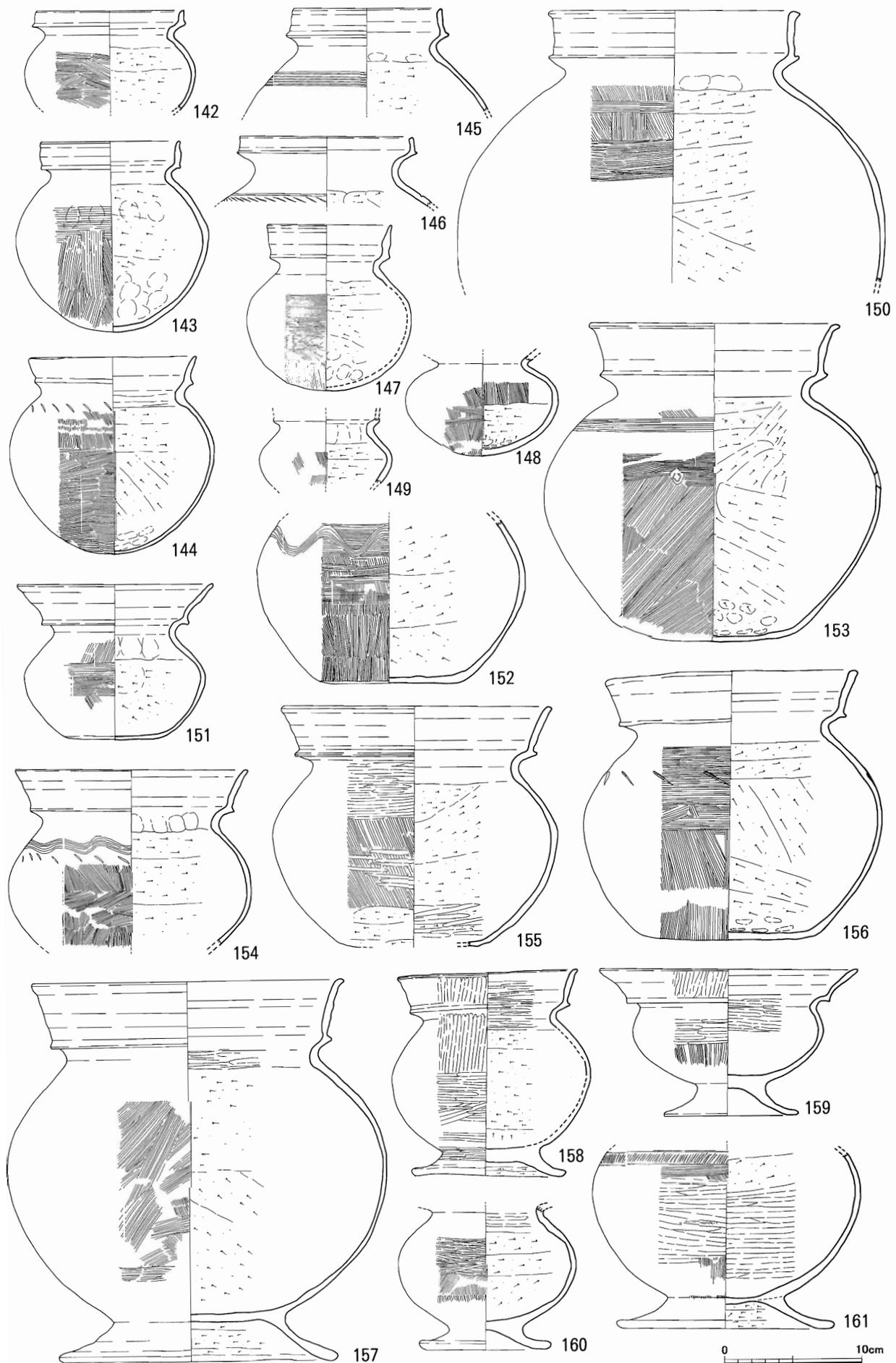
第113图 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測図8 (1:4)



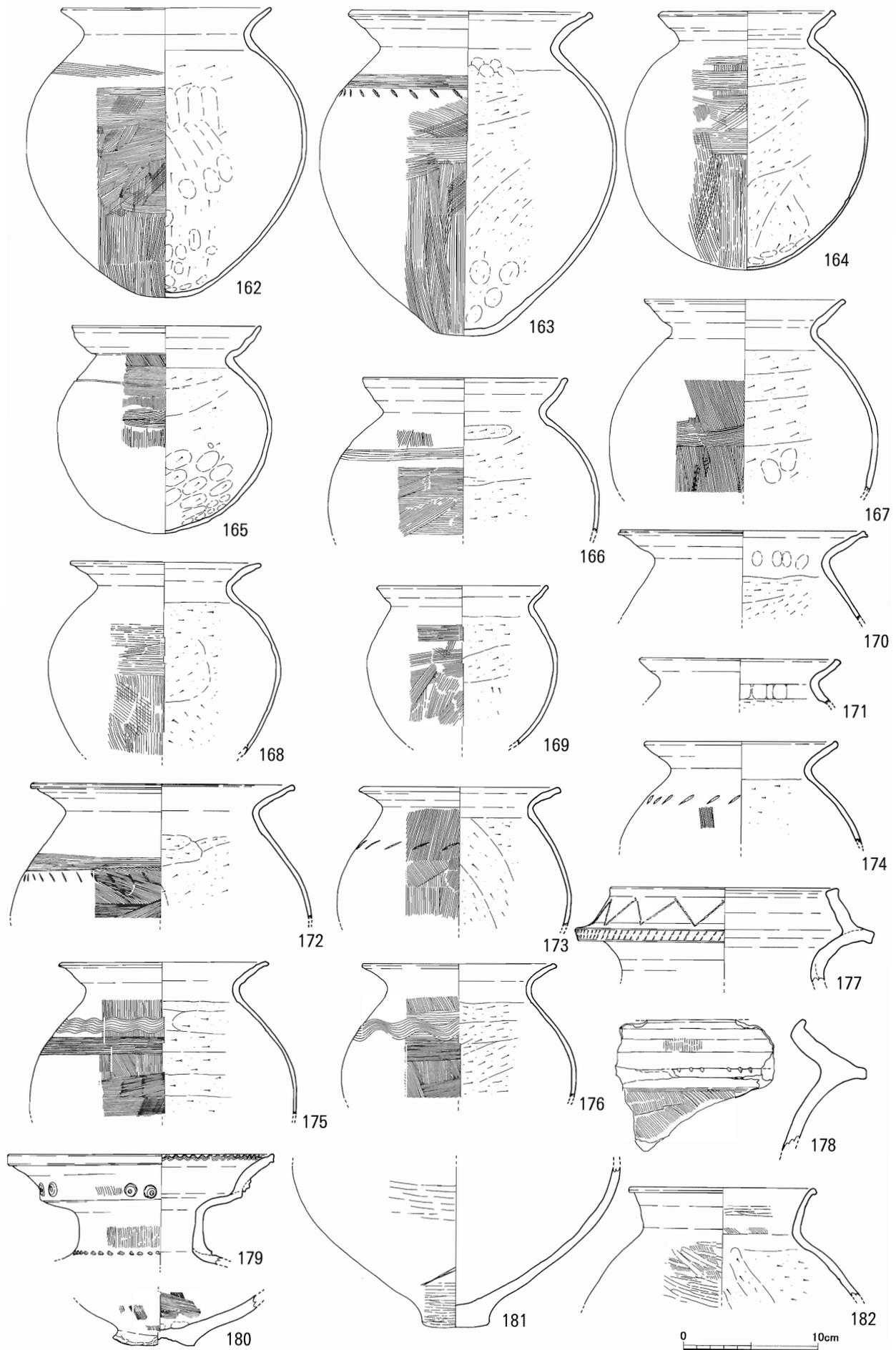
第114図 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測図9 (1:4)



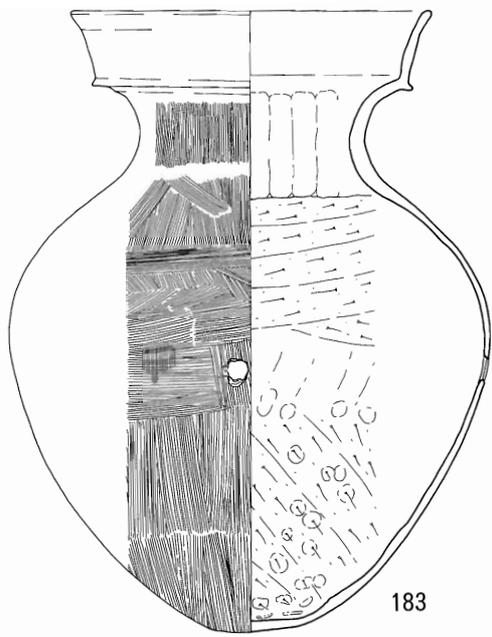
第115图 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測図10 (1:4)



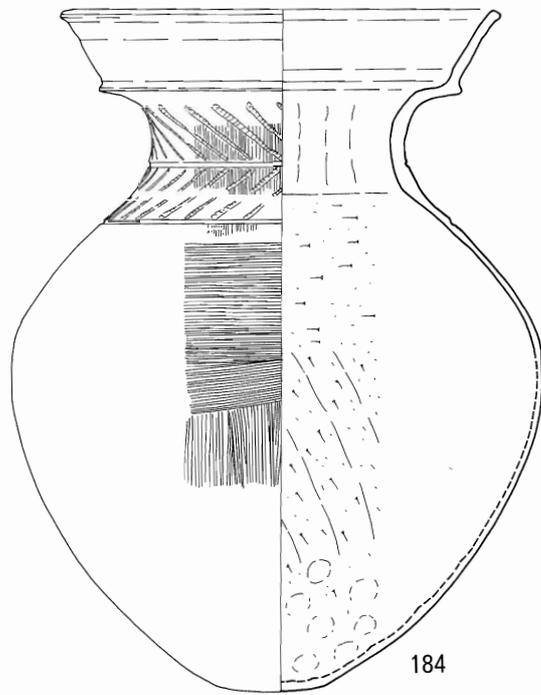
第116図 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測図11 (1:4)



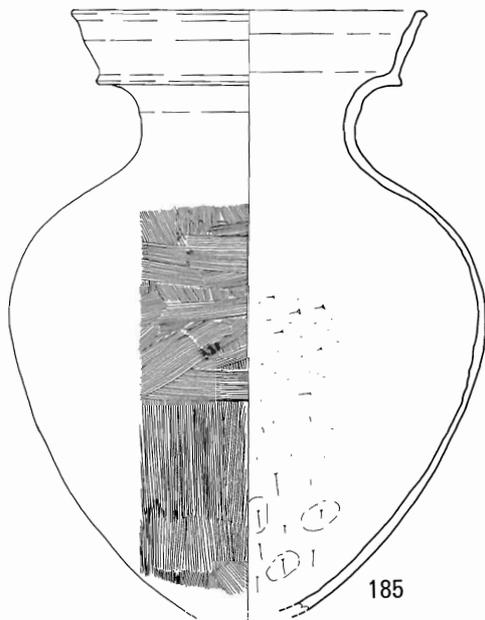
第117图 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測図12 (1:4)



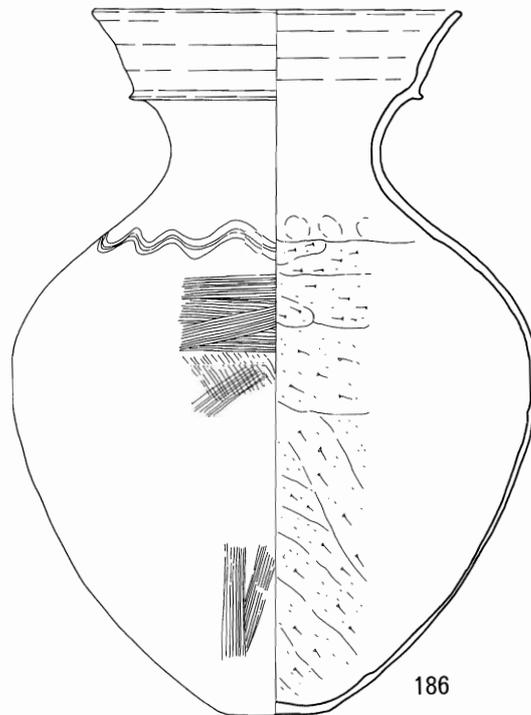
183



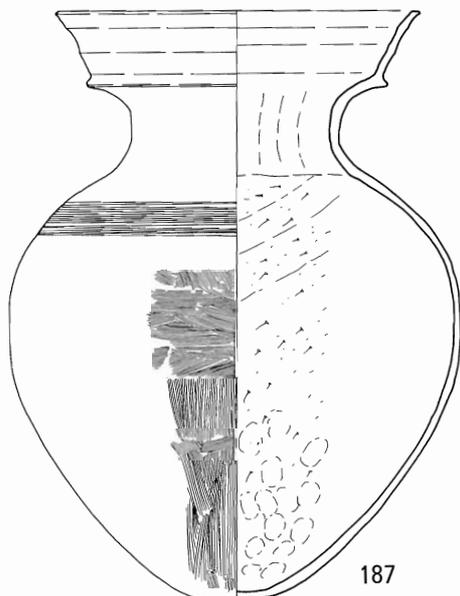
184



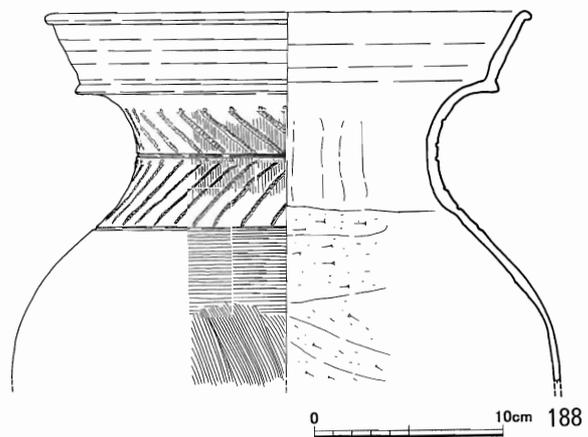
185



186

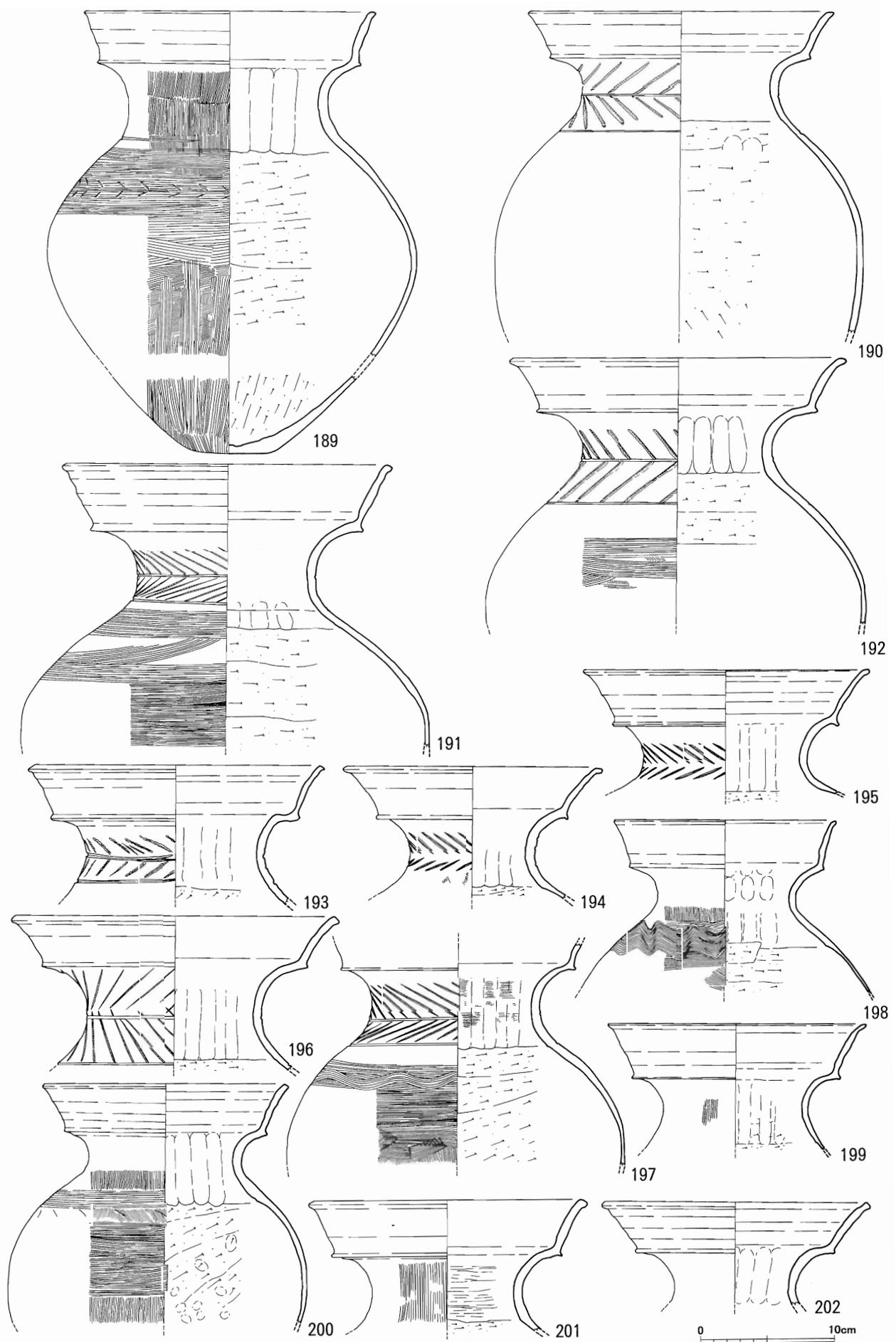


187

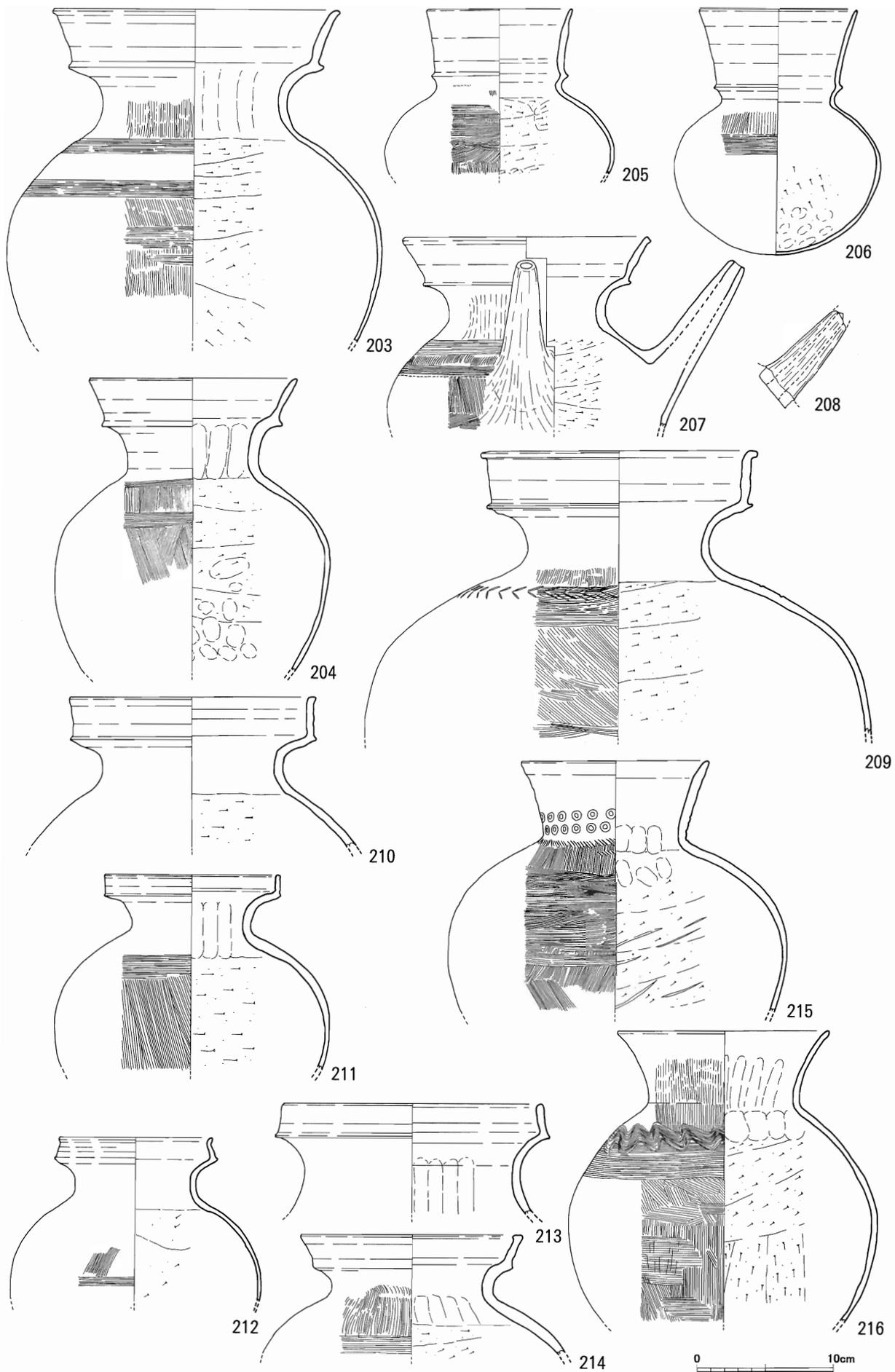


0 10cm 188

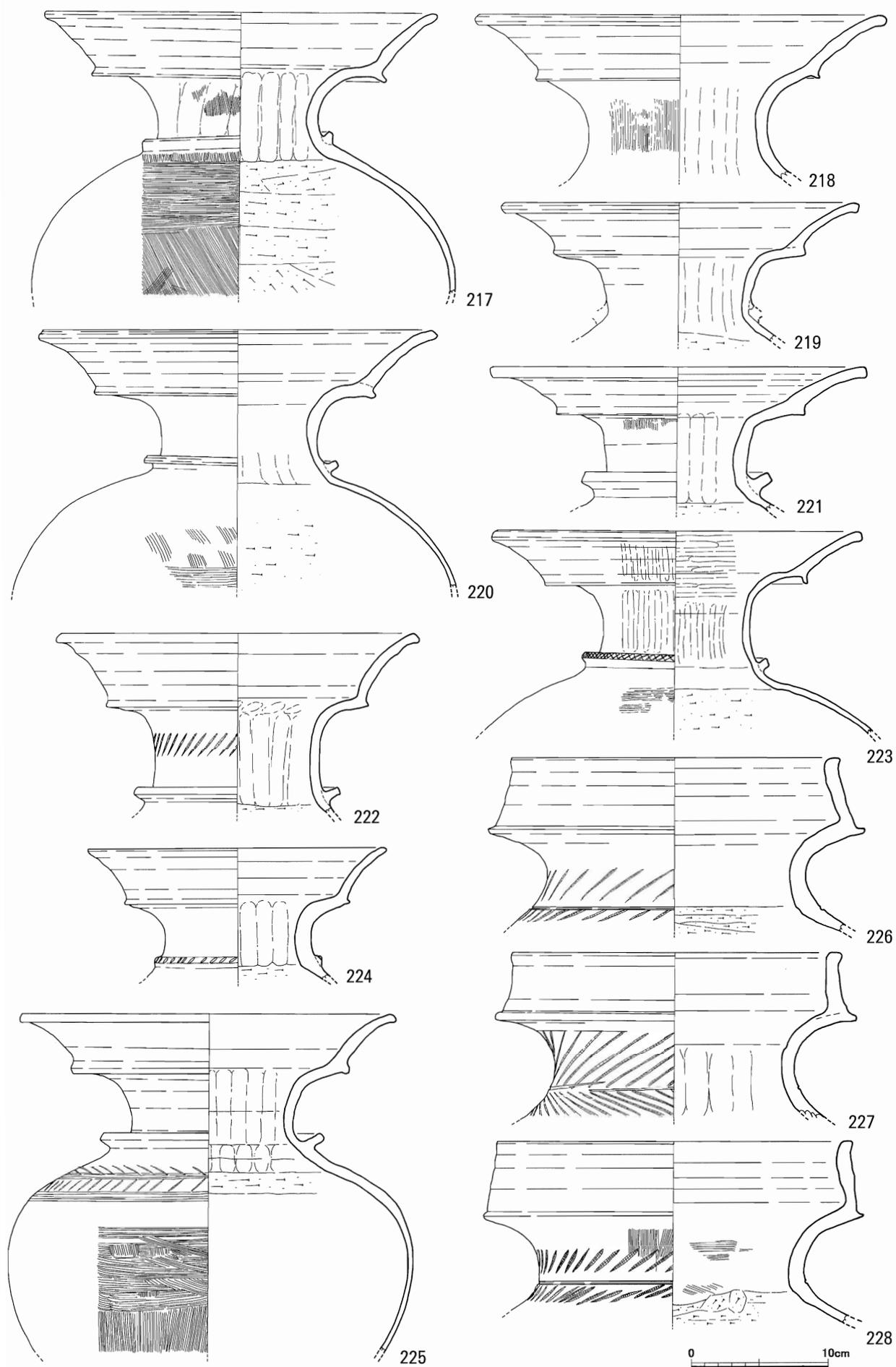
第118図 中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物実測図13 (1:4)



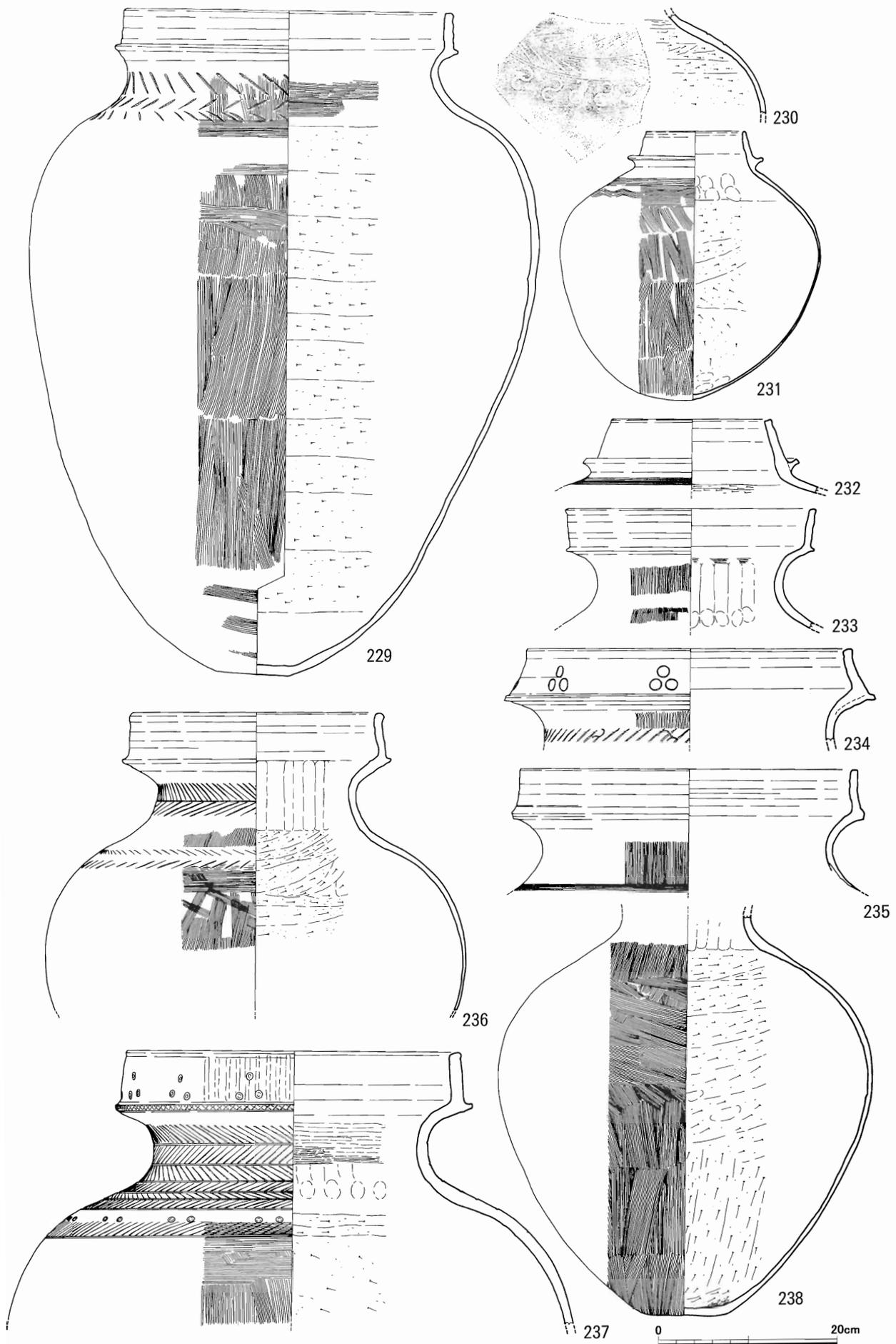
第119図 中野清水遺跡 7区14層上面5号溝出土遺物実測図14 (1:4)



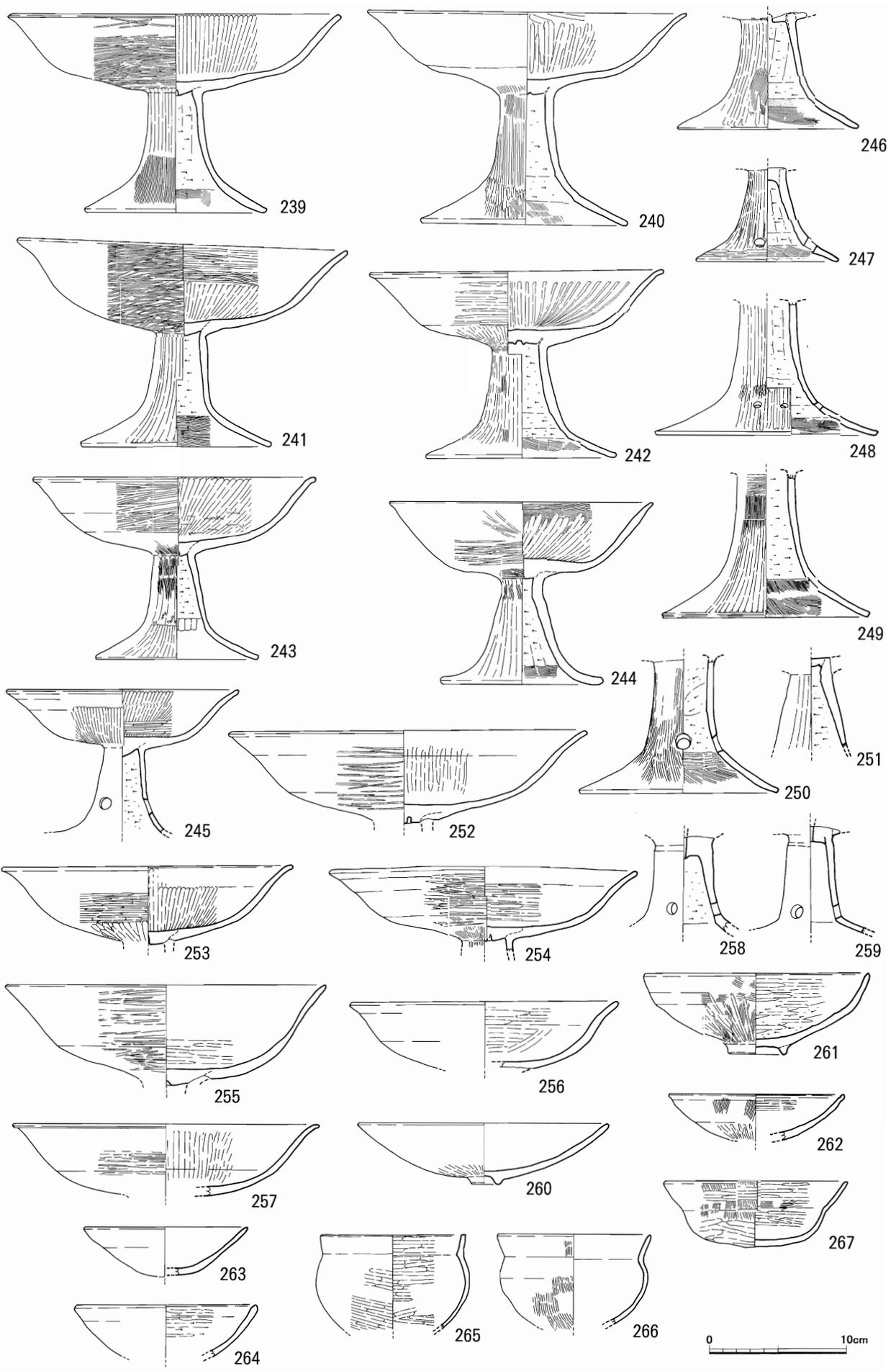
第120图 中野清水遺跡 7区14層上面5号溝出土遺物実測図15 (1:4)



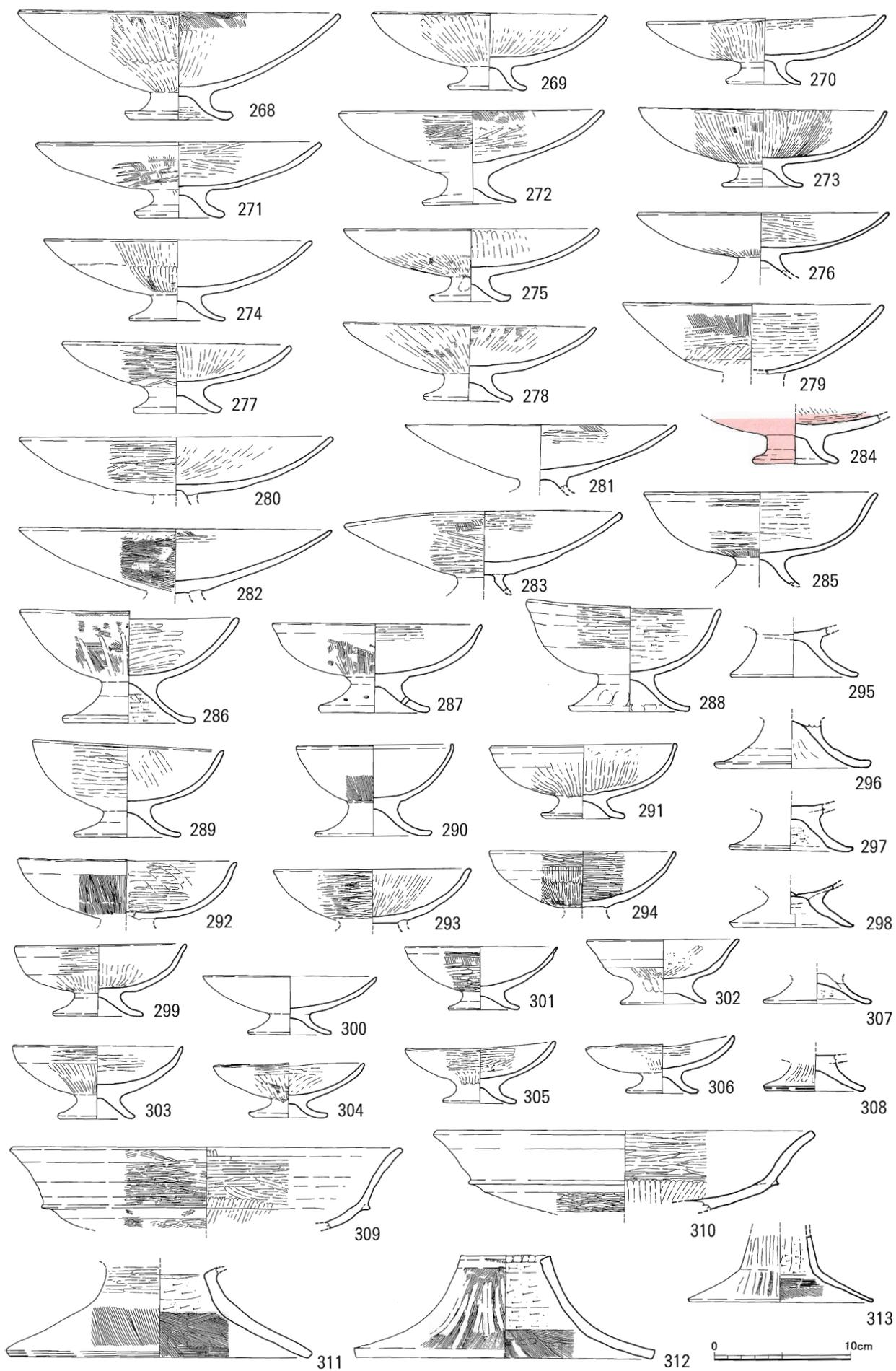
第121図 中野清水遺跡 7区14層上面5号溝出土遺物実測図16 (1:4)



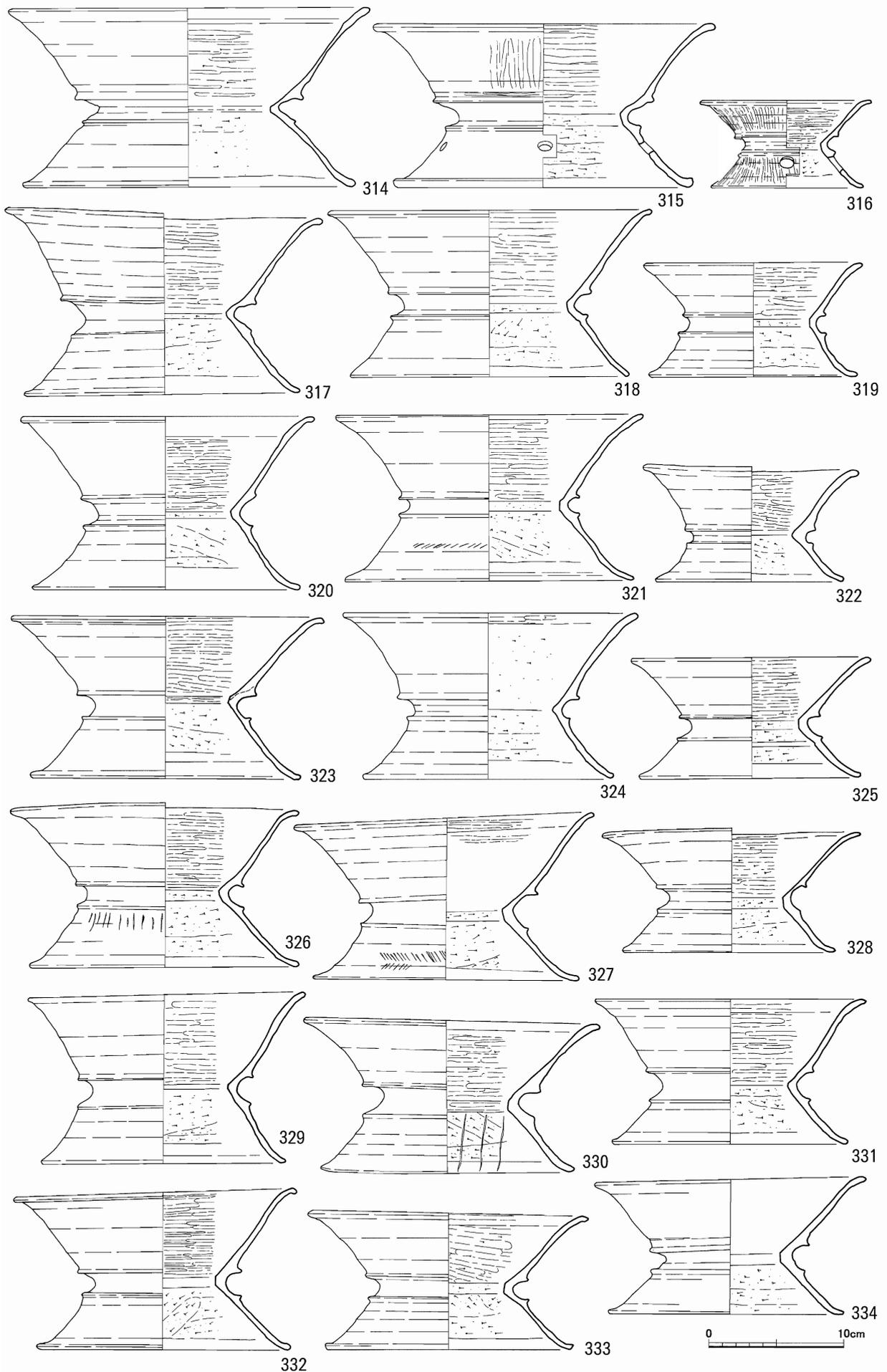
第122図 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測図17 (1:6)



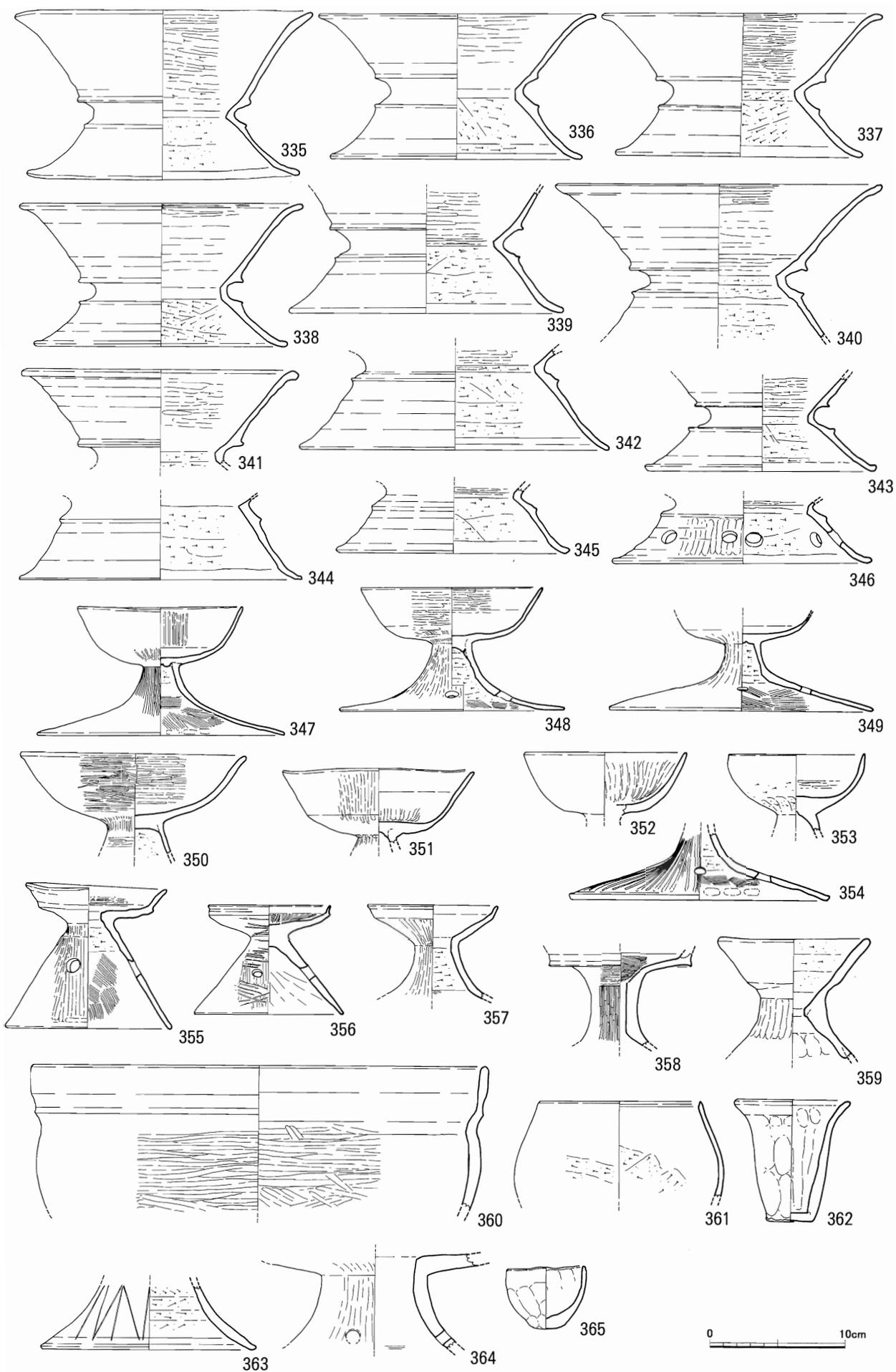
第123図 中野清水遺跡 7区14層上面5号溝出土遺物実測図18 (1:4)



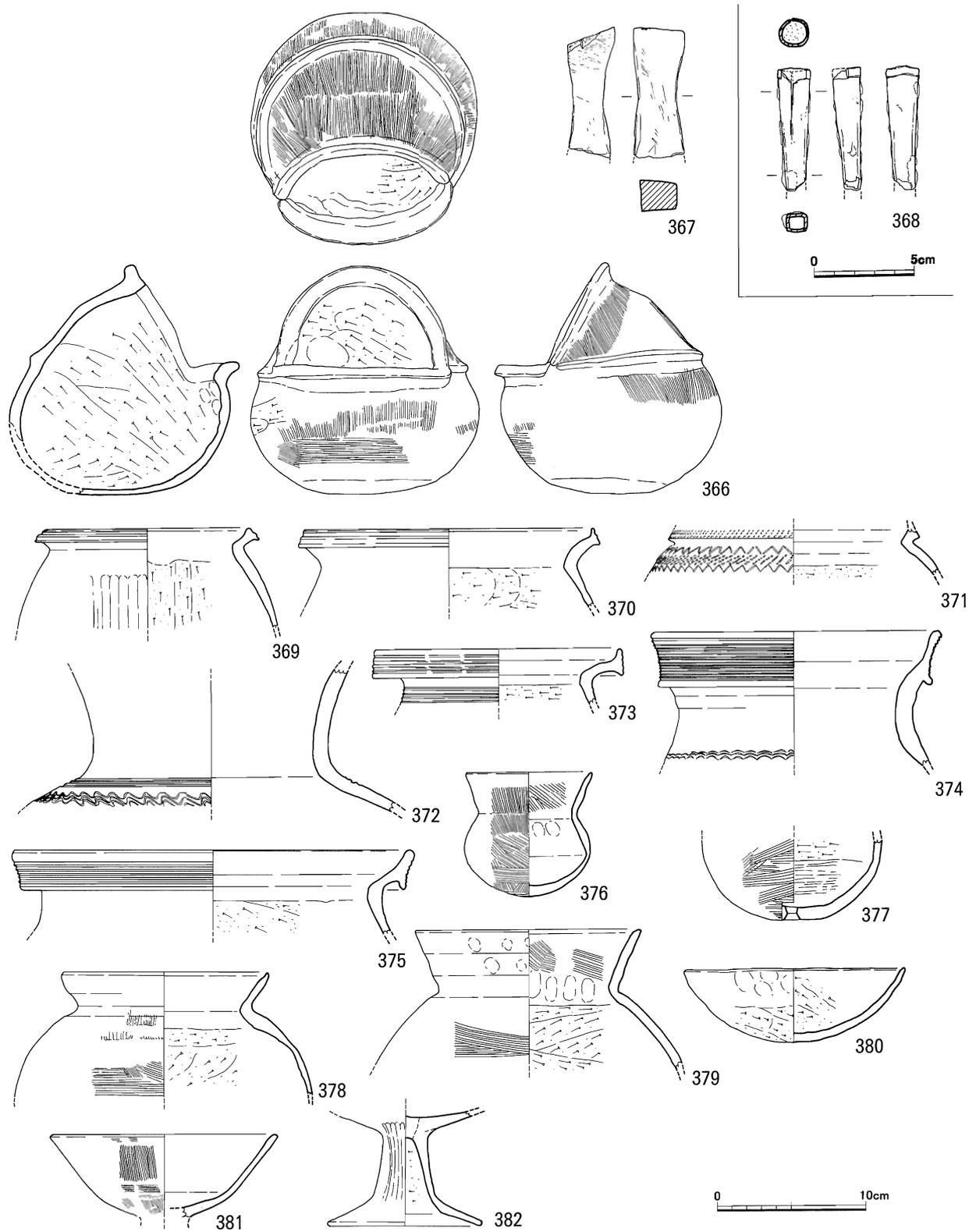
第124図 中野清水遺跡 7区14層上面5号溝出土遺物実測図19 (1:4)



第125図 中野清水遺跡7区14層上面5号溝出土遺物実測図20 (1:4)



第126图 中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物実測図21 (1:4)



第127图 中野清水遺跡 7区14層上面 5号溝出土遺物実測図22 (1:3, 1:4)

以上の遺物の時期は、弥生時代後期末から古墳時代前期のものと見られる。

369～375は弥生土器、376～382は土師器で小片が多いことから、5号溝への混入品と見られる。369・370は内傾する口縁の端部に凹線があり、頸部内面以下にケズリが入る。371は口縁と肩部に刺突文、肩部に山形の文様を施し、内面にはケズリが入る。372は壺の肩部で沈線と波状文が入る。373は立ち上がりの低い複合口縁をもつ壺で、頸部に凹線文が入り、頸部内面以下はケズリである。374は複合口縁の壺、375は甕である。ともに口縁外面に擬凹線があり、374の肩部には波状文が施される。376は小形丸底壺、377は壺・甕の底部で丸底を呈し、焼成後内外面から穿孔されている。378・379は「く」字形口縁をもつ甕で、380は坏、381・382は高坏である。

369・370・373は弥生時代後期前葉、374・375は後期中葉、376～382は古墳時代中期のものと考えられる。

6号溝（第128図） 調査区西側で位置するもので、南西から北東方向へ延びる浅い溝である。周辺ではピットが検出されており、一部のピットによって6号溝が切られる関係にある。

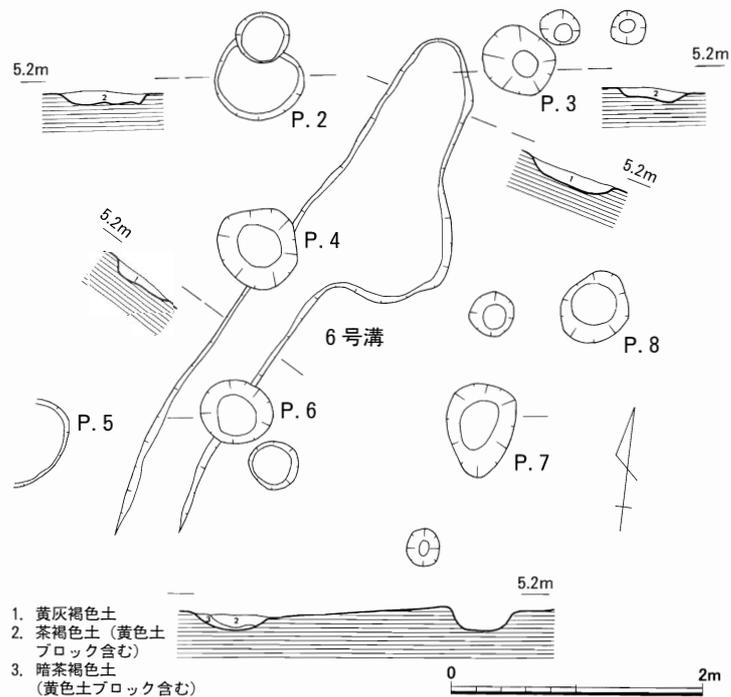
6号溝の平面形は北東側の一部が張り出す形をした不整形なもので、検出した長さは4.7m・幅0.5～0.6m、深さは10cm程度である。埋土は黄灰色土の1層である。

埋土中からの出土遺物はなかったが、付近で土師器高坏（第131図35・36・38）が検出されている。38は坏部に段をもつが、35・36は段をもたないものである。35は外面と坏部内面はハケメの後ミガキ、脚部内面はケズリ、36は坏部外面にハケメ、38は外面がハケメの後横ナデ、内面はミガキである。これらは古墳時代中期のもので、6号溝はこの頃に営まれた可能性が考えられる。

ピット群（第128図） 6号溝周辺のピットのうちP.2～P.7はその配置から見て小規模な掘立柱建物跡になる可能性がある。しかし、調査範囲の制約もあってピットの全体配置が明らかになっておらず、また、ピット自体が浅く建物跡として断定するには至らなかった。P.2－P.3間は2.0m、P.5－P.6間は1.5m、P.6－P.7間は1.8m、P.2－P.4間は1.3m、P.4－P.6間は1.3mである。

P.8は内部に土師器甕（第130図6）が正位に置かれていたものである。6はやや内傾する複合口縁をもち、底部は丸底を呈している。胴部外面には横線文と波状文が施されており、外面調整はハケメ、内面はケズリで底部には指圧痕が残る。

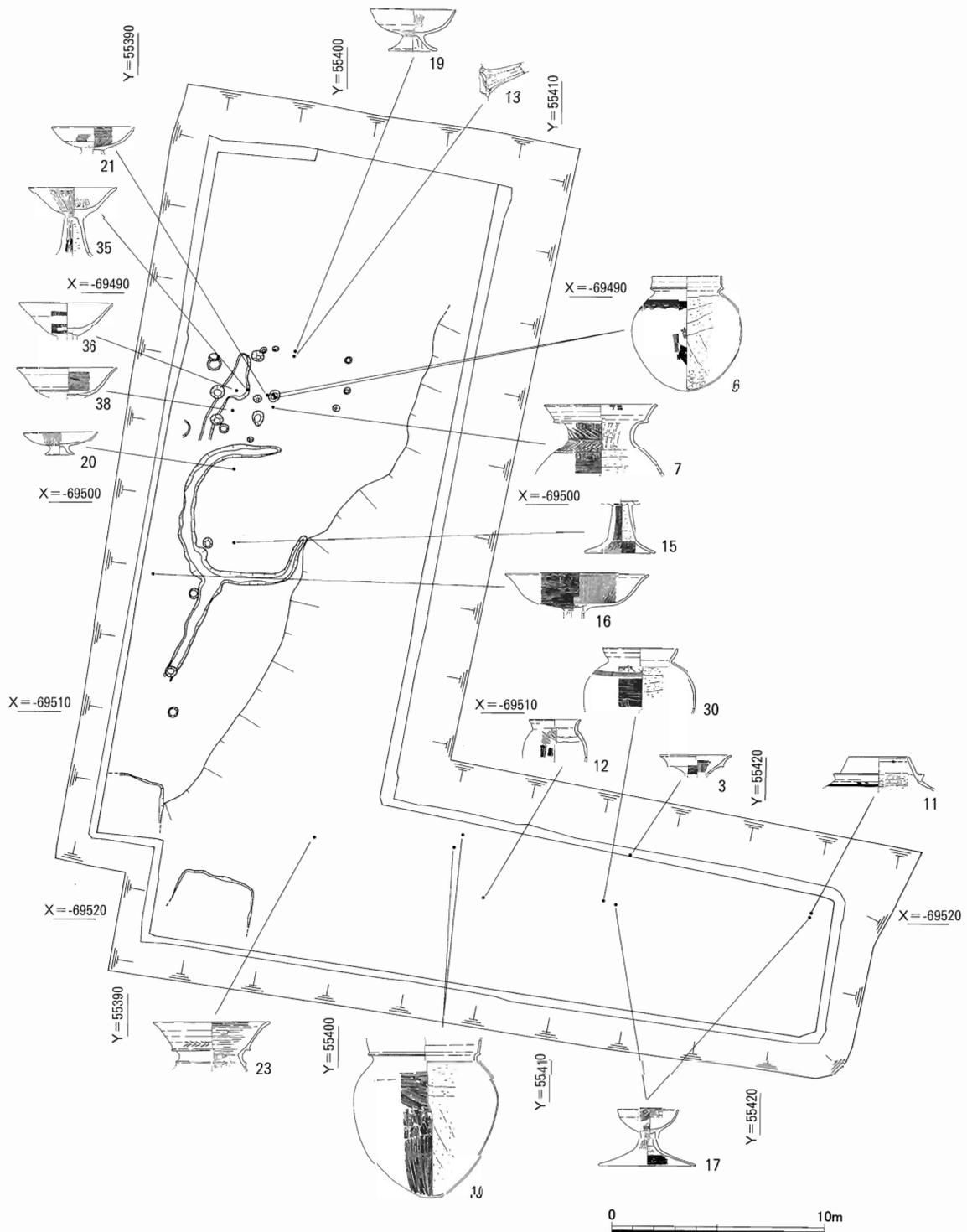
時期は古墳時代前期である。



第128図 中野清水遺跡7区14層上面6号溝実測図

14層上面他出土遺物（第129図） 14層上面では弥生土器（第130図1～3）、弥生～土師器（4・5・7～25）土師器（26～34・37）、土馬（39）、砥石（40）、鉄器（41）がある。先に述べた6号溝やP.8に関わる遺物以外は、出土地点にまともは見られず、湧水により調査中断を余儀なくされた調査区東側を含め、散在するような状況である。

なお、鉄器（42～43）はトレンチ等の出土遺物で層位は不明である。



第129図 中野清水遺跡7区14層遺物出土状況実測図

弥生土器 1は高坏の口縁で、外面に凹線文と刻みをもつ。2は甕の胴部で外面に2段に斜行刺突文が入り、内面下半にはケズリがある。3は器台の器受部で、内外面にミガキが施される。

弥生～土師器 4・5は甕で、外傾する複合口縁をもち、端部に平坦面をもつ。4は肩部に横線文と斜行刺突文、5は横線文をもち、胴部外面はハケメ、内面はケズリである。7は外傾する複合口縁をもつ壺で、頸部に綾杉文が入る。胴部外面はハケメで内面はケズリである。8は長い複合口縁をもつ台付直口壺で、外面はハケメの後ミガキ、内面はケズリである。9・10は甕の胴部で、ともに底部は平底となる。肩部には斜行刺突文があり、外面はハケメ、内面はケズリで、9の底部には指圧痕が見られる。11は内傾する口縁に突帯が付く壺で、外面は横方向のハケメ、内面はケズリと指圧痕がある。12は「く」字形に外反する口縁をもつ甕で、外面にタタキとハケメがある。13は注口で、外面は基部付近にハケメ、あとはミガキである。

14～17は高坏である。14・16は口縁が大きく外反する高坏で、14・15には坏部と脚部の接合部に刺突痕のある粘土板が充填される。外面と坏部内面はミガキ、脚部内面はケズリとハケメである。17は椀状の坏部と大きく開く脚部をもつ高坏である。坏部と脚部の接合部に粘土板が充填されており、外面と坏部内面はミガキ、脚部内面はケズリとハケメである。

18～21は低脚坏である。18は坏部に段を有するもので、脚部の接合部には刺突痕がある。口縁外面上半と内面はミガキ、外面下半はハケメの後ナデである。19は坏部が深く椀状となり脚もやや高いもので、外面と坏部内面の一部にミガキが残る。20・21は坏部が浅い皿状の小形のもので、坏部内外面はミガキであるが、21は外面の一部にケズリがある。22は坏で、器高が高く椀状を呈し、底部はやや厚く平底となる。23は鼓形器台で、器受部の一部に羽状文が入る。器受部内面はミガキ、脚台部内面はケズリである。24・25はいわゆる山陰形甕の把手である。

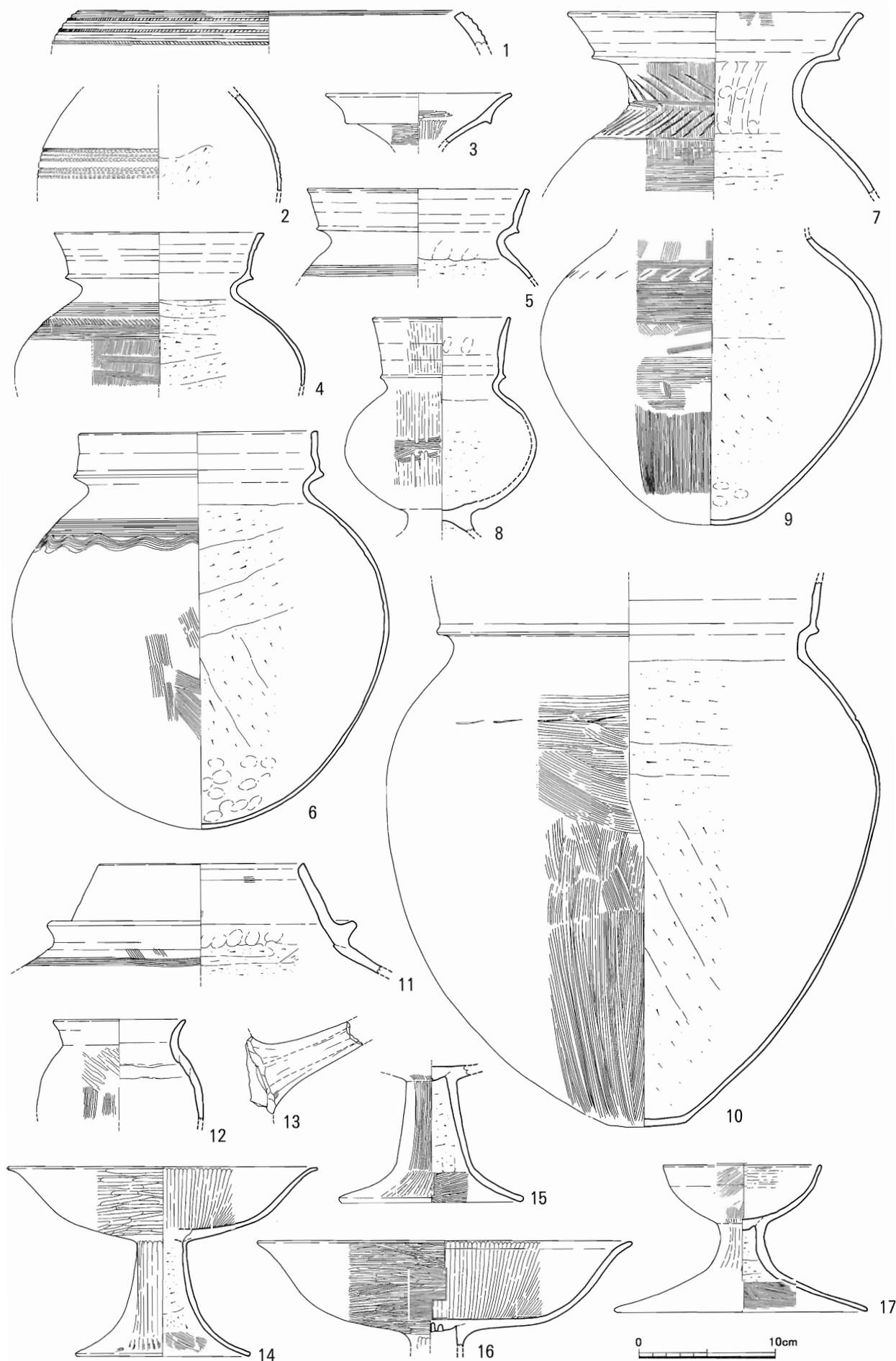
土師器 26～28は外面ににぶい稜をもち複合口縁が退化した甕である。27・28は端部が外方に突出する特色をもち、外面調整はハケメ、内面はケズリである。29・30は「く」字形に屈曲する口縁をもつ甕で、口縁はやや内湾する。30の肩部には部分的に刺突文と横線文が入り、外面はハケメ、内面はケズリである。31は甕の胴部で丸底である。胴部外面には沈線1条とハケメ、内面はケズリ、底部付近に指圧痕がある。32は小形丸底壺で、胴部外面はハケメ、内面はミガキとケズリである。33は高台状のものが付く底部で、外面はミガキ、内面はケズリの後ミガキが入る。34は手捏土器、37は高坏の脚部で外面はハケメのちミガキ、内面はケズリとハケメである。

その他 39は土馬で背に鞍の表現がある。40は頁岩製の小形砥石で、各面に使用痕がある。42は曲刃鎌片、43は鉄鍋片、41・44は鉄片である。

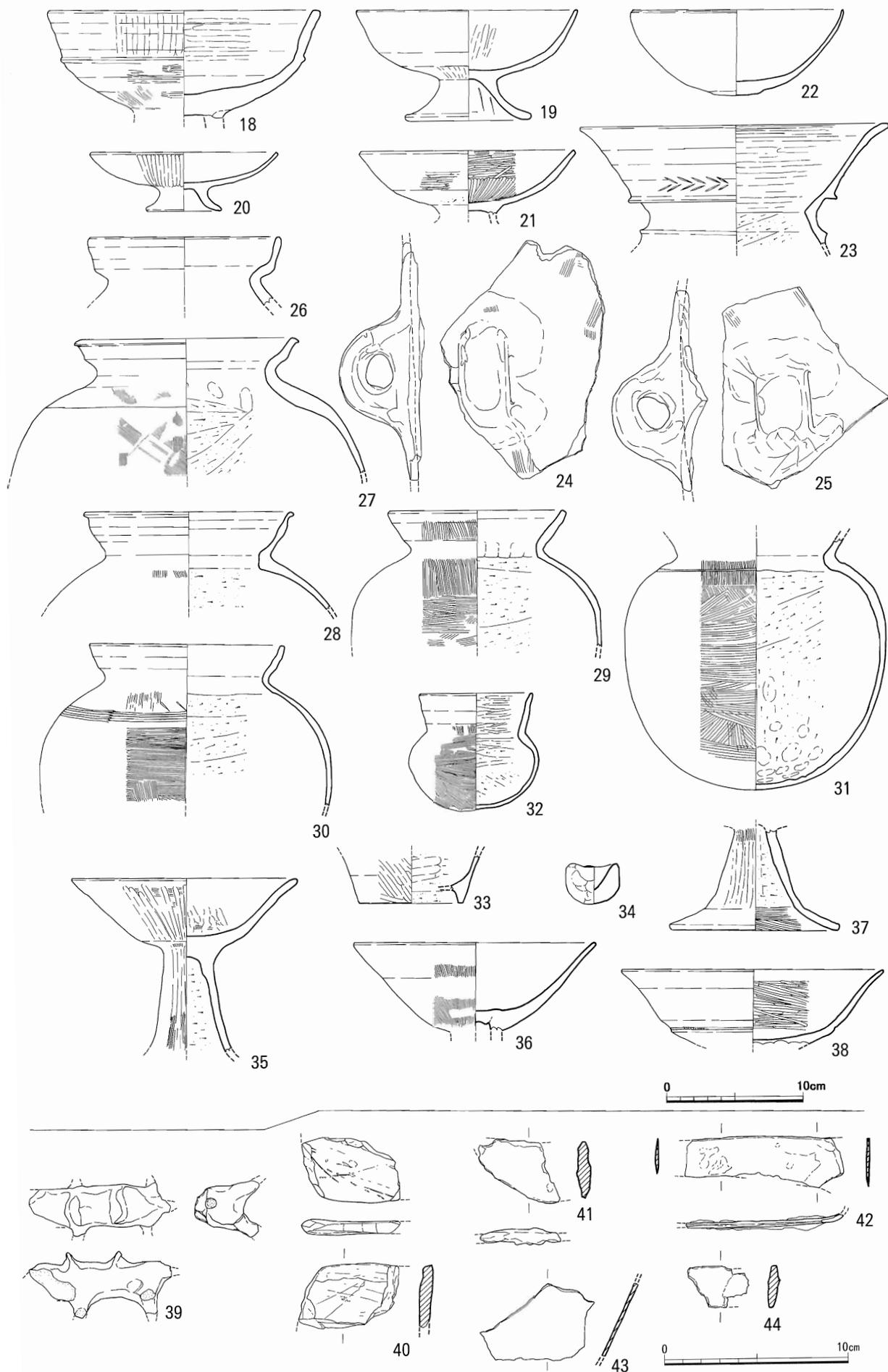
遺物の時期は、1・2が弥生時代中期後葉、4～25が弥生時代後期末～古墳時代前期、26～32が古墳時代中期である。

註

- (1) 大澤正己・鈴木瑞穂「中野清水遺跡出土鍛冶・銅関連遺物の金属学的調査」『中野清水遺跡(2) 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6』島根県教育委員会 2005
- (2) 中村唯史「島根県内で発見された地震の痕跡」『島根県立三瓶自然館研究報告』第1号 島根県立三瓶自然館 2003
- (3) 島根県教育委員会『古志本郷遺跡Ⅰ 斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ』1999
- (4) 島根県教育委員会『古志本郷遺跡Ⅱ 斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ』2001



第130図 中野清水遺跡 7区14層出土遺物実測図 (1:4)



第131图 中野清水遺跡7区14層他出土遺物実測図 (1:4, 1:3)

第7節 総括

中野清水遺跡では、弥生時代から江戸時代までの多種多様な遺構・遺物が検出された。調査区や湧水などの条件により必ずしも十分な調査が行えなかった地点もあるが、ここでは延べ3年間の調査成果を踏まえ、遺跡をめぐるいくつかの問題点を考えてみたい。

(1) 遺跡の時期

中野清水遺跡が所在する地点は、中国山地から流れ出た斐伊川が形成した扇状地と自然堤防に挟まれた三角州に位置する。地質調査によれば、今から2,500年前頃には付近は河道となっており、標高1.0m～3.5m付近にかけて砂礫と細砂・中砂・腐植質土からなる河川性の堆積物が2.5mの厚さで溜まっている。しかし、その後は遺跡付近は河道からは外れたようで、付近の環境は安定し弥生時代中期には集落が形成され始める。

第2表は中野清水遺跡の各調査区と本来同一の遺跡である大津町北遺跡で出土した遺物の時期を示したものである。これによれば、調査区中央北側のV区では弥生時代中期前葉の土器が出土しており、中葉から後葉にかけてはⅧ区・1～4区・8区など調査区の西側を中心にして、遺跡が形成されている。弥生時代後期後葉になると、調査区全体に遺跡が広がりを見せるとともに、古墳時代前期前半にかけて夥しい量の土器が残されている。古墳時代前期後半から中期、後期前半にかけては、遺構・遺物の量は減るものの引き続き集落が営まれていたことが窺える。古墳時代後期後半から奈良時代にかけては再び調査区ほぼ全域で遺構・遺物が確認されており、集落が広がっていることが分かる。平安時代の遺構・遺物は少なくなるが一定量認められることから、この頃までは集落が存続していたようである。

鎌倉時代の遺物は出土しておらず、付近はこの頃には水田となっていた可能性がある。6区の水田畦畔では北宋銭と明銭が出土した他、7区畦畔出土の木片で放射性炭素年代測定を行ったところA.D.1640年という年代が得られており、少なくとも室町時代から江戸時代初めにかけて水稲耕作が行われていたことは確かであろう。水田は上面を厚いところで60cm程度の洪水砂で覆われており、江戸時代初めに付近が大規模な水害に見舞われたことが想定できる。記録によれば、寛永10(1633)

第2表 中野清水遺跡各調査区の時期

調査区	弥生時代中期			弥生時代後期			古墳時代前期		古墳時代中期		古墳時代後期		奈良時代	平安時代
	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前半	後半	前半	後半	前半	後半		
I区					■	■	■					■	■	
II区						■	■	■	■			■	■	■
III区							■	■				■	■	■
IV区				■		■	■	■	■			■	■	
V区	■				■	■	■							
VI区				■		■	■					■	■	
VII区					■	■	■							
VIII区		■	■			■	■							
大津町北					■	■	■					■	■	
1区			■	■		■	■		■	■	■		■	■
2区		■	■	■			■			■	■			■
3区		■	■	■	■	■	■		■			■	■	■
4区			■	■	■	■	■	■	■			■	■	■
5区					■	■	■	■	■			■	■	
6区						■	■	■	■	■	■		■	■
7区				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
8区			■	■	■		■	■	■	■			■	■
9区													■	
10区							■					■	■	

年・延宝2（1674）年・元禄15（1702）年には大洪水があり、江戸時代には30回を超える洪水があったという。水田面上の洪水砂が、これらのどれに当たるものであるかは特定できないが、江戸時代に頻発した洪水によるものであることが考えられる。

（2）弥生・古墳時代

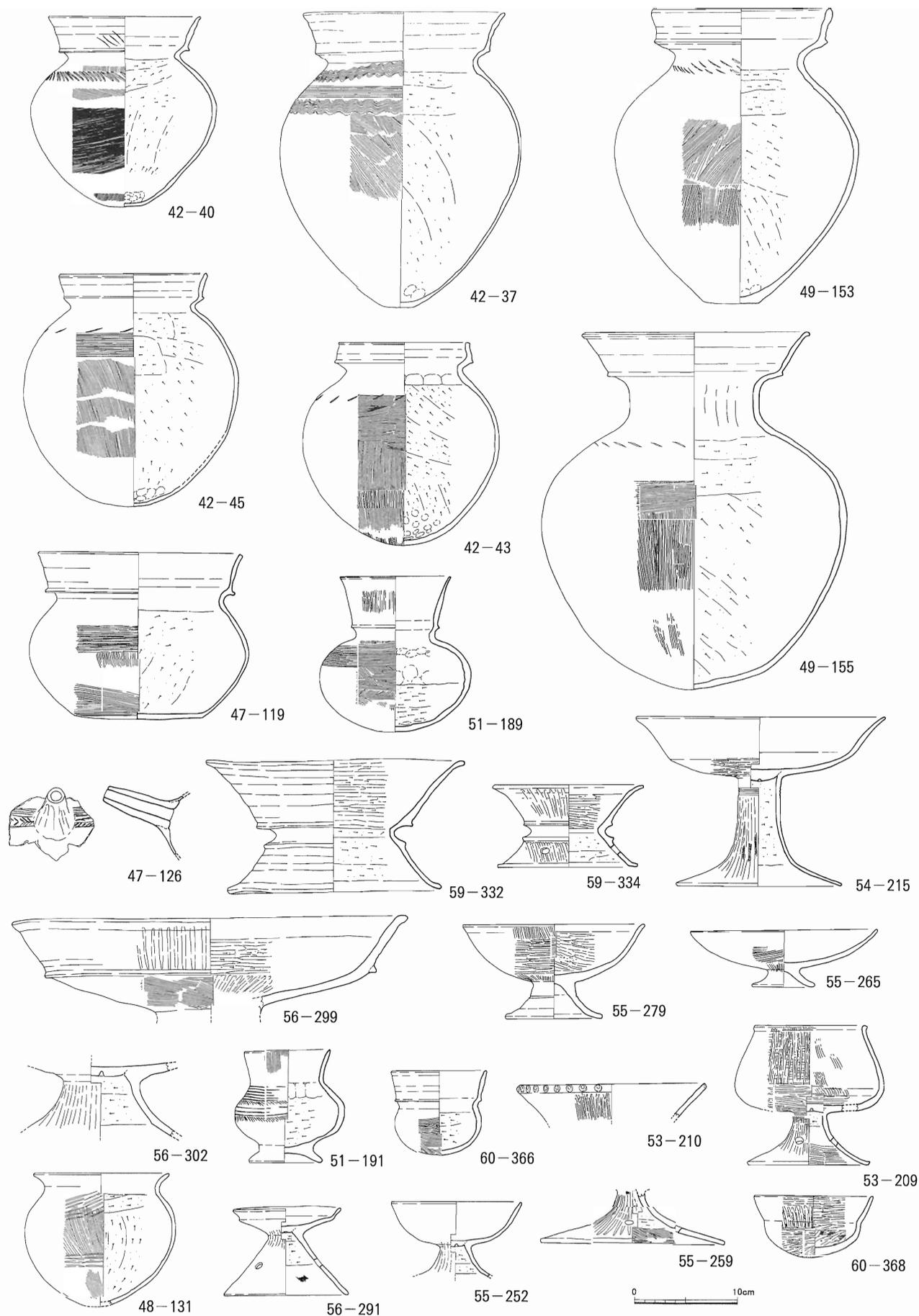
弥生時代中期後葉の絵画土器 2区ではシカの線刻画が描かれた弥生土器大形壺（第16図14）が検出された。口縁から頸部の破片で遺構に伴わない状態で出土したものであるが、口径35.0cmと大きく、口縁端部に凹線文と刺突文・円形浮文、内面に波状文・横線文が施されるなど祭祀等に使用された特別な壺と見られる。シカの線刻は頸部に1つが確認できるが、頸部は小片となっているため、他にも線刻があった可能性もある。シカは頭・胴体・四肢とも単線で表されているのが特徴で、右向きで四肢を前方に出す形で描かれている。時期は口縁に凹線が入り、かつ内面が波状文で飾られることからIV-1様式⁽¹⁾、中期後葉のものと見られる。

島根県内では出雲市美談町美談神社遺跡で同様なシカの線刻画を持つ壺が出土している⁽²⁾。これは頸部にシカが3つ描かれており、その表現は頭・胴体・四肢とも単線で表され、四肢を前方に出す形をもつことなど共通点がある。時期はやはり中期後葉のものである。白枝荒神遺跡ではシカではないがサメが線刻された壺が出土しており⁽³⁾、時期は中期中葉とされる。一方、雲南市加茂岩倉遺跡で出土した21号鐸・23号鐸・35号鐸にもシカが鋳出されている⁽⁴⁾。いずれも胴体から頸部は複線で描かれたものであり、土器に描かれたシカとは異なる。21号鐸は外縁付鈕2式で古いが、23号鐸・35号鐸は扁平鈕2式であり中野清水遺跡や美談神社遺跡に近い頃のものと思われる。

弥生土器に施される絵画は中期中葉頃から描かれ後葉に盛行するとされており、分布は奈良県・大阪府が中心である⁽⁵⁾。近畿地方の土器に描かれるシカは胴体が複線で描かれ、内部が斜格子文などで埋められるものが多く、中野清水遺跡や美談神社遺跡のようにすべて単線のものとは異なっている。同様に単線でシカが描かれた中期後葉の壺としては、広島県安芸高田市高宮町新迫南遺跡の壺が知られており⁽⁶⁾、共通性を窺うことができる。

弥生時代後期末から古墳時代前期の土器 中野清水遺跡では調査区のほぼ全域から弥生時代後期末から古墳時代前期の土器が検出されており、特に4区14層及び7区14層上面5号溝ではこの時期の土器が多量に出土している。前者は調査区一面に遺物が一面に広がった状態で検出されたもので、一定の範囲を決めて土器が集積または廃棄されたことにより形成された土器溜まりと考えられる。出土遺物は弥生時代後期末から古墳時代前期の土器を主体とするが、破片となったものが多く、弥生時代中期後葉～古墳時代中期のものも少量含まれている。一方、7区5号溝は完形品を含む多くの土器が投棄されており、土器の底部には意図的に穴があけられものも見られた。弥生土器や古墳時代中期の土器も小片が一部含まれたが少なく、比較的一括性の高いものと考えられる。

4区14層土器溜まり 出土土器のうち甕は底部に小さな平底がつくものと、丸底になるものに分けられる。口縁は先端部が先細りとなり外反するもの、端部が外側に曲がり面をもつものなどがある。壺は口縁があまり開かず底部が平底になったものも含まれるが、口縁が大きく開き頸部や肩部に施文されるものが多く、底部は痕跡的な平底となったものがある。甕の口縁端部が外反し小さな平底を残すもの（第42図36・37・40など）は草田5期、端部が外側に曲がり面をなすもの（第46図100～108、第47図109など）は草田6期、底部が丸底となるもの（第42図43～45など）は草田7期、壺の口縁があまり開かず底部が平底のもの（第49図153）は草田5期、口縁が大きく開き小さな平



第132図 中野清水遺跡 4区14層出土弥生後期末～古墳前期土器

底を残すもの（第49図155・156など）は草田6期に概ね併行するものと見られる⁽⁷⁾。

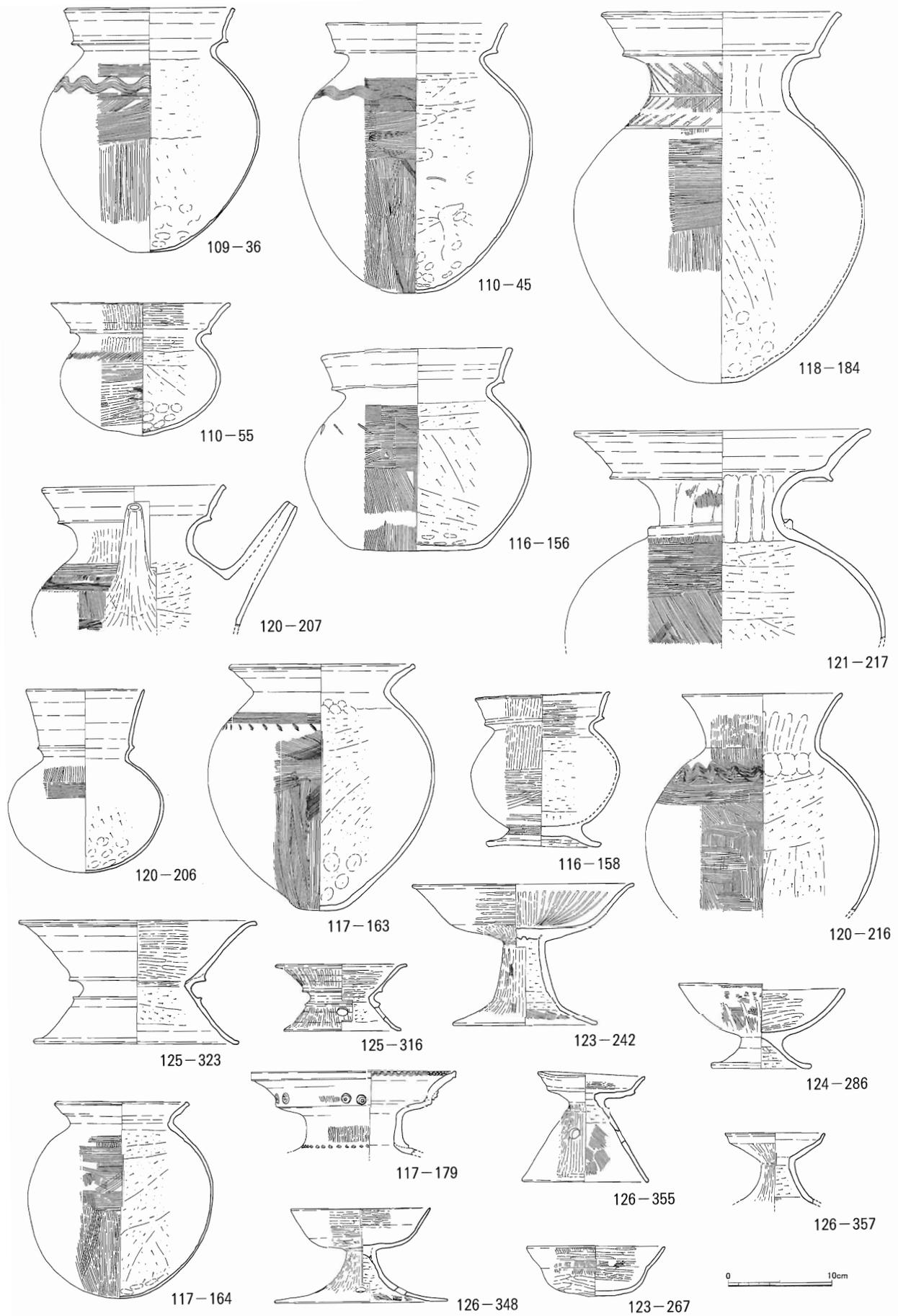
この他には平底甕・直口壺・複合口縁細頸壺・注口土器・鼓形器台・高坏・低脚坏などが見られる。このうち鼓形器台は口径11～12cmと小形で円形透孔や外面に縦方向のミガキをもつもの（第59図334・340）が含まれているが、これは畿内の布留式期の鼓形器台の影響を受けたものと考えられている⁽⁸⁾。また、複合口縁細頸壺は第53図203があるが、この種の壺は近畿の二重口縁壺の影響を受けて小谷1式以降現れたとされるものである⁽⁹⁾。近畿系統の土器としては、タタキをもつ庄内式の甕（第48図131）の他、布留式系統の小形器台、高坏、小形丸底壺が含まれている。草田5・6期はタタキ甕を共伴することが分かっており、草田7期は布留式に併行すると見られることから、これらの遺物は在地土器の様相に合致したものと言える。

以上のように見ると、4区14層の土器溜まりは弥生時代後期終末の草田5期の段階から、古墳時代前期前半の草田7期・小谷2式段階のものを主体とすると考えられる。土器溜まりの中には小形仿製鏡や手捏土器、土玉など祭祀的な遺物があり、焼成・胎土から見て弥生時代後期末から古墳時代前期頃のものと思われる薄手の手捏土器（第60図389～396）も含まれることから、何らかの祭祀が行われた可能性が考えられる。

7区5号溝 出土土器の様相は4区14層と共通する点も多いが、若干違いも見られる。甕は底部が平底を痕跡的に残すものと丸底になるものが主体で、口縁も先端部が先細りとなり外反するものより、端部を外側に折り曲げたものや、端部が面をなすものが多く見られる。壺は口縁が大きく開き頸部や肩部に施文されるものが多く、底部は平底をもつものはなく、平底を僅かに留めるものとなる。甕の口縁端部が外側に曲がり、底部に痕跡的な平底を残すもの（第106図2・6、第107図7～9・14～17、第108図25・29～32、第109図36など）は草田6期、端部が面をなし底部が丸底のもの（第106図1・3～5、第107図10～13、第108図21～23、第109図37・39～42・44、第110図45など）は草田7期、壺の口縁が外傾し小さい平底を残すもの（第118図183・185・186など）は草田6期に、口縁が大きく開き頸部に綾杉文をもつもの（第118図184・188など）は草田7期に併行するものと考えられる。

この他には「く」字形口縁の甕や平底甕・直口壺・複合口縁細頸壺・注口土器・鼓形器台・高坏・低脚坏などが見られる。このうち「く」字形口縁の甕（第117図162・163など）は薄手で底部に痕跡的な平底を残し、胴部は複合口縁甕のうち草田6期のものと似ている。また、鼓形器台は口径12.6cmと小形で円形透孔や縦方向のミガキをもつもの（第125図316）が含まれる他、複合口縁細頸壺（第121図217～225）が多く見られる。近畿系統の土器としては、布留式系統の甕（第117図164）・小形器台（第126図355・356）・高坏（347～354）・小形丸底壺（第123図267）がある他、二重口縁壺（第117図179）・手焙（第127図366）が含まれている。草田6期は大木式と小谷1式に細分され後者は布留0式、草田7期は布留1式に併行するとされることから⁽¹⁰⁾、これらの遺物は在地土器の様相と共通するものと考えられる。なお、小形器台（第126図357）は北陸系の器台で⁽¹¹⁾、草田5～6期の土器と伴出するようである。

以上のように見ると、7区5号溝出土の土器は弥生時代後期終末の草田6期、大木式・小谷1式の段階から、古墳時代前期前半の草田7期・小谷2式段階のものと考えられる。4区14層の土器と比較するとやや新しい様相を持ち、時期的にはより短い時期に限られており、5号溝出土土器は一括投棄された可能性が考えられる。



第133图 中野清水遺跡 7区 5号溝出土弥生後期末~古墳前期土器

西部瀬戸内・北部九州・韓国系の土器 4区14層及び7区5号溝では、近畿や北陸系統の土器が出土したことは既に述べたが、この他にも西部瀬戸内・北部九州・韓国から搬入された土器や、その模倣品と思われる土器が出土している。ここでは中野清水遺跡の延べ3年間にわたる調査で出土したものや、出雲平野の各遺跡で出土したものを加え、その様相を概観することとした。

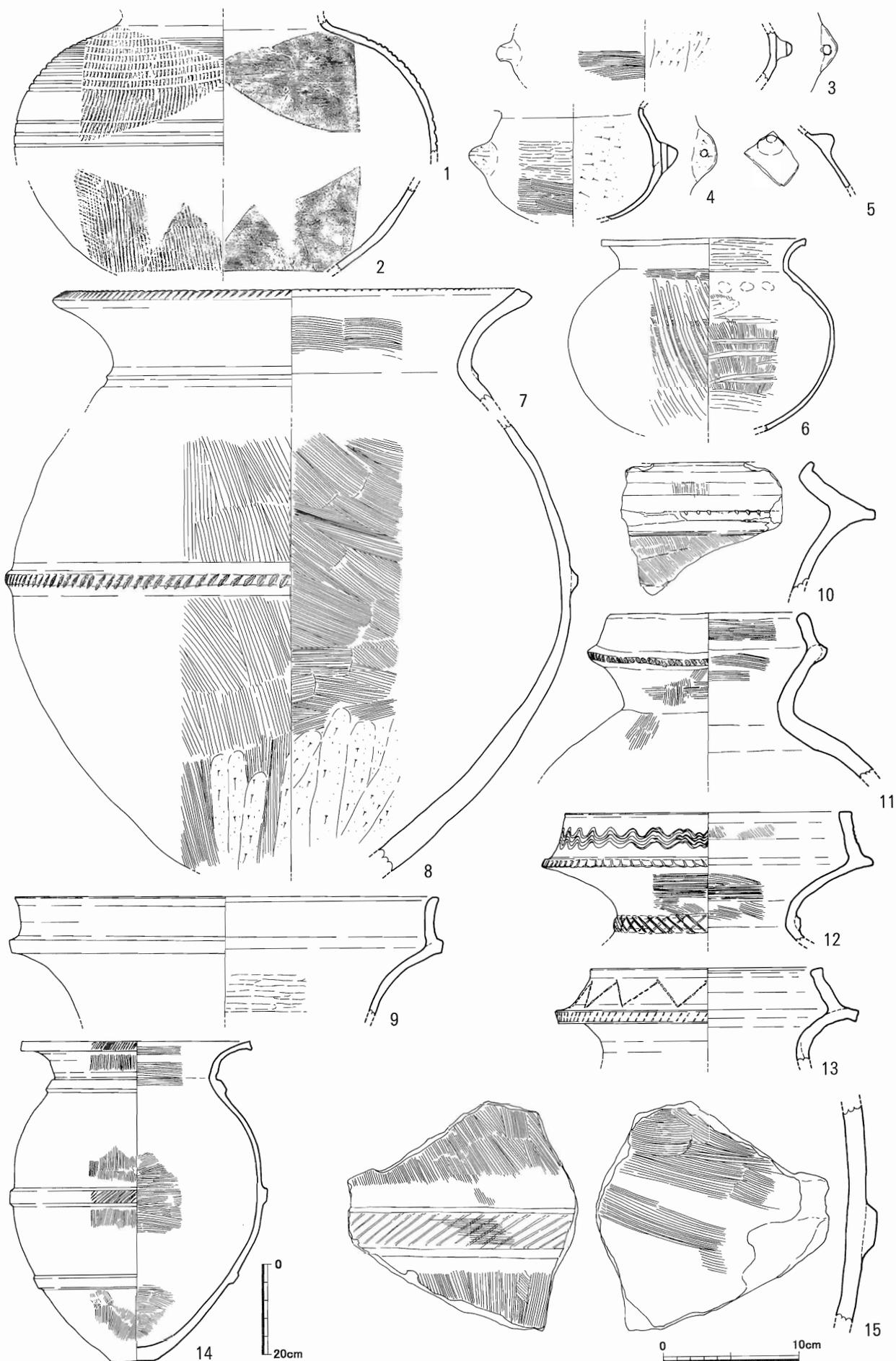
第134図1・2は6区出土の陶質土器で、その特徴は上長浜貝塚のもの(第135図17)とよく似ており、4世紀後半代に加耶で作られたものと見られる⁽¹²⁾。3～6は焼成・胎土・調整は在地土器と変わらないが、胴部に孔付の把手や乳状突起をもったり、器形が在地土器には見られないものである。古志本郷遺跡では瓦質土器(第135図11～13)が複数個体出土し孔付の把手も含まれるが⁽¹³⁾、これらは瓦質土器を模倣して在地で作られたものと見られる。

7・8はⅡ区とⅦ区で出土したもので、古志本郷遺跡のもの(第135図9)に近い特徴をもつ。これは北部九州では弥生時代後期後葉の下大隈式とされており、北九州地域からの搬入品である可能性が考えられる。同種の小片(第135図5・6)は姫原西遺跡でも出土しており、後期末の西新式併行期のものとされる⁽¹⁴⁾。9は4区、10は7区で出土したもので、在地土器とは異なる器形・胎土をもち、北九州から西瀬戸内にかけてのものと思われる。

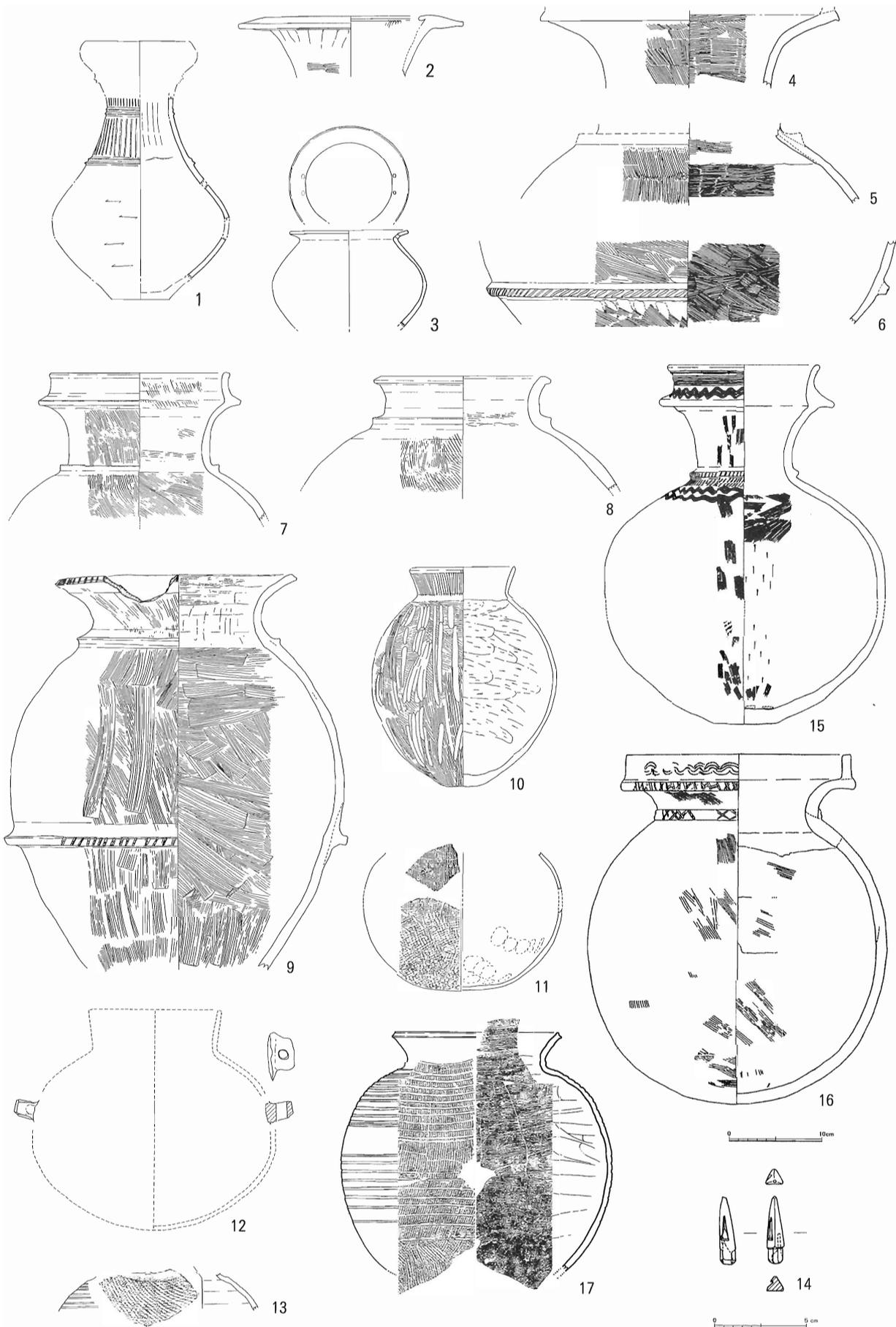
11は大津町北遺跡、12が4区、13は7区で出土したものである。11・12は胎土・焼成が在地土器とは異なり搬入品の可能性があるが、13は在地土器と同じことから模倣品と見られる。12は白枝荒神遺跡の壺(第135図16)と口縁の形態・文様・胎土・焼成がよく似ている。これらは内傾する複合口縁に波状文・三角文を施し、12など頸部に斜格子文が入った粘土帯が付けられるという特徴をもち、西部瀬戸内系の土器と考えられる。広島湾沿岸地域では大形の複合口縁壺は弥生時代後期後葉頃から増加し、古墳時代前期前半まで存続している。その中でも11～13は擬口縁の内側に口縁の立ち上がりや付加する点で広島湾岸のⅢ期に該当するものであるが、Ⅲ期はⅢ-1期とⅢ-2期に細分されており、Ⅲ-1期には大木式の共伴例がある⁽¹⁵⁾。また、山口県東部では複合口縁壺は弥生時代後期中葉に出現するが定型化するのには後葉になってからで、古墳時代前期の布留式前葉に併行する段階まで存続することが分かっている⁽¹⁶⁾。こうした状況は11～13と共伴する遺物の様相に合致するものであり、現状では安芸から周防を中心とした地域との関係が考えられる。

第3表 出雲平野出土の北部九州・西部瀬戸内・韓国系遺物

挿図番号	遺跡名	遺物	地域	時期
134-1~6	中野清水遺跡	陶質土器・模倣土器	韓国	弥生後期末～古墳前期
134-7・8		弥生土器	北九州	弥生後期後葉
134-9・10		弥生～土師器	北九州～西瀬戸内	弥生後期末～古墳前期
134-11～13		弥生～土師器	西部瀬戸内	弥生後期末～古墳前期
134-14・15		弥生土器	福岡(糸島)	弥生後期末
135-1	下古志遺跡	弥生土器	北部九州	弥生中期後葉(須玖Ⅱ式)
135-2	古志本郷遺跡	弥生土器	北部九州	弥生中期後葉(須玖Ⅱ式)
135-3	白枝荒神遺跡	弥生土器	北部九州	弥生中期後葉(須玖Ⅱ式)
135-4～6	姫原西遺跡	弥生土器	北部九州	弥生後期末(西新式)
135-7～8	山持遺跡	弥生～土師器	北九州～西瀬戸内	弥生後期後葉～古墳前期
135-9	古志本郷遺跡	弥生土器	北九州	弥生後期後葉
135-10		弥生～土師器	西部瀬戸内	弥生後期後葉～古墳前期
135-11～13		瓦質土器	韓国	弥生後期後葉～古墳前期
135-14		銅鏃	韓国(楽浪)	
135-15		西谷4号墓	弥生土器	西部瀬戸内
135-16	白枝荒神遺跡	弥生～土師器	西部瀬戸内	弥生後期末～古墳前期
135-17	上長浜貝塚	陶質土器	韓国	古墳前期



第134図 中野清水遺跡出土の北部九州・西部瀬戸内・韓国系遺物



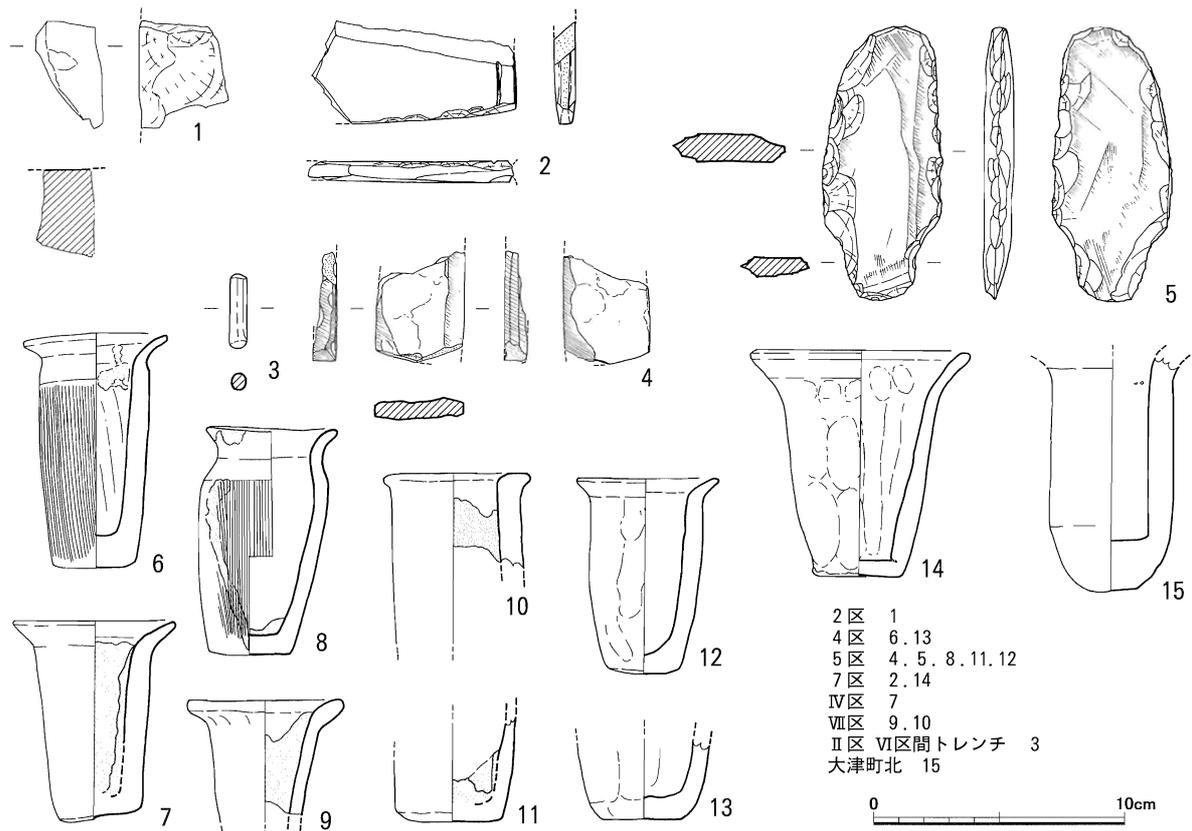
第135図 出雲平野出土の北部九州・西部瀬戸内・韓国系遺物

14は4区、15は5区の出土遺物で同一個体の可能性もある。タタキが施された幅広い突帯をもち、内外面にハケメを残すのが特徴で、胎土も在地土器と異なっており、北部九州でも福岡県の糸島地域で特殊に展開した大形土器⁽¹⁷⁾が搬入されたものと考えられる。突帯や調整の状況は前原市支登遺跡出土のものなどと酷似していることから、甕棺編年のK Vc式とされるものに当たると見られ、弥生時代後期終末の西新式に併行すると考えられる⁽¹⁸⁾。

生産関係遺物 中野清水遺跡では、弥生時代から古墳時代にかけての石製品製作及び漆・水銀朱に関わる遺物の他、鍛冶関連遺物が出土している。

第136図1～5は石製品の製作に関わるもので、2は管玉用の板状石材、3は管玉未成品、5は石剣状の未成品、1は砥石または石材、4は周辺に研磨があり大きさから見て玉作用の板状石材の可能性もある。このうち、2は端部に両面に施溝し折り取られた痕跡があり、片面には6mm程の幅で擦切溝が残る。管玉未成品である3もやはり幅6mmであり、こうして擦切分割されたものに研磨が加えられたと考えられる。蛍光X線分析によれば、石材は3以外は碧玉であったが産地は不明であり、今後の同定に資するため中野清水遺物群として設定されている。

施溝分割による管玉製作は島根県では弥生時代後期後半には衰退するとされており⁽¹⁹⁾、石材が花仙山産と判定されなかったことと合わせ、これらの遺物はそれ以前のものであることが想定される。中野清水遺跡で弥生時代中期前葉の土器も出土しているが、量的に増えるのは中葉から後葉以降であり、上限はこの頃と見ておきたい。また、石製品製作が管玉に限られず、石剣形石製品も作られていることは注意される。出雲平野では古志本郷遺跡や矢野遺跡などで玉作関係の遺物が出土しており、後者では同様に施溝分割の痕跡を留めた碧玉板材が出土している⁽²⁰⁾。



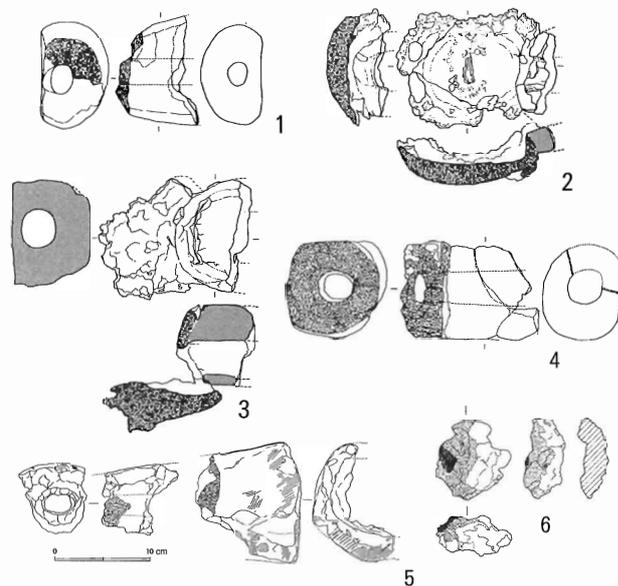
第136図 中野清水遺跡出土石製品生産及び漆関係遺物

第136図6～15は漆採取に関わる遺物である。多くは内面に漆が付着しているが、12・14のように未使用のものもあることから、他の集落から漆が入ったものが持ち込まれたのではなく、漆容器が集落内で製作され、付近で採取が行われていたと考えられる。時期は6が4区14層土器溜まり、14が7区14層上面5号溝で出土していることから弥生時代後期末から古墳時代前期初頭のものと思われる。7・9・10では漆の炭素年代が測定されており、暦年較正された年代はA.D.80～240という結果が得られている⁽²¹⁾。

一方、4区14層土器溜まりでは赤色顔料の付いた鉢3個体が出土しており、うち2つには片口が遺存していた。同様なものは北側に隣接するIV区でも2個体が検出されており、蛍光X線分析を行ったところ、このうちの4個体に付着している顔料は水銀朱であることが判明した。弥生時代後期から古墳時代前期初頭の遺跡では、内面に朱が付着した鉢や甕が見られ、しかも片口が付くものが多いことが知られている⁽²²⁾。その用途は定かではないが、器種として鉢が選ばれていることから、貯蔵用ではなく水簸など水銀朱の精製に関わるものとするのが自然で、片口をもつ器形は精製作業に好都合と言える。また、朱を塗料として用いる場合には接着剤として漆などと混和する必要があり、中野清水遺跡では漆採取が行われていることから、両者の関連も考えられる。

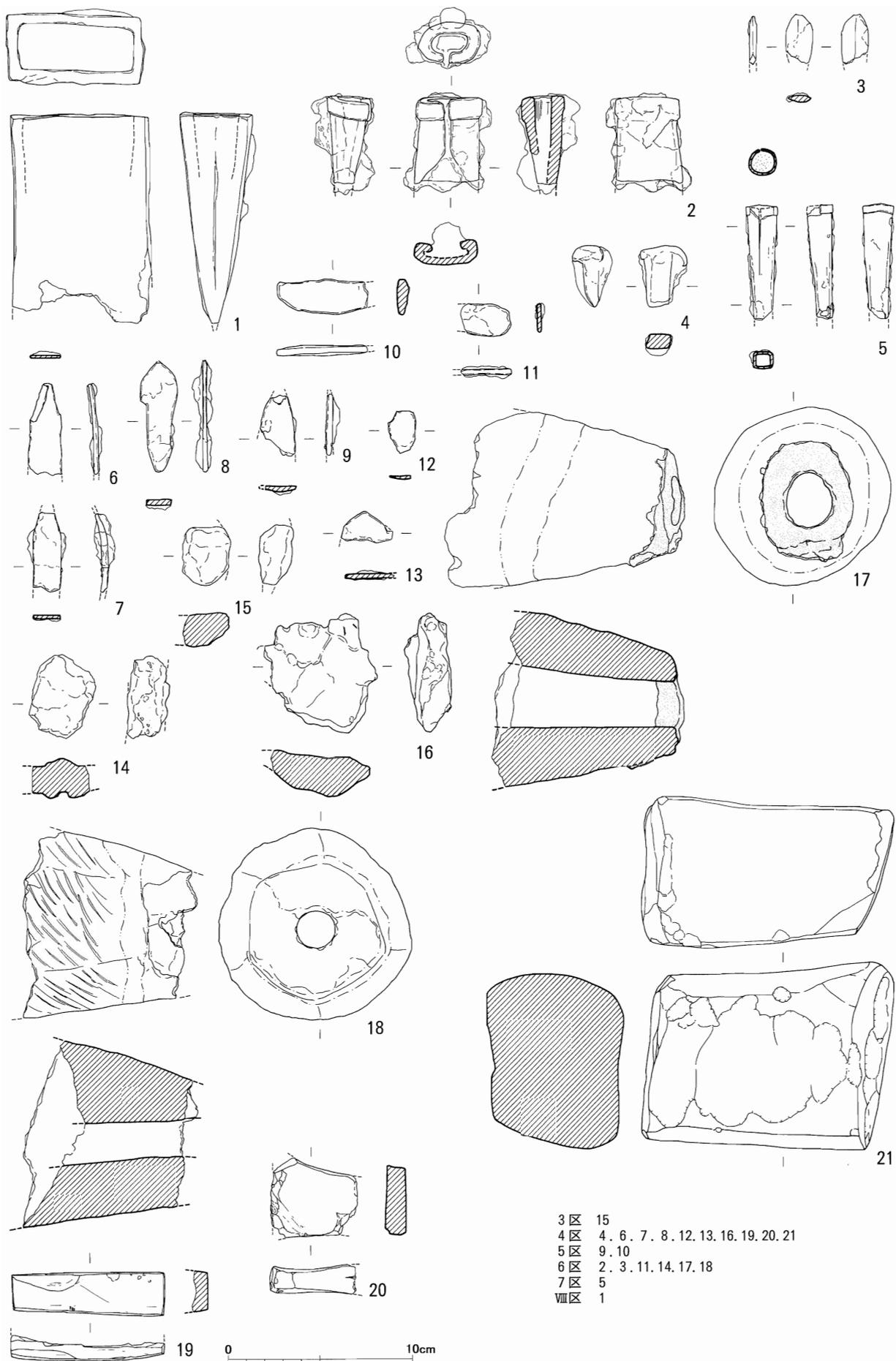
鉄器と鍛冶関連遺物 第138図1は鑄造鉄斧で、二条突帯斧系の舶載品と見られ、弥生時代中期中葉から後期中葉頃までの様相を持つとされる⁽²³⁾。Ⅷ区で中期中葉から後葉の土器とともに出土しており、中野清水遺跡出土鉄器の中では最も遡るものである。

その他の遺物は弥生時代後期末から古墳時代前期と考えられるものである。2は鍛造鉄斧、5は鉄鑿で、ともに袋部の基部に折り返しをもっており、こうしたものが多い北部九州の鉄器が持ち込まれたか、北部九州系の鍛冶技術で製作された製品と見ることができる。3は柳葉式鉄鏃、4は鑿の可能性もある。6～13は未成品または鍛冶作業に伴って派生した鉄片である。6のように縁辺を折り返して成形されたものがある他、8のように鑿切りで成形されたものもあり、6～8の形状よりすれば、鉋または鏃の未成品と思われる。14～16は椀形鍛冶滓で、分析によれば14は鉍石系の鉄素材を基にした沸かし鍛接の鍛錬鍛冶工程、15も鍛錬鍛冶滓で、不純物の少ない定型化した鉄素材が用いられた可能性が指摘されている⁽²⁴⁾。17・18は羽口であるが、ともに基部が太く截頭円錐形を呈し、18の表面にはタタキが入る。古墳時代前期の羽口には古志本郷遺跡をはじめ福岡市博多遺跡群⁽²⁵⁾、奈良県桜井市纏向遺跡⁽²⁶⁾、石川県小松市一針B遺跡⁽²⁷⁾、鳥取県湯梨浜町長瀬高浜遺跡⁽²⁸⁾などがあり、蒲鉾形で基部が太いなどの特徴が見られる。17・18は蒲鉾形ではないが、基部が太い点でこれらと共通性があり、古志本郷遺跡に見られる原形に近いものが作り替えられる段階で変容されたものとも考えられよう。19～21は砥石で、小形



1～4 博多遺跡 5・6 古志本郷遺跡

第137図 古墳時代前期の鍛冶関連遺物



第138図 中野清水遺跡出土鉄器と鍛冶関連遺物

のもの(19・20)の他、大形のもの(21)も出土している。

中野清水遺跡では、鍛冶炉や工房が確認されたわけではなく、遺物も散在するような状況であった。しかし、鉄器未成品・鉄片・椀形鍛錬鍛冶滓・羽口・砥石などの鍛冶関連遺物が揃っていることから見て、古墳時代前期には鍛冶作業が行われていたと考えられる。鍛冶素材は鉱石系で不純物が少ないとされることから、恐らく朝鮮半島産のものであり、羽口や鉄器に見られる鍛冶技術からすれば、北部九州経由でもたらされている可能性が高い。

弥生時代後期後半から終末期の松江市宍道町上野Ⅱ遺跡や雲南市木次町平田遺跡では、羽口も鉄滓も出土せず、鉄板を焙って鑿切りする程度の、炉内の温度が上がらない簡単な鍛冶作業が行われたことが知られている。中野清水遺跡における鍛冶作業の内容はこれとは全く異なり、羽口を用いた高温操業であり、鉄の鍛接も可能な技術段階にあったことが想定されよう。このことは古志本郷遺跡とともに古墳時代前期には出雲平野に新しい鍛冶技術が及んだことを示すものと言える。

古墳時代前期には古志本郷遺跡や長瀬高浜遺跡のような拠点的な集落に鉄器が集中するとともに高温操業の鍛冶が行われており、相対的には鉄器の出土量が減る中で、これらは鉄器を再利用せず廃棄できるだけの量を保有した特別な集落であったという見方がある⁽²⁹⁾。中野清水遺跡は限定された範囲の調査であり、鉄器の出土量が多いわけではないが、高温操業の鍛冶関連遺物の存在からすれば、古志本郷遺跡と同様に、出雲平野における拠点集落の一つであったと考えられる。

(3) 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構と遺物出土状況 奈良・平安時代の遺構面では6区・7区を中心に溝や掘立柱建物跡などの遺構が確認されている。湧水等の条件もあり全ての遺構が把握できていない可能性は残るが、その配置状況を見ても規則性は認められず、この時期の遺構が官衙であると評価することはできない。一方、出土遺物を見ると墨書土器や木簡・硯・分銅など、官衙で出土することが多い遺物が含まれている他、鍛冶滓や銅塊・羽口など鉄器や銅製品の生産に関わる遺物も見られる。これらはいずれもⅡ区・6区・7区と調査区東側に当たる地点で検出されていることから、金属器生産に伴って、その管理を行う施設が存在した可能性が考えられる。

硯と文字資料 第139図1は円面硯、2は風字硯で、前者は復原脚径16.0cmほどのものである。3は木簡で、文字は判読できないが上端に切り込みをもつ付札である。硯と木簡が一緒に出土していることは、中野清水遺跡で付札を付けるような作業が行われていたことを窺わせる。

4～8は墨書土器であるが、遺跡全体では第4表のように18点が出土している。時期について見ると4は出雲国庁の第3型式、6は第4型式、7・8は第5型式に比定されることから⁽³⁰⁾、奈良時代前半から平安時代の初めにかけてのもので時期幅があると考えられる。文字はいずれも底部外面に書かれており、「依」「三または川」「三」「塩冶」「伎」「六」「東」が見られる。このうち「塩冶」は『出雲国風土記』に「神門郡鹽冶郷」または「鹽冶社」として現れるもので、郷名または社名である。神門郡家が官衙関係の遺構が確認されている古志本郷遺跡にあったとすると、塩冶郷は郡家の東北六里とされることから、現在の出雲市今市町・大津町あたりが想定でき、中野清水遺跡が所在する中野町付近も塩冶郷に含まれていたことが考えられる。また、『風土記』によれば「鹽冶」はもと「止屋」と言い神亀3(725)年に地名が改められたという。「塩冶」と墨書された須恵器は出雲国庁第4型式に比定できるが、この土器の上限が8世紀第1四半期に遡らないことを示しており、これまでに提示されている8世紀後半代という年代観と矛盾しない。

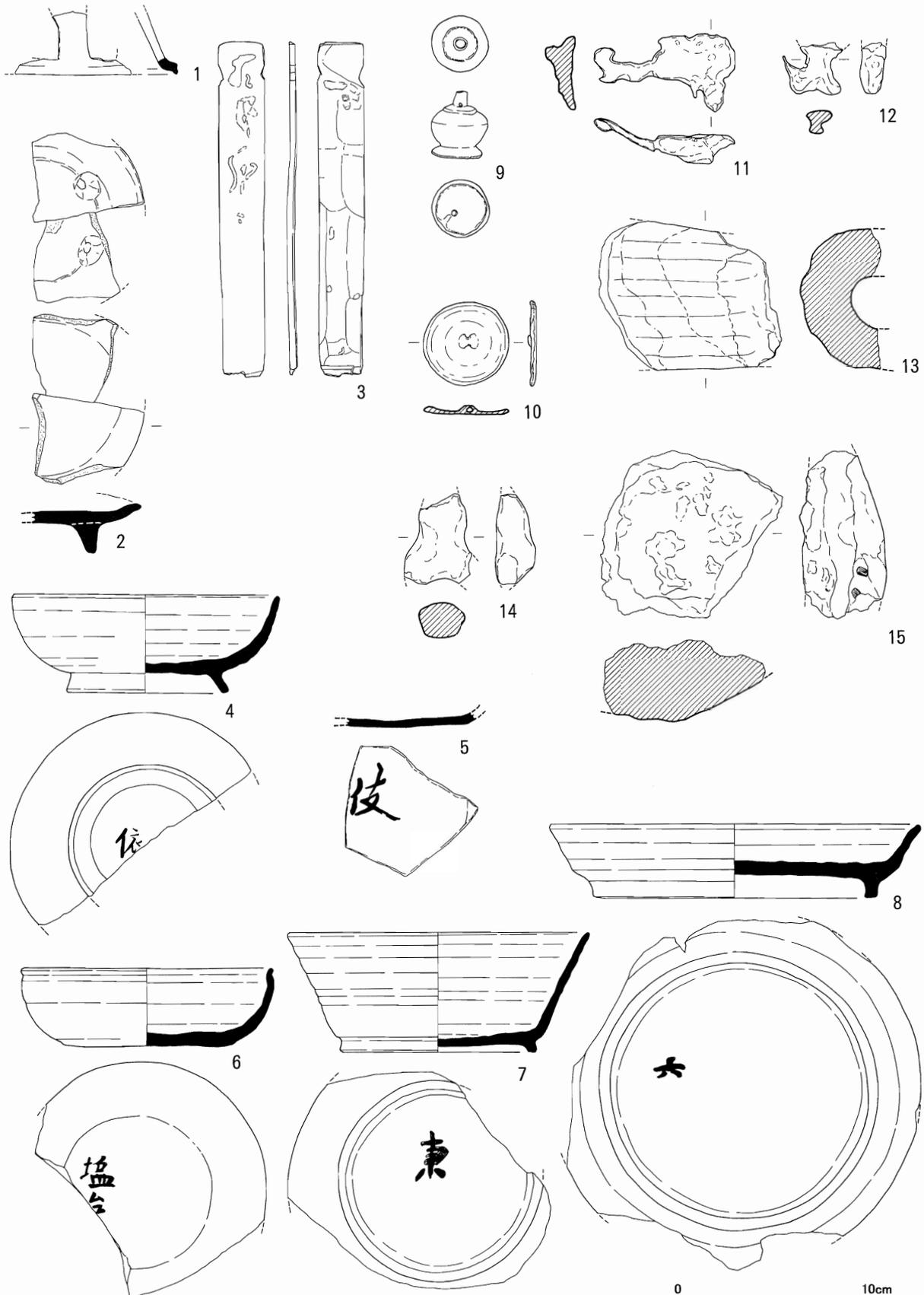
第4表 中野清水遺跡出土文字資料一覧表

報告書	挿図番号	出土地点	积文	種別	器種	部位	型式	備考
『中野清水』	第7図5	大津町北	依	須恵器	坏	底外	3	
『中野清水』	第7図7	大津町北	依	須恵器	坏	底外		
『中野清水』	第45図13	Ⅱ区	三または川	土師器	坏	底外		赤彩土器
『中野清水』	第48図102	Ⅱ区	三または川	土師器	皿	底外		赤彩土器
『中野清水』	第65図331	Ⅱ区	依	須恵器	坏	底外		
『中野清水』	第65図336	Ⅱ区	□	須恵器	坏	底外		
『中野清水』	第66図347	Ⅱ区	三	須恵器	坏・皿	底外		
『中野清水』	第74図455	Ⅱ区	三	須恵器	坏・皿	底外		
『中野清水』	第76図477	Ⅱ区	塩冶	須恵器	坏	底外	4	
『中野清水』	第100図27	Ⅲ区	□	土師器	皿	底外		赤彩土器
『中野清水』	第100図27	Ⅲ区	伎	土師器	坏・皿	底外		赤彩土器
『中野清水』	第100図28	Ⅲ区	□	土師器	坏・皿	底外		赤彩土器
『中野清水(2)』	第84図25	6区	六	須恵器	坏	底外	5	
『中野清水(2)』	第84図26	6区	六	須恵器	皿	底外	5	
『中野清水(2)』	第84図27	6区	六	須恵器	皿	底外	5	
『中野清水(2)』	第175図15	5区	東	須恵器	坏	底外	5	
『中野清水(2)』	第208図6	5区	□□□□	木簡	—	—	—	
本書	第77図22	7区	□	須恵器	坏	底外	4	
本書	第77図22	7区	□	須恵器	坏	底外		
本書	第77図22	7区	大	須恵器	坏	底外	3	ヘラ書き

生産関係遺物 第139図11・12は銅塊で、いずれも流動状になった外観をもち、前者は錫の添加量が多い青銅、後者はほぼ純銅に近いものであった。10の銅鏡は錫は僅かであり銅分が非常に高く、微量に砒素を含む点でも12と共通性があるという⁽³¹⁾。流動状の銅塊の存在から銅製品の鑄造が考えられるが、鑄型が出土しておらず製品の種類は特定できない。ただ銅鏡と銅塊（12）の組成が類似していたことは、こうしたものが作られていたことを窺わせるものである。また、9の分銅は奈良・平安時代のものとしては島根県内では4例目で、他には出雲国庁跡出土の2例と隠岐郡海士町矢原遺跡出土例が知られるのみである。これが金属器生産において計量の際に使われたものか、製品として作られたものかは明らかにできないが、非破壊調査の結果はやはり銅が突出して多いのに対し錫は検出されていないようである。

13～15は鍛冶関係の遺物であるが、13の羽口は先端部を欠損しているため、銅製品の鑄造に使われた可能性がないわけではない。14は製錬系の含鉄鉄滓で、鍛冶原料として持ち込まれたものと見られる。砂鉄を原料として製錬されたものであり、先に見た古墳時代前期の鍛冶滓が鉾石に由来する元素が微量で、不純物が少ないものであったのと対照的である。中国地方では古墳時代後期には鉄生産が始まっていることから、周辺地域で砂鉄製錬されたものと思われる。15は精錬鍛冶滓で砂鉄製錬の鍛冶原料を処理したものであり、14が鍛冶原料であることを裏付ける。この他にも9区では鍛錬鍛冶滓が検出されていることから、製鉄遺跡から鍛冶原料を持ち込み、除滓・脱炭を行う精錬鍛冶から鉄製品を製作する鍛錬鍛冶工程までが行われたものと考えられる。

これらの遺物に関わる鍛冶炉などの遺構は調査区内では確認できなかった。ただし、金属器生産関係遺物が多く出土した7区では、周囲が赤く酸化するまで焼け内部に木炭が含まれる4号土坑と5号土坑があり、同様なものはその北側に当たる8区でも1号土坑・2号土坑の2基が検出されている。これらは大きさや関連遺物が検出されなかったことから鍛冶炉とは言えないが、壁が赤化するまで焼けており、銅製品鑄造や鍛冶を行うための燃料として炭が焼かれた可能性がある。



5区	3. 7	Ⅱ区	2. 6
6区	1. 8. 13. 14	Ⅲ区	5
7区	9. 10. 11. 15	大津町北	4
8区	12		

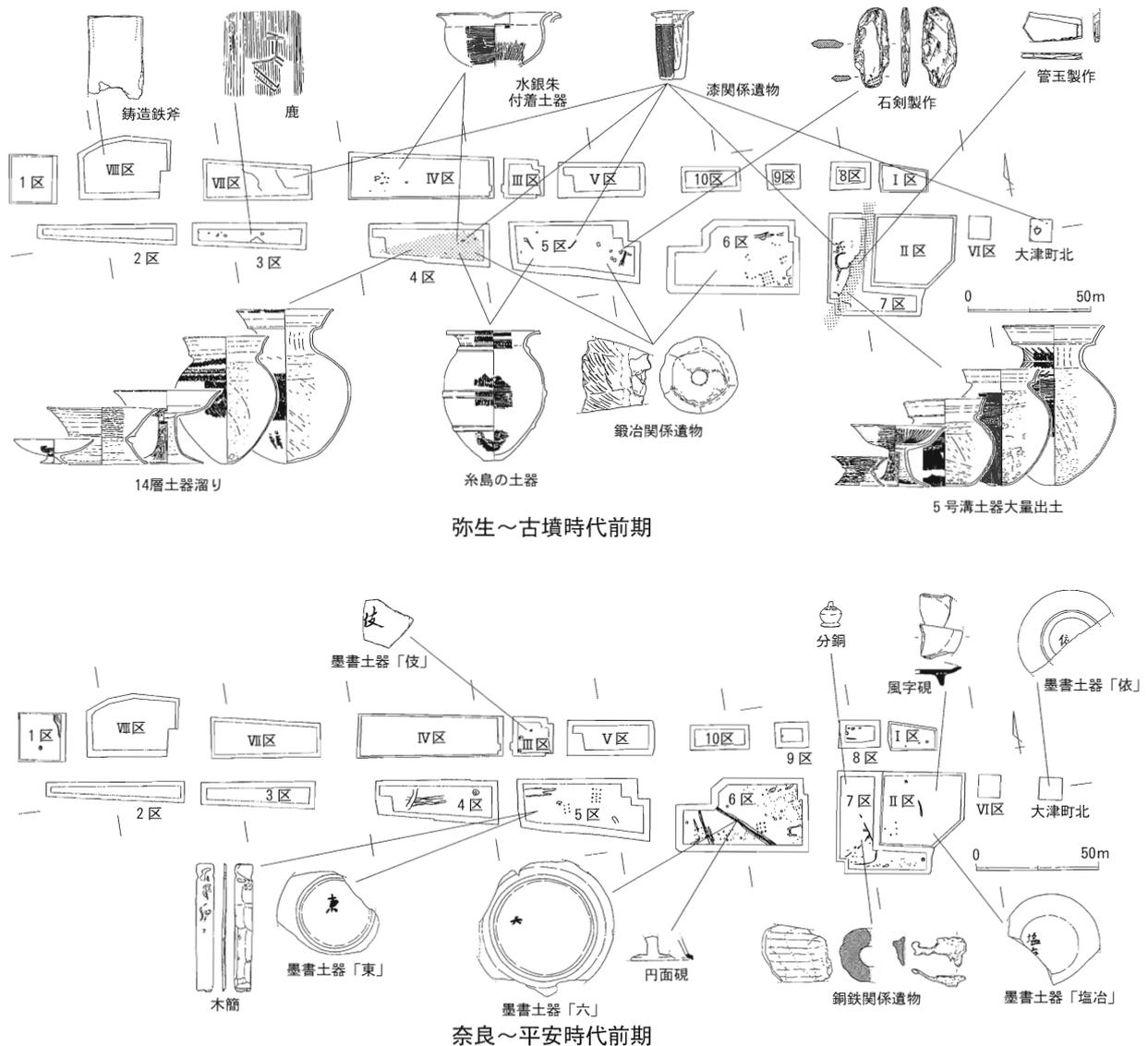
第139図 中野清水遺跡出土文字関係及び金属器生産関係遺物

(4) まとめ

中野清水遺跡は弥生時代中期から平安時代にかけてほぼ継続して集落が営まれ、その後水田化されたことが明らかになった。斐伊川に近いことから現在でも地下からかなりの量の伏流水が出るが、遺跡を通して見た周囲の環境はかなり安定しており、洪水砂が確認できたのは室町から江戸時代初めの水田面上のみであった。出雲平野ではとかく斐伊川の氾濫や運ばれた砂による平野の形成が強調されがちであるが、斐伊川の東側を含め個々の事例から検討して行く必要がある。

遺跡を取り巻く環境が安定していたことは、形成された集落の内容からも窺うことができる。弥生時代中期後葉頃にはシカが描かれた大形壺や舶載の鑄造鉄斧が持ち込まれた他、管玉や石剣など石製品の製作が行われている。絵画土器の存在は集落内で祭祀が行われていたことを示すものであり、石製品の製作や鑄造鉄斧の出土は、中野清水遺跡がこれらの流通網において中核的な役割を果たしていたことを想定させるものと言える。

弥生時代後期末から古墳時代前期初めの段階には生産や交易の拠点としての性格は、より鮮明に



第140図 中野清水遺跡の性格に関わる遺物の出土状況

読み取れ、水銀朱や鉄器生産などが行われるとともに、西部瀬戸内・北部九州・韓国との交流を示す土器が現れる。このうち北部九州の糸島から持ち込まれた大形土器は九州以外では初めての出土例であり、出雲平野と直接交流が行われたことを示すものである。福岡県前原市潤地頭給遺跡⁽³²⁾では花仙山産と目されるの碧玉を用いた玉作遺跡が確認されていることから、土器が移動した背景には玉作材料に見られるような物の動きがあると思われる。また、西部瀬戸内から北九州地域との交流は、出雲平野ではかなり広く行われていたようで、古志本郷遺跡・白枝荒神遺跡・姫原西遺跡・山持遺跡で明らかになっている他、西谷4号墓⁽³³⁾でも周防系と見られる壺が出土していることが注目される。墳裾を切る集石遺構に伴う壺であるが、首長墓の墓域に持ち込まれていることを勘案すると、西部瀬戸内との交流は首長間の関係を背景としたものである可能性も考えられる。

高温操業が可能な鍛冶作業は、古墳時代前期においてはまだ北部九州など限られた地域でのみ行い得た先端技術であり、その獲得は鉄器の特色から見ても北部九州との関係を抜きには考えられない。また、鉄素材の生産は朝鮮半島で行われていたが、現状では直接入手したと見るのは困難であり⁽³⁴⁾、北部九州や西瀬戸内地域を経由したと思われる。これらの地域の土器が出雲平野で出土する背景には、玉作材料や鉄素材などの交易を通じた人の移動が想定される。

中野清水遺跡では弥生時代中期後葉から古墳時代前期初めにかけて管玉・石剣などの石製品製作、水銀朱の加工、鉄器生産などが行われていた。これらの生産は技術や原材料の獲得、製品の流通をめぐって他地域との交流を促進したものと見られ、後期末から古墳時代前期初めには西部瀬戸内や北部九州方面との関係が具体的に明らかになった。また、西側に隣接する中野美保遺跡では弥生時代中期中葉の方形貼石墓と後期後半の四隅突出型墳丘墓が検出され、中野清水遺跡・中野美保遺跡の集落をまとめる首長層の墓域が存在することも分かっており、集落内での階層分化も窺われる。こうした諸特徴はまさに拠点集落としての要件を満たし⁽³⁵⁾、中野清水遺跡が出雲平野における中核的な集落の一つであったことを窺わせるものと言えよう。

一方、奈良・平安時代には墨書土器・木簡・分銅・硯など官衙的な色彩をもつ遺物とともに、銅製品の鑄造や鍛冶関係の遺物が出土した点が注目される。銅製品鑄造を行った奈良・平安時代の遺跡としては県内では出雲国府跡の他、雲南市木次町寺田I遺跡⁽³⁶⁾、松江市宍道町堤平遺跡⁽³⁷⁾があるが、いずれも鍛冶作業も合わせて行われているのが特徴で、その性格は官衙・寺院・公的管理も考えられる生産遺跡である。中野清水遺跡でもやはり官衙的な遺物が出土している他、鍛冶作業を含む操業内容はこれらの遺跡と共通しており、金属器の生産に当たって公的機関の関与が窺われる。その具体的な関わり方は不明と言わざるを得ないが、官衙の隣接地以外においても公的な管理の下に金属器生産が行われていたことを示す事例と言えよう。

中野清水遺跡の調査は様々な制約があり、十分な成果が上がったとは言い難いが、隣接地に遺跡が広がるのは確実であり、今後意識的な調査によってその実態が明らかになることが期待される。

註

(1) 正岡睦夫・松本岩雄編『弥生土器の様式と編年—山陽・山陰編—』木耳社 1992

(2) 島根県立八雲立つ風土記の丘資料館『古代の出雲と九州』1991

(3) 出雲市教育委員会『白枝荒神遺跡』1997

(4) 島根県教育委員会・加茂町教育委員会『加茂岩倉遺跡』2002

- (5) 佐原 真「弥生土器の絵画」『考古学雑誌』第66巻第1号 1980
- (6) 加藤光臣「広島県内出土の絵画土器について」『考古学雑誌』第66巻第1号 1980
- (7) 鹿島町教育委員会『南講武草田遺跡』1992
- (8) 中川 寧「いわゆる「山陰系土器」についての若干の考察」『立命館大学考古学論集』I 1997
- (9) 松山智弘「小谷式再検討」『島根考古学会誌』第17集 2000
- (10) 前掲註(9)に同じ。
- (11) 赤沢秀則「出雲地方東部における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究』XXII 2000
- (12) 出雲市教育委員会『上長浜貝塚』1996
- (13) 島根県教育委員会『古志本郷遺跡』VI 2003
- (14) 島根県教育委員会『姫原西遺跡』1999
- (15) 若島一則「広島湾沿岸における弥生時代後期土器等に関する一考察」『研究連絡誌』I 広島市文化財団 2002
- (16) a. 山本一朗「吹越遺跡の諸問題」『山口考古』第23号 山口考古学会 2003
b. 山本一朗「吹越式の再検討」『考古論集』川越哲志先生退官記念事業会 2005
- (17) 大神邦博「福岡県糸島地方の弥生後期甕棺」『古代学研究』第53号 1968
- (18) 橋口達也「甕棺の編年的研究」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XXXI 中巻 福岡県教育委員会 1979
- (19) 島根県古代文化センター『古代出雲における玉作の研究』I 2004
- (20) 出雲市教育委員会 園山薫氏のご教示による。石材の分析は本書第5章第1節に収録。
- (21) 小林謙一・今村峯雄・坂本 稔・永嶋正春「出雲市中野清水遺跡出土漆・土器付着物試料の¹⁴C年代測定」『大津町北遺跡・中野清水遺跡』島根県教育委員会 2004
- (22) 本田光子「内面朱付着土器」『庄内式土器研究』VIII 1994
- (23) 池淵俊一「安来市越峠遺跡出土鑄造鉄斧片をめぐる諸問題」『季刊文化財』第110号 2005
- (24) 大澤正己・鈴木瑞穂「中野清水遺跡出土鍛冶・銅関連遺物の金属学的調査」『中野清水遺跡(2)』島根県教育委員会 2005
- (25) 福岡市教育委員会『博多遺跡』36 1993、福岡市教育委員会『博多遺跡』37 1993
- (26) 奈良県立橿原考古学研究所『奈良県遺跡調査概報』(第二分冊) 1997年度 1998
- (27) 石川県教育委員会『一針B遺跡・一針C遺跡』2002
- (28) 羽合町教育委員会『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書』1984
- (29) 池淵俊一「山陰における古墳時代前半期鉄器の様相」『考古論集』川越哲志先生退官記念事業会 2005
- (30) 出雲国庁の須恵器編年は14号土坑を第3型式、5号土坑下層を第4型式、5号土坑上層と4号溝のものを第4～5型式に置き換えて用いている。島根県教育委員会『史跡出雲国府跡』1 2003
- (31) 前掲註(24)に同じ。
- (32) 前原市教育委員会『潤地頭給遺跡』2005
- (33) 坂本豊治「西谷墳墓群の調査」『島根考古学会誌』第20・21集合併号 2004
- (34) 洪潜植「釜山東葉貝塚の土師器系土器」『福岡大学考古学論集』小田富士雄先生退職記念事業会 2004
- (35) 田中義昭「原史期集落の特性と類型」『島根考古学会誌』第20・21集合併号 2004
- (36) 木次町教育委員会『新修木次町誌』2004
- (37) 島根県教育委員会『堤平遺跡』2002

中野清水遺跡出土土器観察表

検出番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	調整・手の特徴	胎土	焼成	色調	備考
10-1	1区	E-14	9層	弥生土器	甕	20.6	-	外面：横ナデ 内面：ケズリ	細かい石英他含む。	良好	暗灰褐色	外面に煤付着。
10-2	1区	F-14	9層	土師器	高坏	16.6	-	外面：横ナデ・指押え 内面：横ナデ	細かい砂粒含む。	良好	灰褐色	坏部内外面に赤色顔料。
10-3	1区	F-14	9層	須恵器	高坏	-	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	2方向に3角形透し孔。
10-4	1区	F-14	9層	須恵器	坏身	-	-	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	
10-5	1区	東壁Tr	9層	須恵器	坏身	-	-	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：ナデ	僅かに石英他含む。	不良	茶褐色	
10-6	1区	1号溝	9層	土師器	坏身	(15.2)	(6.2)	外面：横ナデ・回転糸切り 内面：横ナデ	5mm大の石英含む。	不良	灰褐色	
10-7	1区	1号溝	9層	須恵器	甕 (転用甕)	-	-	外面：平行タタキ 内面：横ナデ	密	良好	青灰色	内面に墨痕あり。
10-8	1区	北壁Tr	9層	製塩土器	焼塩壺	-	-	外面：指押え 内面：指押え	4mm大の砂粒含み、粗い。	普通	橙褐色	外面が被熱する。
11-12	1区	東壁Tr	14層	弥生土器	甕	(20.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	細かい砂粒含む。	普通	灰黄色	
11-13	1区	E-14	14層	弥生土器	甕	(11.6)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母含む。	普通	灰褐色	
11-14	1区	E-14	14層	弥生土器	底部	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ	2mm大の石英含む。	良好	暗黄灰色	
11-15	1区	南壁Tr	14層	弥生土器	底部	-	-	外面：ハケメ、ミガキ 内面：ハケメ	細かい砂粒含む。	良好	淡黄灰色	外面に大きな黒斑あり。
11-16	1区	東壁Tr	14層	土師器	甕	16.4	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大の石英含む。	良好	灰褐色	
11-17	1区	E-15	14層	弥生土器	(把手)	-	-	外面： 内面：	2mm大までの石英多く含む。	普通	淡赤褐色	
11-18	1区	E-15	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ	細かい石英含む。	良好	灰褐色	円板充填。
11-19	1区	東壁Tr	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ	密	普通	灰褐色	筒部内面以外赤色顔料塗布。
11-20	1区	E-14	14層	土師器	小形丸底壺	-	-	外面：ハケメ 内面：ナデ	細かい砂粒含む。	良好	黄灰色	外面に赤色顔料塗布。一部に黒斑あり。
11-21	1区	東壁Tr	13層	須恵器	坏蓋	(13.0)	-	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
11-22	1区	E-14 F-14	12層	須恵器	高坏	-	-	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
11-23	1区	東壁Tr	13層	須恵器	坏身	-	-	外面：回転ナデ 内面：ナデ	僅かに石英含む。	良好	暗青灰色	
11-24	1区	F-14	12層	土師器	(把手)	-	-	外面： 内面：指成形	3mm大の石英他含む。	良好	灰褐色	
11-25	1区	E-14	14層	土師器	甕	(19.0)	28.3	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	1~2mmの砂粒を多く含む。	普通	淡黄白色	
11-26	1区	E-14 E-15	14層	土師器	甕	25.3	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	4mm大の石英含む。	普通	灰白色	胴部外面に煤が付着。
11-27	1区	E-15	14層	土師器	甕	(23.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	4mm大の石英含む。	良好	灰褐色	胴部外面下半に煤が付着。
15-1	2区	H-18	12層	須恵器	坏蓋	(12.8)	(4.5)	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	外面僅かに灰かぶり。
15-2	2区	H-17	12層	須恵器	皿	2.0	14.0	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
15-3	2区	H-18	12層	製塩土器	焼塩壺	-	-	外面：指押え 内面：ナデ	密 白色土筋状に入る。	良好	暗褐色	小片13点のうちの1点。
15-4	2区	H-17	12層	弥生土器	甕	-	-	外面：ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ	細かい砂粒含む。	良好	灰褐色	
15-5	2区	H-16	12層	土師器	甕	30.2	-	外面：横ナデ・ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大までの砂粒多く含む。	良好	暗褐色	
15-6	2区	H-17	12層	土師器	甕	(35.6)	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	2~3mm大までの砂粒多く含む。	不良	橙褐色	
15-7	2区	北壁Tr H-17	12層	土師器	甕	(33.7)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	3mm大までの砂粒多く含み、粗い。	普通	茶褐色	
16-9	2区	H-17	14層	弥生土器	甕	15.0	24.0	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ・ミガキ	細かい石英・雲母含む。	良好	淡黄褐色	外面下半に僅かに煤が付着。
16-10	2区	H-17	14層	弥生土器	甕	(19.5)	-	外面：ハケメ 内面：横ナデ	2mm大の砂粒含む。	良好	橙褐色	
16-11	2区	北壁Tr H-18	14層	弥生土器	甕	21.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ	1~3mm大までの砂粒多く含む。	良好	灰白色	
16-12	2区	H-18	14層	弥生土器	甕	(19.4)	-	外面： 内面：	細かい砂粒多く含む。	不良	灰白色	
16-13	2区	H-18	14層	弥生土器	甕	(20.4)	-	外面： 内面：横ナデ	砂粒(長石)を少量、雲母を微量含む。	良好	外：黄灰色 内：灰黄色	
16-14	2区	北壁Tr H-17	14層	弥生土器	甕	(35.0)	-	外面：横ナデ・粗いハケメ 内面：ハケメ	2mm大までの砂粒含む。	良好	黄灰褐色	外面にシカ線刻。
16-15	2区	M-18	14層	弥生土器	甕	(25.2)	-	外面： 内面：	3mm大の石英含む。	良好	淡褐色	
16-16	2区	H-18	14層	弥生土器	壺	(20.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ハケメ	1~2mm大までの砂粒多く含む。	良好	にぶい橙褐色	
16-17	2区	北壁Tr H-17	14層	弥生土器	底部	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ・ナデ	2mm大の砂粒含む。	良好	黄灰色	底部に黒斑あり。
16-18	2区	H-18	14層	弥生土器	底部	-	-	外面：ミガキ 内面：ハケメ・ナデ	長石、砂粒を少量、雲母を微量含む。	良好	外：浅黄色 内：灰黄色	
16-19	2区	南壁Tr H-17 H-18	14層	弥生土器	底部	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリのちナデ	1mm大までの砂粒を微量、0.5mm大までの雲母を極微量含む。	良好	外：にぶい橙褐色 内：にぶい黄褐色	
16-20	2区	H-17	14層	弥生土器	蓋	16.2	7.6	外面：ナデ・ハケメ・横ナデ 内面：横ナデ・指頭圧痕	密(1~3mm大までの砂粒少量含む)。	良好	淡黄褐色	上からの押玉痕あり。
16-21	2区	H-17	14層	弥生土器	脚付壺	12.0	23.0	外面：横ナデ・ハケメのちミガキ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	細かい雲母含む。	良好	灰褐色	
16-22	2区	H-17	14層	土師器	壺	(20.9)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	2mm大の石英含む。	普通	灰白色	口縁に黒斑あり。
17-23	2区	H-16	14層	土師器	壺	14.5	29.2	外面：ハケメ 内面：ケズリ・指押え	3mm大までの砂粒多く含む。	良好	黄灰色	外面2ヶ所に黒斑あり。

17-24	2区	H-19	14層	土師器	低脚杯	(14.0)	5.0	外面：ミガキか 内面：ミガキか・横ナデか	密(1mm以下の砂粒多量含む)。	良好	灰白色	
17-25	2区	H-17	14層	土師器	低脚杯	-	-	外面：横ナデ 内面：ミガキか・ケズリ	密(微細な砂粒多量含む)。	良好	灰白色	
17-26	2区	H-16	14層	土師器	低脚杯	(14.6)	-	外面：ごく僅かにハケメ 内面：	密(1mm以下の砂粒多く含む)。	普通	灰褐色	
17-27	2区	H-17	14層	土師器	低脚杯	(14.2)	4.1	外面：ミガキ・横ナデ 内面：ミガキ	密(1mm程度の砂粒多く含む)。	良好	橙褐色	
17-28	2区	H-18	14層	不明	注口	-	-	外面： 内面：	2mm大の砂粒含む。	普通	灰褐色	
17-29	2区	H-17	14層	土師器	坏身	(15.8)	5.8	外面：横ナデ・指圧痕 内面：横ナデ・ナデ	密(1.5mm大の砂粒含む)。	良好	灰白色	底部外面を除いて赤彩。 外面の一部に煤付着。
17-30	2区	H-17	14層	土師器	坏身	(14.0)	(4.2)	外面：横ナデ・指押え 内面：横ナデ・ナデ・指圧痕	密(1mm以下の砂粒含む)。	良好	淡褐色	底部外面を除き赤彩か。
17-31	2区	H-17	14層	土師器	坏身	13.6	(3.2)	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ	密(1mm大の砂粒少量含む)。	良好	灰白色	全面赤彩か。
17-32	2区	H-18	14層	土師器	甕	(32.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	3mm大までの砂粒含む。	普通	灰褐色	
17-33	2区	H-17	14層	土師器	甕	24.6	-	外面：ナデ・ハケメ 内面：ナデ・ケズリ	1~5mm大までの砂粒多く含む。	不良	浅黄色	外面に煤が付着。
18-1	2区			弥生土器	甕	14.8	-	外面：ナデ・ハケメ 内面：ナデ・指圧痕	1~2mm大までの砂粒多く含む。	良好	淡灰黄色	
18-2	2区	トレンチ		弥生土器	甕	(17.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ	1mm大までの砂粒を少量含む。	良好	外：褐灰色 内：灰白色	口縁・胴部外面に煤が付着。
18-3	2区	トレンチ		弥生土器	甕	(28.6)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	1mm大までの砂粒を少量含む。	良好	灰黄	
18-4	2区	トレンチ		弥生土器	高坏	(21.8)	-	外面：ナデ・ミガキ 内面：ナデまたはミガキ・ハケメ	密(1mm未満の砂粒含む)。	良好	灰白色	
18-5	2区	トレンチ		弥生土器	甕	-	-	外面：ミガキ・ナデ 内面：ケズリのちミガキ	2mm大の石英含む。	良好	灰褐色	
18-6	2区			土師器	器台か	-	-	外面： 内面：ケズリ	1~2mm大の砂粒含む。	普通	灰白色	
18-7	2区	南壁Tr M-17		土師器	低脚杯	-	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	密(1mm未満の微細な砂粒多く含む)。	良好	灰白色	
18-8	2区			土製品	手捏ね	3.8	3.2	外面：ナデ 内面：	細かい砂粒含む。	良好	灰褐色	藁指を入れて成形。
18-9	2区			須恵器	壺	-	-	外面：回転ナデ・回転糸切り後、粗い回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	暗青灰色	
18-10	2区			須恵器	甕	(22.5)	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	内面に灰かぶる。
18-11	2区			須恵器	甕	-	-	外面：平行クタクキ 内面：放射状あて具痕	密	やや不良	外：暗青灰色 内：茶褐色	
21-1	3区	2号土坑	14層 下面	弥生土器	甕	17.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ	2mmまでの長石少量含む。	良好	灰褐色	
21-2	3区	落ち込み	14層 下面	弥生土器	甕	15.2	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	1~2mm大の粒子を含む。	良好	外：浅黄色 内：にぶい黄色	
21-3	3区	3号土坑	14層 下面	弥生土器	甕	(18.0)	29.0	外面：ハケメ・ミガキ・ナデ 内面：ハケメ・ケズリ・ナデ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄褐色	外面に煤が付着。焼成後に穿孔。
21-5	3区	3号土坑	14層 下面	弥生土器	壺	-	-	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	細かい雲母含む。	良好	淡黄色	
24-1	3区	I-21	14層 下面	弥生土器	甕	17.8	-	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：横ナデ・ハケメ	細かい雲母・石英含む。	良好	灰褐色	外面に煤が付着。
24-2	3区	I-21	14層 下面	弥生土器	甕	21.7	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメのちナデか	きめ細かい。	良好	にぶい黄色	
24-3	3区	I-24	14層 下面	弥生土器	甕	20.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	長石を少量、雲母を微量含む。	良好	にぶい黄褐色	内外面に煤が付着。
24-4	3区	J-24	14層 下面	弥生土器	甕	16.0	-	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	きめ細かい(金雲母を含む)。	良好	灰黄色	外面に煤が付着。
24-5	3区	I-21	14層 下面	弥生土器	甕	16.8	-	外面：ハケメ 内面：	細かい雲母含む。	良好	黄灰色	内外面に黒斑あり。
24-6	3区	南壁Tr I-21	14層	弥生土器	甕	24.0	-	外面：横ナデ・ハケメのちナデ 内面：横ナデ・ナデ	金雲母含む。	良好	灰褐色	外面に黒斑あり。
24-7	3区	I-20	14層 下面	弥生土器	甕	(20.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・指圧痕	長石を少量、雲母を微量含む。	良好	黄灰色	
24-8	3区	I-23		弥生土器	甕	(19.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：横ナデ	長石を微量、雲母を極微量含む。	良好	外：にぶい黄褐色 内：灰白色	
24-9	3区	I-20	14層 下面	弥生土器	甕	(20.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ・ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	長石多く、雲母を極微量含む。	良好		
24-10	3区	I-21	14層 下面	弥生土器	甕	17.0	-	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：横ナデ・ケズリ	1~2mm大の砂粒、赤茶色粒子含む。	良好	灰白色	
24-11	3区	I-22	14層 下面	弥生土器	壺	(14.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ・ 内面：横ナデ・指押え・ナデ	4mm大の石英含む。	普通	灰褐色	
24-12	3区	I-22	14層	弥生土器	壺	(25.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	細かい砂粒含む。	良好	淡黄色	
24-13	3区	I-20	14層	弥生土器	壺	29.8	-	外面：ハケメ 内面：横ナデ	砂粒多く、雲母を微量含む。	良好	黄灰色	
24-14	3区	I-22	14層 下面	弥生土器	壺	(40.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ	2mm大の石英・雲母含む。	良好	淡黄色	
24-15	3区	I-22	14層	弥生土器	高坏	(14.0)	-	外面：ミガキ 内面：横ナデ・ミガキ	密(1mm未満の砂粒を僅かに含む)。	良好	外：淡黄色 内：淡黄褐色	坏部中央剥離(粘土充填)。
24-16	3区	I-23	14層 下面	弥生土器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ	長石を少量、雲母を極微量含む。	良好	にぶい黄褐色	
24-17	3区	I-24	14層	弥生土器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ・横ナデ	2mm大までの砂粒を多く含む。	普通	橙褐色	
25-18	3区	I-24	14層	弥生土器	壺	(26.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ハケメ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	
25-19	3区	I-22	14層 上面	弥生土器	壺	20.0	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	砂粒を少量、雲母を極微量含む。	良好	灰黄色	
25-20	3区	I-24	14層	土製品	分銅形	-	-	外面： 内面：	1~2mm大の砂粒含む。	良好	黒褐色	文様のある面が凸面となる。
25-21	3区	I-22	14層	弥生土器	甕	(13.6)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	長石多く、雲母を極微量含む。	良好	にぶい黄褐色	
25-22	3区	I-22	14層	弥生土器	甕	(13.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	密(1mm未満の砂粒を少量含む)。	良好	暗橙褐色	外面に煤が付着。

25-23	3区	I-22	14層	弥生土器	壺	27.0	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	長石を中量、雲母を極微量含む。	良好	灰黄色	
25-24	3区	I-21	14層	弥生土器	甕	24.0	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大の石英含む。	普通	灰褐色	
25-25	3区	I-23 I-24	14層	弥生土器	甕	17.6	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	密(僅かに石英・雲母含む)。	良好	灰黄色	
25-26	3区	I-21	14層 下面	弥生土器	壺	(14.0)	-	外面：ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	橙色	
25-27	3区	I-22	14層	弥生土器	蓋	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	3mm大の小石含む。	良好	淡褐色	中央に径1.2cmの孔。
25-28	3区	I-21	14層	弥生土器	蓋	7.6	4.1	外面：ナデ 内面：ナデ・ハケメ	僅かに雲母含む。	良好	灰褐色	
25-29	3区	I-23	14層	弥生土器	高坏	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	3mm大の砂粒含む。	普通	灰白色	外面に赤色顔料塗布。
25-30	3区	I-21	14層	弥生土器	鼓形器台	17.5	19.7	外面：ミガキ・ケズリ 内面：ミガキ・ケズリ・横ナデ	2mm大の石英含む。	良好	淡黄褐色	外面に赤色顔料塗布。
25-31	3区	I-24	14層	弥生土器	甕	-	-	外面：指押え 内面：	4mm大までの砂粒多い。	良好	外：にぶい黄褐色 内：褐灰色	
25-32	3区	I-20	14層	土師器	甕	17.8	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大の石英、1mm大の雲母含む。	良好	灰白色	
25-33	3区	I-21	14層	土師器	甕	(12.7)	15.3	外面： 内面：ケズリ・指圧痕	2mm大までの細かい砂粒含む。	不良	灰白色	
25-34	3区	I-20	14層	土師器	甕	15.8	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大までの長石多量含む。	良好	浅黄褐色	
25-35	3区	I-20	14層	土師器	(把手)	-	-	外面：ナデ 内面：ケズリ	3mm大までの石英含む。	良好	橙褐色	
25-36	3区	I-20	14層	土師器	甕	(18.6)	-	外面：横ナデ・タタキのちハケメ 内面：横ナデ・ケズリのち一部ハケメ	細かい砂粒含む。	良好	淡橙褐色	
25-37	3区	I-20	14層	土師器	甕	(18.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大までの砂粒を少量、0.5mm大までの雲母を極微量含む。	良好	外：にぶい 橙色 内：明褐灰色	
25-38	3区	I-21	14層	土師器	甕	(17.2)	-	外面：横ナデ・ケズリ 内面：横ナデ・ハケメ	細かい砂粒含む。	良好	黄灰色	
25-39	3区	I-21	14層	土師器	低脚坏	8.0	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡橙色	
25-40	3区	I-22	14層 上面	土師器	低脚坏	11.6	4.7	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	2mm大の石英・雲母含む。	良好	灰黄色	
25-41	3区	I-23	14層	土製品	手捏ね	5.8	3.7	外面：ナデ 内面：ナデ	1mm大の砂粒含む。	良好	灰褐色	
25-42	3区	I-23	14層	土製品	手捏ね	4.0	3.1	外面：指頭圧痕 内面：指頭圧痕	1mm大までの長石・雲母を微量含む。	良好	灰黄色	
25-43	3区	I-21	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメ・ケズリ・横ナデ 内面：ケズリ・横ナデ	2mm大までの砂粒含む。	良好	黄灰褐色	
25-44	3区	I-20	14層	土師器	高坏	-	-	外面：横ナデ・指押え 内面：横ナデ・指頭圧痕	0.5mm大までの砂粒・雲母を極微量含む。	良好	灰黄色	外面と坏部内面に顔料塗布。
25-45	3区	I-20	14層	土師器	脚部	-	-	外面：横ナデ・ミガキ 内面：横ナデ・ケズリか	2mm大までの砂粒含む。	良好	淡黄色	
26-46	3区	I-21	14層	土師器	甌	-	-	外面：ハケメ・横ナデ 内面：ケズリ	4mm大までの砂粒含む。	普通	灰白色	
26-47	3区	I-21	14層	土師器	甌	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	5mm大までの小石含む。	普通	灰白色	
26-48	3区	I-21	14層	土師器	甌	-	-	外面：ハケメ・横ナデ 内面：ケズリ・横ナデ	5mm大までの石英含む。	普通	灰白色	
27-1	3区	南壁Tr I-24		弥生土器	甕	(6.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	灰褐色	内面に煤付着。
27-2	3区	北壁Tr	14層	弥生土器	甕	(15.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	2mm大までの砂粒を含む。	良好	外：明褐灰色 内：褐灰色	
27-3	3区	北壁Tr	14層	弥生土器	壺	-	-	外面：ハケメ 内面：ハケメ	1mm程度の砂粒・雲母含む。	良好	灰褐色	
27-4	3区	北壁Tr I-24	14層	弥生土器	甕	(21.7)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大までの砂粒を少量含む。	良好	にぶい 橙色	
27-5	3区	北壁Tr2 I-24	14層	弥生土器	甕	14.8	-	外面：ナデ・ハケメ 内面：ケズリ	1~2mm大の砂粒含む。	良好	淡黄褐色	
27-6	3区	南壁Tr I-23		弥生土器	甕	(20.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ	1mm前後の砂粒含む。	良好	外：暗灰黄色 内：灰黄色	
27-7	3区	北壁Tr I-21 I-24	14層	弥生土器	甕	(17.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ	1~2mm大の砂粒を僅かに含む。	良好	淡黄色	
27-8	3区	南壁Tr		弥生土器	壺	(19.4)	-	外面： 内面：	細かい砂粒多く含む。	不良	灰白色	
27-9	3区	北壁Tr I-24		弥生土器	壺	-	-	外面：ハケメ 内面：ハケメ・ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	外：灰褐色 内：黒褐色	
27-10	3区	北壁Tr I-21		弥生土器	甕	(18.8)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	3mm大までの砂粒を多く含む。	良好		
27-11	3区	北壁Tr2 I-24	14層	弥生土器	高坏	22.0	-	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：横ナデ・ケズリのちミガキ	2mm大の砂粒含む。	良好	橙褐色	
27-12	3区	北壁Tr	14層	弥生土器	高坏	-	-	外面：ミガキか 内面：	2mm大までの砂粒含む。	普通	灰白色	
27-13	3区	南壁Tr I-23	14層	弥生土器	高坏	-	-	外面：ハケメ・横ナデ 内面：ケズリ・ハケメ・ナデか	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	淡黄灰色	
27-14	3区	北壁Tr	14層	弥生土器	甕	(15.8)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大までの長石・雲母を含む。	良好	灰白色	
27-15	3区	南壁Tr I-23	14層	弥生土器	甕	(22.4)	-	外面： 内面：	4mm大までの長石を多量、0.5mm大までの雲母を極微量含む。	良好	外：灰白色 内：にぶい黄褐色	鼓形器台になる可能性もある。
27-16	3区	北壁Tr	14層	弥生土器	甕	(18.5)	-	外面： 内面：ミガキ・ケズリ	2mm大までの石英含む。	良好	灰白色	外面に赤色顔料塗布。
27-17	3区	南壁Tr I-23	14層	弥生土器	底部	-	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ	2mm大の砂粒含む。	普通	灰褐色	外面下半が赤褐色に被覆。上半に煤が付着。焼成後に底部穿孔。
27-18	3区	北壁Tr2 I-24	14層	弥生土器	底部	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ	2mm大までの砂粒含む。	良好	灰褐色	外面に煤が付着。
27-19	3区	北壁Tr2 I-24	14層	弥生土器	底部	-	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ケズリ	3mm大の石英含む。	良好	橙色	
27-20	3区	北壁Tr	14層	弥生土器	底部	-	-	外面：ミガキ 内面：ハケメ・ナデ	3mm大までの砂粒含む。	良好	灰褐色	
27-21	3区	北壁Tr	14層	弥生土器	蓋	-	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	5mm大の小石含む。	普通	灰白色	

27-22	3区	南壁Tr I-24		弥生土器	鉢	(18.4)	-	外面:横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面:横ナデ・ハケメ・ミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	暗黄褐色	外面に黒斑あり。
28-23	3区	北壁Tr		土師器	壺	(22.4)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	2~3mm大の石英他含む。	良好	黄灰色	
28-24	3区	北壁Tr		土師器	底部	-	-	外面:ハケメ 内面:ケズリ	3mm大までの砂粒含む。	良好	淡黄色	
28-25	3区	西壁Tr	14層	土師器	低脚坏	-	-	外面:ハケメのちミガキ 内面:	細かい砂粒含む。	良好	灰白色	
28-26	3区			須恵器	坏身	9.7	4.2	外面:ナデ・回転ヘラケズリ 内面:ナデ・回転ナデ	1mm程度の砂粒を少量含む。	良好	青灰色	
28-27	3区			須恵器	坏身	-	-	外面:静止糸切り 内面:回転ナデ・ナデ	2mm大の砂粒含む。	良好	暗青灰色	
28-28	3区	I-22	13層	白磁	碗	(14.6)	-	外面: 内面:	密	良好	灰白色	
31-1	4区	3号溝	13層上面	須恵器	坏蓋	13.8	1.6	外面:回転ナデ・ヘラ切り 内面:回転ナデ	1~2mm大の砂粒を含む。	良好	灰白色	
31-2	4区	1号溝	13層上面	須恵器	坏	(14.6)	-	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密	良好	青灰色	
31-3	4区	2号溝	13層上面	須恵器	坏	-	-	外面:回転ナデ・ヘラ切り 内面:回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
31-4	4区	1号溝	13層上面	須恵器	甕	-	-	外面:平行タタキ 内面:同心円状あて具痕	密	良好	青灰色	外面に灰をかぶる。
31-5	4区	1号土坑	13層上面	土師器	壺	(18.0)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰黄色~黒褐色	
31-6	4区	1号土坑	13層上面	土師器	小形丸底壺	(8.2)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・指押え・ケズリ	細かい砂粒を含む。	普通	淡灰褐色	
31-7	4区	1号土坑	13層上面	土師器	壺	-	-	外面:ハケメ 内面:ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰褐色	胴部外面下半に煤が付着。
31-8	4区	1号土坑	13層上面	土師器	壺	(11.8)	-	外面:ハケメ・横ナデ 内面:指押え・ケズリ	2mm大の石英他含む。	良好	黄灰色	
31-9	4区	1号土坑	13層上面	土師器	低脚坏	(21.8)	4.9	外面:ミガキ・横ナデ 内面:ミガキ・横ナデ	2mm大の石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	内面に黒斑あり。
31-10	4区	1号土坑	13層上面	土師器	高坏	-	-	外面:ハケメのちミガキ 内面:ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰褐色	
31-11	4区	1号土坑	13層上面	土製品	土錘	-	-	外面: 内面:指成形	密	良好	灰褐色	
33-1	4区	3号土坑	16層上面	土師器	甕	(20.0)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色~灰黄色	
33-2	4区	3号土坑	16層上面	土師器	甕	(14.6)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ	3mm大の石英を含む。	普通	淡黄褐色	
33-3	4区	5号土坑	16層上面	土師器	甕	(15.8)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	橙褐色	
33-4	4区	5号土坑	16層上面	土師器	鼓形器台	(25.4)	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色	
33-5	4区	5号土坑	16層上面	土師器	不明	-	-	外面:ハケメのちナデ 内面:しぼり目	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡黄白色	両側面が切断されている。
41-1	4区	北壁Tr3	14層	弥生土器	甕	14.0	22.5	外面:ハケメ・ミガキ・横ナデ 内面:横ナデ・ハケメ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	胴部外面下半(底部は除く)に煤が付着。内面下半に黒色付着物あり。
41-2	4区	J-28	14層	弥生土器	甕	(16.7)	-	外面:横ナデ・ハケメのちミガキ 内面:横ナデ・ハケメ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	胴部外面下半に煤が付着。
41-3	4区	K-29	14層	弥生土器	甕	(17.4)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(2mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	胴部外面下半に煤が付着。
41-4	4区	J-29	14層	弥生土器	甕	(19.6)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	2mm大までの長石を少量含む。	良好	にぶい黄褐色	
41-5	4区	J-29	14層	弥生土器	甕	(18.6)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	2.5mm大までの長石を多く含む	良好	外:灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	
41-6	4区	J-29	14層	弥生土器	甕	(19.2)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
41-7	4区		14層	弥生土器	甕	18.0	-	外面: 内面:ナデ・ケズリ	1~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	淡黄灰色	外面肩部に煤付着。
41-8	4区	J-28 K-29	14層	弥生土器	甕	(20.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大までの砂粒を含む。	良好	黄灰色	
41-9	4区	K-31	14層	弥生土器	甕	17.3	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	2mm大までの砂粒を多く含む。	良好	灰白色	外面に黒斑あり。
41-10	4区	K-29	14層	弥生土器	甕	(20.8)	-	外面:横ナデ・ハケメか 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	4mm大の石英を含む。	良好	淡橙褐色	
41-11	4区	K-31	14層	弥生土器	甕	(16.0)	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	良好	灰褐色	
41-12	4区	K-30	14層	弥生土器	甕	(17.8)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大の石英、細かい石英・雲母を含む。	不良	灰褐色	
41-13	4区	K-31	14層	弥生土器	甕	(26.0)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	やや粗い(2mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
41-14	4区	K-31	14層	弥生土器	壺	(32.0)	-	外面:ハケメ 内面:横ナデ	細かい石英を含む。	良好	橙褐色	
41-15	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	壺	(30.0)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ	細かい石英他多く含む。	良好	橙褐色	
41-16	4区	J-29	14層	弥生土器	壺	(31.5)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ミガキ	2mm大の長石・石英を多く含む。	良好	黄茶褐色	
41-17	4区	J-29	14層	弥生土器	壺	28.0	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	3mm大までの石英を多く含む。	良好	灰白色	外面胴部に黒斑あり。
41-18	4区	K-29	14層	弥生土器	壺	(13.4)	-	外面:横ナデ・ミガキ 内面:横ナデ・ハケメ・ケズリ	密(2~3mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄褐色	
41-19	4区	K-31	14層	弥生土器	壺	(14.0)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	外:灰褐色 内:黒褐色	
41-20	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	壺	16.0	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大までの砂粒を多く含む。	不良	橙褐色	
41-21	4区	K-30	14層	弥生土器	壺	(25.0)	-	外面:ミガキ 内面:横ナデ	3mm大の石英を多く含む。	良好	灰白色	
41-22 23	4区	K-29 南壁Tr2	14層	弥生土器	壺	-	-	外面:ミガキ 内面:ケズリ	3mm大までの石英を含む。	良好	外:橙褐色 内:灰白色	22・23同一個体。
41-24	4区	K-31	14層	弥生土器	甕	16.4	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	橙褐色	
41-25	4区	K-29	14層	弥生土器	底部	-	-	外面:ミガキ 内面:ケズリ	細かい砂粒を多く含む。	良好	茶褐色	底部外面に黒斑あり。堯成後外側から穿孔。

41-26	4区	J-29	14層	弥生土器	底部	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	石英・長石を含む。	良好	外：褐色 内：灰褐色	焼成後、外面から穿孔。
41-27	4区	K-29	14層	弥生土器	蓋	(13.0)	7.1	外面：ミガキか・横ナデ 内面：ケズリか	2mm大までの長石を多く含む。	良好	灰白色	焼成前に斜めに穿孔。
41-28	4区	K-31	14層	弥生土器	蓋	(6.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	2~3mm大の石英を多く含む。	普通	灰褐色	側面焼成前に穿孔。
41-29	4区	K-31	14層	弥生土器	高坏	(23.2)	-	外面：横ナデ・ミガキ・ケズリ 内面：横ナデ・ケズリのちミガキ	2mm大までの砂粒を僅かに含む。	良好	外：褐灰色 内：灰黄色	口縁部内外面に赤色顔料塗布。
41-30	4区	K-29	14層	弥生土器	高坏	(11.0)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰褐色	内外面に赤色顔料塗布。
42-31	4区	J-27	14層	弥生土器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ミガキか・ケズリ・しぼり目	細かい石英他含む。	良好	黄灰色	
42-32	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	鼓形器台	21.9	13.8	外面：横ナデ 内面：ミガキ・ケズリ・横ナデ	5mm大の小石を含む。	普通	灰褐色	外面に黒斑あり。
42-33	4区	K-31	14層	弥生土器	鼓形器台	(21.4)	-	外面：ミガキか 内面：ケズリのちミガキ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡褐色	
42-34	4区	K-27	14層	弥生土器	鼓形器台	(26.6)	-	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡橙褐色	
42-35	4区	J-28	14層	弥生土器	台付壺	-	-	外面：ミガキ 内面：指押え・ナデ	細かい石英他含む。	良好	黄灰色	胴部下半に黒斑あり。
42-36	4区	K-29	14層	弥生土器	甕	20.0	33.0	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	1~3mm大の砂粒を含む。	良好	淡黄色	平底。胴部外面から穿孔。
42-37	4区	K-29	14層	弥生土器	甕	19.2	28.9	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	細かい砂粒を多く含む。	良好	淡灰褐色	平底。外面下半に煤付着。底部被熱し、赤褐色化。内面底部に黒色付着物。
42-38	4区	J-29	14層	土師器	甕	11.1	12.7	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2~3mm大の砂粒を含む。	普通	灰白色	胴部下半、口縁に煤付着。
42-39	4区	K-31	14層	弥生土器	甕	10.1	13.3	外面：ハケメ 内面：ケズリ・指押え	4mm大の石英を含む。	普通	灰白色	平底。
42-40	4区	K-29	14層	弥生土器	甕	14.6	18.6	外面：ナデ・ハケメ 内面：ナデ・ケズリ・指圧痕	1~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	灰褐色	平底。外面に煤付着。内面に付着物あり。
42-41	4区	K-29	14層	土師器	甕	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ・指押え	4mm大の石英、白色粘土粒を含む。	良好	灰白色	内面底部、外面下半に煤付着。
42-42	4区	K-29	14層	弥生土器	甕	12.0	16.0	外面：ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	平底。
42-43	4区	J-30 K-30	14層	土師器	甕	(12.6)	19.9	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
42-44	4区	北壁Tr	14層	土師器	甕	11.8	13.5	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭痕	1~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	灰白色	胴部外面下半に煤付着。
42-45	4区	J-29	14層	土師器	甕	14.0	22.9	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	1~2mm大の砂粒を含む。	良好	淡黄色	胴部下半に煤付着。
43-46	4区	K-30	14層	弥生土器	甕	33.7	45.7	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	4mm大の石英、白色粘土粒を含む。	普通	灰白色~淡橙褐色	外面に大きな黒斑あり。
43-47	4区	K-31	14層	土師器	甕	22.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	4mm大までの石英を含む。	普通	灰白色	外面下半に煤付着。肩部外面から穿孔。
43-48	4区	K-29	14層	土師器	甕	27.3	47.6	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	4mm大の石英、白色粘土粒を含む。	普通	灰白色	胴部外面下半に煤付着。
43-49	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	甕	36.7	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ハケメのちケズリか	3mm大の石英を含む。	普通	灰白色	
43-50	4区	北壁Tr3	14層	土師器	甕	34.7	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	内外面胴部下半に煤付着。
43-51	4区	K-31	14層	土師器	甕	27.1	46.5	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	石英・雲母、白色粘土粒を含む。	普通	灰白色	
43-52	4区	K-31	14層	土師器	壺	30.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリのちハケメ	3mm大の石英・雲母を含む。	良好	灰白色	胴部外面下半に煤付着。口縁外面に黒斑あり。
43-53	4区	K-30	14層	土師器	甕	27.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大までの石英・雲母を多く含む。	普通	暗灰白色	
44-54	4区	K-29	14層	土師器	甕	22.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	細かい長石・石英を含む。	良好	黄灰色	
44-55	4区	南壁Tr2	14層	土師器	甕	23.6	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	不良	灰白色	
44-56	4区	K-29	14層	弥生土器	甕	24.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	
44-57	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	甕	25.6	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英他含む。	良好	灰白色	
44-58	4区	K-30	14層	土師器	甕	16.1	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大の石英、白色粘土粒を含む。	不良	灰白色	口縁一部に黒斑あり。
44-59	4区	K-31	14層	土師器	甕	14.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	4mm大の石英、白色粘土粒を含む。	普通	灰白色	胴部外面下半に煤付着。
44-60	4区	K-30	14層	土師器	甕	(16.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	黄灰色	胴部外面下半に煤付着。
44-61	4区	K-31	14層	土師器	甕	(13.9)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大の石英・雲母を含む。	良好	暗黄灰色	
44-62	4区	K-31	14層	土師器	甕	(14.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(黄白色粘土粒を含む)。	良好	淡黄褐色	外面一部に煤付着。
44-63	4区	J-30 K-30	14層	土師器	甕	10.2	-	外面：横ナデ・ハケメのちミガキか 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
44-64	4区	K-31	14層	土師器	甕	(12.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	良好	黄灰色	胴部外面下半と内面下半に煤付着。
44-65	4区	J-29	14層	土師器	甕	17.4	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	やや不良	灰白色	
44-66	4区	K-30	14層	土師器	甕	14.8	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰褐色	
44-67	4区	K-30 北東Gr	14層	土師器	甕	14.6	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大までの石英を多く含む。	良好	灰白色	外面に煤付着。
44-68	4区	K-88	14層	土師器	甕	(11.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	外面下半に煤付着。
44-69	4区	K-31	14層	土師器	甕	15.5	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色~淡灰褐色	
44-70	4区	K-27	14層	弥生土器	甕	15.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	細かい石英他含む。	良好	灰褐色	
44-71	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	甕	(18.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	灰褐色	外面下半に煤付着。
44-72	4区	K-31	14層	土師器	甕	(13.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい砂粒・白色粘土粒を含む。	良好	黄灰色	

45-73	4区	K-31	14層	弥生土器	甕	(17.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指圧痕	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡灰褐色	胴部外面下半に煤付着。 内面底部に黒色付着物。
45-74	4区	K-28	14層	土師器	甕	15.5	-	外面：横ナデか・ハケメ 内面：横ナデか・ケズリ	4mm大までの石英を含む。	良好	赤褐色	胴部外面下半に煤付着。
45-75	4区	K-30	14層	土師器	甕	(19.1)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリのちナデか	密(1mm以下の微細な砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	内面に煤付着。
45-76	4区	J-28	14層	弥生土器	甕	19.3	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・指圧痕・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
45-77	4区	J-30 K-30	14層	土師器	甕	14.6	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大の石英、白色粘土粒を含む。	良好	灰白色	
45-78	4区	J-30	14層	土師器	甕	(11.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指圧痕	3mm大の砂粒を含む。	良好	灰白色	外面下半に煤付着。
45-79	4区	K-29	14層	土師器	甕	15.3	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	普通	灰白色	胴部外面に煤付着。
45-80	4区	K-31	14層	土師器	甕	15.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大までの砂粒を多く含む。	良好	灰黄色	
45-81	4区	K-31	14層	土師器	甕	(15.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母・白色粘土粒を含む。	不良	灰白色	胴部外面、内面下半に煤付着。
45-82	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	甕	14.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	外面に黒斑あり。
45-83	4区	K-30	14層	弥生土器	甕	(16.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大の石英を含む。	良好	灰白色	
45-84	4区	J-28	14層	弥生土器	甕	18.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色	
45-85	4区	J-30	14層	土師器	甕	(13.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	橙褐色	
45-86	4区	K-27	14層	弥生土器	甕	(13.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
45-87	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	甕	(20.3)	-	外面：横ナデ・ミガキか 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡黄色	
45-88	4区	J-23	14層	弥生土器	甕	17.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	1~2mm大の砂粒、金雲母、石英を含む。	良好	淡黄褐色	
45-89	4区	K-3)	14層	土師器	甕	12.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	雲母・白色粘土粒を含む。	普通	灰褐色	外面及び内面胴部下半に煤付着。
45-90	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	甕	(23.5)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大の石英、白色粘土粒を含む。	普通	灰白色	
45-91	4区	J-28	14層	弥生土器	甕	19.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
46-92	4区	K-31	14層	弥生土器	甕	(26.6)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	灰白色	
46-93	4区	K-29	14層	弥生土器	甕	(24.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	3mm大までの石英他を含む。	良好	灰白色	胴部外面下半に煤付着。
46-94	4区	K-30	14層	土師器	甕	22.6	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	3mm大の石英、白色粘土粒を含む。	普通	黄灰色	
46-95	4区	K-30	14層	土師器	甕	(17.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	胴部外面下半に煤付着。 胴部外面に黒斑あり。
46-96	4区	J-30	14層	土師器	甕	16.7	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	4mm大までの砂粒を含む。	普通	灰白色	胴部外面に煤付着。
46-97	4区	K-31	14層	弥生土器	甕	(17.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指圧痕・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	外面下半に煤付着。
46-98	4区	K-30	14層	土師器	甕	(11.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大の石英、細かい雲母を含む。	普通	灰白色	
46-99	4区	K-31	14層	弥生土器	甕	-	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	
46-100	4区	J-30	14層	弥生土器	甕	(16.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	黄灰色	口縁に黒斑あり。
46-101	4区	J-27	14層	土師器	甕	18.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	口縁外面に黒斑あり。
46-102	4区	K-31	14層	弥生土器	甕	15.4	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	灰白色	
46-103	4区	K-30	14層	土師器	甕	(16.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	外：灰褐色 内：橙褐色	胴部外面下半に煤付着。
46-104	4区	J-29	14層	土師器	甕	15.8	-	外面： 内面：ケズリ	細かい石英・雲母・白色粘土粒を含む。	不良	淡橙褐色	
46-105	4区	K-31	14層	土師器	甕	16.4	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	普通	灰白色	胴部外面に煤付着。
46-106	4区	J-29	14層	弥生土器	甕	10.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	1~3mm程度の雲母、石英を含む。	良好	淡黄色	
46-107	4区	J-29	14層	弥生土器	甕	15.4	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	4mm大の石英を含む。	良好	灰白色	胴部外面下半に煤付着。
46-108	4区	K-31	14層	土師器	甕	(14.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色	
47-109	4区	J-30 K-30	14層	弥生土器	甕	(17.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	外面下半に煤付着。内面下半に黒色付着物。
47-110	4区	K-30	14層	土師器	甕	(16.1)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	2mm大までの石英他を含む。	良好	灰褐色	胴部外面下半に煤付着。 内面底部に黒色付着物。
47-111	4区	J-29 北壁Tr3	14層	弥生土器	甕	(15.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリのちミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	橙褐色	
47-112	4区	J-30	14層	土師器	甕	(12.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
47-113	4区	K-38	14層	弥生土器	甕	19.9	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	4mm大の石英を含む。	普通	灰白色	
47-114	4区	J-30	14層	土師器	甕	16.4	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
47-115	4区	K-31	14層	土師器	甕	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ	細かい石英他を含む。	良好	橙褐色	外面下半に煤付着。
47-116	4区	K-31	14層	土師器	甕	16.4	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色	胴部外面下半に煤付着。 口縁に黒斑あり。
47-117	4区	J-27	14層	土師器	甕	16.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	6mm大の石英を含む。	普通	灰白色	胴部外面に煤付着。
47-118	4区	J-31	14層	土師器	甕	(13.0)	17.6	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリのちナデか	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡橙褐色	
47-119	4区	K-30	14層	土師器	甕	19.3	16.3	外面：ハケメ 内面：ケズリ	2~3mm大の石英他多く含む。	やや不良	灰白色	底部、胴部下半に煤付着。

47-120	4区	K-31	14層	土師器	甕	(11.2)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大までの長石・白色粘土粒を含む。	良好	外:灰白色 内:明褐色	
47-121	4区	K-31	14層	土師器	甕	12.9	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	淡灰褐色	
47-122	4区	J-30	14層	土師器	甕	(16.8)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ハケメ	細かい石英・雲母を含む。	良好	橙褐色	
47-123	4区	K-29	14層	土師器	台付甕	-	-	外面:横ナデ 内面:ケズリ	5mm大の小石を含む。	良好	黄灰色	
47-124	4区	J-31	14層	土師器	台付甕	-	-	外面:ハケメ・ミガキ・横ナデ 内面:ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	外:黄灰色 内:灰褐色	
47-125	4区	K-29	14層	弥生土器	注口	-	-	外面:ミガキ・ハケメ 内面:ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	黄白色	
47-126	4区	K-29	14層	弥生土器	注口	-	-	外面:ミガキ 内面:ケズリ	細かい雲母を含む。	普通	灰白色	胴部に孔を明け、注口を差し込む。
47-127	4区	K-31	14層	弥生土器	注口	-	-	外面:ハケメのちミガキ 内面:	細かい砂粒を含む。	良好	灰黄色	下側に煤付着。
47-128	4区	南壁Tr2	14層	弥生土器	把手	-	-	外面:ミガキ 内面:ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	胴部に孔を明け、把手を差し込む。
47-129 130	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	注口	-	-	外面:ハケメ 内面:ケズリ	3mm大の石英を含む。	良好	灰褐色	胴部に孔を明け、把手を差し込む。胴部に煤付着。
48-131	4区	K-30	14層	弥生土器	甕	(13.0)	(12.0)	外面:横ナデ・タケのちハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大までの砂粒を含む。	良好	灰白色	
48-132	4区	K-31	14層	土師器	甕	(12.0)	(15.7)	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	6mm大の小石を含む。	良好	黄灰色	外面下半に煤付着。焼成後に外面から穿孔。
48-133	4区	K-31	14層	土師器	甕	12.8	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	2mm大までの長石を少量含む。	良好	灰白色	焼成後に胴部外面から穿孔。
48-134	4区	K-31	14層	土師器	甕	13.4	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	外:灰褐色 内:灰白色	
48-135	4区	K-31	14層	土師器	甕	(12.8)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	2mm大の石英を含む。	良好	暗黄灰色	
48-136	4区	K-31	14層	土師器	甕	(16.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡橙褐色	
48-137	4区	J-30	14層	土師器	甕	(13.4)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	2mm大の石英を含む。	良好	外:灰白色 内:黒褐色	
48-138	4区	K-30 K-31	14層	土師器	甕	(10.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	
48-139	4区	K-31	14層	土師器	甕	12.4	17.8	外面:ハケメ・ナデ 内面:ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	胴部外面下半に煤付着。焼成後に胴部外面穿孔。
48-140	4区	K-31	14層	土師器	甕	(16.6)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	2mm大の石英、灰色粘土粒を含む。	良好	灰白色	
48-141	4区	K-31	14層	土師器	甕	(14.4)	-	外面: 内面:ケズリ	細かい石英を多く含む。	不良	橙褐色	
48-142	4区	J-29	14層	土師器	甕	(13.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
48-143	4区	K-31	14層	土師器	甕	(15.8)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい長石・石英を含む。	良好	橙褐色	胴部外面下半に煤付着。
48-144	4区	K-31	14層	土師器	甕	16.4	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい石英を含む。	良好	橙褐色	
48-145	4区	K-31	14層	土師器	甕	(15.2)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	普通	灰白色	
48-146	4区	K-31	14層	土師器	甕	12.2	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	2mm大までの長石を少量、雲母・白色粘土粒を極微量含む。	良好	淡褐色	
48-147	4区	J-29	14層	土師器	甕	9.8	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	粗い(8mm大の小石を含む)。	良好	にぶい黄灰色	
48-148	4区	K-30	14層	土師器	甕	(15.8)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・指押え・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	黄灰色	
48-149	4区	K-31	14層	土師器	甕	(15.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	黄灰色	
48-150	4区	K-31	14層	土師器	甕	(13.5)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・指圧痕・ケズリ	4mm大の石英、白色粘土粒を含む。	やや不良	灰白色	
48-151	4区	K-31	14層	土師器	底部	-	-	外面:ハケメ 内面:指圧痕	細かい雲母を含む。	良好	外:灰褐色 内:灰白色	外面底被熱、煤付着。焼成後に内面から穿孔。
48-152	4区	K-29	14層	土師器	短頸壺	14.7	-	外面:横ナデ・ハケメのちミガキ 内面:ミガキ、一部ケズリ・ハケメ	細かい砂粒を含む。	良好	暗灰色~灰白色	甘い瓦質焼成。
49-153	4区	K-29	14層	弥生土器	壺	17.0	28.6	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指押え	2mm大までの砂粒を含む。	良好	黄灰褐色	平底。外面下半に煤付着。
49-154	4区	K-29	14層	弥生土器	壺	18.8	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・指押え・ケズリ	5mm大までの石英を含む。	良好	黄灰色	
49-155	4区	K-29	14層	弥生土器	壺	22.1	34.7	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	3mm大までの石英を含む。	良好	黄灰色	底部は平底だが、かなり歪んだ位置につく。
49-156	4区	K-29	14層	弥生土器	壺	18.8	35.4	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指圧痕	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡黄灰色	平底。
49-157	4区	K-30 K-31	14層	土師器	壺	(21.2)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・指押え・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	黄灰色	
49-158	4区	南壁Tr2	14層	土師器	壺	20.6	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・指押え・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	橙褐色	
49-159	4区	K-31	14層	土師器	壺	19.0	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
49-160	4区	K-31	14層	土師器	壺	20.0	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	口縁一部に黒斑あり。
49-161	4区	J-31	14層	土師器	壺	22.0	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ハケメのちミガキ・ナデ・ケズリ	1mm大の石英・雲母を含む。	良好	浅黄色	
50-162	4区	J-27	14層	土師器	壺	(21.8)	-	外面:横ナデ・僅かにハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大までの石英・白色粘土粒を含む。	普通	灰白色	
50-163	4区	K-30	14層	土師器	壺	(17.3)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	石英・雲母を含む。	良好	淡黄灰色	口縁外面一部に黒斑あり。
50-164	4区	J-31	14層	土師器	壺	14.2	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
50-165	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	壺	20.2	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	2~3mm大までの砂粒を含む。	良好	灰褐色	
50-166	4区	K-29 北東Gr	14層	弥生土器	壺	(20.8)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリのちミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
50-167	4区	J-30	14層	土師器	壺	15.2	-	外面: 内面:ケズリ	1mm大の石英、0.5mm大の雲母を含む。	良好	淡黄白色	

50-168	4区	J-27	14層	弥生土器	壺	24.4	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメのちケズリ	細かい石英・長石を含む。	良好	橙褐色	
50-169	4区	K-30	14層	弥生土器	壺	20.5	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	良好	灰白色	胴部下半・剥離面に煤付着。
50-170	4区	J-30	14層	土師器	壺 (25.8)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	2mm大の石英・細かい石英・雲母を含む。	良好	浅黄褐色～にぶい黄褐色		
50-171	4区	J-31	14層	土師器	壺	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色		
50-172	4区	K-31	14層	土師器	壺	21.6	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	良好	淡黄灰色	
50-173	4区	K-27	14層	土師器	壺 (21.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	黄褐色		
50-174	4区	K-29	14層	土師器	壺	21.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	2mm大の石英・白色粘土粒を含む。	良好	灰白色	
51-175	4区	K-29	14層	土師器	壺 (22.8)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	普通	灰白色		
51-176	4区	K-31	14層	土師器	壺 (21.3)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	灰白色	口縁一部に黒斑あり。	
51-177	4区	J-27	14層	土師器	壺	18.4	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ	細かい砂粒を多く含む。	良好	黄灰色	
51-178	4区	K-30	14層	土師器	甗 (17.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色		
51-179	4区	K-30	14層	土師器	壺	17.4	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	
51-180	4区	J-31	14層	土師器	甗 (13.2)	-	外面：横ナデか 内面：横ナデか・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色		
51-181	4区	K-29	14層	弥生土器	壺 (16.9)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	普通	橙褐色	口縁外面に黒斑あり。	
51-182	4区	南壁Tr	14層	土師器	壺 (12.6)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	外：灰白色 内：暗灰色		
51-183	4区	K-29	14層	土師器	壺 (21.0)	-	外面： 内面：ケズリ	2mm大の石英を含む。	不良	黄灰色		
51-184	4区	K-30	14層	土師器	壺 (14.4)	-	外面：横ナデか 内面：横ナデか・ケズリ	3mm大の石英を含む。	不良	灰白色	口縁一部に黒斑あり。	
51-185	4区	K-31	14層	土師器	甗 (12.7)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大の石英・白色粘土粒を含む。	やや不良	橙褐色		
51-186	4区	K-31	14層	土師器	壺 (21.1)	-	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ	5mm大までの石英他含み粗い。	普通	灰白色		
51-187	4区	J-30 K-31	14層	土師器	壺	18.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	4mm大の石英を含む。	良好	灰白色	胴部下半に煤付着。頸部内面に黒色付着物あり。
51-188	4区	K-30	14層	土師器	直口壺	10.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	4mm大までの小石を含む。	普通	黄白色	
51-189	4区	K-30	14層	土師器	直口壺 (10.6)	15.2	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	胴部下半中心に煤付着。	
51-190	4区	K-31	14層	土師器	直口壺	10.0	-	外面：横ナデ・ミガキ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	3mm大までの石英を含む。	良好	黄灰色	
51-191	4区	K-29	14層	弥生土器	合付壺	8.4	11.3	外面：ハケメ 内面：ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡褐色	
51-192	4区	K-31	14層	土師器	壺	-	-	外面：ハケメ・ナデ 内面：ハケメ・指押え・ケズリ	4mm大の石英を含む。	良好	黄灰色	
51-193	4区	J-30 K-29	14層	土師器	壺 (36.0)	-	外面：横ナデ 内面：	2mm大の石英を含む。	不良	浅黄褐色		
51-194	4区	K-30	14層	土師器	壺	25.8	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
52-195	4区	I-27	14層	土師器	壺	56.7	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	6mm大までの小石を含む。	良好	黄灰褐色	外面に黒斑あり。
52-196	4区	K-29・30	14層	土師器	壺	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ一部ハケメ	白色粘土・細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	外面一部に黒斑あり。
52-197	4区	K-30・31	14層	土師器	壺 (31.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	普通	灰白色	胴部外面に黒斑あり。	
52-198	4区	J-31 K-31	14層	土師器	壺 (34.3)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色		
52-199	4区	K-29 北東Gr	14層	土師器	壺 (34.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・指押え・ハケメ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	外：灰白色 内：橙褐色	口縁一部に黒斑あり。	
52-200	4区	J-29	14層	土師器	壺 (39.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメのちミガキ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	口縁一部に黒斑あり。	
53-201	4区	K-30・31 南壁Tr2	14層	土師器	壺	32.3	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	5mm大の石英を含む。	良好	灰白色	口縁外面に黒斑あり。
53-202	4区	K-30	14層	土師器	壺	-	-	外面：ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	3mm大までの石英を含む。	良好	黄灰色	口縁内面一部に黒斑あり。
53-203	4区	J-29 K-29	14層	土師器	壺	-	-	外面：ミガキ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
53-204	4区	K-30	14層	土師器	壺	-	-	外面：ミガキ一部ハケメ 内面：指押え・ハケメ	5mm大の石英を含む。	良好	灰褐色	焼成後、外面から3つの孔を穿孔。
53-205	4区	K-31	14層	土師器	壺	-	-	外面：ミガキ 内面：	細かい石英を多く含む。	良好	灰褐色	外面に黒斑あり。
53-206	4区	K-29	14層	土師器	短頸壺 (12.0)	-	外面：ハケメのちミガキか 内面：ケズリ	3mm大までの石英を多く含む。	良好	灰白色		
53-207	4区	南壁Tr	14層	土師器	無頸壺	11.5	-	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：指押え・ケズリのちミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡黄褐色	
53-208	4区	K-29	14層	土師器	無頸壺	14.7	23.4	外面：横ナデ・ミガキ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・ミガキ	5mm大の石英を含む。	良好	黄灰色	外面に黒斑あり。
53-209	4区	K-30	14層	土師器	脚付無頸壺 (10.4)	(13.7)	外面：ミガキ・ハケメ一部ケズリ 内面：ハケメ・横ナデ・ミガキ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色		
53-210	4区	K-30	14層	土師器	壺 (18.0)	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：	石英・雲母を含む。	良好	黄灰色		
53-211	4区	J-29, K-29, K-30 南壁Tr	14層	土師器	壺 (20.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ	粗い(5mm大までの石英他含む)。	普通	灰白色～淡褐色		
53-212	4区	K-29	14層	土師器	壺 (31.0)	-	外面：横ナデか 内面：ミガキ	粗い(4～5mm大の石英を含む)。	普通	赤褐色～淡灰色		
53-213	4区	K-29	14層	土師器	壺	-	-	外面： 内面：ハケメ	粗い(4mm大までの石英他含む)。	普通	外：淡褐色 内：淡褐色	外面に赤色顔料塗布か。
53-214	4区	J-28	14層	土師器	壺	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	細かい石英を含む。	良好	灰黄色	

54-215	4区	K-29・30	14層	土師器	高坏	(24.0)	16.5	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ	細かい雲母他含む。	良好	灰白色	粘土板充填(孔あり)。
54-216	4区	J-29	14層	土師器	高坏	17.5	-	外面：ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ	2~3mm大の砂粒を多少含む。	良好	淡黄橙色	粘土板充填(孔あり)。
54-217	4区	J-29	14層	土師器	高坏	15.8	-	外面： 内面：	3mm大までの石英を含む。	不良	灰白色	
54-218	4区	K-31	14層	土師器	高坏	(24.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ	細かい石英・長石を含む。	良好	淡橙褐色	
54-219	4区	K-31	14層	土師器	高坏	23.2	-	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡黄灰色	口唇一部に黒斑あり。粘土板充填(孔あり)。
54-220	4区	K-29	14層	土師器	高坏	(24.3)	-	外面：ハケメのち横ナデ・ミガキ 内面：ミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	粘土板充填(孔あり)。
54-221	4区	K-31	14層	土師器	高坏	(20.8)	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰褐色	粘土板充填(孔あり)。
54-222	4区	J-31 北壁Tr2	14層	土師器	高坏	22.6	-	外面：ハケメ・粗いミガキ 内面：ミガキか	細かい砂粒、白色粘土粒を含む。	良好	淡橙褐色	粘土板充填(孔あり)。
54-223	4区	南壁Tr	14層	弥生土器	高坏	(23.4)	-	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	良好	灰白色	粘土板充填(孔あり)。
54-224	4区	K-30	14層	土師器	高坏	23.1	-	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ	石英・雲母・白色粘土粒を含む。	普通	灰白色	粘土板充填(孔あり)。
54-225	4区	K-28	14層	弥生土器	高坏	(25.2)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
54-226	4区	J-31	14層	土師器	高坏	20.0	-	外面：細かいミガキ 内面：ハケメのちミガキ	1mm程の石粒・石英・雲母を少量含む。	良好	淡黄色	
54-227	4区	K-29	14層	弥生土器	高坏	(24.7)	-	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ	2mm大の石英、細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色~灰黄色	
54-228	4区	K-29	14層	土師器	高坏	19.0	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ミガキ	2mm大までの長石を少量含む。	良好	橙褐色	
54-229	4区	K-30	14層	土師器	高坏	(16.8)	-	外面：ミガキか 内面：ミガキ	細かい石英を含む。	普通	淡灰橙色	粘土充填
54-230	4区	K-30	14層	土師器	高坏	(18.0)	-	外面：ハケメ 内面：ハケメ、浅い沈線を暗文状に入れる・見込みは粗い放射状のミガキ	4mm大の小石を含む。	良好	淡黄灰色	粘土充填
54-231	4区	K-31	14層	土師器	高坏	(18.9)	-	外面：ミガキか・ハケメ 内面：ハケメのち一部ミガキ	細かい砂粒を含む。	良好	淡灰黑色	粘土板充填(孔あり)。
54-232	4区	J-31	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメ・ミガキ・横ナデ 内面：ハケメ・ケズリ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄白色	粘土板充填(孔あり)。
54-233	4区	K-29	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキか・ケズリ・ハケメ	3mm大の石英を含む。	良好	黄灰色	粘土板充填(孔あり)。
54-234	4区	北壁Tr3	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：ケズリ・指押え・ハケメ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	粘土板充填(孔あり)。
54-235	4区	J-31	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ケズリ・指押え・ハケメ	密(微砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
54-236	4区	J-28	14層	土師器	高坏	-	-	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：ケズリ・ハケメ	2mm大までの長石を少量含む。	良好	灰白色	
54-237	4区	J-30	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ケズリ・横ナデ	1.5mm大までの長石を少量、0.5mm大までの雲母を微量含む。	良好	黄灰色	
54-238	4区	南壁Tr	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ・ナデ・ハケメ	細かい石英・長石を含む。	良好	黄灰色	粘土板充填か(孔なし)。円形透かし孔3方向。
54-239	4区	K-30	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリか	細かい石英・雲母を含む。	普通	淡橙褐色	
54-240	4区	J-30	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ・指頭圧痕・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄橙色	円形透かし孔3方向。
54-241	4区	J-29	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ケズリ 内面：ケズリ・指圧痕	2mm大の石英を含む。	良好	灰白色	
54-242	4区	南壁Tr2	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ・ハケメ	細かい石英・雲母を含む。	良好	外：黄灰色 内：淡黒褐色	円形透かし孔3方向。
54-243	4区	K-31	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ	2mm大までの長石を微量、0.5mm大までの雲母を極微量含む。	良好	見込み：にぶい 橙色 脚：灰白色	
55-244	4区	K-31	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ・横ナデ	2mm大の石英・雲母を含む。	良好	灰白色	円形透かし孔4方向。
55-245	4区	南壁Tr	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ・強い横ナデ 内面：ケズリ・強い横ナデ	5mm大の石英を含む。	良好	淡灰橙色	
55-246	4区	J-29	14層	土師器	低脚坏	-	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：ハケメ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
55-247	4区	K-31	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメのち一部ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ	細かい石英他含む。	普通	灰白色	
55-248	4区	K-31	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメのち粗いミガキ 内面：ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰褐色	脚部に黒斑あり。
55-249	4区	K-29	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメ・横ナデ 内面：ケズリ・横ナデ	5mm大の石英を含む。	良好	黄灰色	外面に赤色顔料塗布。
55-250	4区	K-31	14層	土師器	高坏	-	-	外面：指押え・横ナデ 内面：ケズリ	3mm大の石英を含む。	普通	灰褐色	外面に赤色顔料塗布。
55-251	4区	J-28	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメか 内面：	3mm大の石英を含む。	良好	灰白色	坏部内面と脚部外面に赤色顔料塗布。
55-252	4区	K-31	14層	土師器	高坏	(12.4)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキか・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	不良	灰白色	粘土板充填(孔あり)。
55-253	4区	K-31	14層	土師器	高坏	12.0	-	外面：ミガキ 内面：	細かい砂粒を含む。	良好	淡橙色	粘土板充填(孔あり)。
55-254	4区	K-30	14層	土師器	高坏	12.4	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：	5mm大の小石を含む。	普通	灰白色	粘土板充填。
55-255	4区	K-31	14層	土師器	低脚坏	11.0	-	外面： 内面：ミガキか	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	粘土板充填(孔あり)。
55-256	4区	K-31	14層	土師器	高坏	10.5	-	外面：横ナデ 内面：ミガキか	3mm大までの長石を少量含む。	良好	灰白色	粘土板充填(孔あり)。
55-257	4区	南壁Tr2	14層	土師器	高坏	11.4	-	外面：ミガキか 内面：ミガキか	細かい砂粒を含む。	不良	灰白色	
55-258	4区	K-31	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：ケズリ・指押え	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
55-259	4区	K-30	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ・ハケメ	1mm大までの砂粒・雲母を微量含む。	良好	灰白色	円形透かし孔4方向。
55-260	4区	J-30	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメのちミガキか 内面：ケズリ・ハケメ・指押え	6mm大の石英を含む。	普通	灰褐色	円形透かし孔4方向。外面から脚部内面一部に黒斑。
55-261	4区	K-29	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	細かい砂粒を多く含む。	普通	灰白色	

55-262	4区	K-31	14層	弥生土器	低脚环	(18.8)	5.7	外面： 内面：ミガキか	細かい砂粒を含む。	普通	灰白色	
55-263	4区	K-31	14層	土師器	低脚环	(18.4)	5.0	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	1mm以下の砂粒・白色粘土粒を含む。	良好	灰白色	
55-264	4区	J-30	14層	弥生土器	低脚环	23.4	-	外面：細かいミガキ 内面：ミガキ	1~2mm大の砂粒を含む。	良好	淡黄色	外面に黒斑あり。
55-265	4区	K-31	14層	弥生土器	低脚环	(18.0)	5.7	外面：ハケメ・横ナデ 内面：横ナデ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
55-266	4区	J-30	14層	土師器	低脚环	15.5	5.2	外面：ミガキか・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	1~2mm大の砂粒を含む。	良好	灰白色	
55-267	4区	K-30	14層	土師器	低脚环	14.8	6.2	外面：ハケメ一部指圧痕・横ナデ 内面：ミガキ一部ハケメ	細かい砂粒を含む。	良好	黄灰色	脚内面に焼成後、穿孔しようとした孔あり(貫通せず)。
55-268	4区	K-31	14層	土師器	低脚环	12.6	4.9	外面：ハケメのちミガキか・横ナデ 内面：ミガキか・横ナデ	2.5mm大までの長石、0.5mm大の雲母を含む。	良好	にぶい橙色	
55-269	4区	K-30	14層	土師器	低脚环	13.0	5.3	外面：横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	赤褐色粒を含む。	良好	灰白色	
55-270	4区	K-31	14層	土師器	低脚环	(13.1)	(5.0)	外面：ミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	脚部に焼成前穿孔。
55-271	4区	J-30 K-30	14層	土師器	低脚环	13.2	5.8	外面：ハケメのち横ナデか 内面：ミガキ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
55-272	4区	K-30	14層	土師器	低脚环	(13.2)	5.7	外面：ハケメ 内面：ケズリのちミガキ	3mm大の石英を含む。	良好	橙褐色	
55-273	4区	J-29	14層	土師器	低脚环	(11.7)	3.8	外面：ハケメのちミガキ 内面：ハケメのちミガキ	2mm大までの長石を少量含む。	良好	淡橙褐色	
55-274	4区	K-31	14層	土師器	低脚环	(14.8)	5.5	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡灰褐色	
55-275	4区	K-29	14層	土師器	低脚环	12.8	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：ケズリのちミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
55-276	4区	K-30	14層	土師器	低脚环	15.6	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ケズリのちミガキ	2mm大の石英、2.5mm大の雲母を含む。	良好	にぶい黄褐色	
55-277	4区	J-30 K-30	14層	土師器	低脚环	13.5	5.4	外面：横ナデ・ミガキか 内面：ミガキ・横ナデ	1.5mm大までの砂粒を極微量含む。	良好	灰白色	
55-278	4区	J-28	14層	土師器	低脚环	-	-	外面：ミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	細かい砂粒を含む。	良好	黄灰色	
55-279	4区	K-29	14層	土師器	低脚环	(17.6)	9.3	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ケズリのちミガキ・横ナデ	3mm大の石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
55-280	4区	K-30	14層	土師器	低脚环	(15.2)	6.7	外面：ナデのちハケメ・横ナデ 内面：横ナデ・ハケメのちミガキ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
55-281	4区	K-31	14層	土師器	低脚环	(15.8)	7.8	外面：ハケメ・ナデ 内面：ミガキか・	細かい石英・雲母、白色粘土粒を含む。	普通	灰白色	
55-282	4区	K-31	14層	土師器	低脚环	16.2	7.2	外面：ハケメのちミガキか・横ナデ 内面：ミガキ	2mm大までの砂粒を微量含む。	良好	灰白色	脚部に焼成前穿孔。
55-283	4区	J-30	14層	土師器	低脚环	14.2	(6.6)	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ハケメのちミガキ・横ナデ	2mm大の石英、1mm大の雲母を含む。	良好	灰黄色	口縁一部に黒斑あり。
55-284	4区	K-29 北壁Tr3	14層	土師器	低脚环	13.8	-	外面：ハケメのち下半ミガキ 内面：ミガキ・横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
55-285	4区	K-30	14層	土師器	低脚环	14.6	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ミガキか	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
55-286	4区	K-31	14層	土師器	低脚环	(17.8)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡黄色	
55-287	4区	K-31	14層	土師器	低脚环	12.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大までの長石、1mm大の雲母を含む。	良好	灰白色	
55-288	4区	J-30	14層	土師器	低脚环	-	-	外面：横ナデ・指押え 内面：横ナデ	2mm大までの長石を微量、0.5mm大までの雲母を極微量含む。	良好	灰白色	
55-289	4区	K-29	14層	土師器	低脚环	-	-	外面：ハケメ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰黄色	
55-290	4区	J-28	14層	土師器	高环	-	-	外面：ハケメ 内面：放射状暗文・ナデ・ハケメ	密	普通	灰褐色	坏部内面と脚部外面に赤色顔料塗布。
56-291	4区	K-30	14層	土師器	器台	10.5	8.8	外面：横ナデ・ミガキか 内面：横ナデ・ケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む。	良好	浅黄褐色	円板充填(中央に孔あり)。胴部に円形透し孔3孔。
56-292	4区	K-30	14層	土師器	器台	(11.0)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	細かい砂粒を含む。	良好	灰白色	粘土板充填(孔あり)。
56-293	4区	K-31	14層	土師器	高环	(9.0)	-	外面：指押え 内面：しぼり目	白色粘土粒を含む。	不良	淡褐色	
56-294	4区	K-31	14層	土師器	高环	(8.0)	9.7	外面：ミガキ 内面：指押え	細かい砂粒を含む。	不良	暗灰褐色	円形透し孔。
56-295	4区	南壁Tr2	14層	土師器	高环	(9.8)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ・ハケメ	5mm大の小石を含む。	良好	淡褐色	
56-296	4区	K-30	14層	土師器	器台	(9.8)	8.3	外面：横ナデ・ミガキ 内面：横ナデ・ケズリのちミガキ	1mm大までの砂粒を微量含む。	良好	灰白色	
56-297	4区	南壁Tr	14層	土師器	低脚环	(9.6)	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：ミガキ	細かい砂粒を含む。	良好	黄灰色	内面に黒斑あり。
56-298	4区	J-31	14層	土師器	低脚环	11.6	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	密(1mm未満の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
56-299	4区	南壁Tr2 J-27・28	14層	土師器	高环	37.7	-	外面：横ナデのちミガキ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリのちミガキ	細かい雲母を含む。	良好	黄褐色	外面一部に黒斑あり。内面に珉痕あり。
56-300	4区	J-28	14層	土師器	高环	(34.0)	-	外面：横ナデ・ミガキ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキか	細かい石英・雲母を多く含む。	普通	灰白色	
56-301	4区	J-28	14層	土師器	高环	33.2	-	外面：ナデ・ハケメのち粗ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ	1~2mm大の砂粒を含む。	良好	浅黄褐色	
56-302	4区	K-29	14層	土師器	高环	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ	4mm大までの小石を含む。	普通	灰白色	円板充填(孔あり)。
56-303	4区	南壁Tr	14層	土師器	高环	-	-	外面：横ナデ 内面：ケズリ・横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色	
56-304	4区	J-28	14層	土師器	高环	-	-	外面：横ナデ 内面：ケズリ・横ナデ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄褐色	
56-305	4区	K-29	14層	土師器	高环	(35.8)	-	外面：ハケメ 内面：ケズリのちミガキ	3mm大の石英を含む。	普通	灰褐色	
56-306	4区	南壁Tr	14層	土師器	高环	(38.5)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリのちミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	外：黄灰色 内：暗灰色	
56-307	4区	K-30	14層	土師器	高环	-	-	外面：横ナデ 内面：ケズリ	白色粘土粒・石英を含む。	良好	灰白色	
56-308	4区	K-29	14層	土師器	台付鉢	25.6	-	外面：横ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：	8mm大の小石を含む。	良好	淡黄褐色	

56-309	4区	K-31	14層	土師器	鉢	(23.1)	-	外面:ハケメ・ケズリ 内面:	4mm大までの石英を多く含む。	普通	灰白色	
56-310	4区	J-28	14層	土師器	鉢	(21.1)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:ケズリのちミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	橙褐色	
56-311	4区	南壁Tr2 J-28 K-28	14層	土師器	鉢	23.5	10.8	外面:ハケメ 内面:ミガキ・ケズリ・ハケメ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰褐色	片口。内面に水銀朱が残る。外面に煤付着。
56-312	4区	J-31	14層	土師器	鉢	(15.6)	-	外面:ハケメ 内面:横ナデ・ミガキ	細かい雲母を含む。	良好	黄灰色	片口。内面に水銀朱残る。外面に煤付着。
56-313	4区	K-29	14層	土師器	鉢	(15.4)	-	外面:ミガキ一部ハケメ 内面:ミガキ	細かい砂粒を含む。	良好	灰白色	
56-314	4区	J-29 北壁Tr3	14層	土師器	鉢	(18.0)	-	外面:ミガキ 内面:ミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	外:暗灰褐色 内:黄灰色	内面に水銀朱が付着。外面に煤付着。
56-315	4区	南壁Tr2	14層	土師器	鉢	14.5	14.4	外面:指押え・斜めに粗い調整痕 内面:ケズリ・指押え	3mm大の石英他多く含む。	普通	灰褐色	底部に黒斑あり。焼成前穿孔。
56-316	4区	K-30	14層	土師器	鉢	16.4	7.0	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ハケメ・ナデ	1~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	浅黄褐色	
56-317	4区	K-30	14層	土師器	鉢	13.1	6.1	外面:ハケメ・ケズリ 内面:ハケメ・ケズリ	1mm大までの砂粒・雲母を微量含む。	良好	外:明褐色 内:褐灰色	
56-318	4区	K-30	14層	土師器	鉢	12.8	5.3	外面:横ナデ・ハケメのちミガキ 内面:ハケメのち放射状にミガキ	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡黄色	外面に黒斑あり。
56-319	4区	K-29	14層	土師器	壺	(29.6)	4.3	外面:横ナデ・ミガキ・ハケメ 内面:横ナデ・ミガキ	2~3mm大の石英を含む。	良好	灰白色	
56-320	4区	南壁Tr	14層	土師器	漆壺	5.6	9.5	外面:横ナデ・ハケメ 内面:しぼり目	細かい砂粒を含む。	良好	灰褐色~淡黄色	内面に漆付着。
56-321	4区	J-29	14層	土師器	漆壺	-	-	外面:ナデ 内面:ナデ	細かい砂粒を含む。	良好	橙褐色	
57-322	4区	K-31	14層	土師器	甌	11.6	60.0	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色	上・下端に僅かに黒斑あり。
57-323	4区	K-29	14層	土師器	甌	(16.8)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	良好	灰白色	
57-324	4区	K-31	14層	土師器	甌	13.2	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・指押え・ケズリ	3mm大までの石英を含む。	良好	淡灰褐色	口縁に黒斑あり。
57-325	4区	K-31	14層	土師器	甌	-	-	外面:ハケメ・ナデ 内面:ケズリ	3mm大の石英、白色粘土粒を含む。	良好	淡橙褐色	下端から被熱により黒く煤けている。
57-326	4区	K-31	14層	土師器	壺	(50.5)	-	外面:タタキ・ハケメ・強い横ナデ 内面:ハケメ	4mm大までの石英を多く含む。	普通	赤褐色	
57-327	4区	西壁Tr1	14層	弥生土器	壺	-	-	外面:タタキ・横ナデ・ハケメ 内面:	5mm大までの石英を多く含む。	良好	外:赤褐色 内:黒褐色	
58-328	4区	K-29	14層	弥生土器	壺	-	-	外面:ハケメ・タタキ 内面:ハケメ	3mm大までの石英・雲母を多く含む。	普通	外:赤褐色 内:淡黄色	外面に黒斑あり。
58-329	4区	J-25・K-29 ・30・31 南壁Tr	14層	弥生土器	壺	-	-	外面:ハケメ・横ナデ・タタキ 内面:ハケメ	4mm大までの石英・長石を多く含む。	良好	外:赤褐色 内:灰白色	胴部復原径56cm。
58-330	4区	J-31	14層	弥生土器	壺	-	-	外面:横ナデ・タタキ・ハケメ 内面:ハケメ	4mm大までの石英を多く含む。	良好	外:灰白色 内:黒褐色	
58-331	4区	K-31	14層	弥生土器	壺	-	-	外面:ハケメ 内面:ハケメ	2mm大の石英を多く含む。	良好	外:橙褐色 内:灰白色	
59-332	4区	K-30	14層	弥生土器	鼓形器台	24.8	13.0	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	2~3mm大の石英を多く含む。	普通	灰白色	
59-333	4区	K-30	14層	弥生土器	鼓形器台	(22.0)	12.5	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	2mm大の石英を多く含む。	普通	灰白色	
59-334	4区	K-30	14層	土師器	鼓形器台	14.8	8.1	外面:横ナデ・ミガキ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	2mm大までの長石・雲母を含む。	良好	灰白色	円形透し孔が3孔。
59-335	4区	K-29	14層	弥生土器	鼓形器台	22.2	14.2	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	細かい石英他含む。	良好	黄灰色	
59-336	4区	J-27	14層	土師器	鼓形器台	25.2	8.6	外面:横ナデ 内面:ケズリ	5mm大の石英を含む。	良好	淡褐色	
59-337	4区	K-30	14層	土師器	鼓形器台	16.4	7.6	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	2.5mm大の石英、0.5mm大の雲母を含む。	良好	黄灰色	
59-338	4区	J-30	14層	土師器	鼓形器台	24.4	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	3mm大の石英・雲母を含む。	良好	黄灰褐色	
59-339	4区	J-31	14層	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	2mm大の石英を含む。	普通	灰白色	
59-340	4区	K-30	14層	土師器	鼓形器台	17.0	8.3	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	2mm大の石英、白色粘土粒を含む。	普通	灰白色	円形透し孔4孔か。
59-341	4区	K-29	14層	土師器	鼓形器台	(19.6)	11.0	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	2mm大の石英他含む。	普通	灰白色	
59-342	4区	K-31	14層	土師器	鼓形器台	20.0	12.2	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	普通	淡灰褐色	
59-343	4区	K-30	14層	土師器	鼓形器台	(21.4)	11.6	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	1mm大までの長石を少量、1mm大までの雲母を微量含む。	良好	淡橙白色	
59-344	4区	K-29	14層	土師器	鼓形器台	(20.6)	10.8	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	密(1mm以下)の砂粒を多く含む。	普通	淡黄白色	
59-345	4区	K-29	14層	土師器	鼓形器台	(21.2)	12.0	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	2mm大までの長石を少量含む。	良好	灰白色	
59-346	4区	南壁Tr	14層	土師器	鼓形器台	(19.6)	10.6	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
59-347	4区	K-30	14層	土師器	鼓形器台	19.8	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	石英・雲母、褐色粒子を含む。	普通	にぶい黄褐色	
59-348	4区	K-29	14層	土師器	鼓形器台	20.5	11.3	外面:ミガキ・横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	2mm大までの長石を少量含む。	良好	灰白色	
59-349	4区	K-30	14層	土師器	鼓形器台	(20.2)	11.3	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	2mm大までの長石を少量、1mm大までの雲母を微量含む。	良好	外:にぶい黄褐色 内:灰白色	
59-350	4区	J-31	14層	土師器	鼓形器台	(23.4)	11.7	外面:横ナデ 内面:ケズリ	密(2mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
59-351	4区	J-29	14層	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
59-352	4区	K-31	14層	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	2mm大の石英、白色粘土粒を含む。	普通	灰白色	
60-353	4区	J-30	14層	土師器	鼓形器台	(21.0)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色	
60-354	4区	K-31	14層	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ 内面:ケズリ・横ナデ	2mm大の石英・細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色	
60-355	4区	K-31	14層	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ 内面:ケズリ・横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰褐色	

60-356	4区	南壁Tr	14層	土師器	鼓形器台	-	-	外面：横ナデ 内面：ミガキ・ケズリ・横ナデ	石英・雲母・白色粘土粒を含む。	普通	灰褐色	
60-357	4区	K-29	14層	土師器	鼓形器台	-	-	外面：横ナデ 内面：ミガキ・ケズリ・横ナデ	2mm大までの石英・雲母を含む。	普通	灰白色	
60-358	4区	J-30	14層	土師器	鼓形器台	18.4	(9.5)	外面：横ナデ 内面：ミガキ・ケズリ	4mm大までの石英・雲母を含む。	良好	にぶい黄褐色	
60-359	4区	K-31	14層	土師器	鼓形器台	(14.7)	6.9	外面：横ナデ 内面：ミガキ・ケズリ・横ナデ	2mm大までの砂粒を含む。	良好	灰白色	
60-360	4区	K-31	14層	土師器	鼓形器台	11.8	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ	細かい石英他含む。	良好	灰白色	
60-361	4区	J-30 K-30	14層	土師器	鼓形器台	12.4	6.5	外面：ナデ・ミガキ 内面：ケズリ・ナデ	1mm程度の砂粒を含む。	良好	浅黄褐色	
60-362	4区	J-30	14層	土師器	小形丸底壺	(5.5)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
60-363	4区	K-30	14層	土師器	小形丸底壺	(9.4)	-	外面：横ナデ・ミガキ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	3mm大までの石英を含む。	良好	灰白色	
60-364	4区	K-30	14層	土師器	小形丸底壺	8.8	8.5	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大までの長石・雲母を含む。	良好	灰白色	
60-365	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	(11.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大までの石英を多く含む。	普通	灰白色~浅黄褐色	
60-366	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	(9.2)	8.3	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
60-367	4区	J-31	14層	土師器	小形丸底壺	8.0	6.9	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい砂粒を含む。	普通	灰白色	
60-368	4区	K-30	14層	土師器	小形丸底壺	11.4	6.0	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・ハケメ	密(1mm未満の砂粒をやや多く含む)。	良好	淡褐色	
60-369	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	(10.6)	7.8	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm未満の砂粒を少量含む)。	良好	暗黄灰色	
60-370	4区	K-29 北壁Tr3	14層	土師器	小形丸底壺	(8.0)	(6.6)	外面：ハケメ 内面：指押え	細かい砂粒を含む。	普通	淡褐褐色	底部に黒斑あり。
60-371	4区	K-30	14層	土師器	小形丸底壺	7.9	4.7	外面：横ナデ・ミガキ 内面：横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰白色	外面に煤付着。
60-372	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	9.0	9.0	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	外：淡黄灰色 内：淡褐色	
60-373	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	8.5	8.6	外面：ナデ・ハケメ 内面：ナデ・指押え・ケズリ	1~2mm大の砂粒を含む。	良好	浅黄灰色	底部あり。
60-374	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	7.6	-	外面：横ナデ・ミガキか 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大の石英を含む。	普通	灰白色	
60-375	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	8.4	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	良好	黄灰色	胎土破面に柘圧痕あり。
60-376	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	9.6	8.0	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
60-377	4区	J-29	14層	土師器	小形丸底壺	6.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
60-378	4区	K-30	14層	土師器	小形丸底壺	(5.3)	7.2	外面：横ナデ・手捏ね成形 内面：横ナデ・ケズリか・ナデ	3mm大までの長石を含む。	良好	灰白色	
60-379	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	5.4	8.5	外面：横ナデ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
60-380	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	(6.6)	6.5	外面：横ナデ 内面：横ナデ・指押え・ケズリか	3mm大までの長石を多く含む。	良好	外：灰白色 内：褐灰色	
60-381	4区	K-31	14層	土師器	小形丸底壺	-	-	外面：横ナデ・ナデか 内面：ハケメ	1mm大までの砂粒を少量含む。	良好	灰白色	
60-382	4区	K-31	14層	土師器	坏	13.0	3.3	外面：ハケメのちミガキ 内面：ミガキ	細かい石英・雲母を含む。	普通	灰褐色	
60-383	4区	K-27	14層	土師器	坏	12.3	2.9	外面：ミガキか 内面：ミガキ	2mm大の石英を含む。	良好	にぶい黄褐色	
60-384	4区	K-30	14層	土師器	坏	13.6	4.6	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え	1mm大の石英・雲母を含む。	良好	にぶい黄褐色	
60-385	4区	K-31	14層	土師器	坏	15.6	4.2	外面：ケズリか 内面：	3mm大までの長石を多く含む。	良好	灰白色	
60-386	4区	K-31	14層	土師器	坏	13.0	3.9	外面：横ナデ・ケズリ 内面：横ナデ・ミガキ	2.5mm大の石英を含む。	良好	灰黄色	
60-387	4区	J-30	14層	土師器	坏	(12.6)	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：ハケメのちナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	黄白色	
60-388	4区	K-31	14層	土師器	坏	-	-	外面：横ナデ・ケズリ 内面：一部ケズリ・指押え	2mm大までの長石・雲母を含む。	良好	外：黄灰色 内：灰黄色	外面に黒斑あり。
60-389	4区	K-31	14層	土製品	手捏ね	7.4	5.5	外面：指押え・成形時の縦皺 内面：指押え	2mm大までの長石・雲母を含む。	良好	灰白色	
60-390	4区	J-29	14層	土製品	手捏ね	6.8	4.1	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm程度の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄白色	
60-391	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	8.8	4.4	外面：ハケメ 内面：ケズリ	1mm大までの砂粒を微量含む。	良好	灰白色	
60-392	4区	K-31	14層	土製品	手捏ね	6.2	4.0	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	外：黒褐色 内：暗灰色	内面と外面に煤付着。
60-393	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	8.8	5.1	外面：ナデ 内面：ナデ(爪の痕がつく)	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄褐色	外面底部に煤が濃く付着。
60-394	4区	K-31	14層	土製品	手捏ね	(4.4)	-	外面：ナデ 内面：ナデか	細かい石英を含む。	普通	灰白色	外面に黒斑あり。
60-395	4区	J-26	14層	土製品	手捏ね	(3.6)	5.3	外面：横ナデ・ナデか 内面：横ナデ・ナデ	2mm大の石英・細かい石英・雲母を含む。	不良	灰白色	
60-396	4区	K-29	14層	土製品	手捏ね	4.1	4.0	外面：横ナデ 内面：横ナデ	1mm大までの砂粒を微量含む。	良好	灰白色	
60-397	4区	K-31	14層	土製品	手捏ね	9.4	7.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	黄灰色	
60-398	4区	K-29	14層	土製品	手捏ね	7.2	5.0	外面：ナデ 内面：横ナデ	2mm大までの長石・雲母を含む。	良好	にぶい褐色	
60-399	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	7.8	4.8	外面：ナデ 内面：強いナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
60-400	4区		14層	土製品	手捏ね	5.2	4.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	
60-401	4区	K29	14層	土製品	手捏ね	4.0	3.9	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
60-402	4区	北壁Tr	14層	土製品	手捏ね	4.0	3.4	外面：ナデ 内面：ナデ	細かい長石を含む。	良好	黒褐色	

60-403	4区	J	14層	土製品	手捏ね	6.5	4.1	外面：ナデ 内面：ナデ	2.5mm大までの長石を少量含む。	良好	にぶい黄褐色	
60-404	4区	K-31	14層	土製品	手捏ね	4.6	-	外面：指押え 内面：横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰白色	
60-405	4区	西壁Tr	14層	土製品	手捏ね	4.3	4.4	外面：指押え 内面：指押え	細かい砂粒を含む。	良好	暗灰褐色	
60-406	4区	K-29	14層	土製品	手捏ね	6.0	4.0	外面：指押え 内面：ナデ	細かい砂粒を含む。	良好	外：橙褐色 内：黒褐色	
60-407	4区	K-29	14層	土製品	手捏ね	5.2	3.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
60-408	4区	K	14層	土製品	手捏ね	4.8	4.1	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	
60-409	4区	西壁Tr	14層	土製品	手捏ね	4.1	3.6	外面：指押え 内面：指押え	細かい砂粒を含む。	良好	灰白色	一部に黒斑あり。
60-410	4区	K-29	14層	土製品	手捏ね	(3.8)	2.9	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	灰白色	
61-411	4区	K-31	14層	土製品	手捏ね	4.7	3.1	外面：指押え 内面：指押え	細かい石英を含む。	良好	灰褐色	
61-412	4区	南壁Tr2	14層	土製品	手捏ね	(4.4)	3.2	外面：指押え 内面：	細かい砂粒を多く含む。	良好	灰白色	一部に黒斑あり。
61-413	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	4.4	3.1	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	
61-414	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	4.4	3.0	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
61-415	4区	J-31	14層	土製品	手捏ね	-	-	外面：ナデ 内面：	2mm大の石英を含む。	良好	灰褐色	
61-416	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	3.7	2.8	外面：指押え痕 内面：指押え痕	2mm大の石英・長石を含む。	良好	黄灰色	
61-417	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	3.8	2.9	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	
61-418	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	3.0	2.4	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
61-419	4区	K-29	14層	土製品	手捏ね	3.0	2.4	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	
61-420	4区	K-29	14層	土製品	手捏ね	2.4	2.7	外面：指押え痕 内面：指押え痕	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄白色	
61-421	4区	K-31	14層	土製品	手捏ね	-	2.6	外面：指押え 内面：	細かい砂粒を含む。	良好	灰褐色	
61-422	4区	南壁Tr2	14層	土製品	手捏ね	3.1	2.5	外面：指押え 内面：指押え	2mm大の石英を含む。	良好	灰褐色	
61-423	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	2.4	2.9	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	
61-424	4区	南壁Tr2	14層	土製品	手捏ね	3.0	2.4	外面：指押え 内面：指押え	細かい砂粒を含む。	良好	灰褐色	
61-425	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	2.7	2.9	外面：指押え 内面：指押え	3mm大の石英を含む。	普通	灰白色	
61-426	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	2.6	2.8	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	
61-427	4区	J-30	13層	土製品	手捏ね	2.4	2.6	外面：指押え 内面：指押え	4mm大の石英を含む。	良好	灰褐色	
61-428	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	3.2	2.6	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を極僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	
61-429	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	2.5	2.7	外面：指押え 内面：指押え	3mm大の長石を含む。	良好	灰黄色	
61-430	4区	K-30	14層	土製品	手捏ね	3.0	2.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を僅かに含む)。	良好	淡橙白色	
61-431	4区	K-30	14層	土製品	土玉	3.2	2.5	外面：ナデ 内面：	細かい砂粒を含む。	良好	灰白色	
61-432	4区	南壁Tr	14層	土製品	土玉	3.1	2.3	外面：ナデ 内面：	細かい石英他含む。	良好	灰褐色	
61-433	4区	K-29	14層	土製品	土玉	4.1	3.8	外面：ナデ 内面：	2~3mm大の砂粒を含む。	良好	黒褐色	
61-434	4区	K-27	14層	土製品	土玉	4.2	3.7	外面：ナデ 内面：	細かい砂粒を含む。	良好	黄灰色	
61-435	4区	K-31	14層	土製品	不明	-	-	外面：ハケメ 内面：ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	外：淡黄白色 内：灰褐色	両側面に切断痕。端部に孔あり。
61-436	4区	K-26	14層	土製品	支脚	-	-	外面：ケズリ・ナデ 内面：	4mm大の石英を含む。	良好	橙褐色	
61-437	4区	K-31	14層	土製品	支脚	-	-	外面：指押え痕・ナデ 内面：	2~3mm大の石英を含む。	良好	黒褐色	
61-438	4区	K-28	13層	土製品	土鍾	4.5	1.7	外面：ナデ 内面：	細かい砂粒を含む。	普通	灰褐色	
61-439	4区	K-31	13層	土製品	土鍾	3.9	1.3	外面：ナデ 内面：	密	普通	灰褐色	
61-440	4区	K-30	13層	土製品	土鍾	-	1.5	外面：ナデ 内面：	密	良好	淡褐色	
61-441	4区	K-29	13層	土製品	土鍾	3.7	1.1	外面：ナデ 内面：	細かい砂粒を含む。	良好	暗褐色	
61-442	4区	K-31	13層	土製品	土鍾	4.9	1.3	外面：ナデ 内面：	密	良好	暗灰褐色	
61-443	4区	K-31	13層	土製品	土鍾	-	1.3	外面：ナデ 内面：	細かい砂粒を含む。	普通	灰褐色	
61-444	4区	K-31	13層	土製品	土鍾	-	1.5	外面：ナデ 内面：	密	良好	灰褐色	
61-445	4区	K-31	13層	土製品	土鍾	-	1.4	外面：ナデ 内面：	密	普通	灰褐色	
61-446	4区	K-30	13層	須恵器	坏蓋	-	-	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
61-447	4区	南壁Tr2	14層	須恵器	坏蓋	(13.0)	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	
61-448	4区	K-29	13層	須恵器	坏身	(11.1)	-	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	3mm大の石英を含む。	良好	青灰色	
61-449	4区	K-29	14層	須恵器	坏身	(10.5)	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	淡青灰色	外面底面に灰をかぶる。

61-450	4区	K-28 J-28 南壁Tr2	13層 14層	須恵器	高坏	-	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	やや砂粒を含む。	良好	青灰色	坏部内面に灰をかぶる。 4方向に線状の透し孔。
61-451	4区	北壁Tr J-28	14層	須恵器	坏蓋	(15.7)	(3.5)	外面：回転糸切り・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
61-452	4区		13層	須恵器	坏身	12.6	4.0	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	
61-453	4区	L-31	14層	須恵器	坏身	-	-	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
61-454	4区	J-27	14層	須恵器	坏身	-	-	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	
61-455	4区	K-30	14層	須恵器	壺	-	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	明灰色	全面に薄く灰釉。
61-456	4区	J-28	14層	土師器		-	-	外面：単位の細かいミガキ 内面：ミガキ	4mm大の石英を含む。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
61-457	4区	J-30	14層	土師器		-	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
61-458	4区	J-28	14層	土師器	坏	(12.6)	-	外面：ミガキ 内面：ハケメのちミガキか	密	普通	灰褐色	内外面に赤色顔料塗布。
61-459	4区	南壁Tr2		土師器	坏	(12.8)	2.6	外面：回転ナデ・指押え 内面：回転ナデ	密	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
61-460	4区	J-30	13層	土師質 土器	坏	12.0	3.8	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	黄褐色	
61-461	4区	南壁Tr2	14層	土師質 土器	坏	-	-	外面：横ナデ 内面：ケズリのちミガキ	細かい砂粒を含む。	普通	外：黄灰色 内：黒色	
61-462	4区	K-31	13層	製塩土器	焼塩壺	-	-	外面：指押え 内面：横ナデ	粗い(4mm大の黒色・灰色石を含む)。	良好	淡褐色	
61-463	4区	J-30	13層	製塩土器	焼塩壺	-	-	外面：指押え 内面：横ナデ	褐色・淡黒色粒を含む。	良好	淡褐色	
61-464	4区	K-31	13層	製塩土器	焼塩壺	-	-	外面：指押え 内面：横ナデ	褐色粒子を含む。	良好	橙褐色	
61-465	4区	K-31	14層	土師質 土器	台付鉢	29.8	14.1	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	密	普通	黄灰色	
61-466	4区	K-32		土製品	竈	-	-	外面：ハケメ・ケズリ 内面：ケズリ	2mm大の石英他含む。	良好	橙褐色	焚口部周辺被熱により赤褐色化。
69-1	7区	1号土坑	12層 上面	須恵器	坏	16.8	7.9	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密(1mm以下の砂粒を含む)。	やや不良	暗灰色～灰色	外面に重ね焼き痕あり。
69-2	7区	1号土坑	12層 上面	土師器	甕	34.0	-	外面：ハケメ 内面：ハケメ・ケズリ	3mm大までの砂粒含む。	良好	暗灰褐色	外面は全面に煤が付着。
69-3	7区	1号土坑	12層 上面	土師質 土器	坏	-	-	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	2mm大までの石英含む。	良好	淡褐色	
69-4	7区	1号土坑	12層 上面	土師質 土器	坏	-	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	4mm大の石英含む。	良好	灰褐色	足高台。
71-1	7区	3号土坑	12層 上面	白磁	碗	17.1	-	外面： 内面：	密	堅致	白灰色	
71-2	7区	3号土坑	12層 上面	白磁	碗	-	-	外面：削り出し高台 内面：	密(黒色微粒含む)。	堅致	灰白色	
71-3	7区	3号土坑	12層 上面	白磁	碗	-	-	外面： 内面：	密	堅致	白灰色	
71-4	7区	3号土坑	12層 上面	土師質 土器	坏	14.6	5.0	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	灰褐色	
71-5	7区	3号土坑	12層 上面	土師質 土器	皿	9.8	2.3	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	普通	淡褐色	
73-1	7区	4号土坑	12層 上面	須恵器	坏蓋	12.2	4.2	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ・ ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	2mm大の石英含む。	良好	青灰色	「」状ヘラ記号あり。
73-2	7区	4号土坑	12層 上面	土師器	高坏	16.6	-	外面：ハケメ 内面：横ナデ	細かい砂粒多く含む。	普通	淡褐色	坏部内外面に赤色顔料塗布。
73-3	7区	4号土坑	12層 上面	土製品	手捏ね	3.4	2.6	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	
75-1	7区	1号溝	12層 上面	須恵器	坏	-	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	細かい砂粒含む。	良好	青灰色	
75-2	7区	1号溝	12層 上面	須恵器	壺	-	-	外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	内面に灰かぶり。
75-3	7区	1号溝	12層 上面	土師器	坏	-	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	灰褐色	赤色顔料塗布(外面底部にも一部かかる)。
75-4	7区	P.1	12層 上面	土師質 土器	坏	(11.8)	(3.7)	外面：回転ナデ・指押え 内面：回転ナデ	密(一部に小石を含む)。	良好	淡褐色	
75-5	7区	P.1	12層 上面	土師質 土器	坏	-	-	外面：回転ナデ・ 内面：回転糸切り・回転ナデ	密	良好	灰褐色	
77-1	7区	L-46	9層	須恵器	坏蓋	(12.6)	-	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	淡青灰色	
77-2	7区	0-48	9層	須恵器	坏蓋	12.1	4.3	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密(2mm大の砂粒を含む)。	良好	暗青灰色	
77-3	7区	0-48	9層	須恵器	坏身	10.6	4.0	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
77-4	7区	0-46	9層	須恵器	坏身	11.6	3.6	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密(3mm大の石英を含む)。	良好	青灰色	外面底部に自然釉をかぶる。
77-5	7区	N-47	9層	須恵器	坏蓋	13.0	3.2	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	1mm以下の砂粒を含む。	良好	暗青灰色	内外面に重ね焼きの痕跡あり。
77-6	7区	N-47	9層	須恵器	坏蓋	12.3	3.2	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	外面に重ね焼き痕あり。内面に漆付着。
77-7	7区	N-47	9層	須恵器	坏蓋	(14.1)	3.1	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	外面に重ね焼き痕あり。
77-8	7区	M-46	9層	須恵器	坏蓋	15.6	2.8	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	灰黄色	内面に焼成前「X」印のヘラ記号あり。
77-9	7区	0-47	9層	須恵器	坏蓋	(14.4)	2.4	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	暗青灰色	つまみ内に回転糸切り痕僅かに残る。
77-10	7区	M-47	9層	須恵器	坏身	(13.6)	4.3	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	3mm大までの石英多く含む。	良好	青灰色	外面に重ね焼き痕あり。内面に漆付着。
77-11	7区	M-47 N-47	9層	須恵器	坏身	12.1	4.2	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
77-12	7区	0-47	9層	須恵器	坏身	(11.4)	4.1	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	
77-13	7区	0-47	9層	須恵器	坏身	(13.0)	3.9	外面：回転ナデ・ヘラ切り 内面：回転ナデ	密(1mm以下の微細な砂粒を含む)。	良好	灰黄色	外面に重ね焼き痕あり。

77-14	7区	M-47	9層	須恵器	坏身	(12.4)	4.0	外面: 回転ナデ・回転糸切り 内面: 回転ナデ	密	やや不良	淡青灰色	外面に重ね焼き痕あり。
77-15	7区	O-48	9層	須恵器	坏身	(13.0)	4.8	外面: 回転ナデ・回転糸切り 内面: 回転ナデ	密	良好	灰白色	口縁に重ね焼きの痕あり。
77-16	7区	西壁Tr	9層	須恵器	坏身	-	-	外面: 回転糸切り 内面:	密	良好	青灰色	内面に漆付着
77-17	7区	O-47	9層	須恵器	坏身	-	-	外面: 回転ナデ・回転糸切り 内面: 回転ナデ	5mm大の小石含む。	やや甘い	灰白色	
77-18	7区	O-47	9層	須恵器	坏身	13.5	5.4	外面: 回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	密	良好	暗青灰色	
77-19	7区	N-47	9層	須恵器	坏身	(13.6)	(5.4)	外面: 回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
77-20	7区	N-47	9層	須恵器	坏身	-	-	外面: 回転ナデ・静止糸切り 内面: 回転ナデ	密	良好	青灰色	底面に竹管文2つ。
77-21	7区	M-46	9層	須恵器	坏身	(10.4)	4.6	外面: 回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	密	良好	暗灰色	内面に灰をかぶる。
77-22	7区	N-46	9層	須恵器	坏身	-	-	外面: 回転ナデ・回転糸切り 内面: 回転ナデ・ナデ	密	良好	淡青灰色	「十」の墨書あり
77-23	7区	東壁Tr2	9層	須恵器	坏身	-	-	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	墨痕あり。
77-24	7区	O-47	9層	須恵器	坏身	-	-	外面: 回転ナデ・静止糸切り 内面:	密	良好	青灰色	「大」のへら書き文字。
78-25	7区	O-48	9層	須恵器	皿	(18.2)	3.6	外面: 回転ナデ・ヘラ切り痕 内面: 回転ナデ	密	良好	灰色(外面の一部灰黄色)	
78-26	7区	O-48	9層	須恵器	皿	17.7	3.1	外面: 回転ナデ・ヘラ切り痕 内面: 回転ナデ	密	良好	淡青灰色	
78-27	7区	O-47	9層	須恵器	壺	-	-	外面: 回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面: ナデ	密	良好	外: 黄灰色 内: 青灰色	
78-28	7区	L-46	9層	須恵器	高坏	-	-	外面: 回転ナデ・絞り目 内面: ナデ・回転ナデ	密	良好	淡青灰色	
78-29	7区	M-46	9層	須恵器	鉢	(22.8)	-	外面: 内面: 回転ナデ	2~3mm大の砂粒含む。	不良	灰白色	
78-30	7区	L-46	9層	須恵器	壺	-	-	外面: 回転ナデ・タタキのちカキ目 内面: 回転ナデ・同心円状当て具	密	良好	青灰色	
78-31	7区	O-49	9層	須恵器	壺	-	-	外面: 回転ナデ・回転ヘラケズリ・ 静止糸切り 内面: 回転ナデ	密	良好	青灰色	
78-32	7区	北壁Tr	9層	瓦質	皿	-	-	外面: 回転ナデ 内面:	密	良好	外: 暗灰色 内: 灰白色	蛇の目高台。瓦質焼成。
78-33	7区	P-48	9層	龜山系	甃	-	-	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	密	良好	淡青灰色	
78-34	7区	P-48	9層	龜山系	甃	-	-	外面: 格子タタキ 内面: 横ナデ・ナデ	密	良好	暗青灰色	格子辺5~6mm。外面に自然釉。
78-35	7区	P-48	9層	龜山系	甃	-	-	外面: 格子タタキ 内面: あて具痕(ナデ消す)	密	良好	淡青灰色	格子辺3mm。
78-36	7区	P-48	9層	龜山系	甃	-	-	外面: 格子タタキ 内面: 一部あて具痕あり(ナデ消す)	密	良好	暗青灰色	格子辺5~6mm。外面に自然釉。
78-37	7区	P-47	9層	龜山系	甃	-	-	外面: 格子タタキ 内面: あて具痕(ナデ消す)	密	良好	淡青灰色	格子辺4mm。
78-38	7区	P-48	9層	龜山系	甃	-	-	外面: 格子タタキ 内面: ナデ	密	良好	暗青灰色	格子辺6mm。外面に自然釉。
78-39	7区	北壁Tr	9層	龜山系	甃	-	-	外面: 格子タタキ 内面: ハケメ	密	良好	淡青灰色	格子辺3mm。
78-40	7区	P-48	9層	龜山系	甃	-	-	外面: 格子タタキ 内面: ナデ・ハケメ	密	やや甘い	外: 灰白色 内: 淡灰色	格子辺3mm。内面は瓦質気味。
78-41	7区	P-47	9層	龜山系	甃	-	-	外面: 格子タタキ 内面: ナデ	密	良好	暗灰色	格子辺3mm。瓦質焼成。
78-42	7区	P-48	9層	龜山系	甃	-	-	外面: 格子タタキ 内面: あて具痕(ナデ消す)	密	良好	暗青灰色	格子辺5mm。外面に自然釉。
79-43	7区	O-47	9層	土師器	坏	12.2	2.8	外面: 回転ナデ・指圧痕 内面: 回転ナデ	密	良好	灰褐色	内外面に暗褐色顔料塗布。
79-44	7区	O-48	9層	土師器	坏	12.3	3.5	外面: 回転ナデ・ナデ 内面: 回転ナデ・ナデ	密(1mm程度の砂粒を僅かに含む)。	良好	灰白色	底部外面以外に赤色顔料塗布。
79-45	7区	O-48	9層	土師器	坏	(11.3)	(3.3)	外面: 回転ナデ・指圧痕 内面: 回転ナデ・ナデかハケメ	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
79-46	7区	O-48	9層	土師器	坏	(12.4)	3.2	外面: 回転ナデ・ハケメ・指押え 内面: 回転ナデ・ハケメ・ナデ	密(0.5mm以下の砂粒を含む)。	普通	淡褐色	底部外面以外に赤色顔料塗布。
79-47	7区	O-48	9層	土師器	坏	12.7	3.5	外面: 回転ナデ・指頭圧痕 内面: 回転ナデ・ハケメ状の調整	密	普通	灰白色	内外面(底部は一部)に赤色顔料塗布。
79-48	7区	O-48	9層	土師器	坏	11.8	3.3	外面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕 内面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。全体的に歪みが大きい。
79-49	7区	O-48	9層	土師器	坏	12.1	3.5	外面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕 内面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
79-50	7区	O-48	9層	土師器	皿	14.4	2.7	外面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕 内面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面(底部は一部)に赤色顔料塗布。
79-51	7区	O-48	9層	土師器	皿	15.1	2.8	外面: 回転ナデ・指圧痕・ハケメ 内面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	底部外面以外に赤色顔料塗布。
79-52	7区	O-48	9層	土師器	坏	12.1	3.3~3.4	外面: 回転ナデ・指押え 内面: 回転ナデ	密	普通	灰白色	底部外面以外に赤色顔料塗布。
79-53	7区	O-48	9層	土師器	坏	12.2	3.5	外面: 回転ナデ・指押え・ハケメ 内面: 回転ナデ・ハケメ・ナデ	密	普通	淡褐色	内外面(底部は一部)に赤色顔料塗布。
79-54	7区	O-48	9層	土師器	坏	(12.6)	3.3	外面: 回転ナデ・ナデか・指圧痕 内面: 回転ナデ・ナデ	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
79-55	7区	O-48	9層	土師器	坏	12.8	3.5	外面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕 内面: 回転ナデ・ナデ	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	底部外面以外に赤色顔料。全体的に大きく歪む。
79-56	7区	O-48	9層	土師器	坏	12.5	3.7	外面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕 内面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
79-57	7区	O-48	9層	土師器	坏	(13.8)	3.5	外面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕 内面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
79-58	7区	O-48	9層	土師器	坏	12.5	3.3~3.5	外面: 回転ナデ・指押え・ハケメ 内面: 回転ナデ・ナデ・指圧痕	密	普通	灰白色	底部外面以外に赤色顔料塗布。
79-59	7区	O-48	9層	土師器	坏	12.3	3.3	外面: 回転ナデ・指押え 内面: 回転ナデ・ナデ	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
79-60	7区	O-48	9層	土師器	坏	12.6	3.0~3.2	外面: 回転ナデ・指押え 内面: 回転ナデ・ハケメのちナデ	密	普通	淡褐色	内外面赤色顔料(外面底部は一部)。

79-61	7区	0-48	9層	土師器	坏	13.0	3.1	外面：回転ナデ・ナデ・指圧痕 内面：回転ナデ・ナデ	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
79-62	7区	0-48	9層	土師器	皿	13.5	2.9	外面：回転ナデ・ナデ・指圧痕・ハケメ 内面：回転ナデ・ナデ・指圧痕	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
79-63	7区	0-48	9層	土師器	皿	13.9	2.5	外面：回転ナデ・ハケメのちナデ 内面：回転ナデ・ナデ・指圧痕	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面赤色顔料(外面底部は一部)。大きく歪む。
79-64	7区	0-48	9層	土師器	皿	14.1	2.4	外面：回転ナデ・指押え 内面：回転ナデ・ハケメ・ナデ	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	淡黄灰色	内外面赤色顔料(外面底部は一部)。
79-65	7区	0-48	9層	土師器	皿	13.8	2.2	外面：回転ナデ・ナデ・指圧痕 内面：回転ナデ・ナデ・指圧痕	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面に赤色顔料塗布。
79-66	7区	0-48	9層	土師器	皿	14.0	2.5~2.7	外面：回転ナデ・指押えのち幅の狭い工具でナデる 内面：回転ナデ・ハケメ	密	普通	淡褐色	内外面に赤色顔料塗布。
79-67	7区	0-48	9層	土師器	皿	(16.4)	2.9	外面：回転ナデ・指圧痕 内面：回転ナデ・ナデ・ハケメ	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	内外面赤色顔料(外面底部は一部)。全体的に歪む。
79-68	7区	0-47	9層	土師質土器	坏	12.6	3.8	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	普通	灰褐色	
79-69	7区	N-46	9層	土師質土器	坏	-	-	外面：回転ナデ・回転糸切り(粗い) 内面：回転ナデ	2mm大の長石含む。	良好	淡褐色	足高台付。
79-70	7区	0-48	9層	土師質土器	坏	-	-	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密(1mm程度の砂粒を少量含む)。	良好	灰白色	足高台付。
79-71	7区	北壁Tr 0-47	9層 13層	土師器	甕	(28.0)	-	外面：ナデ・指頭圧痕・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	やや粗め、1~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	淡橙色	
79-72	7区	0-46 P-46	9層	土師器	甕	(18.4)	16.4	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	端部に孔あり。
79-73	7区	N-47	9層	土師器	高坏	9.0	4.6	外面：ナデ 内面：ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	底面一部に黒斑あり。
79-74	7区	L-46	9層	土師器	高坏	-	-	外面：ナデか・横ナデ 内面：横ナデ	密(1mm大の砂粒を含む)。	良好	灰白色	外面に赤色顔料塗布。
79-75	7区	L-46	9層	土師器	柱状高台付皿	-	-	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	普通	暗灰褐色	
80-76	7区	P-46	9層	製塩土器	焼塩壺	(11.0)	-	外面：指圧痕 内面：横ナデ	密	良好	淡褐色	
80-77	7区	M-46	9層	製塩土器	焼塩壺	(9.9)	-	外面：指押え 内面：横ナデ	1mm以下の砂粒を多く含む。	普通	淡褐色	
80-78	7区	0-46	9層	製塩土器	焼塩壺	(9.4)	-	外面：指押え 内面：横ナデ	密	普通	淡褐色	
80-79	7区	0-48	9層	製塩土器	焼塩壺	(7.0)	-	外面：指押え 内面：横ナデ	密	良好	橙褐色	
80-80	7区	M-46	9層	製塩土器	焼塩壺	(10.6)	-	外面：指押え 内面：横ナデ	密	良好	灰褐色	
80-81	7区	南壁Tr	9層	製塩土器	焼塩壺	(10.8)	-	外面：指押え 内面：横ナデ	8mm大までの小石多く含む。	普通	淡褐色	
80-82	7区	M-47	9層	製塩土器	焼塩壺	(8.3)	-	外面：指押え 内面：横ナデ	4mm大の小石含む。	良好	淡褐色	
80-83	7区	北壁Tr2	9層	製塩土器	焼塩壺	(7.9)	-	外面：指押え 内面：横ナデ	密	良好	暗褐色	
80-84	7区	0-47	9層	製塩土器	焼塩壺	(9.9)	-	外面：指圧痕 内面：横ナデ	密	普通	灰褐色	
80-85	7区	N-47	9層	製塩土器	焼塩壺	(7.0)	-	外面：指押え 内面：横ナデ	密	良好	灰褐色	
80-86	7区	L-46	9層	土製品	支脚	-	-	外面：ナデ 内面：ケズリのち粗くミガキ	2~3mm大の砂粒含む。	良好	灰褐色	「T」字形に孔をあける。
80-87	7区	M-47	9層	土製品	支脚	-	-	外面：ケズリのちナデ 内面：	やや粗い(白色粒・黒雲母片を含む)。	良好	淡灰褐色	右側面に黒斑あり。底部付近は被熱、赤褐色化。
80-88	7区	M-46	9層	土製品	手捏ね	7.0	5.0	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm程度の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
80-89	7区	L-46	9層	土製品	手捏ね	-	-	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	普通	暗黄灰色	
80-90	7区	L-46	9層	土製品	手捏ね	2.0	2.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	指のまわりに粘土を押えて成形。
80-91	7区	0-46	9層	土製品	手捏ね	6.2	2.9	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	灰褐色	
80-92	7区	L-46	9層	土製品	手捏ね	4.5	3.0	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡褐色	
80-93	7区	南壁Tr	9層	土製品	手捏ね	3.5	(2.9)	外面：ナデと指押え 内面：ナデ	密(微細な砂粒を含む)。	良好	灰褐色	
80-94	7区	M-47	9層	土製品	手捏ね	2.4	3.0	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	指のまわりに粘土を押えて成形。
80-95	7区	N-47	9層	土製品	土馬	-	-	外面： 内面：	密(3mm大の石英含む)。	良好	淡青灰色	須恵質土馬。
80-96	7区	M-46	9層	土製品	土馬	-	-	外面：ナデ 内面：	2~3mm大の石英含む。	良好	淡褐色	土師質土馬。
80-97	7区	P-48	9層	土製品	土鍾	-	-	外面： 内面：	密	良好	灰褐色	重さ200g。
80-98	7区	P-48	9層	土製品	土鍾	-	-	外面： 内面：	2mm大の石英含む。	普通	淡褐色	重さ120g。
85-1	7区	0-46	12層	須恵器	坏蓋	(13.2)	4.6	外面：回転ナデ・浅い回転ヘラケズリ 内面：リ・ヘラ起し痕 回転ナデ・ナデ	密(1~3mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡青灰色	口縁焼成時の歪みあり。
85-2	7区	N-46	12層	須恵器	坏蓋	12.5	4.0	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	内面に灰をかぶる。
85-3	7区	0-46	12層	須恵器	坏身	(11.8)	3.8	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ	密(1mm程度の砂粒を少量含む)。	良好	暗青灰色	外面に自然釉かかる。
85-4	7区	0-46	12層	須恵器	坏身	(9.6)	3.9	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	青灰色	外面底部に線状の擦痕。
85-5	7区	N-47	12層	須恵器	坏身	10.9	13.9	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	外：紫灰色 内：暗青灰色	
85-6	7区	N-46	12層	須恵器	坏身	10.5	4.0	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	「X」印のヘラ記号。
85-7	7区	N-46	13層	須恵器	坏身	11.6	4.0~4.3	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ	密	良好	暗青灰色	焼成時の気泡あり。
85-8	7区	N-46	13層	須恵器	坏身	10.6	3.6	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	外：暗青灰色 内：暗灰色	
85-9	7区	N-46	13層	須恵器	高坏	11.8	5.0~5.8	外面： 内面：	密	良好	淡青灰色	外面底部に灰をかぶる。

85-10	7区	N-46	13層	須恵器	高坏	10.6	6.4~6.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	淡青灰色	脚部内面から外面に灰かぶり。
85-11	7区	N-46	13層	須恵器	高坏	14.5	9.4~9.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	暗青灰色	坏内面に灰かぶり。重ね焼きの痕跡。三角形透し孔と線状透し孔あり。
85-12	7区	N-46	13層	須恵器	高坏	15.7	13.1	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	7mm大の小石含む。	やや甘い	淡青灰色	線状の透し孔1ヶ所。
85-13	7区	N-46	13層	須恵器	高坏	10.2	11.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	2方向、2段に透し孔。坏部内面に自然釉。
85-14	7区	O-46	12層	須恵器	高坏	(16.4)	10.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密(白色の微砂粒を多く含む)。	やや不良	暗青灰色	坏部内面に重ね焼きの痕跡、径10.0cm。2方向に三角形と線状透し孔。
85-15	7区	N-46	13層	土師器	坏	(12.8)	(3.7)	外面：回転ナデ・指圧痕 内面：回転ナデ	密	良好	灰白色	外面底部以外に赤色顔料塗布。
85-16	7区	N-46	13層	土師器	坏	15.6	3.9	外面：横ナデ・ヘラ切り状の痕跡 内面：横ナデ・ナデ	4mm大の石英含む。	普通	橙褐色	外面底部を含め全面赤色顔料塗布。
85-17	7区	O-46	13層	土師器	坏	(14.0)	3.7	外面：ナデ・ケズリ 内面：ナデ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡褐色	内外面に全面赤色顔料塗布。
85-18	7区	N-46	13層	土師器	高坏	(16.8)	-	外面：ミガキか 内面：横ナデ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡褐色	
85-19	7区	O-46	12層	土師器	高坏	-	-	外面：横ナデ・ナデ・指頭圧痕 内面：ケズリか	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	灰褐色	外面・坏部内面に赤色顔料塗布。
85-20	7区	N-46	13層	土師器	高坏	-	-	外面：ケズリのちナデか・横ナデ 内面：ケズリ・横ナデ	密(2mm以上の砂粒を含む)。	良好	灰白色	
85-21	7区	O-46	12層	土製品	手捏ね	8.0	7.7	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	灰褐色	内外面に全面赤色顔料塗布。
85-22	7区	N-46	13層	土師器	手捏ね	7.0	4.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡茶褐色	
85-23	7区	N-47	13層	土製品	手捏ね	4.4	3.5	外面：ナデ 内面：ナデ	密(白色の微砂粒を少量含む)。	良好	灰褐色	
85-24	7区	N-46	13層	土製品	手捏ね	6.0	4.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
86-28	7区	O-46	13層	土師器	甕	(26.2)	27.5	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ハケメ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	暗黄色	
86-29	7区	N-46	13層	土師器	甕	25.0	28.7	外面：横ナデ・ハケメのちナデ・ミガキ 内面：横ナデ・ケズリ・ナデ	やや粗い(3mm以下の石英粒等を含む)。	良好	灰白色~淡黄褐色	外面底部に煤が付着。外面胴部一部は被熱して赤変。
86-30	7区	O-46	13層	土師器	甕	31.0	32.9	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリのちナデ・ミガキ	密(4mm以下の石英粒・黒雲母を含む)。	普通	灰褐色	外面に黒斑あり。円孔は2孔が1対となり、対面する。
86-31	7区	O-46	13層	土師器	甕	28.9	23.6	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(2mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰褐色	端部に孔1つだけ残る。
86-32	7区	O-46	13層	土師器	甕	17.0	23.8	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm以下の石英粒、白色粒を含む。	良好	灰褐色	側面に開口部あり。
87-33	7区	O-46	12層	土製品	甕	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	3mm大の石英含む。	良好	灰褐色	底に煤付着。
87-34	7区	N-46	13層	土製品	甕	-	-	外面：ケズリ 内面：ケズリ	5mm大までの砂粒含む。	良好	灰褐色	
87-35	7区	N-46	13層	土製品	支脚	-	15.3	外面：ナデ・ケズリ 内面：ナデ	密(1mm程度の砂粒を少量含む)。	良好	灰褐色	
87-36	7区	N-46	13層	土製品	支脚	-	17.5	外面：ナデ・ケズリ 内面：ナデ	2~3mm大の石英含む。	良好	灰褐色	
89-1	7区	P-48	12層	須恵器	坏蓋	13.6	4.9	外面：回転ナデ・浅い回転ヘラケズリ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	粗い(8mm大までの小石を多く含む)。	良好	暗青灰色	外面頂部に「 」ヘラ記号あり。
89-2	7区	M-46	12層	須恵器	坏蓋	12.2	4.3~4.5	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
89-3	7区	M-46	12層	須恵器	坏蓋	(12.0)	3.6	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	2mm大の石英含む。	良好	青灰色	
89-4	7区	N-47	12層	須恵器	坏蓋	11.8	3.7	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	淡青灰色	
89-5	7区	M-46	12層	須恵器	坏身	11.7	4.1	外面：回転ナデ・浅い回転ヘラケズリ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密(2mm大の石英含む)。	良好	外：青灰色 内：紫灰色	
89-6	7区	N-46	12層	須恵器	坏身	11.3	4.8~4.9	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	淡青灰色	
89-7	7区	P-48	12層	須恵器	坏身	11.2	4.5	外面：回転ナデ・ヘラ起しのちナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
89-8	7区	L-46	13層	須恵器	高坏	14.0	-	外面：回転ナデ・浅いケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	4mm大の石英含む。	良好	青灰色	
89-9	7区	M-46	12層	須恵器	高坏	-	-	外面：回転ナデ・ケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	暗青灰色	
89-10	7区	L-46	12層	須恵器	高坏	(12.8)	9.4	外面：回転ナデ・カキメ 内面：回転ナデ・ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	濃青灰色	3方向に三角形透し孔。
89-11	7区	L-46	13層	須恵器	直口壺	11.2	16.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	2mm大の砂粒含む。	良好	青灰色	外面一部に僅かに灰をかぶる。
89-12	7区	N-46	12層	須恵器	坏蓋	(16.8)	3.4	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	青灰色	
89-13	7区	N-46	12層	須恵器	坏蓋	8.4	2.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	外：暗青灰色 内：緑灰色	外面自然釉がかかる。
89-14	7区	M-46	12層	須恵器	坏蓋	(13.8)	2.5	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	灰色	外面に灰かぶり。重ね焼きの痕あり。
89-15	7区	N-46	12層	須恵器	坏蓋	(16.6)	2.9	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	灰色	
89-16	7区	O-46	12層上面	須恵器	坏蓋	-	-	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	密(1mm以下の細かい砂粒を含む)。	良好	灰色	
89-17	7区	L-46	12層	須恵器	坏	15.4	4.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	暗青灰色	内面底部に「X」、底部に「 」のヘラ記号あり。
89-18	7区	P-48	12層	須恵器	坏	14.6	3.8	外面：回転ナデ・ヘラ切りのち回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	暗青灰色	
89-19	7区	L-46	12層	須恵器	壺	-	-	外面：浅いケズリ・回転系切ぎ痕 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	
89-20	7区	O-45, 46	12層	土師器	坏	(14.6)	7.4	外面：横ナデ・ハケメのちナデ 内面：横ナデ・ナデ	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	底部外面を除く内外面に赤色顔料塗布。
89-21	7区	L-46	12層	須恵器	皿	(18.1)	3.1	外面：回転ナデ・ヘラ切り 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	
89-22	7区	M-46	12層	須恵器	盤	(24.4)	3.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密	やや甘い	灰白色	
90-23	7区		13層	弥生土器	甕	(23.6)	-	外面：横ナデか 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	外面と内面一部に煤付着。

90-24	7区	M-46	13層	弥生土器	高坏	-	-	外面：ミガキ・横ナデか 内面：ケズリ	やや粗い(2mm大の砂粒を含む)。	良好	黒褐色	
90-25	7区	N-46	13層	弥生土器	壺	(21.2)	-	外面：横ナデ・ハケメか 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の微細な砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	口縁外面の一部に黒斑あり。
90-26	7区	M-46	13層	土師器	壺	(20.0)	-	外面：横ナデか 内面：横ナデ・ナデか	密(1mm大の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	口縁内面に黒斑あり。
90-27	7区	M-46	13層	土師器	甕	(17.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	密	良好	淡灰色	
90-28	7区	L-46	13層	土師器	甕	12.1	9.7	外面：ナデか・ハケメ 内面：ナデ・ケズリ	やや粗い(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色～淡赤褐色	
90-29	7区	L-46	13層	土師器	鼓形器台	(21.5)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡褐色	外面の一部に黒斑あり。
90-30	7区		13層	土師器	高坏	(13.1)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキか	密(1.5mm大の砂粒を含む)。	良好	灰白色	円板充填(中央に孔あり)。
90-31	7区	L-46	13層	土師器	低脚坏	(14.8)	4.7	外面： 内面：ミガキ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡褐色	
90-32	7区	L-46	13層	土師器	小形丸底壺	(15.0)	-	外面： 内面：ケズリか	やや粗い(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	外：灰白色 内：淡黄褐色	
90-33	7区	P-48 北東GR	13層	土師器	小形丸底壺	(6.4)	7.4	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡褐色	
90-34	7区	O-46	13層	土師器	小形丸底壺	8.1	(7.7)	外面：横ナデ・指押え 内面：横ナデ・ナデ	やや粗い(5mm以上の小石を含む)。	良好	灰白色	外面に赤色顔料塗布か。
90-35	7区		13層	土製品	手捏ね	7.6	5.3	外面：ケズリ・ナデ 内面：ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰褐色	
90-36	7区	M-47	12層	土師器	高坏	(16.2)	10.9	外面：ハケメのち横ナデ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	明赤褐色	
90-37	7区	東壁Tr1	13層	土師器	高坏	17.5	-	外面：ハケメのちナデか 内面：ナデか(ハケメ一部残る)	密(微細な砂粒を多く含む)。	良好	外：灰白色 内：黄褐色	外面の一部に黒斑。口縁外面に放射状のシワあり。
90-38	7区	O-46	12層	土師器	高坏	-	-	外面：横ナデ 内面：	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡褐色～橙色	
90-39	7区		13層	土師器	坏	(12.9)	4.8	外面：横ナデ・ヘラ切り 内面：横ナデ	密(微細な砂粒を含む)。	良好	にぶい黄褐色	
90-40	7区	M-46	12層	土師器	坏	(12.8)	3.4	外面：横ナデ・ナデ・指頭圧痕 内面：横ナデ・ナデ	密(砂粒をほとんど含まない)。	良好	灰白色	底部外面を除き内外面に赤色顔料塗布。
90-41	7区	O-47	12層	土師器	鉢	(17.4)	6.9	外面：ハケメ 内面：ケズリのち粗いミガキ	密(1～2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	外：淡褐色 内：淡灰色	外面に褐色顔料塗布。
90-42	7区	M-47	12層	土師器	鉢	(22.8)	-	外面：横ナデ・ケズリ 内面：横ナデ・ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	明赤褐色	内外面に赤色顔料塗布。
90-43	7区	O-46	12層	製塩土器	焼塩壺	(11.2)	-	外面：指圧痕 内面：横ナデ	密	普通	灰褐色	
90-44	7区	O-46	12層 上面	製塩土器	焼塩壺	(9.7)	-	外面：指圧痕 内面：横ナデ	5mm大の小石含む。	良好	外：灰褐色 内：淡褐色	外面に灰褐色の付着物。
90-45	7区	M-47	12層	土製品	手捏ね	(6.8)	5.6	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡灰褐色	内面黒色付着物あり。
90-46	7区	O-47	13層	土製品	手捏ね	6.2	4.2	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	普通	黒褐色	
90-47	7区	排土	12層	土製品	手捏ね	5.4	5.5	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
90-48	7区	O-47	13層	土製品	手捏ね	7.4	3.7	外面：ナデ・ケズリ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	外：淡褐色 内：淡黄灰色	
90-49	7区	M-47	12層	土製品	手捏ね	5.6	3.6	外面：ナデ 内面：ナデ	密(2mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
90-50	7区		13層	土製品	手捏ね	2.8	3.9	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
90-51	7区	O-46	12層	土製品	手捏ね	(3.8)	2.5	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	暗黄灰色	指を入れて周囲を押圧して成形。
90-52	7区	L-46	12層	土製品	手捏ね	2.5	3.2	外面：ナデ 内面：ヘラで挟り取る	密(白色の微砂粒を少量含む)。	良好	黒褐色	
90-53	7区	L-46	12層	土製品	不明	-	-	外面：ケズリ 内面：	4mm大の石英含む。	普通	淡灰褐色	
91-54	7区	L-46	12層	土師器	甕	31.6	(25.4)	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリのちナデか	やや粗い(2mm以下の赤褐色粒、金雲母・黒雲母を含む)。	良好	淡黄褐色	底部外面被熱、煤付着。
91-55	7区	P-48	12層	土師器	甕	21.8	28.0	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・ナデ	3mm以下の石英粒を多く含む。	良好	灰褐色	
91-56	7区	L-46	12層	土師器	甕	(27.6)	18.2	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリのちナデ	密(1～3mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	端部孔1つのみ遺存。
91-57	7区	O-46	13層	土師器	鉢	(26.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ハケメ・ナデ・ケズリ・ミガキ	密(1～3mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡褐色	
91-58	7区	L-46	13層	土製品	支脚	-	-	外面：ナデ 内面：	3mm大の石英含む。	良好	灰褐色	外面一部淡褐色に被熱。
94-1	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	高坏	20.0	13.5	外面：ハケメ・ナデ・ミガキ・横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	4方向に円形透し孔。円板充填(脚内面に圧延する)。
94-2	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	高坏	(22.6)	-	外面：横ナデ・ケズリのちミガキ 内面：横ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
94-3	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	高坏	(20.0)	-	外面： 内面：	密(白色の微砂粒を少量含む)。	良好	褐色	円板充填。
94-4	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	高坏	17.1	-	外面：横ナデ・ナデ・ミガキ 内面：ケズリ	やや砂粒は少ない。金雲母含む。	良好	にぶい黄褐色	円板充填(充填した粘土を脚内面に圧延する)。
94-5	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	高坏	(18.1)	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ハケメ・ナデか・ケズリ	微砂粒多い。石英・金雲母含む。	良好	灰色	円板充填(充填した粘土を脚内面に圧延する)。
94-6	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面：ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：ハケメ・ナデ・ケズリか	水ごし粘土(砂粒はほとんどない)。	良好	脚：にぶい橙色 環：淡黄褐色	円板充填(充填した粘土を脚内面に圧延する)。
94-7	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	小形丸底壺	9.2	11.2	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ハケメのちナデ・ケズリ	密(1.5mm以下の砂粒を含む)。	良好	黄灰色～澄褐色	外面に煤が付着。
94-8	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	小形丸底壺	8.4	8.2	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大までの砂粒を多く含む。	普通	灰褐色	
94-9	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	小形丸底壺	9.8	11.7	外面：ナデ・ハケメ 内面：ハケメのちナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を含む)。	良好	黄灰色～褐色	外面に黒斑あり。
94-10	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	甕	16.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	3mm以下の砂粒、黄灰色粘土粒含む。	普通	淡黄灰色	
94-11	7区	1号竪穴	14層 上面	土師器	甕	-	-	外面：ハケメ 内面：ナデ・指押え・ケズリ	3mm大の石英含む。	良好	暗黄褐色	外面一部に煤が付着。内面に黒色付着物。
94-12	7区	1号竪穴	14層 上面	土製品	不明	-	-	外面：ケズリ 内面：	2mm大の砂粒含む。	良好	灰褐色	

97-1	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	高坏	(19.6)	-	外面:ケズリ、ミガキ、ハケメ 内面:横ナデのちナデ	かなり細かく密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡橙色	内外面に赤色顔料塗布。
97-2	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	高坏	-	-	外面:ミガキか 内面:ケズリ、ハケメ	4mm大までの石英含む。	普通	淡橙褐色	3方に円形透し孔あり。
97-3	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	高坏	(19.6)	-	外面:ナデ・ハケメ 内面:ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	粘土充填痕。
97-4	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	高坏	19.6	-	外面:ハケメのちナデ 内面:ハケメのちナデ	微砂粒やや少ない。石英・金雲母含む。	良好	淡黄褐色	
97-5	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	高坏	(20.4)	-	外面:ナデのちミガキ・ハケメ 内面:ハケメのちナデか	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡灰褐色	円板充填(孔あり)。
97-6	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	坏	(13.3)	5.2	外面:ナデ・ケズリ 内面:ハケメ・ナデか	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡橙色	
97-7	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	甕	(10.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(微砂粒~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡灰褐色	
97-8	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	直口壺	(12.8)	-	外面:ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡橙褐色	
99-9	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	直口壺	(12.0)	-	外面:ハケメ・ナデ ハケメ・ナデ・ケズリ・ナデ 内面:指頭圧痕	1~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	灰褐色~黒褐色	
99-10	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	甕	(15.1)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:ハケメ・ナデ・ケズリ	2mm以下の砂粒、石英を含む。	良好	外:にぶい黄褐色 内:橙色	外面に黒斑あり。
99-11	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	甕	(12.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	粗い(3mm大の石英含む)。	良好	暗褐色	
99-12	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	甕	(17.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	2mm大までの砂粒含む。	良好	灰白色	
99-13	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	甕	(16.4)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰褐色	外面一部に煤付着。
99-14	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	甕	(13.6)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	3mm大の石英含む。	良好	淡黄褐色	
99-15	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	甕	(16.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大の砂粒、白色粘土粒含む。	良好	淡黄褐色	
99-16	7区	2号竪穴	14層上面	土師器	甕	16.5	26.3	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を含む)。	普通	淡褐色	
101-1	7区	3号溝	14層上面	須恵器	坏身	(11.4)	3.8	外面:回転ナデ・ヘラ起し痕 内面:回転ナデ・ナデ	密(1mm以下の微細な白色砂粒を含む)。	良好	青灰色	焼き歪み著しい。
101-2	7区	3号溝	14層上面	須恵器	坏身	10.6	-	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密	良好	青灰色	
101-3	7区	3号溝	14層上面	土師器	高坏	-	-	外面:ミガキ 内面:ケズリ・ハケメ	2mm大の石英含む。	良好	灰褐色	
101-4	7区	3号溝	14層上面	土師器	小形丸底壺	(8.6)	9.5	外面:ナデ・ハケメ 内面:ナデ・ケズリ・ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡橙褐色	外面に黒斑あり。
101-5	7区	4号溝	14層上面	土師器	甕	(10.8)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	2mm大までの雲母含む。	良好	淡灰褐色	
106-1	7区	N-47 5号溝	14層上面	土師器	甕	(20.4)	34.9	外面:横ナデ・ハケメ・ナデ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	外面ほぼ全体に煤付着。
106-2	7区	M-47 5号溝	14層上面	弥生土器	甕	(21.0)	32.9	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	外面に黒斑あり。
106-3	7区	N-47 5号溝	14層上面	土師器	甕	16.6	26.2	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	口縁の一部に黒斑あり。 内面底部に有機物付着。
106-4	7区	M-47 5号溝	14層上面	土師器	甕	18.1	27.9	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の微細粒を多く含む)。	良好	灰白色	口縁部に黒斑あり。
106-5	7区	N-46 5号溝	14層上面	土師器	甕	(17.6)	32.6	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指押え	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色 (一部橙色)	外面全体、内面底部に煤が 付着。
106-6	7区	N-46 0-46 5号溝	14層上面	弥生土器	甕	19.0	28.9	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	3mm大の砂粒含む。	良好	灰白色~ 淡黄色	外面下半に煤付着。
107-7	7区	M-47 5号溝	14層上面	弥生土器	甕	12.5	15.8	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指押え	細かい砂粒・金雲母含む。	普通	灰白色~ 黒褐色	外面底部に煤が付着。
107-8	7区	M-47 5号溝	14層上面	弥生土器	甕	15.0	16.6	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ・指圧痕	1~2mm大の石英、1mmの 金雲母を含む。	良好	淡黄色	外面下半、口縁内面に煤付 着。
107-9	7区	N-46 5号溝	14層上面	弥生土器	甕	15.5	23.7	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・指押え・ケズリ	1mm大の砂粒多く含む。	普通	灰白色	外面下半に煤付着。
107-10	7区	N-46 5号溝	14層上面	土師器	甕	(12.8)	17.8	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	普通	淡黄灰色	胴部に焼成後外側から内側 へ穿孔。
107-11	7区	M-47 5号溝	14層上面	土師器	甕	13.3	16.3	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ・指頭圧痕	細かい金雲母・石英含む。	普通	灰白色	
107-12	7区	N-46 5号溝	14層上面	土師器	甕	16.4	21.8	外面:ハケメ 内面:ケズリ・指圧痕	やや粗い(1mm以下の砂粒を含む)。	不良	黄白色~ 赤褐色	外面下半に煤付着。
107-13	7区	N-46 5号溝	14層上面	土師器	甕	15.5	19.2	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・ナデ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	内外面の下半に煤付着。
107-14	7区	0-46 5号溝	14層上面	弥生土器	甕	14.6	23.4	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指押え	4mm大までの小石含む。	普通	淡黄色	胴部外面下半に煤付着。焼 成後、径5mmの穿孔。
107-15	7区	N-47 5号溝	14層上面	弥生土器	甕	13.6	19.0	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指押え	細かい雲母・石英含む。	良好	灰白色	外面下半に煤付着。焼成後、 外側から穿孔。
107-16	7区	N-47 5号溝	14層上面	弥生土器	甕	15.8	22.4	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指押え	密(1mm以下の雲母含む)。	良好	淡黄色	外面下半に煤付着。
107-17	7区	0-46 5号溝	14層上面	弥生土器	甕	17.9	28.4	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指圧痕	細かい雲母・石英含む。	良好	灰白色~淡黄色	胴部下半と内面下半に黒色 付着物あり。
107-18	7区	N-47 5号溝	14層上面	土師器	甕	(14.6)	20.1	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	1~2mm大の砂粒を少量 含む。	良好	灰褐色	胴部下半に煤付着。焼成後 径7mmの穿孔。
107-19	7区	N-46 5号溝	14層上面	土師器	甕	13.1	17.7	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・指頭圧痕・ケズリ	密(1~2mm程度の砂粒 を含む)。	普通	淡黄色~灰白色	
107-20	7区	N-46 5号溝	14層上面	土師器	甕	14.0	14.5	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ・指押え	2~3mm大の石英、細かい 雲母を含む。	普通	黄灰色	
108-21	7区	M-47 5号溝	14層上面	土師器	甕	(17.2)	25.7	外面:ナデ・ハケメ 内面:ナデ・指圧痕・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	外面下半に黒斑あり。一部 表面が剥離する。
108-22	7区	N-47 5号溝	14層上面	土師器	甕	16.5	22.1	外面:横ナデ・ハケメ・ナデか 内面:横ナデ・ケズリ・指押え	金雲母・長石等細かい 砂粒含む。	普通	灰白色	
108-23	7区	N-46 5号溝	14層上面	土師器	甕	13.9	20.3	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・指頭圧痕・ケズリ	細かい石英・金雲母含 む。	普通	灰白色~黒褐色	胴部外面下半に煤付着。
108-24	7区	N-46 0-46 5号溝	14層上面	土師器	甕	(14.8)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指押え	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	胴部外面下半に煤付着。
108-25	7区	N-46 5号溝	14層上面	弥生土器	甕	14.3	22.4	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・指押え	細かい金雲母・石英含 む。	普通	灰白色	胴部外面下半に煤付着。
108-26	7区	N-46 5号溝	14層上面	土師器	甕	17.2	26.8	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	胴部外面下半に煤付着。 口縁の一部に黒斑あり。

108-27	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.0	20.0	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	外面に黒斑あり。
108-28	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	-	-	外面：ハケメ・ナデ 内面：ケズリ・指頭圧痕	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	普通	淡黄白色	外面下半に煤付着。
108-29	7区	M-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(14.6)	22.3	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	外面全体、内面底部に煤付着。
108-30	7区	N-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	17.4	26.9	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	密(1mm以上の砂粒を含む)。	普通	灰白色	外面下半に煤付着。
108-31	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(16.7)	27.8	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の微砂粒を含む)。	良好	灰白色	外面下半に煤付着。
108-32	7区	N-46 0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	14.0	17.1	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・ナデ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	普通	淡黄白色	外面下半に煤付着。
109-33	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	17.8	25.5	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ・指圧痕	密	良好	淡黄色	
109-34	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(18.4)	26.3	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	普通	淡黄灰色	
109-35	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	12.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の白色砂粒を含む)。	良好	淡褐色	
109-36	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	16.0	23.9	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	石英・雲母含む。	良好	灰白色	
109-37	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(17.4)	25.7	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
109-38	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	15.4	-	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	普通	淡黄色	外面・内面ともに煤が全体的に付着。
109-39	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.2	22.0	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄色	胴部下半に穿孔。
109-40	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	17.0	24.6	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・ナデ・指押え	密(白い微砂粒を多く含む、2~3mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡褐色	胴部下半に煤付着。
109-41	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	16.6	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ・指押え	密(2mm大の砂粒を含む)。	良好	灰白色	
109-42	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.0)	22.9	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	普通	淡黄灰色	胴部外面下半に煤付着。痕跡的平底。
109-43	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大までの石英を多く含む。	普通	淡黄色(一部淡褐色)	外面下半に煤付着。
109-44	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(17.8)	27.4	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	外面下半に煤付着。
110-45	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	17.1	26.5	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の微細粒を多く含む)。	良好	灰白色	外面下半に煤付着。
110-46	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(16.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・ナデ・指頭圧痕	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
110-47	7区	M-47 5号溝 東壁片	14層 上面	土師器	甕	(16.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄褐色	一部に表面が径4cmの円形に剥離したところがあり。
110-48	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	15.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	3mm大の石英・雲母を含む。	良好	淡灰白色	外面下半に煤付着。
110-49	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	16.2	-	外面：横ナデ・不規則なハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の石英を多く含む)。	良好	灰白色	口縁の一部に黒斑あり。外面下半に煤付着。
110-50	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.6	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
110-51	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.2)	21.5	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡褐色	外面下半に黒斑あり。胎土中に褐色粒子を含む。
110-52	7区	M-47 5号溝 東壁片	14層 上面	土師器	甕	(13.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	外面に黒斑・煤付着。
110-53	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(16.8)	26.2	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
110-54	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	16.0	18.4	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指圧痕	細かい雲母・石英含む。	普通	淡黄灰色	内面底部までケズリが入り、指圧痕あまり残らない。
110-55	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(17.4)	13.1	外面：ミガキ・ハケメ・ナデ 内面：ミガキ・ケズリ・指押え	4mm大の石英、1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	淡黄色	外面下半に黒斑あり。
110-56	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	15.8	16.4	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・ナデ・指頭圧痕	密	良好	淡黄色	外面下半から口縁一部に黒斑あり。
110-57	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.0	16.0	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	3mm大の石英を含む。	普通	灰白色~黄褐色	
111-58	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	褐色~灰褐色	外面下半に黒斑あり。
111-59	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	17.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	3mm大の石英、細かい雲母を含む。	良好	淡黄色	外面胴部下半に黒斑・煤あり。
111-60	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	13.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を含む)。	良好	淡黄灰色	胴部下半に煤付着。
111-61	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(17.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
111-62	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	13.4	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指圧痕	細かい石英・雲母含む。	普通	淡黄褐色	外面下半に煤付着。
111-63	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.3	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を含む)。	良好	灰白色	胴部下半中心に煤付着。
111-64	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(17.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	1~5mm程度の砂粒を含む。	良好	灰白色	外面一部に煤付着。
111-65	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	16.2	8.4	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(細かい雲母・石英含む)。	良好	表：淡黄色 断：灰白色	
111-66	7区	N-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	15.4	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母含む。	やや不良	淡黄色	
111-67	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(14.0)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
111-68	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	15.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
111-69	7区	M-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	19.6	7.5	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を含む)。	普通	表：灰黄色 断：灰色	
111-70	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	11.6	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	1.5mm以下の砂粒を含む。	良好	淡黄褐色	外面下半に煤付着。
111-71	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.6	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	細かい雲母・石英含む。	不良	灰白色	
111-72	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	17.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	1~2mm大の砂粒を多く含む。	普通	淡黄色	口縁外面に黒斑あり。
111-73	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(14.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	やや粗い(1~2mm大の砂粒を含む)。	普通	淡褐色	

111-74	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(17.2)	-	外面:ナデ・ハケメ 内面:ナデ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)	普通	淡黄色	
111-75	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	18.4	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白色	
111-76	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(16.4)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)	良好	灰白色	
111-77	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を少量含む)	良好	淡黄白色	
111-78	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.2	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	1~2mm大の砂粒、雲母、石英を含む	普通	淡黄色	
111-79	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	10.0	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:ミガキ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡橙褐色	
111-80	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(13.2)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・指頭瓦痕・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄灰色	
111-81	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	25.2	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄灰色	
111-82	7区	N-47 5号溝 サブトレ	14層 上面	弥生土器	甕	(15.2)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄褐色	
112-83	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(17.6)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)	普通	淡黄灰色	
112-84	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	13.5	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母含む	良好	灰白色~ 黒褐色	肩部から胸部全面に煤付着。 胎土中に木炭含む。
112-85	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(13.6)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)	良好	淡黄灰色	
112-86	7区	N-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(15.2)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	灰白色	外面下半に煤付着。
112-87	7区	N-46 0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(16.6)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の微砂粒を多く含む)	良好	灰白色	
112-88	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(14.4)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)	良好	橙色	外面に赤褐色顔料塗布。
112-89	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	19.0	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	細かい石英含む	良好	淡黄色	外面一部に黒斑あり。
112-90	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(17.7)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	細かい雲母・石英含む	良好	淡灰褐色	
112-91	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.2)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)	良好	淡黄白色	
112-92	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(14.4)	-	外面:ナデ・ハケメ 内面:ナデ・ケズリ・指頭瓦痕	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	普通	淡黄灰色	
112-93	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	15.4	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大の砂粒を含む	普通	淡黄色	胸部下半に煤付着。
112-94	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	19.8	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)	良好	灰白色	外面下半に煤付着。
112-95	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	12.8	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大までの白色砂を含む	普通	淡黄褐色	
112-96	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	17.5	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ケズリ	2mm大の砂粒を含む	良好	淡黄色(一部淡 褐色)	
112-97	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(18.0)	-	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)	良好	淡黄色	口縁一部に黒斑あり。
112-98	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	15.8	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大までの砂粒を含む	良好	黄褐色	
112-99	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	15.0	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)	良好	淡黄色	外面下半に黒斑あり。
112-100	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.2)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄灰色	
113-101	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(19.2)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ・粗いナデ・指 頭瓦痕	密(1mm程度の砂粒を多く含む)	良好	淡黄色	外面に黒斑あり。
113-102	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(26.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリのちハケメ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)	普通	淡橙褐色	
113-103	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	17.4	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ・指瓦痕	3mm大までの石英を含む	良好	外:灰白色 内:黄灰色	外面下半に煤付着
113-104	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	26.8	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大までの石英を含む	やや 不良	淡黄色~黒褐色	
113-105	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.8)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒、白色土含む)	良好	淡褐色	外面、口縁と胸部下半に煤付着。
113-106	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	19.0	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	1mm以下の微砂粒を多く含む	普通	灰白色	
113-107	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	17.3	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	2~3mm大の石英・雲母を含む	良好	淡黄色	胸部下半に煤付着。
113-108	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	17.6	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄灰色	
113-109	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	13.4	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	2mm以下の砂粒、灰色粘土粒を含む	良好	淡黄褐色	
113-110	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	16.6	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄灰色	外面下半に煤付着。
113-111	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.6)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄灰色	
113-112	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(16.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	暗灰褐色	外面に黒斑あり。
113-113	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ・ナデ 内面:横ナデ・ケズリか	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)	良好	淡黄灰色	外面全体に煤付着。
113-114	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(16.8)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)	良好	淡黄色	
113-115	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	16.5	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	3mm大の石英を含む	良好	淡褐色	
114-116	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.8	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	2mm以下の砂粒を含む	良好	淡黄白色	
114-117	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	18.0	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	密(1mm程度の白色砂粒を多く含む)	良好	灰白色	胸部の一部に煤付着。
114-118	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	16.1	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の微細粒を多く含む)	良好	灰白色	外面の胸部以外に煤付着。
114-119	7区	M-47 N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(16.0)	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)	良好	淡黄灰色	
114-120	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	16.7	-	外面:横ナデ・ハケメ 内面:横ナデ・ナデ・ケズリ・指頭瓦痕	密(1~2mm大の砂粒を含む)	普通	淡黄色	外面下半と内面底部に黒色の 付着物あり。

114-121	7区	5号溝	14層 上面	土師器	甕	16.4	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄橙色	
114-122	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(18.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	普通	暗灰白色	
114-123	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(27.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリのちミガキ	密(微砂粒を多く含む)。	普通	淡橙白色	
114-124	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(12.8)	-	外面：横ナデか 内面：横ナデか・ナデ・ケズリ	密(1~2mmの砂粒を黄白色土粒含む)。	普通	淡黄白色	
114-125	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	15.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	口縁の一部に黒斑あり。
114-126	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(17.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の微細粒を含む)。	良好	灰白色	口縁に黒斑あり。
114-127	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	29.8	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ミガキ・ナデ	密(1mm以下の砂粒を含む)。		灰白色	
114-128	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(30.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
114-129	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(24.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
115-130	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(26.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ	密(微砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
115-131	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	18.5	-	外面：横ナデ 内面：ミガキ・ケズリ	密(1mm程度の微砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
115-132	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(19.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・指押え・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
115-133	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	17.4	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・指頭圧痕・ケズリ	金雲母を含む。	良好	黄灰色	
115-134	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(14.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
115-135	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(13.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	普通	淡黄灰色	
115-136	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	29.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を含む)。	良好	淡黄色	外面全体に煤付着。
115-137	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	36.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ・指圧痕	密(3mm程度の白色砂粒を少量含む)。	良好	淡灰白色	
115-138	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	30.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指圧痕・ケズリのちハケメ	1~2mm大の砂粒を多く含む。	普通	淡黄色	外面下半に黒斑あり。
115-139	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(13.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・指押え・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	口縁外面の一部に黒斑あり。
115-140	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(10.2)	-	外面：横ナデか 内面：横ナデか・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	胎土中に白色粘土粒含む。
115-141	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(10.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の微細粒を多く含む)。	良好	灰白色	
116-142	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	10.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密	普通	淡黄色~灰白色	
116-143	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	10.2	15.0	外面：横ナデ・ハケメ・指頭圧痕 内面：横ナデ・指頭圧痕・ケズリ	密	良好	淡黄色	外面下半に煤付着。
116-144	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	12.2	14.0	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	普通	淡黄色(一部淡橙色)	内面に全体にわたり煤付着。
116-145	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	11.0	-	外面：ナデ 内面：ナデ・指圧痕・ケズリ	1~2mm大の砂粒を多く含む。	普通	灰白色	
116-146	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(12.6)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を含む)。	良好	灰白色	
116-147	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	9.2	12.2	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・ナデ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
116-148	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(7.2)	-	外面：ハケメ 内面：ハケメ・ケズリ・指押え	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
116-149	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	-	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	やや粗い(1~2mm大の砂粒を多い)。	良好	淡黄白色	
116-150	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(18.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mmの砂粒・黄白色粘土粒を含む)。	良好	淡黄白色	
116-151	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.2	11.5	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	2mm以下の砂粒を多く含む。	普通	淡黄橙色	外面に薄い黒斑あり。
116-152	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
116-153	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	18.3	23.4	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	胴部外面に焼成後内面から穿孔される。
116-154	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(17.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄橙色	外面一部に煤付着。
116-155	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	19.2	17.7	外面：横ナデ・ハケメのちミガキ・ケズリ 内面：横ナデ・ケズリ・ミガキ	3mm大の石英を含む。	良好	灰褐色	
116-156	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	18.2	20.0	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1mm程度の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	内面は黒灰色、外面はほぼ全体胴部より上が黒灰色。
116-157	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	脚付甕	22.7	28.0	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ・ハケメ	2~3mm大の石英他含む。	普通	淡黄灰色	外面一部に淡い黒斑あり。
116-158	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	脚付甕	13.0	15.0	外面：横ナデ・ミガキ・粗いハケメ 内面：横ナデ・ミガキ・ケズリ・ナデ	金雲母・石英等、細かい砂粒含む。	良好	淡灰黄色	口縁~頸部の一部に黒斑あり。
116-159	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	脚付甕	18.8	10.8	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・横ナデ	細かい石英を多く含む。	普通	灰白色	口縁~胴部外面の一部に黒斑あり。
116-160	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	脚付甕	-	-	外面：横ナデ・ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	外面はほぼ全体、内面上部に煤付着。
116-161	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	脚付甕	-	-	外面：ハケメ・ミガキ・横ナデ 内面：ケズリ・ミガキ・ナデか	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	暗黄橙色	
117-162	7区	N-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(26.4)	21.6	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・ナデか	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	内外面ともに煤付着。
117-163	7区	N-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	17.4	24.3	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	2~3mm大の砂粒含む。	良好	黄橙色~灰白色	外面に黒斑あり。
117-164	7区	M-47 N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	12.7	19.2	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	2mm大までの長石を含む。	良好	橙褐色	底部に焼成後穿孔。下半部に黒斑あり。
117-165	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.0	15.5	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	密(1~2mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄橙色~灰白色	外面下半に煤付着。
117-166	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	15.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大までの石英を多く含む。	普通	灰白色	
117-167	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(14.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	橙色~灰白色	

117-168	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	13.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm大までの雲母・石英 を含む。	普通	灰白色	
117-169	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	12.6	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2mm以下の砂粒を含む。	良好	淡黄褐色	外面下半に煤付着。
117-170	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(17.8)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・指頭圧痕・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多 く含む)。	良好	淡黄灰色	
117-171	7区	M-47 5号溝 東壁Tr	14層 上面	土師器	甕	(14.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡赤橙色	
117-172	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(19.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の微細粒を 多く含む)。	良好	灰白色	一部に煤付着。
117-173	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.3	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	2~3mm大の砂粒を多く 含む。	良好	灰褐色	
117-174	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	14.4	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	密(1mm以下の砂粒を備 かに含む)。	良好	淡黄灰色	
117-175	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の微砂粒を 多く含む)。	良好	灰白色	外面下半に煤付着。
117-176	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(14.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多 く含む)。	良好	淡黄白色	
117-177	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(17.0)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	石英・金雲母を含む。	良好	淡黄色	
117-178	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	-	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメか	2mm大までの茶色粒を 含む。	普通	外：灰褐色 内：黄褐色	
117-179	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(19.5)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ	4mm大の石英を含む。	普通	黄灰色	口縁内面端部に一部赤色顔 料残る。
117-180	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	底部	-	-	外面：ハケメのちナデか 内面：ハケメ・指頭圧痕	密(微細な砂粒を多く 含む)。	良好	灰白色	外面一部に黒斑あり。
117-181	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	-	-	外面：粗いミガキ 内面：	密(1mm以下の砂粒を多 く含む)。	普通	外：淡褐色 内：淡灰色	外面に黒斑あり。
117-182	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	13.9	-	外面：横ナデ・ハケメのちミガキ 内面：ミガキか・ハケメ・ケズリ	3mm大の小石を含む。	良好	淡黄色	外面に黒斑あり。
118-183	7区	N-46 0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(19.0)	33.1	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押えのち ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多 く含む)。	良好	淡黄白色	内外面底部に煤付着。焼成 後外面から穿孔。
118-184	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	23.2	36.3	外面：ハケメ 内面：ナデ・ケズリ・指押え	2~3mm大の石英含む。	普通	灰白色~淡黄色	
118-185	7区	M-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	壺	(18.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	やや粗い(1mm以下の砂 粒を少量含む)。	普通	淡黄白色	
118-186	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	壺	19.6	37.5	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	密	良好	淡黄色(一部淡 赤褐色)	外面に煤付着。
118-187	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	19.3	31.3	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ・指押え	密(1~2mm大の砂粒を 多く含む)。	良好	淡黄色	
118-188	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	25.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	2mm程度の白色砂粒を 少量含む。	良好	淡黄色	外面一部に煤付着。
119-189	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	壺	(21.6)	(33.0)	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を 多く含む)。	良好	淡黄灰色	
119-190	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(22.6)	-	外面：ナデ 内面：ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を 多く含む)。	良好	淡黄色	
119-191	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(24.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多 く含む)。	良好	淡黄色	口縁の一部に黒斑あり。
119-192	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(25.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多 く含む)。	良好	淡黄灰色	
119-193	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	22.0	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	2mm大までの砂粒を多 く含む。	普通	灰白色	
119-194	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(19.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄白色	
119-195	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(21.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を含 む)。	良好	灰白色	
119-196	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(24.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
119-197	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	-	-	外面：ハケメ 内面：ハケメのちナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を少 量含む)。	良好	淡黄色	
119-198	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	壺	(16.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を 少量含む)。	良好	淡黄色	
119-199	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(19.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の微細粒を 多く含む)。	良好	灰白色	
119-200	7区	N-46, 47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	16.2	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・指押えのちケズリ	密(1~2mm大の砂粒を 多く含む)。	良好	淡黄色	
119-201	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(20.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ミガキか・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	灰白色	
119-202	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(20.0)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ	密(微砂粒を僅かに含 む)。	良好	外：灰白色 内：淡黄褐色	
120-203	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	20.8	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の白色砂粒 を多く含む)。	普通	淡黄色	口縁一部に煤付着。
120-204	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	15.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を 多く含む)。	良好	淡黄色	
120-205	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(10.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を含 む)。	良好	外：一部橙色 内：灰白色	
120-206	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	11.4	17.9	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・指押え	1mm大の砂粒を含む。	普通	灰白色	
120-207	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	注口	18.0	-	外面：横ナデ・ミガキ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ・ナデ	密(微砂粒を多く含む)。	普通	淡黄灰色	
120-208	7区	N-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	注口	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ	密	良好	明褐色	
120-209	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(20.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：粗い横ナデ・ケズリ	1~2mm大の石英・雲母 を含む。	良好	灰白色	
120-210	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	17.8	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	4mm大の石英を含む。	普通	外：赤褐色 内：灰白色	
120-211	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(12.8)	-	外面：ナデ・ハケメ 内面：ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を 多く含む)。	良好	淡黄色	
120-212	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(11.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の微細粒を 多く含む)。	良好	灰白色(一部淡 褐色)	
120-213	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(19.0)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	
120-214	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(16.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	6mm大の小石を含む。	良好	灰黄色	肩部外面一部に黒斑あり。

120-215	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	13.6	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	外面一部に黒斑あり。
120-216	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(15.6)	-	外面：ハケメ・ナデ 内面：ナデ・指押え・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	外面下半に煤付着。
121-217	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(28.4)	-	外面：横ナデ・ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	内面・外面一部に煤付着。
121-218	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(29.1)	-	外面：横ナデ・ハケメ(一部ミガキ) 内面：横ナデ・ナデ	細かい雲母・石英を含む。	良好	淡黄色~灰白色	口縁一部に黒斑あり。
121-219	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	25.6	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を含む)。	良好	灰白色	口縁内面に黒斑あり。
121-220	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(28.1)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	細かい雲母を含む。	良好	灰褐色	内面黒色を呈す。
121-221	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(27.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	口縁内面一部に黒斑あり。
121-222	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(26.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄白色	
121-223	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(26.2)	-	外面：横ナデ・ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	普通	淡灰褐色	口縁内面黒色を呈す。
121-224	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(22.0)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	普通	淡黄白色	
121-225	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(27.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・指頭丘痕・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	口縁内面全体を煤がおおっている。
121-226	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(23.9)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡黄褐色	
121-227	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(23.9)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ	2mm大の石英を含む。	良好	黒褐色~灰褐色	口縁と外面は黒褐色。
121-228	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	24.7	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	密(1mm程度の雲母・石英を含む)。	良好	淡黄色~灰白色	
122-229	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	36.0	74.7	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・ケズリ	5mm大の小石を含む。	普通	褐色~ 灰褐色	外面一部に黒斑あり。
122-230	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	-	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ	2mm大石英・雲母を含む。	良好	黄灰色	
122-231	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	10.8	30.3	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・指押え・ケズリ	5mm大までの小石を含む。	良好	灰白色~淡黄色	外面肩部に黒斑あり。
122-232	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	(17.8)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄褐色	
122-233	7区	M-47 5号溝 東壁Tr	14層 上面	土師器	壺	(28.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメのちナデ・指頭丘痕	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄白色	
122-234	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	36.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ	3mm大の石英を含む。	良好	淡黄色	
122-235	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(37.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ	密(細かい石英・雲母を含む)。	良好	灰白色	
122-236	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	27.3	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(3mm以上の砂粒を含む)。	良好	灰白色	口縁・胴部の一部に黒斑あり。
122-237	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	壺	37.0	-	外面：横ナデ・ミガキ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ハケメのちミガキ・ケズリ	細かい雲母・石英を含む。	良好	灰白色	外面胴部下半に黒斑あり。
122-238	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	壺	-	-	外面：ハケメ 内面：ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
123-239	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	(12.0)	14.7	外面：ミガキ・ハケメ・横ナデ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	円板充填(中央に刺突痕)。
123-240	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	23.4	15.7	外面：ナデか・ハケメ・ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ	密(白い微細粒を多く含む。2mm程度の砂粒を少し含む)。	良好	淡黄白色	円板充填(中央に刺突痕)。
123-241	7区	O-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	高坏	(24.4)	15.5	外面：ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	円板充填(中央に刺突痕)。
123-242	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	(21.5)	18.8	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ・横ナデ	細かい砂粒を含む。	良好	淡黄色	円板充填(中央に刺突痕)。
123-243	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	(20.6)	13.5	外面：ケズリ・ミガキ・ハケメ 内面：ハケメ・ミガキ・ケズリ・ナデ・横ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄褐色	円板充填(中央に刺突痕)。
123-244	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	(19.4)	13.5	外面：ナデ・ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ・ナデ	密(1~3mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	円板充填(中央に刺突痕)。
123-245	7区	M-47 5号溝 東壁Tr	14層 上面	土師器	高坏	(17.0)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	脚部に3方向に円形透し孔。外面に黒斑あり。円板充填(刺突痕2つ)。
123-246	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：ケズリ・ハケメ	密	普通	淡黄色	円板充填(中央に刺突痕)。
123-247	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ケズリ・ハケメ	細かい石英・雲母を含む。	良好	淡黄色	4方向に円形透し孔。粘土充填。
123-248	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：ケズリ・ハケメ	密	良好	淡黄色	円形透し孔2孔。
123-249	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメ・ミガキ・横ナデ 内面：ケズリ・ハケメのちナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
123-250	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ・ハケメ	細かい雲母・石英を含む。	普通	淡灰褐色	円形透し孔。
123-251	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	坏部の孔に脚を接合。脚の中心に粘土板充填。
123-252	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	高坏	26.3	-	外面：粗いミガキ 内面：丁寧なミガキ	金雲母を含む。	良好	黄灰色	外面を中心に黒斑あり。円板充填(中央に刺突痕)。
123-253	7区	M-47 5号溝 東壁Tr	14層 上面	土師器	高坏	(20.1)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密(1mm以下の微細な砂粒を含む)。	良好	灰白色	円板充填(中央に刺突痕)。
123-254	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	22.6	-	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ	細かい石英・雲母を含む。	普通	淡褐色	円板充填(中央に刺突痕)。
123-255	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	(23.8)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密(1~2mm大の砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	円板充填(中央に刺突痕)。
123-256	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	19.8	-	外面：横ナデ 内面：ミガキ	1~2mm大の砂粒を多く含む。	普通	淡黄色	
123-257	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	22.6	-	外面：粗いミガキ 内面：ミガキ	6mm大の小石を含む。	不良	淡赤褐色	
123-258	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面：ナデ 内面：ケズリ	2~3mm大の石英を含む。	良好	橙褐色	3方向に円形透し孔。上面焼成前穿孔(径5mm)。
123-259	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面： 内面：	3mm大の砂粒を含む。	不良	淡褐色~暗灰褐色	3方向に円形透し孔。上面焼成前穿孔(径4mm)。

123-260	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	坏	18.4	4.4	外面：ミガキ 内面：ナデカ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	ぶい赤褐色	外面に黒斑あり。
123-261	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	坏	16.6	-	外面：ハケメ・ミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・ケズリ	密(7mm程度の小石を含む)。	良好	淡黄色(一部赤みがかる)	
123-262	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	坏	12.8	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ミガキ	密(1mm以下の砂粒を含む)。	良好	淡黄灰色	
123-263	7区	5号溝	14層 上面	土師器	坏	(12.1)	-	外面： 内面：ミガキカ	細かい石英を多く含む。	不良	外：淡黄白色 内：淡黒褐色	
123-264	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	坏	13.1	-	外面：ミガキカ 内面：ケズリのちミガキ	白色粘土・石英を含む。	普通	灰白色	
123-265	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	小形丸底壺	(10.6)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密(僅かに雲母を含む)。	良好	灰白色	外面一部に黒斑あり。
123-266	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	小形丸底壺	11.4	-	外面：ハケメ 内面：	細かい石英・雲母を含む。	やや不良	灰白色	
123-267	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	小形丸底壺	13.6	4.9	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ハケメのちミガキ	密(1mm程度の白色砂粒、金色砂粒を含む)。	良好	淡黄色	
124-268	7区	N-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	低脚坏	(23.6)	8.0	外面：ハケメのちミガキ・ナデ 内面：ハケメ・ミガキ・ナデ・ケズリ	密(白い微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	外面一部に黒斑あり。
124-269	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	16.7	5.7	外面：ミガキ・横ナデ 内面：横ナデ・ミガキ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	外：淡褐色 内：淡黄色	
124-270	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	17.6	5.2	外面：ミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	密	普通	灰白色	外面口縁に黒斑あり。
124-271	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	21.0	5.6	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	細かい砂粒を多く含む。	良好	灰白色	
124-272	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	19.4	7.0	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・ケズリ・横ナデ	細かい石英・雲母を含む。	良好	灰褐色	口縁部に黒斑あり。
124-273	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	18.2	5.8	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	密(白い微砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	口縁の一部に黒斑あり。
124-274	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	19.7	6.0	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：横ナデ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
124-275	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	18.7	5.4	外面：ハケメのちミガキ・指押え 内面：ミガキ・横ナデ	密(2mm程度の砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄白色	
124-276	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	18.4	4.8	外面：ミガキ・横ナデ 内面：丁寧なミガキ・横ナデ	細かい石英を含む。	普通	淡黄褐色	
124-277	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	16.8	5.3	外面：粗いミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	細かい石英を含む。	普通	黄褐色	
124-278	7区	M-47 5号溝 東壁Tr	14層 上面	土師器	低脚坏	(18.5)	5.7	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ハケメのちミガキ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
124-279	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	19.2	-	外面：ハケメ・ミガキ・ナデ 内面：ミガキ	密(微砂粒を多く含む)。	良好	淡褐色～灰白色	内外面に黒斑あり。膜剥離面にハケメがある。
124-280	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	低脚坏	(23.0)	-	外面：ミガキ・横ナデ 内面：ミガキ	密(1mm以下の砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	
124-281	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	(19.8)	-	外面： 内面：ハケメのちミガキカ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄白色	
124-282	7区	O-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	低脚坏	(22.8)	-	外面：細かいミガキ 内面：ミガキ・ハケメ(一部)	密(微細な砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
124-283	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	21.8	-	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	細かい雲母を含む。	良好	灰白色	
124-284	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	-	-	外面：横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	2mm大の砂粒を含む。	普通	淡褐色	外面と坏部内面に淡褐色顔料塗布カ。
124-285	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	17.0	-	外面：ミガキ・ハケメ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	細かい雲母・石英を含む。	良好	淡黄色	
124-286	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	16.0	8.4	外面：ハケメのちミガキ・ナデ 内面：ミガキ・ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄褐色	口縁に黒色付着物あり。
124-287	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	(15.2)	6.6	外面：ナデ・ハケメのち粗いミガキ 内面：ミガキ・ナデ	密(1～2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡褐色	脚部に2孔あり。
124-288	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	14.4	8.2	外面：ミガキ・横ナデ・指押え 内面：ケズリのちミガキ・横ナデ・指押え	密(白い微砂粒を多く含む。1～2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	
124-289	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	14.0	7.2	外面：ミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	密(1～2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	外：淡黄色 内：淡黄褐色	
124-290	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	(11.6)	6.8	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ケズリカ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
124-291	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	16.8	5.6	外面：粗いミガキ・横ナデ 内面：ケズリのちナデ・ミガキ	密(2mm程度の白色砂粒を含む)。	良好	淡黄灰色 (一部黄褐色)	
124-292	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	16.0	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：放射状の線状痕のちミガキ・指押え	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色 (一部褐色)	
124-293	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	(14.6)	-	外面：横ナデ・粗いミガキ 内面：ミガキ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄白色	
124-294	7区	M-47 5号溝 東壁Tr	14層 上面	土師器	低脚坏	(13.5)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密(2mm程度の砂粒を含む)。	良好	灰白色	坏底部に、脚を接続するための刺突痕あり。
124-295	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	-	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄白色	
124-296	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	-	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・しぼり	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	
124-297	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	-	3.4	外面：横ナデ 内面：ミガキ・ナデ・ケズリ・横ナデ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
124-298	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	-	-	外面：横ナデ 内面：ミガキカ・ナデ・横ナデ	やや粗い(2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	灰褐色	
124-299	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	12.7	5.3	外面：ミガキ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	密	良好	淡黄褐色(一部淡赤褐色)	
124-300	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	(12.8)	4.4	外面： 内面：	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
124-301	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	11.1	4.6	外面：ハケメのちミガキ・横ナデ 内面：ミガキカ・横ナデ	密(1mm大の砂粒を含む)。	良好	外：淡黄白色 内：灰白色	外面の一部に煤付着。
124-302	7区	O-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	(11.2)	4.8	外面：横ナデ・ハケメのちミガキ・指押え 内面：ケズリのちミガキ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	
124-303	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	(12.4)	5.4	外面：ミガキ・横ナデ 内面：ミガキカ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
124-304	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚坏	11.0	4.1	外面：ミガキ・ハケメ・横ナデ 内面：ミガキ・横ナデ	密(微砂粒を極僅かに含む)。	良好	淡黄色	

124-305	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚环	11.0	4.7	外面:ミガキ・横ナデ 内面:ケズリのちミガキ・横ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄色	
124-306	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	低脚环	11.0	4.3	外面:ミガキ・横ナデ 内面:ミガキ・横ナデ	密(微砂粒を少量含む)。	良好	淡黄褐色	
124-307	7区	5号溝	14層 上面	土師器	低脚环	-	-	外面: 内面:ケズリ・横ナデ	密	良好	淡黄灰色	
124-308	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	低脚环	-	-	外面:横ナデのちミガキ 内面:ミガキか・横ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄白色	
124-309	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	高环	(28.8)	-	外面:粗いミガキ 内面:ミガキ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
124-310	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	高环	28.0	-	外面:ナデ・ミガキ 内面:ミガキ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	外:淡黄色 内:暗黄色	
124-311	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	高环	-	-	外面:ミガキ・ハケメ・ナデ 内面:ケズリ・ハケメ・指頭圧痕	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	脚上面擬口縁(接合用のキザミあり)。
124-312	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	高环	-	-	外面:ハケメ・ミガキ・横ナデ 内面:ケズリ・ハケメのちナデ	密(1~2mm大の砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄白色	脚上面擬口縁。
124-313	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高环	-	-	外面:ハケメのちミガキ 内面:ケズリ・ハケメ	密(1mm以下の砂粒を含む)。	良好	淡黄灰色	
125-314	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	26.0	13.3	外面:ミガキ 内面:ミガキ・ケズリ	密(2mm以下の砂粒を含む)。	普通	淡黄灰色~淡赤褐色	
125-315	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	25.0	12.2	外面:ミガキ・横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	密(2mm以下の砂粒を含む)。	普通	橙褐色	
125-316	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	12.6	6.5	外面:ミガキ・横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密	良好	黄灰色	脚部に円形透し孔(焼成後穿孔)。
125-317	7区	N-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	鼓形器台	23.4	14.0	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	2~3mm大の石英・雲母を含む。	やや不良	淡褐色	
125-318	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	23.8	12.4	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	2.5mm以下の砂粒を含む。	良好	淡黄色	
125-319	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	16.4	8.5	外面:強い横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	3mm大の石英を含む。	良好	淡灰白色	一部に黒斑あり。
125-320	7区	N-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	鼓形器台	21.7	12.9	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	普通	灰白色	
125-321	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	21.8	12.4	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	2mm以下の砂粒を多く含む。	普通	淡黄灰色	
125-322	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	16.0	8.7	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	4mm大までの砂粒を含む。	普通	灰白色	
125-323	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	23.8	12.1	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
125-324	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	22.1	12.4	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
125-325	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	17.8	9.0	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
125-326	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	21.5	12.3	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	2mm大の石英・雲母を含む。	普通	黄灰色	外面一部に黒斑あり。
125-327	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	(22.3)	12.6	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	
125-328	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	18.9	9.3	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	細かい石英を多く含む。	普通	灰白色	
125-329	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	20.6	12.8	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	1~2mm大の石英・雲母を含む。	良好	淡黄色	
125-330	7区	N-46, 47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	21.8	12.0	外面:横ナデ 内面:横ナデ・ミガキ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	
125-331	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	20.2	10.8	外面:強いナデ(特に上部) 内面:ミガキ・ケズリ・ナデ	2~3mm大の石英・雲母を含む。	普通	淡橙褐色~灰白色	
125-332	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	(21.0)	17.0	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密(1mm程度の砂粒を含む)。	良好	淡橙褐色	
125-333	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	20.8	10.4	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	1~3mm大の砂粒を含む。 雲母を含む。	良好	淡黄色	
125-334	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	20.2	10.3	外面:横ナデ 内面:ミガキか・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄褐色	
126-335	7区	5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	22.0	12.6	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	白色粘土・石英・雲母を含む。	良好	淡黄灰色	
126-336	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	(20.4)	10.8	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ナデ・ケズリ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
126-337	7区	M-47 5号溝 東壁Tr	14層 上面	土師器	鼓形器台	(20.6)	10.8	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄灰色	
126-338	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	(21.0)	10.6	外面:横ナデ 内面:ハケメ・ミガキ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	
126-339	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密(1~2mm大雲母・石英を少量含む)。	良好	淡黄色	
126-340	7区	N-46, 47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	24.2	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む。	普通	淡黄色	
126-341	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	19.4	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ	密(2mm以下の砂粒を含む)。	良好	暗黄褐色	
126-342	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	橙褐色	
126-343	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	普通	淡黄白色	
126-344	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ 内面:ケズリ・横ナデ	2~3mm大の石英・雲母を含む。	やや不良	灰白色	
126-345	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ 内面:ケズリ・横ナデ	1~2mm程度の砂粒を多く含む。	普通	淡黄色	
126-346	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鼓形器台	-	-	外面:横ナデ・ミガキ 内面:ミガキ・ケズリ・横ナデ	1mm大の石英他多く含む。	良好	淡黄色	脚台部に円形透し孔8つ。
126-347	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高环	12.3	9.6	外面:横ナデ・ミガキ・ハケメ 内面:ミガキ・ケズリ・ハケメ・指押	細かい雲母を含む。	普通	淡灰褐色	円板充填(中央に刺突痕)。
126-348	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高环	13.5	9.2	外面:ミガキ・ハケメ 内面:ミガキ・ケズリ・ハケメ・指押	密(1mm以下の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	4方向に円形透し孔。粘土充填。
126-349	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高环	-	-	外面:ミガキ 内面:ケズリ・ハケメ	4mm大までの石英を含む。	普通	淡黄褐色	4方向に円形透し孔。円板充填(中央に刺突痕)。
126-350	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高环	16.8	-	外面:ミガキ・ハケメ 内面:ミガキ・ケズリ	密(1~2mmの雲母・石英を少量含む)。	普通	淡黄色	
126-351	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高环	14.2	-	外面:ミガキ 内面:ミガキ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄色	粘土充填。

126-352	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	12.1	-	外面：横ナデか 内面：ミガキ	2mm大の石英を含む	良好	淡黄色	
126-353	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	(10.2)	-	外面：横ナデ・ケズリ・ナデか 内面：横ナデ・ミガキ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)	良好	淡黄白色	
126-354	7区	N-46, 47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：ケズリ・ハケメ・指頭圧痕	2mm大の砂粒を含む	良好	黄褐色	4方向に円形透し孔。
126-355	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	器台	11.5	10.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ	密(1mm以下の雲母を含む)	良好	淡黄色	3方向に円形透し孔。
126-356	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	器台	8.9	8.1	外面：横ナデ・粗いミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・横ナデ	密だが、細かい砂粒を僅かに含む	良好	橙褐色	3方向に円形透し孔
126-357	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	器台	(9.8)	-	外面：横ナデ・ミガキ 内面：ナデ・ケズリ・ハケメ	1~2mm大の砂粒を多く含む	普通	淡黄灰色~灰褐色	
126-358	7区	0-46	14層 上面	弥生土器	器台	(10.3)	-	外面：ナデ・ハケメ・ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ・ナデか	やや粗い(1mm大の砂粒を多く含む)	良好	にぶい橙色	端部が擬口縁となる。
126-359	7区	N-46 0-46 5号溝	14層 上面	土師器	器台	11.0	-	外面：強いナデ・ミガキ 内面：ケズリ・ナデ	2mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡黄灰色	器受部内面黒変。
126-360	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	鉢	(33.8)	-	外面：横ナデ・ミガキ 内面：横ナデ・ケズリのちミガキ	密(白い微砂粒を少量含む)	良好	暗黄灰色	
126-361	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	無頸壺	12.0	-	外面：横ナデ・ケズリ 内面：横ナデ・ケズリ	1mm大の石英・雲母を含む	良好	黄灰色	内面と外面下半に黒斑あり。
126-362	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	漆壺	9.4	9.1	外面：横ナデ・ナデ 内面：横ナデ・ナデ・しぼり	密(1mm以下の砂粒を少量含む)	良好	淡黄色	底部粘土充填痕あり。
126-363	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	(脚部)	-	-	外面： 内面：ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	外：暗黄色 内：淡赤褐色	焼成前線刻。
126-364	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土師器	器台	-	-	外面：ハケメのちミガキ 内面：ミガキか・ナデか・ハケメ	密(微砂粒を少量含む)	良好	淡黄白色	脚部に円形穿孔。
126-365	7区	N-47 5号溝	14層 上面	土製品	手捏ね	5.8	4.7	外面：ナデ 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄灰色	
127-366	7区	M-47 5号溝 東壁Tr	14層 上面	土製品	手焙	11.7	15.8	外面：ハケメ・ケズリ 内面：ケズリ・指押え	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄灰色	外面に黒斑あり 擬口縁
127-369	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(13.7)	-	外面：横ナデ・ミガキ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	灰白色	外面全体に煤付着。
127-370	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(19.3)	-	外面： 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)	良好	灰白色	内面の一部と外面全体に煤付着。
127-371	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	-	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	密(微細な砂粒を含む)	良好	外：にぶい橙色 内：灰白色	内面に黒変あり。
127-372	7区	0-46 5号溝	14層 上面	弥生土器	壺	-	-	外面：横ナデ 内面：ナデ	4mm大の石英を含む	良好	淡褐色	
127-373	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(16.6)	-	外面： 内面：横ナデ・ケズリ	密(~2mm大の砂粒を少量含む)	良好	淡黄褐色	
127-374	7区	M-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	壺	16.6	-	外面：粗い横ナデ 内面：横ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	橙褐色	
127-375	7区	N-47 5号溝	14層 上面	弥生土器	甕	(26.7)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm大の砂粒を多く含む)	良好	外：橙褐色 内：灰白色	
127-376	7区	M-47 5号溝 東壁Tr	14層 上面	土師器	小形丸底壺	8.6	8.5	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ハケメ・ナデ	密(微砂粒を少量含む)	良好	淡褐色~灰褐色	
127-377	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	(底部)	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ・ミガキか・ナデか	やや粗い(1mm以下の砂粒を少量含む)	良好	淡黄灰色	焼成後、内外面から穿孔。
127-378	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(13.8)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	粗い(5mm大までの石英他小石を含む)	不良	灰白色	
127-379	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	甕	(15.2)	-	外面：横ナデ・指頭圧痕・ハケメ 内面：横ナデ・ハケメ・指頭圧痕・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄灰色	
127-380	7区	N-46 5号溝	14層 上面	土師器	坏	14.6	5.1	外面：ナデ・ケズリ 内面：ナデ・ケズリ	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	黄灰色~淡黒褐色	外面に黒斑あり。 内面に布疋痕様のもの。
127-381	7区	M-47 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	(15.2)	-	外面： 内面：横ナデ・ハケメ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄褐色	
127-382	7区	0-46 5号溝	14層 上面	土師器	高坏	-	-	外面：ミガキ 内面：ケズリ・指押え	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	橙褐色	粘土充填痕。
130-1	7区	M-46	14層	弥生土器	高坏	(28.0)	-	外面： 内面：	密(微細な砂粒を多く含む)	良好	灰白色	
130-2	7区	M-46	14層	弥生土器	甕	-	-	外面：ナデか 内面：ナデ・ケズリ	密(微細な砂粒を多く含む)	良好	灰白色	外面に煤付着。
130-3	7区	0-48	14層	弥生土器	器台	(13.6)	-	外面：ミガキのちナデ 内面：ミガキ	やや粗い(2mm大の砂粒を含む)	良好	灰白色	口縁の一部に黒斑あり。
130-4	7区	P-48 北東Gr	14層	土師器	甕	(15.6)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄色	
130-5	7区	0-46	14層	土師器	甕	(16.4)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	灰白色	
130-6	7区	M-46	14層	土師器	甕	17.4	29.5	外面：ハケメ 内面：ケズリ・指押え	3mm大までの石英を含む	普通	淡黄灰色	
130-7	7区	M-46	14層	土師器	壺	21.1	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ハケメのち横ナデ・ケズリ	2.5mm以上の砂粒を含む	良好	黄灰色	口縁の一部に黒斑、外面の一部に煤付着。
130-8	7区	0-48	14層	土師器	脚付直口壺	(10.2)	-	外面：横ナデ・ハケメのちミガキ 内面：横ナデ・指頭圧痕・ケズリ	2~3mm大の石英を含む	良好	淡黄灰色	
130-9	7区	0-46	14層	土師器	甕	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ・指頭圧痕	やや粗い(3mm大の砂粒を含む)	良好	灰白色	外面の一部に黒斑あり。
130-10	7区	0-47	14層	土師器	甕	-	-	外面：ハケメ 内面：ケズリ	白色粘土、砂粒を含む	普通	灰褐色	
130-11	7区	0-49	14層	土師器	壺	(15.0)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：ハケメのち横ナデ・指頭圧痕・ケズリ	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白色	
130-12	7区	0-47	14層	土師器	甕	(9.2)	-	外面：タタキ・ハケメ 内面：	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡褐色	
130-13	7区	M-46	14層	弥生土器	注口	-	-	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ナデ	密(微砂粒を少量含む)	良好	淡黄白色	
130-14	7区	M-47 東壁Tr	14層	土師器	高坏	(22.5)	14.0	外面：ミガキ・ハケメ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ	密(1mm程度の砂粒を多く含む)	良好	灰白色	
130-15	7区	N-46	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄色	円板充填(刺突痕あり)。
130-16	7区	N-46	14層	弥生土器	高坏	(27.3)	-	外面：ミガキ 内面：ミガキ・ナデ・ケズリか	密(1mm以下の微細な砂粒を含む)	良好	淡黄色	円板充填(刺突痕2つあり)。
130-17	7区	0-48 P-49	14層	土師器	高坏	(11.6)	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ミガキ・ケズリ・ハケメ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	淡黄白色	

131-18	7区	P-48 北東Gr	14層	土師器	脚付鉢	19.8	-	外面：ミガキ・ハケメのちナデ 内面：ミガキ	細かい雲母・石英を含む。	普通	黄灰色	脚を接合するための刺突痕あり。
131-19	7区	M-46	14層	土師器	低脚坏	(16.2)	8.1	外面：ミガキ・横ナデ 内面：ミガキか・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄灰色	
131-20	7区	M-46	14層	土師器	低脚坏	(13.6)	4.4	外面：ミガキ・横ナデ 内面：ミガキか・横ナデ	密(1mm以下の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
131-21	7区	M-46	14層	土師器	低脚坏	(15.5)	-	外面：ミガキか・ケズリ 内面：ハケメ・ミガキ	密(1mm程度の砂粒を含む)。	良好	灰白色	脚を接合するための刺突痕あり。
131-22	7区	O-46	14層	土師器	坏	15.2	6.3	外面：ナデ 内面：	密(1mm大の砂粒を多く含む)。	良好	外：灰白色 内：浅黄橙色	口縁外面の一部に黒斑あり。
131-23	7区	O-46	14層	土師器	鼓形器台	(22.4)	-	外面：横ナデ 内面：ミガキ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡黄色	
131-24	7区	O-46	14層	土師器	甌	-	-	外面：ハケメのちナデか 内面：ケズリ	やや粗い(2mm大の砂粒を含む)。	良好	灰白色	
131-25	7区	O-46	14層	土師器	甌	-	-	外面：ハケメのちナデ 内面：ケズリ	密(1mm大の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
131-26	7区	O-46	14層	土師器	甌	(13.8)	-	外面：横ナデ 内面：横ナデ	密(1mm大の砂粒を含む)。	良好	灰白色	
131-27	7区	M-46	14層	土師器	甌	(15.5)	-	外面：横ナデ・細かいハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	やや粗い(2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
131-28	7区	0	14層	土師器	甌	(15.2)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	やや粗い(5mm大の小石を含む)。	良好	外：灰白色 内：浅黄橙色	
131-29	7区	O-47	14層	土師器	甌	(12.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ナデ・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	淡黄白色	
131-30	7区	O-48	14層	土師器	甌	(14.4)	-	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	密(白色粘土粒を含む)。	良好	淡黄白色	
131-31	7区	M-47	14層	土師器	甌	-	-	外面：横ナデ・ハケメ・ナデ 内面：横ナデ・ケズリ・指頭圧痕	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	普通	灰褐色	外面下半に煤付着。
131-32	7区	O-46	14層	土師器	小形丸底壺	8.4	8.7	外面：横ナデ・細かいハケメ・ナデ 内面：ミガキのちナデか・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を少量含む)。	良好	淡褐色	外面底部周辺に濃く煤が付着。
131-33	7区	O-46	14層	土師器	(底部)	-	-	外面：ミガキ・ケズリ 内面：ケズリのちミガキ	密(1mm程度の砂粒を含む)。	良好	灰白色	
131-34	7区	O-46	14層	土製品	手捏ね	3.5	3.1	外面：ナデ 内面：ナデ	密(微砂粒を僅かに含む)。	良好	淡黄灰色	
131-35	7区	M-46	14層	土師器	高坏	(16.4)	-	外面：横ナデ・ハケメのちミガキ 内面：ハケメのちミガキか・ケズリ	密(1~2mm大の砂粒を多く含む)。	良好	橙褐色	
131-36	7区	M-46	14層	土師器	高坏	17.5	-	外面：横ナデ・ハケメ(一部ナデ) 内面：横ナデ	密(1mm以下の微細な砂粒を含む)。	良好	黄灰色	内面の一部と外面に黒斑あり。
131-37	7区	M-46	14層	土師器	高坏	-	-	外面：ハケメ・ミガキ 内面：ケズリ・ハケメ	2mm大の石英を含む。	良好	暗赤褐色	
131-38	7区	M-46	14層	土師器	高坏	(18.9)	-	外面：ハケメのち横ナデ 内面：ミガキ(一部ハケメ)	密(1mm未満の微細な砂粒を多く含む)。	良好	灰白色	
131-39	7区	M-46	14層	土製品	土馬	-	-	外面：絞の表現あり 内面：	2mm大の石英を含む。	良好	淡褐色	

中野清水遺跡出土木製品観察表

挿図番号	調査区	出土地点	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	加工・使用状況	樹種
10-11	1区	F-14	9層	折敷	12.5	3.3	0.5	底または蓋板に結合孔が2つ有り、側板を綴じるための榫皮が遺存する。上端・右端は欠損。	スギ
15-8	2区	H-16	9層	不明	31.0	5.9	1.7	半分に折損。上端から7.2cmに長方形の削り込み、上端隅に孔がある。表面に刺突痕。一部焼損。	スギ
26-55	3区	I-24	13層	曲物	16.9	3.7	0.7	底または蓋板。下端部のみ原形を留め、表面に利器痕がある。	ヒノキ
26-56	3区	I-24	14層	曲物	8.9	3.0	0.7	底または蓋板。上端部のみ原形を留める。	ヒノキ
26-57	3区	I-23	13層	曲物	10.5	3.9	0.6	底または蓋板。左半部が欠損。一面は平滑に仕上げるが、反対面は表面が荒れる。	ヒノキ
26-58	3区	I-24	14層	曲物	5.8	2.3	0.5	底または蓋板。上端部のみ原形を留める。下端にも成形痕があり、2次的に利用されたものか。	スギ
26-59	3区	I-23	13層	板材	14.9	3.1	0.6	一面に利器の痕跡が見られる。	スギ
26-60	3区	I-23	13層	不明	8.8	8.6	1.8	下端に径1cmの孔と、半貫通の孔が見られる。	ヒノキ亜科
62-488	4区		13層	不明	12.0	2.3	2.0	両端が欠損するが、一方を尖らせる。全面に加工痕がある。	二葉マツ
62-489	4区	南壁Tr	14層	不明	10.4	2.2	2.4	隅部が斜めに加工され、中央に削り込みがある。	スギ
62-490	4区	J-27	14層	折敷	13.5	4.3	0.7	底または蓋板。結合孔とも思われる孔があり、一部に利器痕が見られる。上端・右端は欠損。	スギ
81-103	7区	N-46	9層	板材	10.0	4.8	0.7	下端が欠損。上端右端は斜めに加工される。折敷の可能性もある。	スギ
81-104	7区	O-46	9層	板材	14.9	4.7	0.6	上端部を両面から加工され、尖らせる。上端から2.3cmのところ孔あり。一部に利器痕、焼損あり。	スギ
91-63	7区	O-46	12層	曲物	5.5	2.2	0.5	側板の破片。円形に曲げるため、内面にケビキを入れる。	スギ

中野清水遺跡出土金属製品観察表

挿図番号	調査区	出土地点	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	形態の特徴	備考
10-9	1区	E-14	9層	不明	4.5	2.2	1.5	一方の側縁のみ遺存。鉄板をU字形に折り曲げる。	
10-10	1区	E-14	7層	不明	4.4	4.4	0.9	周囲はすべて破面で、中央がやや膨らむ。	
26-62	3区	I-21	13層	鉄鍋	7.9	2.4	0.6	口縁部。屈曲し、端部に平坦な面をもつ。	
62-477	4区	K-31	14層	鉋未成品	5.0	1.9	0.2	端部を折り返して、先端部を尖らせる。先端部はやや反りがあり、反対側の端部は欠損。	
62-478	4区	K-31	14層	鉄鉋未成品	6.0	2.1	0.3	先端部が鑿切りされ、鋭角にする。鋒部を示すような関も作り出す。完形品か。	
62-479	4区	K-31	14層	鉋未成品	4.4	1.5	0.2	両端は欠損するが、先端部は鋭角か。先端部にかけて反りが認められる。	
62-480	4区	K-31	14層	鉄片	2.4	1.5	0.2	周囲はすべて破面。	
62-481	4区	K-37	14層	鑿	3.4	1.3	0.8	上端は厚く、下端が窄まる。横断面形は長方形。	分析No.2
62-482	4区	J-31	14層	鉄片	1.6	2.8	0.1	下端部は欠損。上端は鑿切り痕か。	
62-483	4区	K-30	14層	小形仿製鏡	6.0	5.8	0.1 0.3	外区のみ残り、内面は細片化。外区は0.3cmと薄い。細片の中には文様状の盛り上がりのあるものあり。	
62-484	4区	K-31 南壁Tr	14層	鉄鍋	7.2	5.6	0.6	周囲はすべて破面で、中央がやや膨らむ。	
62-485	4区	K-31	13層	楔	7.2	1.2	0.6	頭部は使用により潰れ、先端は尖る。	
62-486	4区	K-28	13層	鉄片	3.6	2.9	0.6	周囲はすべて破面。	
62-487	4区	K-28 南壁Tr	13層	刀子	22.8	1.5	0.3	刀身は両開式で、刃部長14.0cm・刃部厚さ0.3cm・茎長7.8cm。柄は銅製で長さ8.6cm・幅1.5cm・厚さ0.5cm。	
75-6	7区	O-46 1号溝南	12層 上面	分銅	3.5	2.9	2.6	胴径2.9cm・底径2.6cm、重さは103.3g。底部は裾広がりとなり、頂部には高さ1.2cmの鈕に径2mmの孔がある。	
81-105	7区	P-48	9層	鉄鉋	16.3	5.9	1.1	仮股鉋。鋒部長7.6cm・幅5.9cm・関部厚さ1.1cmで内側に刃が付く。茎部長8.5cm・幅0.6cmである。	
81-106	7区	P-47	9層	鉄鉋か	4.9	1.0	0.3	両端部を欠損。僅かに鋒状の膨らみがある。	
81-107	7区	P-47	9層	鉄鉋茎か	2.2	0.9	0.4	両端部を欠損。僅かに関状の部分がある。	
81-108	7区	O-46 N-46	9層	銅鏡	4.5	4.4	0.4	鏡面は比較的平坦。鏡背には鈕があるが、細かい凹凸もある。	分析No.13
81-111	7区	M-46	9層	鉄鉋	2.2	3.5	1.3	頭部は円形、茎部は欠損。頭部径3.7cm・茎残存長1.5cm・幅1.3cmである。	
81-112	7区	O-48	9層	銅塊	7.4	4.0	1.6	底面が接地面で、左側より流れてきたもの。	分析No.12
91-64	7区	M-46	12層	鉄鉋	4.9	3.1	0.3	鋒部の破片で、茎部は欠損。	
127-368	7区	M-47 5号溝	14層	鉄鑿	6.3	1.7	1.3	刃部は欠損し、鉄板を折り曲げた袋部が残る。端部には折り返しがあり、袋部内には木質が遺存する。	
131-41	7区	M-47	14層	不明	3.7	3.2	0.9	右側が欠損。半月状を呈し、厚さがある。	
131-42	7区	北壁Tr2		鉄鎌か	8.6	2.8	0.2	両端を欠損。右側に僅かに折り曲げが見られる。	
131-43	7区			鉄鍋	5.8	4.2	0.3	胴部片。	
131-44	7区			鉄片	2.8	2.3	0.6	右側が欠損。厚さがある。	

中野清水遺跡出土石製品観察表

挿図番号	調査区	出土地点	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	加工及び使用状況	石材
18-12	2区	H-17 南壁Tr		磨石・敲石	6.5	5.4	4.6	259	一方の端部が欠損。端部を含め4面に敲打痕、磨面。	凝灰岩
18-13	2区	トレンチ		砥石または 玉作石材	4.3	3.6	3.5	43	一面に研磨面。残りはすべて破面。	緑色凝灰岩
21-4	3区	3号土坑	15層 上面	砥石	7.3	5.5	5.2	275	一方の端部が欠損。上面と側面の3面が使用面で、上面には溝状の利器痕。	流紋岩
26-49	3区	I-23	14層	打製土掘具	10.9	6.7	1.6	175	基部を欠損。周囲に粗い剥離痕があり、中央部は自然面を残す。	流紋岩
26-50	3区	I-22	14層	敲石	10.0	8.4	4.0	544	側面全周に敲打痕。	玄武岩
26-51	3区	I-23	14層	敲石	3.9	4.3	4.4	84	一方の端部が欠損。反対側端部に敲打痕。	砂岩
26-52	3区	I-22	14層	砥石	8.7	6.3	4.7	254	両端部を欠損。上面と一側面の2面に使用痕。	砂岩
26-53	3区	I-22	14層	砥石	3.4	1.8	1.4	14	一方の端部が欠損。横断面形は方形で4面を使用。	凝灰岩
26-54	3区	I-21	14層	砥石	24.5	12.7	9.6	3500	一方の端部が欠損。横断面形は長方形で4面を使用。上下面には幅2~3cmの加工痕。	凝灰岩
28-29	3区	北壁Tr	14層	石錘、敲石	10.0	6.5	4.9	478	中央に浅い溝がある。両端部に敲打痕。	安山岩~玄武岩
62-467	4区	K-29	14層	砥石	12.9	10.3	7.4	1830	完形品。両端部を含め6面に敲打痕と使用痕。	流紋岩
62-468	4区	K-31	14層	砥石	11.2	6.6	5.4	555	一方の端部が欠損。横断面形は方形で4面を使用。	砂岩
62-469	4区	K-29	14層	砥石	6.1	4.1	3.1	115	一方の端部が欠損。上下両面と側面の3面を使用。	凝灰岩
62-470	4区	K-31	14層	砥石	7.5	3.7	2.4	89	一方の端部が欠損。上下両面と側面の3面を使用。	凝灰岩
62-471	4区	K-29	14層	砥石	6.3	4.8	2.6	141	一方の端部が欠損。上面のみを使用。	頁岩
62-472	4区	K-29	14層	砥石	6.8	6.3	6.1	240	両端部が欠損。横断面形は方形で4面を使用。	凝灰岩
62-473	4区	K-31	14層	砥石	8.3	2.3	0.9	30	下面が欠損。上面と端部・両側面の5面を使用。	凝灰岩
62-474	4区	J-29	14層	砥石	4.7	3.3	1.1	44	一方の端部が欠損。上下両面と側面の3面を使用。	凝灰岩
62-475	4区	K-29	14層	砥石	4.7	4.2	1.0	29	両端部が欠損。上面と両側面の3面を使用。	凝灰岩
62-476	4区	K-29	14層	砥石	7.8	5.0	4.2	215	両端部が欠損。上面と側面の2面を使用。	凝灰岩
80-99	7区	M-46	9層	紡錘車	5.2	5.2	2.8	54	全面に鋸歯文を陰刻。	凝灰岩
80-100	7区	北壁Tr	9層	砥石	6.2	4.2	4.2	167	両端部が欠損。端部を除く4面を使用。利器痕。	凝灰岩
80-101	7区	南壁Tr	9層	砥石	6.9	5.1	2.8	123	完形品。両端部を除く、4面に使用痕。	凝灰岩
80-102	7区	M-47	9層	砥石	3.5	3.2	1.6	26	両端と一側面を欠損。上下両面と一側面の3面を使用。	流紋岩
85-25	7区	O-46	12層	紡錘車	5.1	5.1	2.7	59	全面に鋸歯文を陰刻。	凝灰岩
85-26	7区	O-46	13層	紡錘車	4.5	4.4	2.6	46	全面に鋸歯文を陰刻。	凝灰岩
85-27	7区	N-46	12層 13層	砥石	6.0	5.8	5.5	190	一方の端部が欠損。端部を含め6面を使用。一部に利器痕。	凝灰岩
91-59	7区	M-46	12層	紡錘車	4.8	4.7	3.0	51	全面に鋸歯文を陰刻。	凝灰岩
91-60	7区	L-46	12層	砥石	7.6	7.3	5.5	375	両端部が欠損。横断面形は方形で4面を使用。	凝灰岩
91-61	7区	O-46	12層	砥石	7.5	2.6	2.4	55	両端部が欠損。横断面形は方形で4面を使用。	凝灰岩
91-62	7区	O-46	13層	玉素材	8.1	4.1	0.9	44	薄板状で、側縁に調整剥離と研磨痕。一方の端部に両面から擦切を行い、折り採った痕跡あり。	緑色凝灰岩
127-367	7区	M-47 5号溝	14層	砥石	8.9	3.5	3.2	135	一方の端部が欠損。横断面形は方形で4面を使用。	流紋岩
131-40	7区	M-46	14層	砥石	5.4	3.5	0.9	22	隅部のみ遺存。側面を含め3面を使用。	頁岩

第4章 白枝本郷遺跡の調査

第1節 遺跡の概要

(1) 立地

白枝本郷遺跡は、出雲平野の西部、神戸川右岸の沖積平野に所在する。周辺の地形は神戸川が形成した三角州が広がり、出雲市古志町から高松町付近には南東から北西方向へと延びる自然堤防が見られる⁽¹⁾。自然堤防はちょうど浜山砂丘の方向に向かって延びており、江戸時代に造られた高瀬川や旧国鉄大社線の一部はこの上を通る。

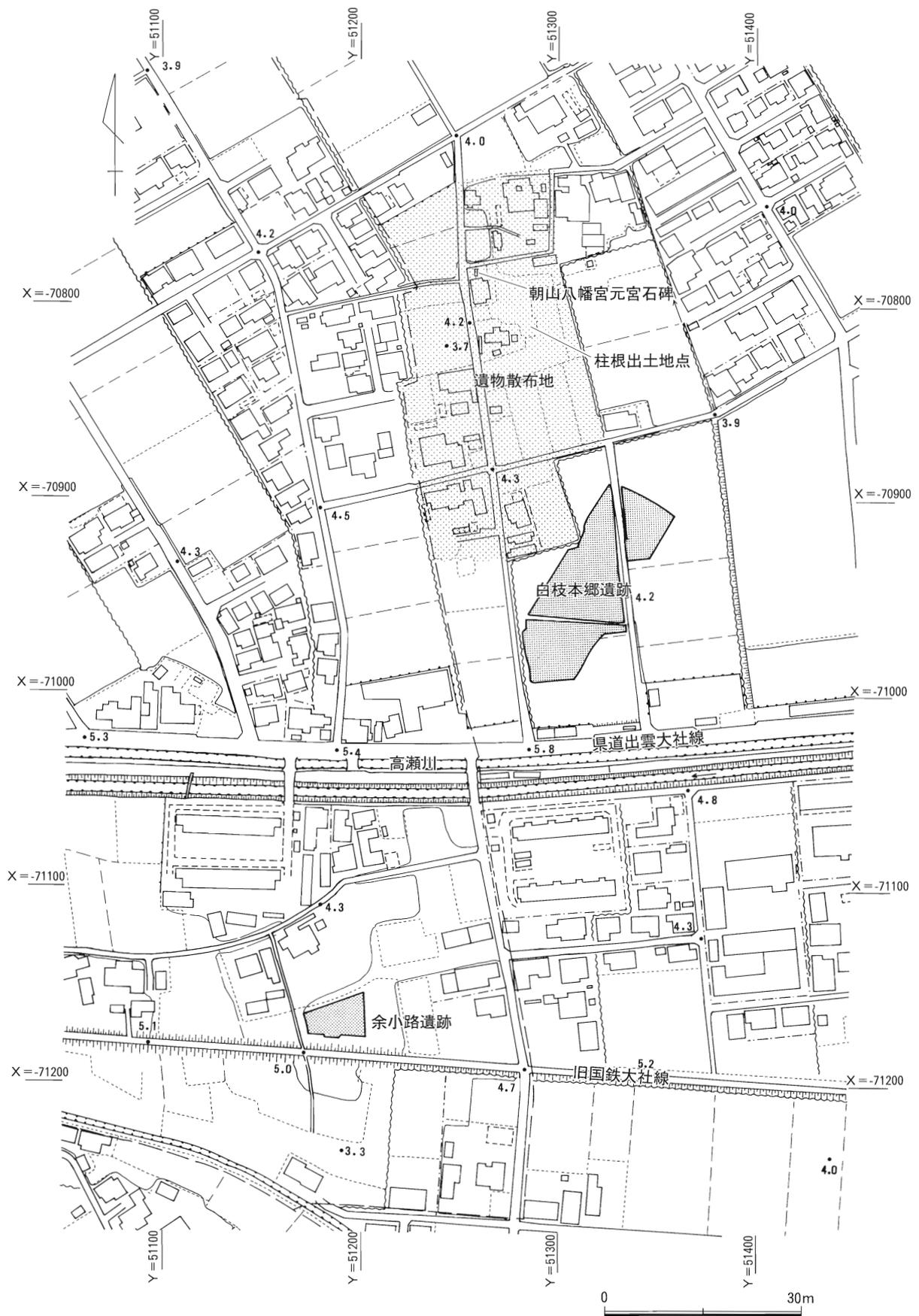
遺跡はこの自然堤防から北へ派生した微高地上を中心に展開したものと見られる。微高地は周囲の水田より1m足らずではあるが高く、現在では畑または宅地となっている。付近には土師器・須恵器・陶磁器など多数の遺物が散布しており、微高地の北寄りのところには「朝山八幡宮元宮」と書かれた石碑が残る(第141図)。朝山八幡宮は朝山郷の地頭となった大伴氏が朝山姓を名乗り、鎌倉鶴岡八幡宮の分霊を勧請したもので、1688(貞享5)年に現在の出雲市松寄下町地内に移るまで、白枝村地内にあったとされる⁽²⁾。発掘調査を行った地点は、この微高地の南側縁辺部に当たり、高瀬川が流れる自然堤防とに挟まれた鞍部のような地形を呈するところで、調査前には水田として利用されていた。

白枝本郷遺跡は出雲平野の西部に位置し、『出雲国風土記』に記された神戸水海と呼ばれた水域との関係も考慮されることから、本調査区北東側の地点1ヶ所で地層の抜き取り調査を行った。調査は中野清水遺跡と同様に土層採取専用の矢板を打ち込み、大形クレーンで引き抜く方法を行ったが、矢板は長さ10mと長いものを用いた。

基本的な層序は(第142図)、標高1~0mのところは細砂・シルト、0~-0.7mに粗砂、-0.7~-0.9mに細砂・シルト、-0.9~-3.4mに細砂・中砂混じりの粗砂、-3.4~-4.3mに細・中砂、-4.2m~-8.3mは腐植質粘土と細砂の互層となる。地層から採取された木片の炭素年代測定は標高0m付近で3,590±30y.B.P、-1.0m付近で3,725±30y.B.P、-3.5m付近で4,330±30y.B.P、-5.0m付近で4,150±30y.B.P、-6.5m付近で4,245±30y.B.P、-8.0m付近で4,660±30y.B.Pである。

-5.8m以下ではC N S分析の結果から海水進入の影響が見られるが、基本的には陸域に近い後背湿地または河川であったと推定されており、潟湖の存在を示すような資料は調査地点の深度では確認されていない。-4.0~0m付近は基本的には粗砂でこれに中砂・細砂が混じりラミナも見られるなど河川性の堆積物と考えられ、デイサイトの円礫を含むことが特徴である。時期は4,330±30y.B.P~3,590±30y.B.Pと幅があるが、4,330±30y.B.Pは下層の木片の年代である4,150±30y.B.Pや4,245±30y.B.Pより古く、年代の古い木片が川の流れによって混入している可能性が高い。3,725±30y.B.P及び3,590±30y.B.Pという年代は、三瓶火山の第Ⅶ活動期の年代と一致していることから⁽³⁾、粗砂を中心とした厚い堆積は三瓶火山の活動に伴って山麓に溜まった火山噴出物が火山泥流・土石流となって神戸川を流れて下ったものと考えられる。0~1.0m付近は細砂・シルトでラミナが顕著であることから河川の堆積物と見られ、流路がたびたび変わるような河川の後背湿地であったと見られる。

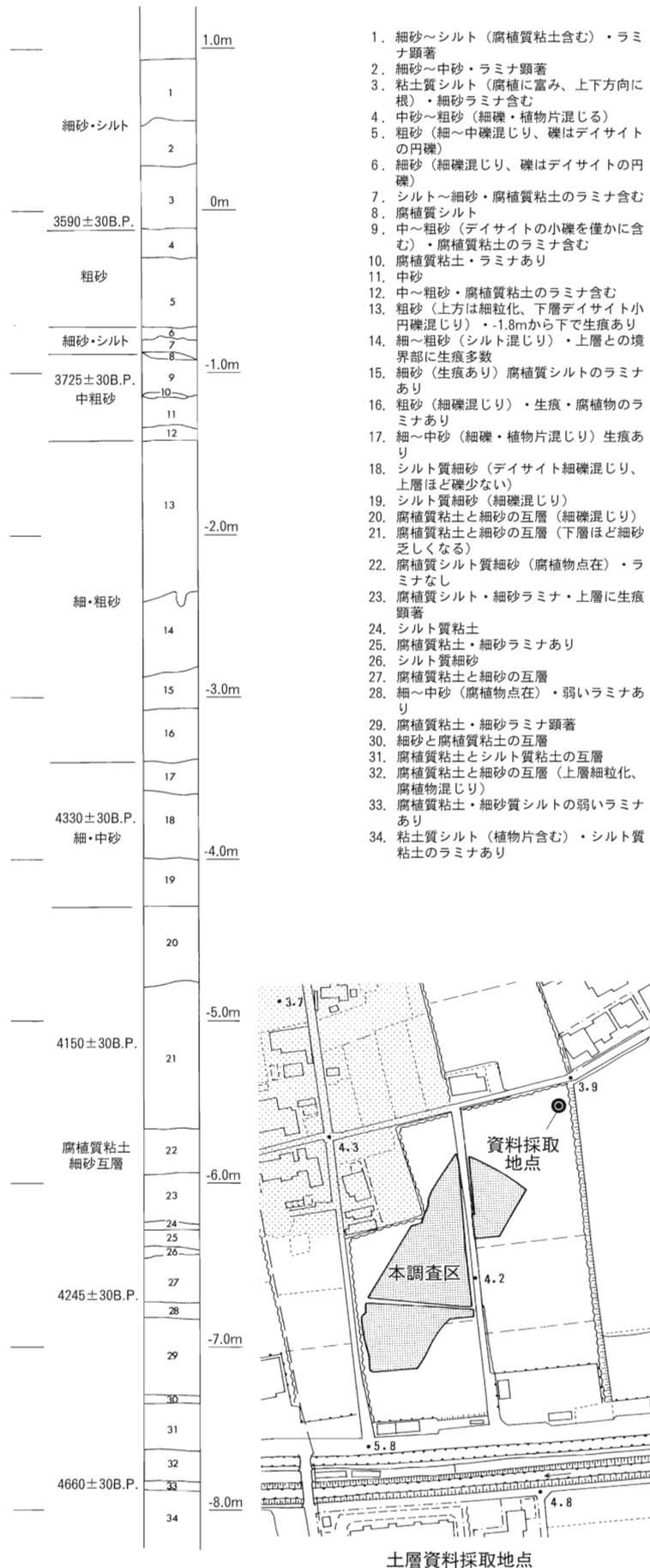
出雲平野は三瓶火山の第Ⅵ活動期と第Ⅶ活動期の噴出物によってその基盤が形成されていることは既に明らかになっており、小山遺跡⁽⁴⁾では標高0m、藤ヶ森南遺跡⁽⁵⁾では-1~2.0mのところ



第141図 白枝本郷遺跡と周辺の遺跡

で第VI活動期に伴う火山灰質泥層または砂層が確認されている。白枝本郷遺跡はこれらの遺跡より西に位置することもあり第VI活動期の堆積物を明確にはできなかったが、平野中央部でこの時期に堆積が進んでいたことが第VII活動期において周辺部に堆積が進むことに繋がったものと考えられる。

三瓶火山の第VII活動期は考古学的には縄文時代後期前葉末に位置づけられるもので⁽⁶⁾、平野中央部の矢野遺跡では早くもその直後に縄文集落が出現したことも明らかになっている他、蔵小路西遺跡や善行寺遺跡では晩期の遺構・遺物が確認されている。白枝本郷遺跡ではこの段階にはまだ河川性の堆積物が見られることから人々が生活できる環境にはなかったが、潟湖のような水域からは完全に分離していたようである。発掘調査では遺構は確認できなかったものの弥生時代中期中葉の土器も出土しており、遅くともこの頃には集落が営まれる安定した環境となっていたと考えられる。周辺地域では、白枝荒神遺跡・井原遺跡・壺丁田遺跡など、かつては遺跡の存在が知られなかった地点で遺跡が明らかになりつつあり、神門水海という先入観に捉らわれない事例に即した検討が必要であろう。



第142図 白枝本郷遺跡下層土層実測図

(2) 朝山八幡宮元宮碑周辺採集遺物

発掘調査地点の北側に位置する微高地では、土師器・須恵器・陶磁器などの遺物が多数散布している。また、朝山八幡宮元宮石碑の南東側畑では、地権者によって柱根が掘り出されていたことが判明し、掘立柱建物跡などで構成される遺跡が存在することが予想される。

第143図1は柱根で径23cm・残存長は46cmある。基部にはえつり孔がある他、手斧による加工痕が顕著に残る。2は柱根の下から出土したとされるもので、礎板と見られる。

第144図3は土師器鼓形器台の脚台部で、内面にケズリが見られる。

4～10は須恵器である。4・5は坏蓋で、口縁と頂部の境に稜をもち頂部に回転ヘラケズリがある。6は坏身で、口縁に内傾するかえりをもつ。7は低い高台をもつ坏身、8は長頸壺、9は壺である。10は器種不明であるが、外面に山形をした刺突文が見られる。



11～13は龍泉窯系青磁である。

11は外面に線描蓮弁をもつ小碗でB4類⁽⁷⁾、12は端反り碗でD類である。

14は中国青花皿の底部で、見込に呉須で文様があり、B1群と見られる。

15・16は瀬戸の皿で、15は鉛釉、16は卸皿で底部外面に回転糸切り痕がある。

17・18は備前である。17は播鉢の底部、18は壺で肩部に波状文と沈線が入るようである。

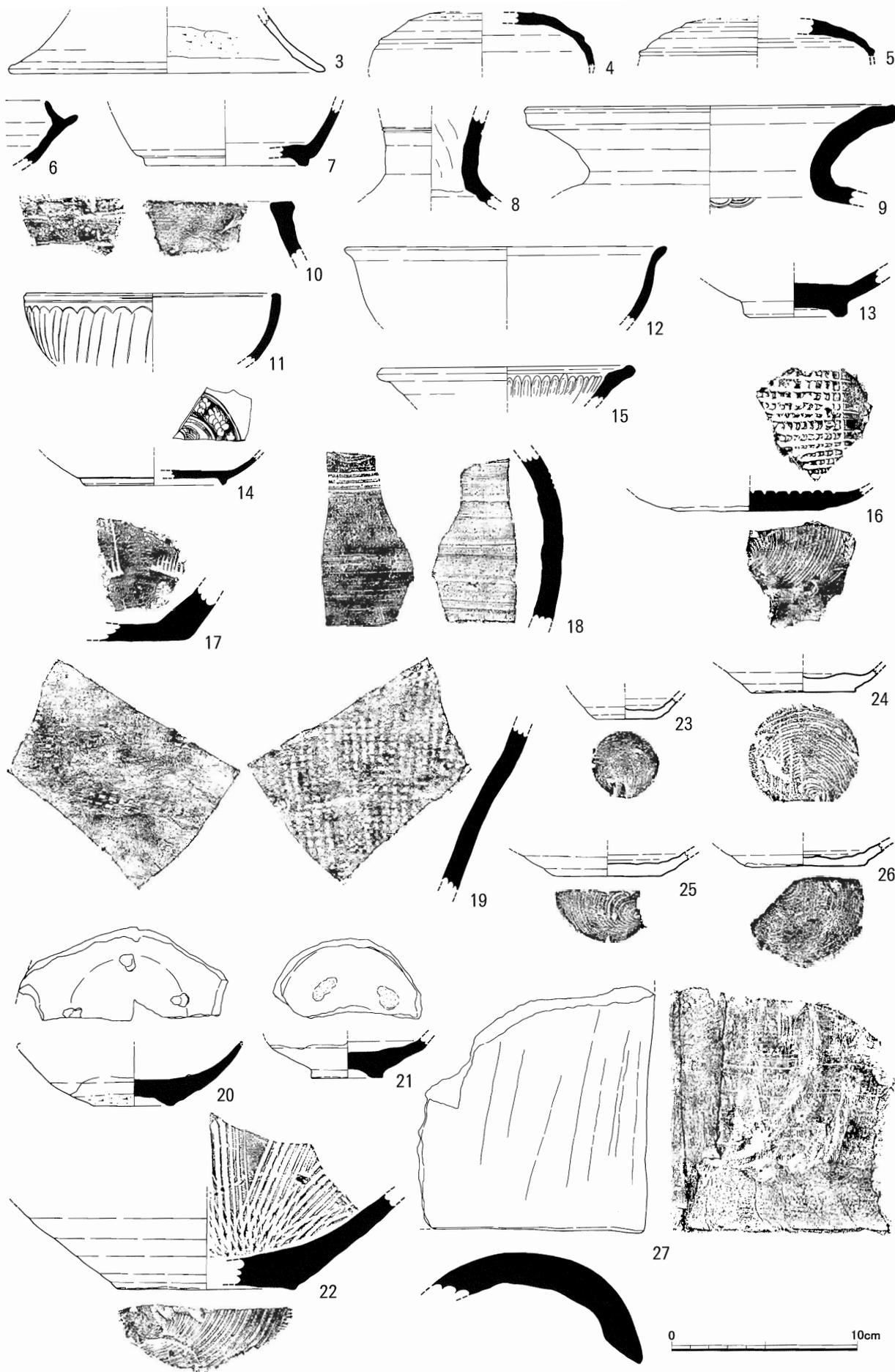
19～22は唐津である。19は甕で、内外面に格子タタキが残る。20・21は皿である。20は口縁が湾曲するように成形され、見込に胎土目がある。21は外面に稜をもつもので砂目である。

23～26は土師質土器皿の底部で、回転糸切り痕がある。

27は丸瓦片である。

遺物の時期は、1が古墳時代前期・4～6が後期、7は奈良時代、11～18は室町時代、19～22は江戸時代初めの頃のものと考えられる。

第143図 朝山八幡宮元宮碑周辺出土柱根他実測図（1：6）

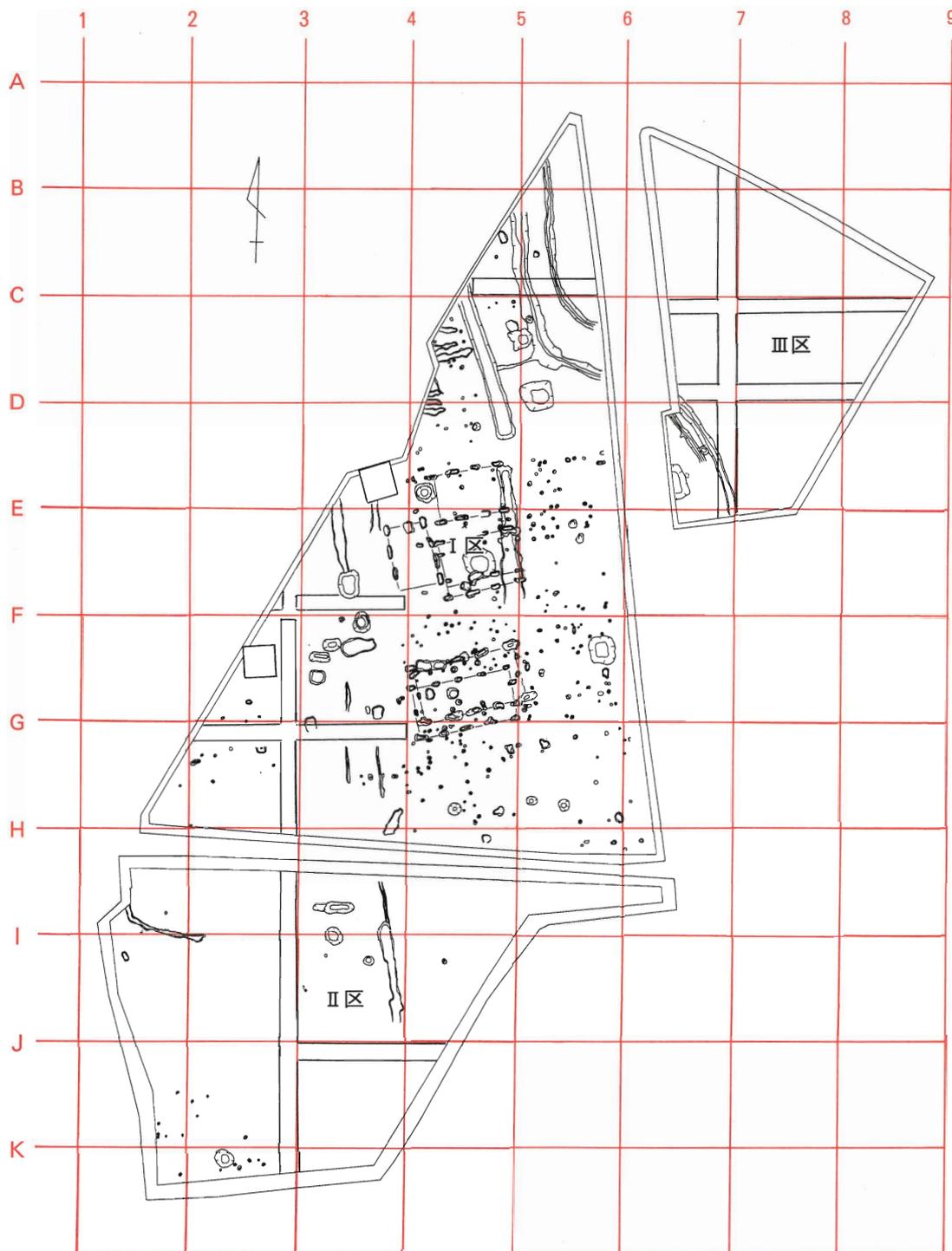


第144图 朝山八幡宮元宮碑周辺採集遺物実測図 (1:3)

(3) 調査の概要

調査区は市道と水田畦畔を残す必要があったため、市道の西側のうち北をⅠ区・南をⅡ区、市道東側をⅢ区の3つに分け、Ⅰ区より順に調査を行った。

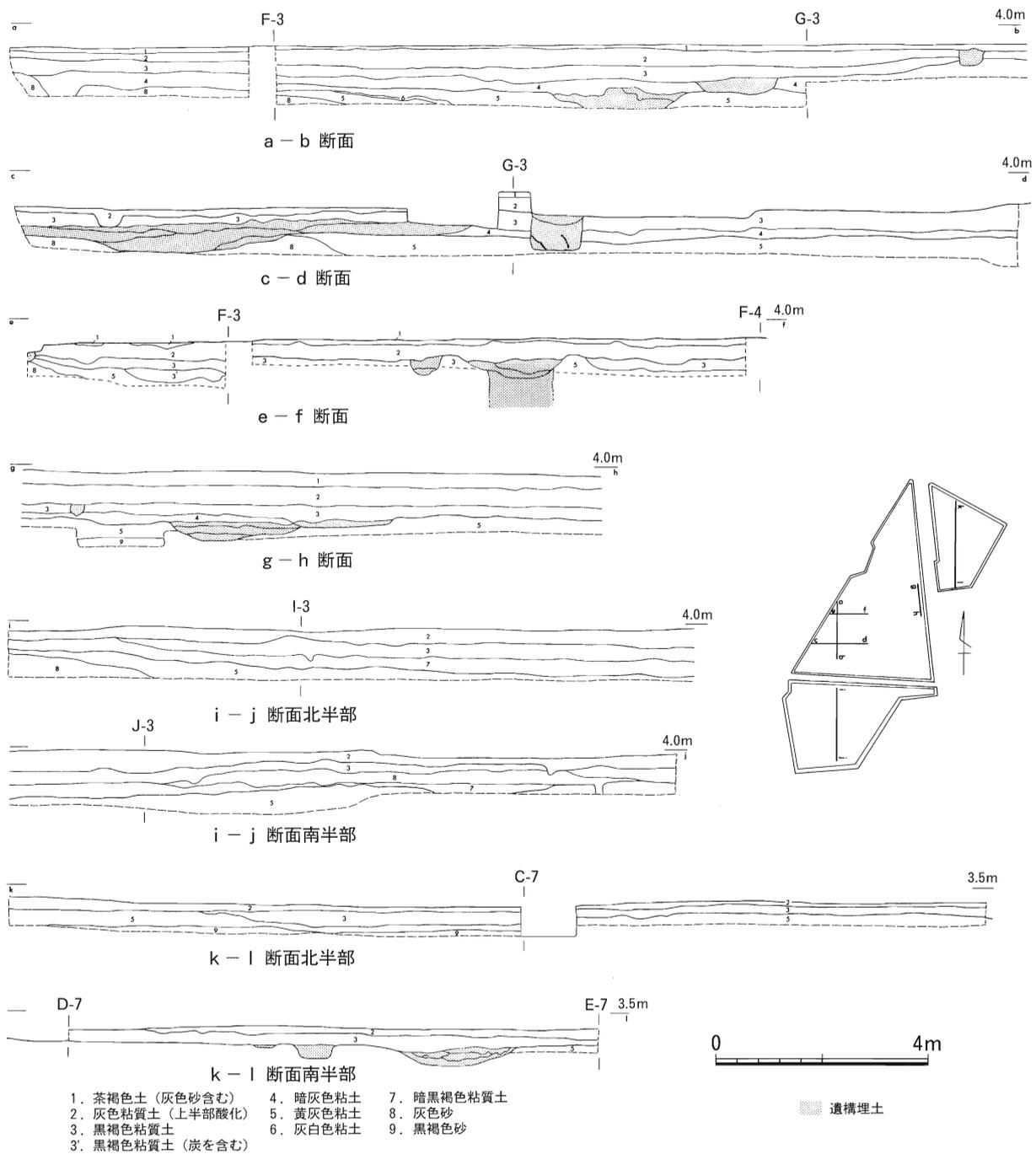
調査にあたっては、調査区名の他に、遺構・遺物の検出地点を記録するため遺跡全体に10m方眼を設定した。調査用方眼は $X = -70890$ ・ $Y = 51280$ を原点とし、南へA・B・C……、東へは1・2・3……と10m間隔で表し、方眼の北西側の交点（調査杭）でその調査区（例えばA-1・B-1……）を呼ぶこととした（第145図）。



第145図 白枝本郷遺跡の調査区とグリッド配置図

遺跡は大きく分けると2つの遺構面からなっており、上層に室町時代から江戸時代の遺構面（3層上面）、下層に古墳時代後期の遺構面（5層上面）がある（第146図）。茶褐色土（1層）と灰色粘質土（2層）は3層上面の遺物包含層、黒褐色粘質土（3層）は5層上面の遺物包含層となる。古墳時代の遺構面は、5層の上に部分的に4層が見られるところがあり、4層を切る19号溝と4層に覆われる20号溝の2段階に分けることができる（a-b・c-d・g-h断面）。

5層より下層には灰色砂（8層）があり、e-f断面とi-j断面を見ると、それぞれ西側及び北側が高くなるような傾斜をもつことから、調査区北西側に位置する微高地に対応するものと考えられる。なお、調査区内では8層から遺物は検出されていない。



第146図 白枝本郷遺跡の土層実測図

検出された遺構は、上層の室町時代から江戸時代の遺構面（3層上面）で掘立柱建物跡5棟・古墓3基・溝16条・井戸跡10基・土坑16基・ピット群、下層の古墳時代後期の遺構面（5層上面）では溝8条・土坑3基・土器溜りがある。このうち、室町から江戸時代の遺構はI区に東西または南北方向に向け建てられた1～5号建物跡があり、その西側には南北方向に向く11～15号溝がある。これらの溝は3m程の間隔を置いて平行に延びていることから道の側溝である可能性があり、1～4号建物跡は道に対し妻側、5号建物跡は平側を向けるように配置されている。建物跡群の北東側には南北方向に延びる1・2号溝があるが、2号溝は3・4号建物跡に切られていることが分かっており、先行するものである。1・2号溝は区画溝と見られ、その間が陸橋状に切れていることから、この部分が入口に当たるものと思われる。1号溝の南端部では笠・鳥形木製品・不明木製品・毛抜・鉄釘・土師質土器の他、散らばった状態で火葬骨も検出された。古墓は木棺を用いる1号墓、土坑に菴を敷いた2号墓、地面が焼け火葬が行われたことが分かる3号墓があるが、いずれも密集することはなく単独で点々と営まれている。また、井戸跡は井筒を備えたものではなく素掘りであるが、深さは砂層まで達しており現在でも湧水がある。建物跡や道跡などと重複するものもあり、かなり時期幅があることも考えられる。

古墳時代後期の遺構はI区からIII区を南西から北東へ横断するように検出された19号溝と20号溝が目される。これらは切合関係から20号溝→19号溝の順に営まれていることが分かっており、埋土はともに砂で水路であったと考えられる。出土遺物に時期差はなく、位置もほとんど変わらないことから、20号溝が埋まった後すぐに19号溝が掘り直されている。溝の北側の地点でプラントオパール分析を行ったところイネが検出されており、周囲で遺構もほとんど見られなかったことから、溝の両側は水田であった可能性が高い。ただし、I区の南西側では土器溜りが確認された他、溝の中からも土師器・須恵器が多数出土し、II区には土師器甕や竈の入った24号溝があることからすれば、この付近は集落の一部となっていた可能性も考えられる。

註

- (1) 島根県『土地分類基本調査—大社—』1974
- (2) 平凡社『島根県の地名—日本歴史地名大系 第33巻—』1995
- (3) 福岡孝・松井整司「AT降灰以降の三瓶火山噴出物の層序」『地球科学』第56巻2号 2002
- (4) 渡辺正巳・遠藤正樹「出雲平野中央部小山遺跡における地質層序と古環境」『LAGUNA（汽水域）』No.5 島根大学汽水域研究センター 1998
- (5) 中村唯史「藤ヶ森南遺跡BPN.1 ボーリングの検討」『藤ヶ森南遺跡』出雲市教育委員会 1999
- (6) 角田徳幸「三瓶火山の噴出物と縄文時代遺跡」『島根考古学会誌』第20・21集合併号 2004
- (7) 国立歴史民俗博物館『日本出土の貿易陶磁—西日本編1—』1993

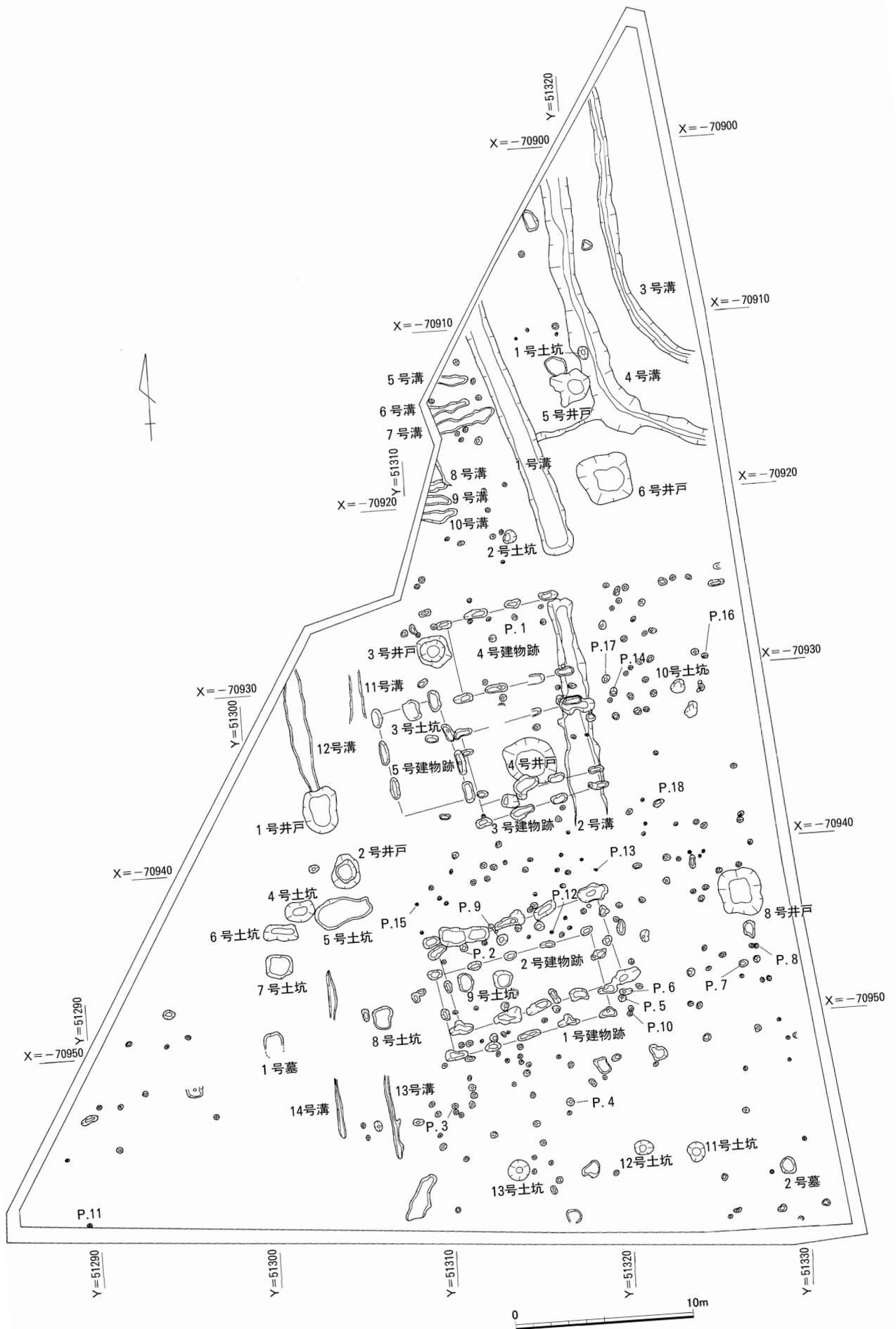
第2節 室町時代から江戸時代の遺構面

(1) 遺構の配置状況

I区は掘立柱建物跡やピットが検出されており、この付近が微高地から続く集落の南端部に当たる。II区ではI区から南北に延びる道の南端部と見られる15号溝の他、10号井戸など遺構は少ないが、面的な広がりをもつ。III区はI区から延びる3号溝・4号溝と3号墓・7号井戸が調査区の西側で検出されているが、調査区の東側には遺構は見られず遺物も出土していない。



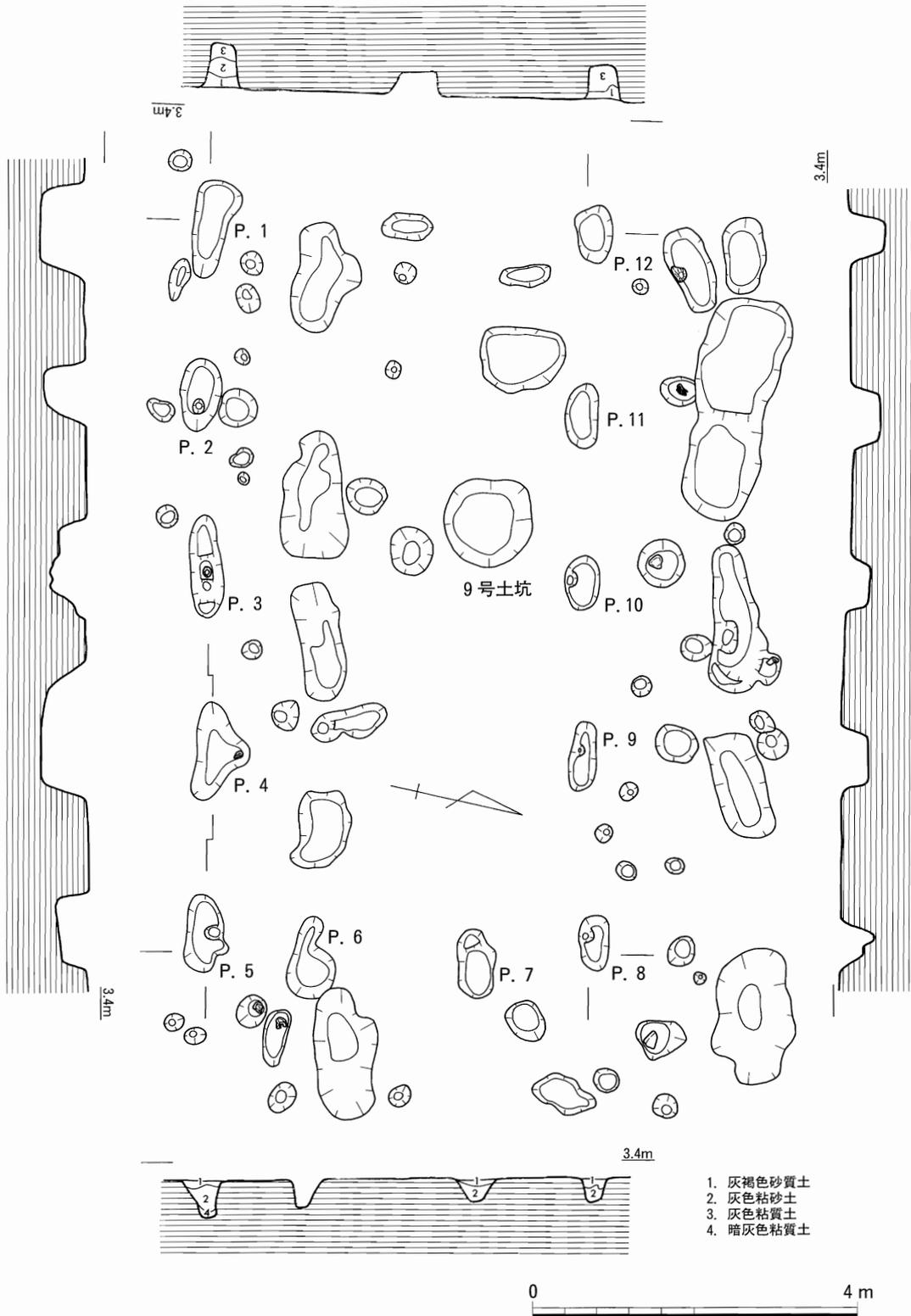
第147図 白枝本郷遺跡 3層上面遺構実測図



第148图 白枝本郷遺跡I区3層上面遺構実測図

(2) 掘立柱建物跡

1号建物跡 2号建物跡と重複する位置にあるが、柱穴相互の切合いはなく前後関係は不明である。東辺がやや北に振るが東西方向に主軸をもつ建物で、桁行は4間で9.0m・梁行は4.7~4.8mである(第149図)。柱穴はいずれも長楕円形を呈するが、南辺の柱穴は長さ0.9~1.3m・深さ40~60



第149図 白枝本郷遺跡 3層上面 1号建物跡実測図

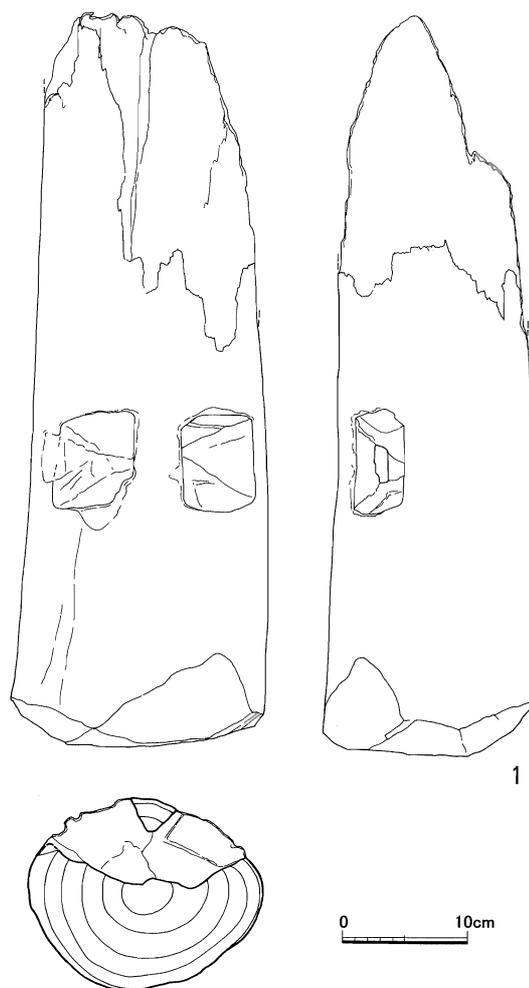
cmであるのに対し、北辺の柱穴は長さ0.7~0.9m・深さ30~40cmと小さい。梁間の柱穴は東辺ではP.6やP.7のようなものが見られ、これを採れば3間程度になると思われるが、西辺では同様な柱穴は確認できていない。後述するように、白枝本郷遺跡で検出された掘立柱建物跡はいずれも梁間に柱穴がないことから、梁間の柱だけは礎石などの上に設置されたか、長い梁材を用いるような構造を有していたとも考えられる。また、P.4には柱根があったが、樹皮しか残っておらず、樹種の同定はできなかった。

出土遺物はP.11で柱状高台付皿の破片（第151図1）が確認されている。

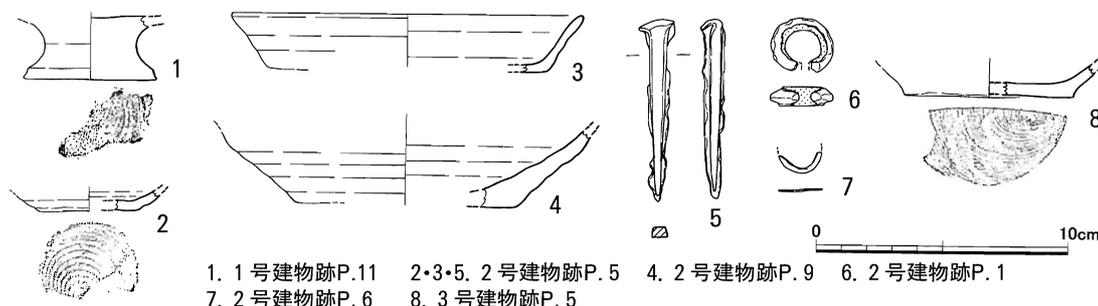
2号建物跡 1号建物跡と重複するが、やや北側に位置する。建物の中央西寄りには井戸跡とも見られる9号土坑がある他、小さなピットも多数確認されており、1号建物跡以外とも重複していることが考えられるが、明確にはできなかった。

建物の主軸は、1号建物跡と同様に東西方向で、桁行は4間で9.3m、梁行は4.5~5.0mある（第152図）。梁間では1号建物跡と同様に柱穴は確認されていない。柱穴はいずれも長楕円形を呈し、長さ1.0~1.8m・深さ50~70cmである。柱穴の縦断面形はP.1~3、P.5・P.6・P.8で短辺の片側から緩い傾斜をもって掘り込まれていることが分かり、こちら側から柱を落とし込んで立てたものと思われる。また、P.8とP.10には柱根が残っており、樹種はともにクリ材であった。後者（第150図1）は遺存状態が良好で、径は15~18.5cm、残存長は59cmで、長さ7cm・幅6cm程のえつり孔がある。また、P.9は柱根は残っていなかったが、柱の痕跡である灰褐色粘質土（8層）と裏込めである灰色粘質土（5層）が観察できた。

出土遺物は、P.1で金環、P.5で土師質土器皿と鉄釘、P.6で環状の銅製品、P.9で土師質土器皿が確認された。第151図2~4は皿である。2

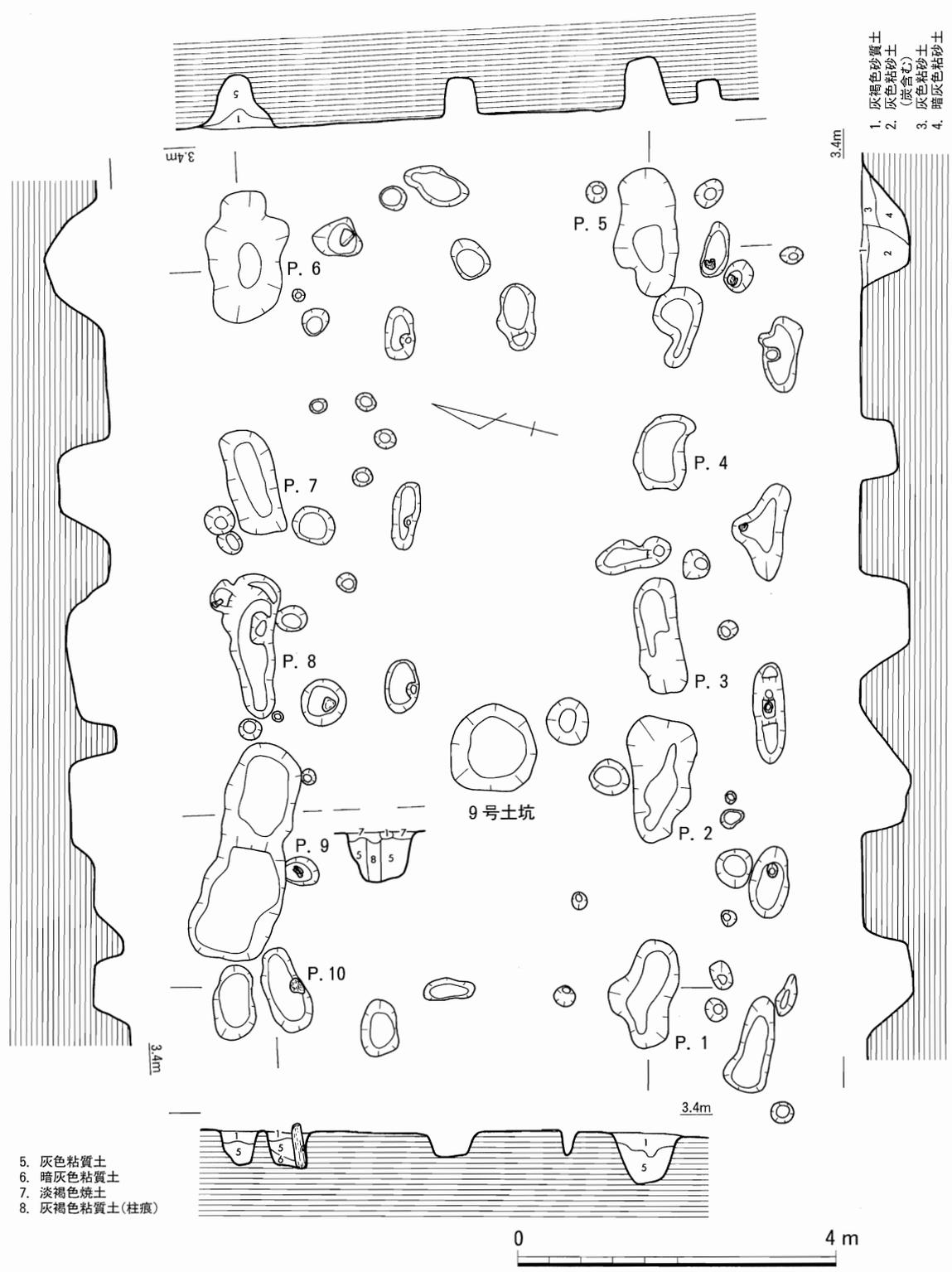


第150図 白枝本郷遺跡3層上面2号建物跡P.10出土柱根実測図（1：3）



第151図 白枝本郷遺跡3層上面1号~3号建物跡出土遺物実測図（1：3）

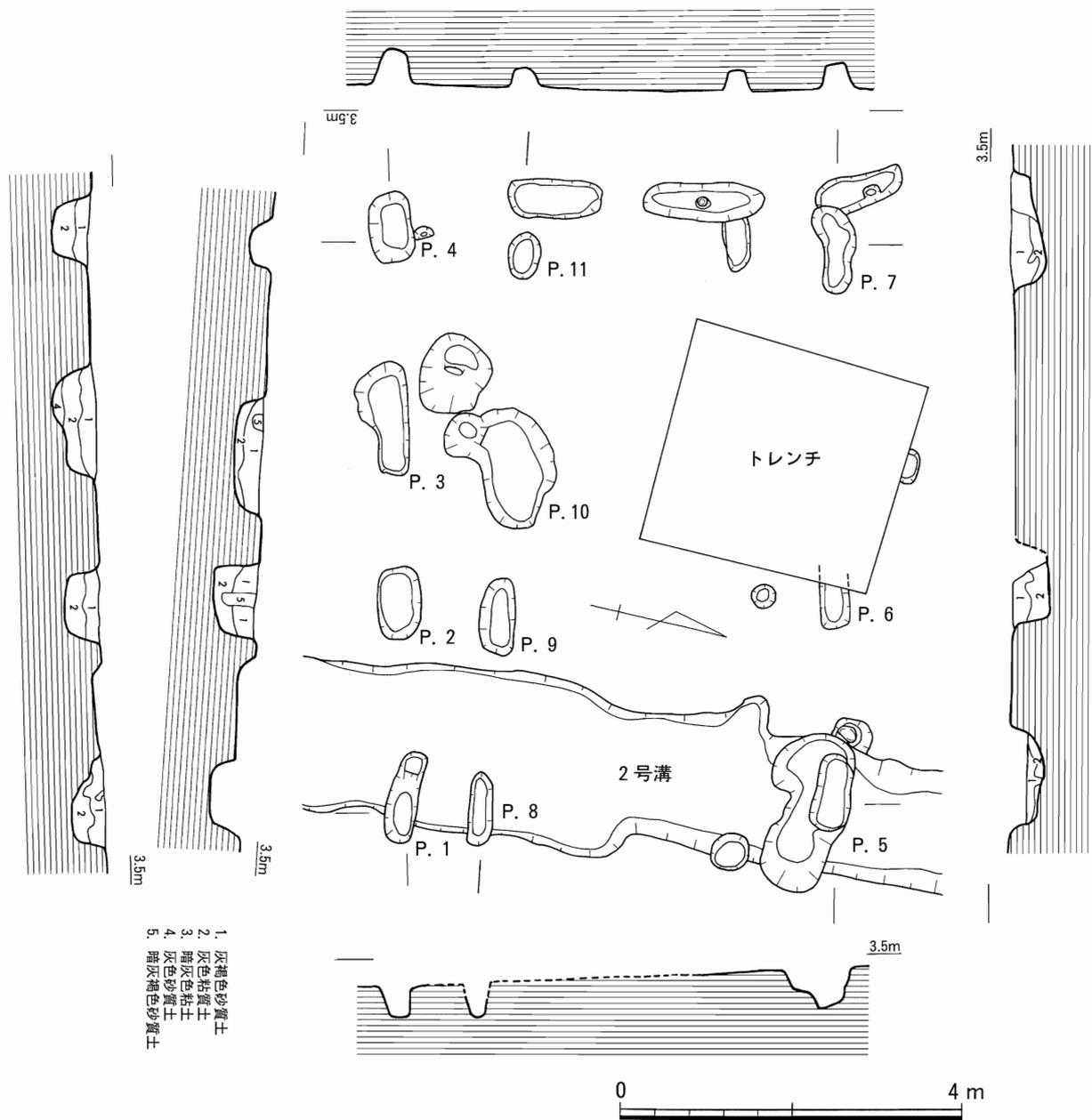
は底径3.8cmと小形のもの、3は器高が2.3cmと低く浅いもの、4は深いものと見られるが、いずれも底部には回転糸切り痕がある。6は金環であるが、環の内側のみ鍍金が残り、外側は破損して銅地が露出する。P.1より出土したものであるが、下層の古墳時代遺構面に伴う遺物と考えられる。7は環状をした銅製品で、径1.4cm・厚さは0.4mmと薄く、その用途などは不明である。なお、図化できなかったが、P.2で龍泉青磁B4類、P.5で備前壺・甕類小片が出土している。



第152図 白枝本郷遺跡 3層上面 2号建物跡実測図

3号建物跡 2号建物跡の北側6mにあり、4号建物跡は北側2m、5号建物跡は西に接する位置にある。その間隔から1号建物跡または2号建物跡とは併存する可能性があるが、5号建物跡とは時期差が考えられ、4号建物跡と併存したとすれば軒先を接するような位置関係となる。また、P.1・P.5・P.8は2号溝と切合関係があり、2号溝が埋った後に3号建物跡が営まれたことが明らかになっている。

建物の主軸は、1・2号建物跡と同様に東西方向、桁行は3間で7.0mである(第153図)。基本的にはP.8~P.11とP.5~7で構成される建物と見られるが、梁行に当たる両者の間には柱穴はなく、4.0m程の間隔がある。また、P.8~10の南側には1~1.3mの間隔を置いてP.1~4があり、南側に廂の付く構造をもった建物と考えられる。柱穴はいずれも長楕円形を呈し、長さ0.8~1.4m・深さ30~50cmである。柱穴の縦断面形はP.1・P.3・P.5・P.7のように短辺の片側から緩い傾斜



第153図 白枝本郷遺跡3層上面3号建物跡実測図

をもって掘り込まれているものがある点は2号建物跡と同様である。柱穴の埋土は基本的には上層より灰褐色砂質土（1層）・灰色粘質土（2層）となっている。柱根が残存するものはなかったが、P.9及びP.10では柱痕と見られる暗灰褐色砂質土（5層）を観察することができた。

出土遺物としてはP.5より土師質土器皿（第151図8）が検出されている。底部の小片で外面には回転糸切り痕が残る。

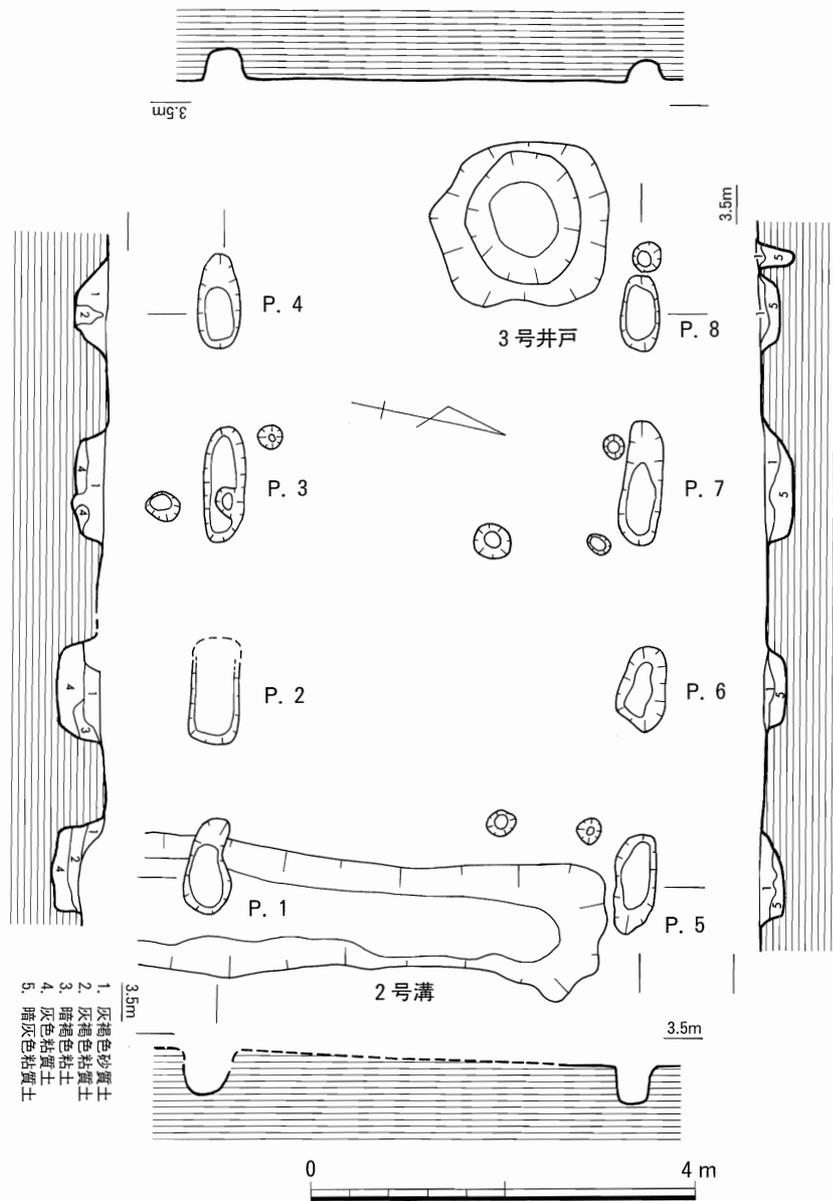
4号建物跡 3号建物跡の北側2mにあり、5号建物跡は南西1.5mのところに位置する。また、西側に接する位置には3号井戸がある他、P.1は2号溝と切合いがある。3号井戸との前後関係は不明であるが、2号溝は4号建物跡に先行して営まれたものである。

建物の軸は1～3号建物跡と同様に東西方向を向く。桁行は3間で6.0m、梁間には柱は検出されておらず、4.5mの間隔がある（第154図）。柱穴はいずれも長楕円形を呈しており、長さ0.8～1.3m・深さ20～50cmである。柱穴の縦断面形はP.4・P.5・P.7のように短辺の片側から緩い傾斜をもつものもあるが、垂直に立ち上がるものもあり、底面は平坦となるものが多い。

柱穴の埋土は、北辺と南辺でやや異なっており、南辺は上層に灰褐色砂質土（1層）、下層に灰色粘質土（4層）が入っているのに対し、北辺は上層に灰褐色砂質土（1層）、下層に暗灰色粘質土（5層）が見られる。

柱根は検出されていないが、P.4は中央に柱の痕跡と見られる灰褐色粘質土（2層）が入っている。また、P.3は底面に小ピットがあり、上層の埋土である灰褐色砂質土（1層）が落ち込んでいる。

遺物は検出されていない。



第154図 白枝本郷遺跡3層上面4号建物跡実測図

5号建物跡 3号建物跡の西側に接し、4号建物跡は南西1.5mのところを位置する。P. 5は3号建物跡のP. 7と切合関係があり、3号建物跡の後に5号建物跡が営まれたことが明らかである。また、P. 1とP. 4の間には3号土坑があるが、前後関係は不明である。

建物の主軸は1～4号建物跡とは異なり南北方向を向く。桁行は西辺の一部が不明であるが、東辺は3間で5.7mである。梁間には柱は検出されておらず、P. 1とP. 4の間で3.3mの間隔がある（第155図）。柱穴はいずれも長楕円形を呈しており、長さ0.9～1.2m・深さ10～30cmである。柱穴の中にはP. 5・P. 6のように底面にピットをもつものがあり、P. 6には石が入っていた。縦断面形は壁が垂直または外傾して立ち上がり、底面は平坦となる。

柱穴の埋土は、概ね2層よりなっており、上層は灰褐色砂質土（1層）、下層に黒褐色粘質土（2層）または暗灰褐色粘質土（3層）が入っている。

柱根は検出されていないが、P. 2は中央に柱の痕跡と見られる暗褐色粘質土（5層）が入っている。また、P. 6は底面に小ピットがあり、礎板状の石が検出されている。

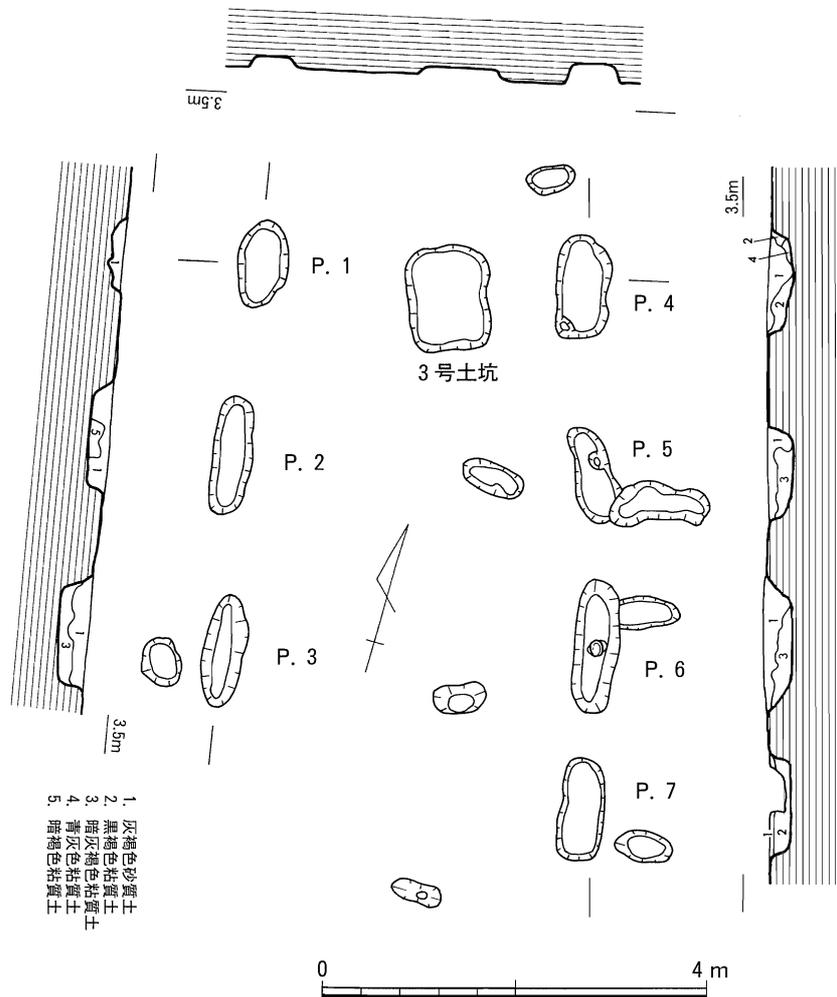
遺物は検出されていない。

(3) 古 墓

1号墓 1号建物跡の西9m、2号墓からは北西29mのところを位置するもので、木棺墓1基が単独で営まれている（第156図）。

墓壇は調査時に設定したトレンチのため南辺は不明であるが、隅丸長方形を呈し、現状で長さ1.2m以上・幅1.05m・深さ0.7mである。底面やや西寄りには南北方向に主軸をもつ組み合わせ式の木棺が置かれていたが、これを据えるための溝等は確認できなかった。埋土は上層に陥没土とみられる炭を含む暗灰褐色粘質土（1層）、下層に灰褐色粘質土（2層）が見られた。

木棺は長さ85cm・幅36cm・深さ28cmで、蓋及び底板はなく側板のみが検出されている。棺材の組

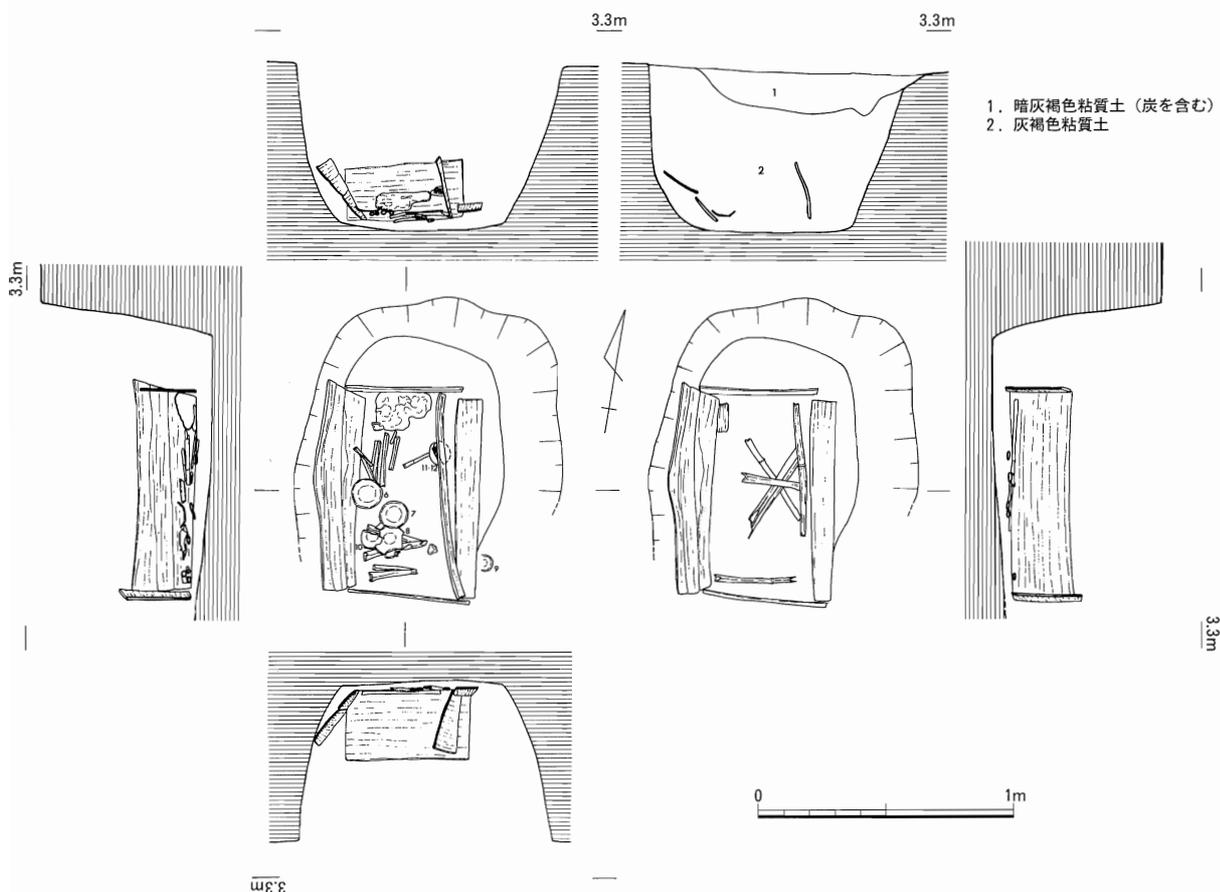


第155図 白枝本郷遺跡3層上面5号建物跡実測図

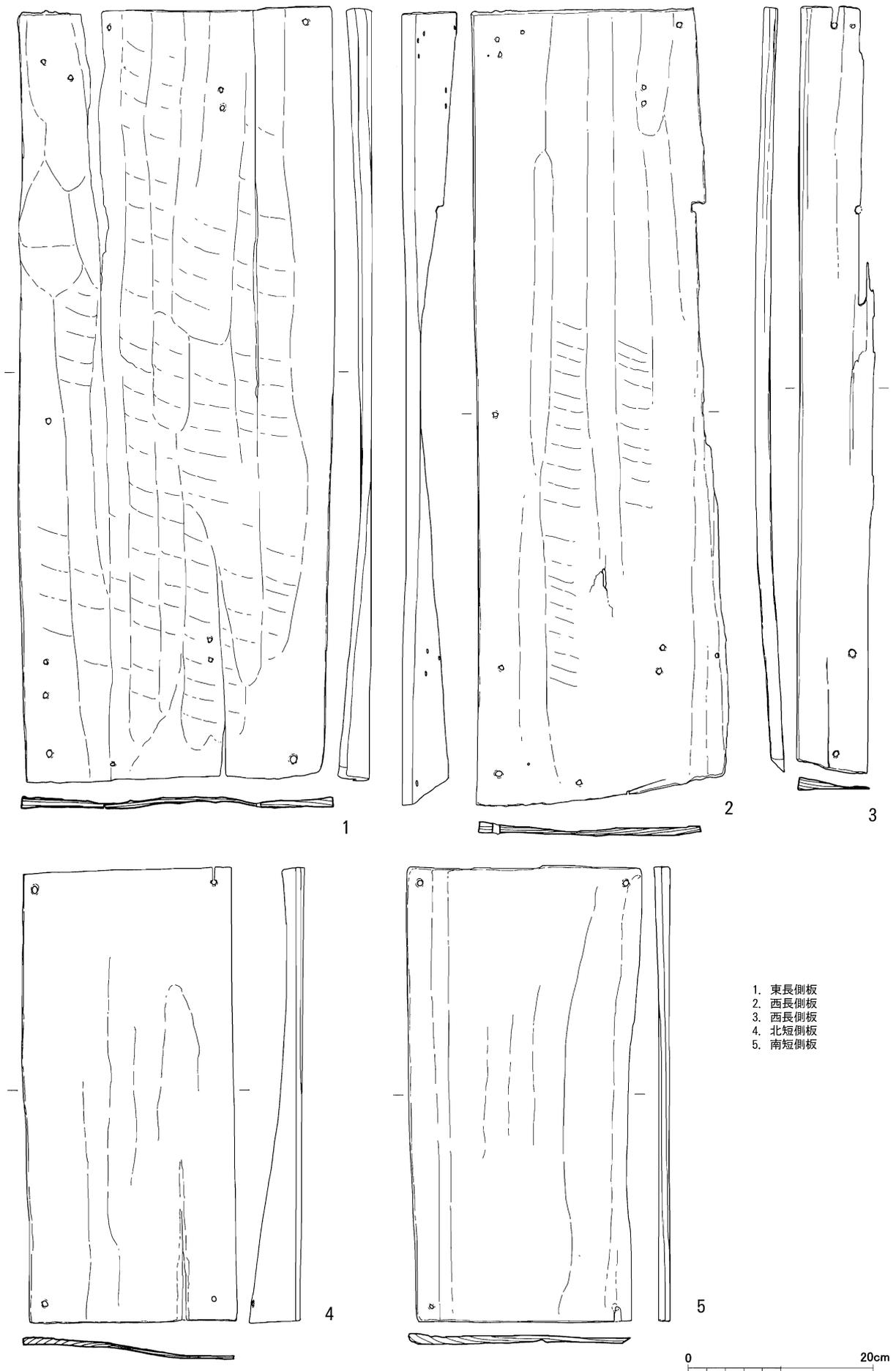
み合わせは、長側板が土圧により西側に傾いた状態となっていたため不明な点があるが、長側板が短側板に挟まれる形態であったと推定される。東長側板（第157図1）は長さ84cm・幅32～34cm・厚さ1cm、西長側板（2・3）は2枚に割れていたが長さ87cm・幅35cm・厚さ1.2cm程度のものに復原できる。北短側板（4）は長さ49cm・幅22.5cm・厚さ0.9cm、南短側板（5）は長さ49cm・幅23～25cm・厚さ1.2cmである。長側板の表面には加工痕が顕著に残っており、樹種はいずれもスギである。短側板はともに四隅に孔があるが、長側板は四隅以外の短側板との結合には関わらない部分にも孔があげられており、転用材とも見られる。鉄釘は出土しておらず、長側板と短側板の結合は紐等が用いられたか、あるいは行われなかったことが考えられ、その場合短側板も転用材であった可能性がある。

木棺内では壮年～熟年前半の女性と見られる人骨1体が埋葬されていた。人骨は頭を北にして顔を西に向け、体の右側面を下にして四肢を折り曲げる屈葬の形をとっていた。人骨の腹部付近には土師質土器皿4枚が置かれており、第158図6・7・10は正位であったが、8は口縁を下に伏せた状態であった。また、人骨の左肩に当たるところでは櫛2枚（11・12）が歯と歯が向き合うような状態に重ねられたまま検出されている。人骨の下には竹が放射状に組まれており、東側長側板下でも土師質土器皿（9）が出土した。

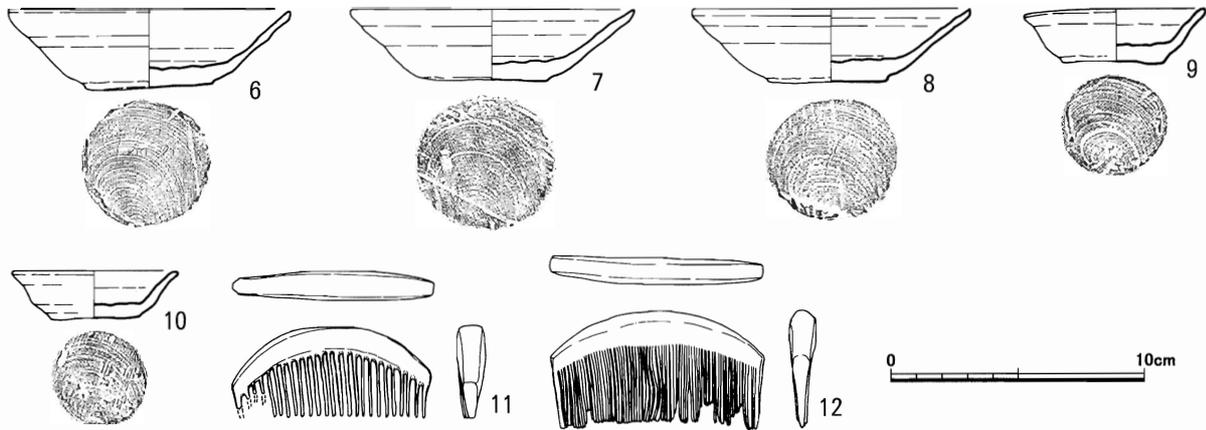
出土遺物のうち、土師質土器皿はいずれも外傾する大きく開く口縁をもつもので、底面に回転糸切り痕を残している。大きさは2種類が認められ、口径11cm・器高3cm前後と大きいもの（6・7・8）と口径7cm・器高2cm前後と小さいもの（9・10）がある。



第156図 白枝本郷遺跡3層上面1号墓実測図



第157図 白枝本郷遺跡3層上面1号墓木棺棺材実測図(1:6)



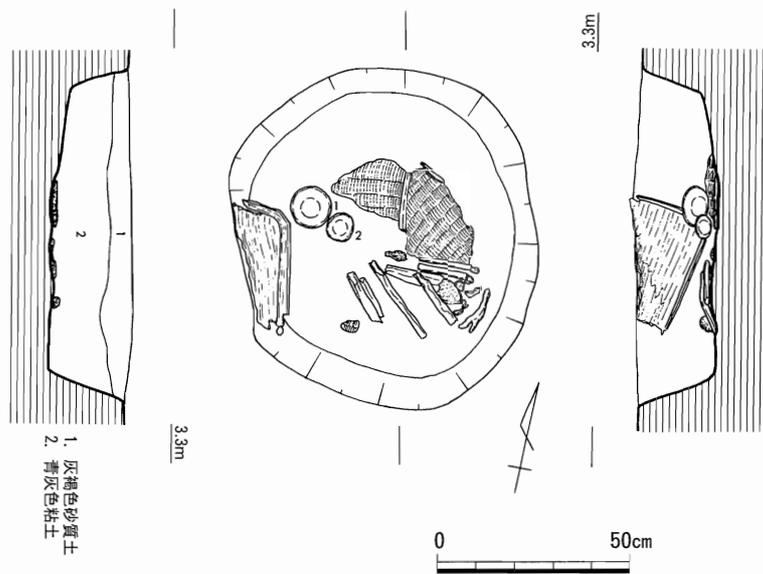
第158図 白枝本郷遺跡 3層上面 1号墓出土遺物実測図 (1:3)

櫛は2枚とも背が丸く弧状になったもので、11は長さ7.8cm・幅3.6cm・厚さ1.2cm、12は長さ8.5cm・幅4.4cm・厚さ1.0cmである。11は歯の間隔が広く2mm程度あるが、12は歯が密に並んでおり、隙間はほとんど見られない。樹種はともにヤマモモである。

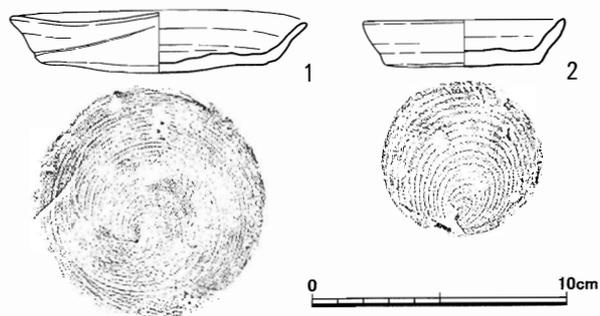
2号墓 1号建物跡の南東13m、1号墓からは南東29mのI区南西部に位置するもので、土壇墓1基が単独で営まれている(第159図)。

墓壇は南北90cm・東西75cmとやや不整形な円形を呈しており、検出面からの深さは20cmである。埋土は2層で、上層に灰褐色砂質土(1層)、下層に青灰色粘土(2層)が見られた。

墓壇の底面には葎が敷かれており、その上で人骨が検出されている。人骨は遺存状態が悪く四肢骨の一部が残っていたのみであるが、墓壇の南寄りで大腿骨・脛骨が曲がった状態で確認できたことから、頭を北に体を西に向けた状態で屈葬されていたものと考えられる。人骨の西側には土師質土器皿2枚が口縁を上にして置かれており、折敷も墓壇の西壁に沿うよう斜めに立てかけられた状態で出土して



第159図 白枝本郷遺跡 3層上面 2号墓実測図



第160図 白枝本郷遺跡 3層上面 2号墓出土遺物実測図 (1:3)

いる。

土師質土器皿はともに外傾する短い口縁を有し、底部外面に回転糸切り痕を残すものである。大きさは口径11.8cmとやや大きいもの（第160図1）と、口径8cmと小さいもの（2）があり、器高はともに2cm前後と低く浅い。

3号墓 III区南西部で検出されたもので、4号建物跡の東17m、1号溝の南東16mの位置にある。7号井戸が西に接するところにあるが、その関係から見て時期差があるものと思われる。

遺構は地面が浅く掘り窪められたもので、現状で南北85cm・東西60cmほどの大きさである。底面は被熱した淡褐色土で、その上の南側を中心として炭や骨片を含む黒褐色土が見られた（第161図）。こうした状況からこの地点では火葬が行われたものと考えられるが、火葬骨は調査区内では後述する1号溝の南端部でも検出されている。落ち込みの北側では土師質土器皿4枚ほどの破片が散らばっていた。

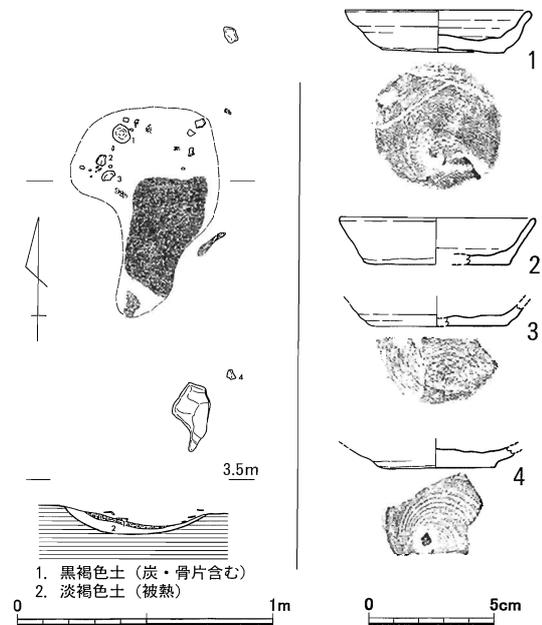
土師質土器皿のうち、第161図1・2は短い外傾する口縁が付く浅いもので、1は口径7.2cm・器高1.7cm、2は口径7.6cm・器高1.8cmである。3・4も底部の大きさからほぼ同様なものと見られ、底部外面にはいずれも回転糸切痕が残っている。

(4) 溝状遺構

1号溝 I区の北部から調査区の北側へと延びる溝である。1号溝は南側の2号溝に対し北側がやや西に振っているが、両者の位置関係よりすれば本来これらは一連のものであり、集落域である溝より西側と集落の外となる東側を分ける区画溝であったと考えられる（第162図）。1号溝の南側、2号溝の北側は2.4mの間隔を置いて溝が切れており、この部分は陸橋状になることから通路と見られる。1号溝が2号溝と一連のものであるとすれば、2号溝は3号建物跡と4号建物跡に切られた建物跡群に先立つものであり、1号溝も同様に3号・4号建物跡に先行するものと思われる。

1号溝の長さは調査した範囲で15m・幅は南端部で1.7m・中央で1.5m・北側では1.4mで、検出面からの深さは35～40cmである（第163図）。溝の横断面形は底部が平坦で、両側壁は外傾して緩く立ち上がっている。埋土はa-b断面では3層となっており上層から木片と暗灰色ブロックを含むオリーブ灰色粘質土（1層）、灰褐色粘質土（2層）、木片と灰色土ブロックを含む暗灰色粘質土（4層）である。c-d断面とe-f断面はほぼ同様で、上層に木片と暗灰色ブロックを含むオリーブ灰色粘質土（1層）があり、その下に灰褐色粘質土（2層）を薄く挟み、下層には暗灰色土ブロックを含む灰色粘質土が見られた。2層は下面に細かい砂が薄く層状に溜まっており、一時は水が溜まった状態であったと考えられる。なお、e-f断面では溝の底へ向けて竹が斜めに差し込まれていたことが分かっている。

調査区の南端部には長さ1.6m・幅1.1mの範囲に20cmの厚さで黒色有機質土が広がっていた（第



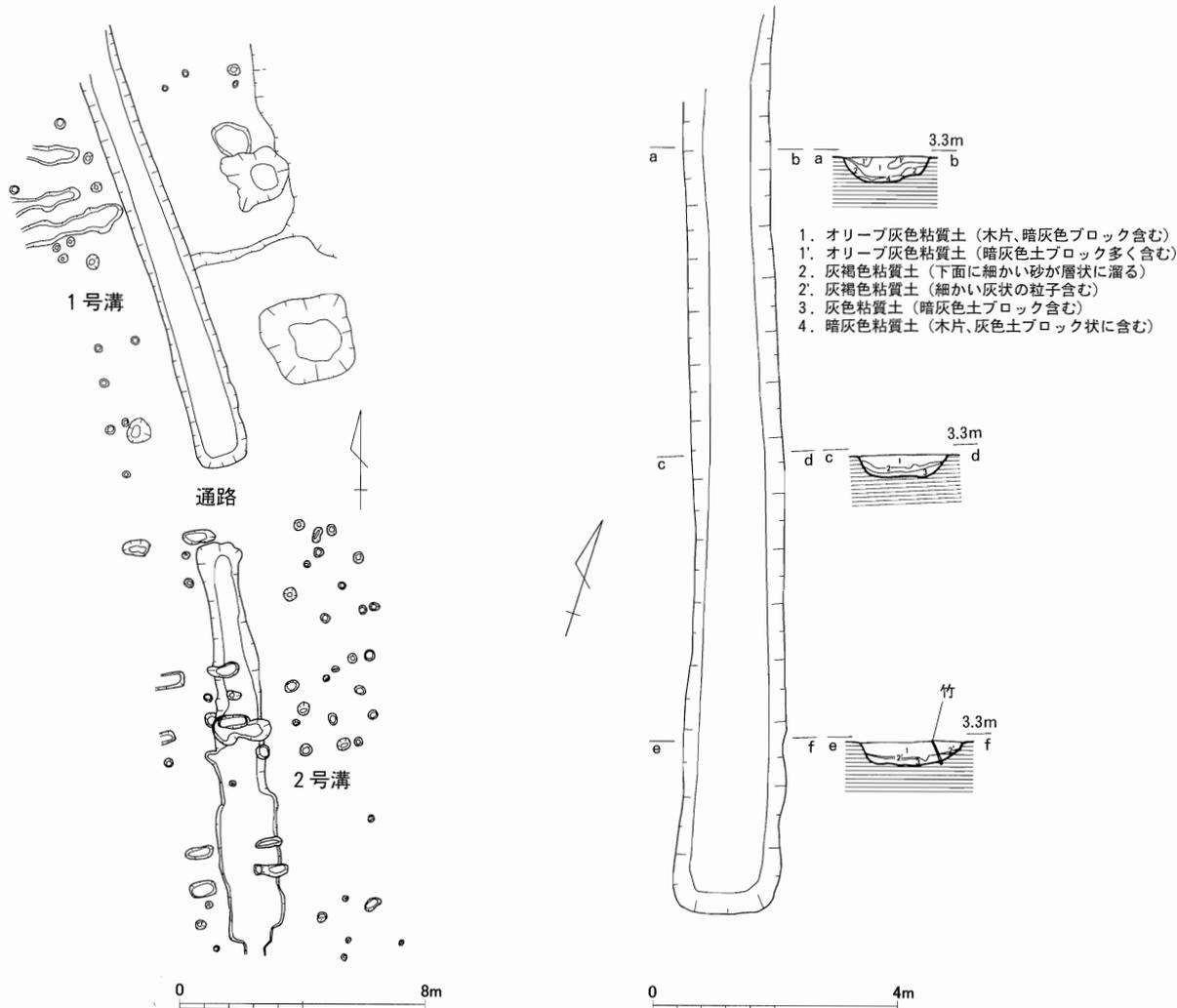
第161図 白枝本郷遺跡3層上面3号墓及び出土遺物実測図

164図)。黒色有機質土は繊維質を多く含んだ土壌で、分析を行った結果、稲藁を燃やした灰を主体とし、その他の植物片も含むものであることが分かっており、炭化したイネの他、センダンも確認されている。

遺物は南端部の黒色有機質土でのみ出土している。上面には笠や竹を折り曲げた火箸様のものが置かれており、黒色有機質土の中や下面では土師質土器皿・鳥形木製品・用途不明木製品・毛抜・鉄釘の他、備前壺甕類小片があった。笠と火箸は脆弱な遺物であるため、発泡ウレタンで梱包して土ごと取り上げており、前者は径50～53cm・後者は長さ66cm程のものである。笠の保存処理を行った際には紐（第165図7）が検出されている。

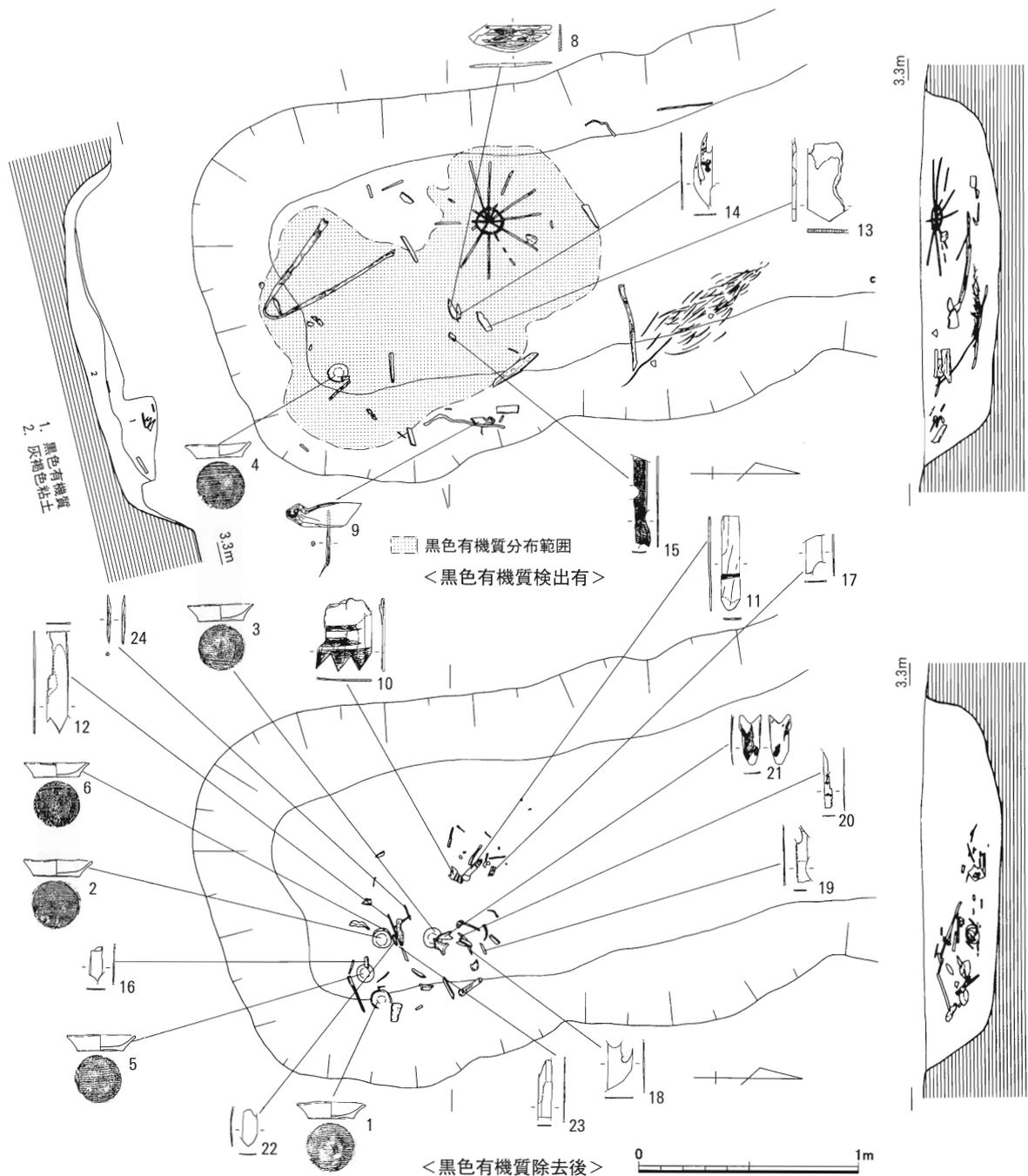
土師質土器皿は、ほぼ同形同大のものが6枚出土しており、口径は9.0～9.6cm・器高2.0～2.4cmである（第165図1～6）。いずれも、やや外反する短い口縁を有するもので、底部外面には静止糸切痕が残っていた。

鳥形木製品は板状のもの（8）と、丸彫りのもの（9）の2種類がある。8は上端の一部を欠損するが、長さ11.4cm・幅3.7cm・厚さ0.5cmほどのものである。板材の左端を尖らして嘴を、下面は弧状に削って羽を表現しており、片面に墨で目と羽を描く。樹種はヒノキ亜科である。9は長さ10.5cm・幅3.5cm・厚さ2.6cmで、方柱状の材を削り出している。頭部から羽の上面にかけては加工



第162図 白枝本郷遺跡1号・2号溝実測図

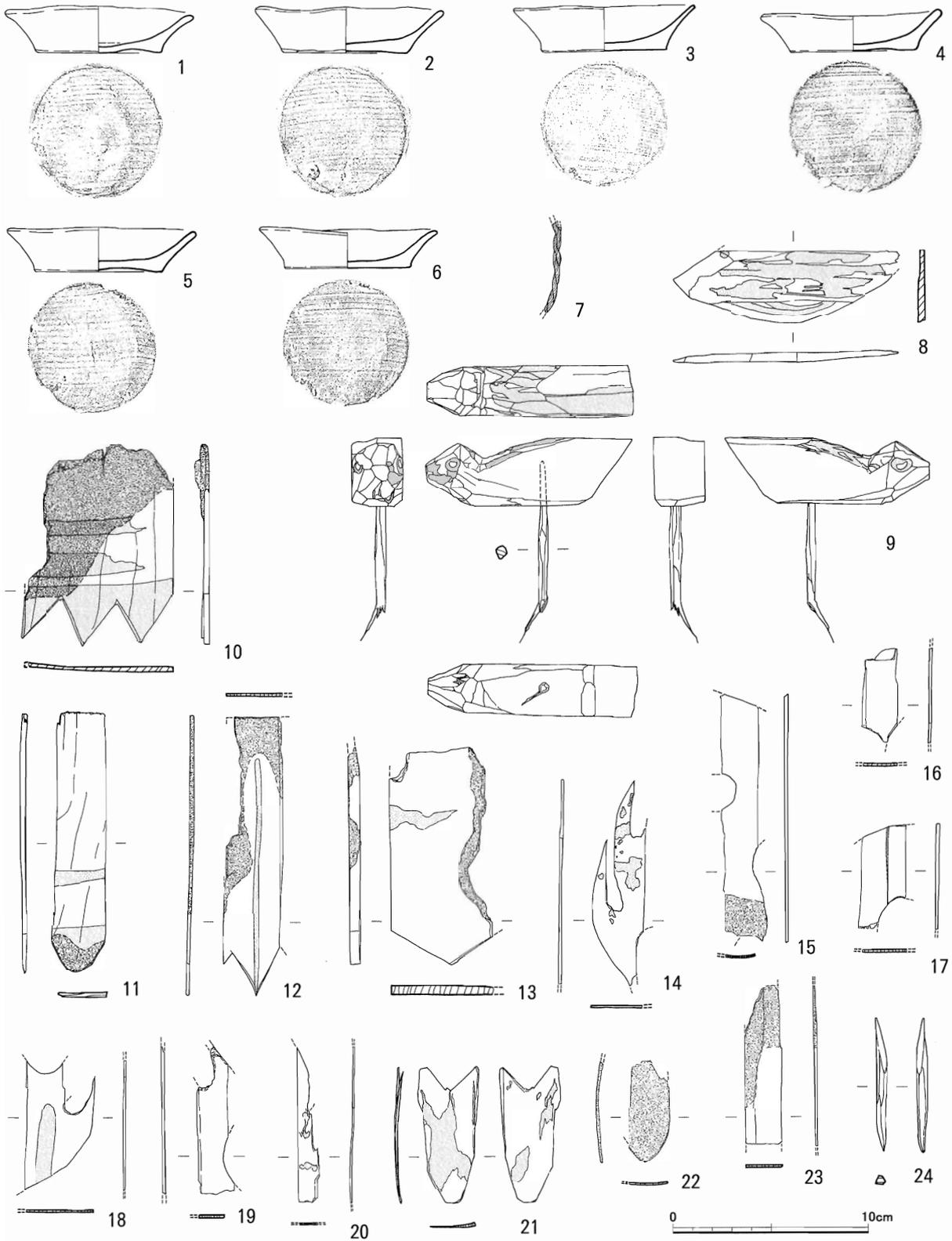
第163図 白枝本郷遺跡3層上面1号溝実測図



第164図 白枝本郷遺跡 3層上面 1号溝南端部遺物出土状況実測図

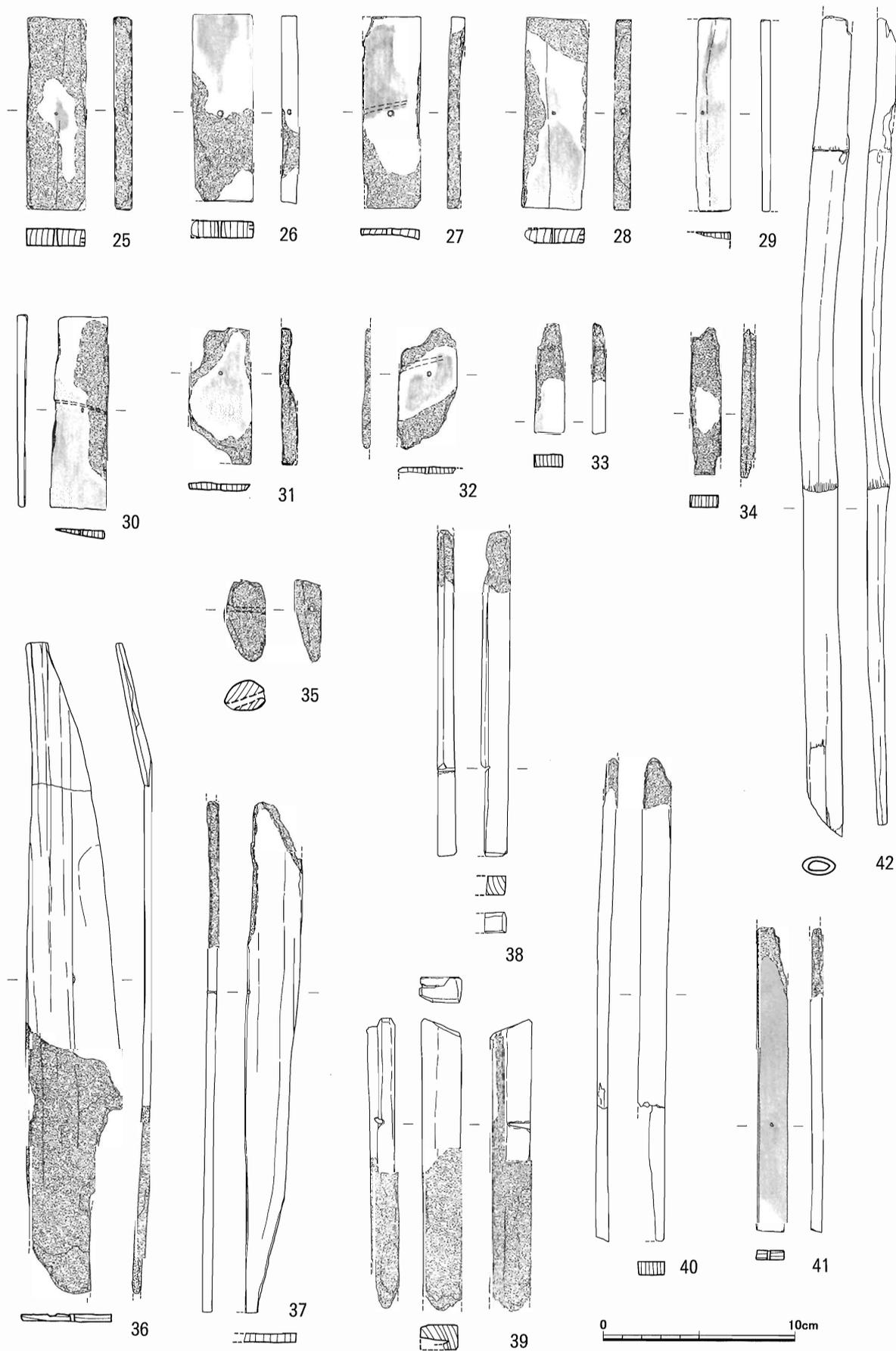
痕が顕著に残っており、頭部には両面に墨で丸く目が、上面には羽が描かれている。下面には径3mm・深さ2.4cmの孔があり、細い棒が挿入されている。棒は現状で長さ9cm以上・径は厚いところで6mmである。樹種はヒノキである。

10～23は薄い板材を加工した不明木製品で、樹種は16・18・22がヒノキ垂科とされる以外はヒノキである。このうち10～13は端部を山形に加工したものである。10は幅7.4cm・厚さ0.3cmで、端部には切れ込みが入り山形が3つ表現されている。片面には墨で3条の横線が描かれており、約半分が焼損する。12は一部焼損するが長さが分かるもので14.3cmある。内外面には墨で1条の縦線が描かれる。11も端部が焼損するが、12と同じ程度の大きさと見られ、一面に墨で1条の横線が描かれる。13は厚さ5mmとやや厚いもので、やはり一部に墨痕がある。14～20は火焰状に加工されたもの

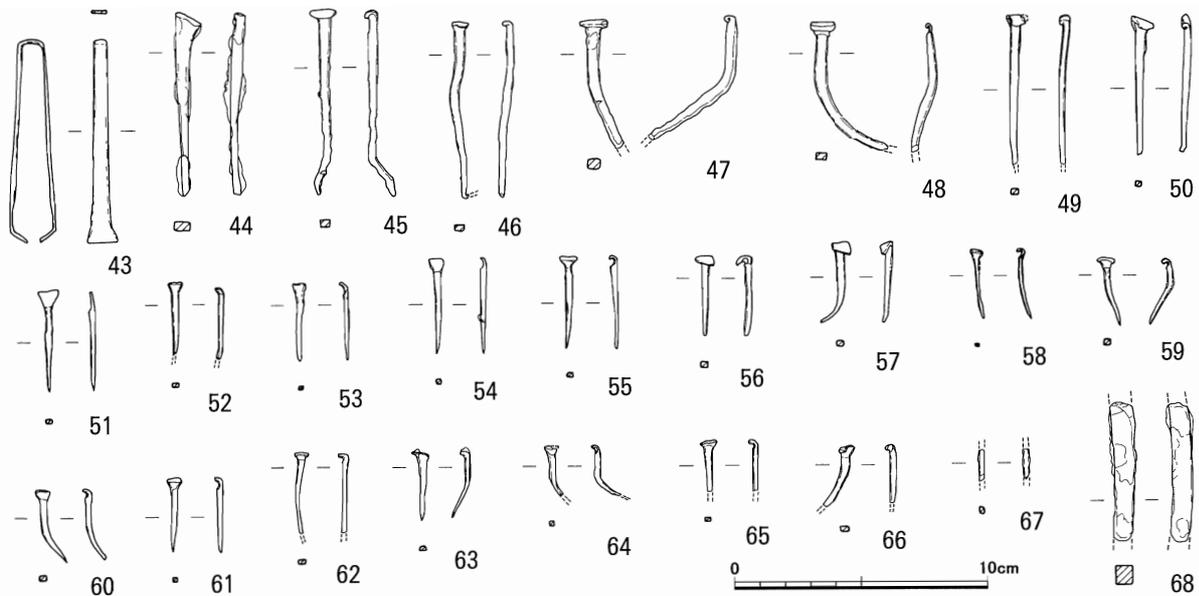


第165図 白枝本郷遺跡 3層上面 1号溝出土遺物実測図 1 (1:3)

で、14・17・18・20は一部に墨痕がある。15・19は一部が焼損する。21・22は花卉状を呈するものである。21は完形品で、一方の端部尖らし反対側に切れ込みを入れている。長さ7.0cm・幅3.1cmで、両面に墨痕を留めている。22は全面が炭化する。23は幅1.8cmの薄板で、一部が焼損する。24は両端を尖らせた棒状のもので、長さ6.9cm・幅0.5cmほどである。



第166图 白枝本郷遺跡 3層上面 1号溝出土遺物実測图 2 (1:3)



第167図 白枝本郷遺跡3層上面1号溝出土遺物実測図3 (1:3)

25～32は長方形で中央に孔のある板材で、樹種はいずれもヒノキである。25・26・28・30・32には側面にも孔があることが確認でき、ほぼ原形が分かる25は長さ10.0cm・幅3.3cm・厚さ0.8cm、26は長さ9.9cm・幅3.1cm・厚さ0.9cm、28は長さ10.0cm・幅3.1cm・厚さ0.8cmとほぼ同形同大である。表面には墨が塗布されたように見えるものも多く、焼損したのものの中には31・32のように著しいものもある。35は同様に孔をもつものであるが、焼損しているにもかかわらず現状で厚さが1.6cmあり、上述のものとは異なるようである。

33・34・40・41は幅が1.4cm・厚さ0.7前後の細長い板材で、40がヒノキ垂科である他はヒノキである。いずれも焼損するが41は端部から5.8cmのところのところに孔があり、墨が塗布される。

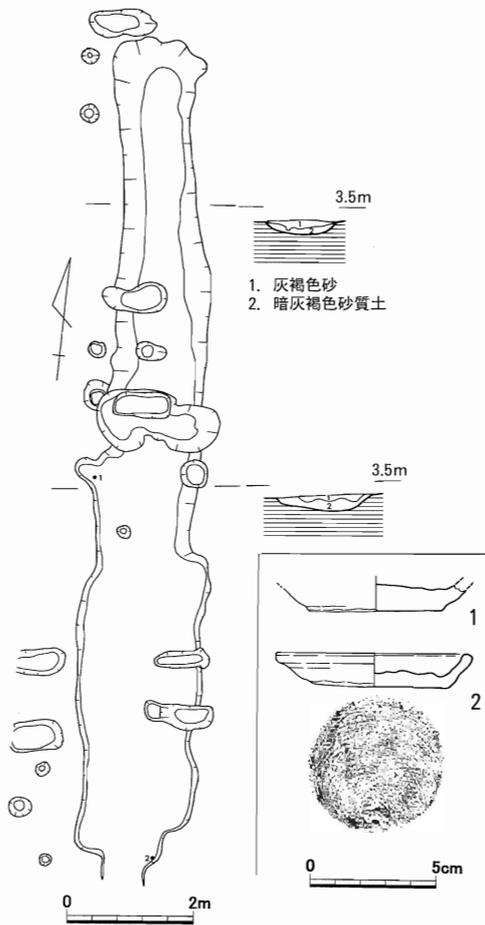
36・37は長側辺が弧状に加工された板材で、ともに焼損して原形を留めないが、36は長さ34.7cm・幅5.0cm・厚さ0.5cm、37は長さ27.2cm・幅2.8cm・厚さ0.5cmと大きい。36は端部から17.5cm、37は端部から17.0cmのところのところに孔がある。樹種はともにヒノキである。

38・39は厚さ1.1～1.4cmと厚みのある細長い板材である。38は割れているため幅は不明であるが、端部から4.4cmのところのところに孔がある。39は幅2.1cmで、端部は斜めに加工されており、これより5.5cmのところのところに孔がある。ともに焼損しており、樹種はヒノキである。

42は土圧で潰れているが竹である。端部が斜めに切られており、現状で長さ44.0cm・幅2.0cm・厚さ1.0cmである。

第167図43は鉄製の毛抜である。長さ8.2cm・幅は先端側で1.2cm・基部側で0.5cmほどのものである。44～67は鉄釘である。長さは7cm前後のもの(44～50)と、3～4cm前後のもの(51～67)の2種類がある。頭は使用により潰れたものが多いが、51のように未使用と思われるものも一部に含まれる。68は釘と比較すると太いもので、用途不明の鉄製品である。現状で長さ5.6cm・幅0.8～1.0cmである。

2号溝 1号溝の南側2.4mのところのところに北端部があり、ほぼ南北方向に伸びる溝である。1号溝に対して2号溝の南端部が僅かに西に振り角度が変わっているが、1号溝とともに掘削され、1号



第168図 白枝本郷遺跡 3層上面 2号溝
及び出土遺物実測図

溝と2号溝の間が通路として掘り残されたものと考えられる。

南端部は浅くなり消滅しているため、本来の長さは不明と言わざるを得ないが、現状で長さは13.5m、北端部幅1.5m・最大幅1.8m・南端部幅1.7m・深さは25cmほどである。3号建物跡P.1・P.5・P.8と4号建物跡のP.1が2号溝の埋土を掘り込んでいることから、3号・4号掘立柱建物跡よりも先行して営まれたものと考えられる。

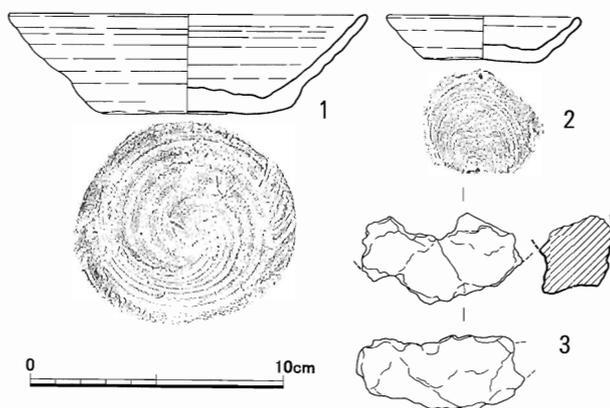
埋土は上層より灰褐色砂（1層）・暗灰褐色砂質土（2層）の2層である。出土遺物は少なかったが、溝の中央部と南端部で土師質土器皿が1点ずつ検出された。第168図1は底部で、風化するが回転糸切り痕が残る。2は器高1.4cmと浅いもので、底部に回転糸切り痕がある。

3・4号溝 I区北端部からIII区南東部にかけて検出されたもので、3号溝・4号溝とも緩やかに曲がりながら北から南東方向にほぼ平行して伸びている。III区では17・18・20号溝の埋土を切って営まれていることから、これらより後続するものと見られる。

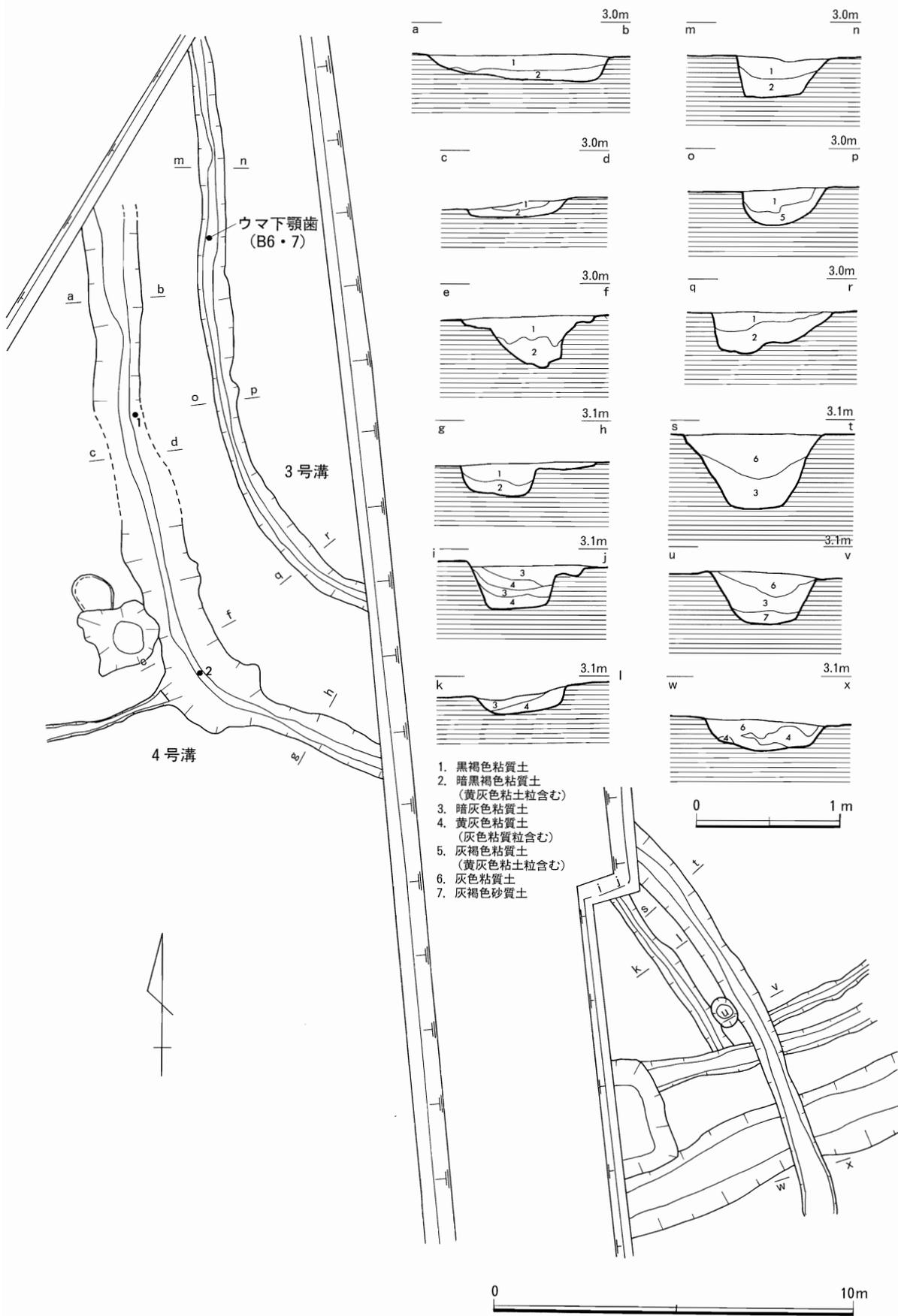
3号溝は現状で長さ40m・北端部幅0.6m・最大幅1.1m・南端部幅1.0m・深さ25～54cmである。底面の標高は北端部で2.5m・南端部で2.6mで僅かに北側へと傾斜する。埋土は北半部は黒褐色系粘質土であるが、南半部は灰色系粘質土または砂質土が見られる。出土遺物としてはI区側で馬の下顎歯が検出された。下顎骨は見当たらなかったが、歯がきれいに並んだ状態で出土しており、その状況から本来は骨に付いた状態で埋まったものと考えられる。

4号溝は現状で長さ33m・北端部幅1.6m・最大幅2.0m・南端部幅0.6m・深さ10～35cmである。底面の標高は北端部2.6m・南端部2.8mで北側へと傾斜する。埋土は北半部は黒褐色系粘質土であるが、南半部は灰色系粘質土である。

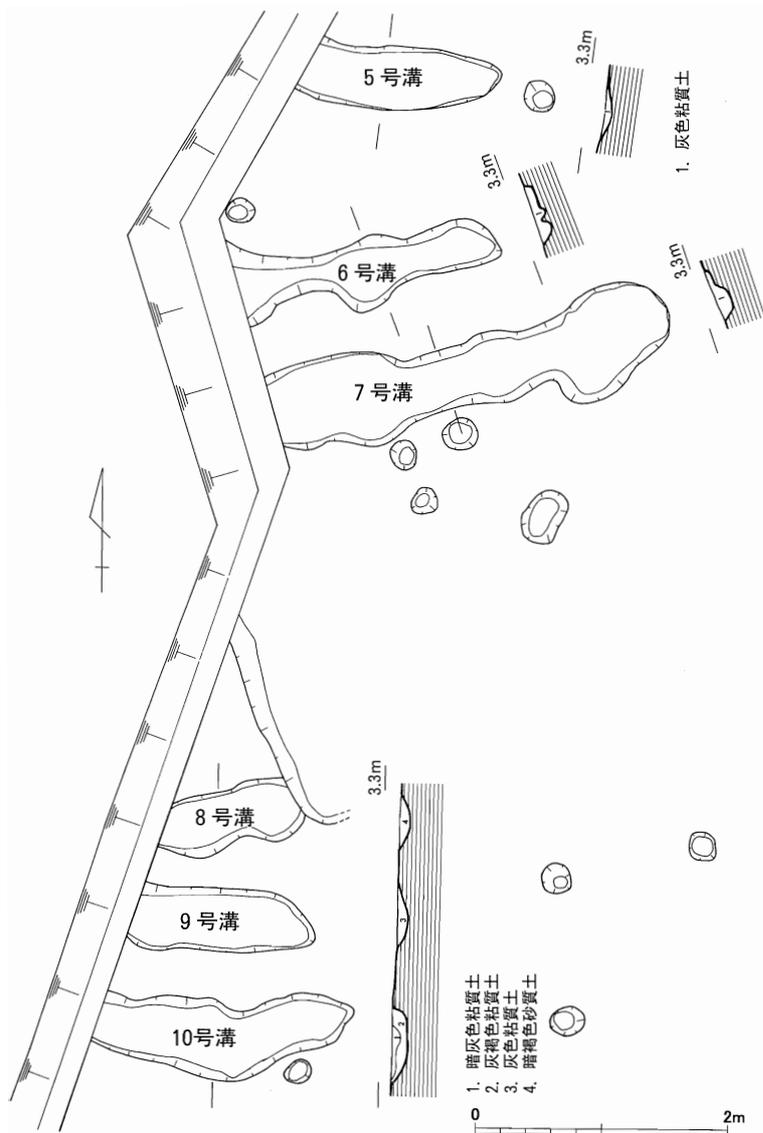
出土遺物としてはI区側で土師質土器皿2点（第169図1・2）と椀形鍛冶滓（3）が検出された。このうち3は椀形滓の縁辺部で、分析の結果、鍛錬鍛冶滓と判定されている。



第169図 白枝本郷遺跡 3層上面 4号溝
出土遺物実測図（1：3）



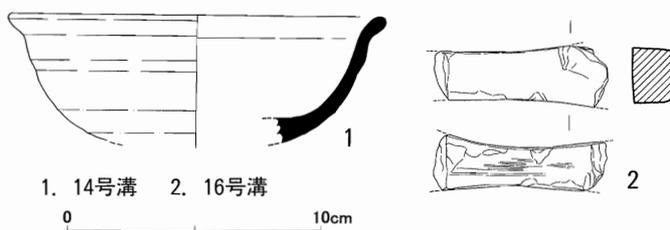
第170図 白枝本郷遺跡3層上面3号・4号溝実測図



第171図 白枝本郷遺跡 3層上面 5号～10号溝実測図

溝は確認できていないが、この道の続きと考えられる。溝の大きさは13・14号溝や15号溝の北側のように幅10cm・深さ5cm前後と細いところもあるが、15号溝の南側や11・12号溝のように幅0.6～1.2m・深さ10～20cmと広いところもある。15号溝の状況よりすれば、後者は掘り直しなどが行われたことが考えられる。

出土遺物は少ないが、14号溝北側で龍泉青磁碗D類（第172図1）が確認されている。



第172図 白枝本郷遺跡 3層上面14号・16号溝
出土遺物実測図（1：3）

5～10号溝 I区北西部に位置し西側へと続く溝である。現状では北側に5～7号溝、南側に8～10号溝が3条ずつ並んでおり、形が不整形であることや浅いことなどからすれば、畑の畝などになる可能性もある。

5号溝は幅50cm・深さ5cm、6号溝との間隔は1mである。6号溝は幅30～50cm・深さ10cm、7号溝との間隔は0.5mである。7号溝は幅50～80cm・深さ10cm、8号溝との間隔は2.5mである。8号溝は幅40～50cm・深さ7cm、9号溝との間隔は0.3～0.4mである。9号溝は幅50cm・深さ8cm、10号溝との間隔は0.4～0.5mである。10号溝は幅45～55cm・深さ10cmである。

11～15号溝 I区の西側に南北に延びる11号溝と12号溝、及び13号溝と14号溝はともに2.6mの間隔をあけて東西に並び、11号溝が13号溝、12号溝が14号溝の延長線上にあることから、これらは道の側溝である可能性がある。Ⅲ区の15号溝は13号溝の延長線上にあり、西側で対応する

16号溝 Ⅲ区の北西に位置する。現状で長さ8m・幅0.2～0.5m・深さ5cmほどのもので、埋土は炭・土器片を含む灰褐色砂質土である。

出土遺物としては凝灰岩製の砥石（第172図2）が確認されている。

(5) 井戸跡

1号井戸 I区の西側に位置するもので、北側の12号溝を切ることから、その後には営まれたことが明らかである。5号建物跡は東に3m、2号井戸は南に2mのところにある。

平面形は、南辺の一部は不明であるが、隅丸長方形を呈しており、長さ2.65m・幅1.75~2.0m・深さ1.0mである(第175図上)。検出面から深さ50cmのところには皿状に落ち込んだ陥没面があり、木片・木葉を多く含む暗茶褐色土(3層)が薄く広がる。この面では五輪塔の空風輪(第176図9)が斜めに傾いた状態が入っており、朝鮮碗(第174図2)・備前甕(6)が出土した。また、植物遺体は分析の結果、ノブドウ・フジ科・バラ科・カナムグラ・ツユクサなどが判明した。底面はこの陥没面よりさらに50cm下にあり平坦となるが、砂層まで達し調査時にも湧水があった。

出土遺物のうち、2は見込みと高台に砂目があり、6は玉縁状の口縁をもつもので、後者は15世紀代のものとされる。9は凝灰岩製で、空輪は宝珠状をなし、風輪の下には柄が付く。

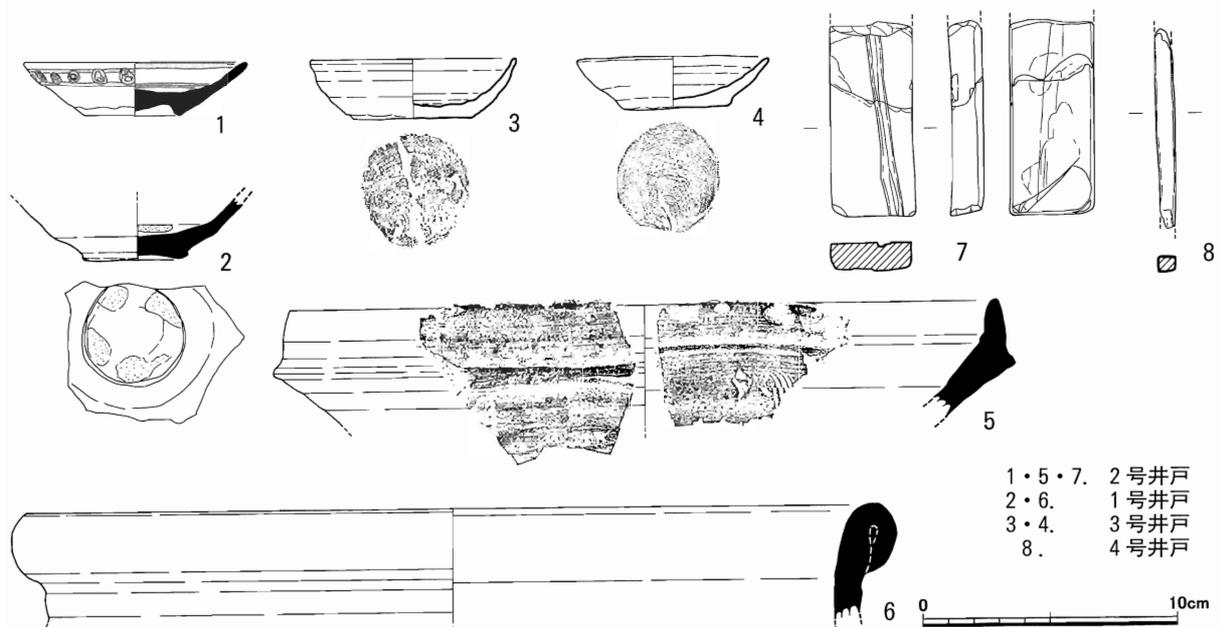
2号井戸 1号井戸の南に2m、2号建物跡の北西5mのところにある。

平面形は、やや楕円形を呈しており、南北1.9m・東西1.6m・深さは1.4m以上ある(第175図中)。検出面から深さ35cmところにはやはり皿状に落ち込んだ陥没面があり、木片・木葉を多く含む暗茶褐色腐植土(1層)が薄く広がる。この面では中国青花皿(第174図1)・備前播鉢(5)・砥石(7・第176図11)が出土している。また、陥没面の南側には石が露出していたが、掘り下げたところ石は井戸の中へ斜めに下がることを確認され、その間からは石臼片(第176図10)と石製品(12)が出土した。底面の状況は不明であるが、砂層まで達しており、調査時にも常に湧水があった。

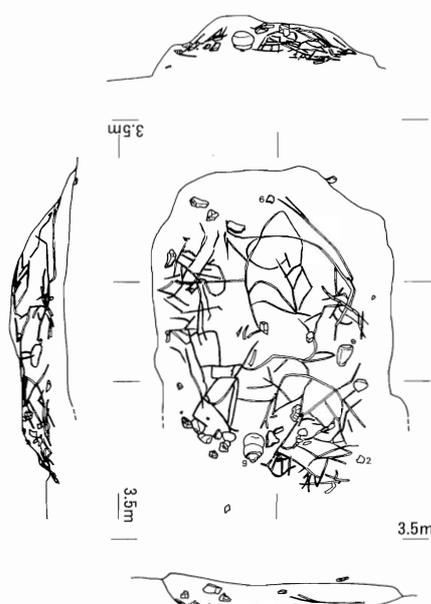
出土遺物のうち、1は16世紀前半代、5は15世紀代のものと見られる。また、12は下面に内削りがあり上面には柄孔がないことから、小形五輪塔の地輪である可能性が考えられる。

3号井戸 1号井戸の北東9mにあり、4号建物跡の西に接するところに位置する。

平面形は、上端は隅丸形状、下半は円形を呈しており、上端で一辺1.9m・深さは1.3m以上ある(第175図下左)。埋土は上層に炭・土師質土器片を含むオリーブ灰色砂質土(1層)、下層には

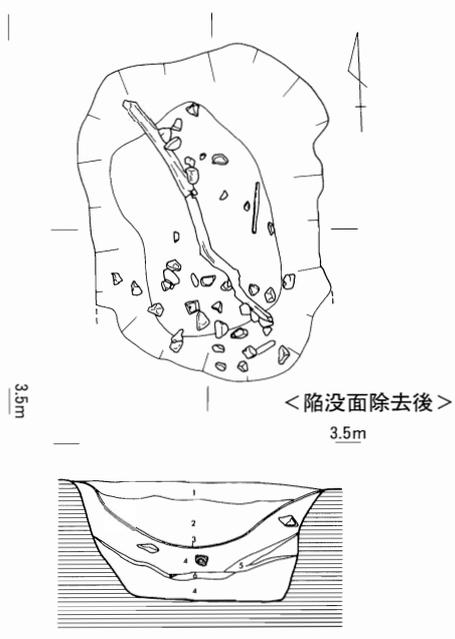


第174図 白枝本郷遺跡3層上面1号~4号井戸出土遺物実測図(1:3)

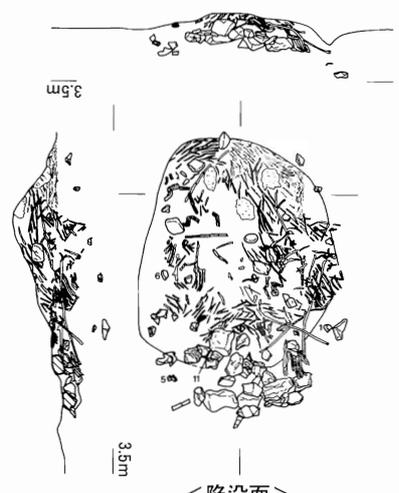


1. 灰色粘質土
2. 暗灰色粘質土 (木片を含む)
3. 暗茶褐色腐植土 (木片・木葉薄く広がる)
4. 暗灰色粘質土 (木片・木葉を多く含む)
5. 淡黒褐色粘質土
6. 暗灰褐色粘質土 (木片・木葉を多く含む)

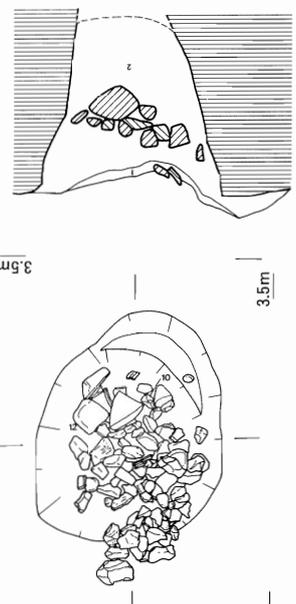
1号井戸



<陥没面>

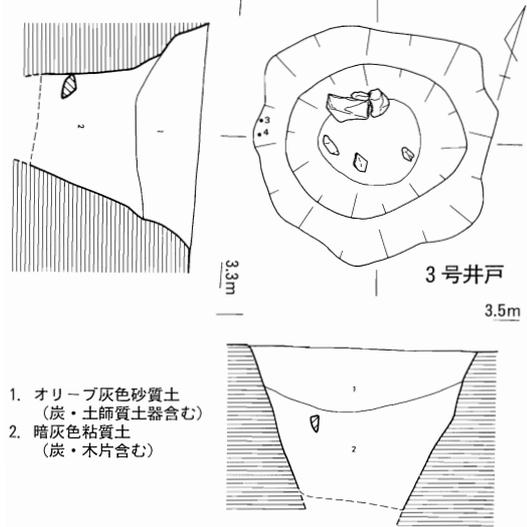


2号井戸



1. 暗茶褐色腐植土 (木片・木葉薄く広がる)
2. 灰色粘質土
3. 黒褐色粘質土 (木片を多く含む)

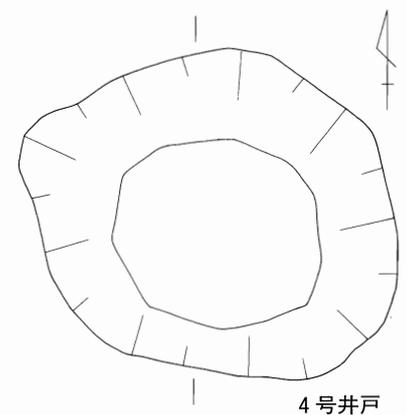
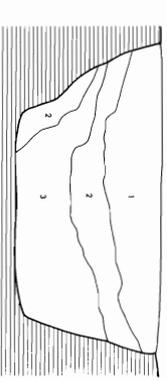
<石検出面>



1. オリーブ灰色砂質土 (炭・土師質土器含む)
2. 暗灰色粘質土 (炭・木片含む)

1. 灰色砂質土
2. 灰色粘質土
3. 暗灰色粘質土 (植物質含む)

3号井戸



4号井戸

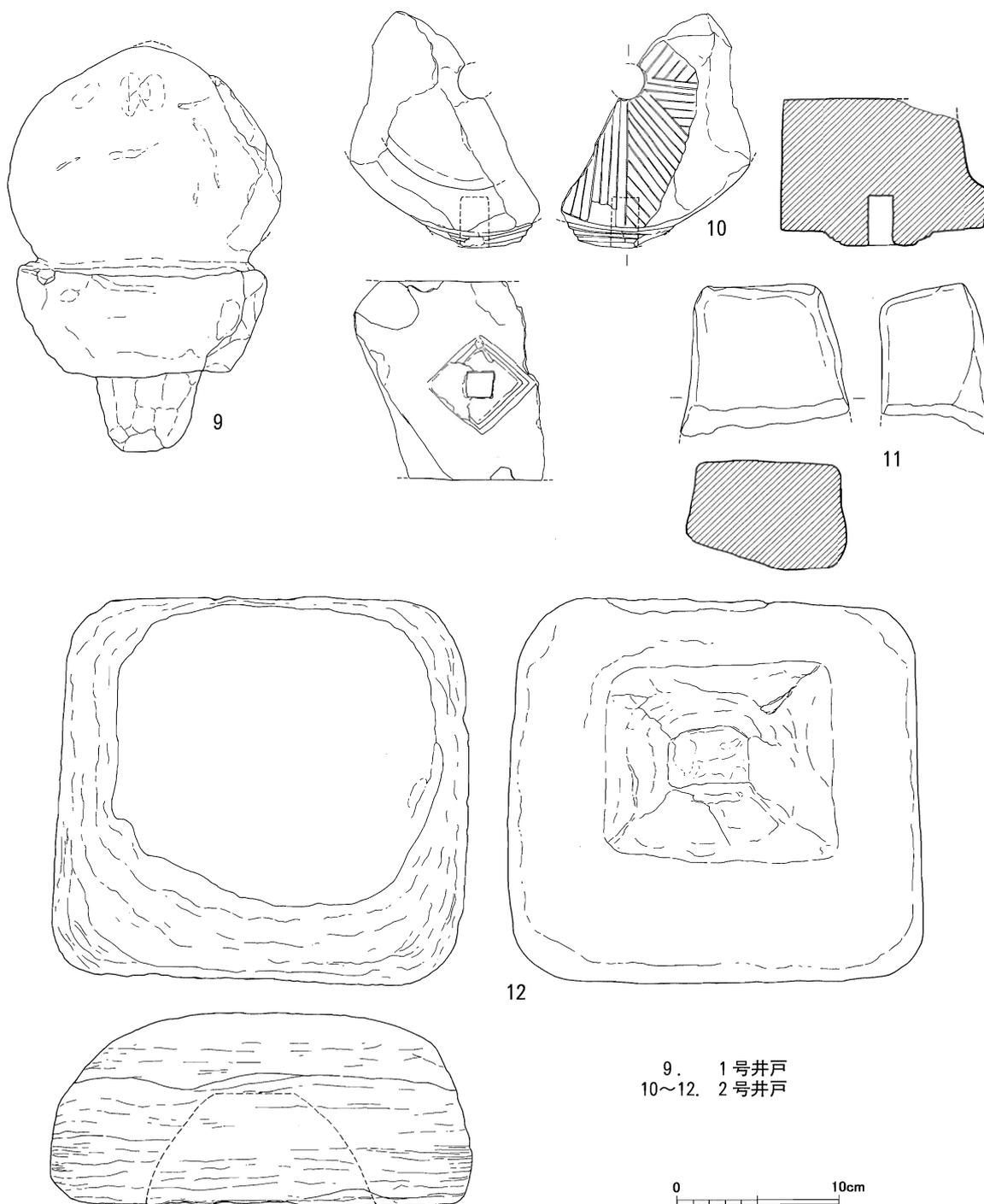


第175図 白枝本郷遺跡3層上面1号~4号井戸実測図

炭や木片が多く含まれる暗灰色粘質土（2層）が溜まる。遺物は上端の西側部分で土師質土器皿（第174図3・4）が出土している。掘り下げた深さで砂層まで達しており、調査時にも常に湧水があった。

4号井戸 I区の中央部、3号建物跡と重複し、1号井戸の東10m、3号井戸の南東6mに位置する。3号建物跡のP.10に切られることからこれに先行するものと考えられる。

平面形は不整な楕円形を呈しており、南北2.6m・東西2.8m・深さは1.1mである（第175図下右）。埋土は3層で、上層により灰色砂質土（1層）・灰色粘質土（2層）・植物質を含む暗灰色粘質土



9. 1号井戸
10~12. 2号井戸

第176図 白枝本郷遺跡3層上面1号・2号井戸出土遺物実測図（1：4）

(3層)が入っていた。底面は平坦になっているが、掘り下げた深さで砂層まで達しており、調査時にも常に湧水が見られた。出土遺物としては棒状の鉄製品(第174図8)がある。

5号井戸 I区の北部に位置するもので、4号建物跡は南に11m、1号溝は西に2m、6号井戸は南に3.5mのところにある。

平面形は、上端は不整形であるが、下端は円形を呈しており、上端で南北1.7m・東西2.1m・深さ1.3m以上である(第177図上左)。埋土は4層で、上層より炭を含む灰褐色粘質土(1層)、黒色有機物を含む灰色粘質土(2層)、植物質を含む暗灰色粘質土(3層)、木片・青灰色粘土塊を含む暗灰色粘質土(4層)が溜まっている。底面の状況は不明であるが、掘り下げた深さで砂層まで達しており、調査時にも常に湧水があった。出土遺物には備前壺・甕小片がある。

6号井戸 1号溝の東1m、5号井戸の南3.5mのところにある。

平面形は、隅丸方形を呈しており、南北2.7m・東西2.8m・深さ0.9mである(第177図上右)。埋土は基本的には3層で、上層より炭を含む灰褐色砂質土(1層)、炭を含む灰色粘質土(2層)、植物片を含む黒褐色粘質土(3層)があり、3層の壁沿いには植物片を含むオリーブ灰色粘質土(4層)、植物片を含む暗灰色粘質土(5層)、淡灰色粘質土(6層)が見られた。底面は平坦となっているが、掘り下げた深さで砂層まで達しており、調査時にも常に湧水があった。

出土遺物としては、土師質土器皿(第178図1・2)・柱状高台付皿(3)・播鉢(9・10)、瓷器系甕(11)、備前壺甕類(12)、砥石(13)、棒状鉄製品(14・15)、木製品柄(第179図23)、曲物片(24・25)、棒状木製品(26)がある。このうち、9・10は土師質焼成のもので内外面にハケメまたはナデがあり、内面には粗い摺目が施されている。11は口縁内外面に灰色の化粧土が薄くかかり、13世紀後半代のもものと見られる。23は柄の端部、24・25は曲物の側板で縦方向に浅いケビキが数条入っており、樹種はともにスギである。

7号井戸 III区の南西に位置するものであるが、調査区の制約から東半部しか調査できなかった。4号溝の西1.5m・6号井戸の南東12mのところにある。

平面形は西半部は不明であるが方形を呈するものと見られ、東辺の長さは2.8m・深さは0.9mである(第177図中左)。埋土は4層で、上層から灰色粘質土(1層)、植物質を多く含む灰色粘質土(2層)、植物質を多く含む暗灰色粘質土(3層)、植物質・砂を含む暗灰色砂質土層(4層)がある。底面は平坦であるが、掘り下げた深さで砂層に達し、調査時にも常に湧水があった。

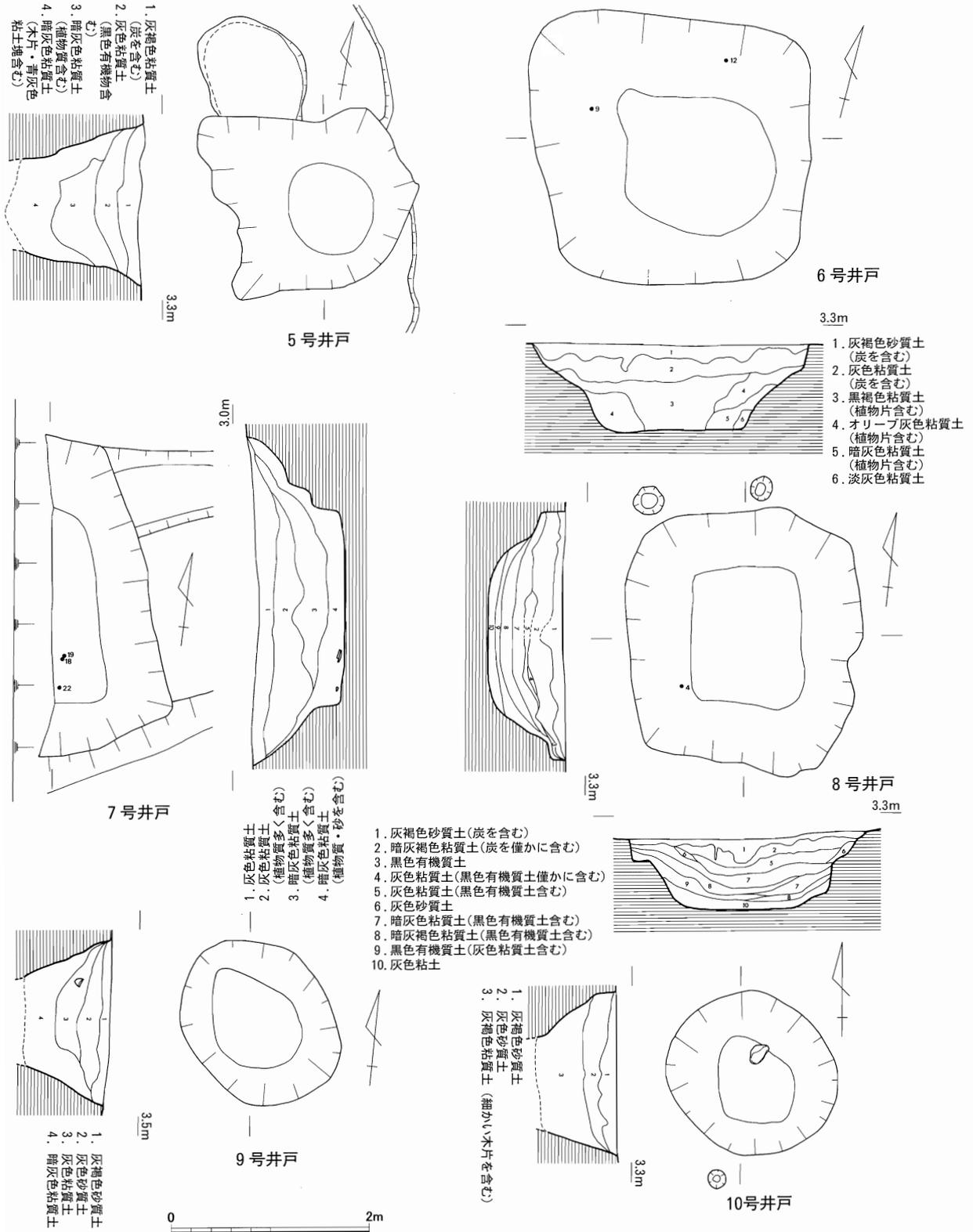
底面直上で杓子未成品(第179図18~21)・不明木製品(22)が検出された他、土師質土器皿(第178図6)も出土している。このうち、杓子は頭部(18・19)の内割がなく、加工も粗いことから未成品と見られるもので、20・21は柄である。樹種は18・19がフジキ、20・21はエノキであった。22は上面を浅く平坦に削るが、樹皮が残っており、樹種はエノキであった。

8号井戸 I区の東部に位置するもので、2号建物跡の東7m、3号建物跡の南東8m、4号井戸の南東11mのところにある。

平面形はやや不整な方形を呈しており、南北2.6m・東西2.4m・深さは0.7mである(第177図中右)。埋土は基本的には7層で、上層から灰褐色砂質土(1層)、暗灰褐色粘質土(2層)、黒色有機質土を含む灰色粘質土(5層)、黒色有機質土を含む暗灰色粘質土(7層)、黒色有機質土を含む暗灰褐色粘質土(8層)、灰色粘質土を含む黒色有機質土(9層)、灰色粘土(10層)がある。底面は平坦で、掘り下げた深さで砂層まで達しており、調査時にも常に湧水が見られた。

出土遺物としては土師質土器皿（第178図4・5）、備前播鉢（7）・壺甕片、陶器壺（8）、不明鉄製品（17）がある。このうち4は口縁部に厚く煤が付着した灯明皿で、17は頭部がやや太くなった火箸状の鉄製品を環状に折り曲げたものである。

9号井戸 II区の北部に位置するもので、15号溝からは西へ3mのところにある。

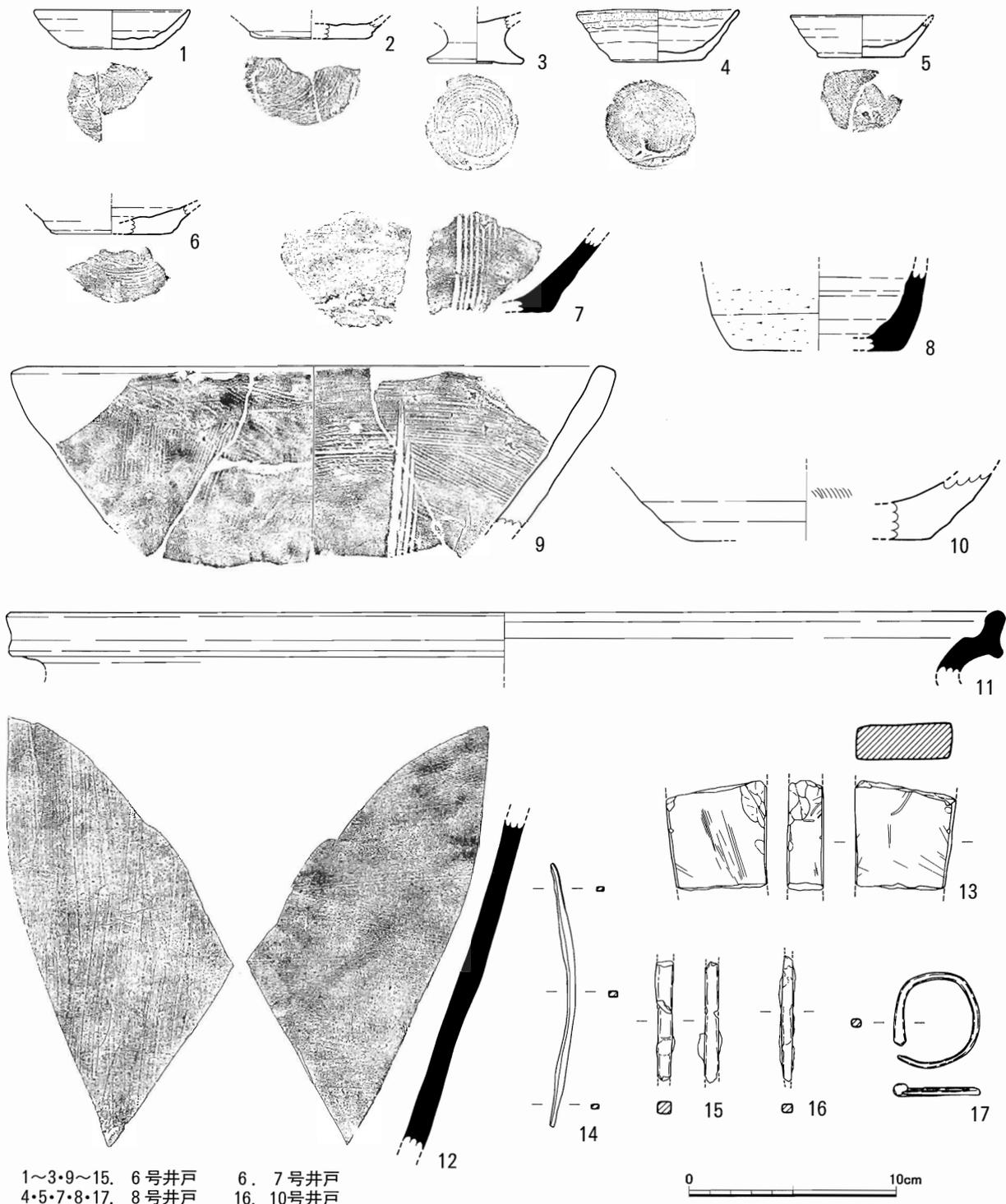


第177図 白枝本郷遺跡 3層上面 5号~10号井戸実測図

平面形はやや不整な円形を呈しており、南北1.7m・東西1.5m・深さは0.9m以上である（第177図下左）。埋土は4層で、上層から灰褐色砂質土（1層）、灰色砂質土（2層）、灰色粘質土（3層）、暗灰色粘質土（4層）が溜まっている。底面の状況は不明であるが、掘り下げた深さで砂層まで達しており、調査時にも常に湧水があった。出土遺物はなかった。

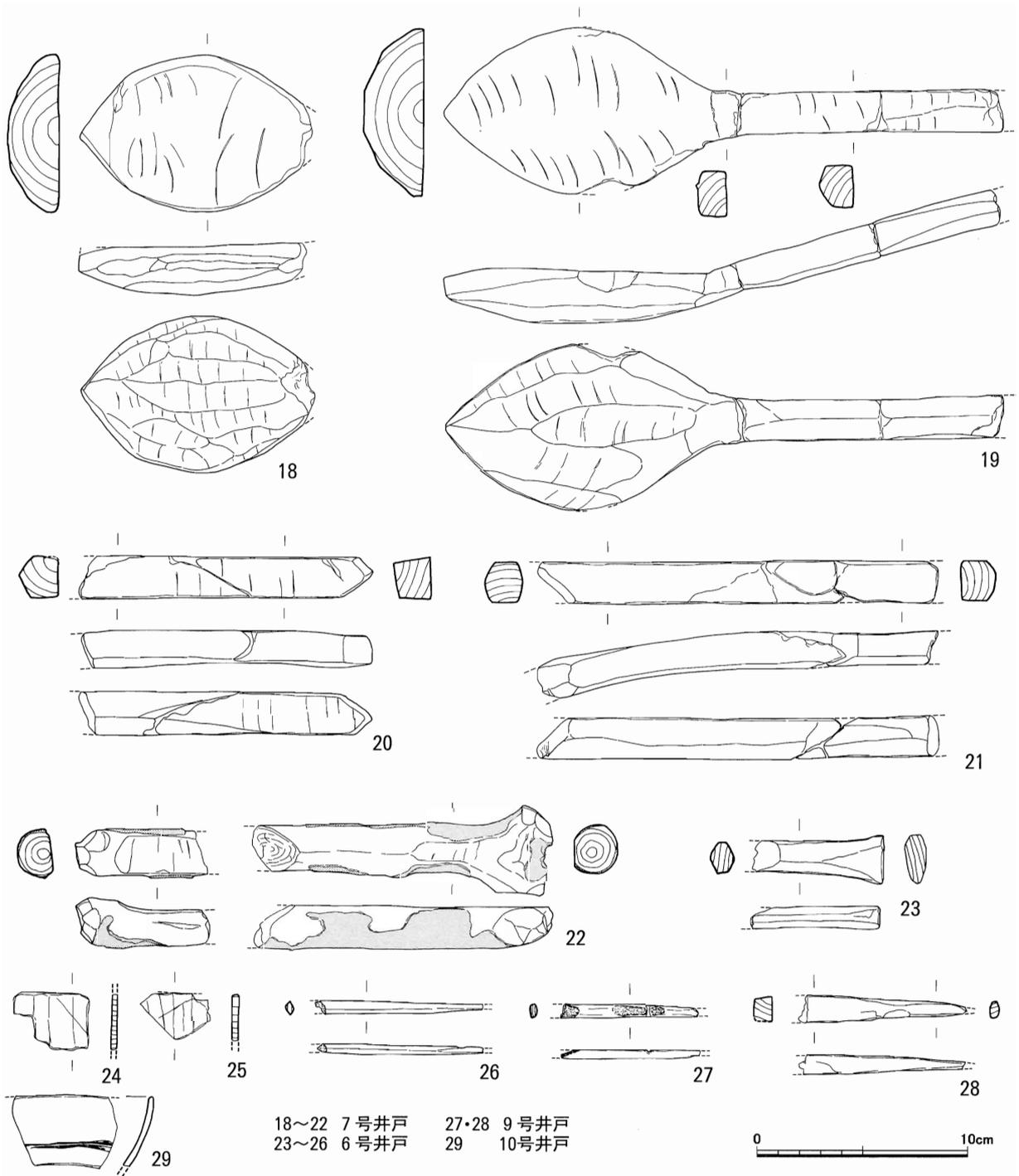
10号井戸 II区の南端部に単独で位置するもので、周囲にはピットが見られる。

平面形はやや不整な円形を呈しており、南北1.7m・東西1.8m・深さは0.7m以上である（第177



1~3・9~15. 6号井戸
4・5・7・8・17. 8号井戸
6. 7号井戸
16. 10号井戸

第178図 白枝本郷遺跡3層上面6号~8号、10号井戸出土遺物実測図（1:3）



第179図 白枝本郷遺跡3層上面6号・7号・9号・10号井戸出土遺物実測図(1:3)

図下右)。埋土は3層で、上層から灰褐色砂質土(1層)、灰色砂質土(2層)、細かい木片を含む灰褐色粘質土(3層)がある。底面の状況は不明であるが、掘り下げた深さで砂層まで達し、調査時にも常に湧水があった。

出土遺物としては棒状鉄製品(第178図16)の他、漆器碗片(第179図29)が確認されている。このうち、29は外面に赤漆で描かれた文様が見られ、樹種はヒノキである。

(6) 土 坑

土坑としたものは、平面形が方形・長方形・円形と様々で、深さについても浅いもの・深いものが見られる。中には深さがあり井戸とも見られるものや、土師質土器が置かれ古墓である可能性をもつものも含まれているが、性格を断じるだけの積極的な材料が見当たらないものについて、ここでは土坑として取り上げた。

1号土坑 I区の北部、1号溝の東4m、5号井戸の北1m、6号井戸の北5.5mのところであり、4号溝の直上に位置する。

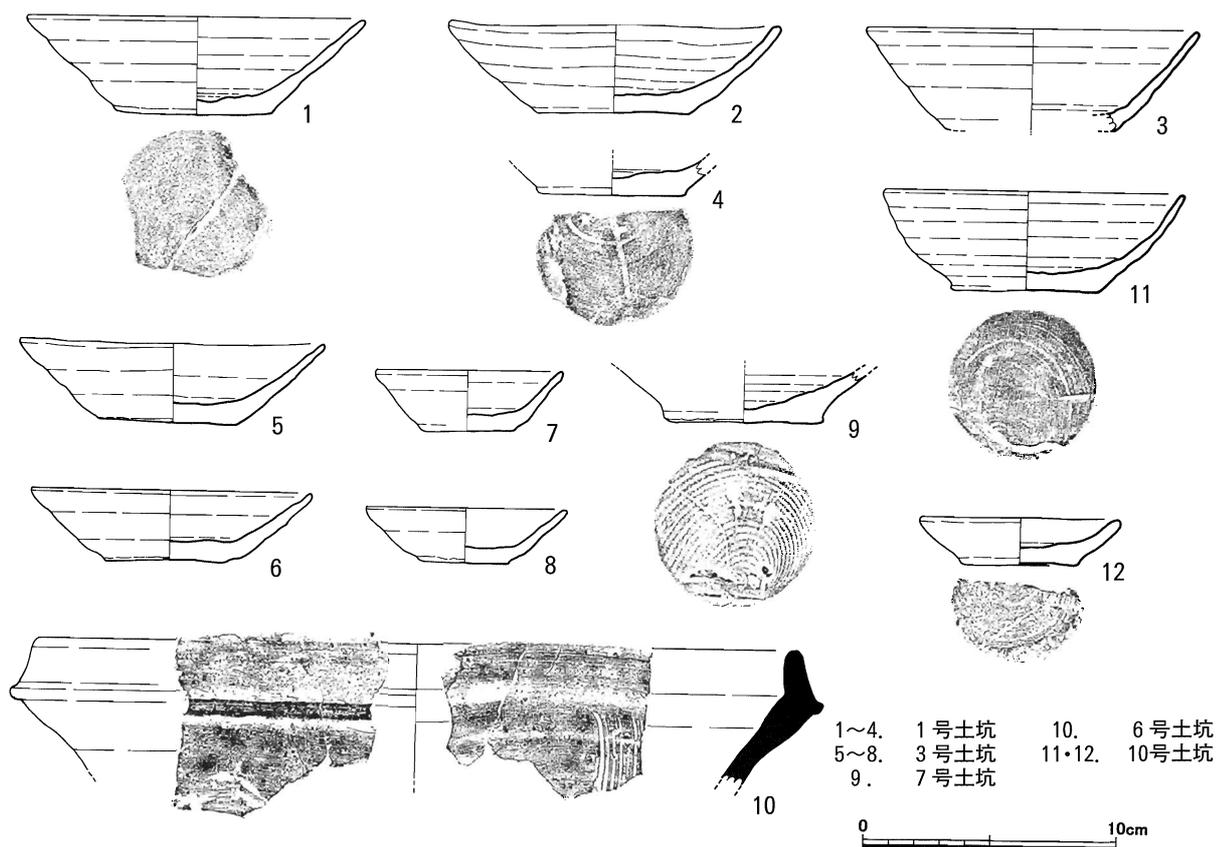
平面形は円形を呈しており、南北75cm・東西70cm・深さは10cmである（第181図上段上左）。横断面形は浅い皿状を呈しており、ほぼ中央で土師質土器坏4个体（第180図1～4）が検出された。出土状況は中央の2が口縁を下に伏せられ、その上に4、北側に1が正位に置かれていた。

土師質土器坏は、いずれも外傾する口縁をもち底部に回転糸切痕を残すものである。1は口径13.4cm・器高3.9cm、2は口径13.0cm・器高3.7cm、3は口径13.2cm、4は底部の大きさから見て1・2と同形同大のものと考えられる。

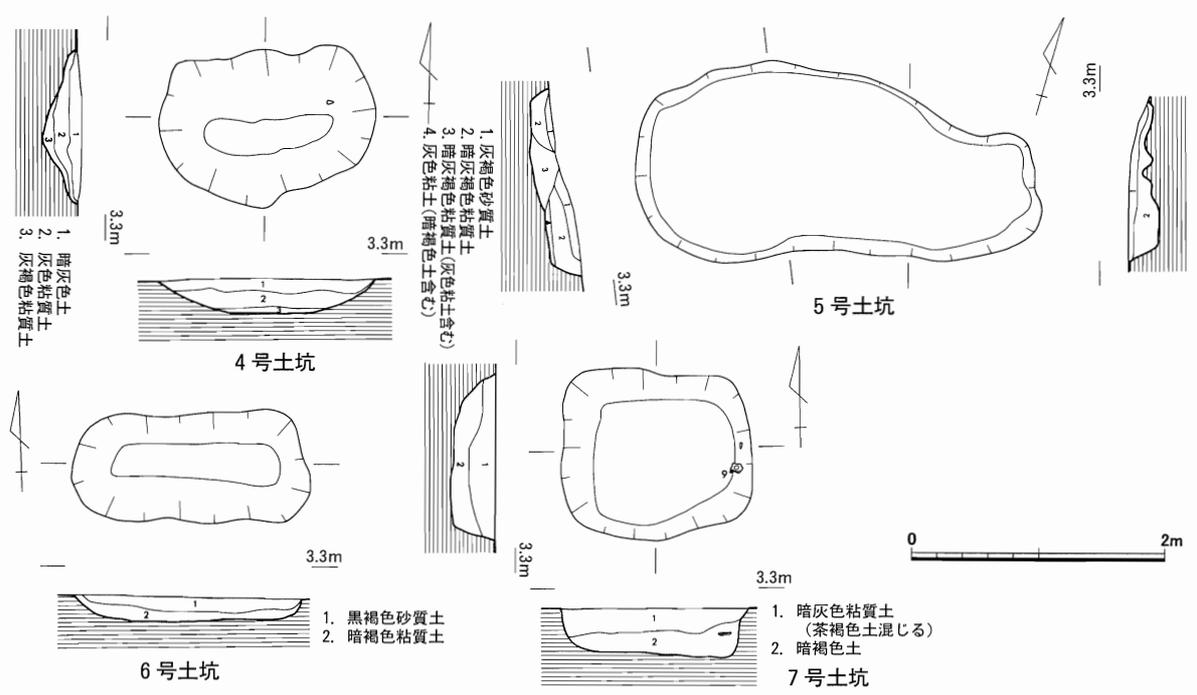
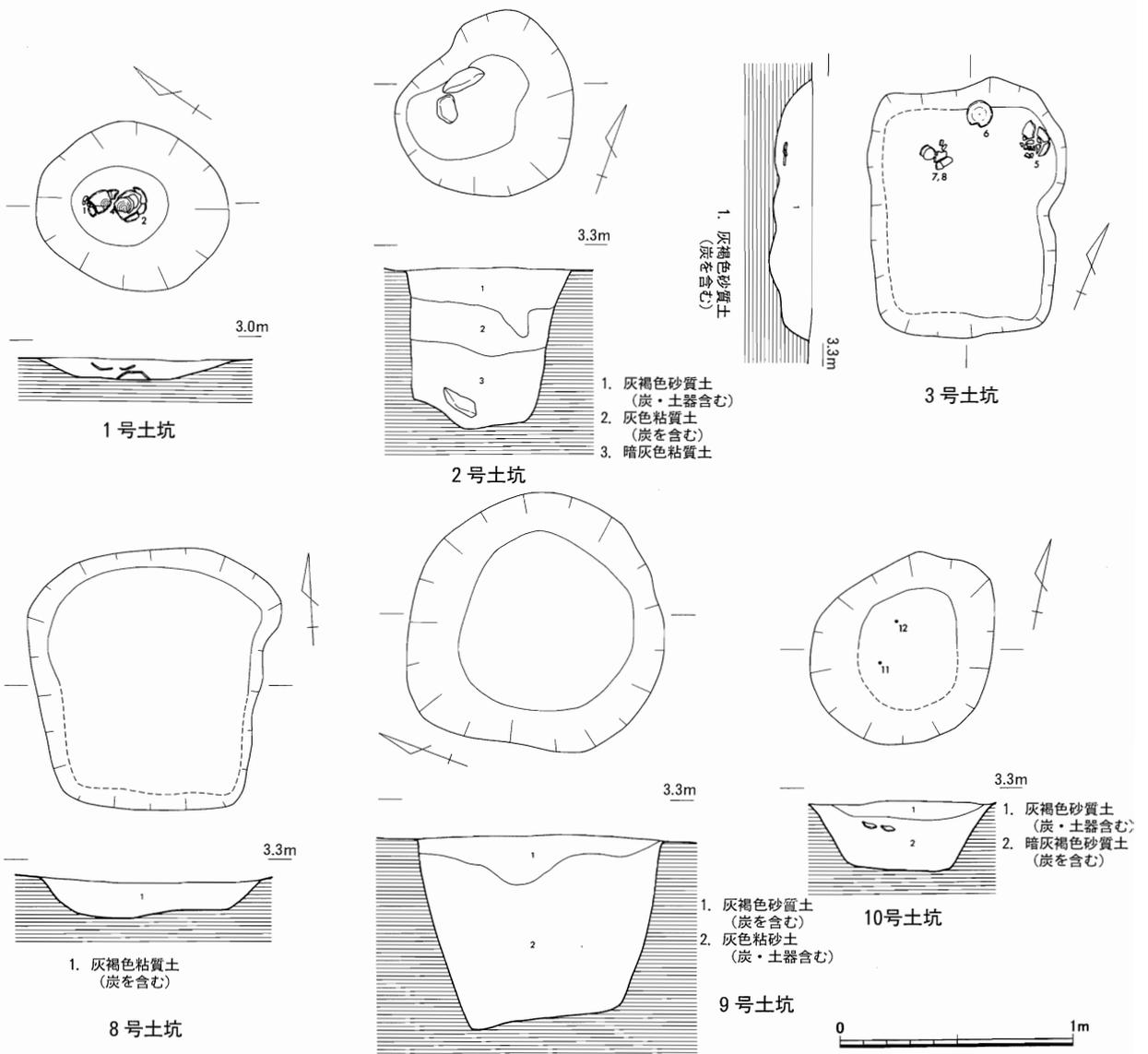
2号土坑 I区の北部、1号溝の西1m、4号建物跡の北3.5mに位置するものである。

平面形はやや不整な円形を呈しており、南北80cm・東西75cm・深さ70cmである（第181図上段中）。埋土は上層から灰褐色砂質土（1層）、灰色粘質土（2層）、暗灰色粘質土（3層）の順に溜まっている。底面はやや凹凸があって石が入り、備前壺甕類小片が出土している。

3号土坑 I区の北部に位置し、5号建物跡と重複するものであるが、切り合いはなく前後関係



第180図 白枝本郷遺跡3層上面1号・3号・6号・7号・10号土坑出土遺物実測図（1：3）



第181図 白枝本郷遺跡3層上面1号~10号土坑実測図

は不明である。1号墓は南西に19m、1号溝は北東11mのところにある。

平面形は隅丸長方形を呈しており、長さ110cm・幅80cm・深さ20cmである（第181図上段上右）。埋土は炭を含む灰褐色砂質土（1層）で、北側底面付近では土師質土器坏4個体分が検出されている。土器は第180図6が壁寄りの中央部、5が北東隅部、7・8は6の南西側に置かれており、すべて口縁を上にしていた。

土師質土器はいずれも外傾する口縁を有し、底部外面に回転糸切痕を残すものである。大きさは口径11.0～12.0cm・器高2.9～3.3cmの5・6と、口径7.3～7.9cm・器高2.2～2.5cmの7・8の2種類に分けることができる。

4号土坑 I区の西側にあり、5号土坑が南東側に、6号土坑が南西側に接する位置にある。

平面形は不整な楕円形を呈しており、長さ1.7m・幅1.1m・深さ25cmである（第181図下段上左）。横断面形は各壁が緩く立ち上がる皿状を呈しており、埋土は3層で、上層から暗灰色土（1層）、灰色粘質土（2層）、灰褐色粘質土（3層）が溜まっている。

5号土坑 I区の西側にあり、西に4号土坑が接し、6号土坑が西に1.5mに位置している。

平面形は不整な長楕円形を呈しており、長さ3.2m・幅1.5m・深さ20～25cmである（第181図下段上右）。埋土は基本的には2層で、上層から灰褐色砂質土（1層）、暗灰褐色粘質土（2層）の順に溜まる。但し西側では暗灰褐色粘質土（3層）が中央に見られることから、これを挟んで2度掘削が行われているとも考えられ、本来は土坑ではなく溝状を呈するものであった可能性もある。

6号土坑 I区の西側にあり、4号土坑が北東側に接し、7号土坑が南1.0mに位置している。

平面形は不整な長楕円形を呈しており、長さ1.8m・幅0.9m・深さ20cmである（第181図下段下左）。横断面形は各壁が緩く立ち上がる皿状となり、埋土は2層で、上層から黒褐色砂質土（1層）、暗褐色粘質土（2層）となる。

出土遺物としては備前播鉢（第180図10）があり、15世紀代頃のものと思われる。

7号土坑 I区の西側にあり、6号土坑が南1.0m、1号墓の北3.0mに位置している。

平面形はやや不整な方形を呈しており、長さ1.5m・幅1.35m・深さ40cmである（第181図下段下右）。横断面形は各壁が直立気味に立ち上がり、埋土は2層で、上層から茶褐色土が混じる暗灰色粘質土（1層）、暗褐色土（2層）となる。

出土遺物としては土師質土器坏（第180図9）が西壁に沿う位置で確認されている。底部の破片で、底面に回転糸切痕が見られる。

8号土坑 I区の西南側にあり、1号建物跡の西3.0m、1号墓の東5.0mに位置している。

平面形は不整な方形を呈し、長さ1.15m・幅1.1m・深さ15cmである（第181図上段下左）。横断面形は浅い皿状で、埋土は炭を含む灰褐色粘質土（1層）である。龍泉青磁小片が出土している。

9号土坑 I区の南側、1号建物跡、2号建物跡と重複する地点に位置する。

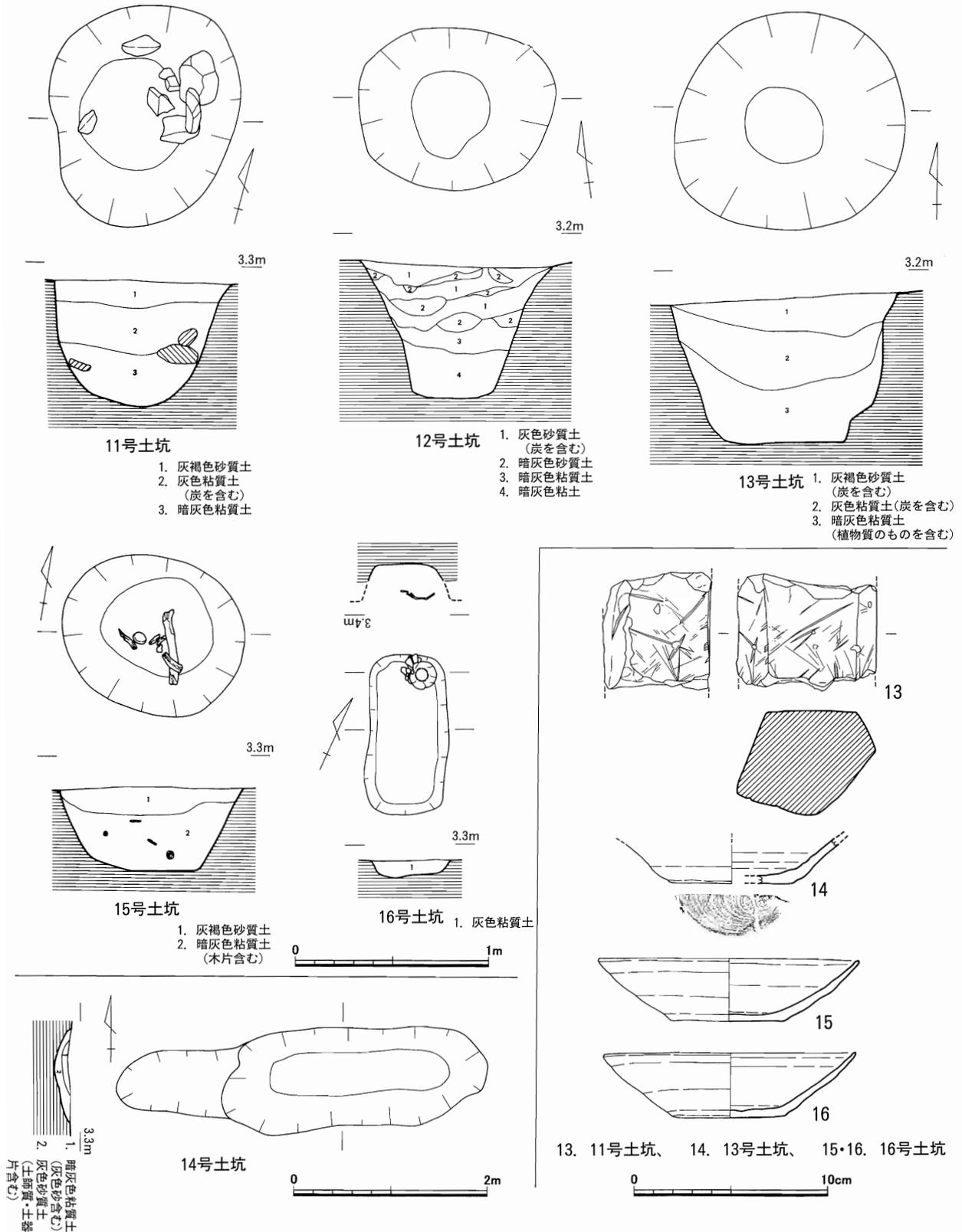
平面形はやや不整な円形を呈しており、径1.1m・深さ0.8mである（第181図上段下中）。横断面形は底面が平坦で深く、埋土は2層で、上層より炭を含む灰褐色砂質土（1層）、炭・土器を含む灰色粘砂土（2層）である。

10号土坑 I区の東側にあり、3号建物跡の東5mの地点に位置する。

平面形は不整な円形を呈しており、南北85cm・東西75cm・深さ30cmである（第181図上段下右）。横断面形は底面が平坦で壁は外傾して立ち上がり、埋土は上層より炭・土器を含む灰褐色砂質土

(1層)、炭を含む暗灰褐色砂質土(2層)である。

出土遺物としては、土坑の中程くらいの深さから土師質土器(第180図11)、同皿(12)が確認された。ともに外傾する口縁と回転糸切りの残る底部をもつものであるが、11は口径11.8cm・器高5.8cmと深く、12は口径7.8cm・器高1.9cmと浅い。



第182図 白枝本郷遺跡 3層上面11号~16号土坑及び出土遺物実測図

11号土坑 I区の南側にあり、2号墓の西4.5m、12号土坑の東2mのところに位置する。

平面形は楕円形を呈しており、南北1.15m・東西1.0m・深さ0.65mである(第182図上左)。横断面形は底面が丸く、U字形をなす。埋土は3層で、上層より灰褐色砂質土(1層)、炭を含む灰色粘質土(2層)、暗灰色粘質土(3層)である。2層と3層の境目付近には石が落ち込んでいた。

出土遺物としては、砥石(第182図13)がある。

12号土坑 I区の南側にあり、11号土坑の西2m、13号土坑の東6mに位置する。

平面形は楕円形を呈しており、南北85cm・東西100cm・深さ70cmである(第182図上中)。横断面形は底面が平坦で壁は外傾し、埋土は基本的には3層で、上層より炭を含む灰色砂質土(1層)、暗灰色粘質土(3層)、暗灰色粘土(4層)がある。1層には暗灰色砂質土(2層)が塊状に含まれ乱れがある。

13号土坑 I区の南側にあり、12号土坑の西6m、1号建物跡の南東6.5mに位置する。

平面形は円形を呈しており、径1.15~1.2m・深さ75cmである(第182図上右)。横断面形は底面が平坦で壁は外傾し、埋土は3層で、上層より炭を含む灰褐色砂質土(1層)、炭を含む灰色粘質土(2層)、植物質を含む暗灰色粘質土(3層)がある。出土遺物には土師質土器坏(第182図14)が確認された。

14号土坑 II区の北側にあり、9号井戸の北1m、15号溝の西2.5mに位置する。

平面形は長楕円形を呈しており、西側が浅く窪む。これを合わせた全長は3.8m、楕円形部分は長さ2.7m・幅1.0m・深さ15cmである(第182図下)。横断面形は浅い皿状で、埋土は上層より灰色砂を含む暗灰色粘質土(1層)、土師質土器片を含む灰色砂質土(2層)である。

15号土坑 II区の北側にあり、14号土坑の南4.5m、15号溝の西1mに位置する。

平面形は楕円形を呈しており、南北85cm・東西95cm・深さ43cmである(第182図中左)。横断面形は底面が平坦で壁は外傾し、埋土は上層より灰褐色砂質土(1層)、木片を含む暗灰色粘質土(2層)である。

16号土坑 II区の西側にあり、16号溝の南3.0mに位置する。

平面形は隅丸長方形を呈しており、長さ85cm・幅40cm・深さ8cmである(第182図中右)。土坑の北東隅では土師質土器坏2個体が伏せて置かれており、その位置からすれば土坑は本来もう少し深さがあったものと見られる。埋土は灰色粘質土(1層)である。

土師質土器坏(第182図15・16)はほぼ同形同大のもので、口径13.0~13.4cm・器高3.4cmである。ともに外傾する口縁をもち、底部は回転糸切りである。

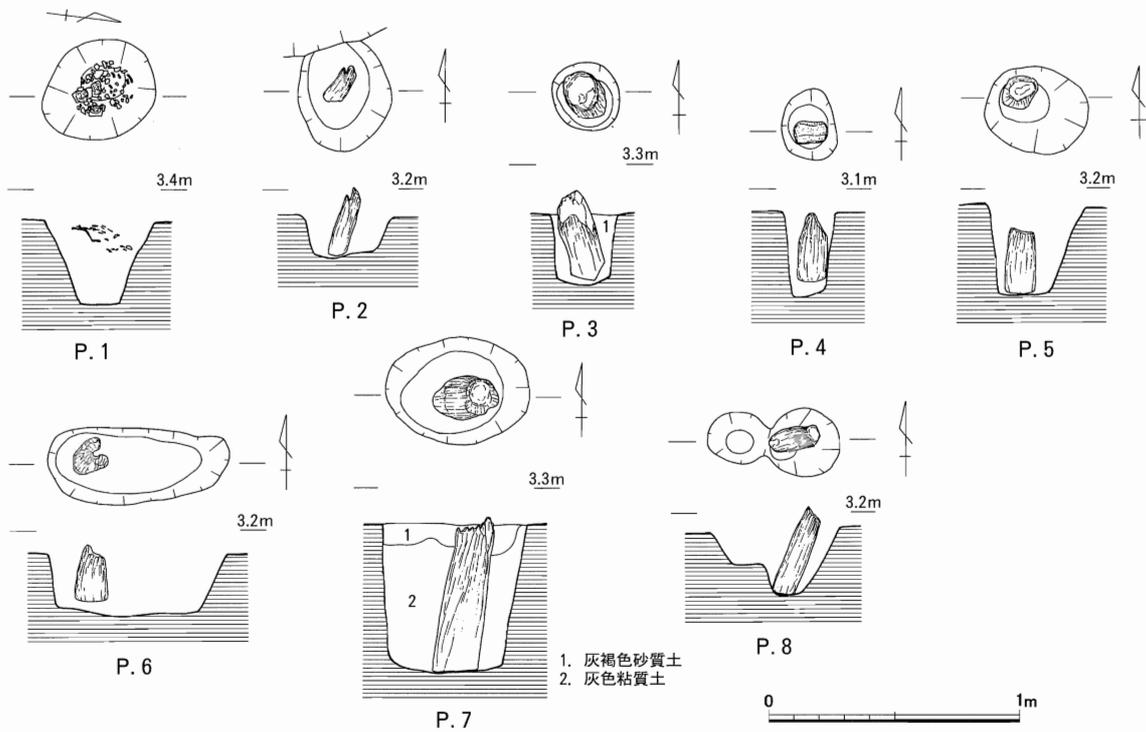
(6) ピット群

I区では掘立柱建物跡であることが明らかになった5棟の他にも、柱根が残るピットが検出されており、まだ建物跡が存在することが考えられるが、十分明らかにできなかった。ここでは遺物や柱根が出土したピットについて触れておくこととしたい。

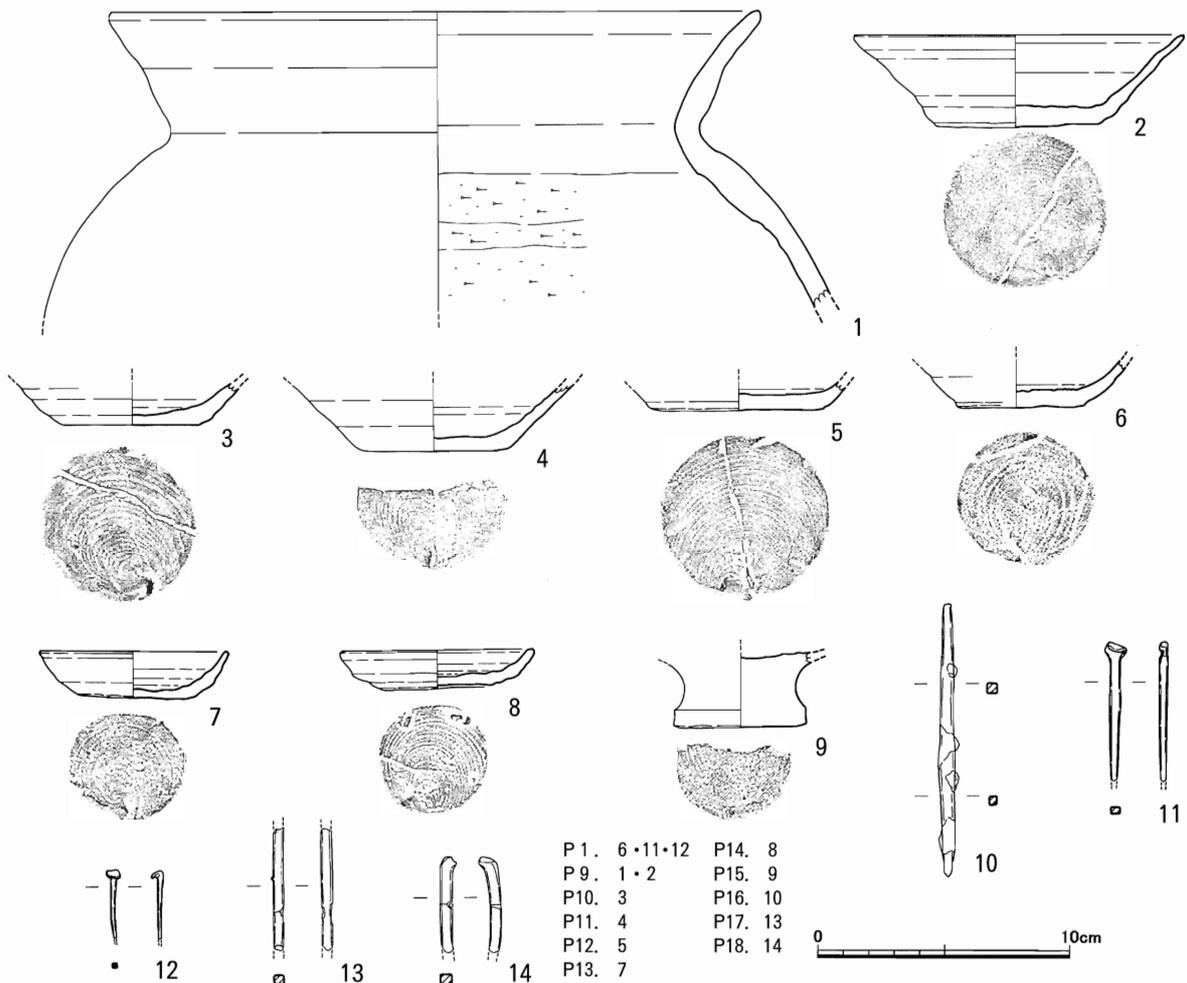
P. 1 4号建物跡と重複する位置にある。径40cm・深さ35cmほどのもので、ピットの上半に土師質土器片(第184図6)と鉄釘(11・12)が入っていた。

P. 2 2号建物跡と重複する位置にある。長径45cm・短径37cm・深さ15cmで、径7cm・長さ28cmの柱根が残っていた。樹種はクリである。

P. 3 1号建物跡の南2.5mのところにあり。径27cm・深さ28cmで、径13cm・長さ35cmの柱根が



第183図 白枝本郷遺跡 3層上面ピット群実測図



第184図 白枝本郷遺跡 3層上面ピット群出土遺物実測図 (1:3)

残っていた。樹種はクリである。

P. 4 1号建物跡の南3mのところにある。径21~28cm・深さ34cmで、径8~12cm・長さ28cmの柱根が残っていた。樹種はクリである。

P. 5 1号建物跡及び2号建物跡の南東部に接する位置にある。径34~40cm・深さ38cmほどのもので、径12cm・高さ26cmの柱根が残っていた。樹種はウルシ属である。

P. 6 1号建物跡及び2号建物跡の南東部、P. 5に接する位置にある。径31~72cm・深さ24cmほどのもので、径13cm・高さ23cmの柱根が残っていた。樹種はクリである。

P. 7 2号建物跡の東6mのところの位置する。径43~57cm・深さ60cmで、径18cm・長さ62cmの柱根が残っていた。樹種はクリである。

P. 8 P. 7の北東1mのところの位置する。西側で他のピットと一部重複するが、径28cm・深さ30cmで、径10cm・長さ37cmの柱根が残っていた。樹種はクリである。

この他にはP. 9~P. 18で土師質土器や鉄釘などの鉄製品が出土している。土器の多くは土師質土器の坏または皿であるが、P. 9出土の甕は下層の遺物が混入したものと見られる。また、P. 15では柱状高台付皿が確認された。

(7) 1・2層出土遺物

1層及び2層の出土遺物は、I区を中心に確認されており、II区及びIII区は散在するような状況である(第185図)。これは遺構の密度が反映されたものと見られ、1・2層の遺物は3層上面の遺構面と関わるものが多いと考えられる。出土遺物には、弥生土器(第186図1~3)、土師器(4)、須恵器(5~7)、青磁(8~11)、白磁(12・13)、備前(14・15・17・18)、瓷器系(16)、唐津(19・20)、肥前(21・22)、瓦質土器(23)、土師質土器(24~26、第187図27~31)、砥石(32~38)、木製品(39~42)、銅製品(43~45・47、第188図1~3)、鉄製品(46・48~57)、鍛冶関係遺物(58~60)が確認されている。

弥生土器 1は甕である。立ち上がりの短い複合口縁をもち、外面に凹線が入る。頸部内面以下はケズリである。2・3は壺の頸部である。ともに凹線を巡らし、その下に斜行刺突文を施しており、2は刺突文が2段になる。内面の上半はナデとするが、3の下半はケズリの後ナデと見られる。

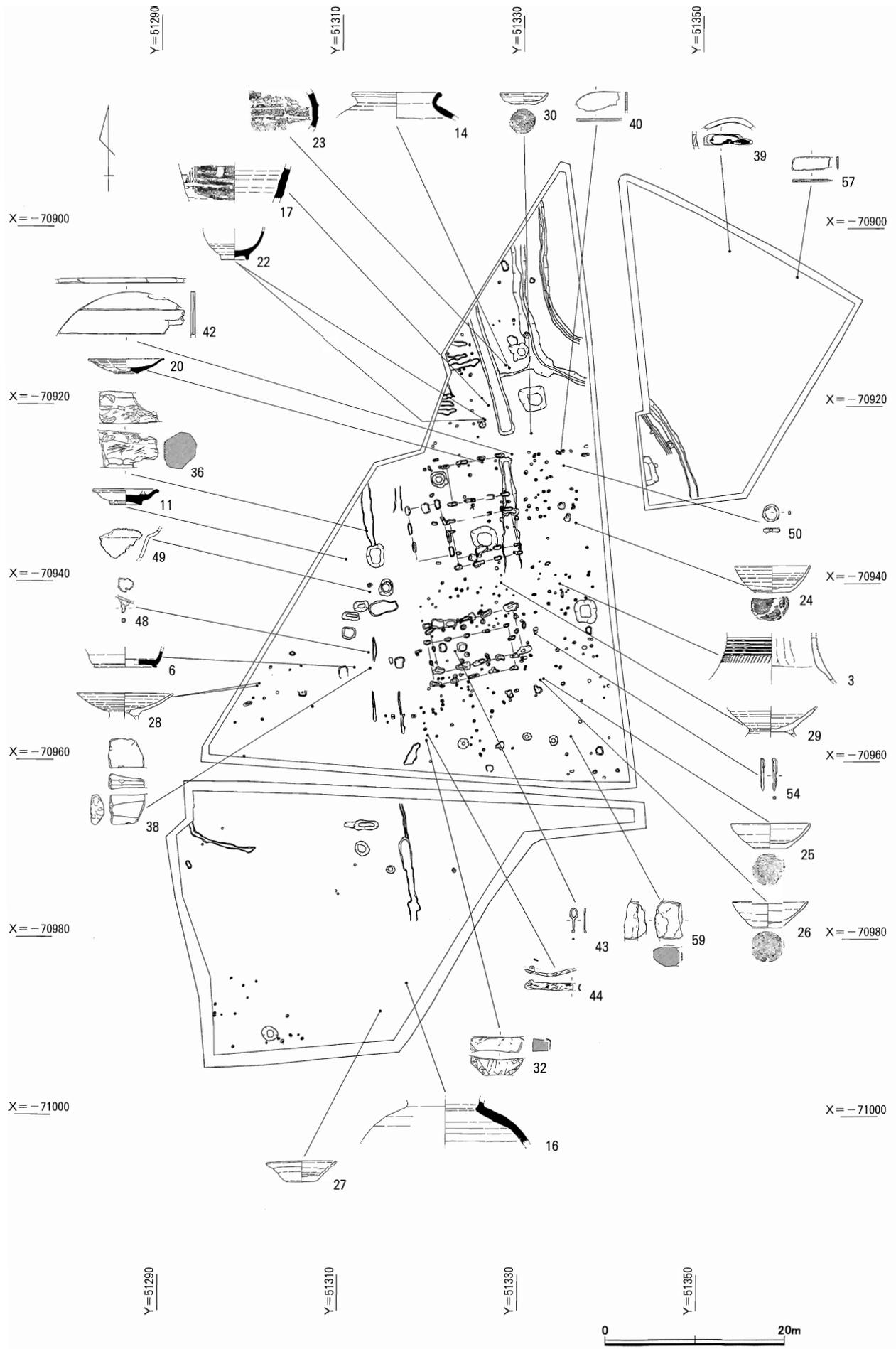
土師器 4は高坏の脚部で、外面はナデ、内面はケズリである。外面には赤色顔料が塗布されているが、一部は脚部内面にも付着している。

須恵器 5・6は須恵器坏身である。5は無高台のもので体部が外傾して直線的に立ち上がり、底部に回転糸切り痕を残す。6は低い高台が付くもので、底部外面はヘラ切りと見られる。7は高台付のもので、形態から壺の底部と考えられる。外面には回転ヘラケズリが入る。

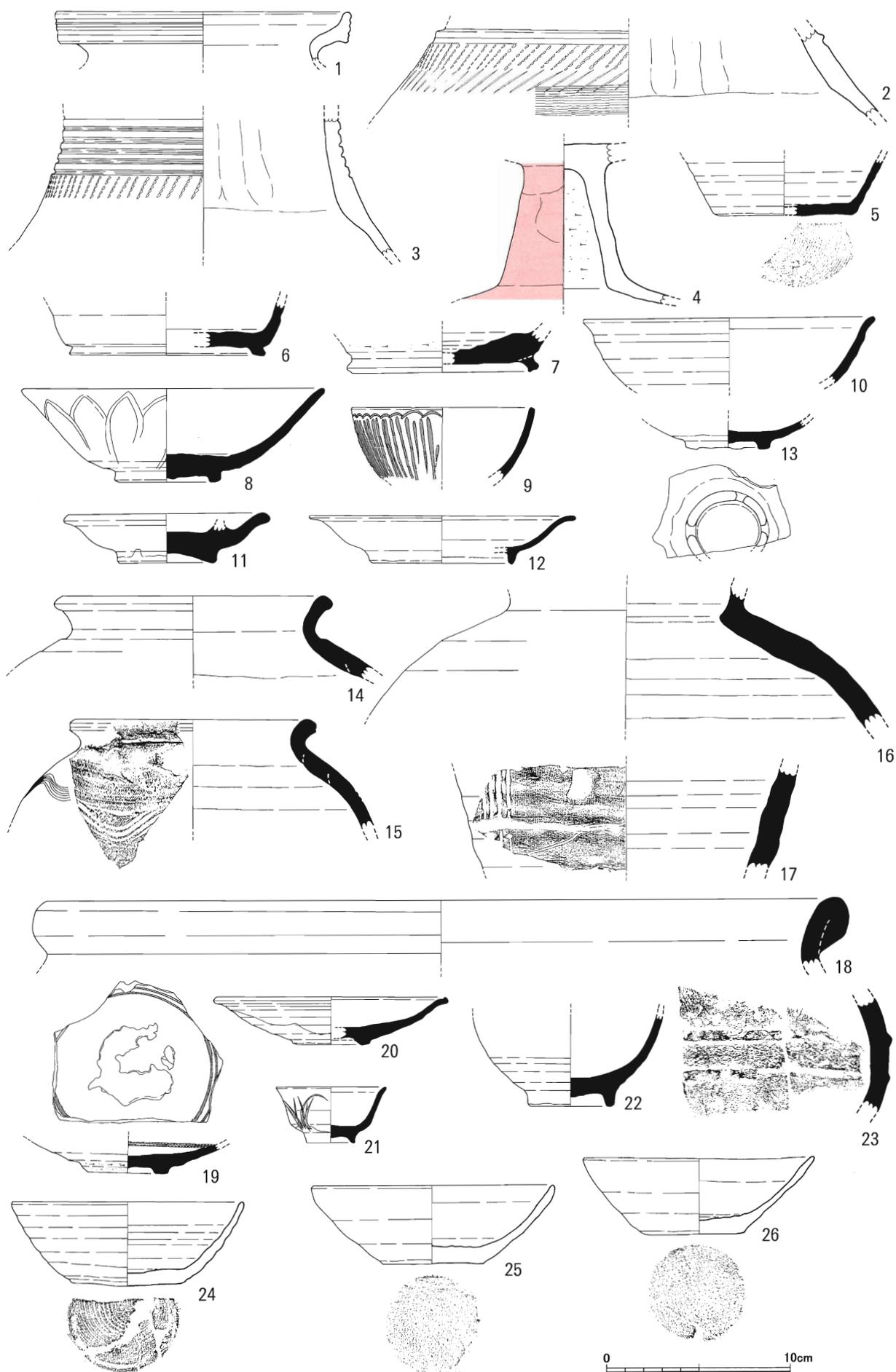
青磁 いずれも龍泉窯系の碗である。8は外面に鏝のない蓮弁と底部に削り出し高台が付いたもので、B2類である。9は外面に線描き蓮弁が施されたもので、B4類である。10は無文で口縁が外反する形態をもつD類である。11は皿であるが、見込に立ち上がりがある。

白磁 12は皿で、器壁が薄く、口縁端部が外反する中国白磁E類である。13は碗で、外面底部は無釉である。高台は3方向が僅かに削り残されており、D類である。

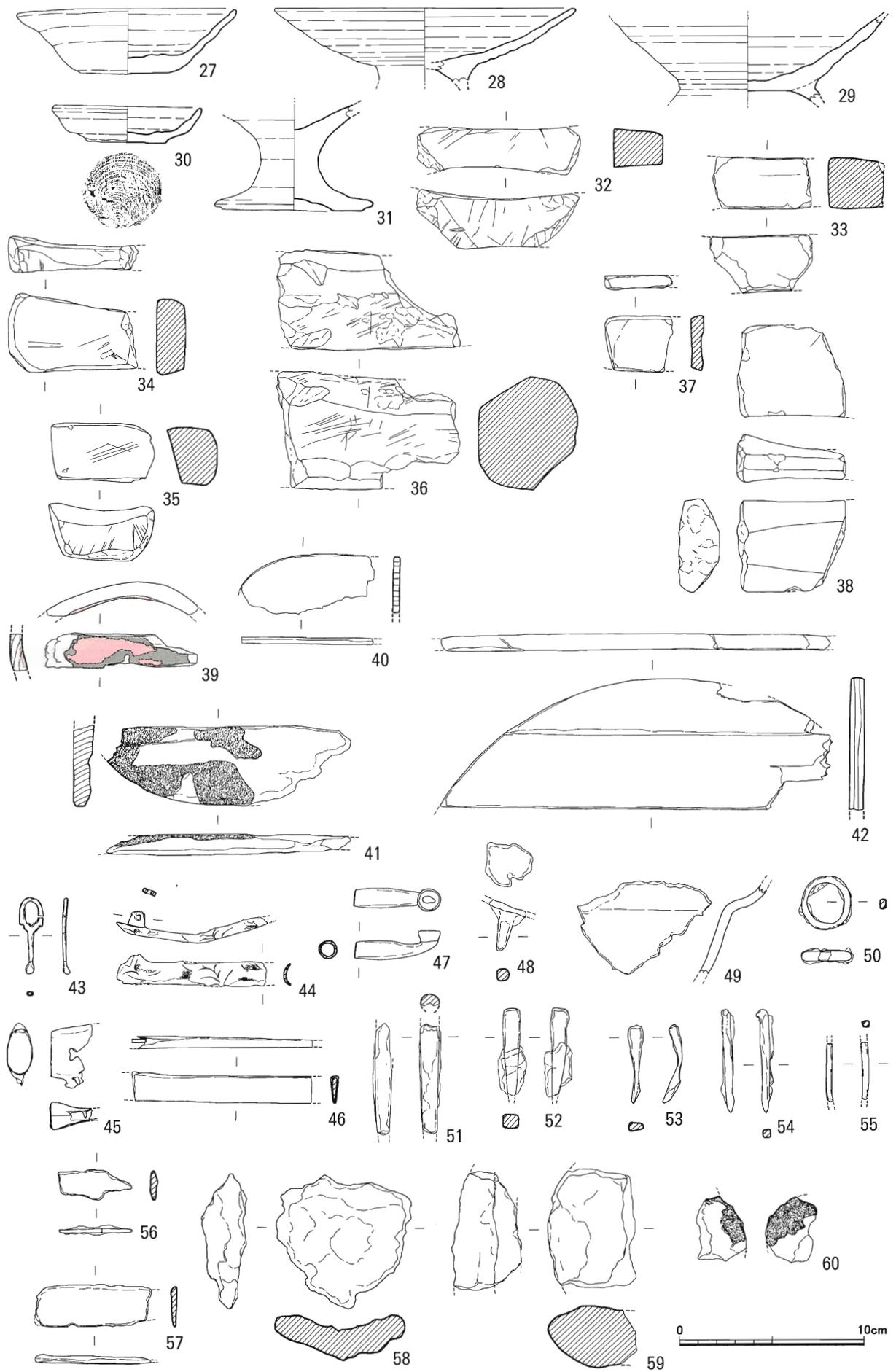
備前 14・15・18は壺の口縁部で、14・15は端部がやや肥厚する程度であるが、18は折り返され玉縁となる。15は肩部に波状文が施されている。17は胴部下半の破片で、外面に摺目様の文様が入っている。



第185図 白枝本郷遺跡1層・2層遺物出土状況実測図



第186図 白枝本郷遺跡1層・2層出土遺物実測図1 (1:3)



第187図 白枝本郷遺跡1層・2層出土遺物実測図2 (1:3)

瓷器系 16は壺の肩部で、外面に鉄釉がかかっている。

唐津 19は皿で、内面に鉄釉で2重線が描かれる。底部は削り出し高台をもち無釉で、見込には砂目がある。20は溝縁皿で、底部は削り出し高台をもち無釉である。

肥前 21は猪口で、外面に呉須で草文が描かれる。22は丸みを帯びた碗で、全面に施釉されるが、高台畳付は釉剥ぎである。

瓦質土器 23は胴部片で、突帯の間に菱形の押捺文がある。

土師質土器 24～27は外傾する口縁をもち無高台の底部に回転糸切り痕を残す坏である。24～26はほぼ同形同大で、口径12.5～13.0cm・器高4.3～4.6cmである。27はこれより一回り小さく、口径11.7cm・器高3.6cmである。28・29は底部に高台が付く。ともに大きく開く口縁部をもち、29は底部に回転糸切痕を残す。30は小形の皿で、口径8.0cm・器高2.0cmである。31は柱状高台付皿で、底部には回転糸切痕が残り、浅い内割りが見られる。

砥石 32～38は砥石である。いずれも各面がよく使い込まれているが、大きさにはばらつきがある。石材は32・35・37・38が凝灰岩、33・34・36は流紋岩である。

木製品 39は漆器碗片で、木地の上に内外面に黒漆が塗られており、内面には赤漆が重ねられる。樹種はカツラである。40は折敷片、41・42は曲物片で、40・42はスギ、41はヒノキである。

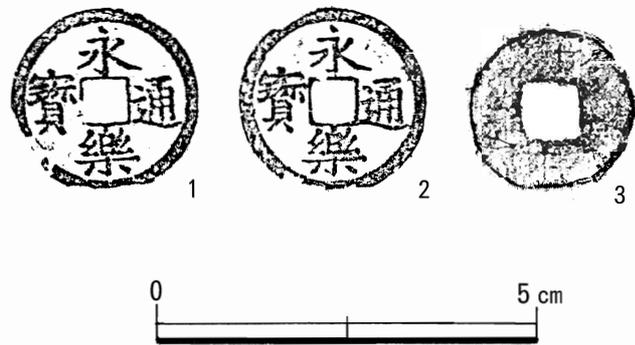
銅製品 43は耳かきで、長さ4.1cmと小形である。44は金銅製の飾金具で、表面に草文が施されており、内側には孔のある突起が付く。45は銅製の柄頭で、端部幅2.4cm・厚さ1.4cmである。銅板の厚さは1mmと薄く、中央には透かし孔がある。47は煙管の雁首である。

第188図 1・2は永楽通宝、3は無文銭である。

鉄製品 46は刀子片で、金銅装の鞘が付く。現存長9.7cm・幅1.5cm・厚さ0.4cmである。48・49は鉄鍋片で、48は脚部、49は体部から口縁にかけて屈曲する部位である。50は環状の鉄製品で、長径2.9cm・短径2.6cm・幅0.4cm・厚さ0.5cmである。51は断面形が円形で、棒状を呈する。52～55は鉄釘である。56・57は鉄片であるが、後者は片面が平らな面をなし、気孔があることから鑄鉄とも考えられる。

鍛冶関係遺物 58・59は椀形滓、60は羽口先端部片である。分析の結果、前者は不純物をほとんど含まない鉄素材を鍛冶原料とした鍛錬鍛冶工程で派生したもので、僅かに砂鉄由来の脈石成分を含むことから、鉄素材の始発原料は砂鉄と見られる。後者も外面のガラス質滓中に微小鉄粒や鉄酸化物が確認されており、鍛冶羽口と考えられる。

以上の遺物のうち土器は、1～3が弥生時代中期後葉～後期前葉、4が古墳時代後期、5～7が奈良・平安時代である。また陶磁器は8は14世紀代、10・13が15世紀代、9・12は16世紀代、19・20・21は17世紀代のものと見られる。

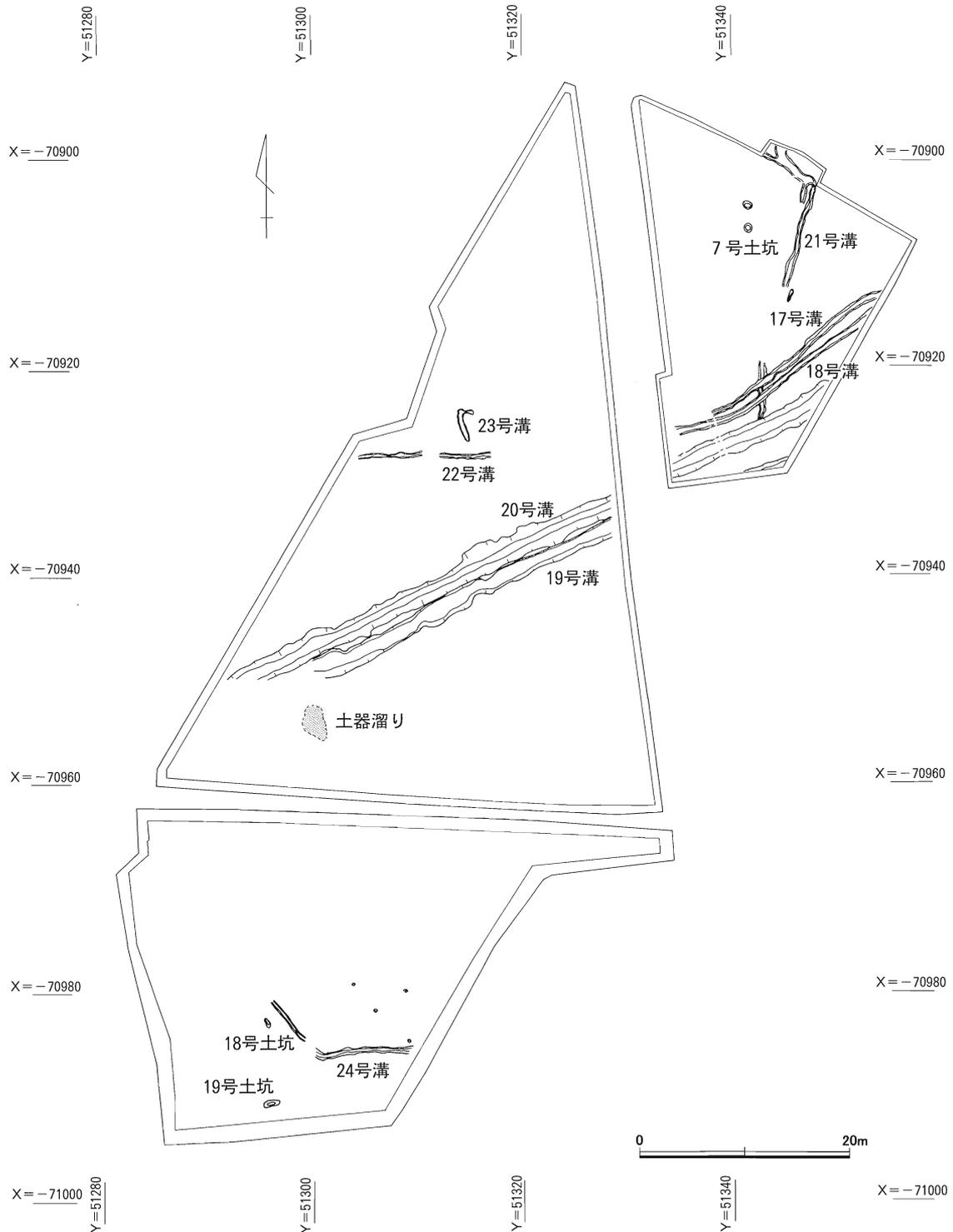


第188図 白枝本郷遺跡 2層出土古銭拓影 (1:1)

第3節 古墳時代の遺構面

(1) 遺構の配置状況

古墳時代の遺構は後期のものが確認されており、基本的には5層上面が遺構面となる(第189図)。この中で注目されるのはI区からIII区を南西から北東へ向かって横断するように検出された19号溝と20号溝である。これらは切合関係から20号溝→19号溝の順に営まれたことが明らかになっており、埋土とともに砂で水路と考えられる。出土遺物に時期差がなく、位置もあまり変わらないことから、



第189図 白枝本郷遺跡5層上面遺構実測図

20号溝が埋まった後すぐに19号溝が掘り直されたものと見られる。溝の周辺にはほとんど遺構がなく、プラントオパール分析を行ったところイネが検出されており、溝に接する地点は水田であった可能性が高い。ただし、I区の南西側には土器溜があり、20号溝を中心に土師器・須恵器が多数出土しており、II区では土師器甕や竈の入った24号溝が確認されたことから、この付近は集落の一部となっていたことも考えられる。

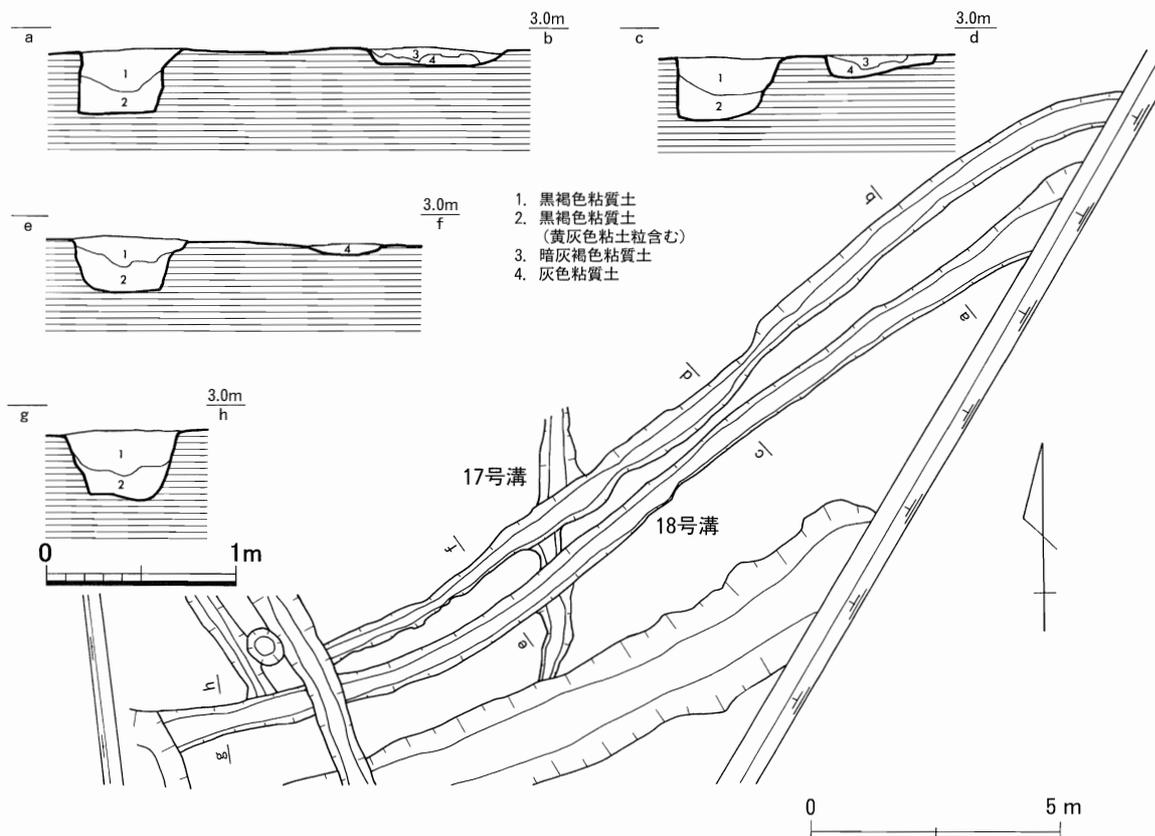
III区では19号溝と20号溝の北側にこれと平行するように17号溝と18号溝が検出されており、I区の22号溝はこれらが続くものとも考えられる。また、21号溝は17～20号溝とは異なり南北方向に延びており、17号溝・18号溝と切合関係がある。

(2) 溝状遺構

17号溝 南側の18号溝と0.2～1.0m程度の間隔をおいて、北東から南西方向へと延びる遺構である（第190図）。東端部は調査区外へと続くが、西端は3号溝に切られ不明確となる。

確認できた長さは20m程度で、幅40～70cm・深さは5～12cmである。横断面形は浅い皿状を呈し、底面の高さは東西とも標高2.8mとほとんど変わらない。この状況からすれば溝の上半部は既に削平されたと見られ、本来はもう少し深いものであったと考えられる。埋土は2層で、上層から暗灰褐色粘質土（3層）、灰色粘質土（4層）の順となる。遺物は検出されていない。

18号溝 17号溝と平行して延びる遺構で、南側の20号溝とは1.2～2.0m程度の間隔がある。東端部は調査区外へと続くが、西端部は7号井戸に切られており、I区側では不明確となる。しかし、22号溝がこの延長線上にあることから本来同一の溝である可能性も考えられる。



第190図 白枝本郷遺跡 5層上面17号・18号溝実測図

確認できた長さは22m程度で、幅55～60cm・深さは28～35cmである。横断面形は底面が平坦で、両側壁は直立気味に立ち上がっており、底面の高さは東側が標高2.55mであるのに対し、西側は標高2.5mで5cm程度低くなっている。埋土は2層で、上層から黒褐色粘質土（1層）、黄灰色粘土粒を含む黒褐色粘質土（2層）の順となる。遺物は検出されていない。

19号溝 I区の中央部を北東から南西方向に伸びるもので、Ⅲ区の南端部でも北側の先端が一部確認されている（第191図）。20号溝は19号溝の北にほぼ接し平行して延びているが、底面の高さは20号溝に比べ19号溝が高い。また、d-d'断面を見ると20号溝の埋土である灰色粘土を含む灰色細砂（6層）、暗灰色粘砂土（7層）、灰色粘砂土（8層）を19号溝が切っていることを確認することができ、20号溝が埋まった後に19号溝が掘削されたものと見られる。

検出された長さは50m、幅と深さは現状でI区東端部で幅1.8m・西南端部で幅2.8m・深さは20～30cmである。溝の横断面形は、底面が平坦で両側へ緩やかに立ち上がる形を呈しており、先端は削平された見られることから、本来は幅・深さとももう少し規模が大きいものと推測される。底面の標高はI区東端部で2.8m・西端部で2.7mで僅かに東から西へと傾斜する。埋土は基本的には2層で、上層に暗灰色粗砂（1層）、下層には灰色細砂（2層）または灰色粗砂（3層）と砂が堆積していることから、水路であったと考えられる。

遺物はI区側でのみ確認されているが、量的には少ない。溝全体に散らばったような状況で出土しており、須恵器蓋坏（第193図1）・高坏（2）・脚付壺（3）・直口壺（4）、土師器壺（5）・高坏（6～10）・甕（11）・手捏土器（12）、土製支脚（13・14）、竈（15・16）などが見られた。1は口縁に内傾するかえりをもつ坏身で、底面には回転ヘラケズリが見られる。2は脚部の破片で、長方形をした透孔が付く。3は脚部を欠損するが、口縁は直立し、底部には回転ヘラケズリが施される。4は外傾する口縁をもち、肩部にカキメ、底部には回転ヘラケズリがある。

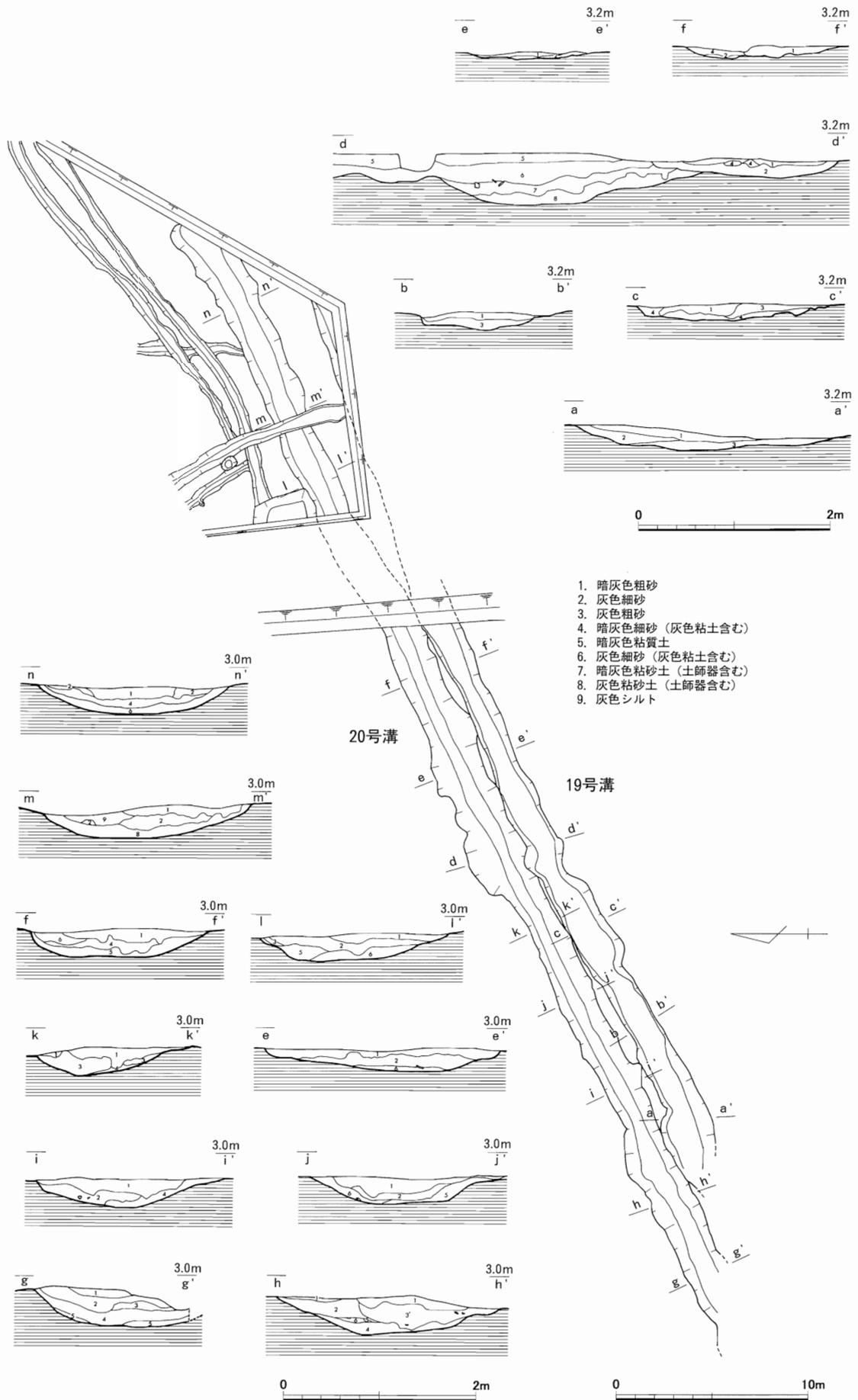
5は体部外面にカキメをもつもので須恵器写しの土師器と考えられる。肩部には「ハ」字状の線刻がある。6～10はいずれも脚部の破片である。6は外面に稜をもつ須恵器写しの土師器である。7～10は器壁が厚く、脚内面に粘土を充填したもので、外面にはいずれも赤色顔料が塗布されている。調整は7・8の外面はハケメ、7・9の内面はケズリである。11はやや外反する口縁をもつ甕で、内面はヘラケズリである。12は口径9.1cm・器高5.2cmと手捏土器としては大きい。13は土製支脚の端部片で内割がある。14は基部を失うが、突起が2つ付いており、一部が被熱して褐色を呈する。15・16は焚口の廂部分である。15の焚口部は面取りがあり、内面はケズリで、廂の下側には薄く煤が付着する。16は廂の基部で本体から剥離しており、接合部にはハケメ圧痕が見られる。

また、19号溝の西側部分では、ほぼ底面に密着し埋土である砂の中からウマの左上顎臼歯と臼歯破片の合わせて2点が出土している。放射性炭素年代の測定を依頼したところ、コラーゲンが抽出できなかったことから、火を受けた可能性もある。

以上の遺物の時期は須恵器から見て、古墳時代後期後半のものと考えられる。

20号溝 I区の中央部を北東から南西方向に伸びるもので、Ⅲ区でも確認されており、東西の端部は調査区外へと続く。19号溝は20号溝の南側に接する位置にほぼ平行するように延びており、切合関係から20号溝が19号溝に先行することが明らかである。

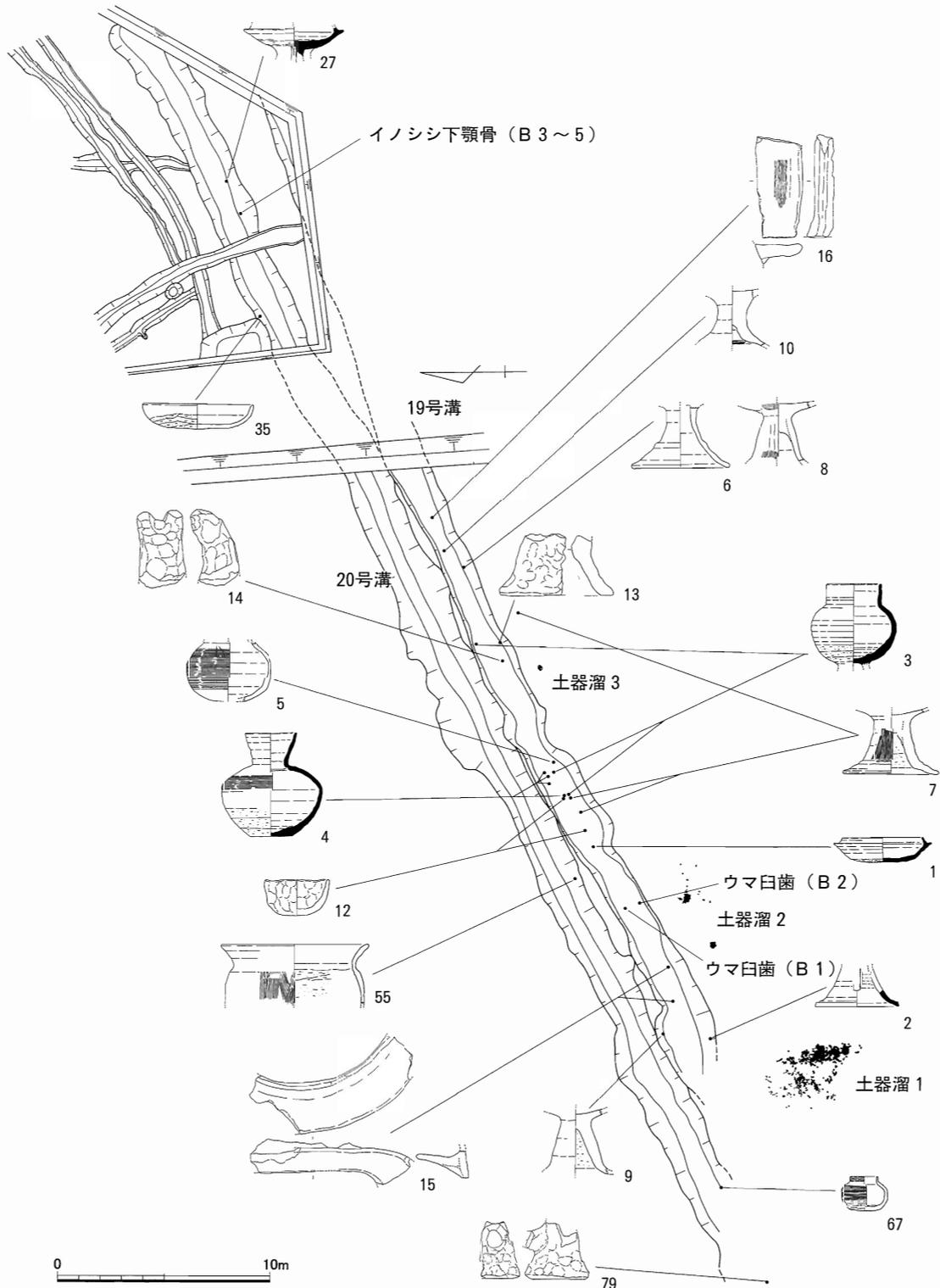
検出された長さは64m、東端部幅2.3m・最大幅3.1m・西南端部幅2.1m、深さは25～40cmである。底面の標高はI区東端部で2.5m・西端部で2.45mで僅かに東から西へと傾斜する。横断面形は底



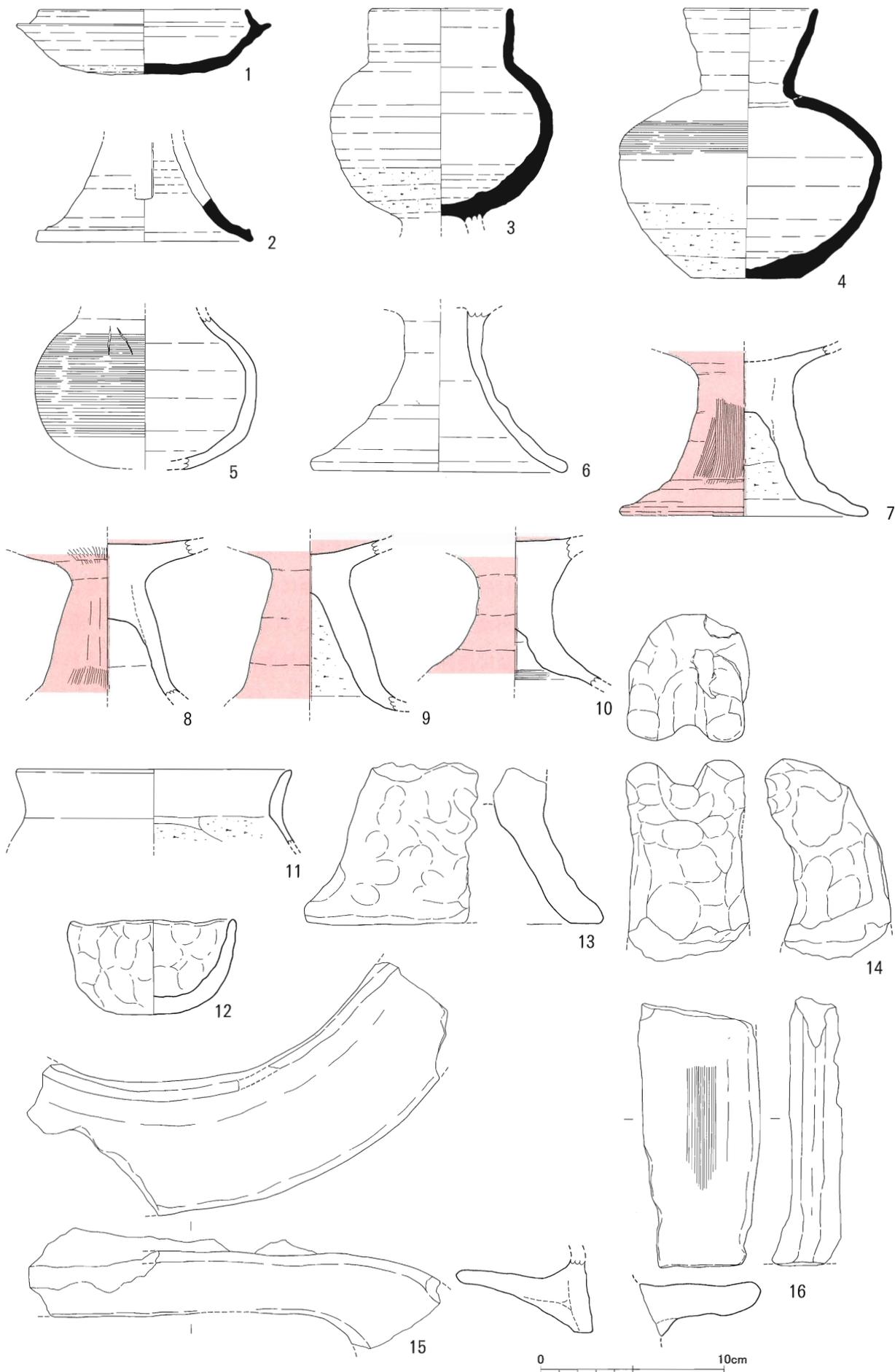
第191図 白枝本郷遺跡 5層上面19号・20号溝実測図

面が平坦で、両側へ緩やかに立ち上がる形を呈する。埋土は3層または4層で、上層に暗灰色粗砂（1層）、中層から下層にかけては灰色細砂（2層）、灰色粗砂（3層）、灰色粘土を含む暗灰色細砂（4層）、暗灰色粘質土（5層）、灰色粘土を含む灰色細砂（6層）、暗灰色粘砂土（7層）、灰色粘砂土（8層）が堆積しており、砂を中心としたものであることから、水路であったと考えられる。

遺物はI区を中心に検出されているが、Ⅲ区にも僅かに出土している。主なものとしては須恵器



第192図 白枝本郷遺跡 5層上面19号・20号溝遺物出土状況実測図



第193図 白枝本郷遺跡 5層上面19号溝出土遺物実測図 (1:3)

蓋坏（第195図17～26）・高坏（27～29）・甗（30）・壺（31）、土師器坏（32～37）・高坏（38・39・第196図40～50）・甗（51）・甕（52～57）・甗（第197図58）・竈（59）、紡錘車（60）、砥石（61～63）、鉄器（64）などが出土している。

17～22は坏蓋で、いずれも頂部と口縁の境に稜または沈線をもつ。17・20は口縁内面に僅かに段をもち、22は頂部外面がカキメであるが、その他は回転ヘラケズリである。23～26は坏身で、いずれも口縁内面に内傾するかえりを有し、底部には回転ヘラケズリが施される。27は有蓋高坏で、口縁にかえりを有し、坏部底面は回転ヘラケズリ、脚部には3方向に長方形の透孔を有する。28は無蓋高坏で、坏部は内湾し、脚部は3方向に長方形透孔をもつ長脚2段である。坏部外面には「×」状の浅いヘラ記号がある。29は脚部で、3方向に三角形透孔があり、外面にはカキメが施される。30は大きく開く口縁と丸底をもち、頸部と肩部に斜行刺突文と沈線が入る。胴部下半はカキメ、底部にはナデとハケメが見られる。31は壺の胴部で、底部は平底を呈し、外面には回転ヘラケズリが施される。

32～37は坏で、いずれも丸みのある底部を有するが、口径・器高に違いが見られ形態的な差が大きい。32は口径13.0cm・器高5.9cmと深いもので、外面は手持ちケズリ、内面には放射状の暗文があり、内外面に赤色顔料が塗布される。33～36は口径13.0～15.8cmに対し器高3.5～4.4cmと浅いものである。33・35の外面は手持ちケズリ、34の外面はハケメ・内面にヘラによる文様があり、36の外面はケズリののちハケメで、いずれも内外面に赤色顔料が塗布される。37は口径8.1cm・器高4.6cmと小さく深いもので、外面にハケメ、内面に指押さえがあり、内外面に赤色顔料が塗布される。38・39は大きく開く坏部をもつ高坏である。38は脚部外面に稜をもち、45も同様なものと見られる。40～43・46～50は脚部内面に粘土充填痕があるものと、これに類するものである。40・46・50の外面は指押さえまたはナデ、41～43・47～49はケズリまたはハケメで、脚部内面には50を除きケズリが入り、40～43・47～50には赤色顔料が塗布される。44は深い坏部をもち、脚部に粘土充填がないものである。51は須恵器写しの甗で、肩部にカキメ、底部は手持ちケズリである。52は複合口縁の甕で、端部が面をなし、胴部内面はケズリである。53は外反する口縁をもつ壺で、外面と口縁内面に赤色顔料が施される。54～57は口縁が外反し肩部が張らない甕で、外面はハケメ、内面はケズリである。58は甗で、外面はハケメ、内面はケズリである。59は竈で、焚口部に面取りがあり、外面はハケメ、内面はケズリである。

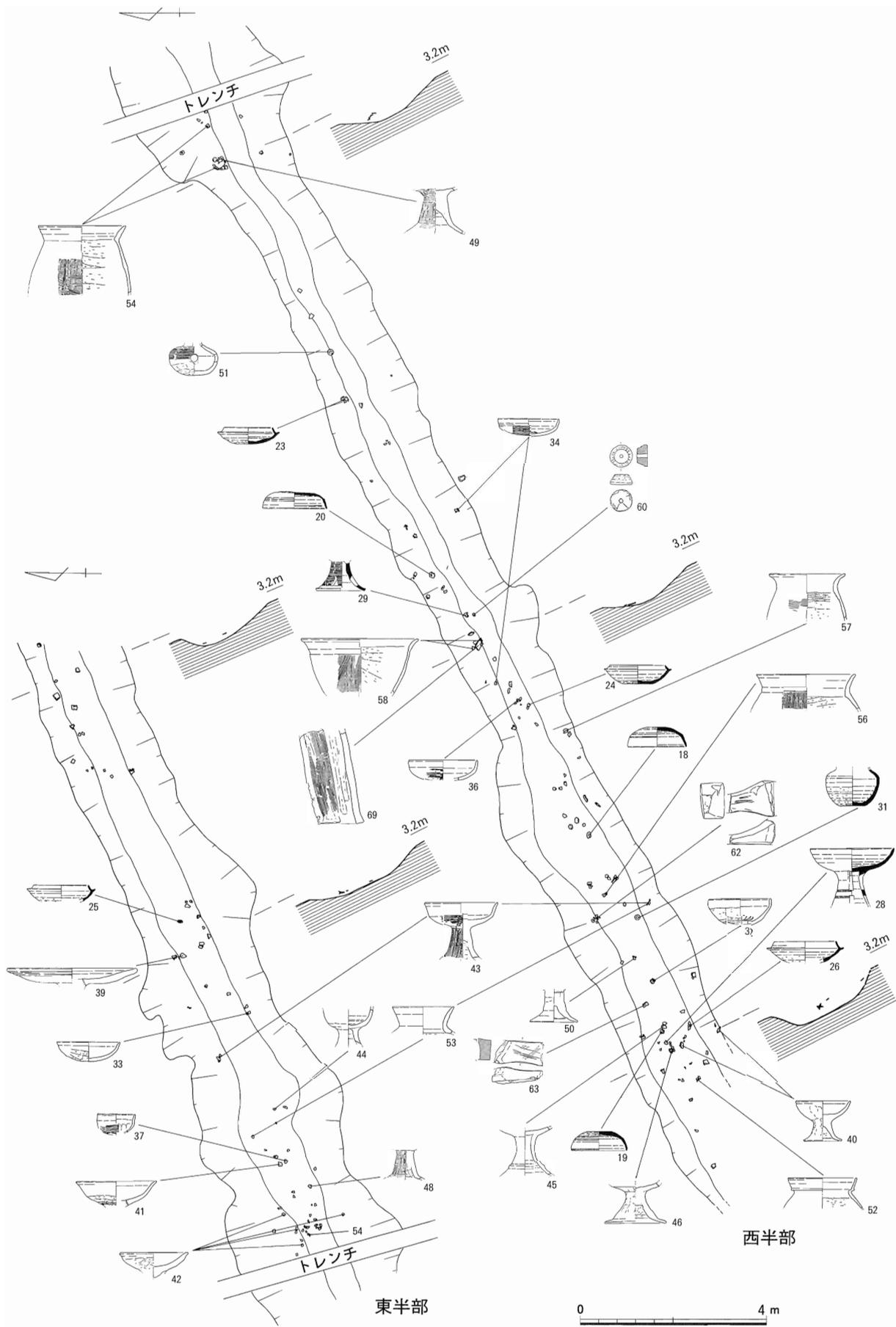
60は紡錘車で上半に加工痕、下面に陰刻された鋸歯文が僅かに残る。61～63は、いずれも凝灰岩製の砥石で、各面に顕著な使用痕が残る。

64は鉄片で幅1.7cm・厚さ0.2cm、用途は不明である。

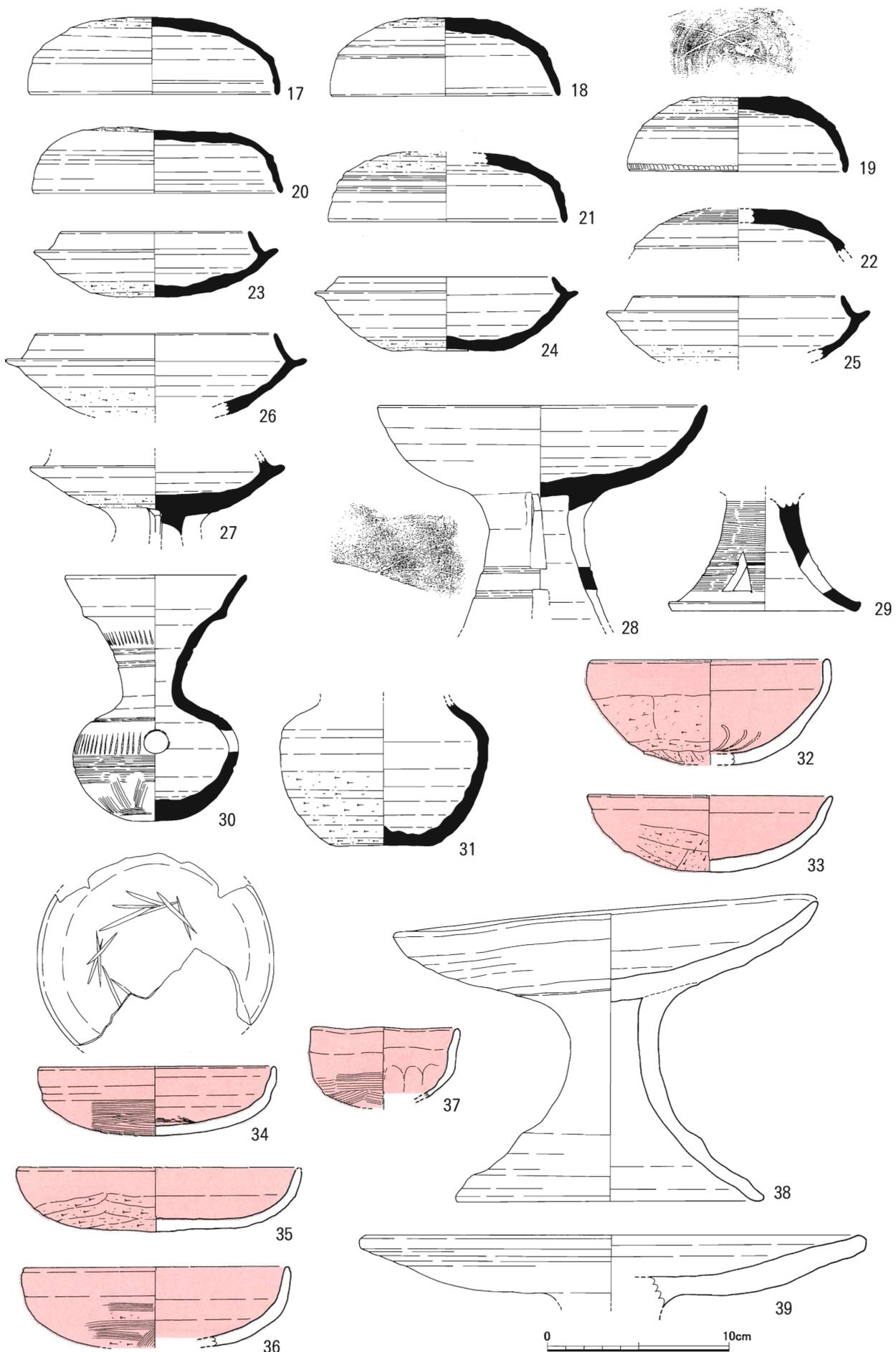
なお、Ⅲ区ではイノシシの下顎骨が検出されており、放射性炭素年代の測定を依頼したところ、コラーゲンが抽出できなかったことから、火を受けた可能性がある。

以上の遺物のうち、52は古墳時代前期のもので小片であることから、混入したものと見られる。その他のものは時期差が認められず、古墳時代後期後半である。

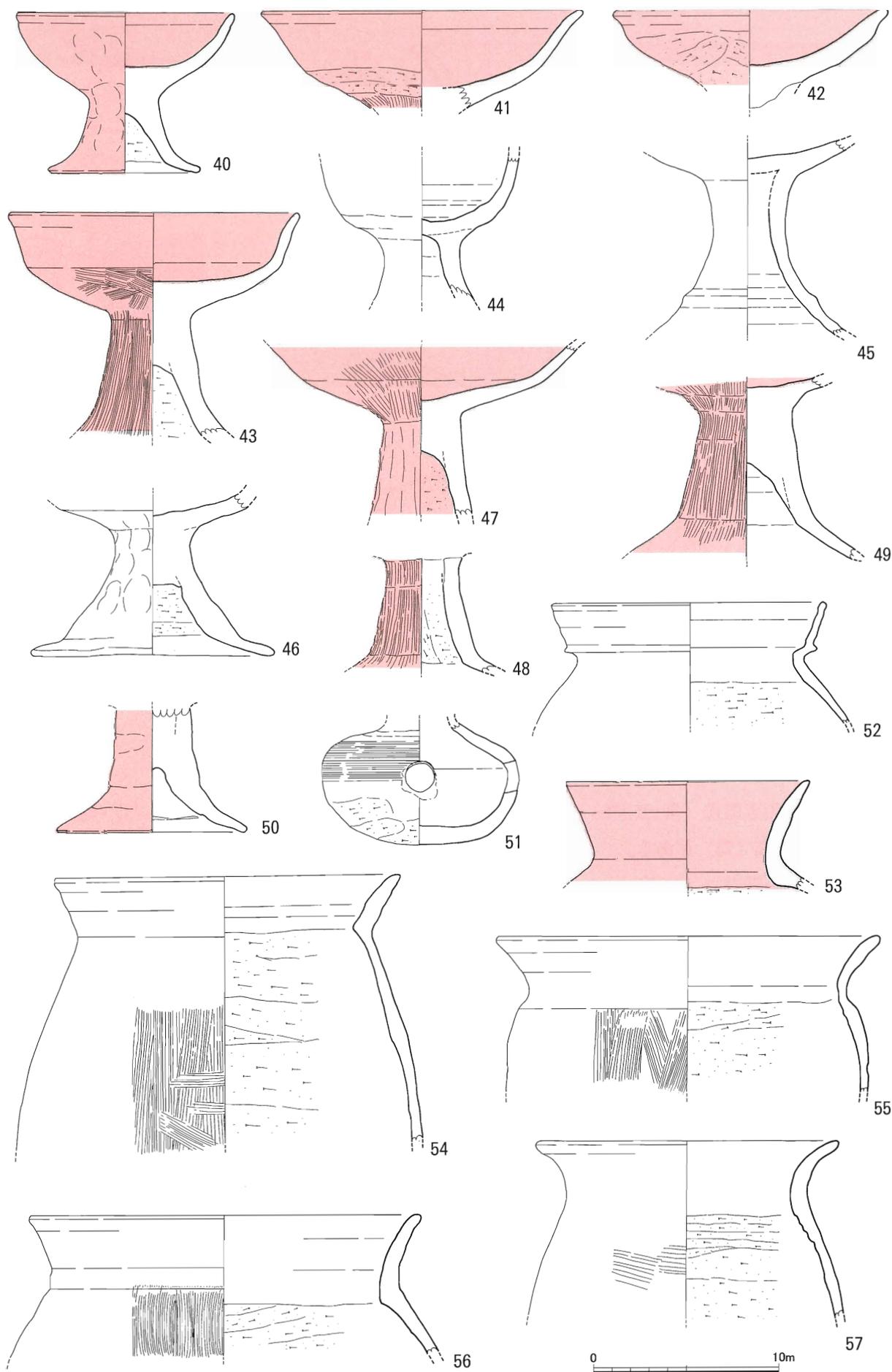
G-2北トレンチ出土遺物 I区の南西部に当たるG-2区では調査区内の土層確認を行うため、北辺に沿って幅2mのトレンチを設定した。当初19号溝と20号溝の存在が未確認であったため、これらはG-2区北トレンチ出土遺物として取り上げたが、本来はこれらの溝に伴う遺物であった可能性が高い。



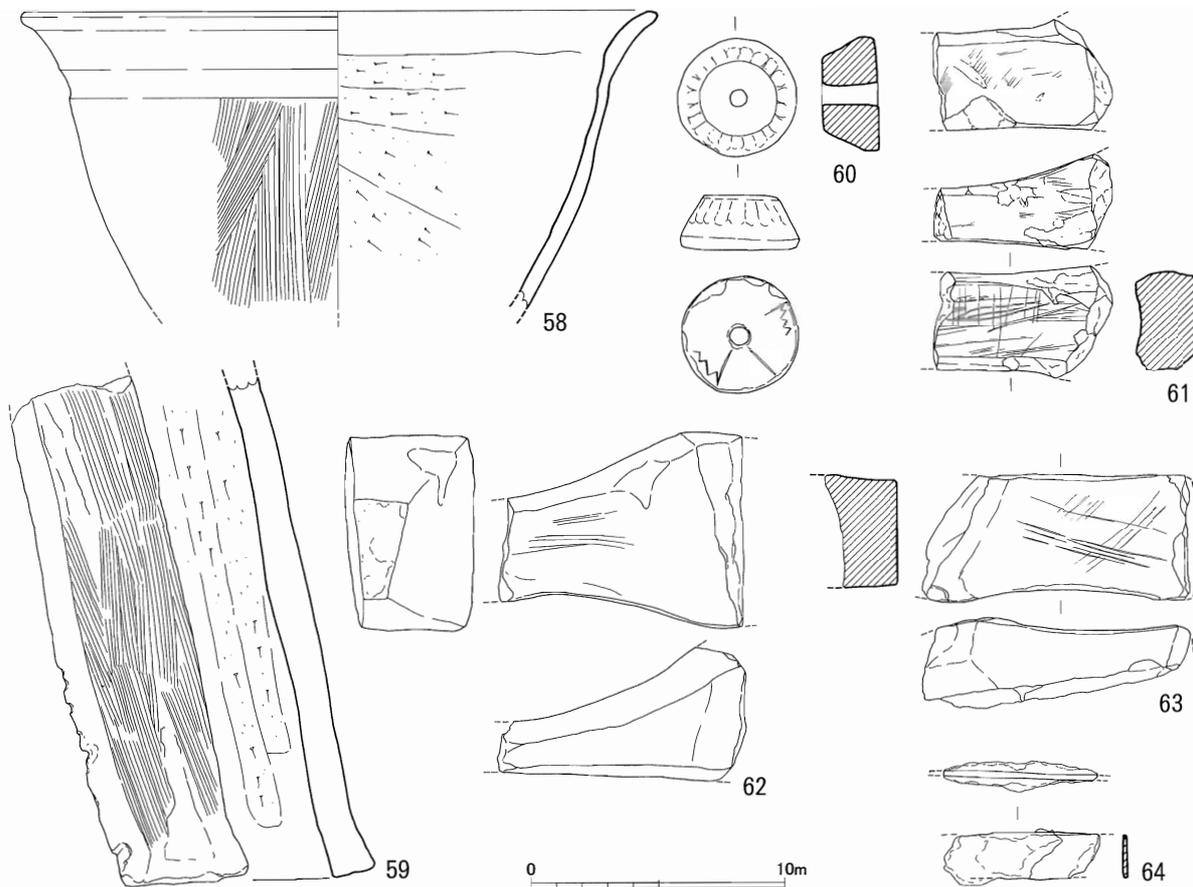
第194図 白枝本郷遺跡 5層上面20号溝遺物出土状況実測図



第195図 白枝本郷遺跡 5層上面20号溝出土遺物実測図1 (1:3)



第196図 白枝本郷遺跡5層上面20号溝出土遺物実測図2 (1:3)



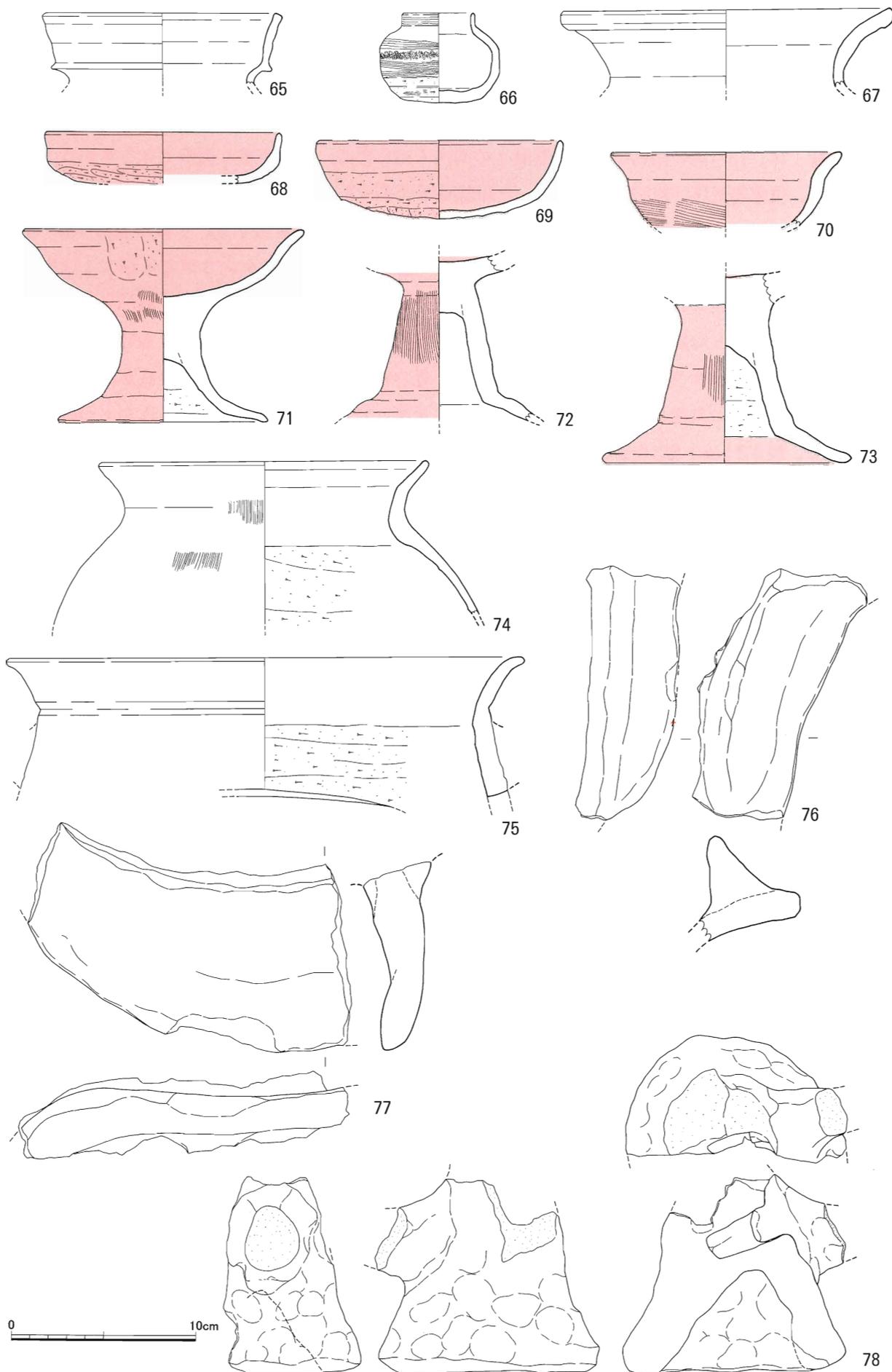
第197図 白枝本郷遺跡 5層上面20号溝出土遺物実測図3 (1:3)

遺物には須恵器壺(第198図66・67)、土師器甕(74)・坏(68~70)・高坏(71~73)・竈(75~77)・土製支脚(78)がある。

66は小形短頸壺で、口径3.9cm・器高4.9cmである。胴部に粗い波状文、上半の調整はカキメ、下半にはヘラケズリが施される。67は口縁がやや肥厚するもので、内外面とも回転ナデである。

68~70は坏で、いずれも内外面に赤色顔料が塗布されるが、形態には違いがある。68は口縁が直立し器高3.0cm程度と浅いもので、底部に手持ちケズリがある。69は口縁が内湾し器高4.3cmとやや深いもので、底部に手持ちケズリがある。70は口縁が緩く屈曲して外反するもので、外面にハケメが入る。71~73はいずれも脚部に粘土充填痕がある高坏で、赤色顔料が塗布される。71は外面がケズリとハケメ・脚部内面はケズリ、72は外面にハケメ、73は外面にハケメ・内面はケズリである。65は複合口縁をもつ甕で、端部は面をなす。74は口縁が外反する甕で、外面にハケメ、内面にケズリが見られる。75は竈の口縁部で胴部に焚口があり、周辺に廂の剥離痕がある。76・77は竈の廂である。78は土製支脚の基部で、側面には孔に基部を挿入して付けられた突起が1つ確認でき、下面には内削りがある。

以上の時期は65は古墳時代前期で混入したものと見られるが、その他は19号溝・20号溝と同様に古墳時代後期後半のものである。

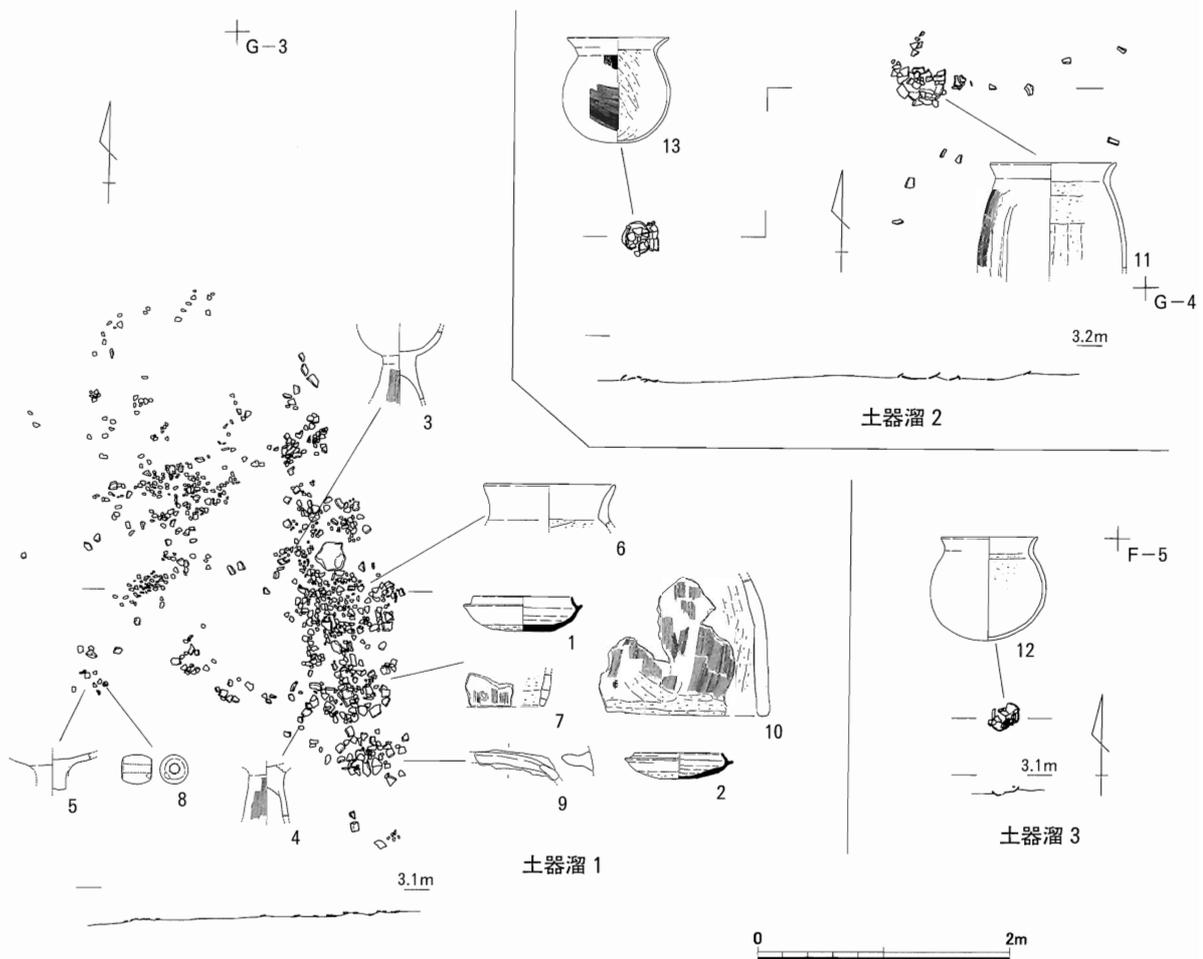


第198図 白枝本郷遺跡G-2北トレンチ他出土遺物実測図(1:3)

土器溜 I区の19号溝の南側では3カ所で土器溜が確認された(第192図)。このうち、土器溜1は南北4.0m・東西3.0mほどの範囲に土器が広がるものであるが、土器溜2は2個体分、土器溜1個体分の土器が潰れたものである。

土器溜1は、19号溝の南約2m、土器溜2の南西6mにある。小片が多く復原できるものは少なかったが、須恵器蓋坏(第200図1・2)、土師器高坏(3~5)・甕(6)・甑(7)・竈(9・10)、土玉(8)がある。1・2はともに坏身で、口縁に内傾するかえりを有する。1は口径11.7cm・器高4.3cm、2は口径10.4cm・器高3.2cmと浅く、ともに底部には回転ヘラケズリがあるが、1は周辺部のみにあり、中央には筋状の圧痕が見られる。3は丸みがある深い坏部をもち、脚部外面にはハケメがある。4・5は脚部で、粘土充填痕があり、ともに赤色顔料が塗布される。6は口縁が外反する甕で、内面にはケズリがある。7は甑の底部と見られ、端部付近に焼成前の穿孔がある。9は竈の廂、10は体部で外面はハケメとケズリ、内面はケズリである。8は胴部に膨らみをもつ円筒状の土玉で、長さ3.5cm・幅3.6cmで、中央に径1.1cmの孔がある。

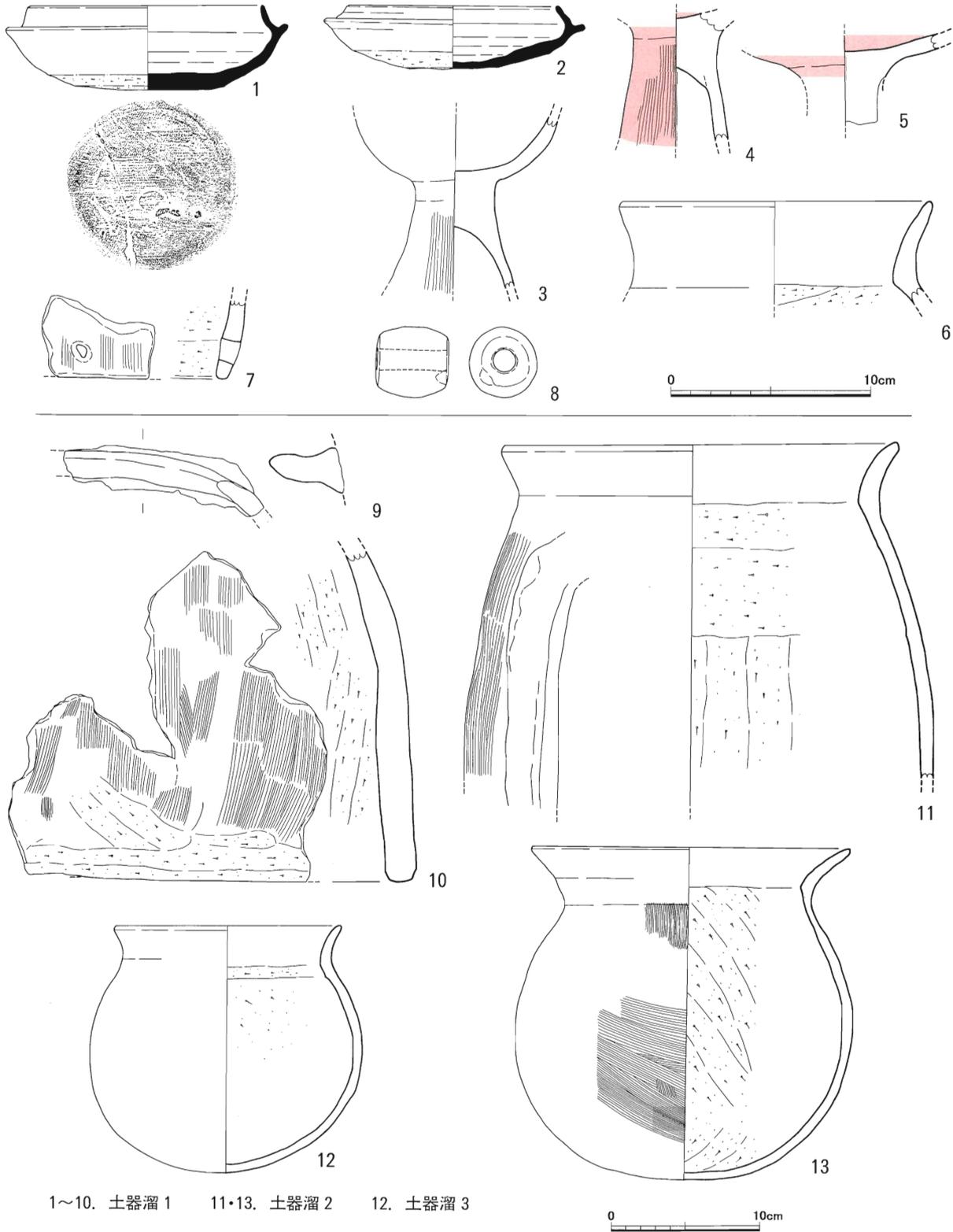
土器溜2は、19号溝の南約1.5m、土器溜3の南西12mにある。西側の土師器甕(13)と東側の竈(11)が潰れたもので、両者の距離は2.2mである。11は外反する口縁部と焚口をもち、その周囲には廂の剥離痕がある。外面調整はハケメ、内面はケズリである。13は口径21.5cm・器高22.6cmで、外反する口縁と丸みのある胴部をもち、外面はハケメ、内面はケズリである。



第199図 白枝本郷遺跡5層上面土器溜遺物出土状況実測図

土器溜 3 は、19号溝の南約1.0mにあり、土師器甕（12）1 個体分である。12は口径15.4cm・器高16.8cmで短く外反する口縁部と丸みのある胴部をもち、外面はハケメ、内面はケズリである。

以上の遺物の時期は古墳時代後期後半で、19号溝及び20号溝と変わらないことから、同時に営まれたものと考えられる。

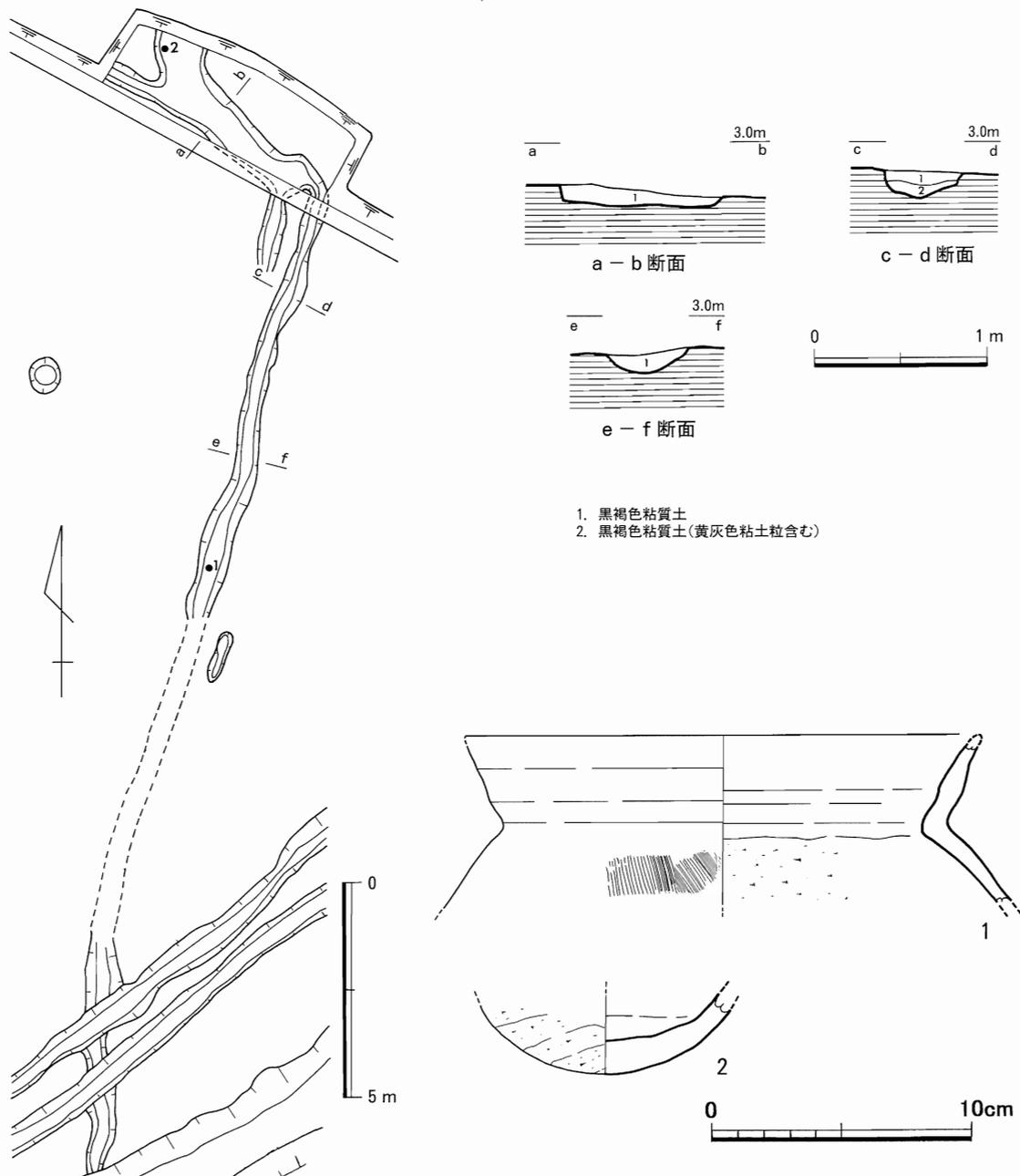


1~10. 土器溜 1 11・13. 土器溜 2 12. 土器溜 3

第200図 白枝本郷遺跡 5層上面土器溜出土遺物実測図（1：3，1：4）

21号溝 III区の中央部を南側から北側へと南北方向に伸びるもので、北側で北西方向に折れてさらに調査区外へと続く（第201図）。南側は17・18・20号溝と切り合い関係があるが、その前後関係は不明である。北側は幅が広がるが、この部分本来2つの溝が重複しているようであり、北西及び南へと向かう溝の一部が確認されている。

17・18・20号溝と切合う部分と調査区北辺から延びる部分の間には一部検出できなかったところがあるが、方向がほぼ延長線上にあり、大きさも変わらないことから、本来一体のものと考えられる。未検出部分を含めた長さは現状で29m、北端部幅0.8m・中央幅0.45m・南端部幅0.7mで、深さは10～15cmである。溝の横断面形は浅く底面が平坦で、埋土はa－b断面とe－f断面では黒褐色粘質土（1層）のみ、c－d断面では黒褐色粘質土の下層に黄灰色粘土粒を含む黒褐色粘質土（2層）が見られる。



第201図 白枝本郷遺跡 5層上面21号溝及び出土遺物実測図

遺物は少ないが、土師器甕（第201図1）・坏（2）が検出されている。1は「く」字形に屈曲する口縁をもつもので、胴部外面はハケメ、内面はケズリである。2は丸底の底部で、口縁を欠くため不明な点があるが、外面にケズリがあることから見て、坏と思われる。時期は判然としないが、古墳時代後期から奈良時代頃のものであろうか。

22号溝 I区の北西側にあり、その位置が17・18号溝の延長状にあることから、本来これらと一体のものであった可能性も考えられる。20号溝からは北に8mのところであり、20号溝が北東から南西方向にまっすぐ延びるのに対し、22号溝は西側が北に振りほぼ東西方向を向いている（第189図）。また、22号溝は3号井戸にその中央部が切られており、東端部は不明確となるが、西側は調査区外へと続いている。

検出された長さは現状で12.5m、西端部幅25cm・中央幅50cm・東端部幅60cmで、深さは20cm程である（第202図）。溝の横断面形は両側壁が直立し、底面が平坦となる。埋土は2層で、上層より灰黄色粘土（1層）、黒褐色粘質土（2層）がある。

出土遺物はなかった。

23号溝 I区の北西側にあり、22号溝の北1mにある。やや曲がりながら北西方向に延びるもので、北側には幅の狭い部分が東へ派生する。

検出された長さは3.2m・幅0.6m・深さ7cmほどで、東へ派生する部分は長さは1.1m・幅0.3mである（第203図）。横断面形は浅い皿状を呈しており、埋土は灰褐色粘質土（1層）のみである。

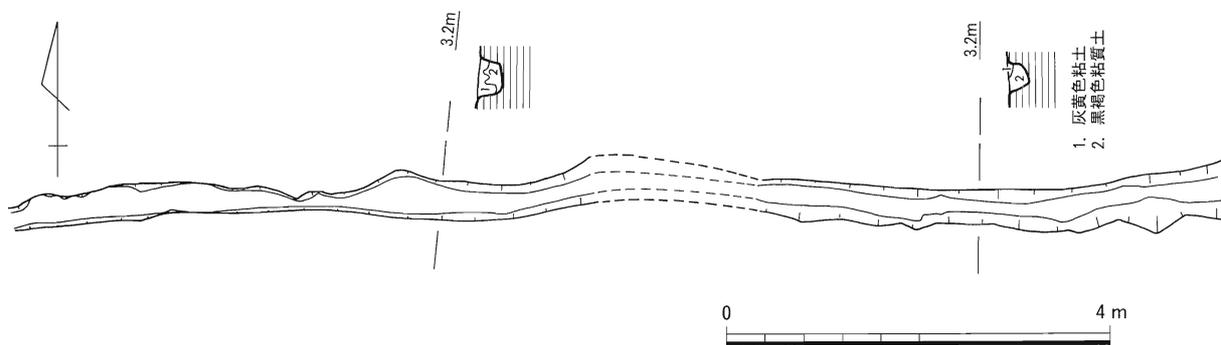
溝の南寄りでは坏部を下にして置かれた土師器高坏（1）が検出されている。1は口径14.7cm・器高10.7cmほどのもので、口縁がやや外反し、坏部外面に稜が付く。脚部は厚く端部が「L」字形に開く特徴ある器形をとる。坏部外面下半はケズリ、脚部外面はナデで、坏部内面と外面に赤色顔料が塗布される。

24号溝 II区の南側に位置するもので、付近には18号土坑と19号土坑の他、ピットが点在しており、18号土坑は西1.5m、19号土坑は南西5.5mにある。

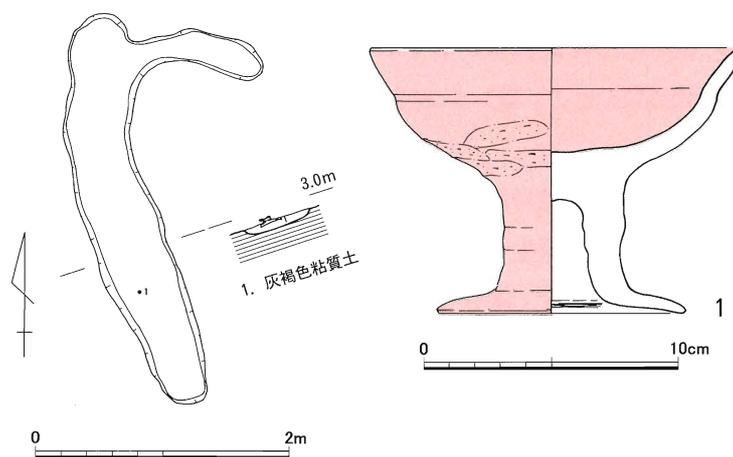
東側は東西方向に延び、西側はこれから北西方向に角度を変えるもので、検出された長さは15.5m、東端部幅50cm・中央部幅45～60cm・西端部幅35cm、深さは5～8cmである（第204図）。横断面形は両側壁がやや直立気味に立ち上がっており、埋土は黒色粘質土（1層）のみである。

東西方向から北西へと角度が変わった部分では溝の中で須恵器蓋坏（第205図1）の他、土師器甕（2～5）・竈（6）が潰れたような形で検出されている。1は坏蓋の頂部片で、口縁部との境の沈線が僅かに残り、頂部外面は回転ヘラケズリである。2はよく張った肩をもつ甕で、口径18.1cm・器高25.3cmである。口縁はやや外反し、底部は丸底で、胴部外面はハケメ、内面はケズリである。3は下膨れの胴部をもつ甕で、口径20.4cm・器高27.0cmである。口縁は大きく外反し、胴部外面はハケメ、内面はケズリである。4は口径22.0cm・器高13.0cm程度と器高が低く浅い甕である。口縁部は大きく開き、胴部外面はハケメ、内面はケズリである。5は口縁部を失うが、よく張った肩をもつ甕である。胴部外面はハケメ、内面はケズリで、底部内面には指圧痕が残っている。6は竈で、口径27.0cm・底径44.5cm・器高35cmほどのものである。口縁は「く」字状に屈曲し、側面には焚口が見られる。焚口の周囲には廂が付くが、廂の下端部は竈の下端部より高い位置までしかない。外面はハケメ、内面はケズリで部分的に指ナデがあり、内面上部は使用に伴って黒変している。

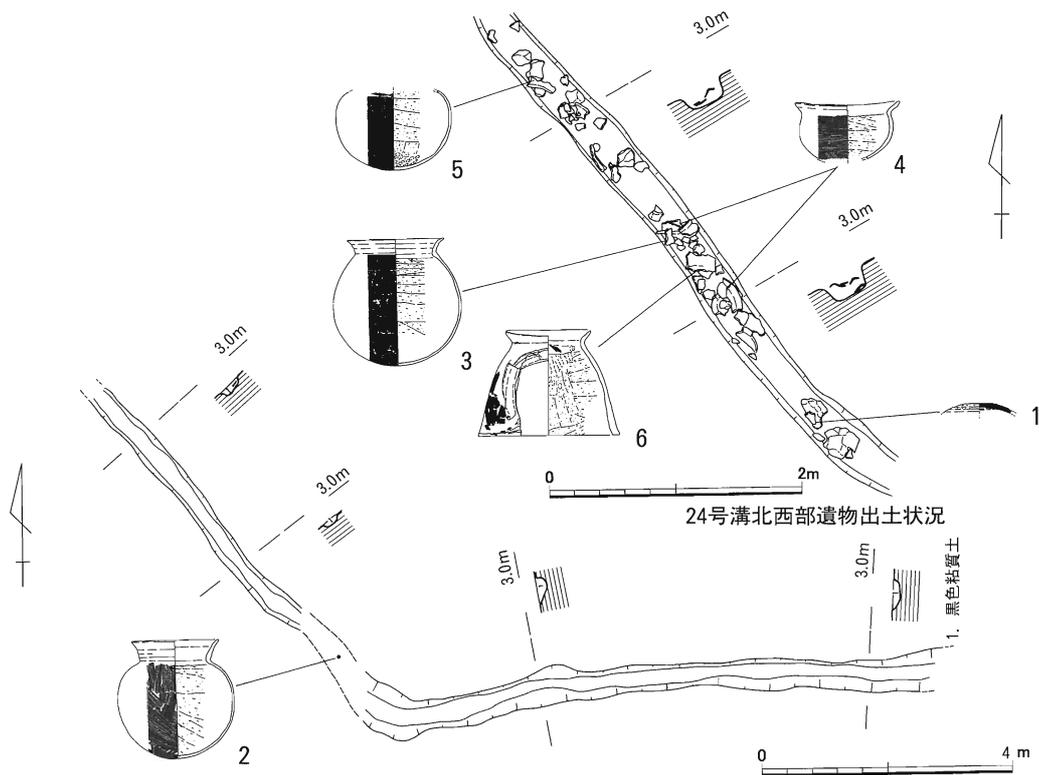
遺物の時期は、須恵器蓋坏の破片から古墳時代後期後半のものと見られ、19号溝や20号溝に近い



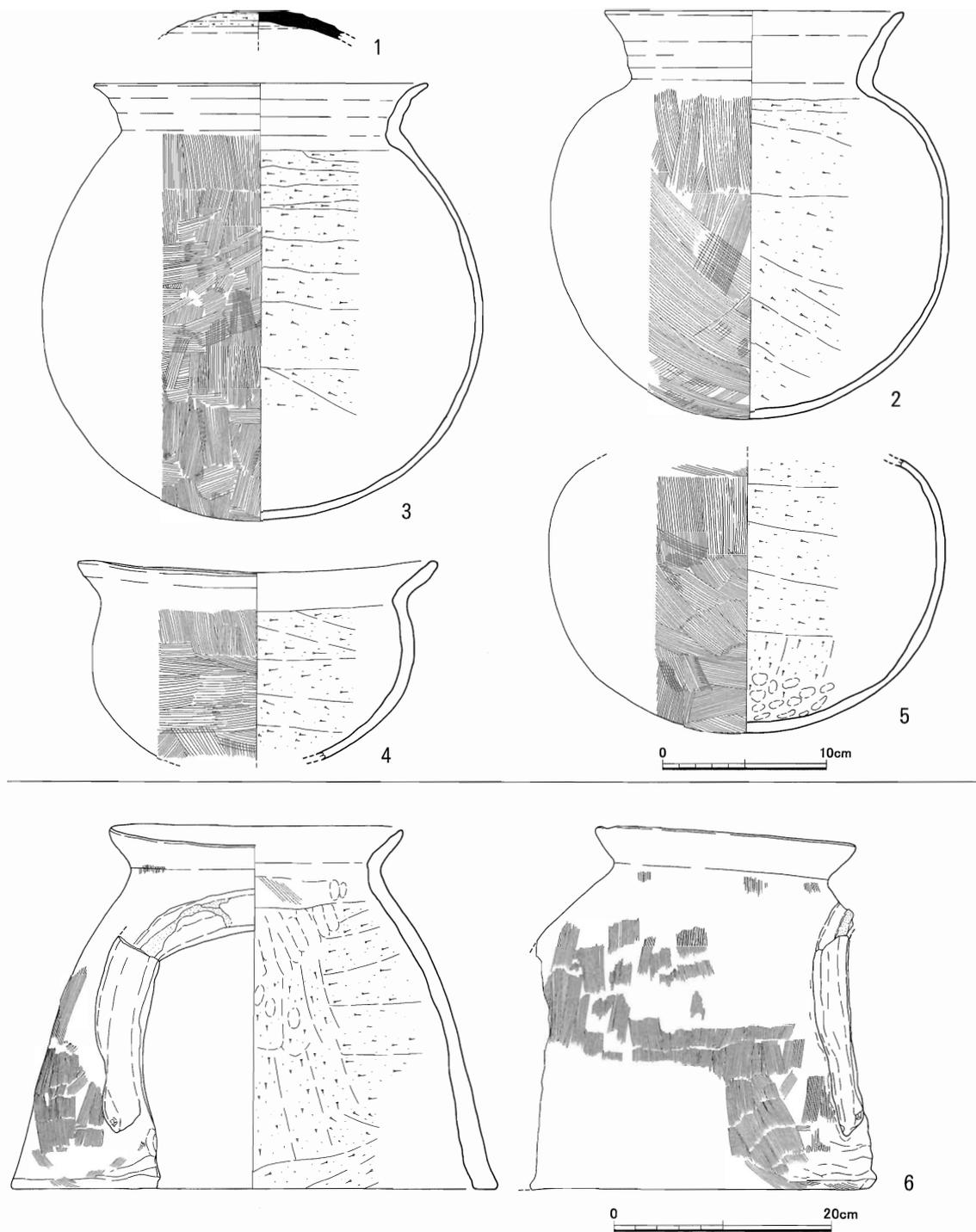
第202図 白枝本郷遺跡 5層上面22号溝実測図



第203図 白枝本郷遺跡 5層上面23号溝及び出土遺物実測図



第204図 白枝本郷遺跡 5層上面24号溝及び遺物出土状況実測図



第205図 白枝本郷遺跡 5層上面24号溝出土遺物実測図 (1:4, 1:6)

段階の遺構であると考えられる。

(3) 土坑

17号土坑 III区の北側にあり、21号溝の西4.5mに位置するものである。

平面形は楕円形を呈しており、南北90cm・東西70cm・深さ45cmである。(第206図左)横断面形は壁が直立して深く、埋土は3層で、上層より暗灰色粘質土(1層)、黒褐色粘質土(2層)、暗黒褐色粘質土(3層)である。出土遺物は見られなかった。

18号土坑 II区の南側にあり、24号溝は東1.5m、19号土坑は南7.0mに位置するものである。

平面形は長楕円形を呈しており、南北100cm・東西45cm・深さ10cmである。(第206図中) 横断面形は浅い皿状を呈しており、埋土は黒色粘質土である。出土遺物は見られなかった。

19号土坑 II区の南側にあり、21号溝の南西5.5mに位置するものである。

平面形は長楕円形を呈しており、南北63cm・東西160cm・深さ12cmである。(第

206図右) 横断面形は浅い皿状を呈しており、埋土は黒褐色粘質土である。出土遺物は見られなかった。

(4) 3・4・7・8層出土遺物

古墳時代後期の遺構面である5層の上には、I・III区では黒褐色粘質土(3層)・暗灰色粘土(4層)、II区では暗黒褐色粘質土(7層)・灰色砂(8層)があり、それぞれ遺物包含層となっている(第146図)。遺物の分布状況は、I区・II区が中心でIII区は少なく、前者も遺物が点在する程度である。出土遺物には弥生土器壺(第208図1)、須恵器蓋坏(2~8)・高坏(9~12)・甕(13・14)・蓋(15・16)・皿(17~20)・坏(21~23)・壺(24)、土師器高坏(25~28・第209図29・30・32・33)・甕(31)・鉢(34)、土玉(35)、土製支脚(36)、竈(37)、土師質土器皿(38・41~43)・坏(39・40・44)、朝鮮碗(45)、砥石(46~48)、椀形滓(49)、鉄器(50)がある。このうち、土師質土器と朝鮮碗は室町時代の遺構面である3層上面から掘り込まれた遺構に本来伴うと考えられるが、ここでは下層の包含層内で検出されたものとして扱っている。

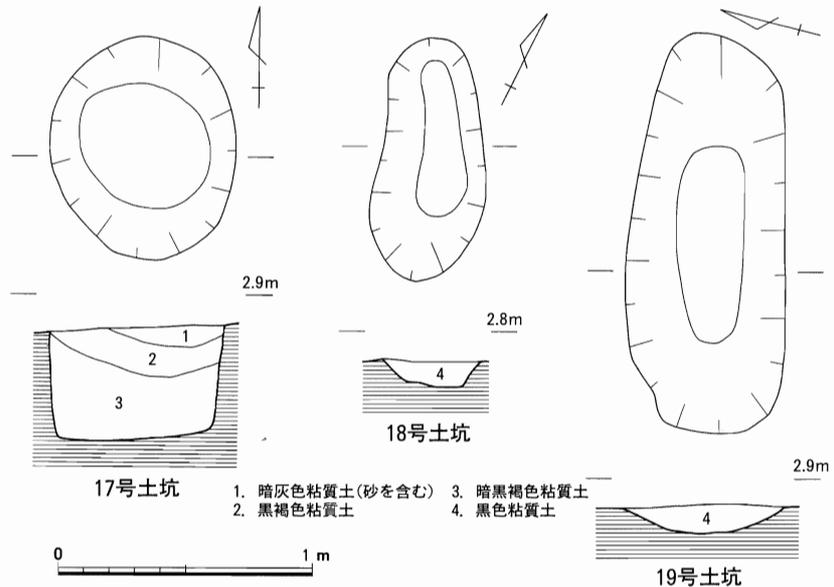
弥生土器 1は壺の口縁から頸部である。口縁は大きく開き、端部は肥厚して下方に下がる。頸部には指頭圧痕のある突帯が付けられており、外面調整はハケメである。

須恵器 2~5は坏蓋で、頂部と口縁の境に稜をもたない(2・3)と稜をもつ(4・5)がある。前者は後者に比べ頂部が平らで、周囲にのみ回転ヘラケズリを施しており、3は頂部にヘラ切り痕を残す。後者は頂部が丸みを帯び全体に回転ヘラケズリが見られる。また口縁端部は前者が鑿刃状となるが、後者は5に段が付く。

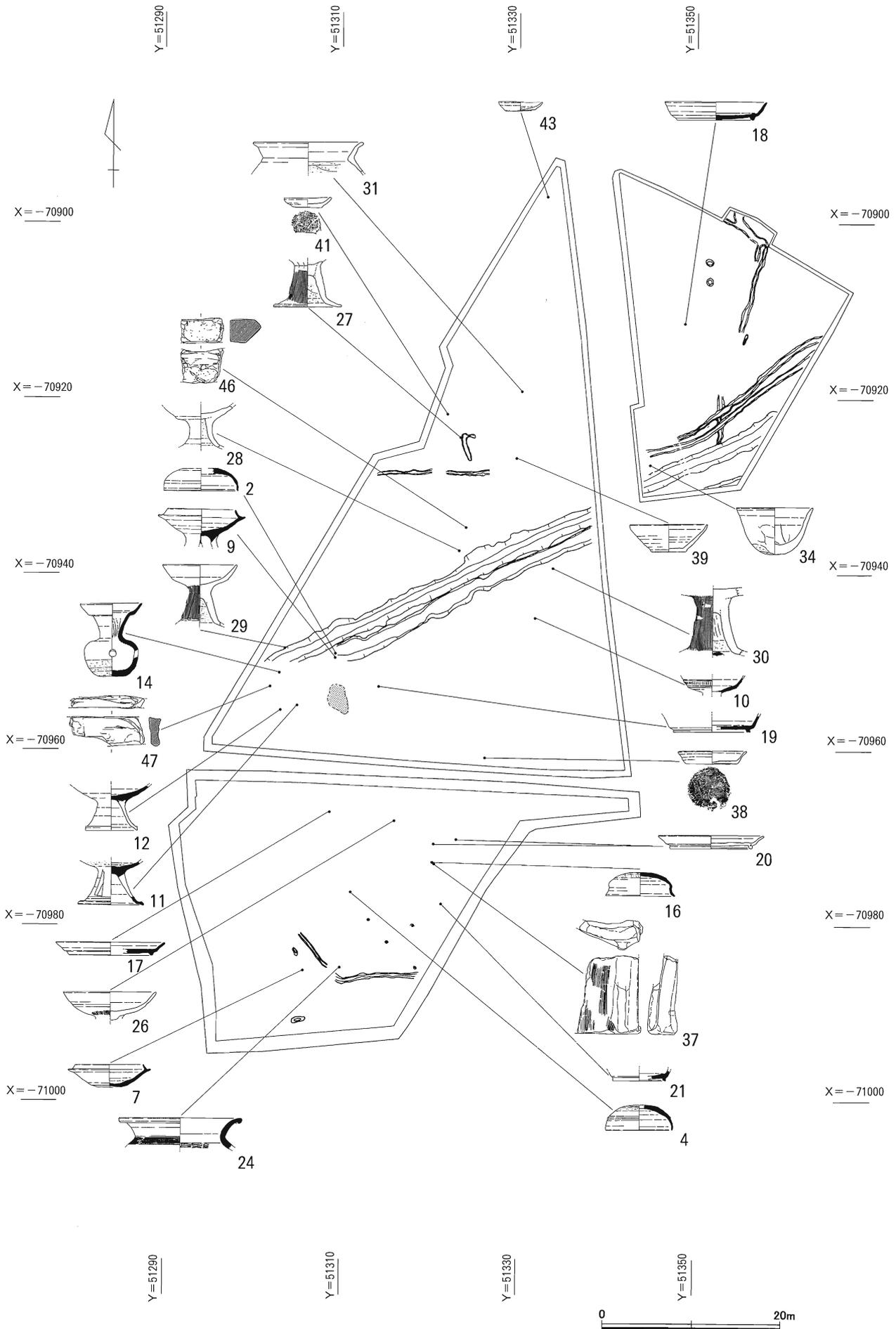
9は有蓋高坏の坏部である。口縁には内傾するかえりがあり、脚部には三角形透孔が2方向にある。10は坏部片で、外面に沈線と刺突文が施される。11・12は脚部で、前者は三角形透孔が3方向に設けられ、坏部下面には回転ヘラケズリが見られる。

13は甕の口縁部で、大きく開く特徴をもつ。口縁外面にはヘラ状工具による沈線文、頸部には沈線とクシ状工具による斜行刺突文が見られる。14は口縁から頸部は無文で、平底をもつ。底部外面には回転ヘラケズリ、頸部内面にはしぼり目がある。

15は口縁にかえりのある坏蓋で、頂部には回転ヘラケズリが見られる。16は蓋で、短頸壺に伴う



第206図 白枝本郷遺跡 5層上面17号~19号土坑実測図



第207図 白枝本郷遺跡3層・4層・7層・8層遺物出土状況実測図

ものと考えられる。端部が大きく外反しており、頂部には回転ヘラケズリがある。

17～19は底部に低い高台が付く皿である。いずれも口縁は外傾し、底部にはヘラ切り痕が認められる。21は底部に低い高台が付く坏で、底面と外面に自然釉がかかる。22・23は無高台の坏で、体部が丸みを帯び、口縁が緩く屈曲する。底部外面には回転糸切り痕がある。

24は壺の口縁部である。端部は丸く肥厚しており、外面肩部にはカキメ、内面には同心円状のあて具痕が残る。

土師器 25～27・29・30・32は厚手で、脚部の残るものは内面に粘土が充填された高坏である。坏部は25・29は稜をもつが、26は明確ではなく、25の下面にはケズリがある。脚部は32を除くと外面がハケメ、内面はケズリである。坏部内外面と脚部外面には赤色顔料が塗布されるが、30には見られない。28・33は脚部内面に粘土充填痕がない高坏である。28は坏部下半が残り、脚部内面はケズリである。33は脚部下半に太い沈線が2条入る。

31は「く」字形に屈曲する口縁をもつ甕で、胴部内面はケズリである。

34は鉢で、外傾する口縁と丸底を有する。器壁は厚く、底部外面の一部にはケズリ、内面には放射状の圧痕がある。

土玉 長さ2.0cm・幅3.5cmほどのもので、中央に8mmの孔がある。

土製支脚 36は一部を欠損するが、土製支脚である。底面には浅い内剝があり、突起は本来3本あったものと見られる。側面は被熱し橙褐色に変色している。

竈 焚口部左基部の破片である。外面には低い廂が付いており、焚口部内面には径8mm程の孔がある。外面調整はハケメで、内面はケズリである。

土師質土器 38・41～43は皿である。38は口径11.7cm・器高2.3cmであるのに対し、41～43は口径7.6～8.1cm・器高1.7～1.8cmと小形で、底部は外面はいずれも回転糸切りである。39・40・44は坏である。いずれも外傾する口縁部を有しており、底部外面は回転糸切りである。

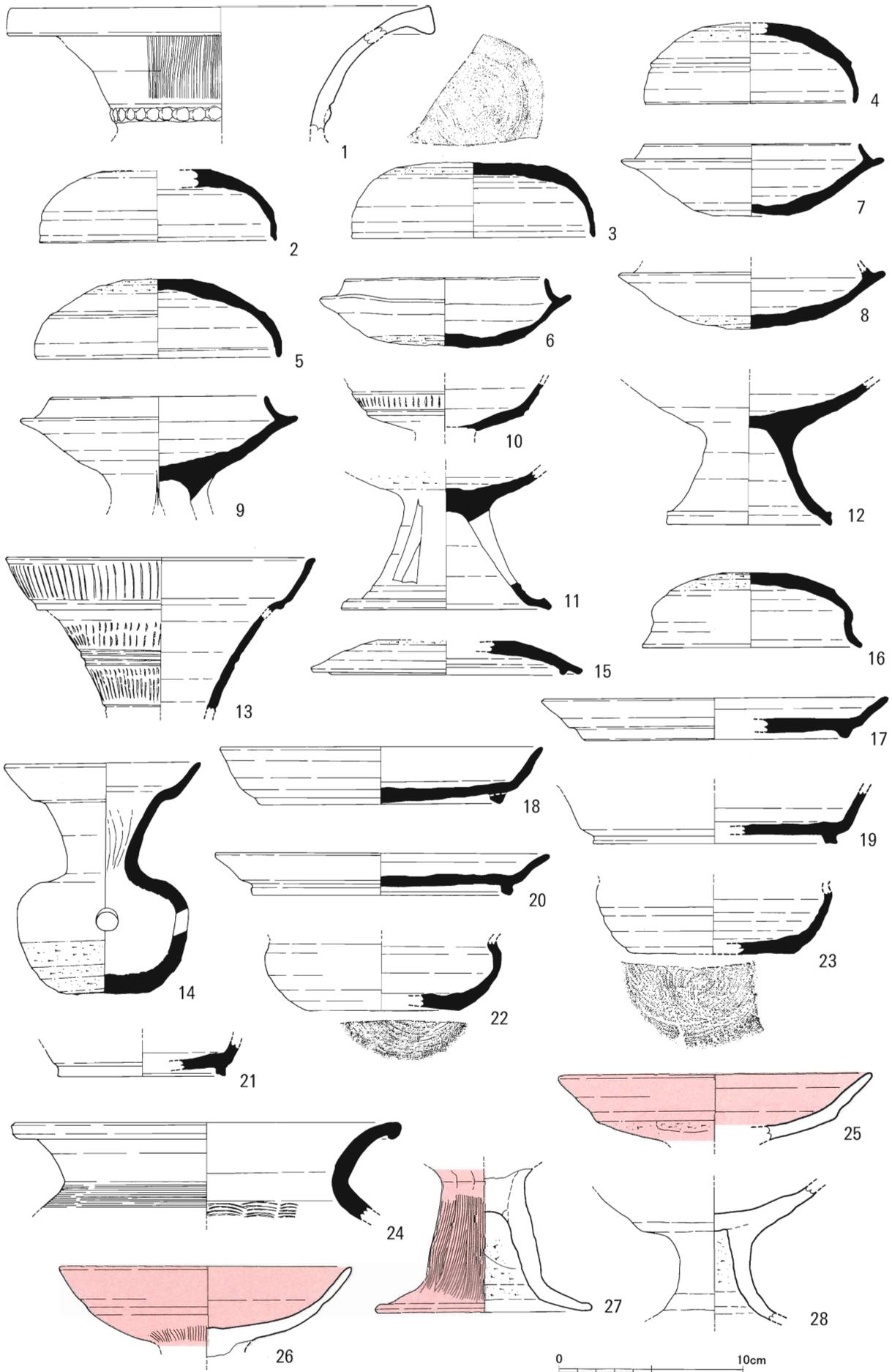
朝鮮 45は朝鮮碗の底部で、全面に施釉され、灰白色を呈している。高台畳付部分には砂目が付着している。

砥石 46～48は砥石で、46・48は凝灰岩製、47は頁岩製である。各面に使用痕が顕著に残るが、大きさは47が幅5.1cm、46が幅5.2cmあるのに対し、48は幅2.8cmで差がある。また、48は破損後も使用されたようで、破面にも利器痕が残る。

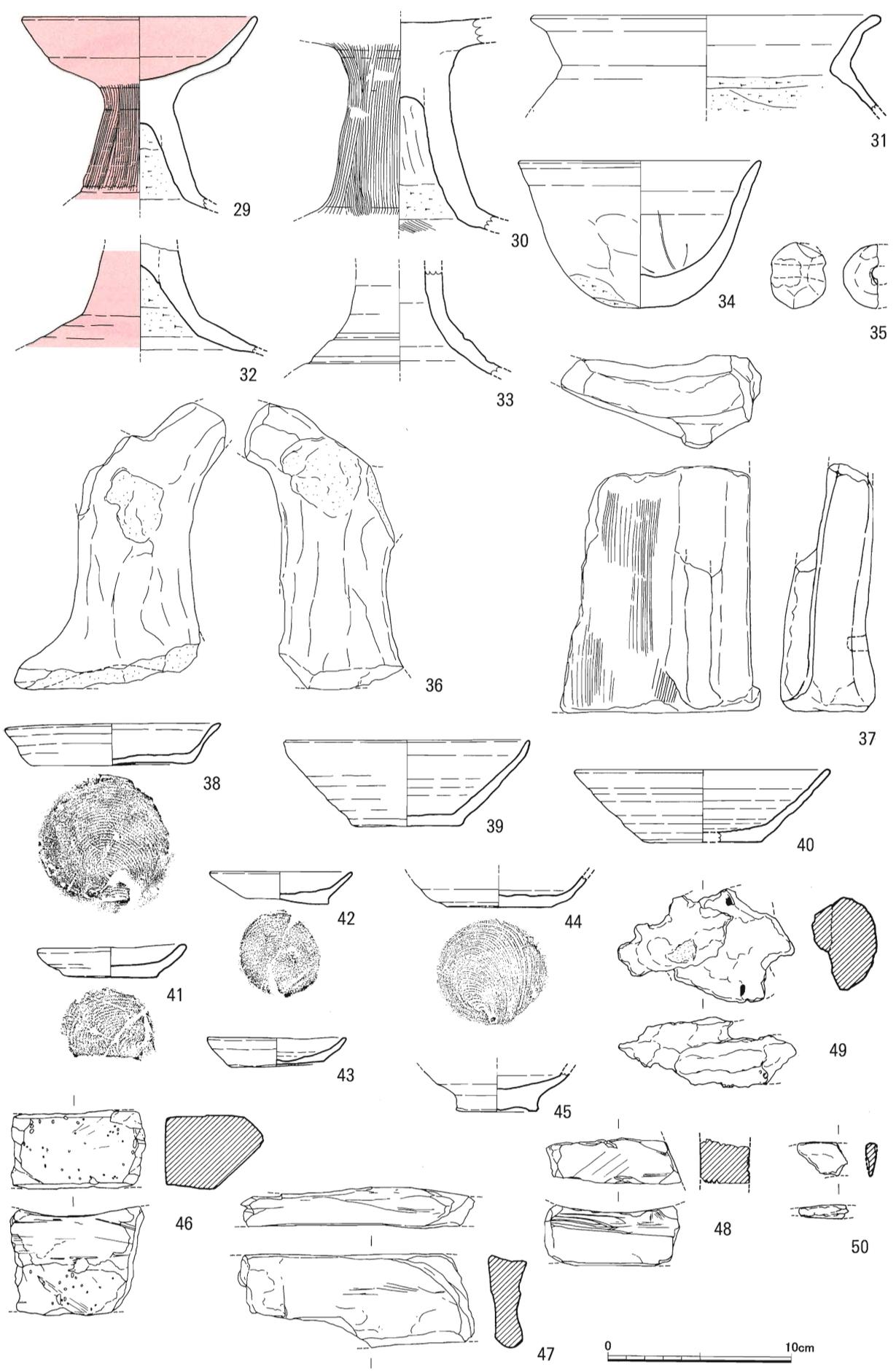
椀形滓 49は椀形滓の破片で、上下2段に椀形滓が重なっている。上の滓の上面には羽口の先端と見られるガラス質滓が付着しており、実測図の左側から送風が行われたことが分かる。分析の結果、鍛錬鍛冶滓であることが判明している。

鉄器 50は小片であるが、横断面形から見て刀子の一部と思われる。残存長2.7cm・刃部幅1.8cm・厚さ0.6cm程度のものである。

以上の遺物の時期は、1が弥生時代中期中葉で最も遡る。2～14・26～32は古墳時代後期後半で19号溝・20号溝など5層上面の遺構と同時期のものである。15は古墳時代終末期、18～23は奈良時代、38～45は室町時代のものと見られる。



第208図 白枝本郷遺跡3層・4層・7層・8層出土遺物実測図1 (1:3)



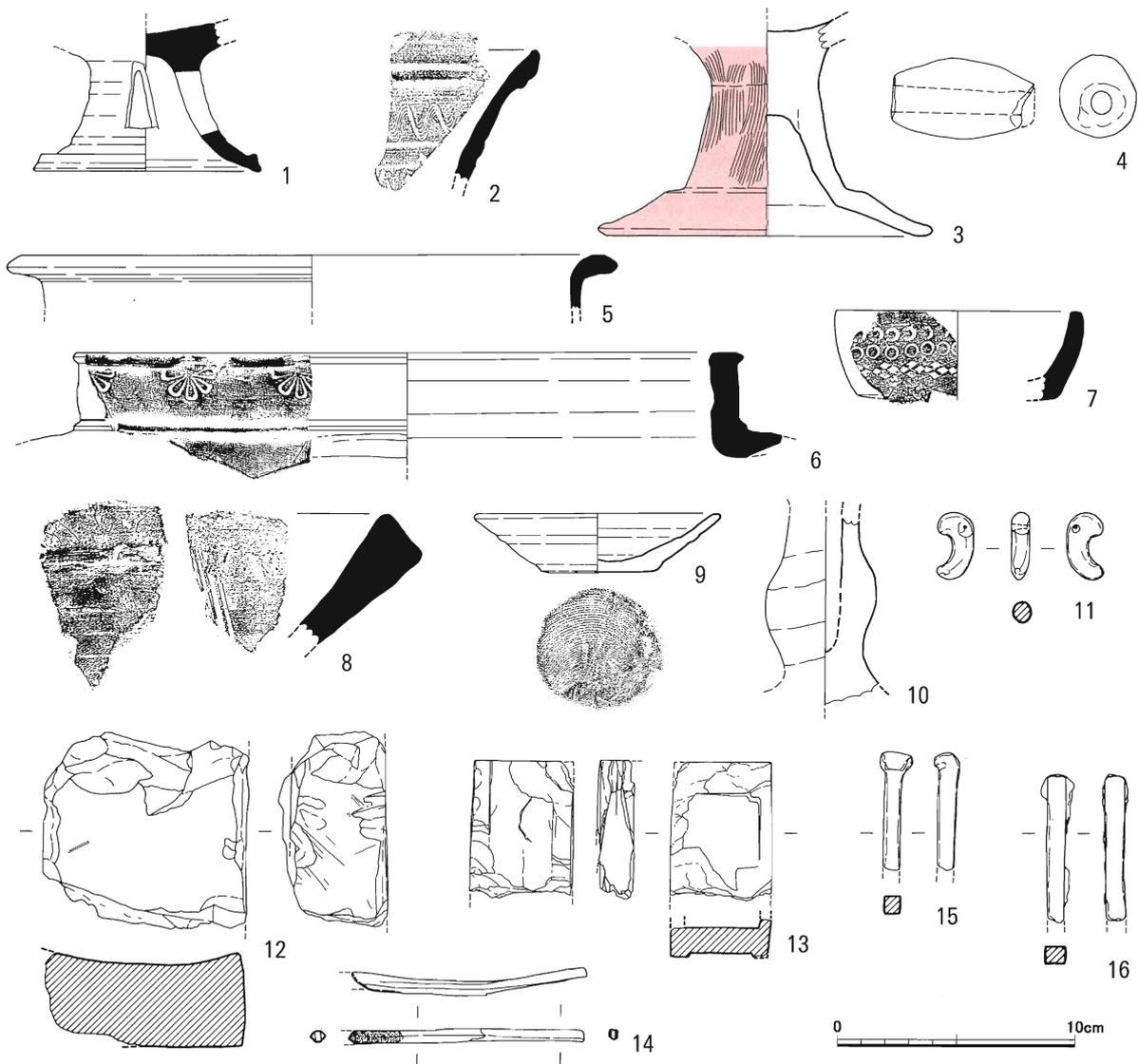
第209図 白枝本郷遺跡3層・4層・7層・8層出土遺物実測図2 (1:3)

第4節 トレンチ他出土遺物

トレンチ調査の際などに出土し、層位や遺構が明確でないものには、須恵器（第210図1・2）、土師器（3）、土錘（4）、瓦質土器（5～7）、備前（8）、土師質土器（9・10）、勾玉（11）、砥石（12）、硯（13）、木製品（14）、鉄製品（15・16）がある。

1は須恵器高坏で脚部で、梯形状の透孔が2方向に設けられる。2は須恵器壺の口縁部で、端部が肥厚し、外面に2段に波状文がある。3は土師器高坏の脚部で、外面には赤色顔料が塗布される。4は土錘で長さ6.0cm・幅3.3cmである。

5～7は瓦質土器であるが、6は側面に横口と廂が付き、7は香炉で、ともに押捺文がある。8は備前播鉢の口縁部で、内面に粗い摺り目がある。9は土師質土器皿、10は花立状のもので、9の底部には回転糸切り痕がある。11は瑪瑙製勾玉で、大きさは長さ2.8cm・幅1.0cm・厚さ0.8cm、片面から穿孔される。12は凝灰岩製の砥石で、3面に使用面が残る。13は凝灰質頁岩製の硯で、両面に加工があるが、片面に海が認められる。14は棒状の木製品で、一部が焼損しており、樹種はスギである。15・16は鉄釘と見られる。



第210図 白枝本郷遺跡トレンチ他出土遺物実測図（1：3）

第5節 総括

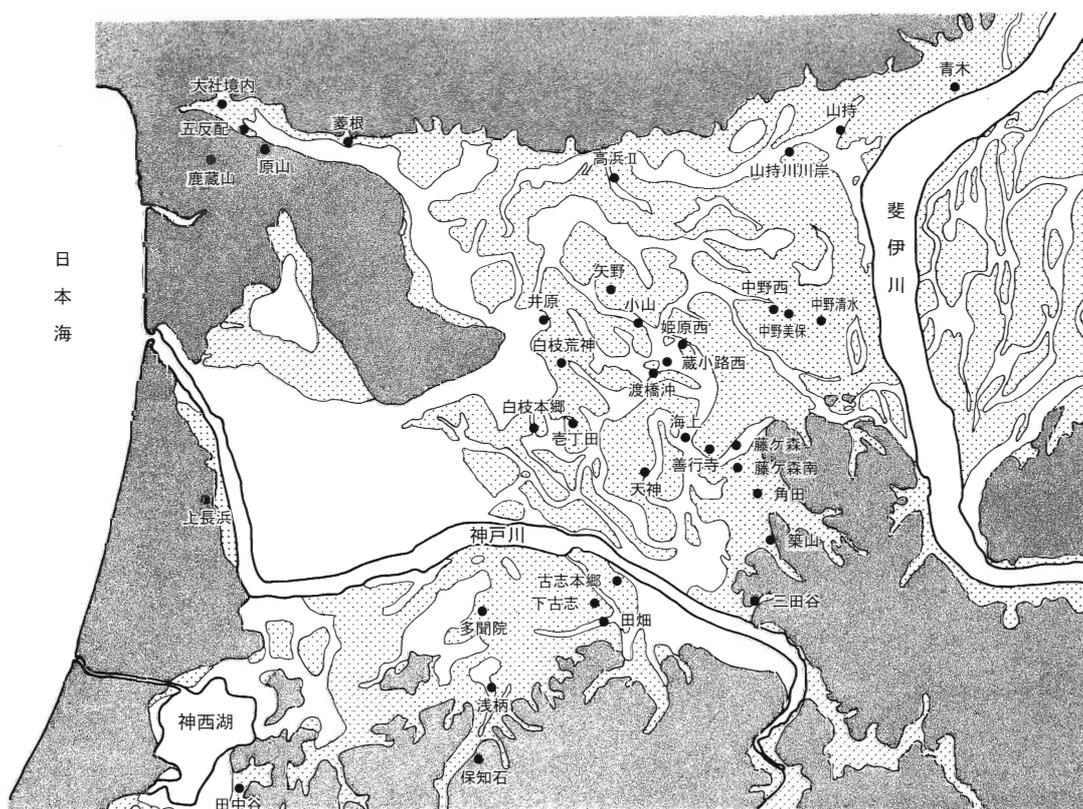
白枝本郷遺跡は出雲平野の西部に位置し、これまであまり遺跡が知られなかった地域に所在している。今回の発掘調査では、この地域でも早くから集落が展開していたことが明らかになるとともに、古墳時代の遺構面では灌漑用水路が確認され、沖積地開発の具体的な姿を窺えた。また、室町時代から江戸時代の遺構面では、掘立柱建物跡や古墓・井戸・道など集落構造の一端を知る手がかりを得られた。ここでは、白枝本郷遺跡の様相を時代を追って概観し、まとめとしたい。

(1) 集落の形成時期

立地基盤の形成 今回の調査に合わせて行った地質調査では、標高-8 m付近、年代的には4,660±30y.B.P.の土層まで試料を採取して検討を行ったが、潟湖の存在を示すような材料は得られていない。すなわち、白枝本郷遺跡付近は『出雲国風土記』に記される神門水海のような水域の外に位置していたことが明らかである。標高-4～0 m付近では三瓶火山の第Ⅶ活動期に噴出したデイサイトの円礫を含む粗砂が堆積しており、3,590±30y.B.P.頃には付近は標高0 mとなっている。その前の第Ⅵ活動期を含め出雲平野には、三瓶火山の噴出物が神戸川を通して多量に流れ込んでおり、調査地点より東の地域では、地形の骨格がこの段階にはでき上がっていたと考えられる。

標高0 mより上層は細砂またはシルトで、河川の流路変遷が頻繁に起こる後背湿地に変化する。こうした環境は一方で周囲に自然堤防など微高地の形成が進んだことを示すものであり、遺跡はその上に営まれている。

集落の形成 白枝本郷遺跡では、遺物包含層より弥生時代中期中葉または中期後葉～後期前葉の土器が出土している。調査地点が北側の微高地から下がった場所に当たることもあり、遺構は確認されていないが、これらは付近に弥生時代中期中葉から集落があったことを窺わせるものである。



第211図 出雲平野における遺跡の分布

また、白枝本郷遺跡の南にある余小路遺跡では、時期は不詳であるが弥生土器底部の他、古墳時代前期の土師器も出土している。

弥生時代中期中葉は、矢野遺跡に代表される前期から続く拠点集落とは別に、天神遺跡・古志本郷遺跡などそれまで集落が見られなかった出雲平野の各地に一斉に集落が広がる時期である⁽¹⁾。周辺でも白枝荒神遺跡⁽²⁾と井原遺跡⁽³⁾で中期中葉の土器が出土しているが、前者は出土量も多く、それ以降古墳時代前期前半まで継続して遺構・遺物が確認できる。後者は弥生時代中期のものは少ないが、後期後葉から古墳時代前期前半の遺物は多量に出土しており、両遺跡とも集落が安定して営

第5表 出雲平野西部における遺跡の時期

遺跡名	弥生時代前期			弥生時代中期			弥生時代後期			古墳時代前期		古墳時代中期		古墳時代後期		奈良時代
	後半	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前半	後半	前半	後半	前半	後半			
白枝本郷			■	■						■					■	■
余小路									■							
小畑				■	■											
壺丁田	■									■	■				■	■
白枝荒神			■	■	■	■	■	■								
井原			■	■		■	■	■				■		■	■	■



第212図 出雲平野西部の遺跡分布